第３章　調査結果

1　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

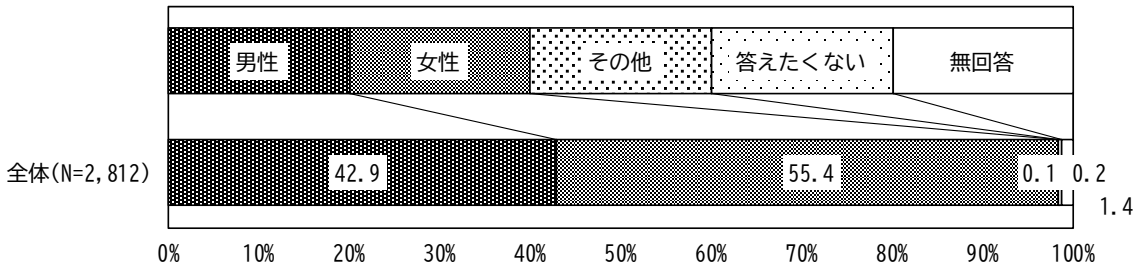
（1）基本属性

Ｆ１　あなたの性別※をお答えください。（１つに○）
※性別については、戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

「男性」が 42.9%、「女性」が 55.4%、「その他」が 0.1%、「答えたくない」が 0.2%となっている。

要支援認定別にみると、特に要支援１・２では「男性」（33.0%）より女性（64.9%）の割合が高くなっている。

図表　性別（全体）



図表　性別（全体、要支援認定別、年代別、家族構成別）

(%)

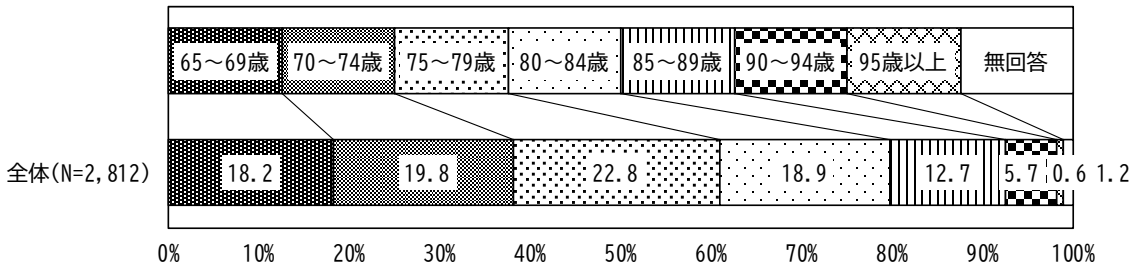
			男性	女性	その他	答えたくない	無回答
全体		(N=2,812)	42.9	55.4	0.1	0.2	1.4
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	45.6	53.2	0.2	0.2	0.9
	事業対象者	(n= 15)	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	33.0	64.9	0.0	0.2	2.0
年代別	65～69歳	(n= 513)	49.3	49.7	0.4	0.6	0.0
	70～74歳	(n= 557)	47.0	52.8	0.0	0.2	0.0
	75～79歳	(n= 640)	43.9	55.6	0.0	0.2	0.3
	80～84歳	(n= 531)	39.9	59.3	0.0	0.0	0.8
	85～89歳	(n= 358)	37.7	60.3	0.0	0.0	2.0
	90～94歳	(n= 160)	33.1	63.8	0.6	0.0	2.5
	95歳以上	(n= 18)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	35.4	63.3	0.0	0.1	1.2
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	52.6	46.6	0.1	0.4	0.4
	息子・娘と同居	(n= 616)	37.5	61.2	0.2	0.0	1.1
	その他	(n= 288)	39.6	59.7	0.0	0.0	0.7

Ｆ２　あなたの年齢をお答えください。（１つに○）
※令和７年１０月１日現在の年齢でお答えください。

「70～74 歳」（35.6%）が最も多く、次いで「75～79 歳」（19.4%）、「85～89 歳」（17.0%）と続いている。

要支援認定別でみると、認定なし（自立）では「70～74 歳」（25.6%）が最も多い。要支援１・２では「80～84 歳」（27.1%）が最も多く、全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　年齢（全体）



図表　年齢（全体、要支援認定別、性別、家族構成別）

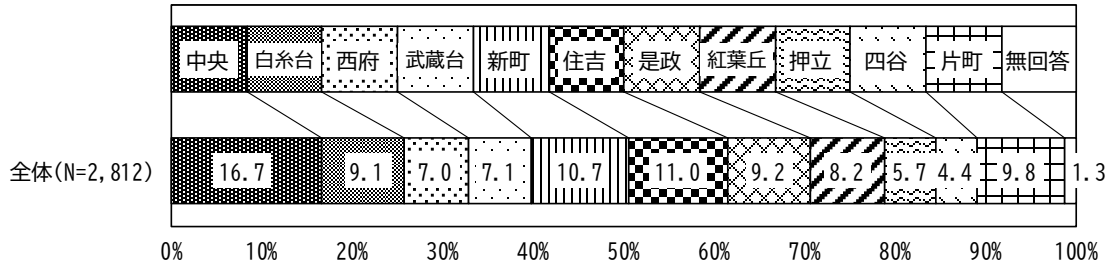
（%）

			65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答
全体		(N=2,812)	18.2	19.8	22.8	18.9	12.7	5.7	0.6	1.2
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	25.5	25.6	24.1	15.0	7.4	1.3	0.2	0.9
	事業対象者	(n= 15)	6.7	6.7	33.3	20.0	13.3	20.0	0.0	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	3.2	6.3	17.7	27.1	25.3	17.3	1.8	1.2
性別	男性	(n=1,207)	21.0	21.7	23.3	17.6	11.2	4.4	0.5	0.4
	女性	(n=1,557)	16.4	18.9	22.9	20.2	13.9	6.6	0.8	0.4
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	13.7	16.9	20.6	19.0	18.4	9.4	1.2	0.7
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	21.3	23.5	24.4	18.1	9.0	3.1	0.2	0.4
	息子・娘と同居	(n= 616)	15.4	17.7	21.6	22.9	14.3	6.8	0.6	0.6
	その他	(n= 288)	27.1	19.1	25.3	14.9	8.3	3.5	1.0	0.7

Ｆ３　あなたはどちらにお住まいですか。該当する福祉エリア１つに○をつけてください。

「中央」（16.7%）が最も多く、次いで「住吉」（11.0%）、「新町」（10.7%）と続いている。

図表　居住地域（全体）

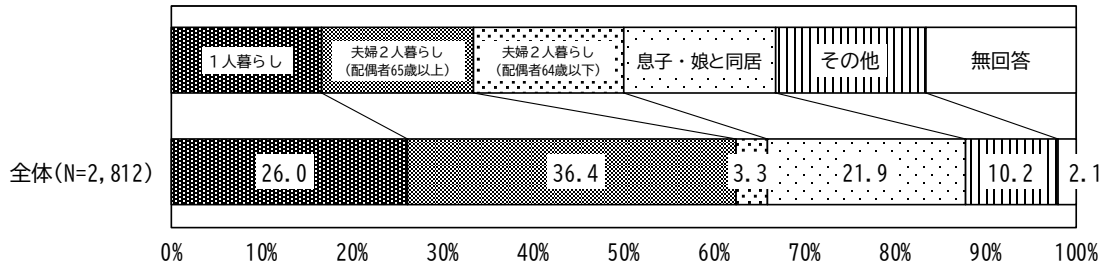


Ｆ４　家族構成をお教えください。（１つに○）

「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（36.4%）が最も多く、次いで「１人暮らし」（26.0%）、「息子・娘と同居」（21.9%）と続いている。

「その他」（10.2%）の内容は、「配偶者と子と同居」、「親と同居」、「兄弟や姉妹と同居」、「子と孫と同居」などであった。

図表　家族構成（全体）



要支援認定別にみると、要支援１・２では、「１人暮らし」（39.6%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 75～84 歳では「夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）」（50.3%）、女性の 85 歳以上では「１人暮らし」（47.3%）が最も多くなっている。また、女性は年代が高くなるほど「１人暮らし」、「息子・娘と同居」の割合が高くなっている。

図表　家族構成（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

（%）

				1人暮らし	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘と同居	その他	無回答
全体			(N=2,812)	26.0	36.4	3.3	21.9	10.2	2.1
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	21.0	41.0	4.5	20.3	11.6	1.6
	事業対象者		(n= 15)	13.3	20.0	0.0	46.7	20.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	39.6	27.6	1.1	22.2	7.9	1.7
性別	男性		(n=1,207)	21.5	42.8	6.0	19.1	9.4	1.2
	女性		(n=1,557)	29.7	32.3	1.1	24.2	11.0	1.6
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	21.4	35.5	12.2	18.3	11.8	0.8
		75～84歳	(n= 493)	19.1	50.3	1.6	20.3	7.5	1.2
		85歳以上	(n= 194)	27.8	42.8	0.5	19.1	7.7	2.1
	女性	65～74歳	(n= 549)	20.6	44.3	1.5	19.9	13.1	0.7
		75～84歳	(n= 671)	28.6	31.1	1.2	25.9	11.6	1.5
		85歳以上	(n= 330)	47.3	15.5	0.3	27.6	6.4	3.0

（２）就労状況

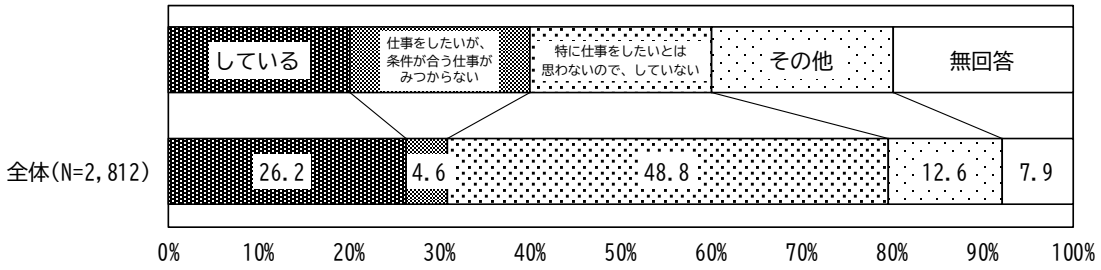
問１　現在収入のある仕事をしていますか。（１つに○）

「している」（26.2%）と「仕事をしたいが、条件が合う仕事がみつからない」（4.6%）を合わせた割合は 30.8%となっている。一方、「特に仕事をしたいとは思わないので、していない」が 48.8%となっている。

性別にみると、男性では「している」（36.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに 75 歳以上では、「特に仕事をしたいとは思わないので、していない」の割合は５割を超えている。

図表　収入のある仕事の有無（全体）



図表　収入のある仕事の有無
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				している	仕事をしたいが、条件が合う仕事がみつからない	特に仕事をしたいとは思わないので、していない	その他	無回答
全体			(N=2,812)	26.2	4.6	48.8	12.6	7.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	35.6	5.2	47.4	7.6	4.3
	事業対象者		(n= 15)	20.0	6.7	46.7	6.7	20.0
	要支援１・２		(n= 649)	4.9	2.0	54.5	24.8	13.7
性別	男性		(n=1,207)	36.4	5.6	44.0	9.9	4.2
	女性		(n=1,557)	18.8	3.8	53.2	14.8	9.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	55.9	7.0	29.9	5.8	1.4
		75～84歳	(n= 493)	26.8	5.5	52.5	10.5	4.7
		85歳以上	(n= 194)	8.8	1.5	59.8	19.1	10.8
	女性	65～74歳	(n= 549)	37.5	6.6	45.7	8.7	1.5
		75～84歳	(n= 671)	11.5	2.2	59.9	16.1	10.3
		85歳以上	(n= 330)	2.7	2.4	52.7	21.5	20.6

問１-１　問１で「している」又は「仕事をしたいが、条件が合う仕事がみつからない」とお答えの方におたずねします

あなたは、何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいですか。（１つに○）

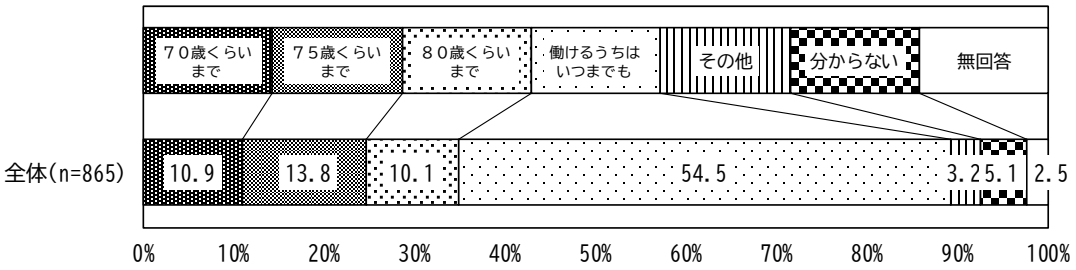
「働けるうちはいつまでも」（54.5%）が最も多く、次いで「75 歳くらいまで」（13.8%）、「70 歳くらいまで」（10.9%）、「80 歳くらいまで」（10.1%）と続いている。

性別にみると、男女ともに「働けるうちはいつまでも」（男性：57.7%、女性：49.7%）が最も多く、次いで男性では「75 歳くらいまで」（12.5%）、「80 歳くらいまで」（11.7%）、女性では「75 歳くらいまで」（15.9%）、「70 歳くらいまで」（13.4%）と続いている。

性・年代別でみると、男女ともに年代が高くなるほど、「働けるうちはいつまでも」の割合は高くなっている。

図表　何歳まで仕事をしたいか

（仕事をしている・仕事を探している人）



図表　何歳まで仕事をしたいか

（仕事をしている・仕事を探している人、要支援認定別、性別、性・年代別）

（%）

				７０歳くらいまで	７５歳くらいまで	８０歳くらいまで	働けるうちはいつまでも	その他	分からない	無回答
全体			(n= 865)	10.9	13.8	10.1	54.5	3.2	5.1	2.5
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 716)	11.7	14.8	10.3	53.8	3.4	4.3	1.7
	事業対象者		(n= 4)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 45)	0.0	11.1	8.9	62.2	4.4	6.7	6.7
性別	男性		(n= 506)	9.3	12.5	11.7	57.7	2.4	4.5	2.0
	女性		(n= 352)	13.4	15.9	8.0	49.7	4.3	5.7	3.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 324)	14.2	19.1	7.1	51.9	2.5	4.3	0.9
		75～84歳	(n= 159)	0.0	0.6	22.6	66.7	1.9	5.0	3.1
		85歳以上	(n= 20)	5.0	0.0	0.0	80.0	5.0	5.0	5.0
	女性	65～74歳	(n= 242)	19.0	22.3	3.7	44.2	2.5	6.6	1.7
		75～84歳	(n= 95)	1.1	1.1	20.7	58.7	7.6	4.3	6.5
		85歳以上	(n= 17)	0.0	5.9	0.0	76.5	11.8	0.0	5.9

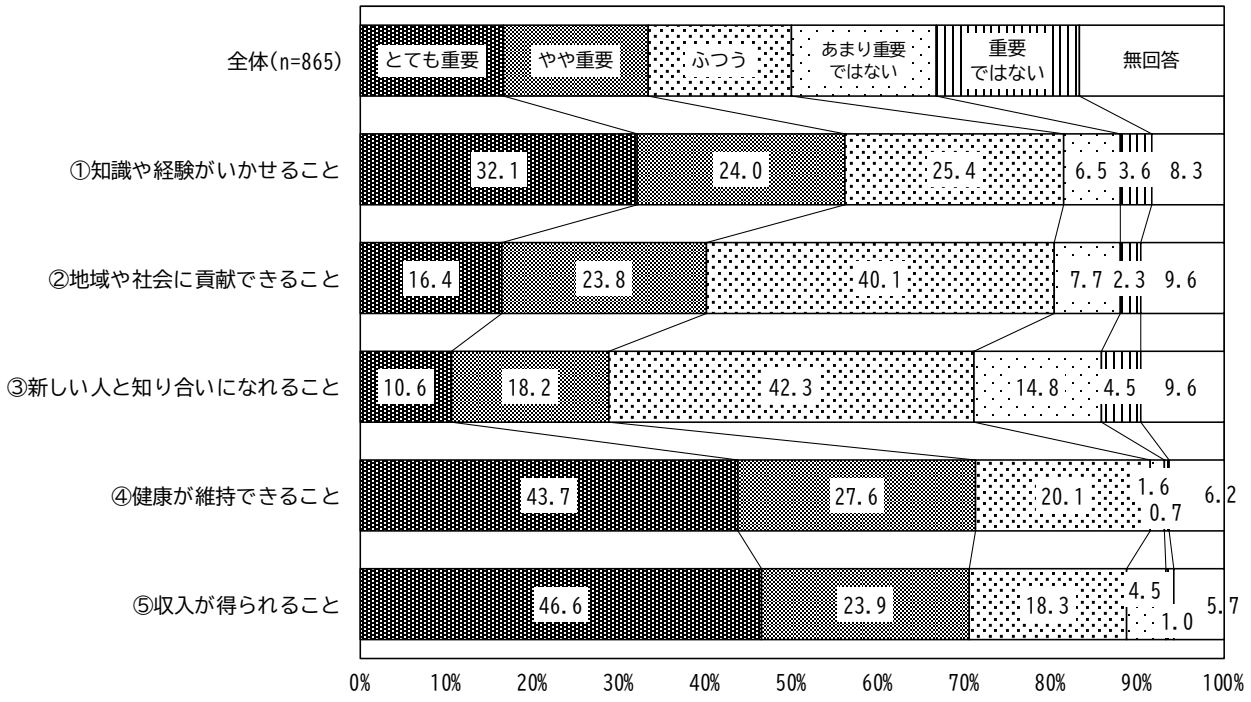
問1-2　問1で「している」又は「仕事をしたいが、条件が合う仕事がみつからない」とお答えの方におたずねします

働くうえで、次にあげることをどの程度重視しますか。（それぞれ1つに○）

《重要》（「とても重要」と「やや重要」の計）の割合は、『④健康が維持できること』（71.3%）が最も多く、次いで『⑤収入が得られること』（70.5%）、『①知識や経験がいかせること』（56.1%）と続いている。

一方、《重要ではない》（「あまり重要ではない」と「重要ではない」の計）の割合は、『③新しい人と知り合いになれること』（19.3%）が最も多く、次いで『①知識や経験がいかせること』（10.1%）と続いている。

図表　仕事を続けるうえで重視する点
（仕事をしている・仕事を探している人）



（３）生活状況

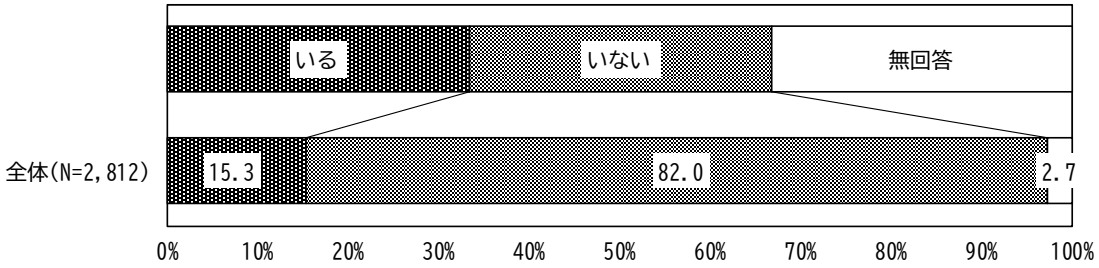
問２　現在、あなたが中心となって介護や介助、日常生活の世話等をしているご家族、親戚の方はいますか。（１つに○）

「いる」が 15.3%、「いない」が 82.0%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「いる」（24.5%）が全体よりも５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「いる」の割合は高くなっている。

図表　介護・介助等をしている家族等の有無（全体）



図表　介護・介助等をしている家族等の有無
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

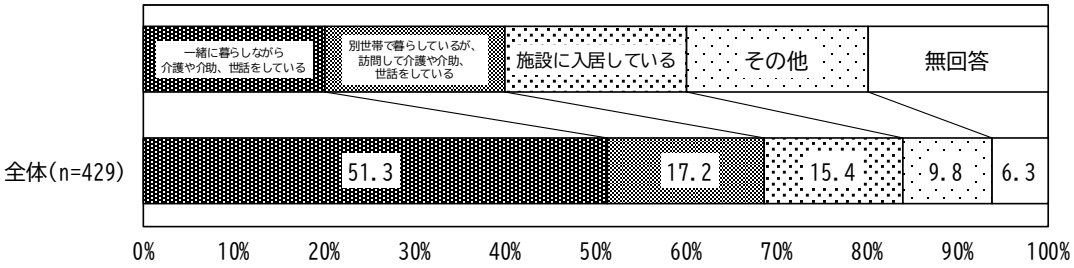
				いる	いない	無回答
全体			(N=2,812)	15.3	82.0	2.7
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	12.6	86.5	1.0
	事業対象者		(n= 15)	33.3	66.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	24.5	72.0	3.5
性別	男性		(n=1,207)	13.8	84.1	2.2
	女性		(n=1,557)	16.3	80.7	3.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	10.9	88.2	1.0
		75～84歳	(n= 493)	12.2	85.6	2.2
		85歳以上	(n= 194)	24.2	71.1	4.6
	女性	65～74歳	(n= 549)	14.2	84.3	1.5
		75～84歳	(n= 671)	17.3	80.6	2.1
		85歳以上	(n= 330)	17.9	74.8	7.3
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	9.4	87.6	3.0
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	16.4	81.6	2.1
	息子・娘と同居		(n= 616)	15.7	80.7	3.6
	その他		(n= 288)	23.3	75.0	1.7

問2-1　問2で「いる」とお答えの方におたずねします
どのような形で介護や介助、世話等をしていますか。（1つに○）

「一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている」（51.3%）が最も多く、次いで「別世帯で暮らしているが、訪問して介護や介助、世話をしている」（17.2%）、「施設に入居している」（15.4%）と続いている。

性・年代別でみると「施設に入居している」について、男性の 65～74 歳では 35.7%と全体より 20 ポイント以上高く、女性の 65～74 歳では 26.9%と全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　介護・介助の形態（介護・介助者がいる人）



図表　介護・介助の形態
（介護・介助者がいる人、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている	別世帯で暮らしているが、訪問して介護や介助、世話をしている	施設に入居している	その他	無回答
全体			(n= 429)	51.3	17.2	15.4	9.8	6.3
要支援認定	認定なし（自立）		(n= 221)	54.8	15.4	21.7	5.4	2.7
	事業対象者		(n= 5)	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	要支援1・2		(n= 159)	47.8	21.4	8.2	13.2	9.4
性別	男性		(n= 166)	51.8	16.9	19.3	7.8	4.2
	女性		(n= 254)	50.8	17.3	13.4	11.0	7.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 56)	44.6	10.7	35.7	7.1	1.8
		75～84歳	(n= 60)	65.0	16.7	8.3	3.3	6.7
		85歳以上	(n= 47)	46.8	19.1	14.9	14.9	4.3
	女性	65～74歳	(n= 78)	42.3	20.5	26.9	5.1	5.1
		75～84歳	(n= 116)	60.3	11.2	7.8	15.5	5.2
		85歳以上	(n= 59)	42.4	25.4	6.8	10.2	15.3
家族構成別	1人暮らし		(n= 69)	4.3	49.3	17.4	21.7	7.2
	夫婦2人暮らし		(n= 183)	56.3	13.7	21.3	6.6	2.2
	息子・娘と同居		(n= 97)	64.9	7.2	8.2	5.2	14.4
	その他		(n= 67)	65.7	7.5	10.4	11.9	4.5

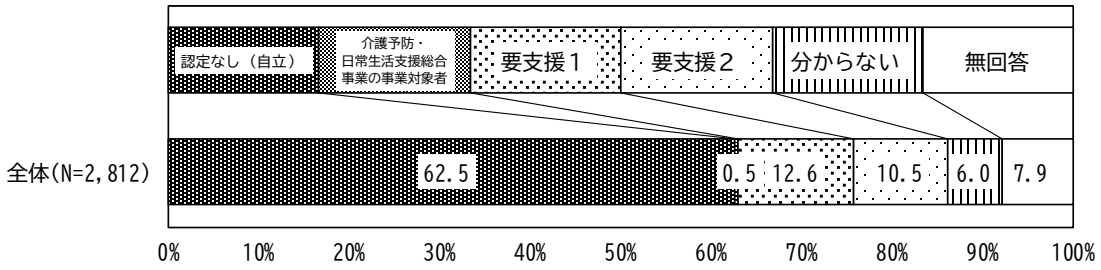
問３　あなたの介護保険における要支援認定の状況についてお答えください。（１つに○）
※令和７年１０月１日現在の状況でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、分かっている状況でお答えください。

「認定なし（自立）」（62.5%）が最も多く、次いで「要支援１」（12.6%）、「要支援２」（10.5%）と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに 65 歳～74 歳では「認定なし（自立）」（男性：83.7%、女性：84.3%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「要支援１」（18.4%）、「要支援２」（16.7%）の割合は、他の家族構成より高くなっている。また、夫婦２人暮らし、その他では「認定なし（自立）」（夫婦２人暮らし：71.6%、その他：70.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　要支援認定の状況（全体）



図表　要支援認定の状況
（全体、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				認定なし（自立）	介護予防・日常生活支援総合事業の事業対象者	要支援１	要支援２	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	62.5	0.5	12.6	10.5	6.0	7.9
性別	男性		(n=1,207)	66.4	0.9	10.4	7.3	7.6	7.4
	女性		(n=1,557)	60.1	0.3	14.1	12.9	4.5	8.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	83.7	0.4	2.7	2.3	6.4	4.5
		75～84歳	(n= 493)	61.1	1.0	12.6	8.1	8.7	8.5
		85歳以上	(n= 194)	34.0	2.1	25.8	18.6	7.7	11.9
	女性	65～74歳	(n= 549)	84.3	0.0	2.7	3.6	4.2	5.1
		75～84歳	(n= 671)	57.2	0.4	14.6	13.3	4.9	9.5
		85歳以上	(n= 330)	26.1	0.3	32.1	27.6	3.9	10.0
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	50.4	0.3	18.4	16.7	7.2	7.0
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	71.6	0.3	9.7	7.0	4.5	7.0
	息子・娘と同居		(n= 616)	58.0	1.1	13.1	10.2	7.5	10.1
	その他		(n= 288)	70.8	1.0	9.0	8.7	4.5	5.9

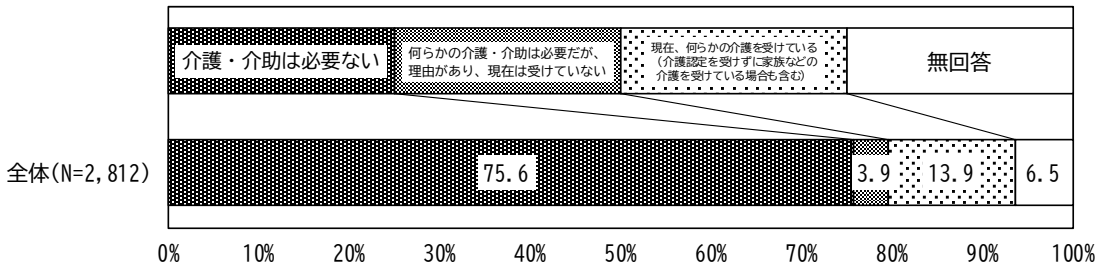
問４　あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（１つに○）

「介護・介助は必要ない」が 75.6%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 3.9%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 13.9%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「介護・介助は必要ない」の割合は低くなっている。

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし、その他では「介護・介助は必要ない」（夫婦２人暮らし：81.5%、その他：80.6%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　介護・介助の状況（全体）



図表　介護・介助の状況（全体、性別、性・年代別、家族構成別）

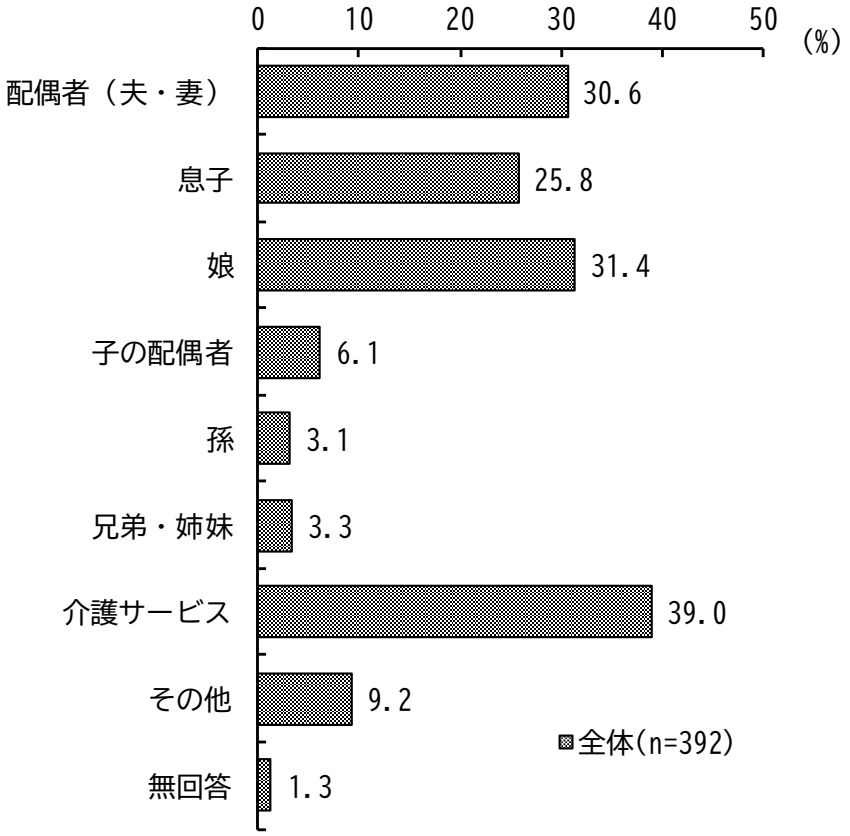
（%）

				介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、理由があり、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
全体			(N=2,812)	75.6	3.9	13.9	6.5
性別	男性		(n=1,207)	80.2	3.2	11.4	5.2
	女性		(n=1,557)	72.6	4.4	15.8	7.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	91.7	1.4	4.7	2.3
		75～84歳	(n= 493)	79.3	3.2	12.0	5.5
		85歳以上	(n= 194)	52.1	8.2	27.8	11.9
	女性	65～74歳	(n= 549)	90.2	2.2	4.9	2.7
		75～84歳	(n= 671)	72.4	4.8	15.4	7.5
		85歳以上	(n= 330)	44.2	7.6	34.2	13.9
家族構成別	1人暮らし		(n= 732)	66.3	6.6	18.4	8.7
	夫婦2人暮らし		(n=1,117)	81.5	2.8	10.8	4.9
	息子・娘と同居		(n= 616)	75.0	3.4	15.3	6.3
	その他		(n= 288)	80.6	2.4	12.8	4.2

問４-１　問４で「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」とお答えの方におたずねします
どなたの介護、介助を受けていますか。（いくつでも○）

「介護サービス」(39.0%) が最も多く、次いで「娘」(31.4%)、「配偶者 (夫・妻)」(30.6%)、「息子」(25.8%) と続いている。

図表　主な介護・介助者（介護・介助を受けている人：複数回答）



要支援認定別にみると、認定なし（自立）では、「配偶者（夫・妻）」（38.7%）が最も多く、次いで「息子」（35.5%）、「娘」（22.6%）と続いている。要支援１・２では、「介護サービス」（44.2%）が最も多く、次いで「娘」（32.8%）、「配偶者（夫・妻）」（30.2%）と続いている。

性別にみると、男性では「配偶者（夫・妻）」（48.9%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「介護サービス」（63.0%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。また、夫婦２人暮らしでは、「配偶者（夫・妻）」（76.0%）が全体より 40 ポイント以上高くなっている。

図表　主な介護・介助者

（介護・介助を受けている人、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

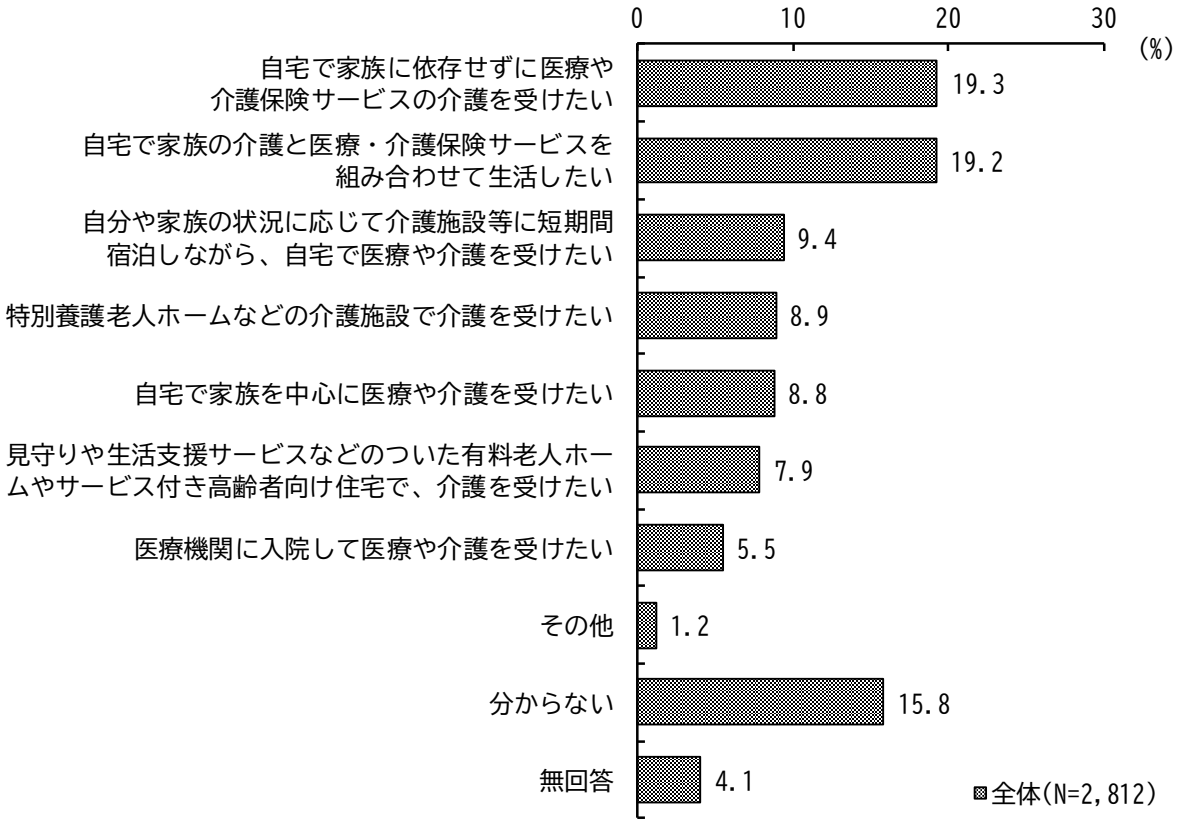
（%）

				配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービス	その他	無回答
全体			(n= 392)	30.6	25.8	31.4	6.1	3.1	3.3	39.0	9.2	1.3
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 31)	38.7	35.5	22.6	12.9	3.2	3.2	12.9	12.9	3.2
	事業対象者		(n= 3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 308)	30.2	24.7	32.8	5.8	3.6	2.9	44.2	8.8	1.0
性別	男性		(n= 137)	48.9	20.4	28.5	8.8	2.9	0.7	39.4	5.8	1.5
	女性		(n= 246)	21.1	28.9	32.9	4.9	3.3	4.9	38.2	10.6	1.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 24)	25.0	16.7	16.7	4.2	0.0	0.0	58.3	4.2	0.0
		75～84歳	(n= 59)	66.1	10.2	18.6	3.4	3.4	1.7	32.2	5.1	3.4
		85歳以上	(n= 54)	40.7	33.3	44.4	16.7	3.7	0.0	38.9	7.4	0.0
	女性	65～74歳	(n= 27)	44.4	14.8	22.2	3.7	0.0	0.0	22.2	14.8	0.0
		75～84歳	(n= 103)	29.1	28.2	34.0	2.9	1.9	8.7	36.9	9.7	1.9
		85歳以上	(n= 113)	8.8	32.7	34.5	7.1	5.3	2.7	43.4	9.7	0.9
家族構成別	１人暮らし		(n= 135)	0.0	24.4	31.1	5.9	5.2	5.9	63.0	13.3	0.0
	夫婦２人暮らし		(n= 121)	76.0	18.2	21.5	4.1	0.8	2.5	28.1	7.4	0.8
	息子・娘と同居		(n= 94)	14.9	38.3	41.5	5.3	1.1	0.0	20.2	3.2	4.3
	その他		(n= 37)	37.8	27.0	32.4	16.2	8.1	5.4	32.4	16.2	0.0

問５　今後、医療や介護が必要になったら、どのように生活したいとお考えですか。（もっとも当てはまるもの１つに○）

「自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい」（19.3%）、「自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい」（19.2%）がほぼ同率で多く、「自分や家族の状況に応じて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で医療や介護を受けたい」（9.4%）と続いている。一方、「分からない」（15.8%）が多くなっている。

図表　医療や介護が必要になった時の生活の意向（全体）



性・年代別にみると、男性の 75 歳以上では「自宅で家族を中心に医療や介護を受けたい」（75～84 歳：14.0%、85 歳以上：17.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい」（26.4%）が最も多く、夫婦２人暮らしでは、「自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい」（25.4%）が最も多くなっている。

かかりつけ医療機関の有無別にみると、かかりつけ医療機関がある人は、「自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい」の割合が高くなっている。

図表　医療や介護が必要になった時に生活の意向

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、かかりつけ医療機関の有無別：複数回答）

（%）

				自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい	自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい	自分や家族の状況に応じて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で医療や介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの介護施設で介護を受けたい	自宅で家族を中心に医療や介護を受けたい	見守りや生活支援サービスなどのついた有料老人ホーム等で、介護を受けたい	医療機関に入院して医療や介護を受けたい	その他	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	19.3	19.2	9.4	8.9	8.8	7.9	5.5	1.2	15.8	4.1
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	21.7	19.3	10.4	8.5	7.6	8.9	4.9	1.0	16.0	1.6
	事業対象者		(n= 15)	13.3	26.7	6.7	6.7	26.7	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	18.6	22.2	9.2	10.9	8.8	6.9	7.4	1.7	8.9	5.2
性別	男性		(n=1,207)	16.4	22.3	8.5	8.2	12.1	7.6	5.1	0.7	15.7	3.5
	女性		(n=1,557)	21.5	16.9	9.9	9.4	6.3	8.1	5.8	1.7	16.1	4.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	21.2	21.9	8.5	7.6	8.3	8.3	3.7	1.0	17.7	1.7
		75～84歳	(n= 493)	12.4	23.9	7.9	8.5	14.0	7.1	4.7	0.4	16.2	4.9
		85歳以上	(n= 194)	14.4	19.6	8.8	9.3	17.5	7.2	9.8	1.0	8.2	4.1
	女性	65～74歳	(n= 549)	22.6	16.0	13.3	7.1	4.6	10.7	4.9	1.6	17.7	1.5
		75～84歳	(n= 671)	22.8	17.7	8.3	9.5	7.3	6.7	5.1	1.5	16.4	4.6
		85歳以上	(n= 330)	17.3	16.7	7.6	13.0	7.0	6.7	8.8	1.8	13.0	8.2
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	26.4	7.5	5.7	13.3	2.7	11.6	6.1	1.9	19.5	5.2
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	18.4	25.4	10.0	6.7	10.7	7.4	4.4	1.0	13.3	2.5
	息子・娘と同居		(n= 616)	12.3	19.8	11.9	8.4	12.0	5.8	6.5	1.0	18.2	4.1
	その他		(n= 288)	20.1	22.9	11.5	7.3	7.6	5.9	6.6	1.4	11.5	5.2
かかりつけ医の有無別	いる		(n= 2,307)	18.9	20.9	9.4	8.7	9.3	7.6	5.4	1.3	14.9	3.7
	いない		(n= 322)	23.3	11.5	10.9	9.6	6.8	9.9	5.9	0.6	18.6	2.8
	わからない		(n= 90)	23.3	13.3	6.7	11.1	5.6	6.7	10.0	0.0	21.1	2.2
かかりつけ歯科医の有無別	いる		(n= 1,980)	20.1	20.7	10.1	8.7	8.0	8.1	5.6	1.5	14.0	3.2
	いない		(n= 484)	18.4	17.4	8.1	10.3	9.5	7.4	5.8	0.6	19.2	3.3
	わからない		(n= 104)	15.4	17.3	7.7	8.7	9.6	9.6	6.7	0.0	21.2	3.8
かかりつけ薬局の有無別	いる		(n= 1,776)	19.2	21.1	9.1	8.3	9.6	7.4	5.2	1.5	14.8	3.9
	いない		(n= 594)	21.9	16.2	10.3	10.4	5.2	9.8	6.7	0.8	16.3	2.4
	わからない		(n= 205)	17.1	16.6	12.2	8.8	8.8	9.3	4.9	0.0	19.5	2.9

問６　現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（１つに○）

「ふつう」の割合が 60.5%となっている。

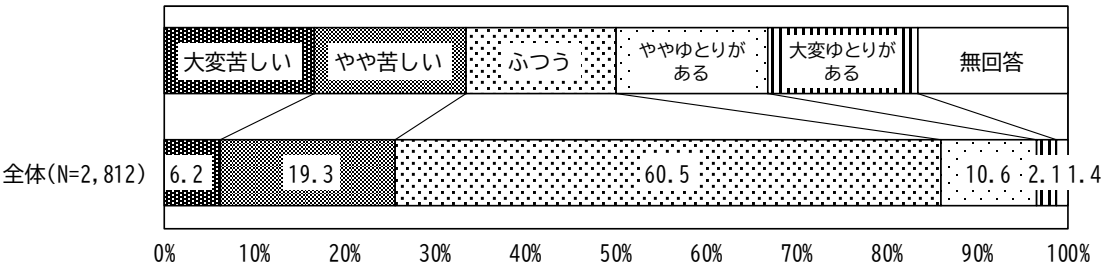
《苦しい》（「大変苦しい」と「やや苦しい」の計）を合わせた割合は 25.5%となっている。

一方、《ゆとりがある》（「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の計）を合わせた割合は 12.7%となっている。

要支援認定別にみると、《苦しい》の割合は、要支援１・２（31.0%）が認定なし（自立）（22.0%）より高くなっている。

性別にみると、《苦しい》の割合は、男性（27.3%）が女性（23.5%）より高くなっている。

図表　経済的に見た暮らしの状況（全体）



図表　経済的に見た暮らしの状況

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

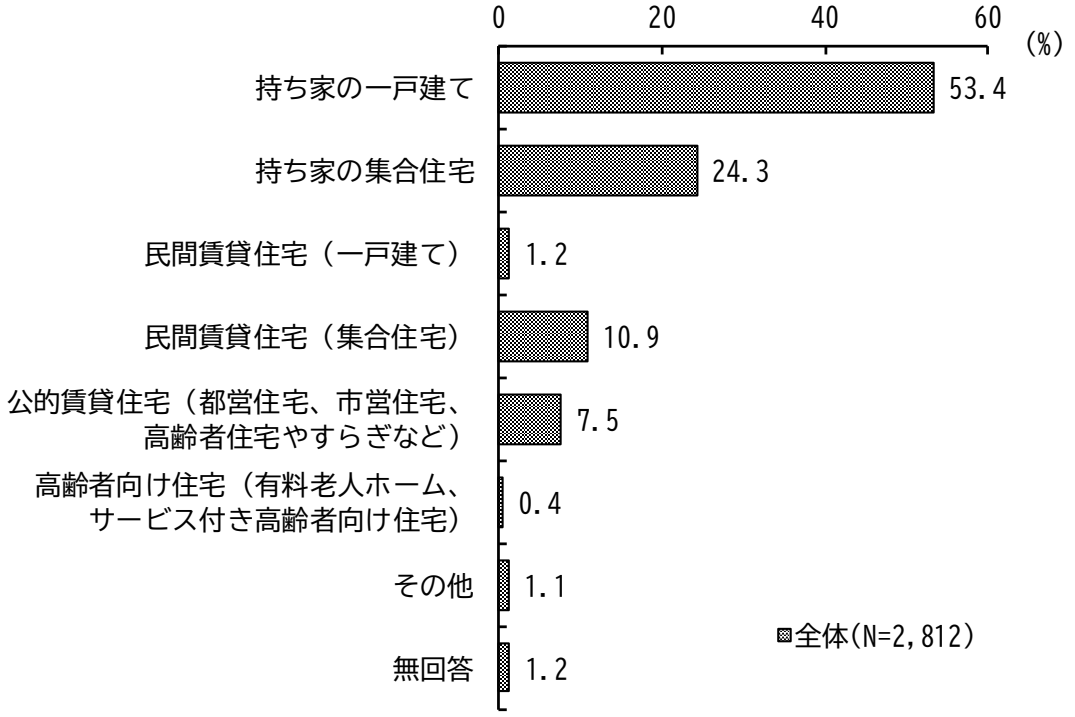
(%)

				大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
全体			(N=2,812)	6.2	19.3	60.5	10.6	2.1	1.4
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	4.2	17.8	62.5	12.9	2.6	0.2
	事業対象者		(n= 15)	13.3	13.3	60.0	13.3	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	8.0	23.0	58.6	7.7	1.7	1.1
性別	男性		(n=1,207)	6.8	20.5	57.8	11.6	1.8	1.4
	女性		(n=1,557)	5.5	18.0	62.9	10.0	2.4	1.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	8.7	21.2	52.4	14.8	1.9	1.0
		75～84歳	(n= 493)	5.1	22.1	60.2	8.9	1.8	1.8
		85歳以上	(n= 194)	6.2	15.5	65.5	10.3	1.5	1.0
	女性	65～74歳	(n= 549)	5.3	17.7	62.1	12.6	2.0	0.4
		75～84歳	(n= 671)	5.8	18.9	63.3	8.5	2.5	0.9
		85歳以上	(n= 330)	5.2	16.4	63.9	9.1	2.7	2.7
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	9.3	21.6	56.4	8.9	2.3	1.5
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	3.3	15.6	65.2	12.3	2.8	0.9
	息子・娘と同居		(n= 616)	6.5	22.2	59.1	9.9	1.1	1.1
	その他		(n= 288)	6.6	21.5	57.6	11.5	1.0	1.7

問７　あなたのお住まいは次のうちどれですか（名義は問いません）。（１つに○）

「持ち家の一戸建て」（53.4%）が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」（24.3%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（10.9%）と続いている。

図表　住まい（全体）



性・年代別にみると、男女ともにいずれの年代も「持ち家の一戸建て」が最も多くなっている。また、年代が高くなるほど「持ち家の一戸建て」の割合が高くなり、「持ち家の集合住宅」、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が低くなっている。

家族構成別にみると、息子・娘と同居では「持ち家の一戸建て」（67.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。１人暮らしでは「民間賃貸住宅（集合住宅）」（22.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　住まい

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

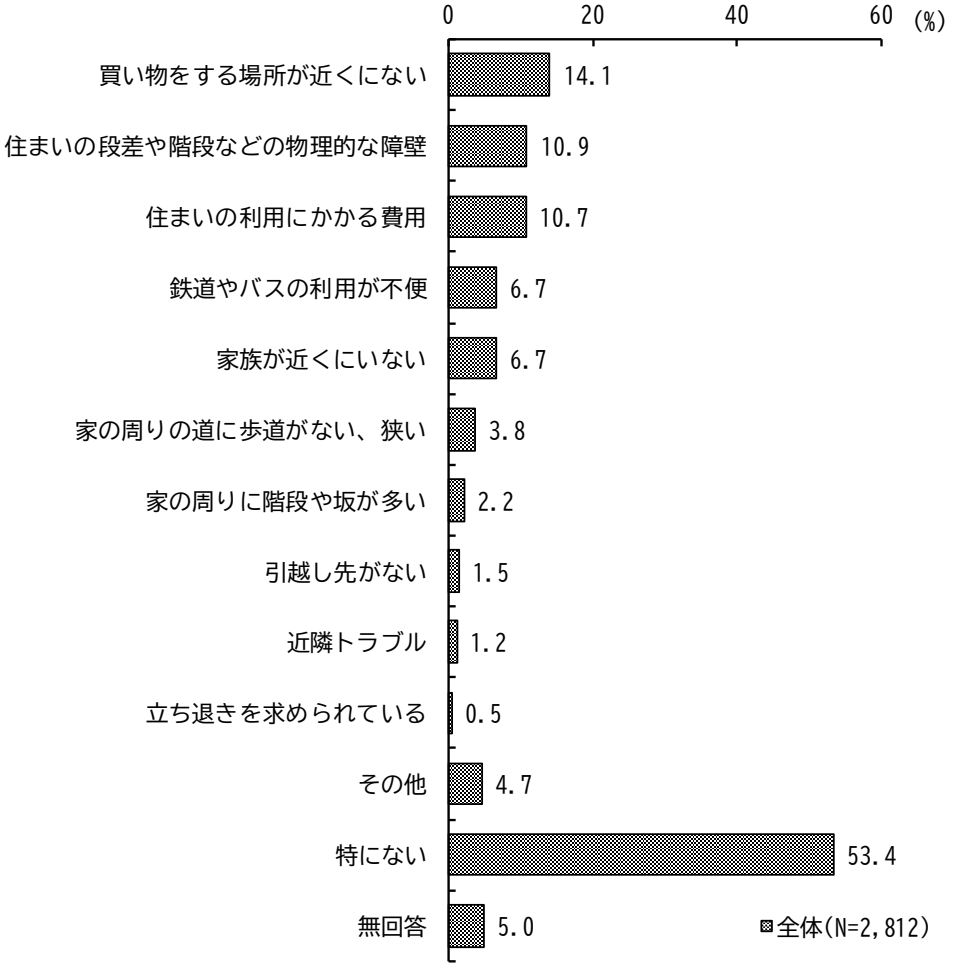
				持ち家の一戸建て	持ち家の集合住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公的賃貸住宅（都営住宅、市営住宅等）	高齢者向け住宅（有料老人ホーム等）	その他	無回答
全体			(N=2,812)	53.4	24.3	1.2	10.9	7.5	0.4	1.1	1.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	53.4	27.8	1.0	10.5	6.2	0.1	0.7	0.3
	事業対象者		(n= 15)	73.3	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	55.0	19.4	0.9	9.7	10.5	1.2	2.2	1.1
性別	男性		(n=1,207)	52.1	24.8	1.6	12.9	6.3	0.3	0.9	1.1
	女性		(n=1,557)	54.5	24.0	0.8	9.3	8.7	0.4	1.2	1.1
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	46.4	27.0	1.7	18.3	5.0	0.0	0.6	1.0
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	52.9	24.5	1.2	11.2	7.3	0.4	1.2	1.2
		85 歳以上	(n= 194)	66.0	19.6	2.1	2.6	7.2	1.0	1.0	0.5
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	49.4	29.9	0.5	12.0	6.4	0.2	0.9	0.7
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	55.6	22.8	0.9	8.6	9.8	0.0	1.3	0.9
		85 歳以上	(n= 330)	60.3	17.0	0.9	6.4	10.3	1.8	1.2	2.1
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	37.2	21.7	2.0	22.7	11.7	1.1	2.2	1.4
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	52.3	31.8	0.7	6.4	7.3	0.0	0.8	0.7
	息子・娘と同居		(n= 616)	67.0	19.3	1.1	6.5	4.7	0.0	0.3	1.0
	その他		(n= 288)	69.1	15.3	1.0	7.3	4.5	1.0	0.7	1.0

問８　現在のお住まいや住環境などで困っていることはありますか。（いくつでも○）

「買い物をする場所が近くにない」（14.1%）が最も多く、次いで「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」（10.9%）、「住まいの利用にかかる費用」（10.7%）と続いている。

一方、「特にない」は 53.4%となっている。

図表　住まいや住環境で困っていること（全体：複数回答）



要支援認定別にみると、要支援１・２では「買い物をする場所が近くにない」（24.5%）が最も多く、次いで「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」（19.3%）、「家族が近くにいない」（12.5%）、「鉄道やバスの利用が不便」（11.7%）と続いている。また、要支援１・２では「特にない」（33.1%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「買い物をする場所が近くにない」、「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」、「家族が近くにいない」の割合は高くなっている。また、年代が高くなるほど「特にない」の割合は低くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「家族が近くにいない」（15.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　住まいや住環境で困っていること
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

(%)

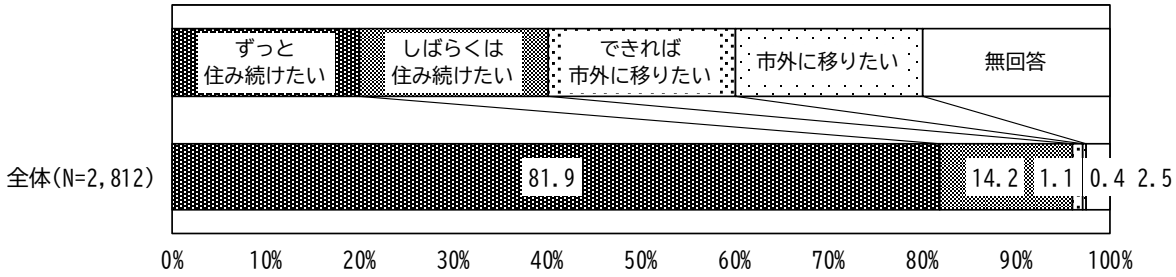
				買い物をする場所が近くにない	住まいの段差や階段などの物理的な障壁	住まいの利用にかかる費用	鉄道やバスの利用が不便	家族が近くにいない	家の周りの道に歩道がない、狭い	家の周りに階段や坂が多い	引越し先がない	近隣トラブル	立ち退きを求められている	その他	特にない	無回答
全体			(N=2,812)	14.1	10.9	10.7	6.7	6.7	3.8	2.2	1.5	1.2	0.5	4.7	53.4	5.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	10.8	8.1	11.5	5.0	5.1	3.2	1.6	1.5	1.2	0.5	4.8	61.2	3.2
	事業対象者		(n= 15)	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	24.5	19.3	9.4	11.7	12.5	5.5	3.7	1.2	1.7	0.2	5.4	33.1	6.5
性別	男性		(n=1,207)	11.8	9.7	12.1	5.7	5.0	4.0	1.8	2.0	1.1	0.7	3.5	57.2	3.5
	女性		(n=1,557)	15.5	11.7	9.6	7.5	8.0	3.7	2.4	1.0	1.3	0.3	5.5	51.1	5.9
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	8.9	6.6	15.9	5.8	2.9	3.9	1.2	2.5	0.6	0.0	3.9	62.5	1.4
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	11.2	9.5	11.0	5.1	3.4	4.9	2.2	1.8	0.8	1.0	3.7	57.0	4.7
		85 歳以上	(n= 194)	20.6	18.6	5.2	7.2	14.4	2.1	2.6	0.5	3.1	1.0	2.1	43.8	6.2
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	10.9	10.2	11.1	6.0	4.9	2.9	2.2	0.5	0.9	0.4	5.8	58.3	4.0
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	17.0	12.1	8.8	8.5	9.1	3.9	2.2	1.2	1.5	0.0	4.9	49.6	6.7
		85 歳以上	(n= 330)	19.7	13.6	8.8	7.3	10.9	4.5	3.0	1.2	1.8	0.6	6.1	42.4	7.6
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	16.0	12.6	12.4	6.7	15.8	3.6	2.6	3.3	1.4	1.0	6.4	44.3	5.6
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	13.0	10.1	9.8	6.8	5.3	4.7	2.1	0.7	0.5	0.2	3.0	57.1	4.6
	息子・娘と同居		(n= 616)	12.7	10.4	10.1	5.8	0.2	3.7	1.8	1.0	2.3	0.2	3.9	57.1	5.4
	その他		(n= 288)	15.6	10.4	11.1	8.7	3.5	1.7	2.4	1.0	1.0	1.0	8.3	55.6	3.1

問９　今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていませんか。次の中から１つだけ選んでください。（１つに○）

《住み続けたい》(「ずっと住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」の計）の割合は 96.1%となっている。一方、《市外に移りたい》（「できれば市外に移りたい」と「市外に移りたい」の計）の割合は 1.5%となっている。

居住圏域別にみると、「ずっと住み続けたい」の割合は、四谷が 87.1%と最も高く、押立が 74.8%と最も低くなっている。

図表　今後の府中市への居住継続意向（全体）



図表　今後の府中市への居住継続意向
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別）

(%)

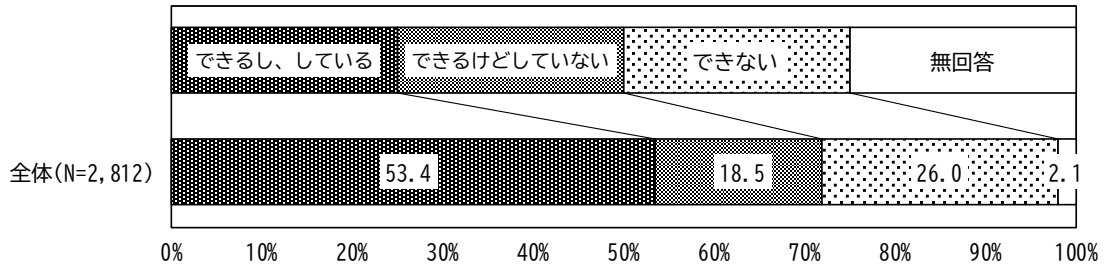
				ずっと住み続けたい	しばらくは住み続けたい	できれば市外に移りたい	市外に移りたい	無回答
全体			(N=2,812)	81.9	14.2	1.1	0.4	2.5
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	81.0	16.2	1.1	0.5	1.2
	事業対象者		(n= 15)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	84.3	11.1	1.1	0.2	3.4
性別	男性		(n=1,207)	82.1	15.0	0.9	0.3	1.7
	女性		(n=1,557)	81.8	13.6	1.2	0.4	3.0
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	77.7	19.4	1.2	0.6	1.2
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	85.0	12.2	0.8	0.2	1.8
		85 歳 以 上	(n= 194)	87.6	9.8	0.5	0.0	2.1
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	75.4	21.1	0.9	0.7	1.8
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	84.4	10.9	1.8	0.1	2.8
		85 歳 以 上	(n= 330)	87.3	7.0	0.6	0.3	4.8
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	77.3	17.5	1.4	0.4	3.4
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	82.5	14.4	0.5	0.4	2.1
	息子・娘と同居		(n= 616)	85.1	10.7	2.1	0.2	1.9
	その他		(n= 288)	82.3	14.2	0.7	0.3	2.4
居住圏域別	中央		(n= 469)	83.8	13.2	0.6	0.4	1.9
	白糸台		(n= 255)	76.5	18.4	1.6	0.4	3.1
	西府		(n= 197)	84.8	10.7	1.0	1.0	2.5
	武蔵台		(n= 199)	78.9	16.1	1.5	0.0	3.5
	新町		(n= 301)	84.7	11.6	1.0	0.7	2.0
	住吉		(n= 308)	81.5	16.2	0.6	0.0	1.6
	是政		(n= 258)	83.7	12.0	1.6	0.0	2.7
	紅葉丘		(n= 230)	79.6	17.4	0.4	0.0	2.6
	押立		(n= 159)	74.8	18.9	1.9	0.6	3.8
	四谷		(n= 124)	87.1	11.3	0.8	0.0	0.8
	片町		(n= 275)	83.6	12.4	1.8	0.7	1.5

（４）からだを動かすこと

問 10　階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 53.4%、「できるけどしていない」が 18.5%、「できない」が 26.0%となっている。

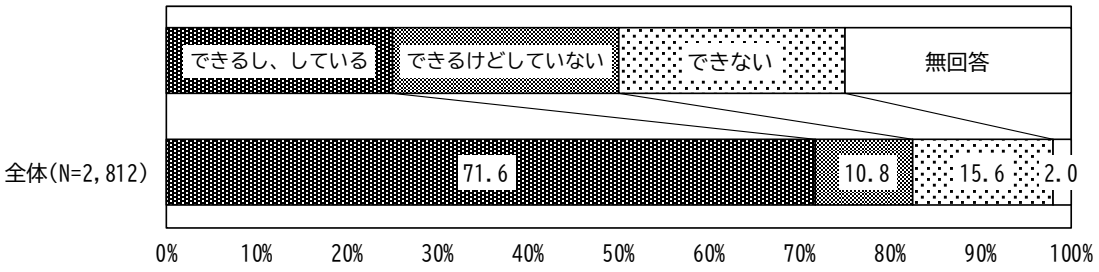
図表　手すりを使わず階段を昇り降りすること（全体）



問 11　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 71.6%、「できるけどしていない」が 10.8%、「できない」が 15.6%となっている。

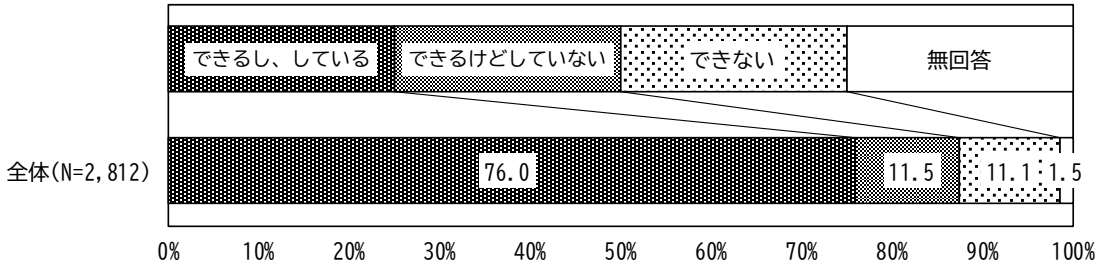
図表　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること（全体）



問 12　１５分位続けて歩いていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 76.0%、「できるけどしていない」が 11.5%、「できない」が 11.1%となっている。

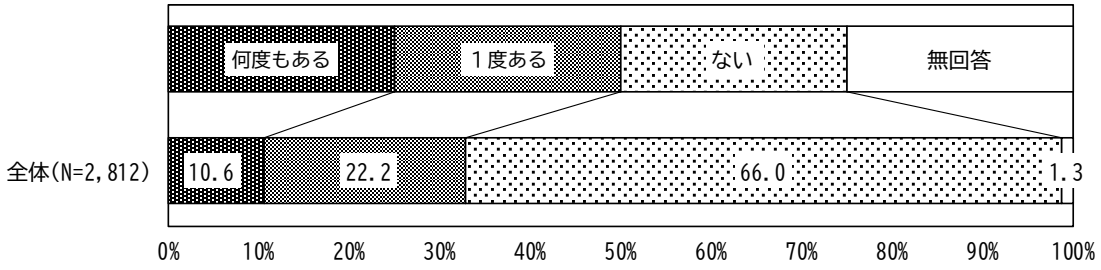
図表　１５分位続けて歩くこと（全体）



問 13　過去１年間に転んだ経験がありますか。（１つに○）

「何度もある」が 10.6%、「１度ある」が 22.2%、「ない」が 66.0%となっている。

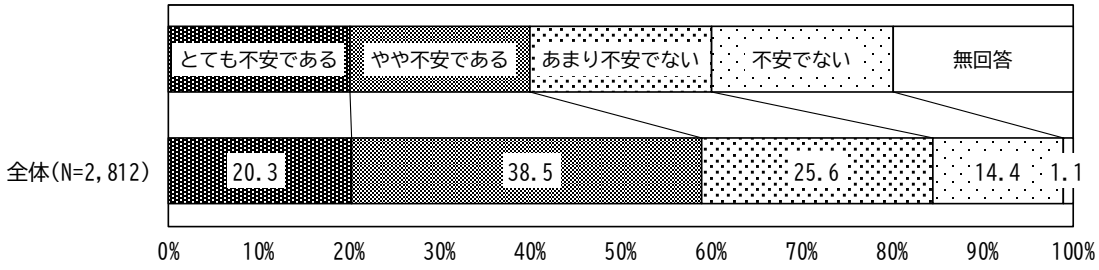
図表　過去１年間に転んだ経験（全体）



問 14　転倒に対する不安は大きいですか。（１つに○）

《不安である》（「とても不安である」と「やや不安である」の計）の割合は 58.8%となっている。一方、《不安でない》（「あまり不安でない」と「不安でない」の計）の割合は 40.0%となっている。

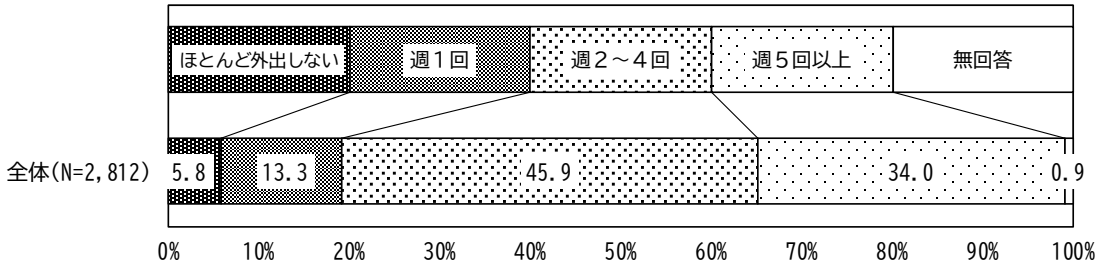
図表　転倒に対する不安（全体）



問 15　週に１回以上は外出していますか。（１つに○）

「週２～４回」（45.9%）が最も多く、次いで「週５回以上」（34.0%）、「週１回」（13.3%）、「ほとんど外出しない」（5.8%）と続いている。

図表　外出の頻度（全体）

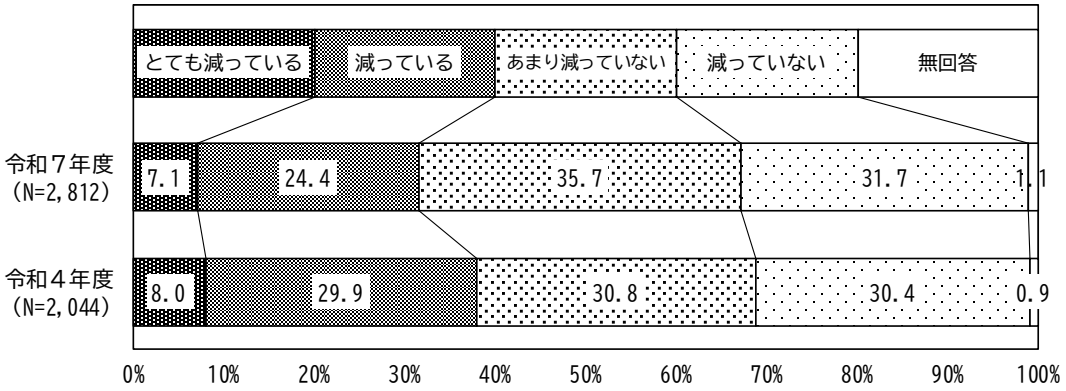


問 16　昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（１つに○）

《減っている》（「とても減っている」と「減っている」の計）の割合は 31.5%となっている。一方、《減っていない》（「あまり減っていない」と「減っていない」の計）の割合は 67.4%となっている。

前回調査と比較すると《減っている》（今回：31.5%、前回：37.9%）の割合が 6.4 ポイント低くなっている。一方、《減っていない》（今回：67.4%、前回：61.2%）の割合が 6.2 ポイント高くなっている。

図表　昨年と比べた外出の頻度（全体）【前回比較】



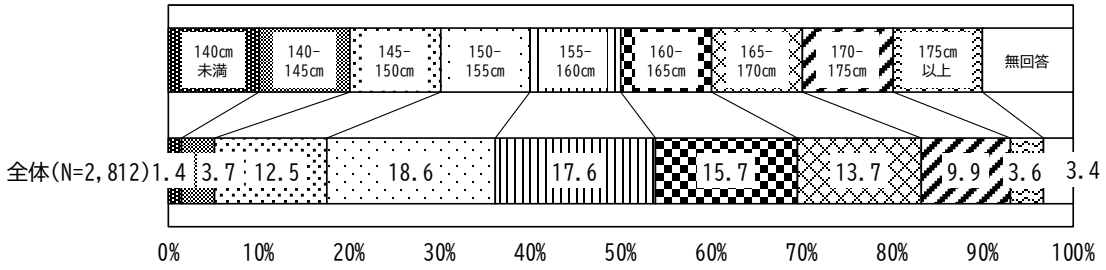
（５）食べること

問 17　身長・体重をお教えください。

■身長

「150～155cm」（18.6%）が最も多く、「155～160cm」（17.6%）、「160～165cm」（15.7%）、「165～170cm」（13.7%）と続いている。

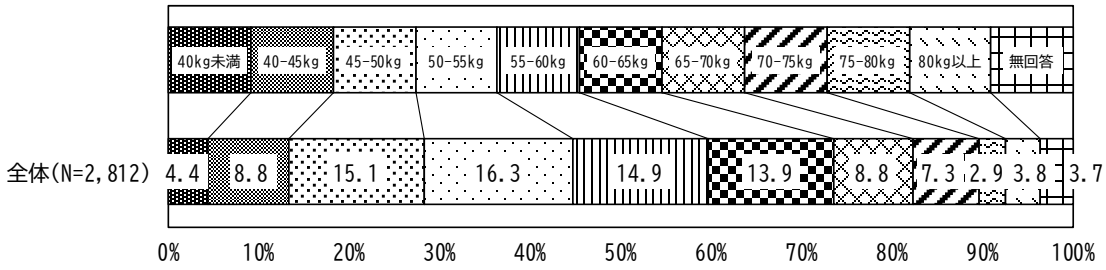
図表　身長（全体）



■体重

「50～55 kg」（16.3%）が最も多く、「45～50 kg」（15.1%）、「55～60 kg」（14.9%）、「60～65 kg」（13.9%）と続いている。

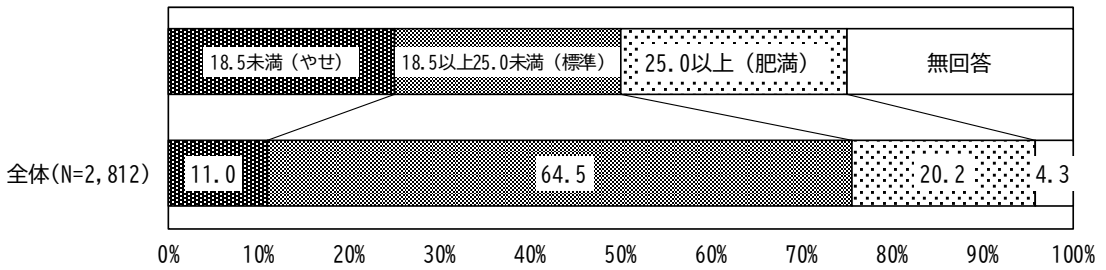
図表　体重（全体）



■体格指数（ＢＭＩ）

「18.5 以上 25.0 未満（標準）」（64.5%）が最も多く、「25.0 以上（肥満）」（20.2%）、「18.5 未満（やせ）」（11.0%）と続いている。

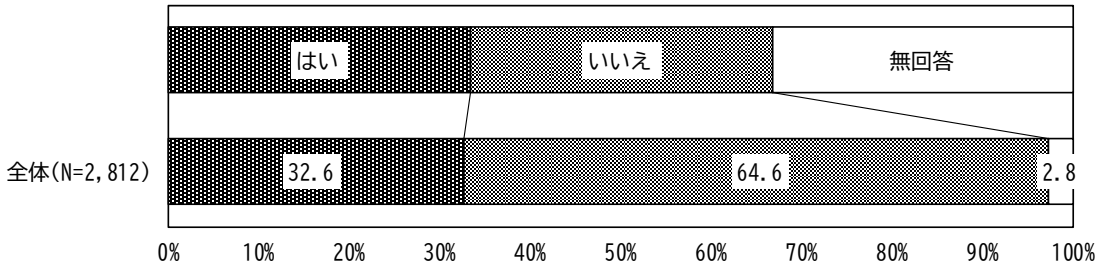
図表　体格指数（ＢＭＩ）（全体）



問 18　半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（１つに○）

「はい」が 32.6%、「いいえ」が 64.6%となっている。

図表　半年前と比べて固いものが食べにくくなったか（全体）

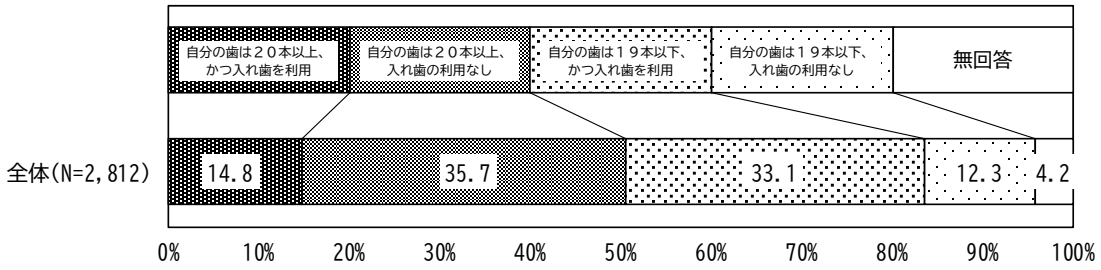


問 19　歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて３２本です。）（１つに○）

《自分の歯が 20 本以上ある人》（入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 20 本以上」と回答した人）の割合は 50.5%、《自分の歯が 19 本以下の人》（入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 19 本以下」と回答した人）の割合は 45.4%となっている。

一方、《入れ歯を利用している人》（自分の歯の本数に関わらず「入れ歯を利用」と回答した人）の割合は 47.9%、《入れ歯を利用していない人》（自分の歯の本数に関わらず「入れ歯の利用なし」と回答した人）の割合は 48.0%となっている。

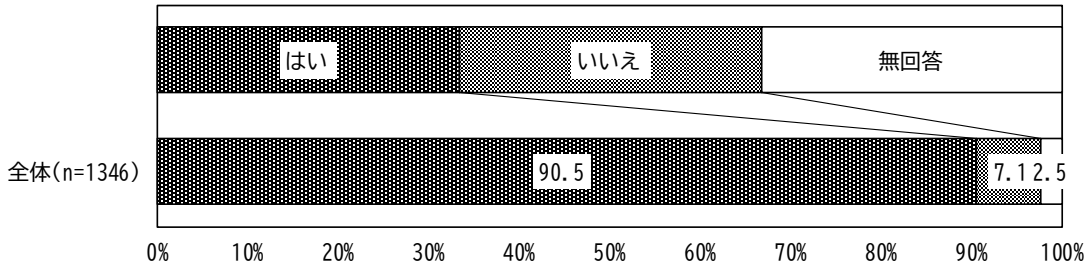
図表　歯の数と入れ歯の利用状況（全体）



問 19-１　問 19 で「１．自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用」「３．自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」とお答えの方におたずねします
毎日入れ歯の手入れをしていますか。（１つに○）

「はい」が 90.5%、「いいえ」が 7.1%となっている。

図表　毎日入れ歯の手入れをしているか（全体）

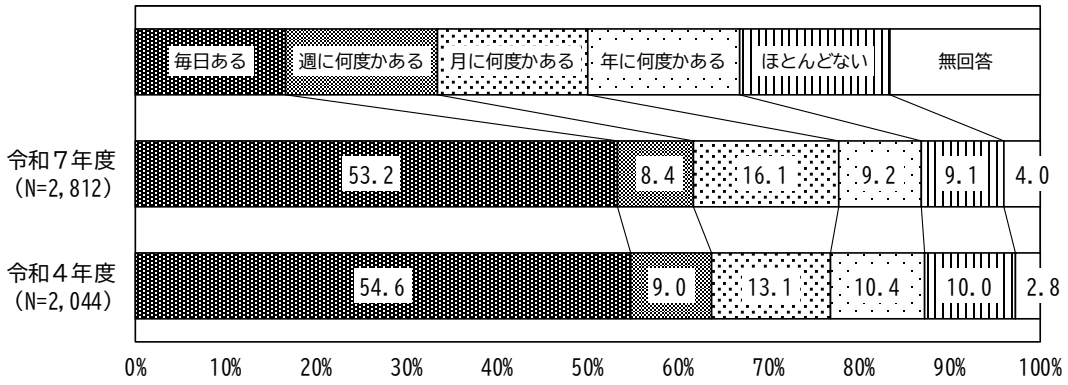


問 20　どなたかと食事をともにする機会はありますか。（１つに○）

「毎日ある」（53.2%）が最も多く、次いで「月に何度かある」（16.1%）、「年に何度かある」（9.2%）、「ほとんどない」（9.1%）、「週に何度かある」（8.4%）と続いている。

前回調査と比較すると「月に何度かある」（今回：16.1%、前回：13.1%）の割合が 3.0 ポイント高くなっている。

図表　誰かと食事をともにする機会（全体）【前回比較】

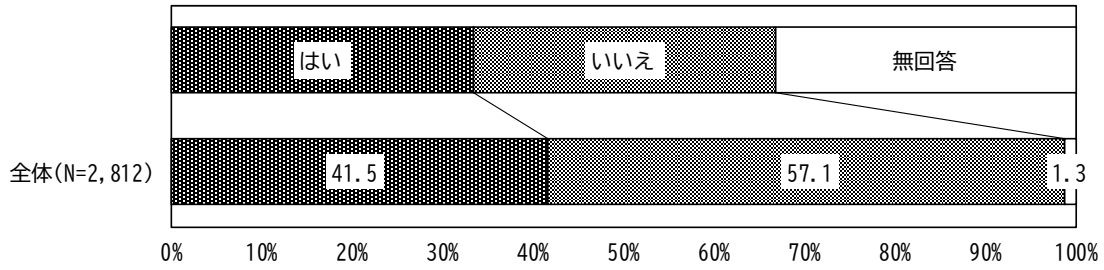


（６）毎日の生活

問 21　物忘れが多いと感じますか。（１つに○）

「はい」が 41.5%、「いいえ」が 57.1%となっている。

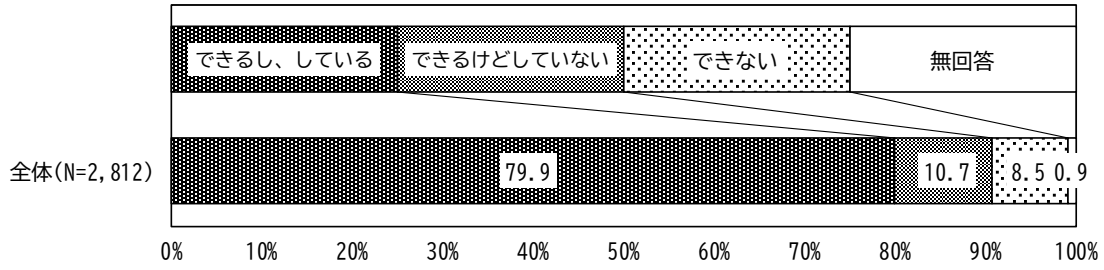
図表　物忘れの状況（全体）



問 22　バスや電車を使って１人で外出していますか。（自家用車でも可）（１つに○）

「できるし、している」が 79.9%、「できるけどしていない」が 10.7%、「できない」が 8.5%となっている。

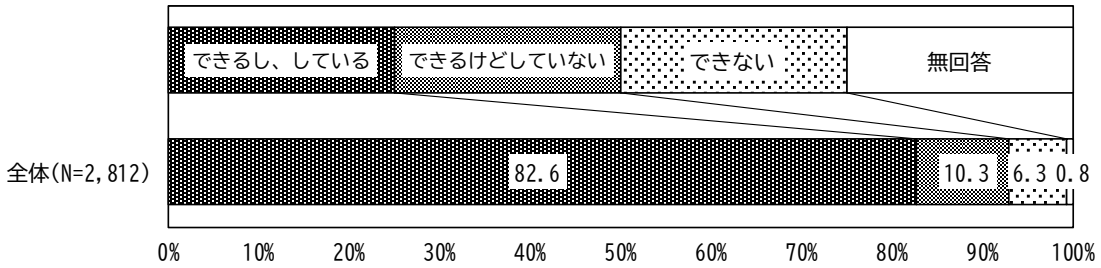
図表　バスや電車を使って１人で外出すること（全体）



問 23　自分で食品・日用品の買い物をしていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 82.6%、「できるけどしていない」が 10.3%、「できない」が 6.3%となっている。

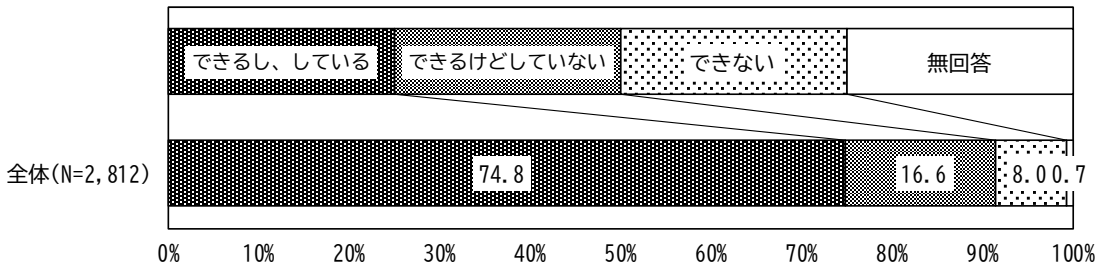
図表　自分で食品・日用品の買物をすること（全体）



問 24　自分で食事の用意をしていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 74.8%、「できるけどしていない」が 16.6%、「できない」が 8.0%となっている。

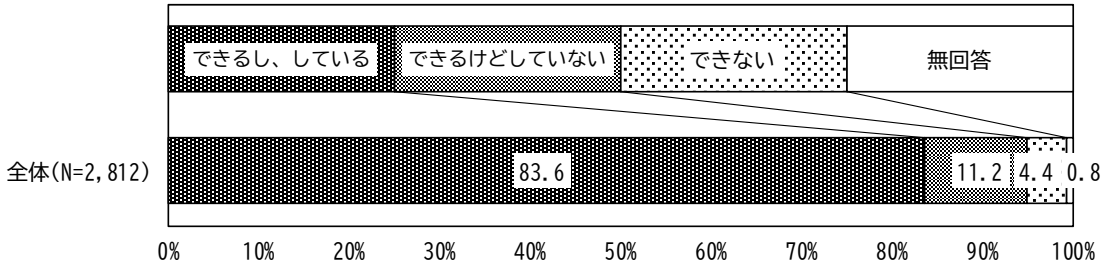
図表　自分で食事の用意をすること（全体）



問 25　自分で請求書の支払いをしていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 83.6%、「できるけどしていない」が 11.2%、「できない」が 4.4%となっている。

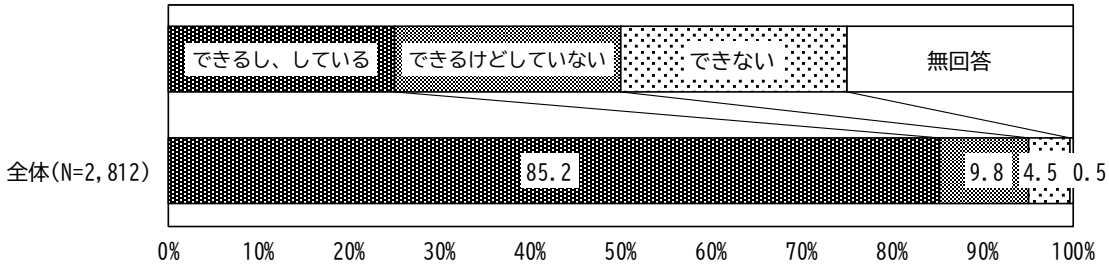
図表　自分で請求書の支払いをすること（全体）



問 26　自分で預貯金の出し入れをしていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 85.2%、「できるけどしていない」が 9.8%、「できない」が 4.5%となっている。

図表　自分で預貯金の出し入れをすること（全体）



（７）地域生活と日ごろの活動

問 27　あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を１０点、「とても不幸」を０点とした場合、あなたはどれぐらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。（１つに○）

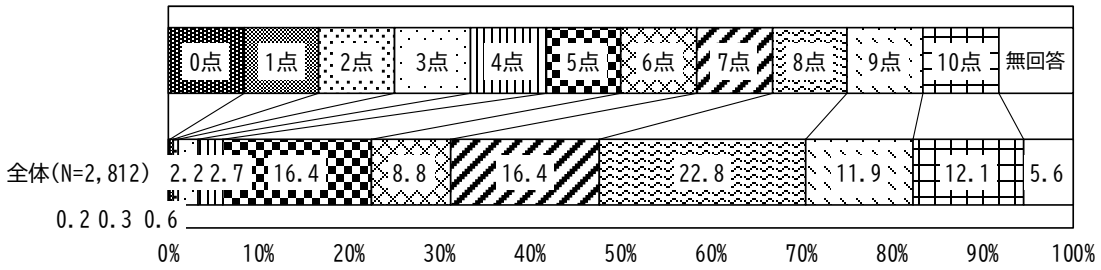
「８点」（22.8%）が最も多く、次いで「５点」、「７点」（ともに 16.4%）、「10 点」（12.1%）、「９点」（11.9%）と続いている。なお、８点以上の割合は 46.8%、２点以下の割合は 1.1%となっている。

要支援認定別にみると、認定なし（自立）では「８点」（25.4%）、要支援１・２では「５点」（22.0%）が最も多くなっている。

性・年代別にみると、どの年代も女性の方が男性より平均点が高くなっている。平均点は、女性の 65～74 歳が 7.6 点で最も高く、男性の 85 歳以上が 6.8 点で最も低くなっている。

家族構成別にみると、平均点は、夫婦２人暮らしが 7.4 点で最も高く、１人暮らしが 6.6 点で最も低くなっている。

図表　主観的幸福度（全体）



図表　主観的幸福度
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

				０点	１点	２点	３点	４点	５点	６点	７点	８点	９点	１０点	無回答	平均点
全体			(N=2,812)	0.2	0.3	0.6	2.2	2.7	16.4	8.8	16.4	22.8	11.9	12.1	5.6	7.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	0.2	0.1	0.3	1.9	1.8	13.7	8.5	16.8	25.4	13.9	13.5	3.8	7.4
	事業対象者		(n= 15)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	13.3	33.3	13.3	6.7	0.0	13.3	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	0.2	0.6	0.9	2.9	4.8	22.0	9.9	15.3	19.0	8.0	9.4	7.1	6.7
性別	男性		(n=1,207)	0.2	0.3	0.8	2.6	2.9	20.0	10.2	17.9	21.9	9.8	9.4	4.1	6.9
	女性		(n=1,557)	0.2	0.3	0.3	2.0	2.6	13.7	7.8	14.9	23.6	13.8	14.3	6.5	7.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	0.4	0.4	1.0	3.5	3.1	18.8	9.5	16.3	24.7	11.3	8.2	2.9	6.9
		75～84歳	(n= 493)	0.0	0.2	0.8	2.0	1.8	20.7	11.2	18.1	19.9	9.5	11.0	4.9	7.0
		85歳以上	(n= 194)	0.5	0.5	0.5	1.0	5.2	21.6	9.3	22.2	20.1	6.7	8.2	4.1	6.8
	女性	65～74歳	(n= 549)	0.4	0.2	0.0	2.6	3.1	9.1	8.4	14.4	27.0	15.5	15.3	4.2	7.6
		75～84歳	(n= 671)	0.0	0.6	0.4	1.9	2.2	16.5	7.6	17.0	21.2	12.5	13.3	6.7	7.3
		85歳以上	(n= 330)	0.3	0.0	0.6	1.2	2.4	15.5	7.6	11.2	23.0	13.9	14.8	9.4	7.4
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	0.4	0.7	0.8	3.1	4.1	24.2	10.5	16.4	16.0	7.9	9.2	6.7	6.6
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	0.1	0.2	0.5	1.4	2.1	12.5	8.5	16.7	27.1	14.2	12.3	4.4	7.4
	息子・娘と同居		(n= 616)	0.3	0.3	0.2	1.8	2.6	15.7	8.3	15.6	21.3	12.2	14.8	7.0	7.3
	その他		(n= 288)	0.0	0.0	1.0	3.5	2.4	13.9	7.3	17.0	25.7	12.8	13.2	3.1	7.3

問 28　以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
（それぞれ１つに○）

《参加している》（「週に４回以上」から「年に数回」の計）の割合は、『⑧収入のある仕事』（24.2%）が最も多く、次いで『③趣味関係のグループ』（23.8%）、『②スポーツ関係のグループやクラブ』（21.6%）、『⑦自治会・町会等』（18.1%）と続いている。

一方、「参加していない」割合は、『⑥シニアクラブ（老人クラブ）』（73.6%）が最も多く、次いで『④学習・教養サークル』（69.5%）、『①ボランティアのグループ』（69.1%）、『⑤介護予防のための通いの場（地域交流体操、その他自主グループなど）』（68.5%）と続いている。

図表　会・グループ等への参加頻度（全体）

(%)

(N=2,812)	週に４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない	無回答	≪参加している≫
①ボランティアのグループ	0.8	1.1	1.8	3.3	2.5	69.1	21.4	9.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.6	7.6	6.0	3.4	1.9	60.5	17.9	21.6
③趣味関係のグループ	0.9	3.1	4.3	10.7	4.8	58.6	17.5	23.8
④学習・教養サークル	0.2	0.8	1.7	3.6	2.3	69.5	21.9	8.7
⑤介護予防のための通いの場	0.6	3.4	5.2	1.6	1.4	68.5	19.2	12.2
⑥シニアクラブ（老人クラブ）	0.2	0.9	0.9	1.3	2.5	73.6	20.7	5.7
⑦自治会・町会等	0.2	0.5	0.8	4.1	12.6	61.6	20.3	18.1
⑧収入のある仕事	12.8	6.7	1.4	1.7	1.7	56.5	19.3	24.2

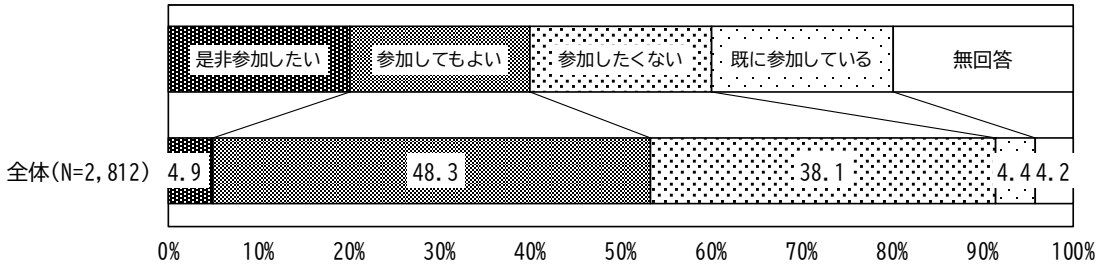
問 29　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

《参加に前向きな人》（「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」の計）の割合は 57.6%となっている。一方、「参加したくない」は 38.1%となっている。

要支援認定別にみると、認定なし（自立）では「参加してもよい」（53.6%）が全体より５ポイント以上高くなっている。一方、要支援１・２では「参加してもよい」（40.1%）が全体より５ポイント以上ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「参加してもよい」の割合は低くなっている。

図表　地域づくり活動への参加者としての参加意向（全体）



図表　地域づくり活動への参加者としての参加意向
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体			(N=2,812)	4.9	48.3	38.1	4.4	4.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	4.4	53.6	35.4	4.5	2.1
	事業対象者		(n= 15)	6.7	33.3	46.7	6.7	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	6.2	40.1	42.5	4.0	7.2
性別	男性		(n=1,207)	3.1	47.7	42.8	3.4	3.0
	女性		(n=1,557)	6.4	48.9	34.6	5.1	4.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	2.5	53.8	41.0	1.6	1.2
		75～84歳	(n= 493)	3.7	44.4	44.2	4.3	3.4
		85歳以上	(n= 194)	3.1	40.2	44.8	5.7	6.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	6.0	59.2	30.2	2.7	1.8
		75～84歳	(n= 671)	6.4	45.9	37.1	6.0	4.6
		85歳以上	(n= 330)	6.4	38.2	37.3	7.3	10.9
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	5.9	45.8	38.3	4.8	5.3
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	4.0	52.9	37.0	3.5	2.6
	息子・娘と同居		(n= 616)	4.9	44.0	40.1	5.7	5.4
	その他		(n= 288)	5.9	49.0	37.2	4.2	3.8

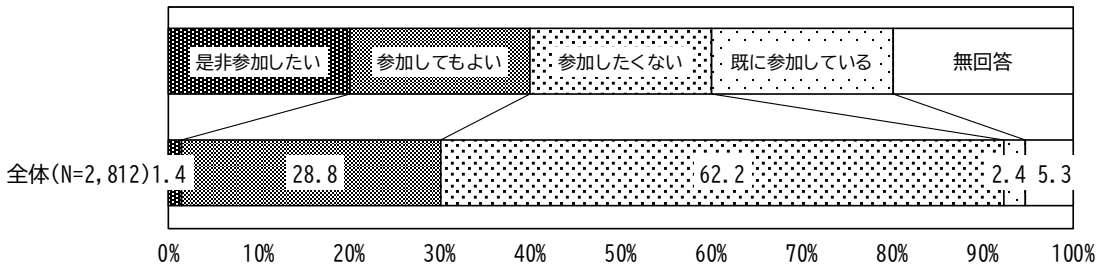
問 30　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

《参加に前向きな人》（「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」の計）の割合は 32.6%となっている。一方、「参加したくない」は 62.2%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「参加してもよい」（21.3%）が全体より５ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「参加してもよい」の割合は低くなっている。

図表　地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向（全体）



図表　地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

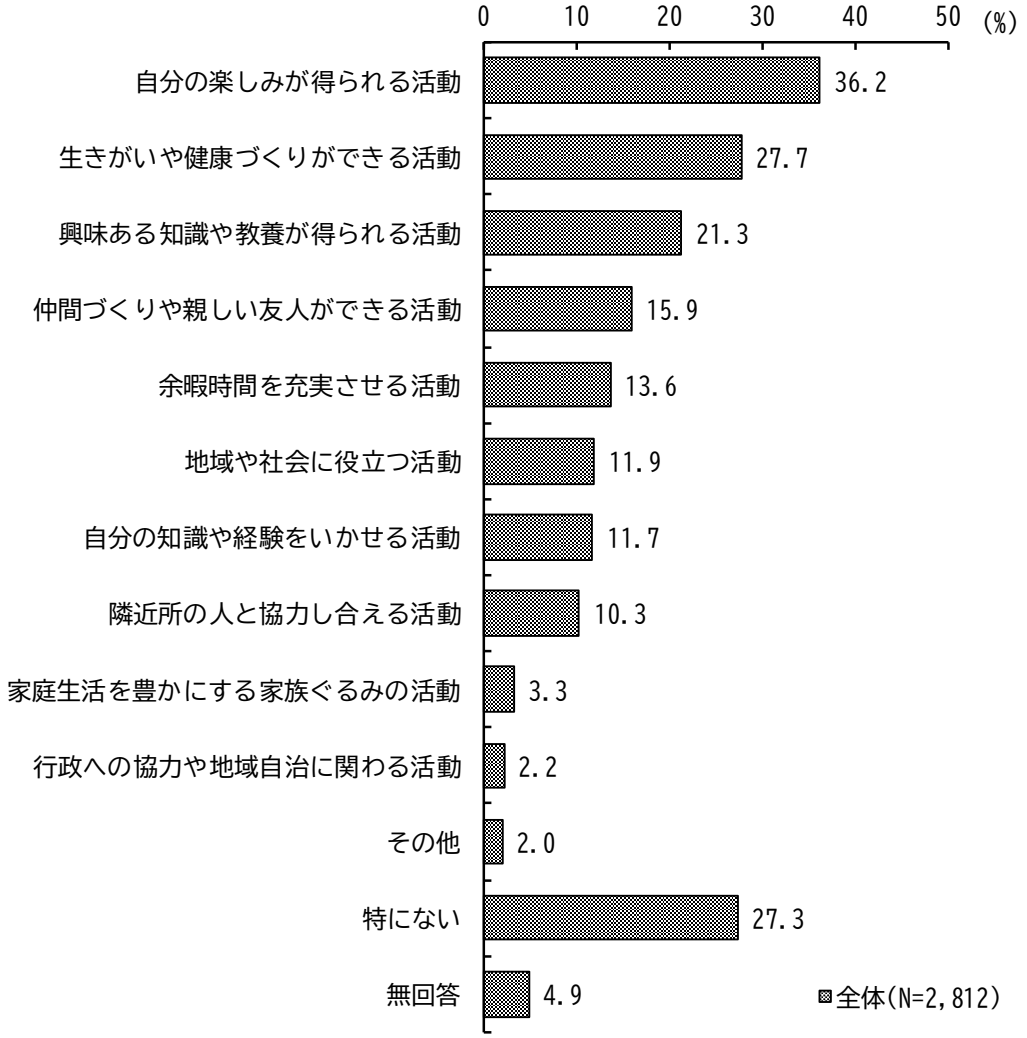
(%)

				是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体			(N=2,812)	1.4	28.8	62.2	2.4	5.3
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	1.1	32.1	61.2	2.5	3.1
	事業対象者		(n= 15)	0.0	26.7	60.0	0.0	13.3
	要支援１・２		(n= 649)	1.4	21.3	67.8	1.8	7.7
性別	男性		(n=1,207)	1.7	29.7	62.6	1.9	4.1
	女性		(n=1,557)	1.2	28.0	62.1	2.8	5.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	1.6	33.2	62.9	0.6	1.7
		75～84歳	(n= 493)	1.4	28.0	62.3	3.2	5.1
		85歳以上	(n= 194)	2.6	24.2	62.9	2.1	8.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	1.5	35.3	58.8	2.0	2.4
		75～84歳	(n= 671)	0.6	26.4	64.5	3.4	5.1
		85歳以上	(n= 330)	1.5	19.7	62.7	2.7	13.3

問 31　あなたが、これから参加したい活動はどのようなものですか。（３つまでに○）

「自分の楽しみが得られる活動」（36.2%）が最も多く、次いで「生きがいや健康づくりができる活動」（27.7%）、「興味ある知識や教養が得られる活動」（21.3%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（15.9%）と続いている。一方、「特にない」は 27.3%となっている。

図表　これから参加したい活動（全体：複数回答）



性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「興味ある知識や教養が得られる活動」（27.4%）、「自分の知識や経験をいかせる活動」（20.6%）、「地域や社会に役立つ活動」（19.4%）が全体より５ポイント以上高く、女性の 65～74 歳では、「自分の楽しみが得られる活動」（49.4%）、「興味ある知識や教養が得られる活動」（31.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　これから参加したい活動

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別：複数回答）

（%）

				自分の楽しみが得られる活動	生きがいや健康づくりができる活動	興味ある知識や教養が得られる活動	仲間づくりや親しい友人ができる活動	余暇時間を充実させる活動	地域や社会に役立つ活動	自分の知識や経験をいかせる活動
全体			(N=2,812)	36.2	27.7	21.3	15.9	13.6	11.9	11.7
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	40.6	29.8	25.8	15.3	16.0	15.2	13.4
	事業対象者		(n= 15)	46.7	33.3	6.7	13.3	6.7	13.3	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	31.1	26.0	14.8	18.3	8.8	5.9	9.4
性別	男性		(n=1,207)	34.1	22.9	19.9	12.6	15.2	14.7	16.2
	女性		(n=1,557)	38.1	31.2	22.7	18.1	12.7	9.7	8.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	40.8	25.2	27.4	10.7	18.4	19.4	20.6
		75～84歳	(n= 493)	30.0	20.9	14.0	13.6	12.6	13.2	14.0
		85歳以上	(n= 194)	27.3	22.2	14.9	14.9	12.4	6.2	10.8
	女性	65～74歳	(n= 549)	49.4	36.1	31.5	18.4	16.9	14.0	12.0
		75～84歳	(n= 671)	34.4	28.9	19.8	17.7	12.1	8.8	6.1
		85歳以上	(n= 330)	26.7	27.6	13.9	17.9	7.0	4.5	5.8

				隣近所の人と協力し合える活動	家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動	行政への協力や地域自治に関わる活動	その他	特にない	無回答
全体			(N=2,812)	10.3	3.3	2.2	2.0	27.3	4.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	9.6	3.8	2.9	1.6	24.3	2.4
	事業対象者		(n= 15)	6.7	0.0	0.0	0.0	46.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	10.8	2.5	1.1	2.3	33.1	6.9
性別	男性		(n=1,207)	9.4	4.6	3.4	1.7	30.7	4.0
	女性		(n=1,557)	10.5	2.2	1.2	2.1	24.9	5.6
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	7.6	6.6	4.3	0.8	27.2	1.6
		75～84歳	(n= 493)	8.7	3.0	3.4	2.2	34.1	6.1
		85歳以上	(n= 194)	14.9	3.6	1.0	2.6	32.0	5.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	7.7	2.6	2.4	1.3	18.2	2.2
		75～84歳	(n= 671)	12.7	2.4	0.9	2.8	27.0	5.1
		85歳以上	(n= 330)	11.2	1.2	0.0	1.5	32.4	11.8

問 32　市では各種生きがいづくり事業を行っています。あなたは、「敬老の日記念大会※」に参加したことはありますか。７０歳以上の方のみお答えください。（１つに○）
※高齢者の長寿を祝うため、毎年、敬老の日に７０歳以上の市民を対象に式典やアトラクションを府中の森芸術劇場で行うものです。

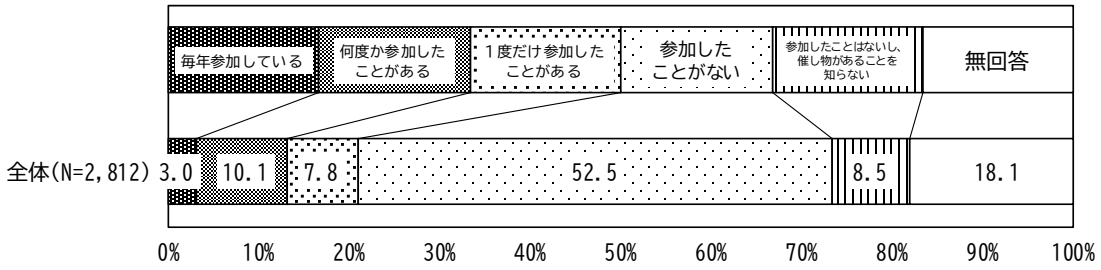
「参加したことがない」（52.5%）が最も多く、「参加したことはないし、催し物があることを知らない」（8.5%）を合わせた割合は 61.0%となっている。

一方、「毎年参加している」（3.0%）、「何度か参加したことがある」（10.1%）、「１度だけ参加したことがある」（7.8%）を合わせた割合は 20.9%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「何度か参加したことがある」（17.3%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年齢が高くなるほど「何度か参加したことがある」、「１度だけ参加したことがある」の割合は高くなっている。

図表　敬老の日記念大会の参加状況（全体）



図表　敬老の日記念大会の参加状況
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				毎年参加している	何度か参加したことがある	１度だけ参加したことがある	参加したことがない	参加したことはないし、催し物があることを知らない	無回答
全体			(N=2,812)	3.0	10.1	7.8	52.5	8.5	18.1
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	2.7	6.6	6.8	53.0	8.4	22.5
	事業対象者		(n= 15)	0.0	26.7	6.7	33.3	26.7	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	3.5	17.3	9.6	55.2	6.6	7.9
性別	男性		(n=1,207)	3.2	8.1	6.9	51.6	11.1	19.1
	女性		(n=1,557)	2.9	11.1	8.4	53.6	6.4	17.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	0.8	1.2	2.7	41.2	15.0	39.2
		75～84歳	(n= 493)	4.1	10.3	8.1	65.9	8.1	3.4
		85歳以上	(n= 194)	7.7	21.1	14.4	43.3	8.8	4.6
	女性	65～74歳	(n= 549)	0.4	0.9	3.5	46.4	7.5	41.3
		75～84歳	(n= 671)	4.6	13.3	10.1	62.6	5.8	3.6
		85歳以上	(n= 330)	3.3	23.3	13.3	47.9	5.8	6.4

問 32-1　問 32 で「毎年参加している」「何度か参加したことがある」「1 度だけ参加したことがある」「参加したことがない」とお答えの方におたずねします
その理由を具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、1,541 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

【「毎年参加している」理由：64 件】

内容	件数
催し物を楽しみにしているから、楽しめるから	44
案内が届くから	4
知り合いに会える、交流があるから	3
無料で参加できるから	1
興味がある催し物であれば参加している	1
学びを得るため	1
その他	10

【「何度か参加したことがある」理由：182 件】

内容	件数
催し物を楽しみにしているから、楽しめるから	58
体調が悪い、高齢のため	27
興味がある催し物であれば参加している	26
友人に誘われたため	12
知り合いに会える、交流があるから	11
時間がない、他にすることがある	7
内容に関心がない、楽しくないから	7
案内が届くから	5
学びを得るため	5
時間に余裕があるため	3
交通の便が悪い、会場が遠い	3
健康のため	2
その他	16

【「１度だけ参加したことがある」理由：167 件】

内容	件数
内容に関心がない、楽しくなさそう	30
催し物を楽しみにしているから、楽しめるから	28
初めてだったので１度だけ参加した	17
時間がない、他にすることがある	15
体調が悪い、高齢のため	15
交通の便が悪い、会場が遠い	9
興味がある催し物であれば参加している	7
案内が届くから	6
友人に誘われたため	6
参加する時間がある	3
知り合いに会える、交流があるから	3
学びを得るため	2
健康のため	1
その他	22
特になし	3

【「参加したことがない」理由：1,128 件】

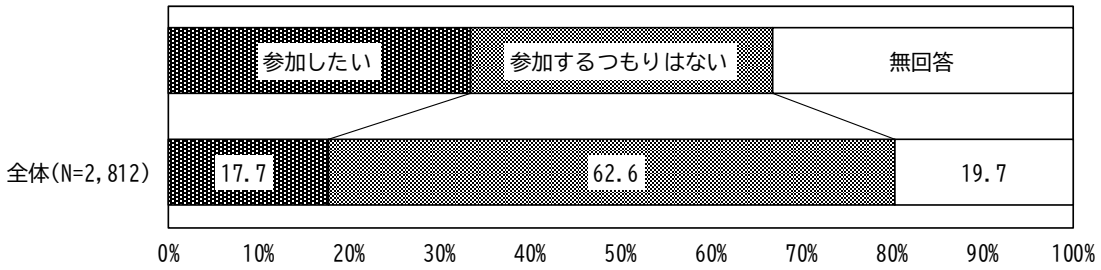
内容	件数
内容に関心がない、楽しくなさそう	453
時間がない、他にすることがある	188
体調が悪い、高齢のため	110
交通の便が悪い、会場が遠い	95
参加したいと思わない	71
まだ高齢者だとは思っていない	43
出かけることが面倒だから	43
人との関り、人混みが苦手	39
一緒に参加する人がいない	17
知らなかった	11
その他	53
特になし	5

問 33　あなたは、「敬老の日記念大会」に今後（これからも）参加したいと思いますか。７０歳未満の方は、７０歳を迎えた場合を想定してお答えください。（１つに○）

「参加したい」が 17.7%、「参加するつもりはない」が 62.6%となっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳、女性の 85 歳以上では「参加したい」（男性 65～74 歳：12.8%、女性 85 歳以上：14.5%）が全体よりも低くなっている。

図表　敬老の日記念大会の参加意向（全体）



図表　敬老の日記念大会の参加意向
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				参加したい	参加するつもりはない	無回答
全体			(N=2,812)	17.7	62.6	19.7
認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	18.3	63.6	18.1
認定別	事業対象者		(n= 15)	26.7	53.3	20.0
認定別	要支援１・２		(n= 649)	15.4	65.5	19.1
性別	男性		(n=1,207)	16.9	65.1	18.0
性別	女性		(n=1,557)	18.2	60.9	20.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	12.8	67.4	19.8
性・年代別	男性	75～84歳	(n= 493)	19.5	63.9	16.6
性・年代別	男性	85歳以上	(n= 194)	21.6	62.4	16.0
性・年代別	女性	65～74歳	(n= 549)	18.0	61.2	20.8
性・年代別	女性	75～84歳	(n= 671)	20.0	60.8	19.2
性・年代別	女性	85歳以上	(n= 330)	14.5	61.5	23.9

問 33-１　問 33 で「参加したい」とお答えの方におたずねします その理由を具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、全体で 395 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

【今後（これからも）「参加したい」理由：395 件】

内容	件数
催し物を楽しみにしているから、楽しめるから	102
興味がある催し物であれば参加したい	77
交流があるから、人との関りを持ちたいから	43
１度は参加してみたい	32
健康のため	30
都合がつけば参加したい	22
外出する機会が増えるため	19
参加したいが体調が悪い	12
学びを得るため	11
健康であれば参加したい	5
近いから、交通の便がよいから	4
無料で参加できるから	3
その他	35

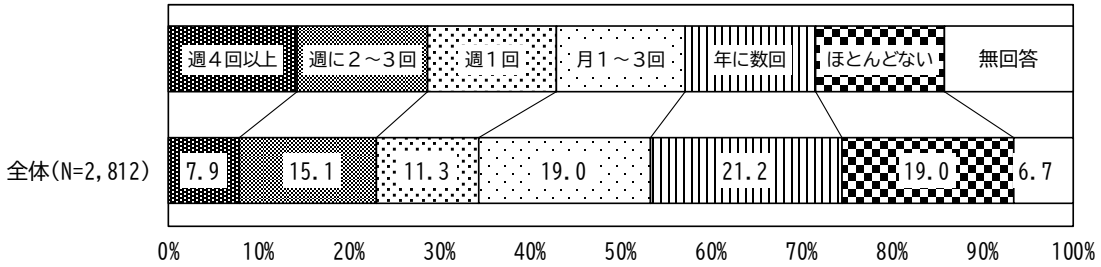
問 34　友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（１つに○）

「年に数回」（21.2%）が最も多く、次いで「月１回」、「ほとんどない」（ともに 19.0%）、「週に２～３回」（15.1%）、「週１回」（11.3%）と続いている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「ほとんどない」（30.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「年に数回」（28.9%）が全体より５ポイント以上高くなっている。男性の 85 歳以上では「ほとんどない」（35.1%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で女性の 85 歳以上では「ほとんどない」（27.3%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　友人・知人と会う頻度（全体）



図表　友人・知人と会う頻度
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				週に４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	ほとんどない	無回答
全体			(N=2,812)	7.9	15.1	11.3	19.0	21.2	19.0	6.7
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	9.4	15.6	11.8	20.6	22.8	13.2	6.5
	事業対象者		(n= 15)	0.0	13.3	13.3	20.0	6.7	26.7	20.0
	要支援１・２		(n= 649)	4.0	13.7	11.4	17.6	17.6	30.7	5.1
性別	男性		(n=1,207)	7.3	10.6	10.1	16.8	24.9	23.4	6.9
	女性		(n=1,557)	8.3	18.2	12.2	20.6	18.4	15.6	6.6
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	8.7	7.6	10.3	17.5	28.9	17.1	9.9
		75～84歳	(n= 493)	7.5	13.2	9.9	16.0	23.5	25.4	4.5
		85歳以上	(n= 194)	2.6	11.9	10.3	17.5	18.0	35.1	4.6
	女性	65～74歳	(n= 549)	9.1	17.1	9.8	23.0	19.7	11.3	10.0
		75～84歳	(n= 671)	9.4	19.2	15.1	19.8	20.0	13.6	3.0
		85歳以上	(n= 330)	4.8	18.5	10.3	18.5	13.0	27.3	7.6
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	6.7	16.8	11.9	19.5	17.9	21.3	5.9
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	8.2	14.2	11.5	19.3	25.2	15.3	6.3
	息子・娘と同居		(n= 616)	8.6	14.4	11.2	15.9	19.0	22.7	8.1
	その他		(n= 288)	8.3	11.8	10.1	22.6	19.4	19.4	8.3

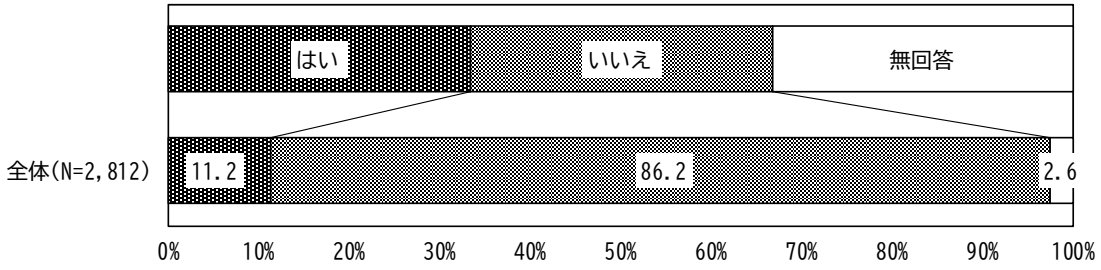
（８）認知症

問 35　認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（１つに○）

「はい」が 11.2%、「いいえ」が 86.2%となっている。

性・年代別にみると、男性の 85 歳以上では、「はい」（16.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　本人または家族に認知症の症状があるか（全体）



図表　本人または家族に認知症の症状があるか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

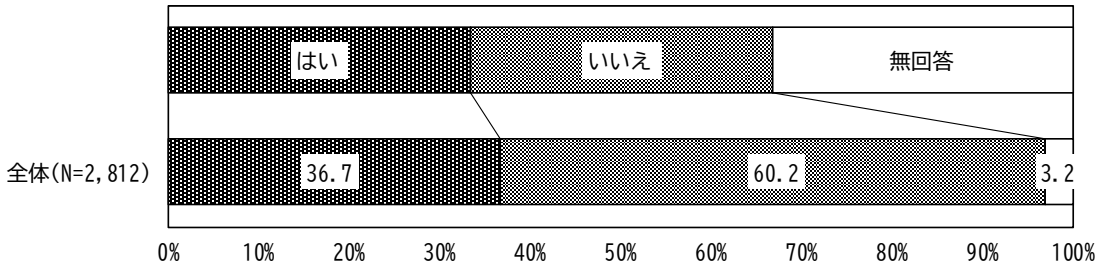
				はい	いいえ	無回答
全体			(N=2,812)	11.2	86.2	2.6
認定別	要支援	認定なし（自立）	(n=1,758)	10.1	88.6	1.3
		事業対象者	(n= 15)	33.3	66.7	0.0
		要支援１・２	(n= 649)	15.3	81.0	3.7
性別	男性		(n=1,207)	10.6	87.2	2.2
	女性		(n=1,557)	11.7	85.5	2.8
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	9.9	88.3	1.7
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	8.7	88.6	2.6
		85 歳以上	(n= 194)	16.5	81.4	2.1
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	10.4	88.9	0.7
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	13.1	84.4	2.5
		85 歳以上	(n= 330)	11.2	82.7	6.1
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	8.5	88.3	3.3
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	13.5	85.3	1.2
	息子・娘と同居		(n= 616)	9.9	87.0	3.1
	その他		(n= 288)	12.5	82.6	4.9

問 36　認知症に関する相談窓口を知っていますか。（1つに○）

「はい」が 36.7%、「いいえ」が 60.2%となっている。

性・年代別にみると、「はい」の割合は、男性は年代が上がるほど高い一方で、女性は 75～84 歳（42.5%）が最も多く、次いで 65～74 歳（41.2%）、85 歳以上（39.1%）と続いている。

図表　認知症に関する相談窓口を知っているか（全体）



図表　認知症に関する相談窓口を知っているか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				はい	いいえ	無回答
全体			(N=2,812)	36.7	60.2	3.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	38.0	60.1	1.9
	事業対象者		(n= 15)	33.3	66.7	0.0
	要支援1・2		(n= 649)	40.2	55.5	4.3
性別	男性		(n=1,207)	30.2	67.0	2.8
	女性		(n=1,557)	41.3	55.3	3.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	28.3	69.3	2.3
		75～84歳	(n= 493)	30.6	66.1	3.2
		85歳以上	(n= 194)	34.0	62.9	3.1
	女性	65～74歳	(n= 549)	41.2	57.0	1.8
		75～84歳	(n= 671)	42.5	55.0	2.5
		85歳以上	(n= 330)	39.1	53.3	7.6
家族構成別	1人暮らし		(n= 732)	34.2	61.3	4.5
	夫婦2人暮らし		(n=1,117)	38.0	60.3	1.8
	息子・娘と同居		(n= 616)	35.6	60.6	3.9
	その他		(n= 288)	38.5	59.4	2.1

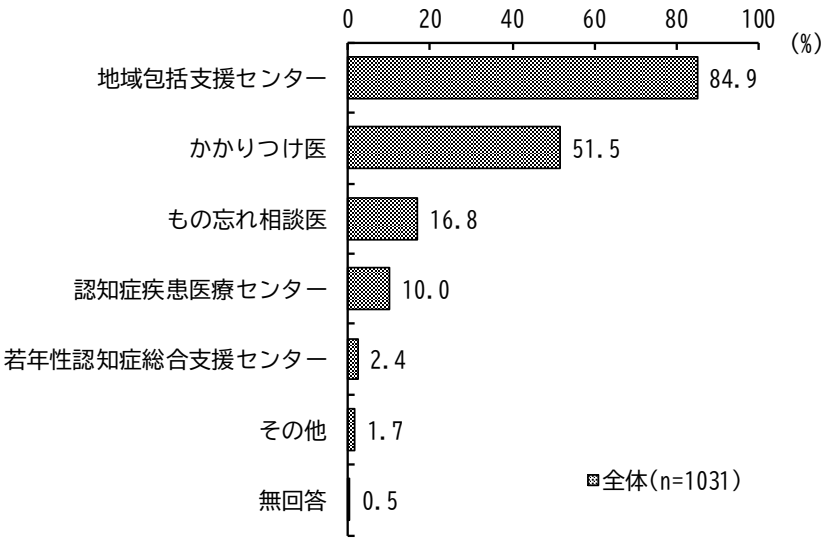
問 36-1　問 36 で「はい」とお答えの方におたずねします
あなたが知っている相談窓口はどれですか。（いくつでも○）

「地域包括支援センター」（84.9%）が最も多く、次いで「かかりつけ医」（51.5%）、「もの忘れ相談医」（16.8%）、「認知症疾患医療センター」（10.0%）と続いている。

性別にみると、すべての項目で知っている割合は男性より女性が高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では「地域包括支援センター」（90.3%）が全体より５ポイント以上高く、「もの忘れ相談医」（28.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　知っている相談窓口（相談窓口を知っている人：複数回答）



図表　知っている相談窓口
（相談窓口を知っている人、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

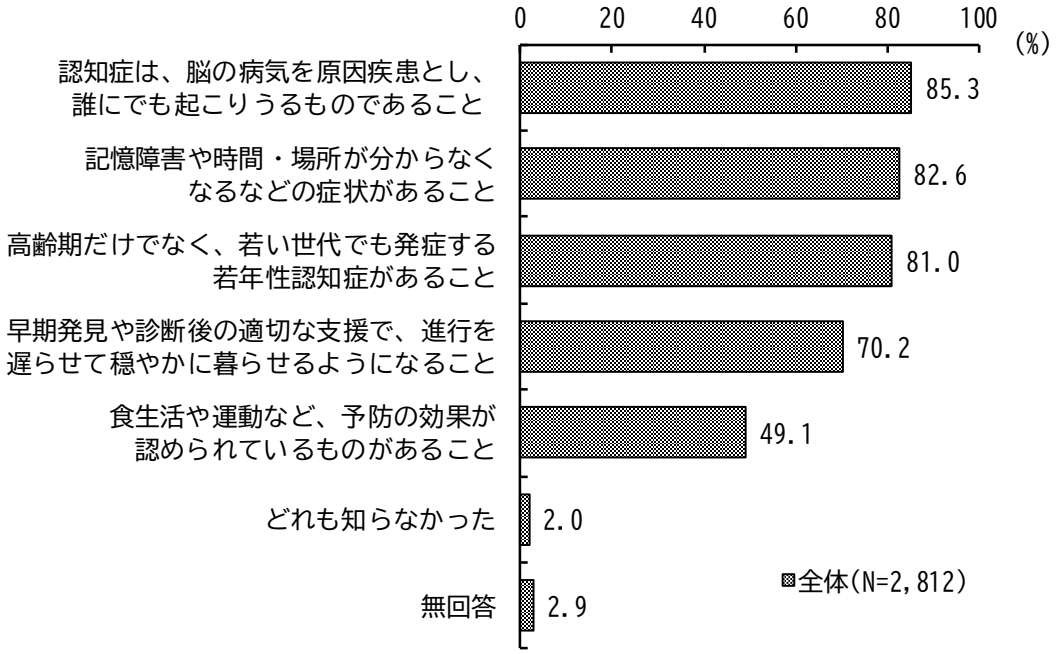
(%)

				地域包括支援センター	かかりつけ医	もの忘れ相談医	認知症疾患医療センター	若年性認知症総合支援センター	その他	無回答
全体			(n=1,031)	84.9	51.5	16.8	10.0	2.4	1.7	0.5
認定別 要支援	認定なし（自立）		(n= 668)	86.2	49.3	19.2	11.1	2.8	1.6	0.6
	事業対象者		(n= 5)	100.0	80.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 261)	84.7	57.5	13.0	8.4	1.9	1.9	0.0
性別	男性		(n= 364)	82.1	50.3	9.3	7.1	1.6	1.6	0.8
	女性		(n= 643)	86.9	51.6	21.3	11.4	3.0	1.9	0.3
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 146)	82.9	54.8	13.0	11.0	2.7	1.4	0.0
		75～84歳	(n= 151)	84.1	43.7	7.9	4.0	1.3	1.3	2.0
		85歳以上	(n= 66)	75.8	56.1	4.5	6.1	0.0	3.0	0.0
	女性	65～74歳	(n= 226)	90.3	48.2	28.8	12.8	3.5	0.4	0.4
		75～84歳	(n= 285)	87.7	51.2	16.5	10.9	1.8	1.8	0.0
		85歳以上	(n= 129)	81.4	57.4	17.8	10.1	4.7	3.9	0.8
家族構成別	１人暮らし		(n= 250)	82.4	52.4	20.0	11.2	2.0	2.0	0.8
	夫婦２人暮らし		(n= 424)	85.8	51.9	14.4	9.7	1.9	1.7	0.2
	息子・娘と同居		(n= 219)	84.5	47.0	12.3	9.1	2.3	1.4	0.9
	その他		(n= 111)	87.4	55.9	26.1	7.2	4.5	1.8	0.0

問 37　あなたは認知症について、どのようなことを知っていますか。（いくつでも○）

「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」（85.3%）が最も多く、次いで「記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること」(82.6%)、「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（81.0%)、「早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること」(70.2%) と続いている。一方、「どれも知らなかった」は 2.0%となっている。

図表　認知症について知っていること（全体：複数回答）



要支援認定別にみると、すべての項目で知っている割合は要支援１・２より認定なし（自立）が高くなっている。

性別にみると、すべての項目で知っている割合は男性より女性が高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（92.9%）、「早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること」（82.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症について知っていること

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

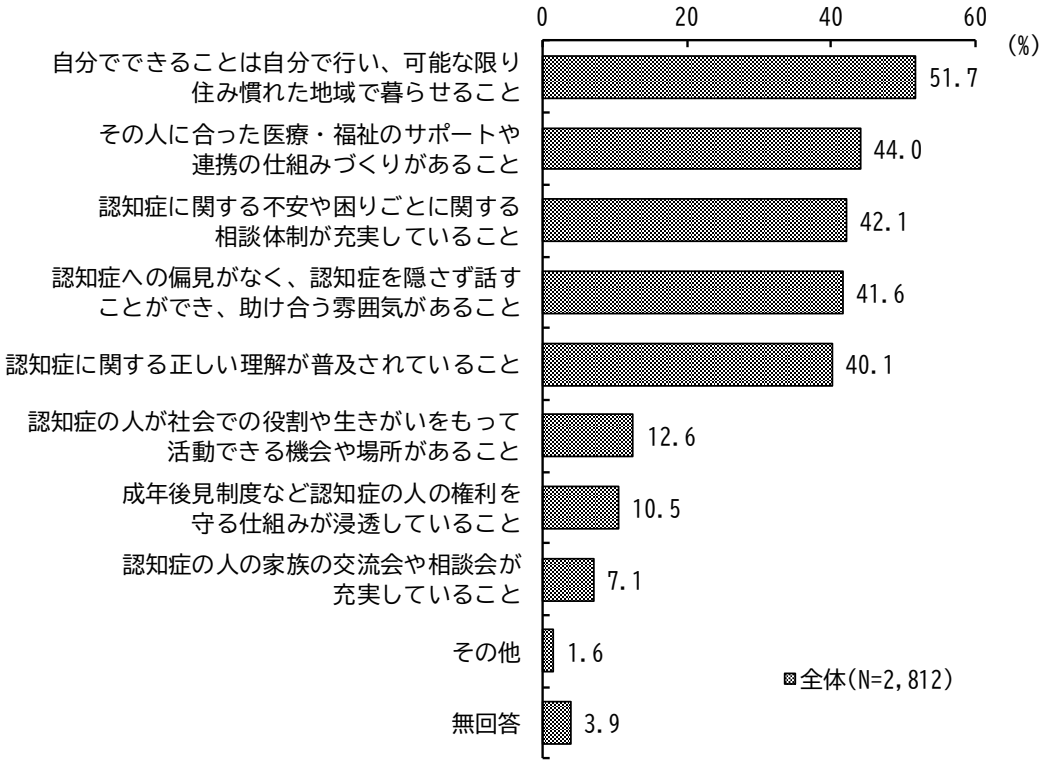
（%）

				認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること	記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること	高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること	早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること	食生活や運動など、予防の効果が認められているものがあること	どれも知らなかった	無回答
全体			(N=2,812)	85.3	82.6	81.0	70.2	49.1	2.0	2.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	90.6	88.2	88.3	76.3	57.5	0.7	1.4
	事業対象者		(n= 15)	60.0	86.7	66.7	66.7	33.3	13.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	80.7	77.5	73.3	64.7	38.2	2.3	4.3
性別	男性		(n=1,207)	85.3	80.4	74.8	62.4	46.2	3.0	2.8
	女性		(n=1,557)	85.5	84.6	86.3	76.2	51.5	1.2	2.8
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	88.7	85.4	82.5	67.2	54.6	1.9	1.2
		75～84歳	(n= 493)	84.6	78.3	71.8	62.1	42.6	2.8	3.9
		85歳以上	(n= 194)	77.8	72.7	61.9	50.5	33.0	6.2	4.6
	女性	65～74歳	(n= 549)	90.7	89.6	92.9	82.0	63.4	1.3	1.3
		75～84歳	(n= 671)	85.4	83.6	86.3	77.3	50.2	1.0	2.4
		85歳以上	(n= 330)	78.2	78.8	75.8	65.5	34.8	1.2	5.5
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	82.1	79.5	77.3	65.3	45.6	3.3	4.1
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	87.8	85.9	84.3	74.4	52.4	1.3	1.5
	息子・娘と同居		(n= 616)	83.3	80.5	78.7	68.7	46.1	1.5	3.7
	その他		(n= 288)	90.6	85.4	84.7	72.6	54.2	1.7	1.7

問 38　あなたは、認知症になっても、住み慣れた地域で生活を送るためには何が必要だと考えますか。（３つまでに○）

「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること」（51.7%）が最も多く、次いで「その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること」（44.0%）、「認知症に関する不安や困りごとに関する相談体制が充実していること」（42.1%）、「認知症への偏見がなく、認知症を隠さず話すことができ、助け合う雰囲気があること」(41.6%)と続いている。

図表　認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
（全体：複数回答）



要支援認定別にみると、認定なし（自立）と要支援１・２は、「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること」（認定なし（自立）：50.0%、要支援１・２：55.0%）が最も多く、認定なし（自立）では、「その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること」（49.4%）、要支援１・２では、「認知症への偏見がなく、認知症を隠さず話すことができ、助け合う雰囲気があること」（45.8%）と続いている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること」（56.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

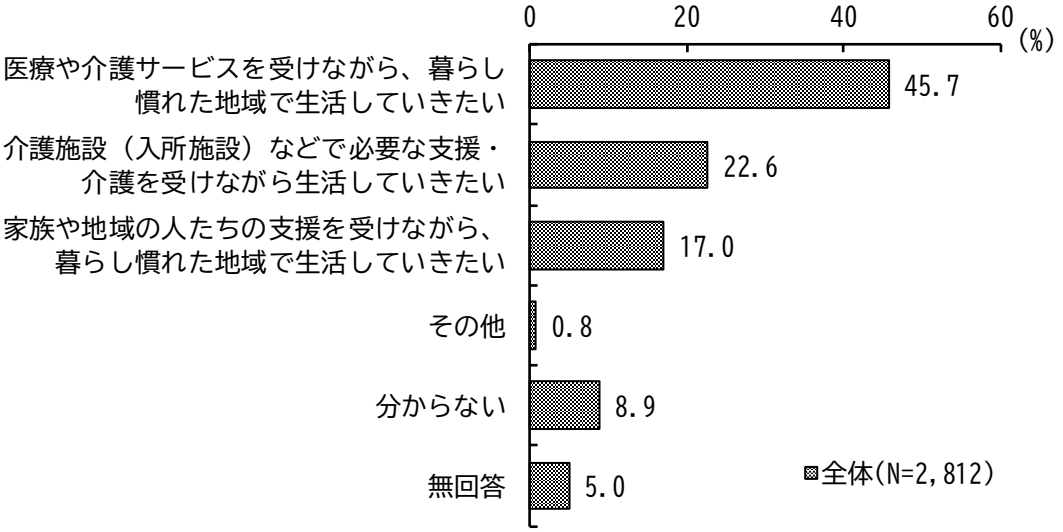
（%）

				自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること	その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること	認知症に関する不安や困りごとに関する相談体制が充実していること	認知症への偏見がなく、認知症を隠さず話すことができ、助け合う雰囲気があること	認知症に関する正しい理解が普及されていること	認知症の人が社会での役割や生きがいをもって活動できる機会や場所があること	成年後見制度など認知症の人の権利を守る仕組みが浸透していること	認知症の人の家族の交流会や相談会が充実していること	その他	無回答
全体			(N=2,812)	51.7	44.0	42.1	41.6	40.1	12.6	10.5	7.1	1.6	3.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	50.0	49.4	46.9	40.4	41.7	14.8	12.4	7.2	1.1	1.9
	事業対象者		(n= 15)	53.3	46.7	40.0	53.3	40.0	6.7	26.7	6.7	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	55.0	35.4	35.3	45.8	39.1	8.6	7.4	6.6	2.2	6.2
性別	男性		(n=1,207)	52.0	41.6	41.9	38.5	41.9	11.2	11.6	6.9	1.2	3.6
	女性		(n=1,557)	51.3	45.7	42.7	44.1	38.8	13.5	9.6	7.4	1.9	4.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	48.2	48.0	44.1	37.5	46.0	13.4	13.4	6.0	0.8	1.4
		75～84歳	(n= 493)	55.0	39.1	40.6	38.1	39.6	9.9	11.2	7.3	1.6	4.7
		85歳以上	(n= 194)	54.1	30.9	40.7	41.8	37.6	7.7	8.2	8.2	1.5	7.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	42.1	56.5	49.4	41.2	42.4	17.1	13.7	9.3	2.0	1.3
		75～84歳	(n= 671)	57.5	41.3	40.4	46.6	35.9	12.1	7.5	6.7	1.9	5.2
		85歳以上	(n= 330)	53.6	37.0	36.7	43.6	39.1	10.6	7.6	5.2	1.2	6.7
家族構成別	1人暮らし		(n= 732)	57.4	41.8	37.8	39.3	35.4	13.4	11.5	4.9	2.7	5.5
	夫婦2人暮らし		(n=1,117)	49.0	47.5	46.3	44.7	43.2	11.4	10.1	8.3	0.8	2.4
	息子・娘と同居		(n= 616)	50.0	43.2	40.1	36.9	38.8	13.6	9.3	8.0	1.6	5.5
	その他		(n= 288)	49.7	41.3	44.4	43.4	44.8	12.5	11.8	5.9	1.7	2.1

問 39　認知症の人の暮らし方はさまざまです。あなたは認知症になったら、どのように暮らしたいですか。既に認知症の方は、今後どのように暮らしたいですか。
（もっとも当てはまるもの１つに○）

「医療や介護サービスを受けながら、暮らしなれた地域で生活していきたい」（45.7%）が最も多く、次いで「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」（22.6%）、「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」（17.0%）と続いている。

図表　認知症になった場合の暮らしへの意向（全体）



要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別すべてにおいて、「医療や介護サービスを受けながら、暮らしなれた地域で生活していきたい」が最も多い。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」の割合は高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは、「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」（30.3%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　認知症になった場合の暮らしへの意向

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい	家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	その他	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	45.7	22.6	17.0	0.8	8.9	5.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	47.8	23.3	15.7	0.9	9.5	2.8
	事業対象者		(n= 15)	73.3	6.7	13.3	0.0	6.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	44.7	23.9	17.4	0.5	6.0	7.6
性別	男性		(n=1,207)	44.2	20.9	19.2	1.1	10.0	4.6
	女性		(n=1,557)	46.5	24.0	15.4	0.6	8.2	5.2
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	45.4	21.9	17.1	1.0	12.2	2.3
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	44.4	19.9	19.7	1.2	9.5	5.3
		85 歳 以 上	(n= 194)	40.7	21.1	24.2	0.5	4.6	8.8
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	48.1	26.4	11.8	0.9	10.6	2.2
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	47.8	21.2	16.4	0.6	8.0	6.0
		85 歳 以 上	(n= 330)	42.1	25.8	18.8	0.3	4.5	8.5
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	42.5	30.3	9.4	1.2	11.5	5.1
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	48.3	20.6	19.1	0.8	7.3	3.8
	息子・娘と同居		(n= 616)	44.5	18.3	20.6	0.6	9.3	6.7
	その他		(n= 288)	46.9	22.6	18.1	0.3	8.0	4.2

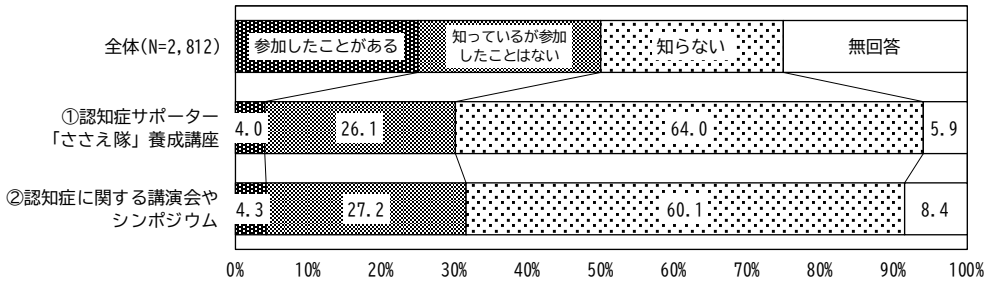
問 40　府中市では、次のような認知症とともに生きる地域づくりの活動を実施しています。あなたの参加状況についてお答えください。（①から②のそれぞれ１つに○）

『①認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』は、「参加したことがある」が 4.0%、「知っているが参加したことはない」が 26.1%、「知らない」が 64.0%となっている。

『②認知症に関する講演会やシンポジウム』は、「参加したことがある」が 4.3%、「知っているが参加したことはない」が 27.2%、「知らない」が 60.1%となっている。

性別にみると、『①認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』、『②認知症に関する講演会やシンポジウム』ともに、「参加したことがある」割合は男性より女性の方が高い。

図表　認知症とともに生きる地域づくり活動の参加状況（全体）



図表　認知症とともに生きる地域づくり活動の参加状況
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

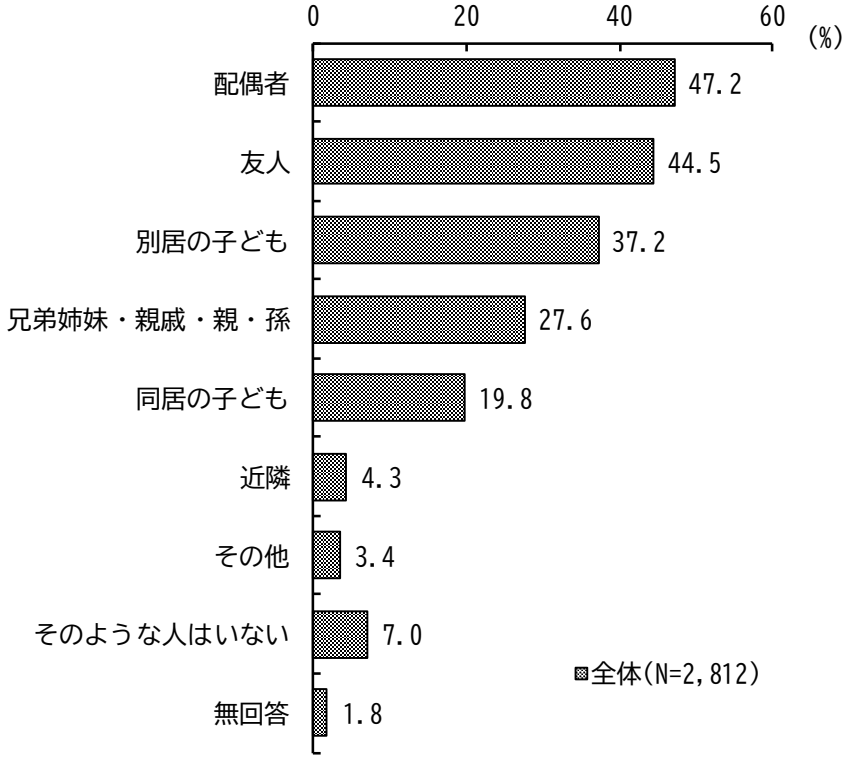
				①認知症サポーター「ささえ隊」養成講座				②認知症に関する講演会やシンポジウム			
				参加したことがある	知っているが参加したことはない	知らない	無回答	参加したことがある	知っているが参加したことはない	知らない	無回答
全体			(N=2,812)	4.0	26.1	64.0	5.9	4.3	27.2	60.1	8.4
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	4.6	27.6	65.0	2.7	4.8	30.5	60.6	4.0
	事業対象者		(n= 15)	0.0	13.3	80.0	6.7	0.0	40.0	46.7	13.3
	要支援１・２		(n= 649)	3.5	24.8	61.2	10.5	4.0	24.0	57.2	14.8
性別	男性		(n=1,207)	2.3	16.7	76.1	4.9	2.2	22.0	68.8	6.9
	女性		(n=1,557)	5.4	33.2	54.8	6.6	5.8	31.5	53.4	9.2
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	1.2	12.8	84.9	1.2	0.8	20.6	76.5	2.1
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	3.0	19.3	72.2	5.5	3.0	25.2	64.3	7.5
		85 歳以上	(n= 194)	3.6	20.6	62.4	13.4	4.1	18.6	59.3	18.0
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	6.0	33.9	58.5	1.6	5.5	33.5	59.4	1.6
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	5.7	33.4	55.0	6.0	7.2	32.2	50.8	9.8
		85 歳以上	(n= 330)	3.9	31.5	49.1	15.5	3.9	27.3	49.4	19.4
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	4.5	23.9	63.7	7.9	4.5	24.2	60.7	10.7
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	3.7	28.1	65.0	3.2	4.0	29.4	61.6	5.0
	息子・娘と同居		(n= 616)	4.5	23.7	63.6	8.1	4.5	25.5	58.0	12.0
	その他		(n= 288)	2.8	27.1	67.4	2.8	2.8	29.5	63.9	3.8

（９）助け合い

問 41　あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（いくつでも○）

「配偶者」（47.2%）が最も多く、次いで「友人」（44.5%）、「別居の子ども」（37.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.6%）と続いている。一方、「そのような人はいない」は 7.0%となっている。

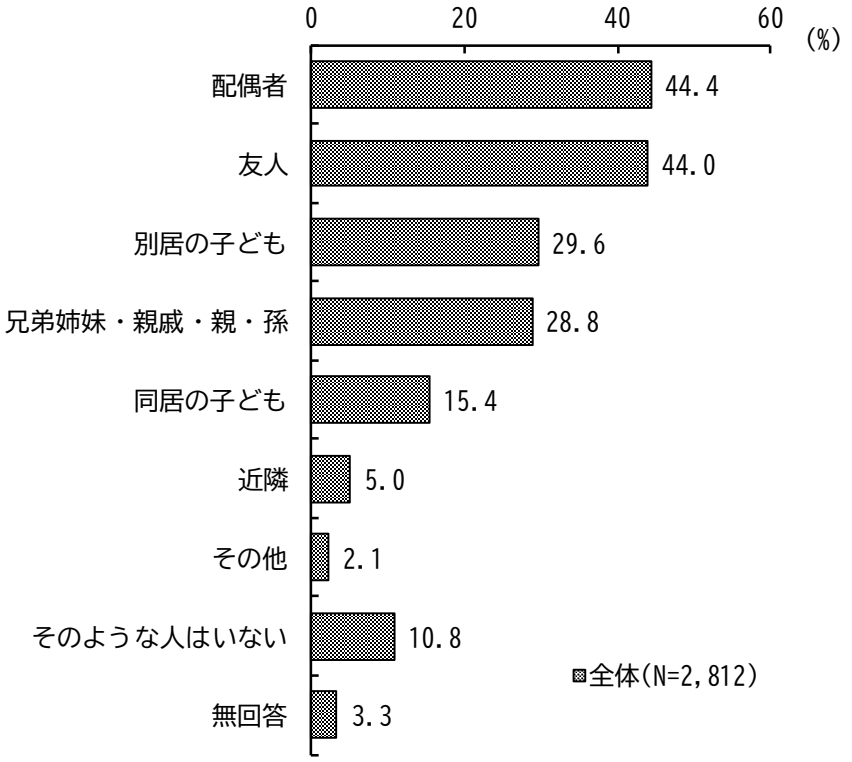
図表　心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体：複数回答）



問 42　反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（いくつでも○）

「配偶者」（44.4%）が最も多く、次いで「友人」（44.0%）、「別居の子ども」（29.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.8%）と続いている。一方、「そのような人はいない」は 10.8%となっている。

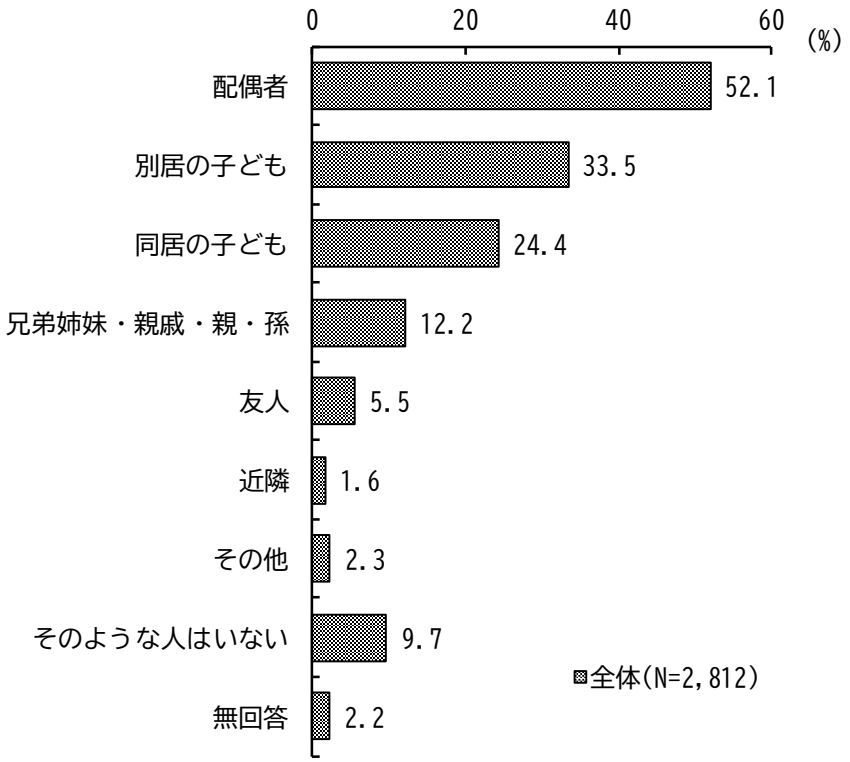
図表　心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体：複数回答）



問 43　あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。（いくつでも○）

「配偶者」(52.1%) が最も多く、次いで「別居の子ども」(33.5%)、「同居の子ども」(24.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(12.2%) と続いている。一方、「そのような人はいない」は 9.7% となっている。

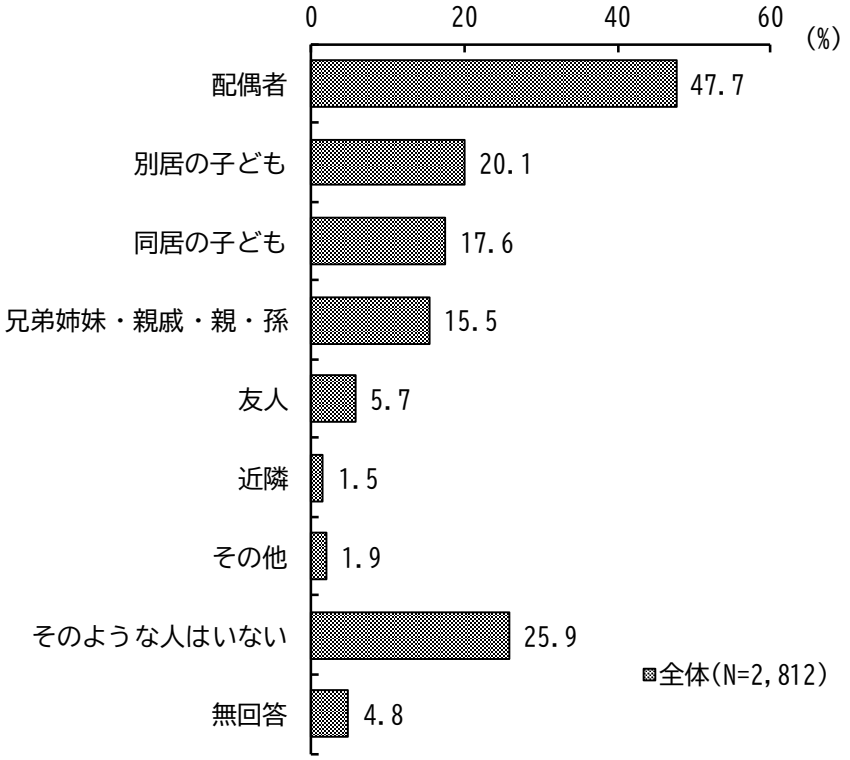
図表　看病や世話をしてくれる人（全体：複数回答）



問 44　反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。（いくつでも○）

「配偶者」（47.7%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（20.1%）、「同居の子ども」（17.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（15.5%）と続いている。一方、「そのような人はいない」は 25.9%となっている。

図表　看病や世話をしてあげる人（全体：複数回答）



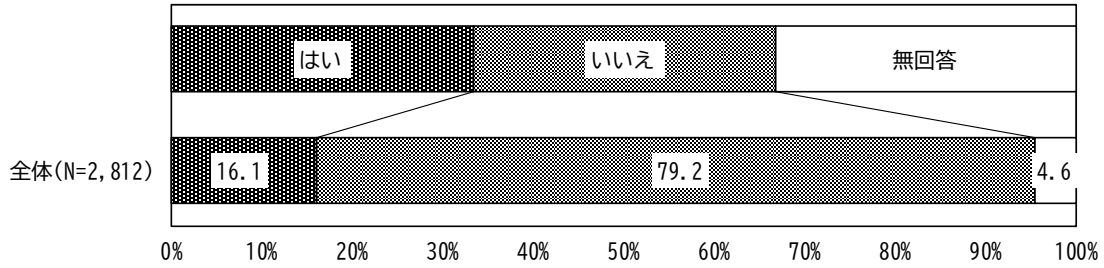
問 45　現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいか分からない生活上の困りごとを抱えていますか（１つに○）

「はい」が 16.1%、「いいえ」が 79.2%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「はい」（25.4%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「はい」の割合が高くなっている。

図表　どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか（全体）



図表　どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

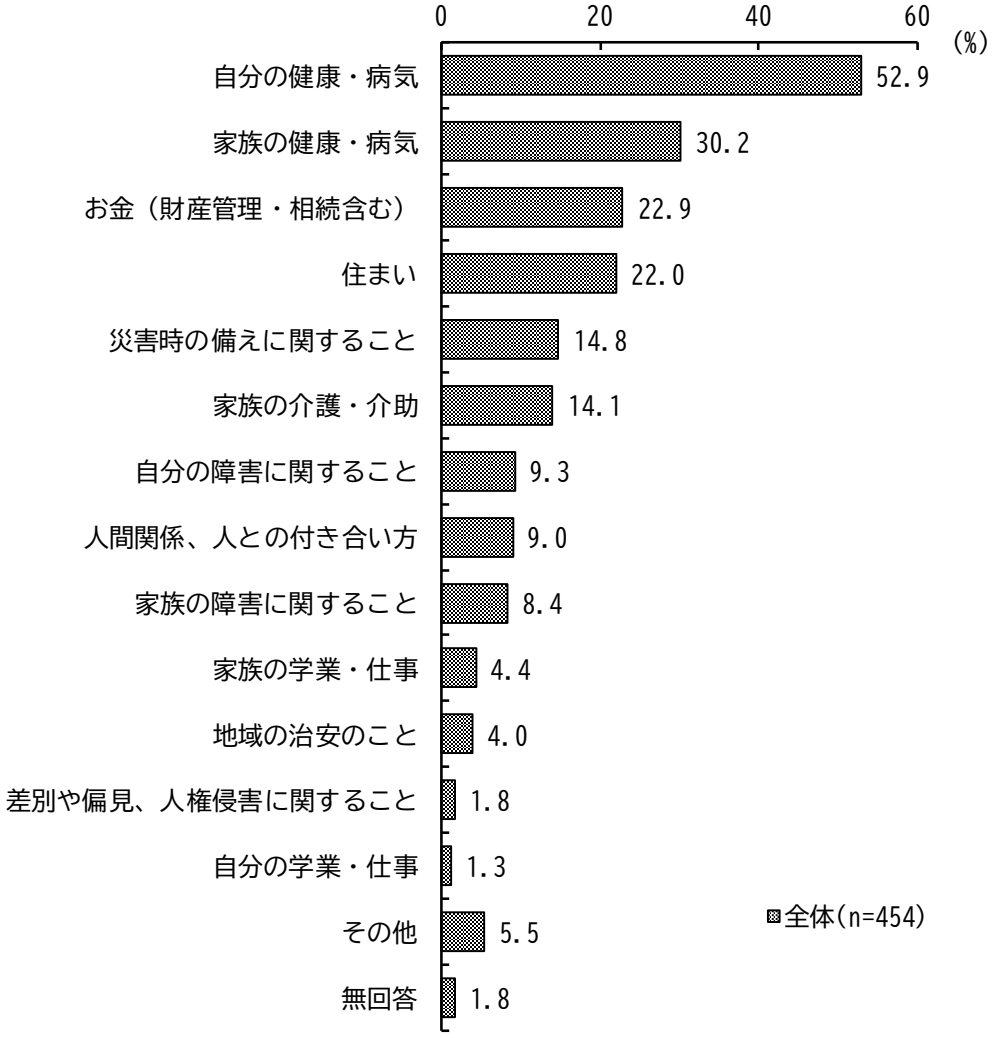
（%）

				はい	いいえ	無回答
全体			(N=2,812)	16.1	79.2	4.6
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	11.4	86.3	2.3
	事業対象者		(n= 15)	26.7	73.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	25.4	68.7	5.9
性別	男性		(n=1,207)	16.4	79.6	4.0
	女性		(n=1,557)	15.6	79.4	4.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	12.8	85.6	1.6
		75～84歳	(n= 493)	16.0	79.5	4.5
		85歳以上	(n= 194)	26.8	64.4	8.8
	女性	65～74歳	(n= 549)	9.8	88.9	1.3
		75～84歳	(n= 671)	16.8	77.6	5.5
		85歳以上	(n= 330)	22.1	68.2	9.7

問 45-1　問 45 で「はい」とお答えの方におたずねします
差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。（いくつでも○）

「自分の健康・病気」(52.9%) が最も多く、次いで「家族の健康・病気」(30.2%)、「お金（財産管理・相続含む)」(22.9%)、「住まい」(22.0%) と続いている。

図表　悩みの内容（悩みがある人：複数回答）



性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では、「自分の健康・病気」（48.5%）が最も多く、次いで「住まい」（28.8%）、「家族の健康・病気」（25.8%）と続いている。一方、女性の 65～74 歳では、「自分の健康・病気」（38.9%）が最も多く、「住まい」（24.1%）、「お金（財産管理・相続含む）」（22.2%）と続いている。

図表　悩みの内容

（悩みがある人、要支援認定別、性別、性・年代別：複数回答）

（%）

				自分の健康・病気	家族の健康・病気	お金（財産管理・相続含む）	住まい	災害時の備えに関すること	家族の介護・介助	自分の障害に関すること	人間関係、人との付き合い方
全体			(n= 454)	52.9	30.2	22.9	22.0	14.8	14.1	9.3	9.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 200)	44.0	32.0	23.5	25.0	13.5	16.0	5.5	7.5
	事業対象者		(n= 4)	50.0	75.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 165)	63.6	30.3	23.0	18.8	17.6	14.5	15.8	8.5
性別	男性		(n= 198)	51.5	31.3	23.7	22.7	15.7	14.6	11.1	8.6
	女性		(n= 243)	53.9	29.6	21.0	21.0	14.4	13.6	8.2	9.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 66)	48.5	25.8	24.2	28.8	13.6	15.2	12.1	10.6
		75～84歳	(n= 79)	51.9	34.2	29.1	22.8	16.5	13.9	10.1	8.9
		85歳以上	(n= 52)	53.8	34.6	15.4	15.4	17.3	15.4	11.5	3.8
	女性	65～74歳	(n= 54)	38.9	20.4	22.2	24.1	16.7	14.8	9.3	9.3
		75～84歳	(n= 113)	53.1	31.9	22.1	22.1	15.0	12.4	7.1	11.5
		85歳以上	(n= 73)	67.1	34.2	17.8	16.4	12.3	15.1	9.6	5.5

				家族の障害に関すること	家族の学業・仕事	地域の治安のこと	差別や偏見、人権侵害に関すること	自分の学業・仕事	その他	無回答
全体			(n= 454)	8.4	4.4	4.0	1.8	1.3	5.5	1.8
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 200)	12.5	7.5	4.0	1.5	1.5	7.0	1.0
	事業対象者		(n= 4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 165)	5.5	1.8	3.0	2.4	1.2	6.1	1.8
性別	男性		(n= 198)	10.1	2.5	3.5	2.0	1.5	5.6	1.0
	女性		(n= 243)	6.6	6.2	4.5	1.6	1.2	5.8	2.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 66)	13.6	3.0	3.0	1.5	1.5	4.5	1.5
		75～84歳	(n= 79)	8.9	3.8	3.8	1.3	2.5	6.3	1.3
		85歳以上	(n= 52)	7.7	0.0	3.8	3.8	0.0	5.8	0.0
	女性	65～74歳	(n= 54)	16.7	13.0	9.3	3.7	3.7	5.6	3.7
		75～84歳	(n= 113)	3.5	6.2	4.4	1.8	0.9	7.1	1.8
		85歳以上	(n= 73)	4.1	0.0	1.4	0.0	0.0	2.7	2.7

問 46　あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。（１つに○）

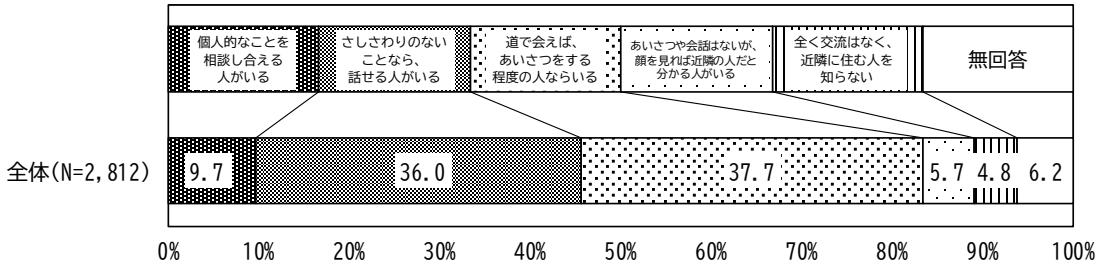
「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」（37.7%）が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(36.0%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(9.7%)と続いている。

性別にみると、「個人的なことを相談し合える人がいる」では、女性（13.5%）が男性（4.8%）より 8.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性は年代が高くなるほど「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合は増えている。また、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」の割合は、女性の 75～84 歳（44.1%）、85 歳以上（44.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、「個人的なことを相談し合える人がいる」は１人暮らし（12.4%）が最も多い。

図表　近所づきあいの程度（全体）



居住圏域別にみると、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」の割合は、中央（8.1%）が全体より５ポイント以上高くなっている。また、新町と押立で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が 40%を超えている。

図表　近所づきあいの程度

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別）

（%）

				個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
全体			(N=2,812)	9.7	36.0	37.7	5.7	4.8	6.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	9.3	37.1	39.2	5.7	4.8	3.9
	事業対象者		(n= 15)	6.7	26.7	33.3	6.7	6.7	20.0
	要支援１・２		(n= 649)	9.9	37.4	36.1	4.5	4.5	7.7
性別	男性		(n=1,207)	4.8	28.9	44.5	8.7	7.0	6.0
	女性		(n=1,557)	13.5	41.4	32.7	3.2	3.0	6.2
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	2.9	25.4	48.9	10.9	8.7	3.1
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	5.5	31.2	43.8	7.1	5.3	7.1
		85 歳以上	(n= 194)	7.7	32.5	35.1	7.2	6.2	11.3
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	12.2	36.1	39.2	6.0	4.2	2.4
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	14.9	44.1	28.8	1.6	2.2	8.3
		85 歳以上	(n= 330)	12.7	44.8	30.0	1.8	2.7	7.9
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	12.4	33.3	33.5	5.7	8.2	6.8
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	8.9	37.0	39.5	6.0	3.7	5.0
	息子・娘と同居		(n= 616)	8.1	36.7	39.0	5.5	3.2	7.5
	その他		(n= 288)	8.7	38.9	39.2	3.8	3.8	5.6
居住圏域別	中央		(n= 469)	8.1	32.4	38.0	7.5	8.1	6.0
	白糸台		(n= 255)	10.6	37.3	35.3	4.7	5.9	6.3
	西府		(n= 197)	4.6	41.1	38.1	5.1	4.6	6.6
	武蔵台		(n= 199)	11.1	37.7	37.2	6.0	3.5	4.5
	新町		(n= 301)	9.0	38.5	42.2	2.3	3.3	4.7
	住吉		(n= 308)	10.7	35.1	33.4	5.8	5.2	9.7
	是政		(n= 258)	12.4	32.2	38.8	7.8	3.5	5.4
	紅葉丘		(n= 230)	9.1	41.3	37.0	3.9	2.2	6.5
	押立		(n= 159)	13.2	28.9	42.8	5.0	5.7	4.4
	四谷		(n= 124)	11.3	42.7	37.9	3.2	1.6	3.2
	片町		(n= 275)	9.5	34.9	37.8	7.3	4.7	5.8

（10）健康づくりや介護予防など

問 47　現在のあなたの健康状態はいかがですか。（１つに○）

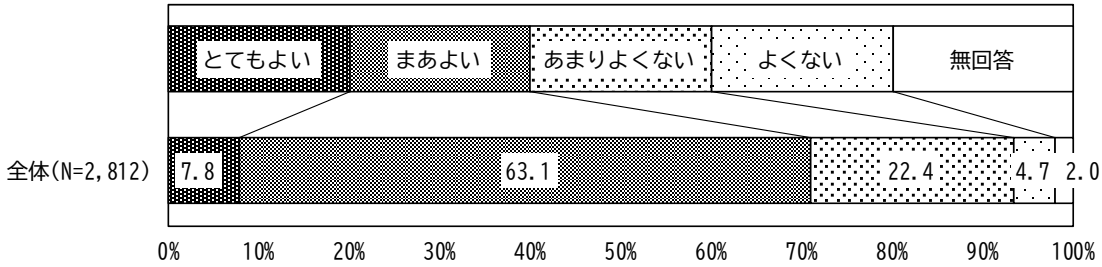
《よい》（「とてもよい」と「まあよい」の計）の割合は 70.9%となっている。一方、《よくない》（「あまりよくない」と「よくない」の計）の割合は 27.1%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では《よくない》（51.2%）が《よい》（45.4%）を上回っている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「まあよい」（72.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、《よい》の割合は、夫婦２人暮らし（76.3%）が最も多く、その他（74.3%）、息子、娘と同居（68.4%）、１人暮らし（63.9%）と続いている。

図表　主観的健康感（全体）



図表　主観的健康感
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
全体			(N=2,812)	7.8	63.1	22.4	4.7	2.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	10.1	72.0	15.4	1.4	1.1
	事業対象者		(n= 15)	0.0	60.0	26.7	13.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	1.5	43.9	38.4	12.8	3.4
性別	男性		(n=1,207)	8.5	62.2	21.4	5.4	2.5
	女性		(n=1,557)	7.2	64.3	23.0	4.0	1.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	10.3	68.7	16.3	3.1	1.6
		75～84歳	(n= 493)	9.1	58.2	24.5	5.9	2.2
		85歳以上	(n= 194)	2.6	55.2	26.8	9.8	5.7
	女性	65～74歳	(n= 549)	11.7	72.5	13.3	2.2	0.4
		75～84歳	(n= 671)	5.8	61.7	26.7	3.4	2.4
		85歳以上	(n= 330)	2.7	56.1	31.8	7.6	1.8
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	5.2	58.7	27.7	4.8	3.6
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	9.5	66.8	18.2	4.3	1.3
	息子・娘と同居		(n= 616)	7.8	60.6	24.4	5.7	1.6
	その他		(n= 288)	8.3	66.0	20.8	3.5	1.4

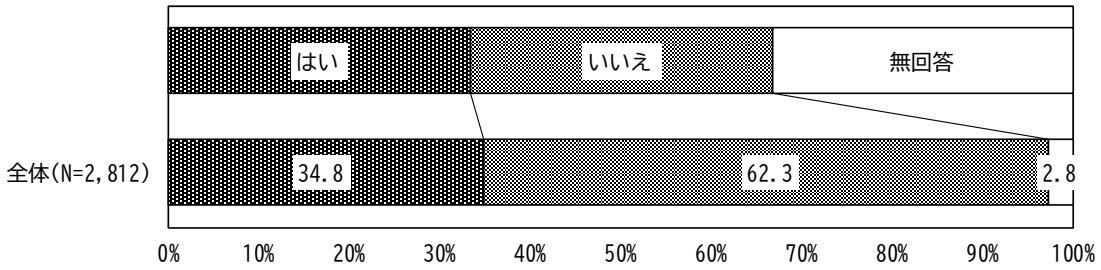
問 48　この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（１つに○）

「はい」が 34.8%、「いいえ」が 62.3%となっている。

性・年代別にみると、どの年代も男性より女性の方が「はい」の割合は高くなっている。また、男女ともに年代が高くなるほど「はい」の割合は高くなっている。

問２の介助・介護をしている家族等の有無別にみると、「はい」の割合は、「いる」と回答した人は 43.1%、「いない」と回答した人は 33.4%となっている。

図表　１か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか（全体）



図表　１か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、介護者の有無別）

（%）

				はい	いいえ	無回答
全体			(N=2,812)	34.8	62.3	2.8
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	30.0	68.5	1.5
	事業対象者		(n= 15)	53.3	46.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	46.8	48.2	4.9
性別	男性		(n=1,207)	29.2	67.7	3.1
	女性		(n=1,557)	38.9	58.6	2.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	26.0	72.2	1.7
		75～84歳	(n= 493)	29.2	67.5	3.2
		85歳以上	(n= 194)	37.1	56.2	6.7
	女性	65～74歳	(n= 549)	36.4	62.3	1.3
		75～84歳	(n= 671)	39.8	57.7	2.5
		85歳以上	(n= 330)	41.2	54.8	3.9
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	38.5	57.7	3.8
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	31.4	66.4	2.1
	息子・娘と同居		(n= 616)	35.6	61.2	3.2
	その他		(n= 288)	37.5	61.5	1.0
介護者の有無別	いる		(n= 429)	43.1	54.5	2.3
	いない		(n=2,306)	33.4	64.1	2.4

問 49　この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（１つに○）

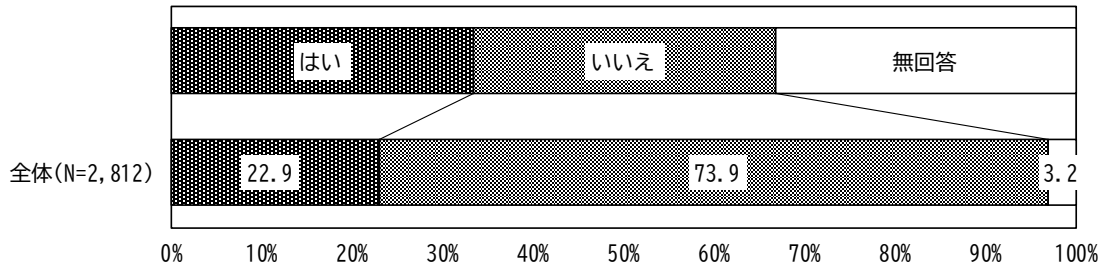
「はい」が 22.9%、「いいえ」が 73.9%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「はい」（36.4%）が全体より 10 ポイント以上高く高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「はい」の割合は高くなっている。

問２の介助・介護をしている家族等の有無別にみると、「はい」の割合は、「いる」と回答した人は 27.7%、「いない」と回答した人は 21.9%となっている。

図表　１か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか（全体）



図表　１か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、介護者の有無別）

(%)

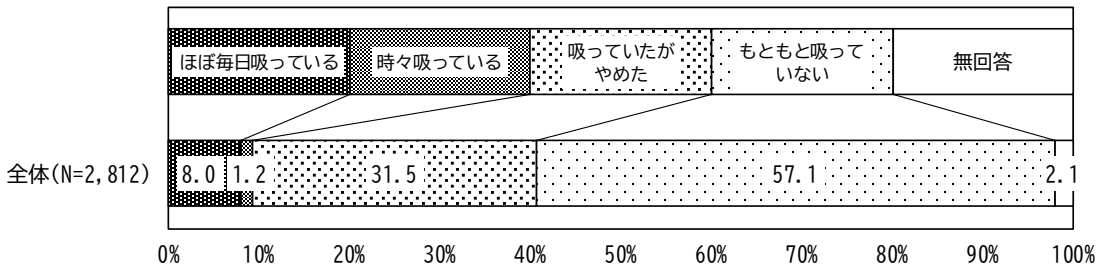
				はい	いいえ	無回答
全体			(N=2,812)	22.9	73.9	3.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	16.8	81.5	1.7
	事業対象者		(n= 15)	26.7	66.7	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	36.4	58.6	5.1
性別	男性		(n=1,207)	21.9	74.6	3.5
	女性		(n=1,557)	23.3	73.9	2.8
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	19.4	78.8	1.7
		75～84歳	(n= 493)	21.9	74.0	4.1
		85歳以上	(n= 194)	28.4	65.5	6.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	18.8	80.0	1.3
		75～84歳	(n= 671)	23.0	74.1	3.0
		85歳以上	(n= 330)	31.8	63.3	4.8
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	28.0	67.6	4.4
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	19.8	78.3	1.9
	息子・娘と同居		(n= 616)	23.2	72.1	4.7
	その他		(n= 288)	21.9	77.1	1.0
介護者の有無別	いる		(n= 429)	27.7	69.0	3.3
	いない		(n=2,306)	21.9	75.4	2.6

問 50　タバコは吸っていますか。（１つに○）

「もともと吸っていない」（57.1%）が最も多く、次いで「吸っていたがやめた」（31.5%）となっている。《吸っている》（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の計）の割合は 9.2%となっている。

問 19 の歯の数と入れ歯の利用状況別にみると、「ほぼ毎日吸っている」の割合は、自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし（14.5%）が最も高くなっている。

図表　喫煙の状況（全体）



図表　喫煙の状況
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、歯の数と入れ歯の利用状況別）

（%）

			ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
全体		(N=2,812)	8.0	1.2	31.5	57.1	2.1
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	9.1	1.4	32.8	55.5	1.2
	事業対象者	(n= 15)	6.7	0.0	46.7	46.7	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	4.2	1.2	28.8	63.2	2.6
性別	男性	(n=1,207)	13.8	1.6	53.8	28.7	2.2
	女性	(n=1,557)	3.5	0.9	14.4	79.3	1.9
性・年代別	男性 65～74歳	(n= 515)	21.9	1.9	50.5	24.7	1.0
	男性 75～84歳	(n= 493)	9.5	1.4	58.0	28.6	2.4
	男性 85歳以上	(n= 194)	2.6	0.5	52.6	39.2	5.2
	女性 65～74歳	(n= 549)	6.4	0.9	18.0	74.0	0.7
	女性 75～84歳	(n= 671)	2.5	0.9	14.5	79.6	2.5
	女性 85歳以上	(n= 330)	0.9	0.9	7.9	87.9	2.4
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	8.5	2.2	27.0	59.2	3.1
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	8.3	0.9	36.9	52.6	1.3
	息子・娘と同居	(n= 616)	6.7	0.8	26.1	64.4	1.9
	その他	(n= 288)	7.6	1.0	34.4	55.2	1.7
歯の数と入れ歯の利用状況別	自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用	(n= 415)	6.0	1.7	30.8	60.2	1.2
	自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし	(n=1,004)	5.3	1.1	28.6	63.6	1.4
	自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用	(n= 931)	9.6	1.2	33.9	52.8	2.5
	自分の歯は１９本以下、入れ歯の利用なし	(n= 345)	14.5	1.2	35.9	46.4	2.0

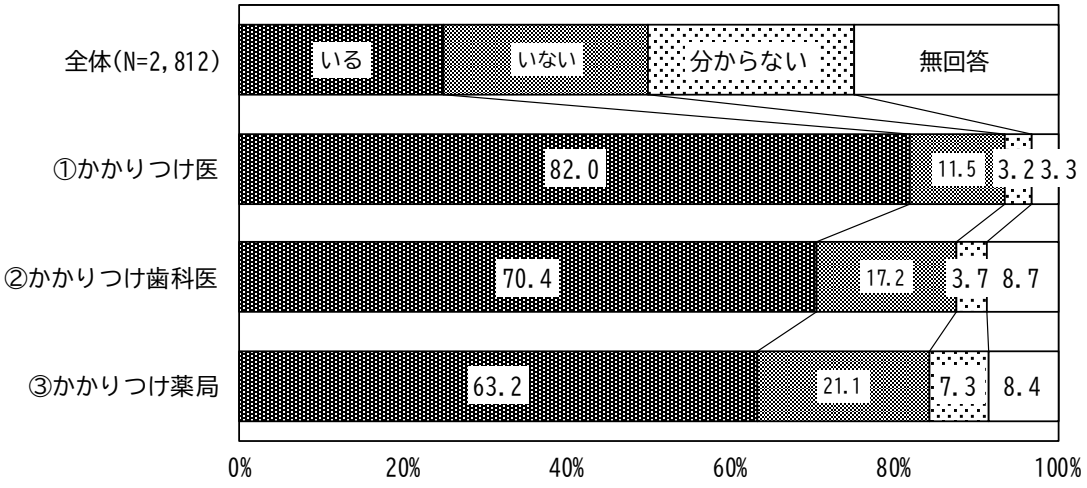
問 51　あなたには、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから気軽に相談できる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」がいますか。（①から③のそれぞれ１つに○）

「いる」割合は、『①かかりつけ医』(82.0%)が最も多く、次いで『②かかりつけ歯科医』(70.4%)、『③かかりつけ薬局』（63.2%）となっている。

要支援認定別にみると、『①かかりつけ医』、『③かかりつけ薬局』がいる割合は、認定なし（自立）より要支援１・２の方が高い一方で、『②かかりつけ歯科医』がいる割合は、要支援１・２より認定なし（自立）の方が高くなっている。

性別にみると、すべての項目で男性より女性の方が「いる」割合は高くなっている。

図表　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（全体）



図表　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				①かかりつけ医				②かかりつけ歯科医				③かかりつけ薬局			
				いる	いない	分からない	無回答	いる	いない	分からない	無回答	いる	いない	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	82.0	11.5	3.2	3.3	70.4	17.2	3.7	8.7	63.2	21.1	7.3	8.4
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	79.8	14.7	3.6	1.9	74.1	17.7	3.6	4.6	60.4	26.6	7.6	5.4
	事業対象者		(n= 15)	93.3	0.0	0.0	6.7	73.3	6.7	0.0	20.0	66.7	20.0	0.0	13.3
	要支援１・２		(n= 649)	88.9	4.8	2.2	4.2	65.2	16.9	3.1	14.8	70.4	11.6	5.7	12.3
性別	男性		(n=1,207)	81.9	11.4	2.9	3.8	68.1	18.6	3.9	9.4	59.5	24.4	6.6	9.4
	女性		(n=1,557)	82.2	11.8	3.3	2.7	72.6	16.1	3.6	7.6	66.3	18.6	7.8	7.3
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	77.9	17.3	3.1	1.7	67.2	24.9	4.1	3.9	56.9	32.6	6.0	4.5
		75～84歳	(n= 493)	85.2	8.1	2.8	3.9	69.2	15.2	3.9	11.8	61.9	19.3	7.7	11.2
		85歳以上	(n= 194)	85.1	3.6	2.6	8.8	68.6	10.3	3.6	17.5	61.3	15.5	5.2	18.0
	女性	65～74歳	(n= 549)	73.4	21.5	4.7	0.4	71.9	21.3	4.6	2.2	57.7	30.4	9.5	2.4
		75～84歳	(n= 671)	86.7	7.2	3.0	3.1	75.4	13.4	3.4	7.7	71.4	12.5	8.6	7.5
		85歳以上	(n= 330)	88.2	5.2	1.5	5.2	69.1	12.7	2.4	15.8	70.9	11.2	3.6	14.2

問 52　現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか。（いくつでも○）

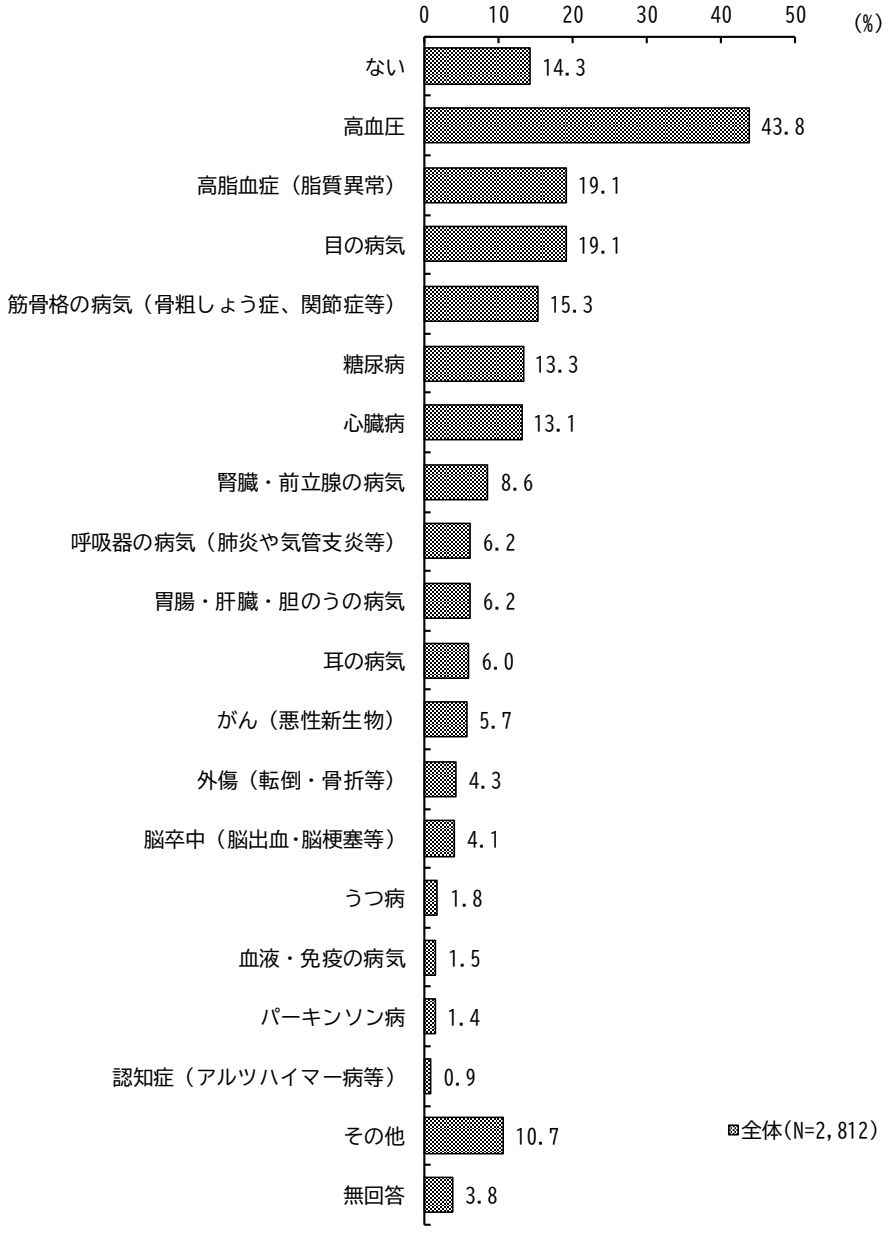
「高血圧」（43.8%）が最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」、「目の病気」（ともに 19.1%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（15.3%）と続いている。

一方、「ない」は 14.3%となっている。

性・年代別にみると、男性の 85 歳以上では、「心臓病」（24.2%）、「腎臓・前立腺の病気」（25.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。一方、女性の 85 歳以上では、「高血圧」（55.5%）、筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）（31.2%）が全体より 10 ポイント以上と高くなっている。

問 19 の歯の数と入れ歯の利用状況別にみると、高血圧を除き、自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なしの人は、高脂血症（脂質異常）が 23.0%と高くなっている。一方、自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なしの人は、筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）が 16.8%と高くなっている。

図表　治療中の病気（全体：複数回答）



図表　治療中の病気

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、歯の数と入れ歯の利用状況別）

（%）

				ない	高血圧	高脂血症（脂質異常）	目の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	糖尿病	心臓病	腎臓・前立腺の病気	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気
全体			(N=2,812)	14.3	43.8	19.1	19.1	15.3	13.3	13.1	8.6	6.2	6.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	18.7	41.9	20.3	17.0	11.8	11.9	10.8	7.4	5.1	5.5
	事業対象者		(n= 15)	6.7	53.3	6.7	6.7	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	3.7	49.5	18.2	24.3	27.6	14.9	19.3	11.6	9.2	8.0
性別	男性		(n=1,207)	13.1	45.3	14.9	15.9	5.1	18.5	16.7	15.7	7.1	5.8
	女性		(n=1,557)	15.4	42.6	22.6	22.0	23.1	9.5	10.2	3.1	5.6	6.4
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	19.2	43.3	17.1	10.9	3.1	17.5	11.5	9.1	4.7	5.8
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	9.9	49.1	13.8	18.7	5.7	19.9	19.5	18.9	8.5	5.3
		85 歳 以 上	(n= 194)	4.6	41.8	12.4	22.7	8.8	18.0	24.2	25.8	9.8	6.7
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	25.7	29.1	20.6	16.9	16.2	8.6	4.6	2.4	4.6	4.6
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	11.2	47.5	26.8	23.4	24.7	10.6	11.3	3.7	6.9	6.4
		85 歳 以 上	(n= 330)	7.0	55.5	17.9	27.6	31.2	9.1	17.6	2.4	4.8	9.7
歯の数と入れ歯の利用状況別	自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用		(n= 415)	15.2	44.8	21.0	22.2	14.7	11.1	13.3	7.7	6.3	8.0
	自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし		(n=1,004)	17.9	40.8	23.0	17.1	13.9	11.1	10.9	8.6	4.9	5.3
	自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用		(n= 931)	10.4	46.5	16.5	21.9	16.1	15.9	15.3	9.9	7.5	6.9
	自分の歯は１９本以下、入れ歯の利用なし		(n= 345)	16.2	44.9	15.7	12.2	16.8	15.4	13.3	7.2	5.5	3.8

				耳の病気	がん（悪性新生物）	外傷（転倒・骨折等）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	うつ病	血液・免疫の病気	パーキンソン病	認知症（アルツハイマー病等）	その他	無回答
全体			(N=2,812)	6.0	5.7	4.3	4.1	1.8	1.5	1.4	0.9	10.7	3.8
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	4.4	4.8	2.6	2.1	1.3	1.5	0.4	0.4	10.9	3.1
	事業対象者		(n= 15)	6.7	6.7	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	8.2	8.5	9.4	8.3	3.9	1.5	3.7	2.5	12.2	2.9
性別	男性		(n=1,207)	5.1	6.8	2.1	5.7	1.3	1.3	1.3	1.1	9.8	4.0
	女性		(n=1,557)	6.6	4.8	6.0	2.8	2.2	1.7	1.3	0.7	11.4	3.6
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	2.5	4.9	1.7	5.4	2.3	1.2	1.2	0.0	10.3	3.9
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	6.1	8.7	2.0	5.5	0.4	1.4	1.6	2.0	9.5	2.8
		85 歳 以 上	(n= 194)	9.8	7.2	3.1	7.2	1.0	1.5	1.0	1.5	9.3	6.7
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	3.3	6.6	3.8	2.2	2.6	1.6	0.5	0.2	12.9	2.6
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	7.6	4.2	6.3	2.2	2.5	2.1	1.9	0.6	11.2	4.2
		85 歳 以 上	(n= 330)	10.0	3.0	9.1	4.5	1.2	0.9	1.2	1.8	8.8	3.9
歯の数と入れ歯の利用状況別	自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用		(n= 415)	5.8	6.7	3.4	2.9	1.2	1.7	0.7	0.7	11.1	2.9
	自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし		(n=1,004)	4.5	5.9	3.3	3.1	2.2	1.7	1.2	0.8	10.6	3.0
	自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用		(n= 931)	7.9	4.9	4.9	5.9	1.5	1.0	1.3	1.0	11.4	4.4
	自分の歯は１９本以下、入れ歯の利用なし		(n= 345)	3.8	5.8	4.6	3.5	2.0	2.0	2.0	1.2	10.7	3.8

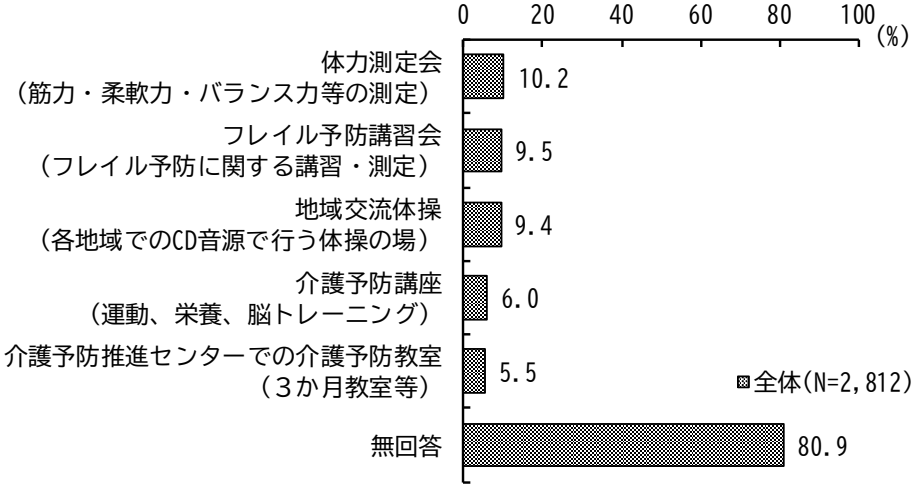
問 53　府中市では、いつまでも元気で暮らせるための介護予防事業を行っています。下記の事業のうち、（１）「参加している・参加したことがある」のはどれですか。また（２）参加の有無に関わらず今後（これからも）、参加したいものはありますか。（いくつでも○）

（１）「参加している・参加したことがある」

「体力測定会（筋力・柔軟力・バランス力等の測定」（10.2%）が最も多く、次いで「フレイル予防講習会（フレイル予防に関する講習・測定)」（9.5%)、「地域交流体操（各地域での CD 音源で行う体操の場)」（9.4%）と続いている。

性別にみると、全ての項目で、男性より女性の方が高くなっている。

図表　介護予防事業の参加状況（全体：複数回答）



図表　介護予防事業の参加状況（全体、要支援認定別、性別、性・年代別：複数回答）

(%)

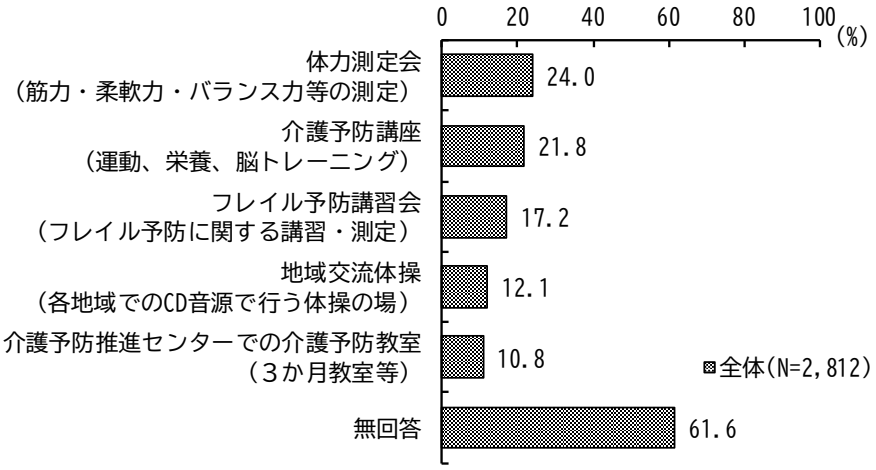
				体力測定会	フレイル予防講習会	地域交流体操	介護予防講座	介護予防推進センターでの介護予防教室	無回答
全体			(N=2,812)	10.2	9.5	9.4	6.0	5.5	80.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	9.8	9.7	8.1	5.4	4.8	82.2
	事業対象者		(n= 15)	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7	86.7
	要支援１・２		(n= 649)	13.1	10.6	14.6	9.4	8.3	74.0
性別	男性		(n=1,207)	7.8	6.8	4.8	4.2	3.5	87.5
	女性		(n=1,557)	12.3	11.5	12.8	7.5	7.1	76.0
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	4.1	3.5	1.9	1.2	1.2	94.0
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	9.9	9.3	5.7	5.3	4.5	83.2
		85 歳以上	(n= 194)	12.4	9.3	10.3	9.8	7.2	80.9
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	9.8	7.3	6.4	4.4	4.9	83.1
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	14.0	15.5	16.2	9.1	8.2	70.8
		85 歳以上	(n= 330)	13.0	10.6	17.0	9.4	8.5	74.5

問 53　府中市では、いつまでも元気で暮らせるための介護予防事業を行っています。下記の事業のうち、（１）「参加している・参加したことがある」のはどれですか。また（２）参加の有無に関わらず今後（これからも）、参加したいものはありますか。（いくつでも○）
（２）参加の有無に関わらず今後（これからも）、参加したいもの

「体力測定会（筋力・柔軟力・バランス力等の測定」（24.0%）が最も多く、次いで「介護予防講座（運動、栄養、脳トレーニング)」（21.8%)、「フレイル予防講習会（フレイル予防に関する講習・測定)」（17.2%）と続いている。

要支援認定別にみると、全ての項目の割合で、要支援１・２より認定なし（自立）の方が高くなっている。

図表　介護予防事業の参加意向（全体：複数回答）



図表　介護予防事業の参加意向（全体、要支援認定別、性別、性・年代別：複数回答）

(%)

				体力測定会	介護予防講座	フレイル予防講習会	地域交流体操	介護予防推進センターでの介護予防教室	無回答
全体			(N=2,812)	24.0	21.8	17.2	12.1	10.8	61.6
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	30.1	25.8	20.4	13.8	12.1	54.4
	事業対象者		(n= 15)	20.0	20.0	26.7	6.7	6.7	66.7
	要支援１・２		(n= 649)	12.5	15.4	12.5	8.2	9.2	73.8
性別	男性		(n=1,207)	25.5	21.2	15.8	9.9	10.6	61.9
	女性		(n=1,557)	22.9	22.2	18.5	14.0	11.2	61.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	32.6	26.4	15.9	11.3	11.7	55.0
		75～84歳	(n= 493)	23.1	18.5	16.2	9.7	10.1	64.7
		85歳以上	(n= 194)	12.9	14.9	14.4	6.2	9.3	73.2
	女性	65～74歳	(n= 549)	32.1	31.7	26.8	18.6	15.7	48.5
		75～84歳	(n= 671)	20.6	18.3	15.9	13.3	8.9	64.2
		85歳以上	(n= 330)	12.4	13.9	9.7	7.6	8.2	75.8

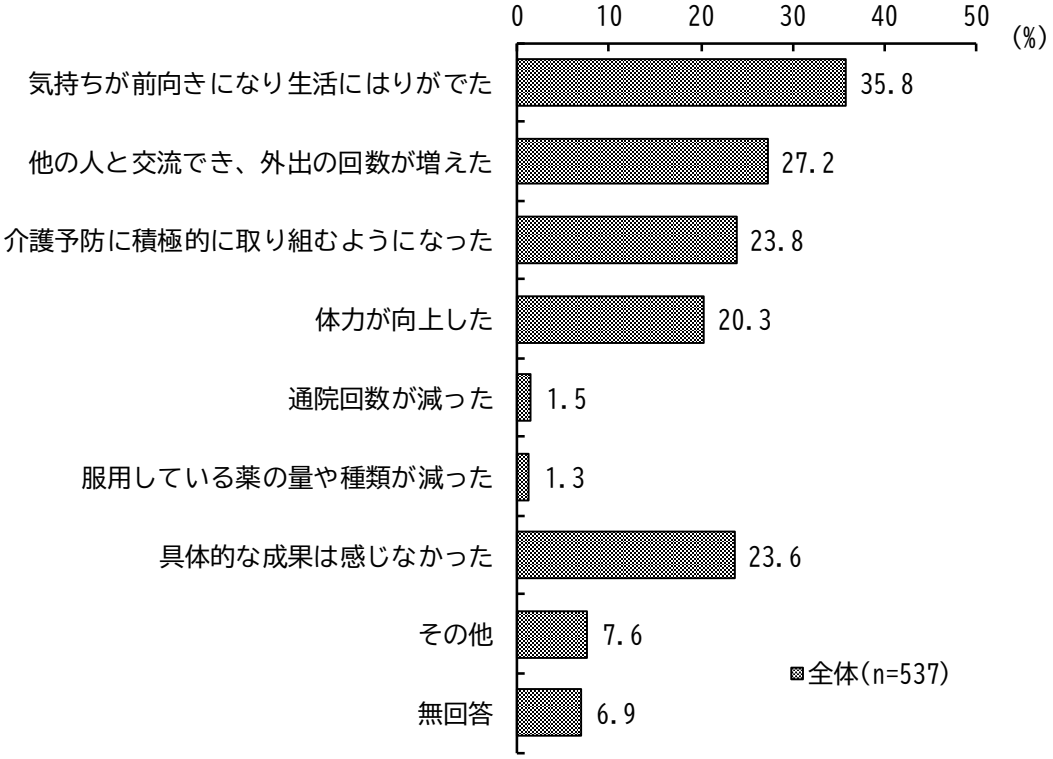
問 53-１　問 53 で介護予防事業に１つでも「参加している・参加したことがある」とお答えの方におたずねします

介護予防に取り組んだ結果、具体的な成果がありましたか。（いくつでも○）

「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」（35.8%）が最も多く、次いで「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（27.2%）、「介護予防に積極的に取り組むようになった」（23.8%）と続いている。一方、「具体的な成果は感じなかった」は 23.6%となっている。

図表　介護予防事業の成果

（介護予防事業に参加している人、：複数回答）



要支援認定別にみると、認定なし（自立）、要支援１・２ともに「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」（認定なし（自立）：29.7%、要支援１・２：45.6%）が最も多く、認定なし（自立）は「具体的な成果は感じなかった」（27.2%）、要支援１・２は「他の人と交流ができ、外出の回数が増えた」（34.9%）と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「具体的な成果は感じなかった」の割合は低くなっている。また、女性の 85 歳以上では、「気持ちに前向きになり生活にはりがでた」（46.4%）、「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（42.9%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　介護予防事業の成果

（介護予防事業に参加している人、要支援認定別、性別、性・年代別：複数回答）

（%）

				気持ちが前向きになり生活にはりがでた	他の人と交流でき、外出の回数が増えた	介護予防に積極的に取り組むようになった	体力が向上した	通院回数が減った	服用している薬の量や種類が減った	具体的な成果は感じなかった	その他	無回答
全体			(n= 537)	35.8	27.2	23.8	20.3	1.5	1.3	23.6	7.6	6.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 313)	29.7	22.0	23.0	17.3	1.3	1.3	27.2	8.9	6.7
	事業対象者		(n= 2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 169)	45.6	34.9	24.9	23.7	1.8	1.2	18.9	5.9	6.5
性別	男性		(n= 151)	33.1	21.9	22.5	20.5	1.3	1.3	29.1	6.6	6.0
	女性		(n= 373)	37.3	29.0	24.7	20.4	1.1	1.3	21.2	8.3	6.7
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 31)	19.4	12.9	22.6	12.9	0.0	0.0	48.4	6.5	3.2
		75 ～ 84 歳	(n= 83)	33.7	20.5	21.7	20.5	2.4	0.0	27.7	8.4	7.2
		85 歳 以 上	(n= 37)	43.2	32.4	24.3	27.0	0.0	5.4	16.2	2.7	5.4
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 93)	26.9	14.0	23.7	15.1	0.0	0.0	31.2	8.6	7.5
		75 ～ 84 歳	(n= 196)	38.3	30.1	23.5	24.0	0.5	1.5	19.9	6.6	6.6
		85 歳 以 上	(n= 84)	46.4	42.9	28.6	17.9	3.6	2.4	13.1	11.9	6.0

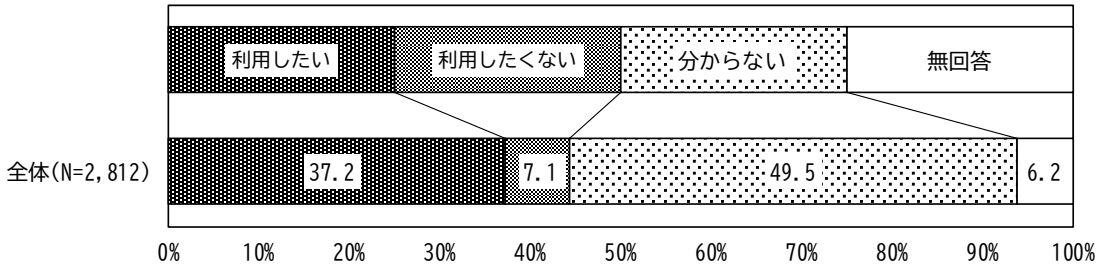
問 54　府中市では心身の状態が低下した方を対象に、再び元気になって住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるようにするための短期集中予防サービスを実施しています。このサービスは専門職と面談しながら３か月間１２回、通所（必要に応じて訪問１回）で実施するものです。あなたは心身状態が低下したら、このようなサービスを利用したいと思いますか。
（１つに○）

「利用したい」が 37.2%、「利用したくない」が 7.1%、「分からない」が 49.5%となっている。

要支援認定別にみると、「分からない」の割合は認定なし（自立）が 51.0%、要支援１・２が 44.2%となっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「分からない」（54.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。一方、女性の 65 歳～74 歳では「利用したい」（42.3%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　短期集中予防サービスの利用意向（全体）



図表　短期集中予防サービスの利用意向
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				利用したい	利用したくない	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	37.2	7.1	49.5	6.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	38.3	6.9	51.0	3.8
	事業対象者		(n= 15)	53.3	20.0	26.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	39.8	7.2	44.2	8.8
性別	男性		(n=1,207)	34.2	8.3	52.4	5.1
	女性		(n=1,557)	39.4	6.2	47.6	6.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	35.9	8.2	54.8	1.2
		75～84歳	(n= 493)	32.3	9.1	52.1	6.5
		85歳以上	(n= 194)	35.1	6.7	45.9	12.4
	女性	65～74歳	(n= 549)	42.3	6.2	48.3	3.3
		75～84歳	(n= 671)	38.2	5.7	48.1	8.0
		85歳以上	(n= 330)	37.0	7.3	45.5	10.3

（11）災害時の対応

問 55　地震等の災害が起こったときにあなたの手助けをしてくれる人はいますか。
（いくつでも○）

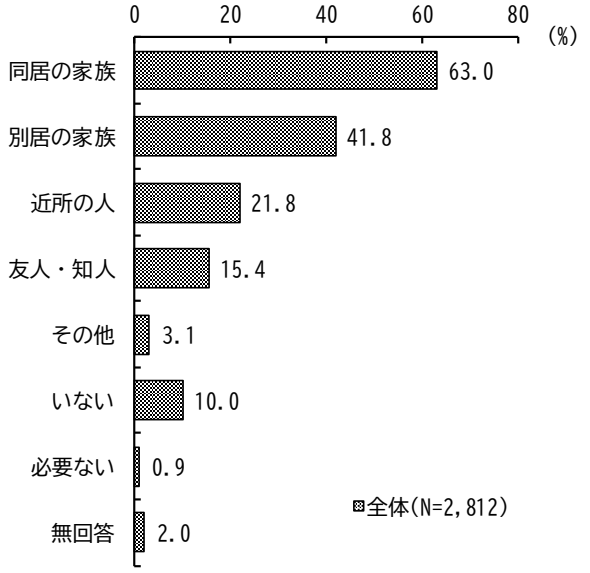
「同居の家族」（63.0%）が最も多く、次いで「別居の家族」（41.8%）、「近所の人」（21.8%）、「友人・知人」（15.4%）と続いている。

一方、「いない」は 10.0%、「必要ない」は 0.9%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「近所の人」の割合は高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「いない」（29.0%）全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　災害時に助けてくれる人（全体：複数回答）



図表　災害時に助けてくれる人
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

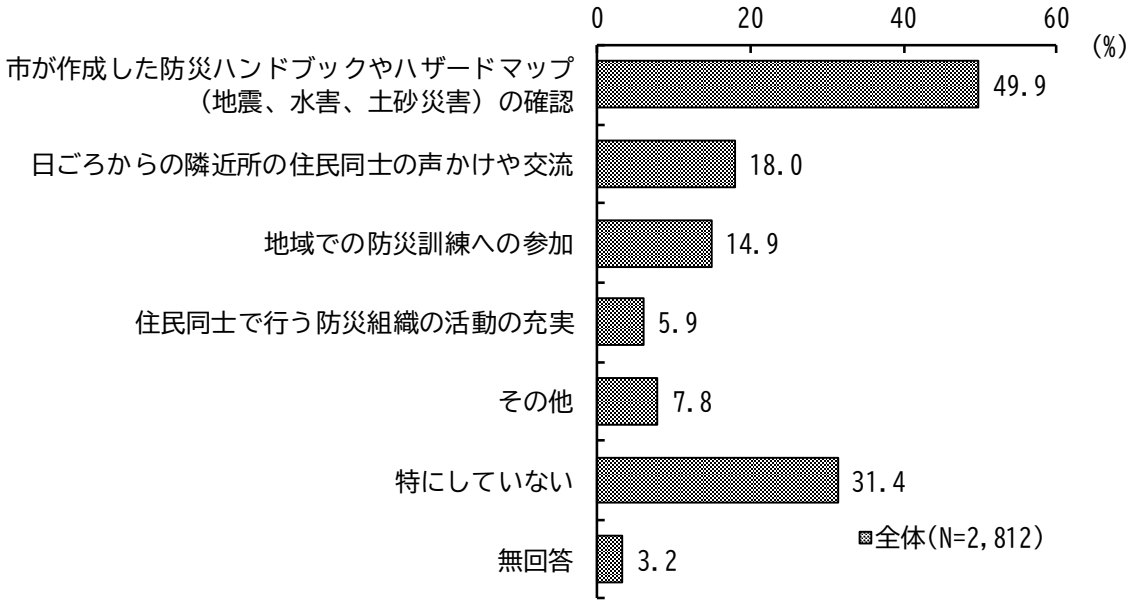
(%)

				同居の家族	別居の家族	近所の人	友人・知人	その他	いない	必要ない	無回答
全体			(N=2,812)	63.0	41.8	21.8	15.4	3.1	10.0	0.9	2.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	69.7	45.1	21.2	17.6	2.6	7.2	1.0	1.1
	事業対象者		(n= 15)	80.0	20.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	48.1	40.5	23.0	11.4	5.1	14.6	0.3	2.5
性別	男性		(n=1,207)	66.0	38.3	21.7	12.5	2.5	11.4	1.4	2.2
	女性		(n=1,557)	61.0	44.9	22.1	17.6	3.6	8.8	0.3	1.7
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	68.3	36.3	19.6	13.2	3.5	14.0	1.4	0.8
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	70.0	37.1	22.1	13.0	1.6	9.5	1.6	2.6
		85 歳以上	(n= 194)	50.5	46.4	26.8	9.8	2.1	8.2	1.0	4.6
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	70.9	43.5	18.2	19.9	2.6	7.1	0.4	0.7
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	60.8	46.5	22.4	18.2	3.1	9.1	0.3	1.8
		85 歳以上	(n= 330)	44.8	43.9	27.9	12.1	6.4	11.2	0.3	3.3
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	1.8	46.2	22.3	19.7	6.8	29.0	2.0	3.3
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	81.4	50.8	22.8	15.8	1.7	2.5	0.4	1.3
	息子・娘と同居		(n= 616)	92.7	28.2	20.6	11.2	1.5	1.9	0.2	1.5
	その他		(n= 288)	81.6	28.5	19.8	13.2	2.8	8.3	0.7	1.7

問 56　災害に備えてどのようなことをしていますか。（いくつでも○）

「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップ（地震、水害、土砂災害）の確認」（49.9%）が最も多く、次いで「日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流」（18.0%）、「地域での防災訓練への参加」（14.9%）、「住民同士で行う防災組織の活動の充実」（5.9%）と続いている。一方、「特にしていない」は 31.4%となっている。

図表　災害に備えて取り組んでいること（全体：複数回答）



性別にみると、男女ともに「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップ（地震、水害、土砂災害）の確認」（男性：47.7%、女性：51.8%）が最も多く、男性では「地域での防災訓練への参加」（15.5%）、女性では「日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流」（20.6%）と続いている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「特にしていない」（38.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

居住圏域別にみると、四谷では「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップ（地震、水害、土砂災害）の確認」（64.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　災害に備えて取り組んでいること

（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別：複数回答）

(%)

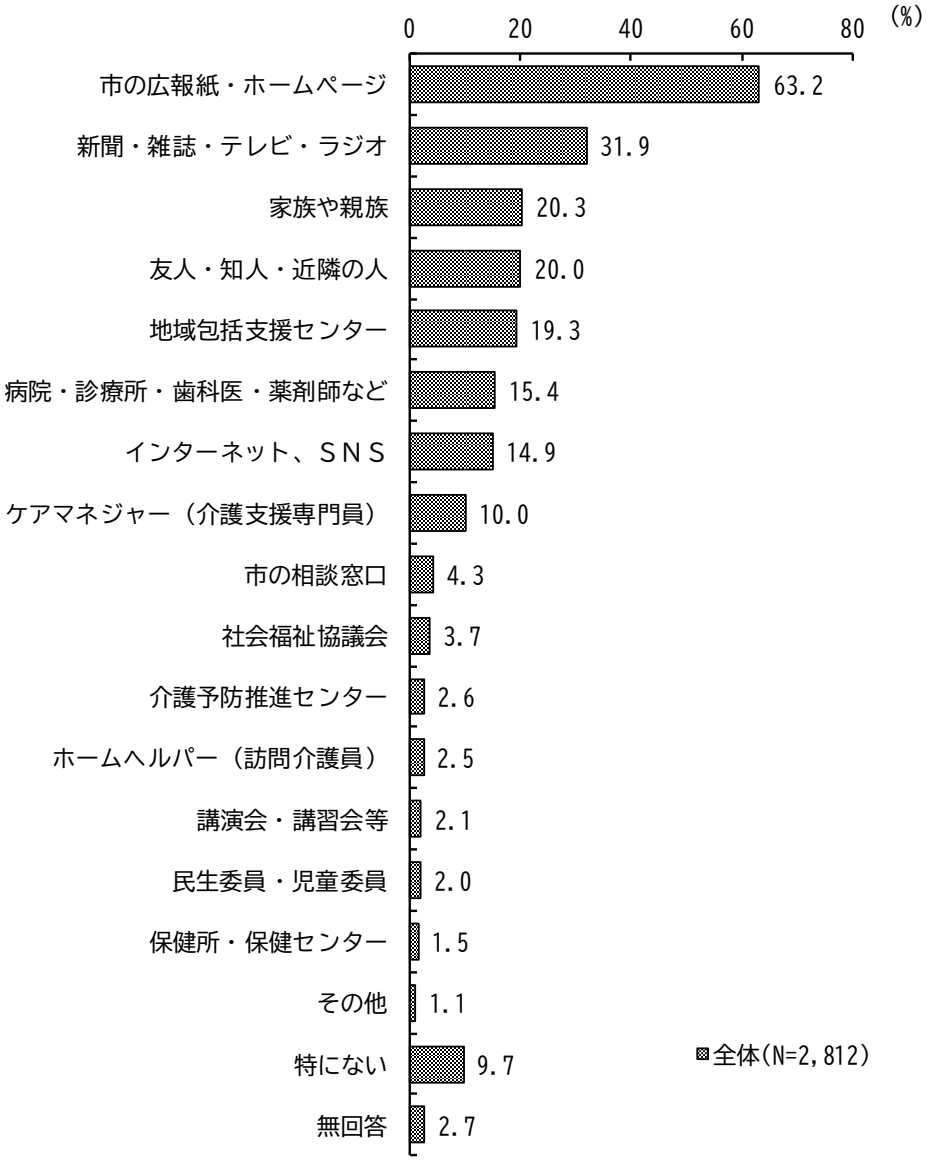
				市が作成した防災ハンドブックやハザードマップの確認	日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流	地域での防災訓練への参加	住民同士で行う防災組織の活動の充実	その他	特にしていない	無回答
全体			(N=2,812)	49.9	18.0	14.9	5.9	7.8	31.4	3.2
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	57.1	17.2	16.6	6.7	8.3	27.5	1.8
	事業対象者		(n= 15)	46.7	33.3	6.7	0.0	0.0	40.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	39.4	18.2	10.3	3.5	7.7	37.6	4.5
性別	男性		(n=1,207)	47.7	14.7	15.5	7.7	6.1	34.7	3.0
	女性		(n=1,557)	51.8	20.6	14.4	4.8	9.1	29.1	3.3
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	49.3	11.7	14.2	6.2	6.4	37.1	0.8
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	49.3	15.2	18.9	10.1	6.3	31.8	4.5
		85 歳以上	(n= 194)	39.2	21.6	10.8	5.7	5.2	35.6	5.2
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	59.0	18.9	13.8	4.9	10.6	27.3	1.6
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	51.4	20.7	16.1	4.8	8.9	28.2	3.3
		85 歳以上	(n= 330)	40.9	23.0	11.5	3.9	7.0	33.6	6.4
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	40.3	15.0	11.2	4.0	8.5	38.8	4.2
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	55.2	20.0	16.1	7.3	8.1	27.4	2.3
	息子・娘と同居		(n= 616)	51.1	18.5	16.9	6.0	6.2	29.7	3.4
	その他		(n= 288)	51.7	15.6	14.2	5.9	9.4	33.0	2.4
居住圏域別	中央		(n= 469)	45.8	16.4	16.4	9.0	7.7	32.8	3.4
	白糸台		(n= 255)	54.9	16.9	9.8	3.5	9.4	31.0	3.5
	西府		(n= 197)	52.3	20.3	20.8	6.6	6.6	28.9	2.0
	武蔵台		(n= 199)	46.7	17.6	15.1	6.5	11.6	32.7	2.5
	新町		(n= 301)	44.5	14.0	14.3	4.7	8.6	35.2	3.7
	住吉		(n= 308)	51.6	18.2	12.3	4.2	7.1	29.9	4.2
	是政		(n= 258)	53.5	22.1	16.7	7.0	2.3	29.1	3.5
	紅葉丘		(n= 230)	46.5	22.2	14.8	3.5	8.3	36.1	2.2
	押立		(n= 159)	52.2	13.2	25.8	7.5	6.9	29.6	3.8
	四谷		(n= 124)	64.5	18.5	11.3	4.8	6.5	20.2	4.0
	片町		(n= 275)	48.4	18.9	10.9	6.9	10.9	33.5	1.1

（12）情報

問 57　あなたは、健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等に関する情報をどこから（誰から）入手していますか。（いくつでも○）

「市の広報誌・ホームページ」（63.2%）が最も多く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」（31.9%）、「家族や親族」（20.3%）、「友人・知人・近隣の人」（20.0%）と続いている。
一方、「特にない」は 9.7%となっている。

図表　健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等の情報入手先
（全体：複数回答）



要支援認定別にみると、要支援１・２では「地域包括支援センター」（44.7%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（31.7%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともにすべての年代で「市の広報誌・ホームページ」が最も多い。また、男性の 65 歳～74 歳で「インターネット、ＳＮＳ」（28.7%）、女性の 85 歳以上で「地域包括支援センター」（36.7%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（22.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等の情報入手先
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

			市の広報紙・ホームページ	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	家族や親族	友人・知人・近隣の人	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	インターネット、ＳＮＳ	ケアマネジャー（介護支援専門員）	市の相談窓口
全体		(N=2,812)	63.2	31.9	20.3	20.0	19.3	15.4	14.9	10.0	4.3
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	71.6	33.8	19.2	22.2	11.4	14.7	19.3	2.4	3.9
	事業対象者	(n= 15)	33.3	33.3	33.3	13.3	40.0	20.0	13.3	33.3	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	50.8	28.8	23.7	16.0	44.7	16.5	6.2	31.7	5.1
性別	男性	(n=1,207)	60.3	29.7	18.8	12.3	15.0	17.3	20.0	6.5	4.2
	女性	(n=1,557)	65.6	33.7	21.3	25.7	22.4	14.1	10.9	12.6	4.2
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 515)	61.6	23.3	14.4	10.9	6.2	12.8	28.7	3.3	3.9
		75～84歳 (n= 493)	60.0	33.3	21.3	14.0	19.7	20.1	15.6	6.7	4.1
		85歳以上 (n= 194)	58.8	38.7	24.7	12.4	26.8	22.7	8.8	14.9	5.7
	女性	65～74歳 (n= 549)	74.3	28.6	16.2	25.1	10.2	10.2	20.2	2.9	4.7
		75～84歳 (n= 671)	63.9	37.9	23.8	28.6	25.6	18.2	7.2	15.5	3.4
		85歳以上 (n= 330)	54.5	33.9	24.8	20.3	36.7	12.4	3.0	22.7	4.8
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	54.2	30.3	14.8	20.5	25.1	14.3	11.3	13.3	5.3
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	69.0	32.9	19.5	20.2	16.4	16.1	17.7	6.9	3.7
	息子・娘と同居	(n= 616)	62.5	31.0	24.7	19.0	19.0	15.7	13.6	10.7	3.2
	その他	(n= 288)	66.7	34.0	26.4	19.1	15.3	14.9	16.0	11.5	5.2

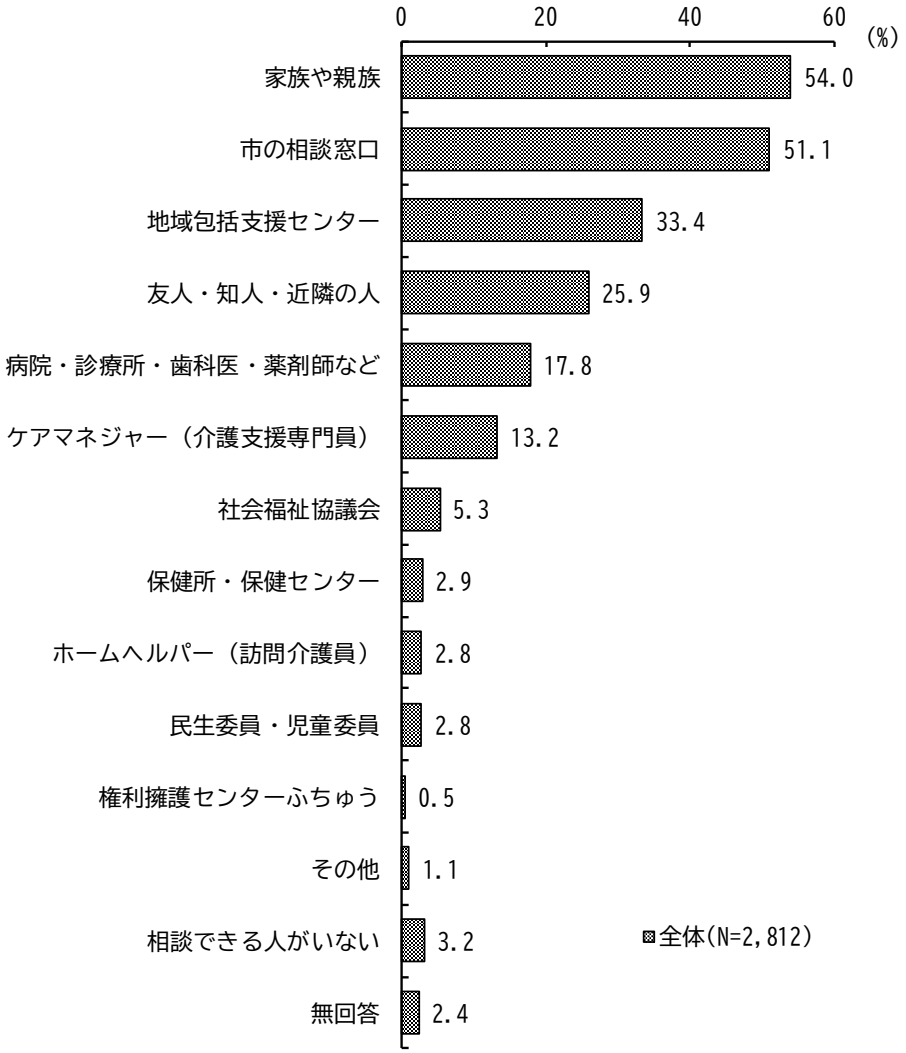
			社会福祉協議会	介護予防推進センター	ホームヘルパー（訪問介護員）	講演会・講習会等	民生委員・児童委員	保健所・保健センター	その他	特にない	無回答
全体		(N=2,812)	3.7	2.6	2.5	2.1	2.0	1.5	1.1	9.7	2.7
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	3.4	2.8	0.6	2.4	2.0	1.6	1.1	10.0	1.8
	事業対象者	(n= 15)	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	4.8	2.0	7.7	1.2	2.5	0.9	1.1	5.2	2.5
性別	男性	(n=1,207)	4.2	2.2	2.6	1.6	1.7	1.1	1.4	13.3	2.5
	女性	(n=1,557)	3.4	3.0	2.5	2.6	2.2	1.7	0.8	7.1	2.9
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 515)	3.1	0.6	1.7	0.4	1.2	1.2	1.6	18.1	0.8
		75～84歳 (n= 493)	4.7	3.4	1.4	2.6	2.2	0.8	1.2	10.1	3.2
		85歳以上 (n= 194)	6.2	3.1	7.7	2.1	1.5	1.5	1.5	7.2	5.2
	女性	65～74歳 (n= 549)	2.9	2.2	1.1	2.6	0.7	2.0	1.1	9.3	1.6
		75～84歳 (n= 671)	3.3	3.3	2.5	2.7	2.5	1.5	0.6	5.7	2.8
		85歳以上 (n= 330)	4.5	3.6	4.5	2.4	3.9	1.5	0.9	6.4	4.8
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	5.2	2.9	3.8	2.2	2.6	1.4	1.2	12.7	3.3
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	2.6	2.5	1.3	1.7	1.9	1.0	1.0	9.0	2.4
	息子・娘と同居	(n= 616)	3.9	1.9	2.6	2.8	2.3	1.8	0.6	8.3	2.6
	その他	(n= 288)	3.1	2.4	3.1	2.1	0.7	2.4	1.7	8.7	1.7

問 58　あなたは、暮らしの問題や福祉などについて困りごとがあったとき、どこに（誰に）相談しますか。（いくつでも○）

「家族や親族」（54.0%）が最も多く、次いで「市の相談窓口」（51.1%）、「地域包括支援センター」（33.4%）、「友人・知人・近隣の人」（25.9%）と続いている。

一方、「相談できる人がいない」は 3.2%となっている。

図表　暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（全体：複数回答）



要支援認定別にみると、認定なし（自立）では、「市の相談窓口」（60.1%）が最も多く、次いで「家族や親族」（56.9%）、「友人・知人・近隣の人」（29.5%）と続いている。一方、要支援１・２では、「地域包括支援センター」（51.3%）が最も多く、次いで「家族や親族」（50.2%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（39.3%）と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「市の相談窓口」の割合が少なくなり、「地域包括支援センター」、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が高くなっている。

図表　暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

			家族や親族	市の相談窓口	地域包括支援センター	友人・知人・近隣の人	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	ケアマネジャー（介護支援専門員）	社会福祉協議会
全体		(N=2,812)	54.0	51.1	33.4	25.9	17.8	13.2	5.3
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	56.9	60.1	29.3	29.5	18.4	4.2	5.6
	事業対象者	(n= 15)	60.0	66.7	40.0	13.3	20.0	40.0	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	50.2	30.2	51.3	17.9	17.6	39.3	5.2
性別	男性	(n=1,207)	50.0	53.0	28.2	18.4	19.0	9.8	5.7
	女性	(n=1,557)	57.6	49.6	37.3	31.7	17.1	15.6	5.1
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 515)	47.8	60.2	19.8	19.6	15.5	5.6	4.7
		75～84歳 (n= 493)	50.7	49.5	33.1	18.1	20.9	10.5	5.9
		85歳以上 (n= 194)	54.1	43.3	38.1	16.0	23.7	19.1	7.7
	女性	65～74歳 (n= 549)	56.8	63.4	28.1	34.2	14.9	5.5	5.1
		75～84歳 (n= 671)	59.2	46.6	42.0	34.4	18.0	16.7	5.2
		85歳以上 (n= 330)	56.4	32.4	43.9	21.8	18.5	30.0	5.2
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	44.1	40.8	34.8	27.7	16.0	18.0	8.3
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	57.6	57.7	33.8	25.1	18.2	10.4	4.7
	息子・娘と同居	(n= 616)	58.4	50.6	31.7	24.0	18.2	12.7	3.6
	その他	(n= 288)	55.9	53.1	31.9	27.1	20.5	12.2	3.8

			保健所・保健センター	ホームヘルパー（訪問介護員）	民生委員・児童委員	権利擁護センターふちゅう	その他	相談できる人がいない	無回答
全体		(N=2,812)	2.9	2.8	2.8	0.5	1.1	3.2	2.4
要支援認定別	認定なし（自立）	(n=1,758)	3.6	0.8	2.8	0.7	1.2	3.0	1.3
	事業対象者	(n= 15)	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援１・２	(n= 649)	0.8	8.3	2.5	0.3	0.9	2.0	2.5
性別	男性	(n=1,207)	3.0	3.0	2.8	0.4	1.5	5.2	2.6
	女性	(n=1,557)	2.8	2.7	2.8	0.6	0.8	1.7	2.3
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 515)	3.3	1.6	1.6	0.6	1.4	6.6	1.2
		75～84歳 (n= 493)	2.4	2.2	3.7	0.2	1.8	4.3	3.4
		85歳以上 (n= 194)	3.1	8.8	3.6	0.5	0.5	3.6	4.1
	女性	65～74歳 (n= 549)	3.8	0.5	0.7	1.3	0.9	2.6	1.1
		75～84歳 (n= 671)	1.9	3.3	3.6	0.4	0.4	1.5	2.5
		85歳以上 (n= 330)	2.4	4.8	4.5	0.0	1.5	0.9	3.6
家族構成別	１人暮らし	(n= 732)	1.9	4.8	3.6	0.8	1.8	5.7	3.1
	夫婦２人暮らし	(n=1,117)	3.1	1.5	2.3	0.4	0.8	2.1	1.8
	息子・娘と同居	(n= 616)	2.3	2.1	2.8	0.0	1.0	2.4	2.6
	その他	(n= 288)	4.9	3.8	2.4	1.0	1.0	3.1	2.4

（13）介護保険

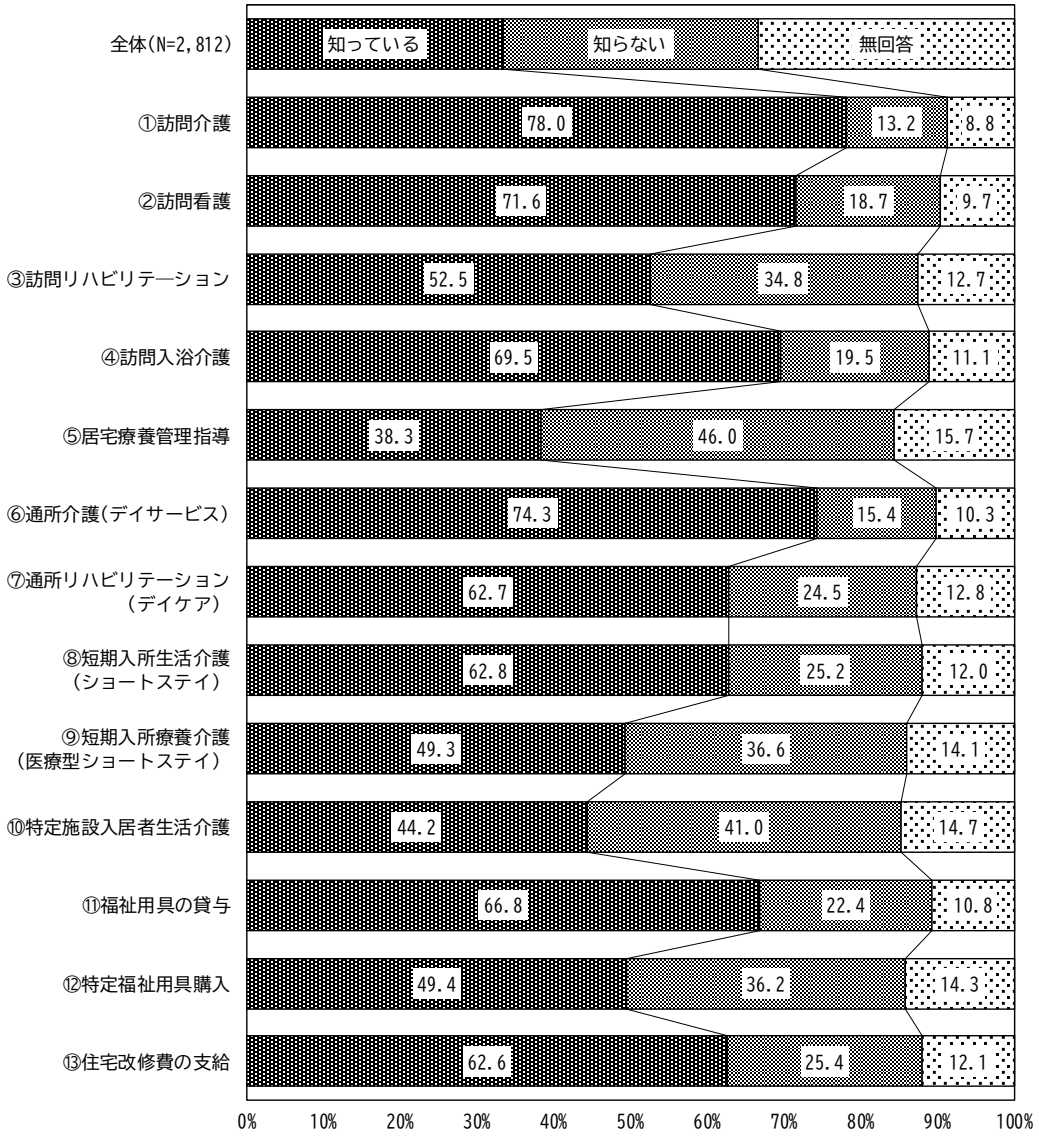
問 59　介護保険サービスでは以下のようなサービスを行っていますが、これらのサービスを知っていますか。（サービスごとにそれぞれ１つに○）

【居宅サービス】

「知っている」割合が高い居宅サービスは、『①訪問介護』（78.0%）が最も多く、次いで『⑥通所介護（デイサービス）』（74.3%）、『②訪問看護』（71.6%）、『④訪問入浴介護』（69.5%）と続いている。

一方、「知らない」割合が高い居宅サービスは、『⑤居宅療養管理指導』（46.0%）が最も多く、次いで『⑩特定施設入居者生活介護』（41.0%）、『⑨短期入所療養介護（医療型ショートステイ）』（36.6%）、『⑫特定福祉用具購入』（36.2%）と続いている。

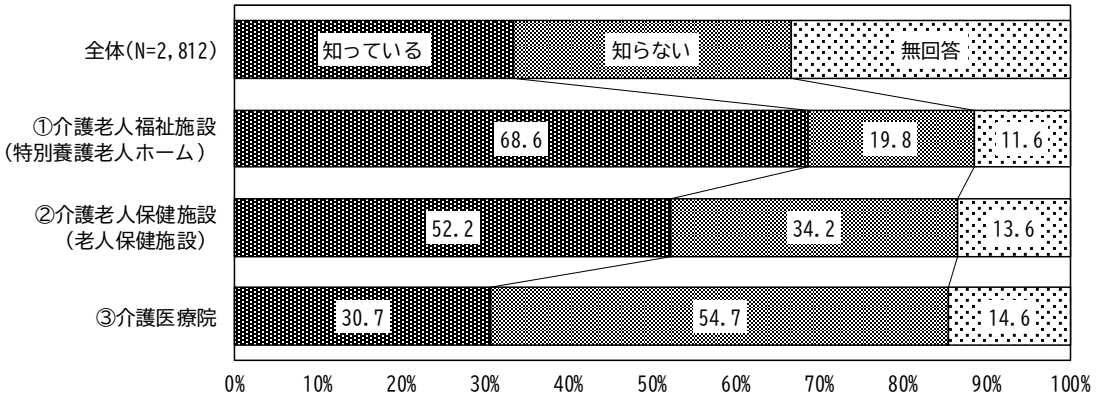
図表　介護保険サービスの認知度（居宅サービス）（全体）



【施設サービス】

「知っている」割合が高い施設サービスは、『①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）』（68.6%）が最も多く、次いで『②介護老人保健施設（老人保健施設）』（52.2%）、『③介護医療院』（30.7%）と続いている。

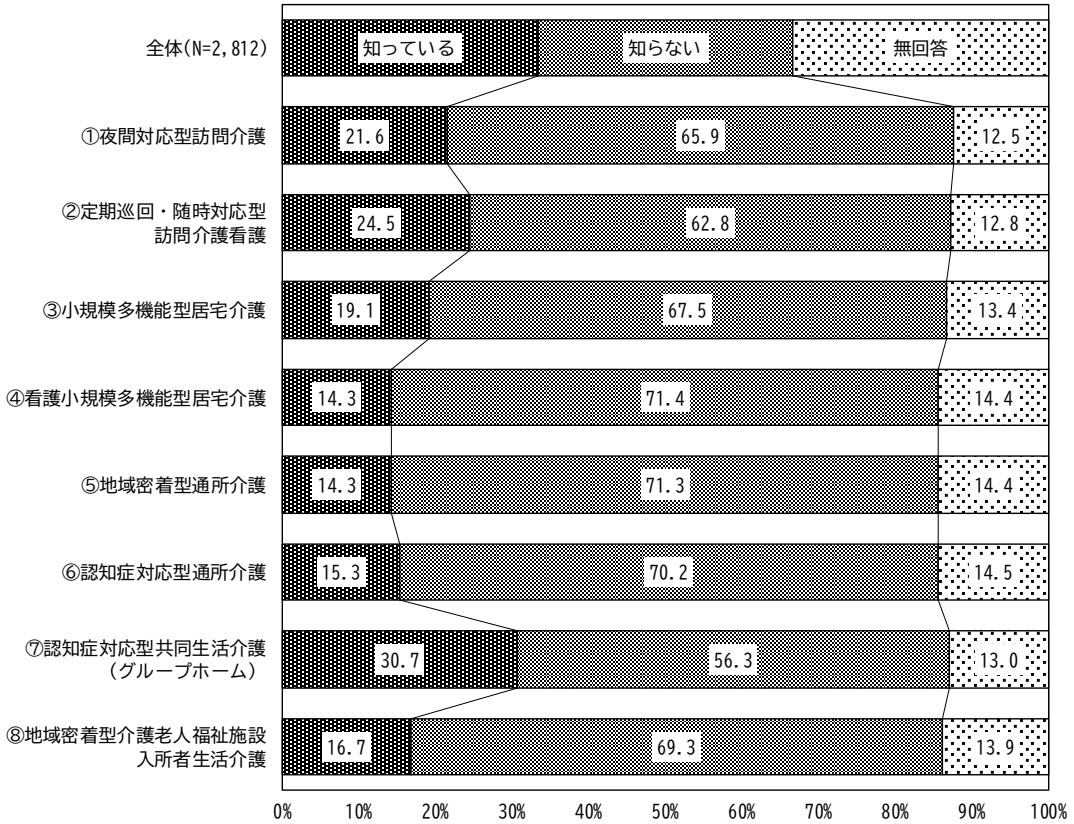
図表　介護保険サービスの認知度（施設サービス）（全体）



【地域密着型サービス】

「知っている」割合が高い地域密着型サービスは、『⑦認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』（30.7%）が最も多く、次いで『②定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（24.5%）、『①夜間対応型訪問介護』（21.6%）と続いている。

図表　介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）（全体）

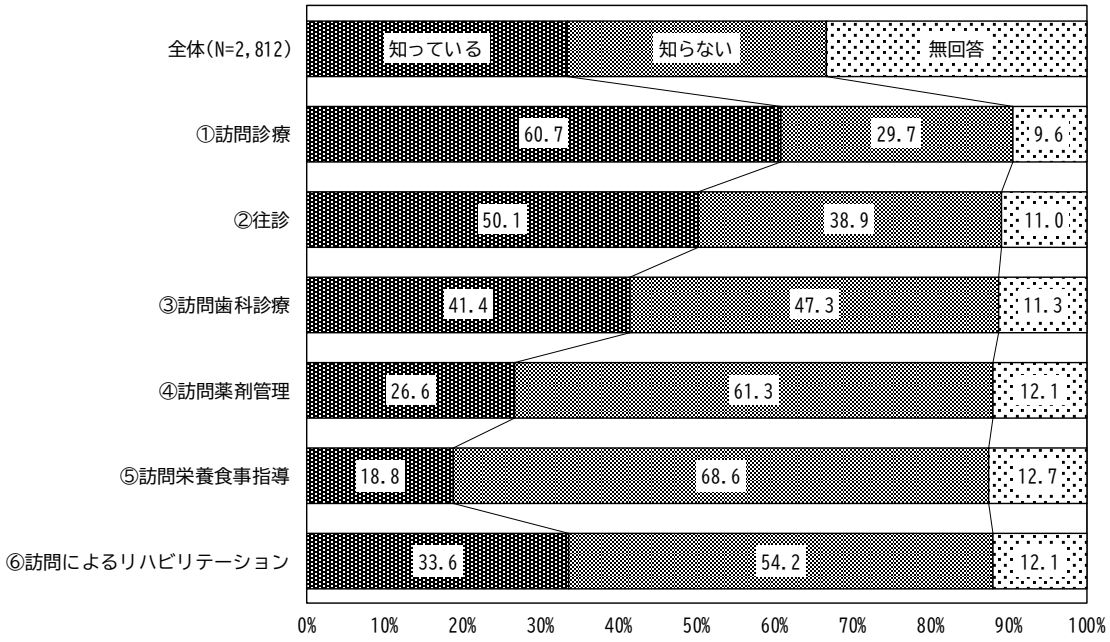


（14）在宅療養

問 60　在宅での療養が必要となった時に必要に応じ受けられるサービスがありますが、次のことを知っていますか。（①から⑥のそれぞれ１つに○）

「知っている」割合が高い在宅療養サービスは、『①訪問診療』（60.7%）が最も多く、次いで『②往診』(50.1%)、『③訪問歯科診療』(41.4%)、『⑥訪問によるリハビリテーション』(33.6%)と続いている。

図表　在宅療養サービスの認知度（全体）



問 61　脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか。（１つに○）

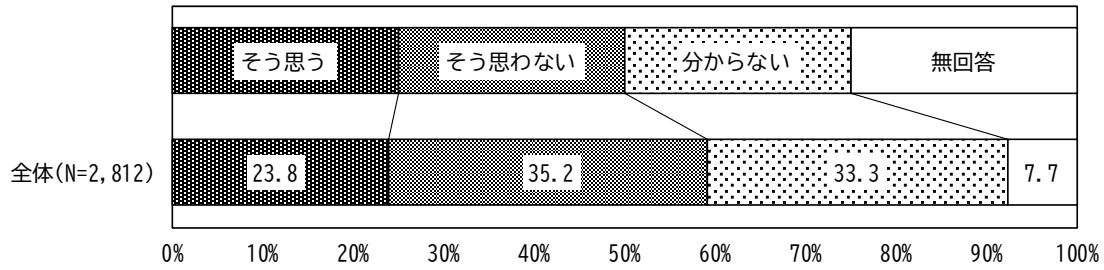
「そう思う」が 23.8%、「そう思わない」が 35.2%、「分からない」が 33.3%となっている。

性別にみると、「そう思う」の割合は、男性（29.2%）が女性（19.8%）より 9.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「そう思う」の割合は高くなっている。また、男性の 75～84 歳、85 歳以上で「そう思う」、女性の 65～74 歳で「そう思わない」が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦２人暮らしでは「そう思う」（27.0%）割合が高くなっている。

図表　自宅で療養を続けたいと思うか（全体）



図表　自宅で療養を続けたいと思うか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				そう思う	そう思わない	分からない	無回答
全体			(N=2,812)	23.8	35.2	33.3	7.7
認定別 要支援	認定なし（自立）		(n=1,758)	22.3	37.7	34.5	5.5
	事業対象者		(n= 15)	40.0	40.0	20.0	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	25.9	35.7	29.0	9.4
性別	男性		(n=1,207)	29.2	30.7	32.7	7.4
	女性		(n=1,557)	19.8	38.7	33.9	7.6
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	28.0	34.4	33.8	3.9
		75～84歳	(n= 493)	29.0	26.4	35.9	8.7
		85歳以上	(n= 194)	33.0	32.5	21.6	12.9
	女性	65～74歳	(n= 549)	19.1	40.6	36.8	3.5
		75～84歳	(n= 671)	19.8	37.7	34.6	7.9
		85歳以上	(n= 330)	20.9	37.9	27.9	13.3
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	21.7	34.8	34.7	8.7
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	27.0	35.5	31.5	5.9
	息子・娘と同居		(n= 616)	20.1	34.9	34.6	10.4
	その他		(n= 288)	24.3	37.5	35.1	3.1

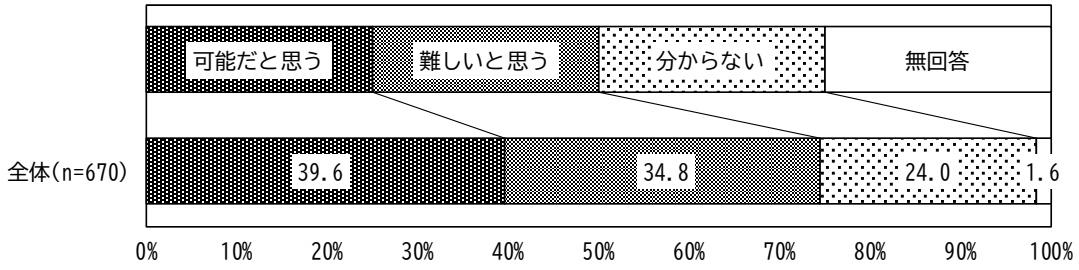
問 61-１　問 61 で「そう思う」とお答えの方におたずねします
ご自宅での療養は可能だと思いますか。（１つに○）

「可能だと思う」が 39.6%、「難しいと思う」が 34.8%、「分からない」が 24.0%となっている。

性別にみると、「可能だと思う」の割合は、男性（42.5%）が女性（36.0%）より 6.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 85 歳以上では「難しいと思う」（47.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　自宅療養は可能だと思うか（自宅療養を続けたいと思う人）



図表　自宅療養は可能だと思うか
（自宅療養を続けたいと思う人、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

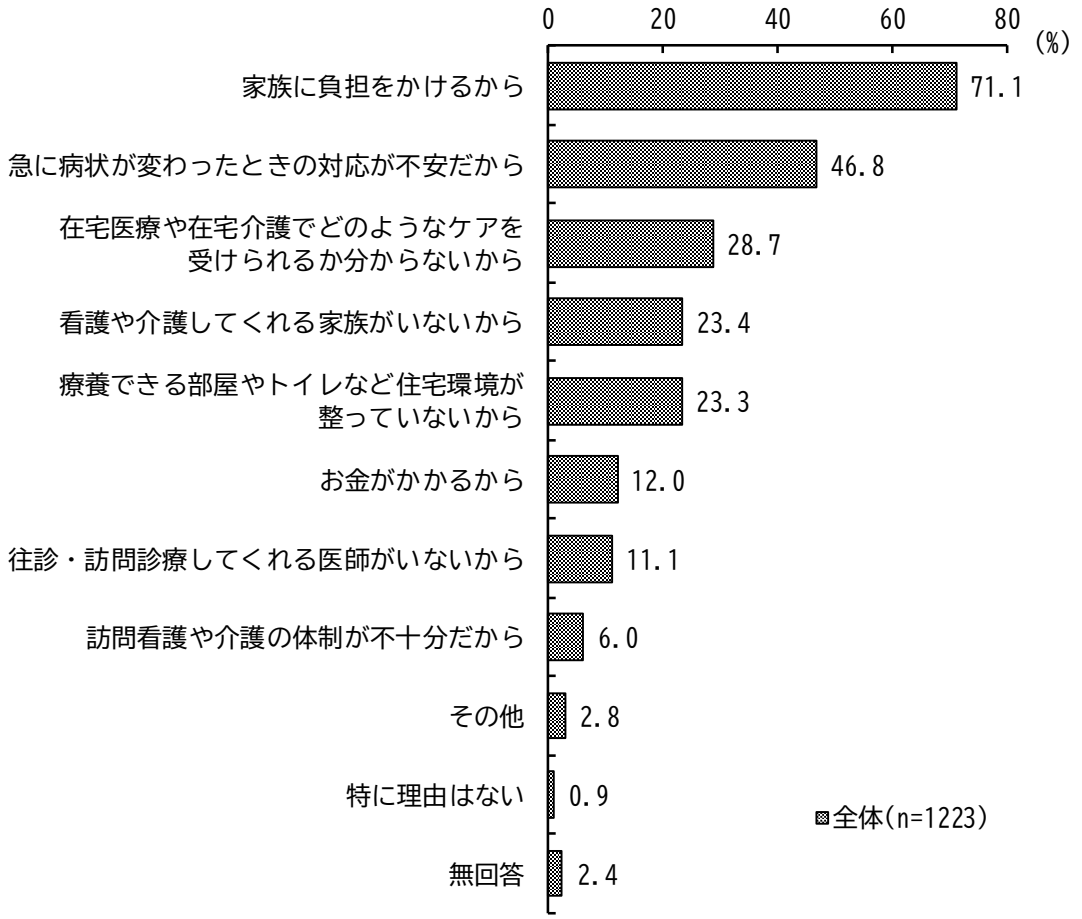
(%)

				可能だと思う	難しいと思う	分からない	無回答
全体			(n= 670)	39.6	34.8	24.0	1.6
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 392)	41.1	33.2	24.5	1.3
	事業対象者		(n= 6)	66.7	16.7	16.7	0.0
	要支援１・２		(n= 168)	36.9	40.5	20.2	2.4
性別	男性		(n= 353)	42.5	32.9	23.8	0.8
	女性		(n= 308)	36.0	36.4	25.0	2.6
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 144)	43.8	31.3	25.0	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 143)	42.0	32.9	23.8	1.4
		85 歳以上	(n= 64)	42.2	34.4	21.9	1.6
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 105)	34.3	33.3	31.4	1.0
		75 ～ 84 歳	(n= 133)	37.6	33.1	24.1	5.3
		85 歳以上	(n= 69)	36.2	47.8	15.9	0.0
家族構成別	１人暮らし		(n= 159)	37.7	40.3	21.4	0.6
	夫婦２人暮らし		(n= 302)	38.1	33.8	26.2	2.0
	息子・娘と同居		(n= 124)	46.8	33.9	16.9	2.4
	その他		(n= 70)	40.0	24.3	34.3	1.4

問 61-2　問 61 で「そう思わない」又は問 61－１で「難しいと思う」とお答えの方におたずねします
それはなぜですか。（３つまでに○）

「家族に負担をかけるから」（71.1%）が最も多く、次いで「急に病状が変わった時の対応が不安だから」（46.8%）、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるか分からないから」（28.7%）、「看護や介護してくれる家族がいないから」（23.4%）と続いている。

図表　そう思わない、難しいと思う理由
（自宅療養を続けたいと思わない、難しいと思う人、複数回答）



要支援認定別にみると、要支援１・２では「看護や介護してくれる家族がいないから」（31.0%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性別にみると、「看護や介護してくれる家族がいないから」では、女性（28.5%）が男性（15.8%）より 12.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「急に病状が変わった時の対応が不安だから」の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは、「看護や介護してくれる家族がいないから」（48.0%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　そう思わない、難しいと思う理由

（自宅療養を続けたいと思わない、難しいと思う人、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

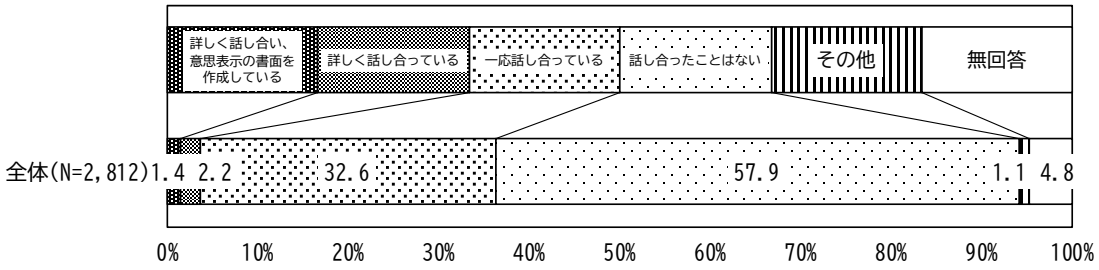
（%）

				家族に負担をかけるから	急に病状が変わったときの対応が不安だから	在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるか分からないから	看護や介護してくれる家族がいないから	療養できる部屋やトイレなど住宅環境が整っていないから	お金がかかるから	往診・訪問診療してくれる医師がいないから	訪問看護や介護の体制が不十分だから	その他	特に理由はない	無回答
全体			(n=1,223)	71.1	46.8	28.7	23.4	23.3	12.0	11.1	6.0	2.8	0.9	2.4
要支援認定別	認定なし（自立）		(n= 793)	74.9	45.6	28.6	21.3	24.3	9.6	11.1	5.7	2.6	0.3	2.0
	事業対象者		(n= 7)	71.4	71.4	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3
	要支援１・２		(n= 300)	61.7	50.7	29.0	31.0	20.3	15.0	12.3	6.7	3.7	1.3	2.0
性別	男性		(n= 486)	72.8	50.4	29.4	15.8	25.5	11.3	11.3	6.4	1.9	0.8	3.9
	女性		(n= 715)	70.1	43.9	27.7	28.5	22.1	12.3	10.8	5.6	3.5	1.0	1.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 222)	75.7	45.9	25.7	14.9	22.1	14.4	8.1	6.3	0.5	0.0	2.7
		75～84歳	(n= 177)	75.7	52.0	30.5	13.6	29.9	8.5	14.7	5.6	2.3	1.7	4.0
		85歳以上	(n= 85)	60.0	58.8	37.6	23.5	25.9	8.2	12.9	8.2	3.5	1.2	7.1
	女性	65～74歳	(n= 258)	76.4	42.2	24.0	24.8	26.7	9.3	5.4	6.6	4.3	1.2	0.4
		75～84歳	(n= 297)	71.7	44.4	30.0	29.3	21.2	13.8	10.4	4.0	3.0	0.7	0.7
		85歳以上	(n= 158)	56.3	45.6	29.1	32.9	15.8	14.6	20.3	7.0	3.2	1.3	4.4
家族構成別	１人暮らし		(n= 319)	43.3	51.4	32.3	48.0	16.9	15.0	14.4	7.8	4.4	0.3	2.5
	夫婦２人暮らし		(n= 499)	80.8	44.1	30.7	15.2	26.1	8.6	11.2	5.8	1.4	1.0	2.8
	息子・娘と同居		(n= 257)	82.5	48.6	21.0	13.6	26.1	12.8	8.2	5.8	1.9	1.2	2.3
	その他		(n= 125)	80.8	40.0	26.4	15.2	24.8	13.6	8.0	1.6	4.8	1.6	0.8

問 62　あなたは、人生の最期をどうすごしたいか、ご家族等※や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。（１つに○）
※ご家族の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めてほしいと思う人（友人、知人）を含みます。

「話し合ったことはない」（57.9%）が最も多く、次いで「一応話し合っている」（32.6%）、「詳しく話し合っている」(2.2%)、「詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している」(1.4%)と続いている。

図表　人生の最期をどう過ごしたいか、
家族等や医療介護関係者と話し合ったことがあるか（全体）



要支援認定別にみると、「話し合ったことはない」では、認定なし（自立）（59.7%）が要支援１・２（51.2%）より 8.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、「一応話し合っている」では、女性（36.5%）が男性（27.8%）より 8.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「一応話し合っている」の割合が高くなっている。

介護者の有無別にみると、「話し合ったことがない」では、いない（59.4%）がいる（52.9%）より 6.5 ポイント高くなっている。

図表　人生の最期をどう過ごしたいか、家族等や医療介護関係者と話し合ったことがあるか
（全体、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別、介護者の有無別、かかりつけ医療機関の有無別）

（%）

				詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している	詳しく話し合っている	一応話し合っている	話し合ったことはない	その他	無回答
全体			(N=2,812)	1.4	2.2	32.6	57.9	1.1	4.8
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	1.1	2.2	33.6	59.7	0.7	2.7
	事業対象者		(n= 15)	0.0	0.0	26.7	66.7	0.0	6.7
	要支援１・２		(n= 649)	2.2	2.3	36.2	51.2	1.7	6.5
性別	男性		(n=1,207)	1.5	2.3	27.8	62.7	0.7	4.9
	女性		(n=1,557)	1.1	2.2	36.5	54.3	1.3	4.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	0.8	1.9	26.0	68.7	0.4	2.1
		75～84歳	(n= 493)	1.8	2.8	27.6	61.3	1.0	5.5
		85歳以上	(n= 194)	2.6	2.1	33.5	50.0	1.0	10.8
	女性	65～74歳	(n= 549)	0.4	3.1	35.9	57.9	1.3	1.5
		75～84歳	(n= 671)	1.6	2.1	36.2	53.9	1.2	4.9
		85歳以上	(n= 330)	1.2	1.2	38.5	49.1	1.8	8.2
家族構成別	１人暮らし		(n= 732)	2.2	2.6	31.4	56.8	1.6	5.3
	夫婦２人暮らし		(n=1,117)	1.0	2.4	34.6	57.3	0.7	4.0
	息子・娘と同居		(n= 616)	1.6	2.6	31.2	58.4	0.8	5.4
	その他		(n= 288)	0.0	0.0	33.3	62.2	1.0	3.5
介護者の有無別	いる		(n= 429)	1.4	3.0	34.5	52.9	1.4	6.8
	いない		(n=2,306)	1.3	2.1	32.4	59.4	0.9	3.9
かかりつけ医の有無別	いる		(n=2,307)	1.5	2.5	33.2	57.2	1.2	4.5
	いない		(n= 322)	0.6	0.9	30.7	64.3	0.6	2.8
	わからない		(n= 90)	0.0	1.1	30.0	64.4	1.1	3.3
かかりつけ歯科医の有無別	いる		(n=1,980)	1.3	2.4	34.3	56.9	1.2	3.9
	いない		(n= 484)	0.8	2.3	30.0	62.2	1.0	3.7
	わからない		(n= 104)	1.0	1.9	26.9	69.2	1.0	0.0
かかりつけ薬局の有無別	いる		(n=1,776)	1.5	2.8	34.3	56.3	1.1	4.1
	いない		(n= 594)	0.8	1.2	31.8	61.6	1.0	3.5
	わからない		(n= 205)	1.0	1.5	29.8	64.4	1.5	2.0

問 62-1　問 62 で「話し合ったことはない」とお答えの方におたずねします
それはなぜですか。（もっとも当てはまるもの１つに○）

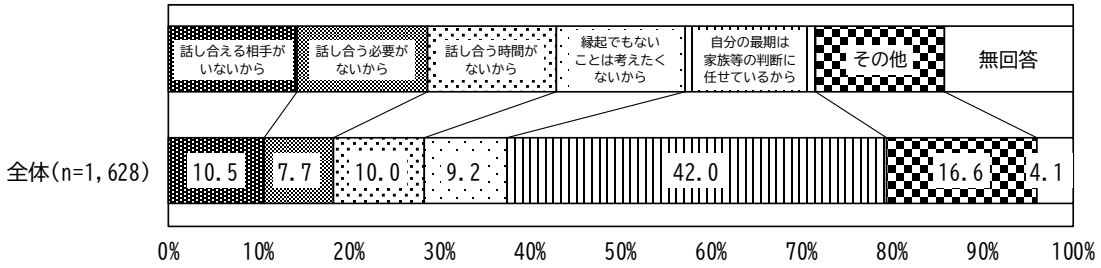
「自分の最期は家族等の判断に任せているから」（42.0%）が最も多く、次いで「話し合える相手がいないから」（10.5%）、「話し合う時間がないから」（10.0%）、「縁起でもないことは考えたくないから」（9.2%）と続いている。

要支援認定別にみると、「自分の最期は家族等の判断に任せているから」では、要支援１・２が 51.8%と高くなっている。

性別にみると、「話し合う時間がないから」では、女性（13.7%）が男性（5.9%）より 7.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「縁起でもないことは考えたくないから」では、すべての年代で女性より男性の方が高くなっている。

図表　話し合ったことがない理由（人生の最期について話し合ったことがない人）



図表　話し合ったことがない理由
（人生の最期について話し合ったことがない人、要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				話し合える相手がいないから	話し合う必要がないから	話し合う時間がないから	縁起でもないことは考えたくないから	自分の最期は家族等の判断に任せているから	その他	無回答
全体			(n=1,628)	10.5	7.7	10.0	9.2	42.0	16.6	4.1
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,049)	9.2	9.0	10.2	9.9	38.8	18.8	4.1
	事業対象者		(n= 10)	10.0	0.0	0.0	20.0	60.0	10.0	0.0
	要支援１・２		(n= 332)	12.7	3.9	10.2	6.0	51.8	12.0	3.3
性別	男性		(n= 757)	12.8	10.7	5.9	12.8	41.2	12.5	4.0
	女性		(n= 846)	7.9	5.2	13.7	6.0	43.3	19.9	4.0
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 354)	15.5	10.2	7.3	16.1	33.1	14.1	3.7
		75 ～ 84 歳	(n= 302)	10.6	11.3	5.6	9.6	47.0	11.6	4.3
		85 歳以上	(n= 97)	9.3	10.3	2.1	10.3	53.6	10.3	4.1
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 318)	9.4	7.5	20.4	6.9	28.0	25.5	2.2
		75 ～ 84 歳	(n= 362)	8.0	4.7	9.4	5.0	49.7	18.5	4.7
		85 歳以上	(n= 162)	4.9	1.9	10.5	6.8	58.0	11.7	6.2
家族構成別	１人暮らし		(n= 416)	26.4	4.3	12.7	6.7	30.3	15.1	4.3
	夫婦２人暮らし		(n= 640)	3.9	9.2	7.7	10.2	44.2	19.7	5.2
	息子・娘と同居		(n= 360)	3.1	7.5	11.7	10.3	51.9	13.3	2.2
	その他		(n= 179)	11.7	10.6	7.3	9.5	42.5	16.2	2.2

問 63　市の介護保険制度や高齢者保健福祉サービスについて、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、666 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
情報提供、周知の充実	92
現状の生活状況	80
サービスへの感謝・満足	71
サービス、事業に関する要望	60
将来に対する希望、不安	50
アンケートへの意見や感想	50
相談窓口、連絡先	41
施設の整備、入所・入居に関する要望	35
介護サービスの質の向上（スタッフを含む）	25
介護保険料、サービスの金額	20
要介護認定の方法	16
家族への支援の充実	11
交通・移動支援の充実	9
手続きに時間がかかる	6
認知症のある人の介護	4
住まいの不安	2
その他	50
わからない・特になし	44

（15）介護予防リスク

本アンケート調査の設問項目は、高齢者の生活機能等の状況を把握するための項目を盛り込んでいる。回答結果をもとにリスク分析を行った。

【運動器の機能低下】

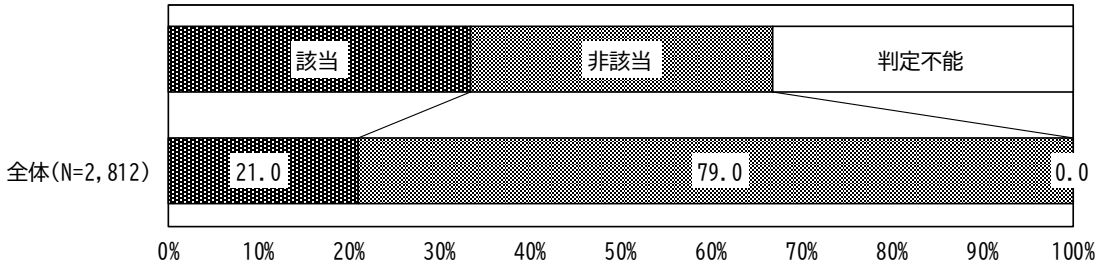
問 10 から問 14 のうち、３問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器の機能低下と評価

問番号	設問内容	該当する選択肢
問 10	手すりを使わず、階段を昇り降りすること	「できない」
問 11	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること	「できない」
問 12	１５分位続けて歩くこと	「できない」
問 13	過去１年間に転んだ経験	「何度もある」「一度ある」
問 14	転倒に対する不安	「とても不安である」 「やや不安である」

「該当」が 21.0%、「非該当」が 79.0%となっている。

性・年代別にみると、男性の 85 歳以上では「該当」（39.7%）が全体より 10 ポイント以上高く、女性の 85 歳以上では「該当」（53.0%）が全体より 30 ポイント以上高くなっている。

図表　運動器の機能低下の有無（全体）



図表　運動器の機能低下の有無（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				該当	非該当	判定不能
全体			(N=2,812)	21.0	79.0	0.0
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	7.0	93.0	0.0
	事業対象者		(n= 15)	26.7	73.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	58.1	41.9	0.0
性別	男性		(n=1,207)	15.3	84.7	0.0
	女性		(n=1,557)	25.0	75.0	0.0
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 515)	7.6	92.4	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 493)	13.8	86.2	0.0
		85 歳以上	(n= 194)	39.7	60.3	0.0
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 549)	9.1	90.9	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 671)	24.0	76.0	0.0
		85 歳以上	(n= 330)	53.0	47.0	0.0

【転倒リスク】

問 13 で該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクがあると評価

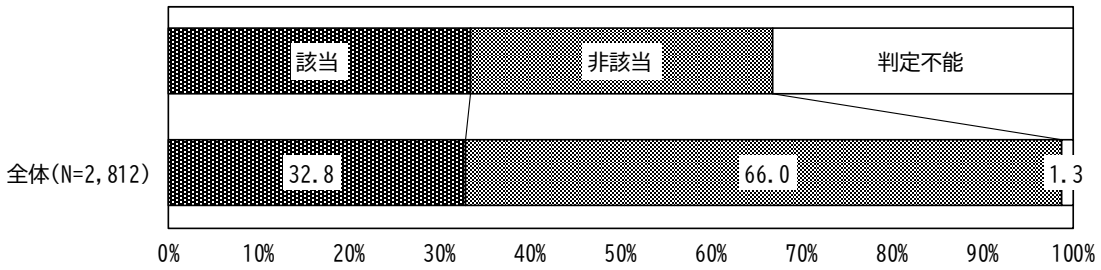
問番号	設問内容	該当する選択肢
問 13	過去１年間に転んだ経験	「何度もある」 「１度ある」

「該当あり」が 32.8%、「非該当」が 66.0%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「該当」（52.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性･年代別にみると､男性の 85 歳以上､女性の 85 歳以上では｢該当｣(男性の 85 歳以上:43.3%、女性の 85 歳以上：46.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　転倒リスクの有無（全体）



図表　転倒リスクの有無（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				該当	非該当	判定不能
全体			(N=2,812)	32.8	66.0	1.3
認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	24.3	75.1	0.6
認定別	事業対象者		(n= 15)	53.3	46.7	0.0
認定別	要支援１・２		(n= 649)	52.7	44.7	2.6
性別	男性		(n=1,207)	30.0	69.0	1.0
性別	女性		(n=1,557)	34.2	64.3	1.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	27.4	72.4	0.2
性・年代別	男性	75～84歳	(n= 493)	27.4	71.4	1.2
性・年代別	男性	85歳以上	(n= 194)	43.3	54.1	2.6
性・年代別	女性	65～74歳	(n= 549)	25.5	74.1	0.4
性・年代別	女性	75～84歳	(n= 671)	34.9	63.3	1.8
性・年代別	女性	85歳以上	(n= 330)	46.7	50.6	2.7

【閉じこもり傾向】

問 15 で該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向であると評価

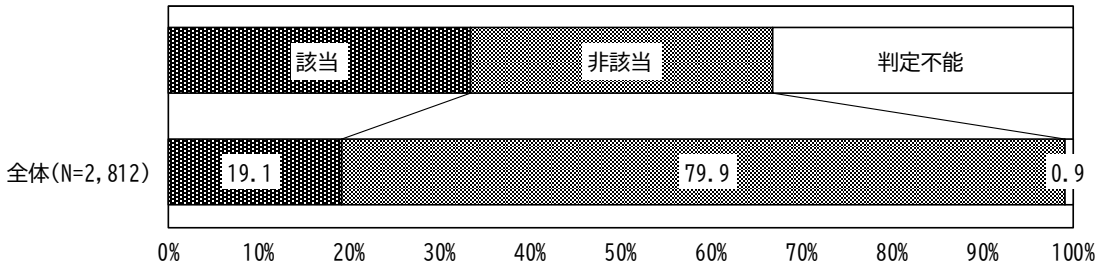
問番号	設問内容	該当する選択肢
問 15	外出の頻度	「ほとんど外出しない」 「週１回」

「該当」が 19.1%、「非該当」が 79.9%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「該当」（37.9%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「該当」の割合は高くなっている。特に、男性の 85 歳以上、女性の 85 歳以上では「該当」（男性の 85 歳以上：30.9%、女性の 85 歳以上：35.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　閉じこもり傾向の有無（全体）



図表　閉じこもり傾向の有無（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				該当	非該当	判定不能
全体			(N=2,812)	19.1	79.9	0.9
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	10.2	89.4	0.5
	事業対象者		(n= 15)	46.7	53.3	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	37.9	60.4	1.7
性別	男性		(n=1,207)	17.4	81.8	0.8
	女性		(n=1,557)	20.4	78.6	1.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	10.1	89.7	0.2
		75～84歳	(n= 493)	19.7	79.1	1.2
		85歳以上	(n= 194)	30.9	67.5	1.5
	女性	65～74歳	(n= 549)	9.3	90.2	0.5
		75～84歳	(n= 671)	21.8	77.2	1.0
		85歳以上	(n= 330)	35.5	62.7	1.8

【認知機能の低下】

問 21 で該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向であると評価

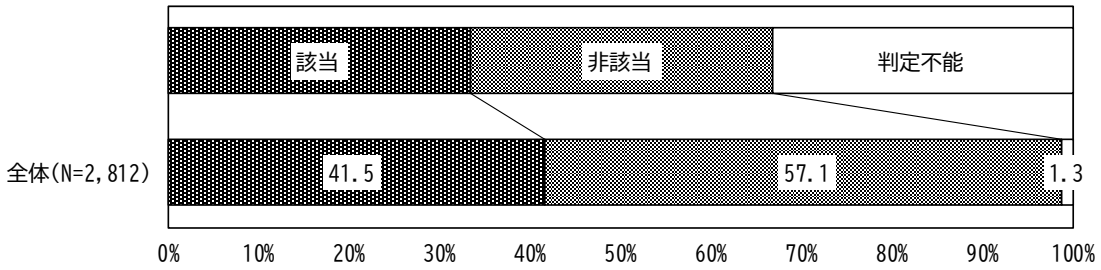
問番号	設問内容	該当する選択肢
問 21	物忘れの様子	「はい」

「該当」が 41.5%、「非該当」が 57.1%となっている。

要支援認定別にみると、要支援１・２では「該当」（53.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「該当」の割合は高くなっている。特に、男性の 85 歳以上、女性の 85 歳以上では「該当」（男性の 85 歳以上：55.2%、女性の 85 歳以上：56.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知機能の低下の有無（全体）



図表　認知機能の低下の有無（全体、要支援認定別、性別、性・年代別）

(%)

				該当	非該当	判定不能
全体			(N=2,812)	41.5	57.1	1.3
要支援認定別	認定なし（自立）		(n=1,758)	36.0	63.4	0.6
	事業対象者		(n= 15)	53.3	46.7	0.0
	要支援１・２		(n= 649)	53.8	43.8	2.5
性別	男性		(n=1,207)	39.5	59.7	0.7
	女性		(n=1,557)	43.0	55.3	1.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 515)	34.8	65.2	0.0
		75～84歳	(n= 493)	38.3	60.6	1.0
		85歳以上	(n= 194)	55.2	42.8	2.1
	女性	65～74歳	(n= 549)	34.1	64.8	1.1
		75～84歳	(n= 671)	43.5	54.1	2.4
		85歳以上	(n= 330)	56.4	42.1	1.5

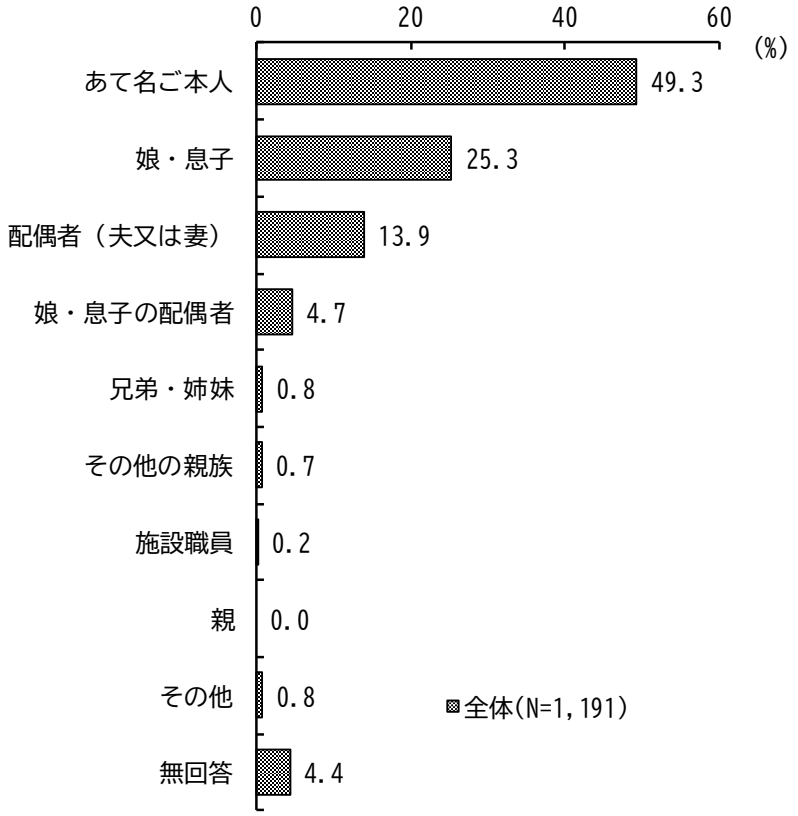
2　居宅サービス利用者調査

（1）基本属性

◎　この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○）

「あて名ご本人」（49.3%）が最も多く、次いで「娘・息子」（25.3%）、「配偶者（夫又は妻）」（13.9%）、「娘・息子の配偶者」（4.7%）と続いている。

図表　記入者（全体）

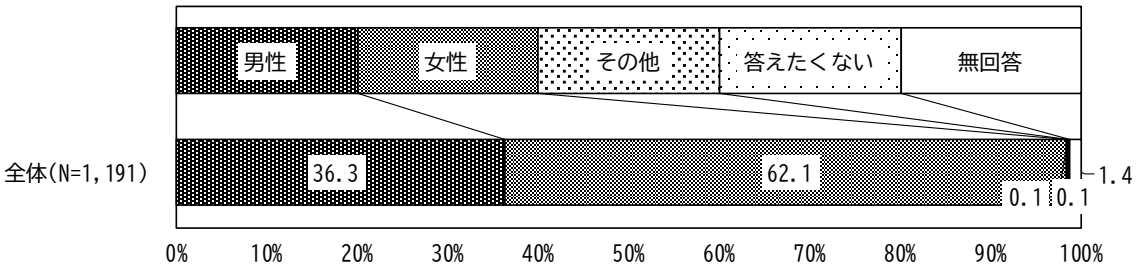


Ｆ１　あなたの性別※をお答えください。（１つに○）
※性別については、戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

「男性」が 36.3%、「女性」が 62.1%となっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは女性（74.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　性別（全体）



図表　性別（全体、要介護度別、年代別、家族構成別）

(%)

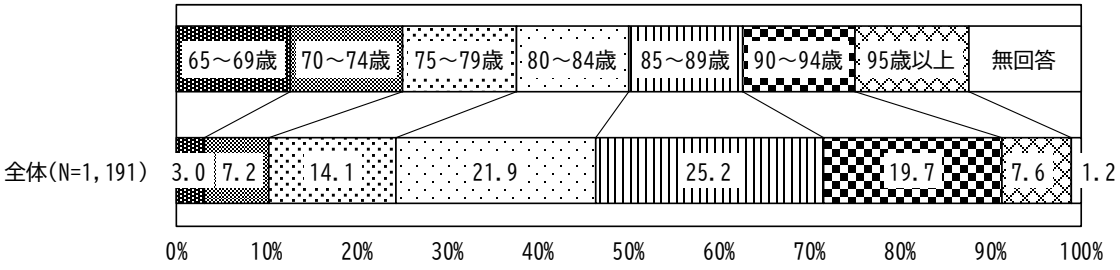
			男性	女性	その他	答えたくない	無回答
全体		(N=1,191)	36.3	62.1	0.1	0.1	1.4
要介護度別	要支援	(n= 387)	33.6	65.1	0.0	0.3	1.0
	要介護（軽度）	(n= 460)	36.1	62.8	0.0	0.0	1.1
	要介護（中重度）	(n= 277)	40.1	58.5	0.0	0.0	1.4
年代別	65～69歳	(n= 36)	63.9	36.1	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	(n= 86)	48.8	48.8	1.2	1.2	0.0
	75～79歳	(n= 168)	44.0	56.0	0.0	0.0	0.0
	80～84歳	(n= 261)	40.2	59.4	0.0	0.0	0.4
	85～89歳	(n= 300)	35.7	64.0	0.0	0.0	0.3
	90～94歳	(n= 235)	28.5	71.5	0.0	0.0	0.0
	95歳以上	(n= 91)	15.4	83.5	0.0	0.0	1.1
家族構成別	１人暮らし	(n= 324)	23.8	74.4	0.3	0.0	1.5
	夫婦２人暮らし	(n= 326)	58.9	39.3	0.0	0.0	1.8
	息子・娘と同居	(n= 382)	28.0	70.9	0.0	0.0	1.0
	その他	(n= 145)	33.8	65.5	0.0	0.0	0.7

Ｆ２　あなたの年齢をお答えください。（１つに○）
※令和７年１０月１日現在の年齢でお答えください。

「85～89 歳」（25.2%）が最も多く、次いで「80～84 歳」（21.9%）、「90～94 歳」（19.7%）と続いている。

要介護度別でみると、要支援では「85～89 歳」（29.7%）が最も多い。要介護（軽度）、要介護（中重度）では「90～94 歳」（要介護（軽度）：24.3%、要介護（中重度）：21.7%）が最も多い。

図表　年齢（全体）



図表　年齢（全体、要介護度別、性別、家族構成別）

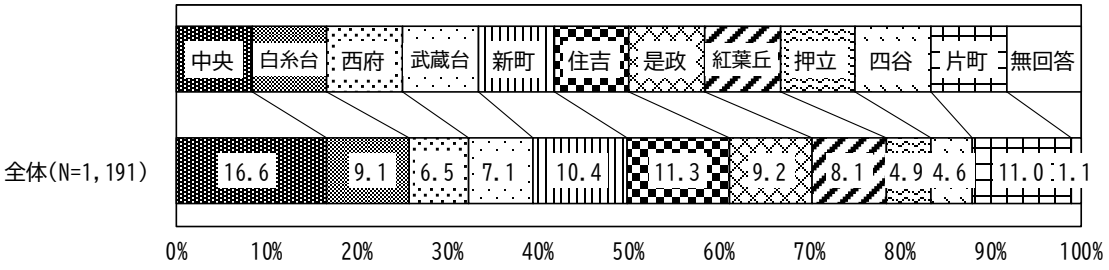
（%）

			65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答
全体		(N=1,191)	3.0	7.2	14.1	21.9	25.2	19.7	7.6	1.2
要介護度別	要支援	(n= 387)	2.6	8.0	14.2	24.3	29.7	14.5	5.9	0.8
	要介護（軽度）	(n= 460)	3.0	6.7	12.8	21.7	24.1	24.3	6.1	1.1
	要介護（中重度）	(n= 277)	4.0	5.8	16.2	18.1	20.9	21.7	12.6	0.7
性別	男性	(n= 432)	5.3	9.7	17.1	24.3	24.8	15.5	3.2	0.0
	女性	(n= 740)	1.8	5.7	12.7	20.9	25.9	22.7	10.3	0.0
家族構成別	１人暮らし	(n= 324)	4.3	8.0	11.7	22.2	28.4	17.0	7.1	1.2
	夫婦２人暮らし	(n= 326)	4.0	9.2	19.9	27.0	23.0	13.2	1.8	1.8
	息子・娘と同居	(n= 382)	1.6	4.7	9.9	18.1	27.5	26.4	11.0	0.8
	その他	(n= 145)	2.1	7.6	17.2	20.7	15.9	22.8	13.8	0.0

Ｆ３　あなたはどちらにお住まいですか。該当する福祉エリア１つに○をつけてください。

「中央福祉エリア」（16.6%）が最も多く、次いで「住吉福祉エリア」（11.3%）、「片町福祉エリア」（11.0%）と続いている。

図表　居住地域（全体）



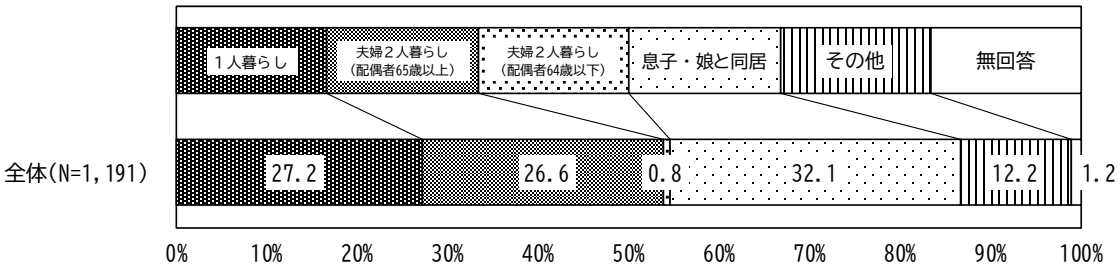
Ｆ４　家族構成をお教えください。（１つに○）

「息子・娘と同居」（32.1%）が最も多く、次いで「１人暮らし」（27.2%）、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（26.6%）と続いている。

要介護度別にみると、要支援では「１人暮らし」（41.1%）が最も多い。また、要介護度が高くなるほど「息子・娘と同居」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 75～84 歳では「夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）」（45.8%）、女性の 85 歳以上では「１人暮らし」（44.0%）が最も多くなっている。

図表　家族構成（全体）



図表　家族構成（全体、要介護度別、性別、性・年代別）

（%）

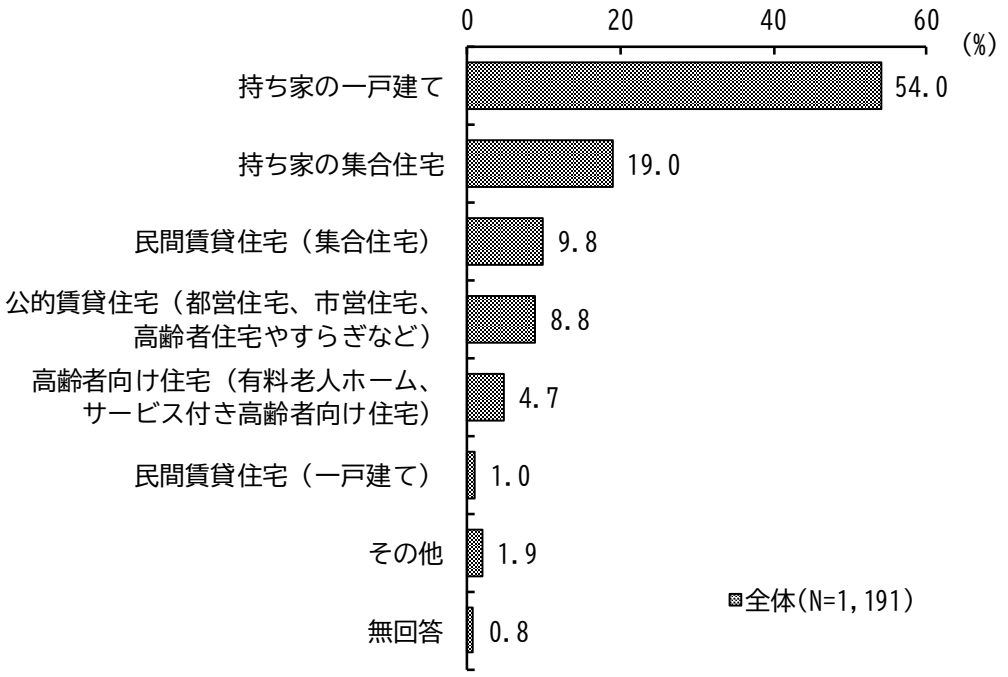
				１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者６４歳以下）	息子・娘と同居	その他	住吉
全体			(N=1,191)	27.2	26.6	0.8	32.1	12.2	1.2
要介護度別	要支援		(n= 387)	41.1	26.4	0.5	24.3	7.2	0.5
	要介護（軽度）		(n= 460)	23.5	27.2	0.7	34.1	13.0	1.5
	要介護（中重度）		(n= 277)	12.6	24.9	1.1	41.9	18.4	1.1
性別	男性		(n= 432)	17.8	42.6	1.9	24.8	11.3	1.6
	女性		(n= 740)	32.6	17.2	0.1	36.6	12.8	0.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	36.9	30.8	4.6	15.4	12.3	0.0
		75～84歳	(n= 179)	15.1	45.8	1.1	23.5	12.8	1.7
		85歳以上	(n= 188)	13.8	43.6	1.6	29.3	9.6	2.1
	女性	65～74歳	(n= 55)	27.3	36.4	0.0	25.5	10.9	0.0
		75～84歳	(n= 249)	33.3	27.3	0.4	26.1	12.4	0.4
		85歳以上	(n= 436)	32.8	8.9	0.0	44.0	13.3	0.9

（２）住まい

問１　あなたのお住まいは次のうちどれですか（名義は問いません）。（１つに○）

「持ち家の一戸建て」（54.0%）が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」（19.0%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（9.8%）と続いている。

図表　住まい（全体）



要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「高齢者向け住宅（有料老人ホーム等）」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「持ち家の一戸建て」の割合が高くなり、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が低くなっている。

家族構成別にみると、「持ち家の一戸建て」の割合は、息子・娘と同居（63.6%）が最も高く、「１人暮らし」（40.4%）が最も低くなっている。また、１人暮らしでは、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（15.7%）、「公的賃貸住宅（都営住宅、市営住宅等）」（14.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　住まい（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

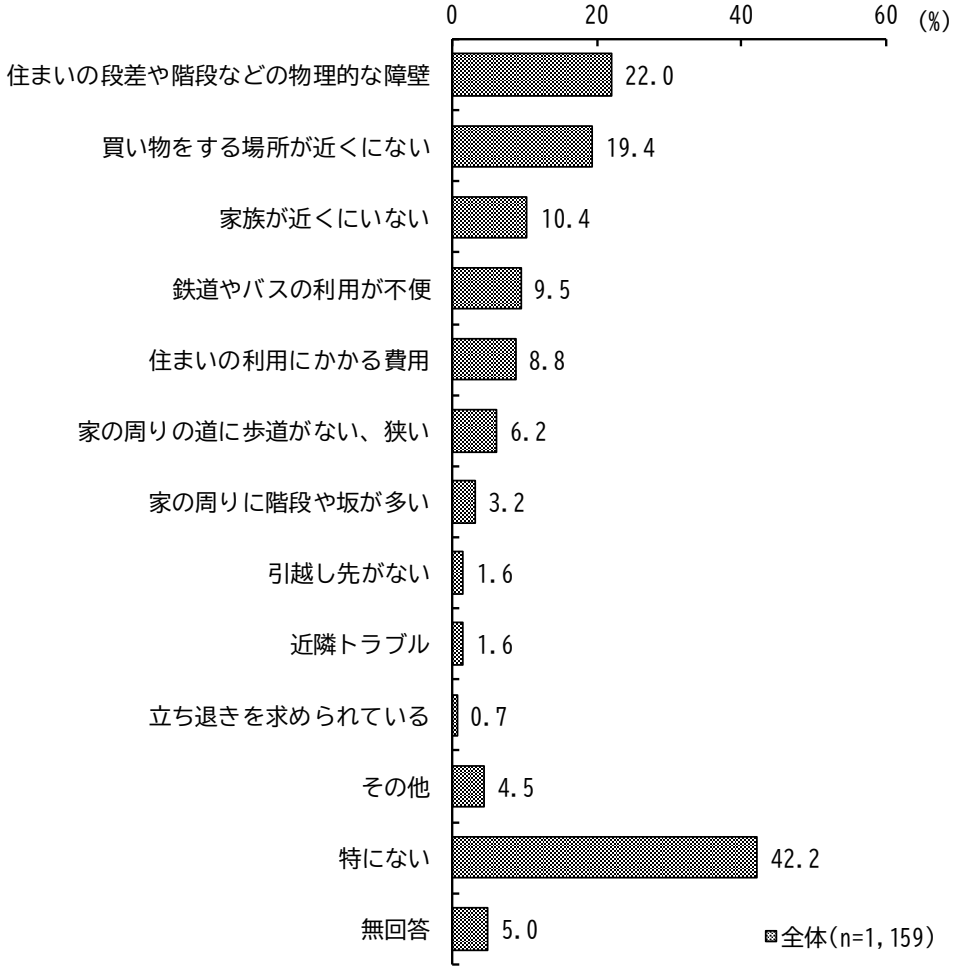
				持ち家の一戸建て	持ち家の集合住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公的賃貸住宅（都営住宅、市営住宅等）	高齢者向け住宅（有料老人ホーム等）	その他	無回答
全体			(N=1,191)	54.0	19.0	1.0	9.8	8.8	4.7	1.9	0.8
要介護度別	要支援		(n= 387)	52.5	19.6	1.6	10.9	9.8	2.3	2.1	1.3
	要介護（軽度）		(n= 460)	55.4	20.0	0.7	8.0	8.0	4.8	2.6	0.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	55.2	16.6	0.7	9.0	8.7	8.3	1.1	0.4
性別	男性		(n= 432)	55.1	21.3	0.9	9.7	7.9	3.2	1.2	0.7
	女性		(n= 740)	53.1	17.7	0.9	9.9	9.6	5.7	2.4	0.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	41.5	16.9	4.6	18.5	15.4	1.5	1.5	0.0
		75～84歳	(n= 179)	50.8	22.9	0.6	11.7	7.8	4.5	0.6	1.1
		85歳以上	(n= 188)	63.8	21.3	0.0	4.8	5.3	2.7	1.6	0.5
	女性	65～74歳	(n= 55)	40.0	23.6	0.0	18.2	12.7	5.5	0.0	0.0
		75～84歳	(n= 249)	49.8	18.9	2.0	12.0	8.8	2.8	3.6	2.0
		85歳以上	(n= 436)	56.7	16.3	0.5	7.6	9.6	7.3	2.1	0.0
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	40.4	18.5	1.9	15.7	14.2	5.9	2.2	1.2
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	57.7	20.9	0.9	9.8	8.6	0.9	0.9	0.3
	息子・娘と同居		(n= 382)	63.6	19.4	0.8	7.1	5.8	2.6	0.5	0.3
	その他		(n= 145)	49.0	15.2	0.0	4.8	6.2	16.6	6.9	1.4

問１-１　問１で「その他」以外をお答えの方におたずねします
現在のお住まいや住環境などで困っていることはありますか。（いくつでも○）

「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」（22.0%）が最も多く、次いで「買い物をする場所が近くにない」（19.4%）、「家族が近くにいない」（10.4%）と続いている。

一方、「特にない」は 42.2%となっている。

図表　住まいや住環境で困っていること
（問１で「その他」以外に回答した人：複数回答）



要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」「家の周りに階段や坂が多い」の割合が高くなっている。

要介護度別にみると、要支援では「買い物をする場所が近くにない」（23.3%）が最も多く、要介護（軽度）、要介護（中重度）では「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」（要介護（軽度）：24.9%）、要介護（中重度）：27.5%）が最も多くなっている。

性・年代別にみると、男性の 75～84 歳では「住まいの段差や階段などの物理的な障壁」（28.4%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「家族が近くにいない」（22.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　住まいや住環境で困っていること

（問１で「その他」以外に回答した人、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

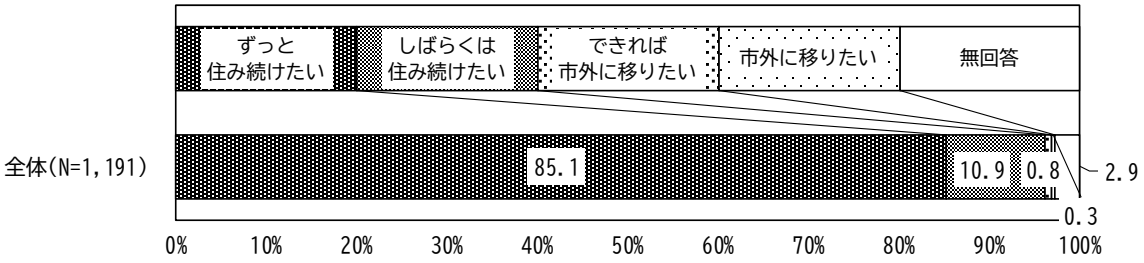
(%)

				住まいの段差や階段などの物理的な障壁	買い物をする場所が近くにない	家族が近くにいない	鉄道やバスの利用が不便	住まいの利用にかかる費用	家の周りの道に歩道がない、狭い	家の周りに階段や坂が多い	引越し先がない	近隣トラブル	立ち退きを求められている	その他	特にない	無回答
全体			(n=1,159)	22.0	19.4	10.4	9.5	8.8	6.2	3.2	1.6	1.6	0.7	4.5	42.2	5.0
要介護度別	要支援		(n= 374)	17.1	23.3	13.6	10.2	9.9	5.9	2.4	1.9	2.7	0.5	4.3	40.6	4.8
	要介護（軽度）		(n= 446)	24.9	19.7	9.0	10.8	7.8	6.5	3.1	1.6	1.1	1.1	3.8	43.0	4.3
	要介護（中重度）		(n= 273)	27.5	15.0	6.6	8.1	10.3	7.3	4.4	1.8	1.1	0.4	6.6	41.4	5.1
性別	男性		(n= 424)	25.5	16.3	9.9	8.3	9.4	4.2	4.0	0.9	0.9	0.5	5.2	41.7	5.0
	女性		(n= 717)	19.9	21.1	10.6	10.0	8.5	7.4	2.5	2.1	2.1	0.8	4.2	43.0	5.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 64)	17.2	18.8	12.5	9.4	15.6	3.1	7.8	1.6	0.0	1.6	3.1	42.2	7.8
		75～84歳	(n= 176)	28.4	13.6	9.7	9.1	10.2	5.1	5.1	1.1	1.1	0.0	6.8	40.9	4.5
		85歳以上	(n= 184)	25.5	17.9	9.2	7.1	6.5	3.8	1.6	0.5	1.1	0.5	4.3	42.4	4.3
	女性	65～74歳	(n= 55)	16.4	21.8	9.1	5.5	14.5	7.3	1.8	0.0	3.6	0.0	0.0	47.3	3.6
		75～84歳	(n= 235)	19.6	22.6	12.8	12.3	8.9	6.0	2.1	2.6	0.9	0.9	5.5	43.4	3.4
		85歳以上	(n= 427)	20.6	20.1	9.6	9.4	7.5	8.2	2.8	2.1	2.6	0.9	4.0	42.2	6.1
家族構成別	１人暮らし		(n= 313)	16.0	22.4	22.0	10.5	10.5	7.0	2.2	2.9	3.2	1.6	4.8	37.7	6.1
	夫婦２人暮らし		(n= 322)	27.6	22.4	13.4	12.4	11.2	5.6	4.0	0.9	1.2	0.0	1.9	37.6	3.1
	息子・娘と同居		(n= 379)	24.0	16.1	1.8	7.4	7.1	7.1	2.6	1.3	0.8	0.8	5.3	47.2	4.5
	その他		(n= 133)	18.0	15.8	1.5	6.0	4.5	3.8	3.8	1.5	1.5	0.0	8.3	48.9	8.3

問２　今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていませんか。次の中から１つだけ選んでください。（１つに○）

《住み続けたい》（「ずっと住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」の計）の割合は 96.0%となっている。一方、《市外に移りたい》（「できれば市外に移りたい」と「市外に移りたい」の計）の割合は 1.1%となっている。

図表　今後の府中市への居住継続意向（全体）



性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「ずっと住み続けたい」の割合が高くなっている。

居住圏域別にみると、「ずっと住み続けたい」の割合は、西府（87.2%）、武蔵台（88.1%）、新町（86.3%）、住吉（88.9%）、紅葉丘（87.6%）、片町（89.3%）が全体より高くなっている。

図表　今後の府中市への居住継続意向
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別）

（%）

				ずっと住み続けたい	しばらくは住み続けたい	できれば市外に移りたい	市外に移りたい	無回答
全体			(N=1,191)	85.1	10.9	0.8	0.3	2.9
要介護度別	要支援		(n= 387)	84.2	12.7	0.5	0.3	2.3
	要介護（軽度）		(n= 460)	84.8	12.0	0.7	0.4	2.2
	要介護（中重度）		(n= 277)	86.3	8.3	1.4	0.4	3.6
性別	男性		(n= 432)	86.6	10.2	1.2	0.2	1.9
	女性		(n= 740)	84.6	11.4	0.5	0.4	3.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	83.1	12.3	0.0	1.5	3.1
		75～84歳	(n= 179)	84.9	12.3	1.1	0.0	1.7
		85歳以上	(n= 188)	89.4	7.4	1.6	0.0	1.6
	女性	65～74歳	(n= 55)	80.0	14.5	0.0	0.0	5.5
		75～84歳	(n= 249)	83.9	12.4	1.2	0.8	1.6
		85歳以上	(n= 436)	85.6	10.3	0.2	0.2	3.7
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	84.3	13.9	0.3	0.3	1.2
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	87.1	8.6	1.2	0.3	2.8
	息子・娘と同居		(n= 382)	85.9	10.5	1.0	0.3	2.4
	その他		(n= 145)	82.1	11.0	0.0	0.7	6.2
居住圏域別	中央		(n= 198)	83.8	12.1	0.5	0.0	3.5
	白糸台		(n= 108)	81.5	12.0	0.9	0.9	4.6
	西府		(n= 78)	87.2	11.5	0.0	1.3	0.0
	武蔵台		(n= 84)	88.1	8.3	0.0	1.2	2.4
	新町		(n= 124)	86.3	11.3	0.0	0.0	2.4
	住吉		(n= 135)	88.9	8.1	1.5	0.7	0.7
	是政		(n= 110)	80.0	13.6	1.8	0.0	4.5
	紅葉丘		(n= 97)	87.6	10.3	1.0	0.0	1.0
	押立		(n= 58)	82.8	10.3	3.4	0.0	3.4
	四谷		(n= 55)	83.6	10.9	0.0	0.0	5.5
	片町		(n= 131)	89.3	9.9	0.0	0.0	0.8

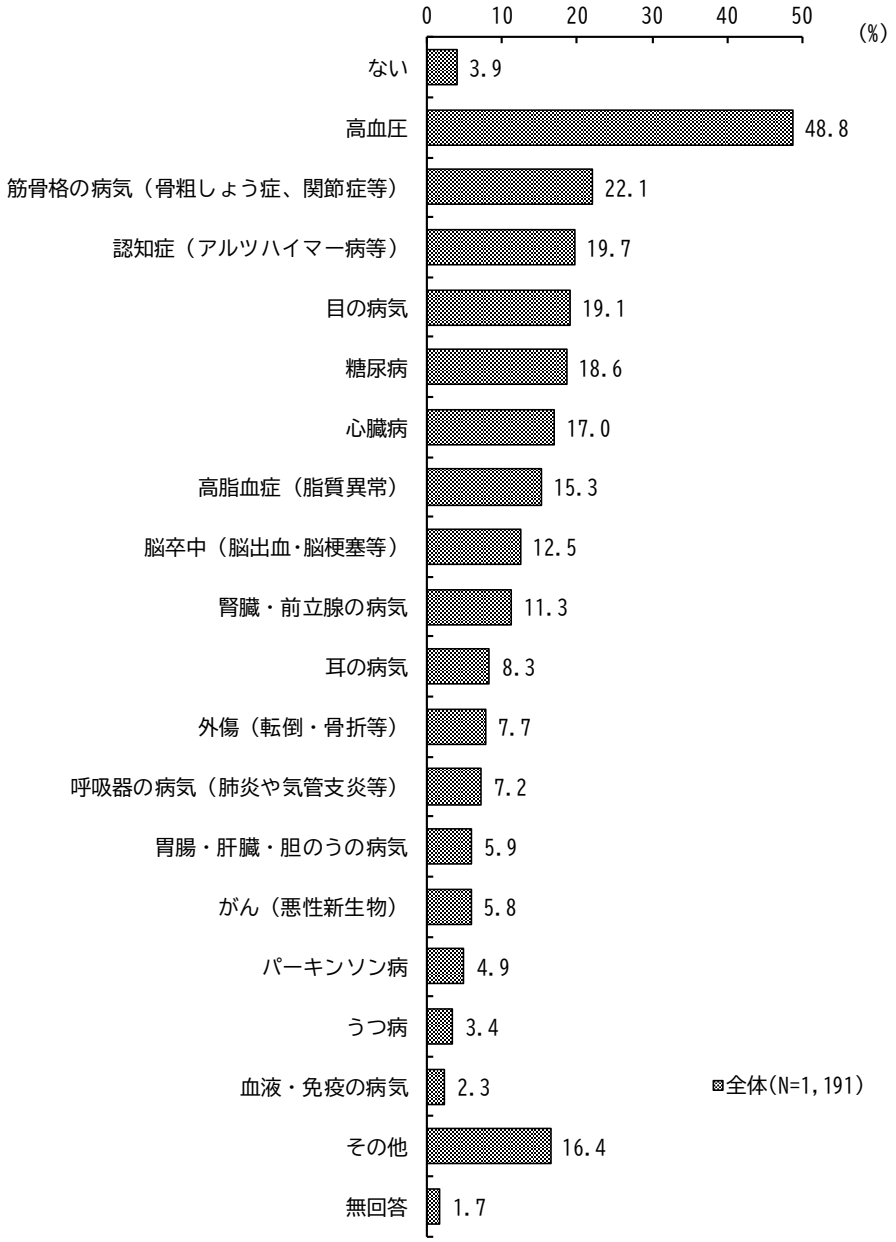
（３）医療

問３　現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか。（いくつでも○）

「高血圧」(48.8%) が最も多く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」(22.1%)、「認知症（アルツハイマー病等」(19.7%)、「目の病気」(19.1%）と続いている。

一方、「ない」は 3.9%となっている。

図表　現在治療中の病気の有無（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「認知症（アルツハイマー病等）」、「糖尿病」、「心臓病」、「脳卒中（脳出血、脳梗塞等）」、「パーキンソン病」の割合は高くなっている。

性別にみると、男女ともに「高血圧」（男性：44.9%、女性：51.5%）が最も多く、男性では「糖尿病」（24.3%）、「腎臓・前立腺の病気」（22.2%）、女性では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（29.6%）、「認知症（アルツハイマー病等）」（21.2%）と続いている。

性・年代別にみると、男性の 85 歳以上では「腎臓・前立腺の病気」（28.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。一方、女性の 85 歳以上では「高血圧」（56.4%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（30.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　現在治療中の病気の有無

（全体、要介護度別、性別、性・年代別：複数回答）

(%)

				ない	高血圧	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	認知症（アルツハイマー病等）	目の病気	糖尿病	心臓病	高脂血症（脂質異常）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	腎臓・前立腺の病気
全体			(N=1,191)	3.9	48.8	22.1	19.7	19.1	18.6	17.0	15.3	12.5	11.3
要介護度別	要支援		(n= 387)	2.6	57.1	29.7	3.4	25.1	18.1	16.0	20.7	8.3	11.4
	要介護（軽度）		(n= 460)	4.6	46.7	20.7	27.0	15.4	18.3	16.7	13.5	11.5	10.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	3.2	41.5	16.2	33.2	17.0	18.4	17.3	11.2	21.7	12.6
性別	男性		(n= 432)	3.2	44.9	9.7	17.6	19.2	24.3	18.8	10.4	19.2	22.2
	女性		(n= 740)	3.8	51.5	29.6	21.2	19.2	15.4	16.2	18.4	8.8	5.1
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	0.0	43.1	6.2	4.6	20.0	32.3	18.5	12.3	26.2	20.0
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	4.5	45.8	7.3	17.9	15.6	26.3	16.2	10.6	24.6	16.8
		85 歳 以 上	(n= 188)	3.2	44.7	13.3	21.8	22.3	19.7	21.3	9.6	11.7	28.2
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	0.0	49.1	30.9	12.7	14.5	14.5	5.5	25.5	16.4	3.6
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	3.2	43.4	27.7	17.3	19.7	15.7	12.4	15.7	12.9	5.2
		85 歳 以 上	(n= 436)	4.6	56.4	30.5	24.5	19.5	15.4	19.7	19.0	5.5	5.3

				耳の病気	外傷（転倒・骨折等）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	がん（悪性新生物）	パーキンソン病	うつ病	血液・免疫の病気	その他	無回答
全体			(N=1,191)	8.3	7.7	7.2	5.9	5.8	4.9	3.4	2.3	16.4	1.7
要介護度別	要支援		(n= 387)	11.4	7.0	7.0	7.5	5.4	3.4	3.6	2.8	17.8	1.6
	要介護（軽度）		(n= 460)	8.3	6.5	9.1	3.9	7.0	4.1	3.5	1.3	14.3	1.5
	要介護（中重度）		(n= 277)	4.7	11.2	5.1	6.5	4.3	8.7	3.2	3.2	19.9	1.1
性別	男性		(n= 432)	6.5	6.5	10.4	6.7	7.9	6.9	3.0	2.1	18.1	1.2
	女性		(n= 740)	9.2	8.5	5.3	5.5	4.5	3.8	3.6	2.4	15.4	1.8
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	1.5	4.6	15.4	9.2	3.1	6.2	3.1	0.0	30.8	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	2.8	8.4	10.1	5.6	12.8	10.1	3.9	2.8	16.2	1.7
		85 歳 以 上	(n= 188)	11.7	5.3	9.0	6.9	4.8	4.3	2.1	2.1	15.4	1.1
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	9.1	9.1	9.1	7.3	18.2	3.6	5.5	3.6	34.5	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	8.0	6.8	6.0	5.6	4.8	8.0	4.8	3.2	17.7	3.6
		85 歳 以 上	(n= 436)	9.9	9.4	4.4	5.3	2.5	1.4	2.8	1.8	11.7	0.9

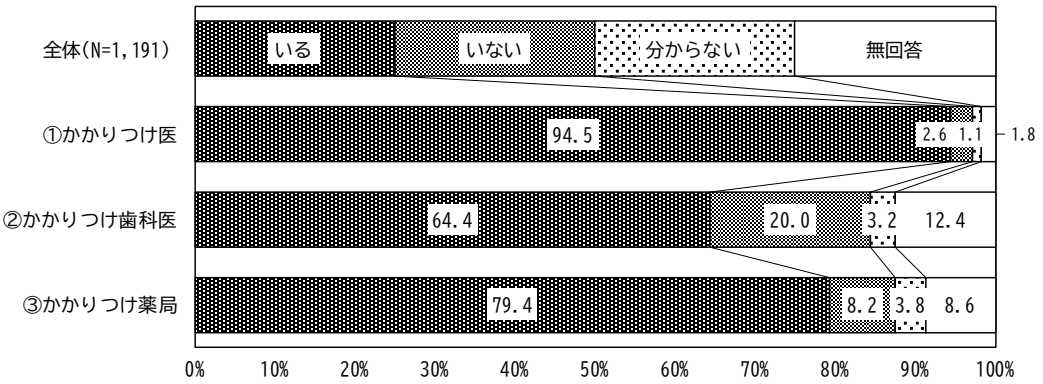
問４　あなたには、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから気軽に相談できる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」がいますか。（①から③のそれぞれ１つに○）

「いる」割合は、『①かかりつけ医』(94.5%)が最も多く、次いで『③かかりつけ薬局』(79.4%)、『②かかりつけ歯科医』（64.4%）となっている。

要介護度別にみると、要介護度（中重度）では『③かかりつけ薬局』（85.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど『①かかりつけ医』がいる割合は高くなっている。

図表　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（全体）



図表　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無
（全体、要介護度別、性別、性・年代別）

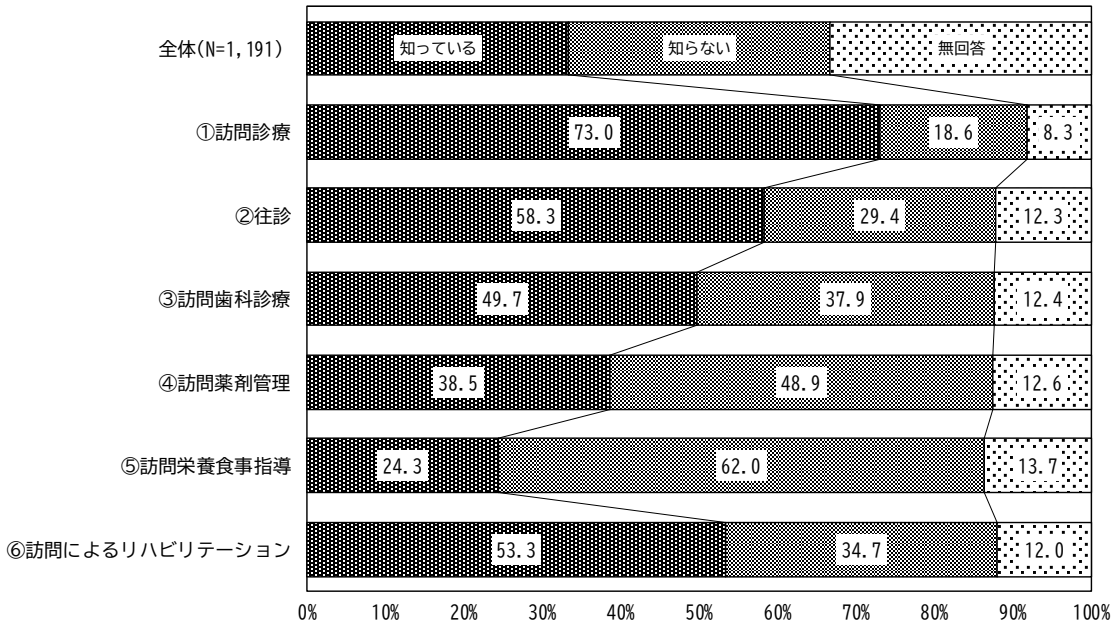
(%)

				①かかりつけ医				②かかりつけ歯科医				③かかりつけ薬局			
				いる	いない	分からない	無回答	いる	いない	分からない	無回答	いる	いない	分からない	無回答
全体			(N=1,191)	94.5	2.6	1.1	1.8	64.4	20.0	3.2	12.4	79.4	8.2	3.8	8.6
要介護度別	要支援		(n= 387)	93.0	2.6	1.8	2.6	68.0	15.8	2.6	13.7	79.3	7.8	3.6	9.3
	要介護（軽度）		(n= 460)	95.4	2.4	1.1	1.1	63.7	21.5	3.5	11.3	79.1	9.6	4.3	7.0
	要介護（中重度）		(n= 277)	96.0	2.9	0.4	0.7	62.5	24.5	3.6	9.4	85.2	5.4	3.6	5.8
性別	男性		(n= 432)	94.4	3.0	0.9	1.6	63.0	20.1	3.5	13.4	81.5	6.5	3.7	8.3
	女性		(n= 740)	95.1	2.4	0.9	1.5	65.5	20.0	3.0	11.5	78.5	9.5	3.8	8.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	89.2	6.2	3.1	1.5	50.8	32.3	6.2	10.8	75.4	16.9	4.6	3.1
		75～84歳	(n= 179)	93.9	3.9	0.6	1.7	63.7	22.3	1.7	12.3	86.6	5.0	1.7	6.7
		85歳以上	(n= 188)	96.8	1.1	0.5	1.6	66.5	13.8	4.3	15.4	78.7	4.3	5.3	11.7
	女性	65～74歳	(n= 55)	92.7	3.6	1.8	1.8	70.9	23.6	0.0	5.5	72.7	14.5	3.6	9.1
		75～84歳	(n= 249)	94.4	2.8	1.2	1.6	63.5	19.3	4.0	13.3	76.3	9.2	5.6	8.8
		85歳以上	(n= 436)	95.9	2.1	0.7	1.4	66.1	20.0	2.8	11.2	80.5	8.9	2.8	7.8

問５　在宅での療養が必要となった時に必要に応じ受けられるサービスがありますが、次のことを知っていますか。（①から⑥のそれぞれ１つに○）

「知っている」割合が高い在宅療養サービスは、『①訪問診療』(73.0) が最も多く、次いで『②往診』(58.3%)、『⑥訪問によるリハビリテーション』(53.3%)、『③訪問歯科診療』(49.7%) と続いている。

図表　在宅療養サービスの認知度（全体）



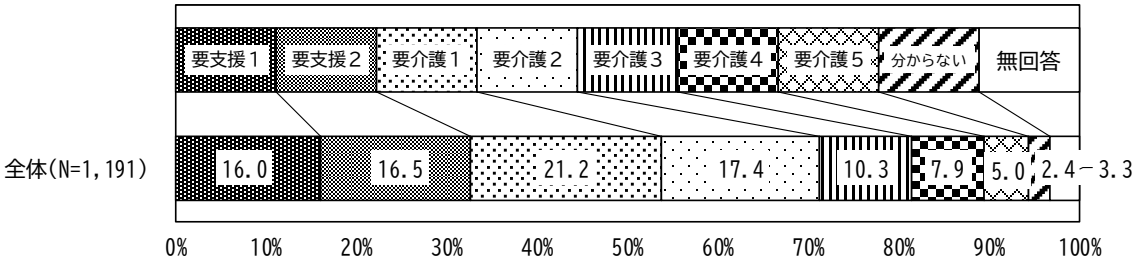
（４）介護保険

問６　あなたの要介護度は次のうちどれですか。（１つに○）
※令和７年 10月１日現在の要介護度でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、分かっている介護度でお答えください。

「要介護１」(21.2%) が最も多く、次いで「要介護２」(17.4%)、「要支援２」(16.5%)、「要支援１」(16.0%) と続いている。

家族構成別にみると、「要支援１」、「要支援２」、「要介護１」の割合は、１人暮らしが他の家族構成より高くなっている。

図表　要介護度（全体）



図表　要介護度（全体、性別、性・年代別、家族構成別）

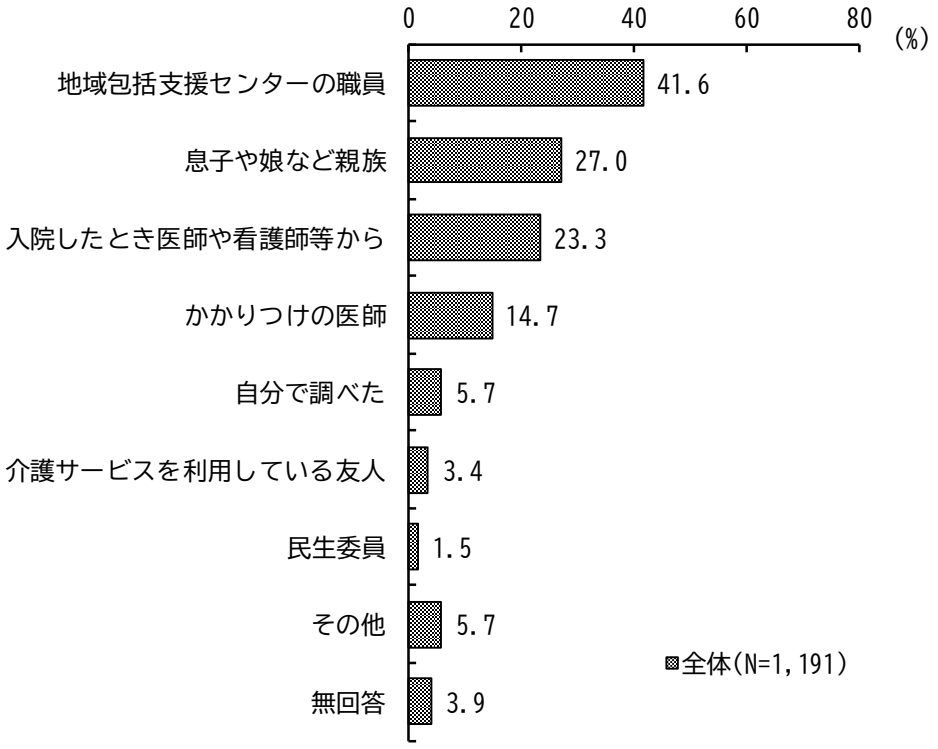
(%)

				要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	分からない	無回答
全体			(N=1,191)	16.0	16.5	21.2	17.4	10.3	7.9	5.0	2.4	3.3
性別	男性		(n= 432)	15.0	15.0	19.7	18.8	12.5	8.3	4.9	3.2	2.5
	女性		(n= 740)	16.5	17.6	22.4	16.6	9.2	7.6	5.1	1.8	3.2
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	9.2	21.5	20.0	23.1	10.8	7.7	3.1	1.5	3.1
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	14.0	16.8	19.6	15.1	11.7	10.1	5.0	4.5	3.4
		85 歳 以 上	(n= 188)	18.1	11.2	19.7	20.7	13.8	6.9	5.3	2.7	1.6
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	18.2	18.2	14.5	16.4	10.9	3.6	9.1	3.6	5.5
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	19.3	18.5	24.1	14.9	5.2	10.0	3.2	2.8	2.0
		85 歳 以 上	(n= 436)	14.7	17.0	22.5	17.7	11.2	6.7	5.7	0.9	3.7
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	24.1	25.0	23.8	9.6	4.3	3.7	2.8	3.7	3.1
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	16.9	15.0	18.1	21.2	11.3	7.1	3.7	2.5	4.3
	息子・娘と同居		(n= 382)	12.0	12.6	22.0	19.1	13.4	9.7	7.3	1.6	2.4
	その他		(n= 145)	6.9	12.4	20.0	21.4	13.8	13.8	7.6	1.4	2.8

問7　最初に要介護認定を受けたとき、どなたから申請を勧められましたか。（いくつでも○）

「地域包括支援センターの職員」(41.6%) が最も多く、次いで「息子や娘など親族」(27.0%)、「入院したとき医師や看護師等から」(23.3%)、「かかりつけの医師」(14.7%) と続いている。

図表　要介護認定を受けたきっかけ（全体：複数回答）



性別にみると、男性では「入院したとき医師や看護師等から」（28.9%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「地域包括支援センターの職員」、「息子・娘など親族」の割合は高くなっている。また、男性の 65～74 歳では「入院したとき医師や看護師等から」（50.8%）が最も多く、「地域包括支援センターの職員」（27.7%）と続いている。一方、女性の 65～74 歳では、「地域包括支援センターの職員」（40.0%）が最も多く、「入院したとき医師や看護師等から」（23.6%）と続いている。

図表　要介護認定を受けたきっかけ
（全体、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

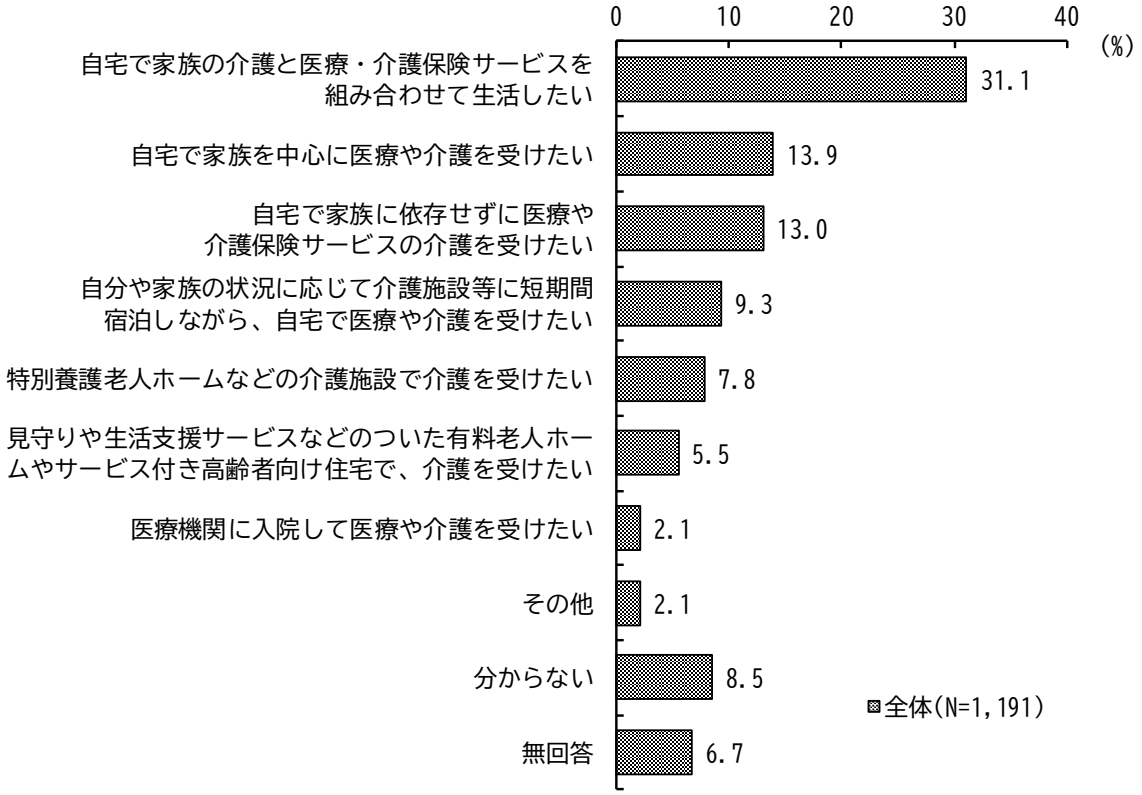
				地域包括支援センターの職員	息子や娘など親族	入院したとき医師や看護師等から	かかりつけの医師	自分で調べた	介護サービスを利用している友人	民生委員	その他	無回答
全体			(N=1,191)	41.6	27.0	23.3	14.7	5.7	3.4	1.5	5.7	3.9
性別	男性		(n= 432)	41.2	19.4	28.9	14.1	6.7	3.7	0.7	7.2	3.7
	女性		(n= 740)	42.0	31.6	20.4	15.4	5.3	3.4	2.0	4.7	3.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	27.7	6.2	50.8	10.8	7.7	3.1	0.0	10.8	4.6
		75～84歳	(n= 179)	42.5	16.2	30.7	17.3	7.3	3.4	1.1	6.1	2.8
		85歳以上	(n= 188)	44.7	27.1	19.7	12.2	5.9	4.3	0.5	6.9	4.3
	女性	65～74歳	(n= 55)	40.0	14.5	23.6	16.4	16.4	1.8	1.8	14.5	5.5
		75～84歳	(n= 249)	41.8	25.3	26.1	14.9	3.2	3.6	2.0	5.6	3.6
		85歳以上	(n= 436)	42.4	37.4	16.7	15.6	5.0	3.4	2.1	3.0	2.8
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	42.6	28.4	17.9	17.0	4.9	2.2	3.1	5.6	3.4
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	44.8	18.4	25.2	13.8	8.3	4.9	0.9	5.8	4.9
	息子・娘と同居		(n= 382)	39.5	32.5	23.3	14.4	4.5	2.6	0.5	4.7	2.9
	その他		(n= 145)	37.9	29.0	30.3	11.7	5.5	4.8	1.4	7.6	4.1

問8　今後、どのように生活したいとお考えですか。（もっとも当てはまるもの１つに○）

「自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい」（31.1%）が最も多く、次いで「自宅で家族を中心に医療や介護を受けたい」（13.9%）、「自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい」（13.0%）と続いている。

一方、「分からない」は 8.5%となっている。

図表　今度どのような生活を希望するか（全体）



要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい」、「自分や家族の状況に応じて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で医療や介護を受けたい」、「特別養護老人ホームなどの介護施設で介護を受けたい」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳、女性の 65～74 歳では、「自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい」が全体より 10 ポイント高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは、「自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい」（26.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　今度どのような生活を希望するか

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				自宅で家族の介護と医療・介護保険サービスを組み合わせて生活したい	自宅で家族を中心に医療や介護を受けたい	自宅で家族に依存せずに医療や介護保険サービスの介護を受けたい	自分や家族の状況に応じて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で医療や介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの介護施設で介護を受けたい	見守りや生活支援サービスなどのついた有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅で、介護を受けたい	医療機関に入院して医療や介護を受けたい	その他	分からない	無回答
全体			(N=1,191)	31.1	13.9	13.0	9.3	7.8	5.5	2.1	2.1	8.5	6.7
要介護度別	要支援		(n= 387)	23.3	14.5	21.2	5.9	5.7	5.9	2.8	2.3	13.2	5.2
	要介護（軽度）		(n= 460)	34.3	15.4	11.5	11.5	8.3	5.2	1.7	1.1	5.7	5.2
	要介護（中重度）		(n= 277)	39.0	12.3	5.4	12.3	11.2	4.7	1.4	3.2	5.1	5.4
性別	男性		(n= 432)	33.3	14.6	12.5	10.0	7.6	5.1	1.2	1.6	8.8	5.3
	女性		(n= 740)	30.0	13.6	13.5	8.9	7.8	5.8	2.6	2.4	8.1	7.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	35.4	7.7	23.1	7.7	4.6	6.2	0.0	0.0	12.3	3.1
		75～84歳	(n= 179)	30.2	16.8	12.8	12.3	6.1	3.4	0.6	2.2	8.9	6.7
		85歳以上	(n= 188)	35.6	14.9	8.5	8.5	10.1	6.4	2.1	1.6	7.4	4.8
	女性	65～74歳	(n= 55)	34.5	5.5	23.6	5.5	3.6	7.3	1.8	0.0	5.5	12.7
		75～84歳	(n= 249)	25.7	12.0	16.9	10.4	7.6	4.8	2.0	2.8	10.8	6.8
		85歳以上	(n= 436)	31.9	15.6	10.3	8.5	8.5	6.2	3.0	2.5	6.9	6.7
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	17.6	5.2	26.2	6.2	7.4	10.2	3.7	2.2	13.6	7.7
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	35.0	17.2	10.1	11.0	6.7	1.8	1.8	2.1	7.7	6.4
	息子・娘と同居		(n= 382)	39.5	19.4	7.6	11.3	7.3	2.1	1.0	0.5	6.3	5.0
	その他		(n= 145)	28.3	13.1	5.5	8.3	13.1	11.0	2.1	5.5	4.8	8.3

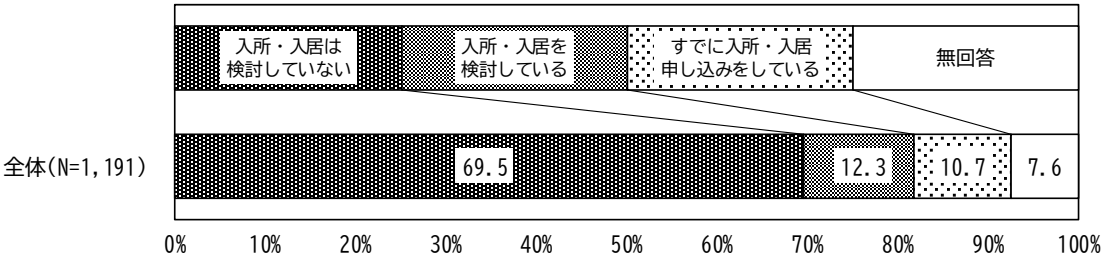
問９　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況についてうかがいます。（１つに○）

「入所・入居は検討していない」が 69.5%、「入所・入居を検討している」が 12.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.7%、となっている。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「入所・入居を検討している」、「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦２人暮らしでは「入所・入居は検討していない」（75.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　施設入所の検討状況（全体）



図表　施設入所の検討状況（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

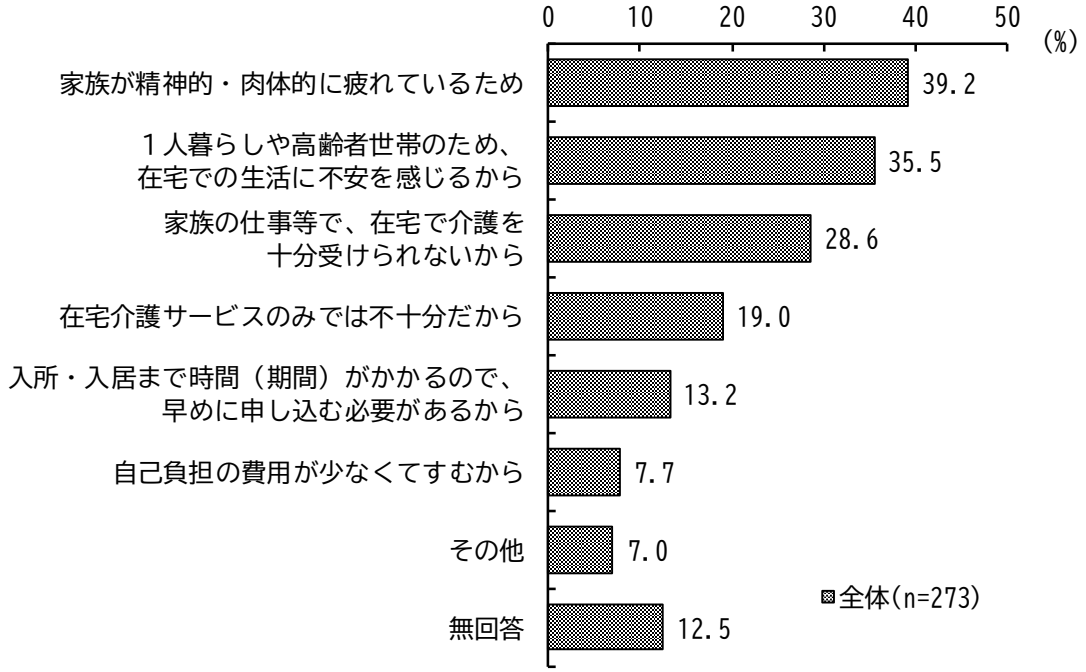
（%）

				入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
全体			(N=1,191)	69.5	12.3	10.7	7.6
要介護度別	要支援		(n= 387)	78.8	9.8	3.6	7.8
	要介護（軽度）		(n= 460)	71.5	12.4	10.4	5.7
	要介護（中重度）		(n= 277)	56.3	17.3	22.0	4.3
性別	男性		(n= 432)	71.1	12.7	10.0	6.3
	女性		(n= 740)	68.9	12.2	11.2	7.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	76.9	12.3	4.6	6.2
		75～84歳	(n= 179)	71.5	12.8	8.9	6.7
		85歳以上	(n= 188)	68.6	12.8	12.8	5.9
	女性	65～74歳	(n= 55)	76.4	7.3	7.3	9.1
		75～84歳	(n= 249)	73.1	10.0	6.0	10.8
		85歳以上	(n= 436)	65.6	14.0	14.7	5.7
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	67.9	13.3	10.8	8.0
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	75.5	11.7	4.3	8.6
	息子・娘と同居		(n= 382)	72.8	12.3	8.9	6.0
	その他		(n= 145)	53.8	11.7	27.6	6.9

問９-１　問９で「入所・入居を検討している」又は「すでに入所・入居申し込みをしている」とお答えの方におたずねします
申し込みをしている又は検討している理由は何ですか。（いくつでも○）

「家族が精神的・肉体的に疲れているため」（39.2%）が最も多く、次いで「１人暮らしや高齢者世帯のため、在宅での生活に不安を感じるから」（35.5%）、「家族の仕事等で、在宅で介護を十分受けられないから」（28.6%）と続いている。

図表　申込みを検討している理由
（入所・入居を検討又は申込みをしている人：複数回答）



要介護度別にみると、要介護が高くなるほど「在宅介護サービスのみでは不十分だから」、「家族が精神的・肉体的に疲れているため」の割合は高くなっている。また、要支援では「１人暮らしや高齢者世帯のため、在宅での生活に不安を感じるから」（59.6%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「１人暮らしや高齢者世帯のため、在宅での生活に不安を感じるから」（73.1%）が全体より 30 ポイント以上高くなっている。また、夫婦２人暮らし、息子・娘と同居では「家族が精神的・肉体的に疲れているため」（夫婦２人暮らし：50.0%、息子・娘と同居：54.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　申込みを検討している理由
（入所・入居を検討又は申込みをしている人、要介護度別、
性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

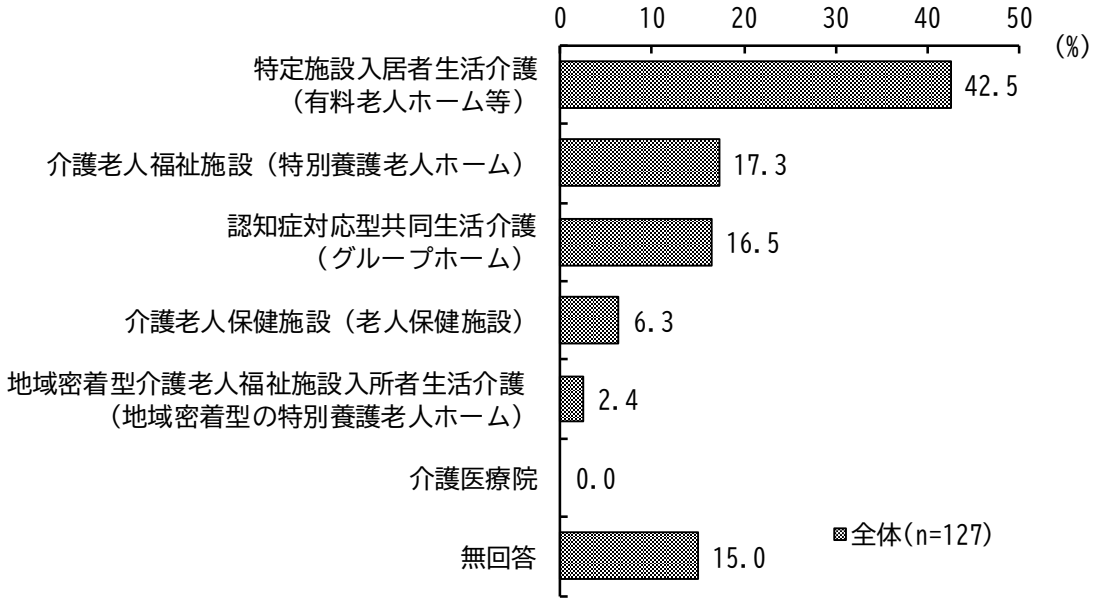
（%）

				家族が精神的・肉体的に疲れているため	1人暮らしや高齢者世帯のため、在宅での生活に不安を感じるから	家族の仕事等で、在宅で介護を十分受けられないから	在宅介護サービスのみでは不十分だから	入所・入居まで時間（期間）がかかるので、早めに申し込む必要があるから	自己負担の費用が少なくてすむから	その他	無回答
全体			(n= 273)	39.2	35.5	28.6	19.0	13.2	7.7	7.0	12.5
要介護度別	要支援		(n= 52)	23.1	59.6	34.6	13.5	15.4	15.4	11.5	1.9
	要介護（軽度）		(n= 105)	42.9	38.1	27.6	15.2	10.5	3.8	7.6	11.4
	要介護（中重度）		(n= 109)	43.1	22.9	28.4	26.6	15.6	8.3	4.6	16.5
性別	男性		(n= 98)	40.8	32.7	26.5	21.4	14.3	7.1	10.2	12.2
	女性		(n= 173)	38.7	37.0	29.5	17.9	12.7	8.1	5.2	12.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 11)	36.4	54.5	27.3	9.1	18.2	18.2	9.1	9.1
		75～84歳	(n= 39)	43.6	30.8	28.2	25.6	12.8	5.1	10.3	10.3
		85歳以上	(n= 48)	39.6	29.2	25.0	20.8	14.6	6.3	10.4	14.6
	女性	65～74歳	(n= 8)	37.5	50.0	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0
		75～84歳	(n= 40)	35.0	40.0	30.0	10.0	20.0	12.5	2.5	15.0
		85歳以上	(n= 125)	40.0	35.2	28.8	20.0	10.4	7.2	5.6	12.8
家族構成別	1人暮らし		(n= 78)	20.5	73.1	28.2	14.1	9.0	7.7	7.7	6.4
	夫婦2人暮らし		(n= 52)	50.0	34.6	21.2	17.3	21.2	9.6	3.8	13.5
	息子・娘と同居		(n= 81)	54.3	7.4	38.3	28.4	17.3	7.4	8.6	9.9
	その他		(n= 57)	33.3	26.3	22.8	14.0	5.3	7.0	7.0	21.1

問９-２　問９で「すでに入所・入居申し込みをしている」とお答えの方におたずねします
入所・入居申し込みをした施設・居住系サービスの種類は何ですか。（１つに○）

「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）」（42.5%）が最も多く、次いで「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」（17.3%）、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」（16.5%）と続いている。

図表　入所・入居申込みをした施設・居住系サービスの種類
（入所・入居申込みをしている人）



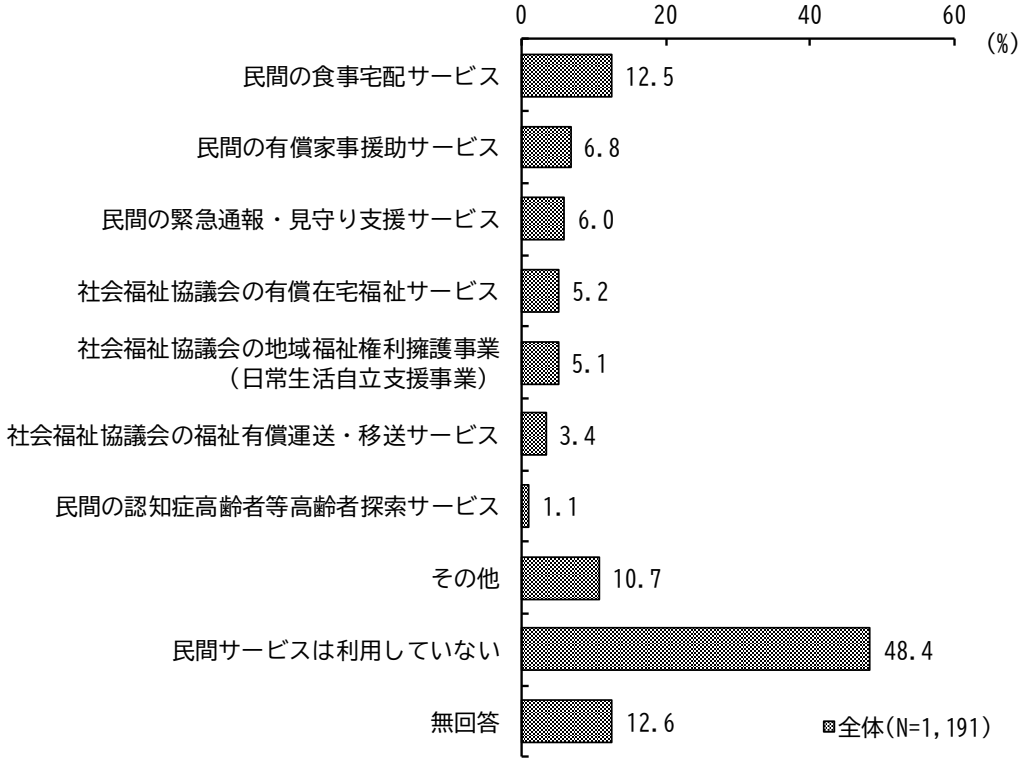
（５）福祉サービス

問 10　あなたは、以下のような民間サービスを利用していますか。（いくつでも○）

「民間の食事宅配サービス」（12.5%）が最も多く、次いで「民間の有償家事援助サービス」（6.8%）、「民間の緊急通報・見守り支援サービス」（6.0%）、「社会福祉協議会の有償在宅福祉サービス」（5.2%）と続いている。

一方、「民間サービスは利用していない」は 48.4%となっている。

図表　利用している民間サービス（全体：複数回答）

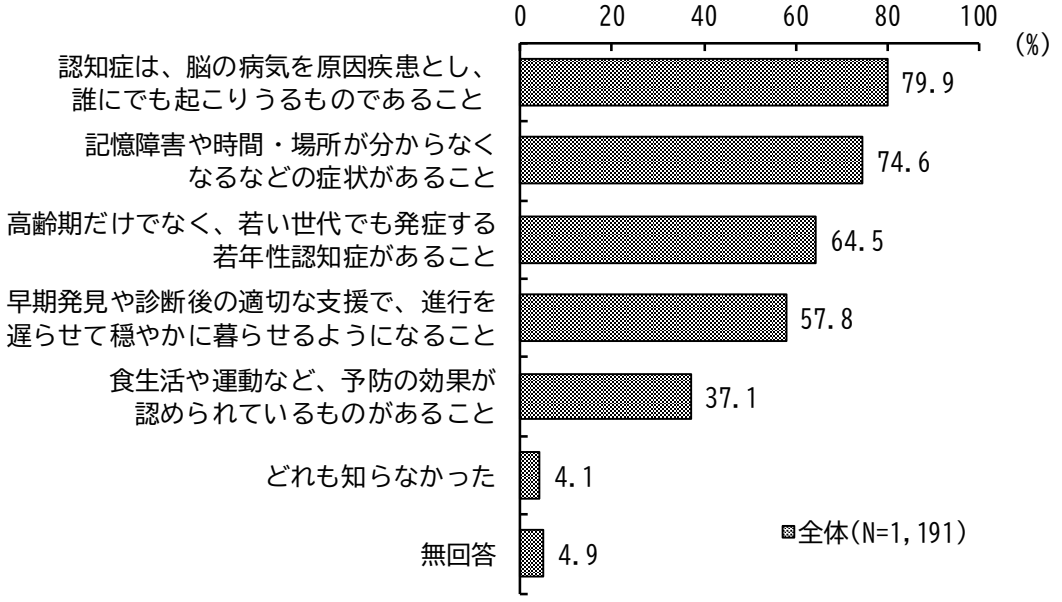


（６）認知症

問 11　あなたは認知症について、どのようなことを知っていますか。（いくつでも○）

「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」（79.9%）が最も多く、次いで「記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること」（74.6%）、「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（64.5%）、「早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること」（57.8%）と続いている。一方、「どれも知らなかった」は 4.1%となっている。

図表　認知症について知っていること（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要支援では「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（75.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「食生活や運動など、予防の効果が認められるものがあること」（58.2%）、「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（85.5%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症について知っていること

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

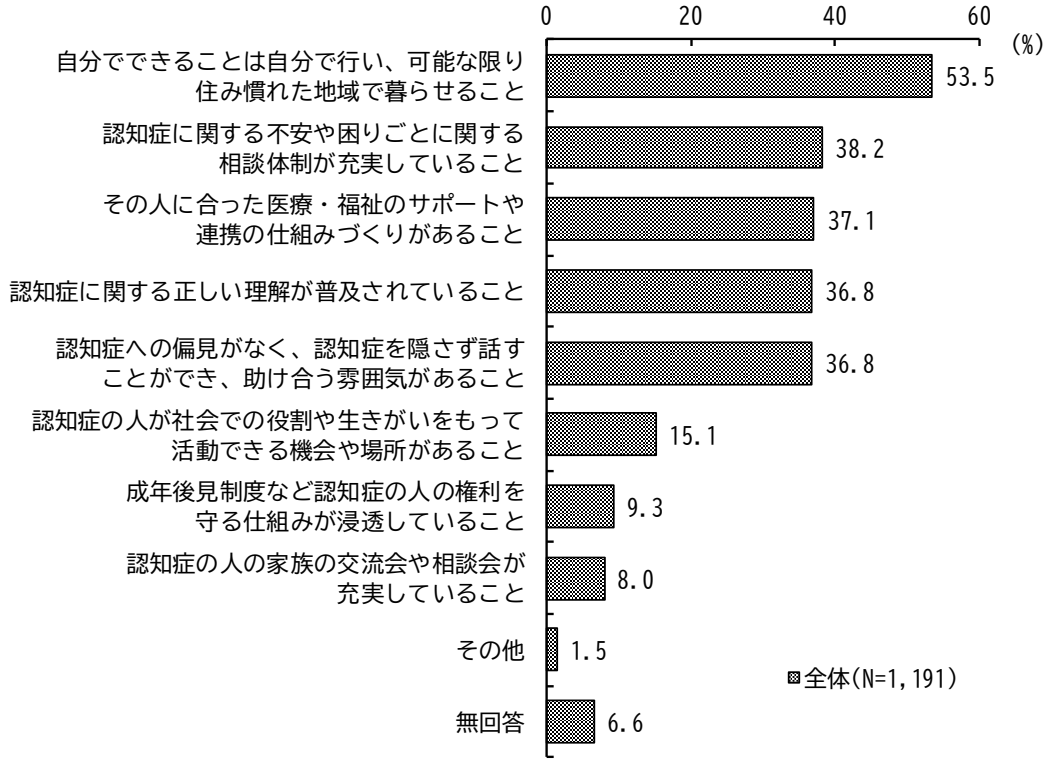
（%）

				認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること	記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること	高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること	早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること	食生活や運動など、予防の効果が認められているものがあること	どれも知らなかった	無回答
全体			(N=1,191)	79.9	74.6	64.5	57.8	37.1	4.1	4.9
要介護度別	要支援		(n= 387)	82.9	76.7	75.2	66.4	37.5	1.6	4.7
	要介護（軽度）		(n= 460)	79.6	73.3	59.1	54.6	34.8	5.9	4.1
	要介護（中重度）		(n= 277)	79.1	78.3	61.7	56.7	42.2	4.3	4.7
性別	男性		(n= 432)	81.3	69.9	60.9	54.9	36.1	5.8	4.6
	女性		(n= 740)	79.6	77.8	67.4	59.9	38.0	3.2	4.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	81.5	75.4	69.2	58.5	36.9	7.7	4.6
		75～84歳	(n= 179)	83.2	68.7	59.8	56.4	40.2	4.5	4.5
		85歳以上	(n= 188)	79.3	69.1	59.0	52.1	31.9	6.4	4.8
	女性	65～74歳	(n= 55)	87.3	89.1	85.5	72.7	58.2	1.8	3.6
		75～84歳	(n= 249)	80.3	73.5	68.7	60.6	38.6	2.8	7.2
		85歳以上	(n= 436)	78.2	78.9	64.4	57.8	35.1	3.7	3.4
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	80.9	75.3	65.7	53.4	34.9	2.8	6.5
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	82.5	73.0	69.3	66.9	42.9	4.3	3.7
	息子・娘と同居		(n= 382)	78.3	76.4	61.5	55.5	33.0	5.5	3.9
	その他		(n= 145)	75.9	75.9	61.4	55.2	40.7	3.4	5.5

問 12　あなたは、認知症になっても、住み慣れた地域で生活を送るためには何が必要だと考えますか。（３つまでに○）

「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること」（53.5%）が最も多く、次いで「認知症に関する不安や困りごとに関する相談体制が充実していること」（38.2%）、「その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること」（37.1%）と続いている。

図表　認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要支援と要介護（軽度）では「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること」が最も多く、要介護度（中重度）では「認知症に関する不安や困りごとに関する相談体制が充実していること」が最も多くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では「その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること」（50.9%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

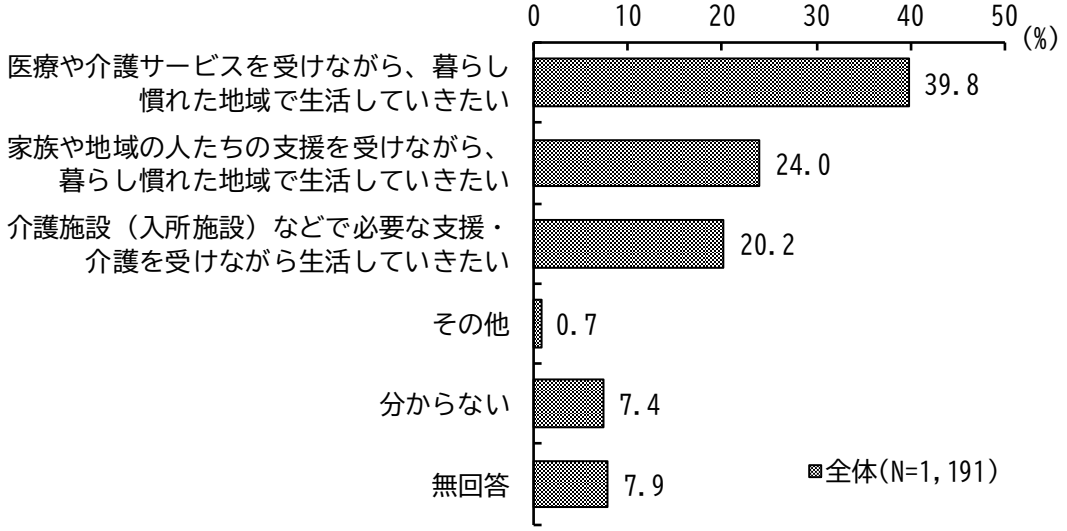
（%）

				自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせること	認知症に関する不安や困りごとに関する相談体制が充実していること	その人に合った医療・福祉のサポートや連携の仕組みづくりがあること	認知症に関する正しい理解が普及されていること	認知症への偏見がなく、認知症を隠さず話すことができ、助け合う雰囲気があること	認知症の人が社会での役割や生きがいをもって活動できる機会や場所があること	成年後見制度など認知症の人の権利を守る仕組みが浸透していること	認知症の人の家族の交流会や相談会が充実していること	その他	無回答
全体			(N=1,191)	53.5	38.2	37.1	36.8	36.8	15.1	9.3	8.0	1.5	6.6
要介護度別	要支援		(n= 387)	60.5	34.4	36.2	39.3	40.1	14.2	11.6	9.3	1.3	4.7
	要介護（軽度）		(n= 460)	55.0	37.8	37.2	35.0	37.0	15.4	7.8	8.0	2.0	6.1
	要介護（中重度）		(n= 277)	40.8	47.3	40.8	36.8	34.7	17.3	8.3	6.9	0.7	7.9
性別	男性		(n= 432)	50.2	40.3	35.2	42.6	38.2	13.9	8.8	6.0	1.6	5.8
	女性		(n= 740)	55.1	37.3	38.8	33.8	35.5	15.7	9.7	9.1	1.5	6.9
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	56.9	38.5	46.2	44.6	29.2	3.1	12.3	1.5	0.0	4.6
		75～84歳	(n= 179)	50.8	39.1	34.1	41.9	35.2	15.6	8.9	6.7	2.8	6.1
		85歳以上	(n= 188)	47.3	42.0	32.4	42.6	44.1	16.0	7.4	6.9	1.1	5.9
	女性	65～74歳	(n= 55)	45.5	40.0	50.9	30.9	30.9	12.7	14.5	9.1	1.8	10.9
		75～84歳	(n= 249)	52.6	32.1	39.4	35.7	38.6	15.3	9.6	6.0	1.2	7.6
		85歳以上	(n= 436)	57.8	39.9	36.9	33.0	34.4	16.3	9.2	10.8	1.6	6.0
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	62.3	33.3	35.8	31.5	33.6	15.4	9.9	6.8	1.9	8.3
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	54.0	39.9	34.0	39.9	42.6	16.0	7.7	7.7	1.2	4.9
	息子・娘と同居		(n= 382)	47.9	42.4	37.4	39.0	34.8	15.7	10.2	10.7	1.3	6.5
	その他		(n= 145)	50.3	35.2	48.3	34.5	35.2	12.4	10.3	4.8	2.1	4.8

問 13　認知症の人の暮らし方はさまざまです。あなたは認知症になったら、どのように暮らしたいですか。既に認知症の方は、今後どのように暮らしたいですか。
（もっとも当てはまるもの１つに○）

「医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」（39.8%）が最も多く、次いで「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」（24.0%）、「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」（20.2%）と続いている。

図表　認知症になった場合の暮らしへの意向（全体）



要介護度別にみると、すべての介護度で「医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」が最も多く、要支援では「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」、要介護（軽度）、要介護（中重度）では「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」と続いている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」（26.2%）、息子・娘と同居では「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」（32.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　認知症になった場合の暮らしへの意向
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい	その他	分からない	無回答
全体			(N=1,191)	39.8	24.0	20.2	0.7	7.4	7.9
要介護度別	要支援		(n= 387)	43.7	18.9	22.2	0.3	7.0	8.0
	要介護（軽度）		(n= 460)	37.4	27.6	17.8	0.7	9.1	7.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	40.8	24.5	23.8	1.4	4.3	5.1
性別	男性		(n= 432)	39.1	26.6	18.3	0.5	8.1	7.4
	女性		(n= 740)	40.5	22.7	21.4	0.8	7.0	7.6
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	46.2	10.8	26.2	0.0	12.3	4.6
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	37.4	30.7	17.9	0.6	6.1	7.3
		85 歳 以 上	(n= 188)	38.3	28.2	16.0	0.5	8.5	8.5
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	45.5	18.2	21.8	1.8	10.9	1.8
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	40.6	23.3	20.5	0.4	6.4	8.8
		85 歳 以 上	(n= 436)	39.9	22.9	21.8	0.9	6.9	7.6
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	43.2	13.9	26.2	0.3	9.0	7.4
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	42.6	25.2	16.3	0.3	7.4	8.3
	息子・娘と同居		(n= 382)	38.7	32.2	14.7	0.3	7.9	6.3
	その他		(n= 145)	30.3	22.1	31.7	3.4	3.4	9.0

（７）地域生活と日ごろの活動

問 14　あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を１０点、「とても不幸」を０点とした場合、あなたはどれぐらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。（１つに○）

「８点」（19.6%）が最も多く、次いで「５点」（19.3%）、「７点」（15.2%）、「10 点」（13.4%）、「６点」（9.6%）と続いている。

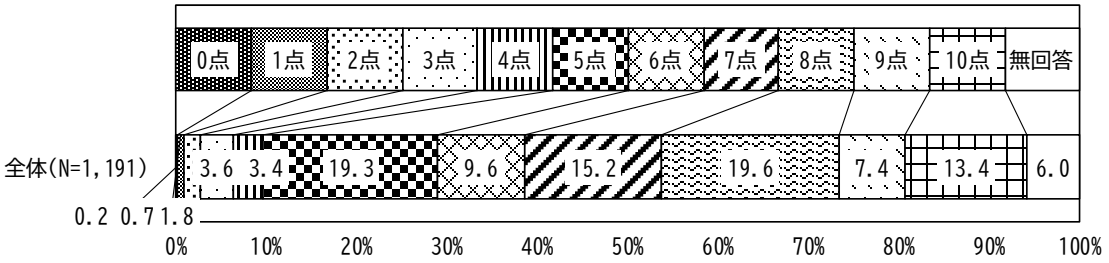
「８点以上」の割合は 40.4%、「２点以下」の割合は 2.7%となっている。

要介護度別にみると、要支援、要介護（軽度）では「８点」（要支援：20.2%、要介護（軽度）：18.9%）、要介護（重度）では「５点」（25.6%）が最も多くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では、「３点」（15.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。平均点は、女性の 65～74 歳、85 歳以上が 7.2 点で最も高く、男性の 65～74 歳が 5.7 点で最も低くなっている。

家族構成別にみると、平均点は、息子・娘と同居、その他が 7.0 点で最も高く、１人暮らしが 6.6 点で最も低くなっている。

図表　主観的幸福度（全体）



図表　主観的幸福度
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点
全体			(N=1,191)	0.2	0.7	1.8	3.6	3.4	19.3	9.6	15.2	19.6	7.4	13.4	6.0	6.9
要介護度別	要支援		(n= 387)	0.0	0.8	1.6	3.6	2.8	17.6	10.9	13.7	20.2	10.3	14.2	4.4	7.0
	要介護（軽度）		(n= 460)	0.2	0.4	2.0	3.9	4.1	18.0	10.2	16.3	18.9	5.7	14.3	5.9	6.8
	要介護（中重度）		(n= 277)	0.4	0.0	2.2	3.6	2.9	25.6	7.6	15.2	19.9	6.1	8.7	7.9	6.6
性別	男性		(n= 432)	0.2	1.2	1.2	4.9	3.5	21.8	10.4	16.4	19.4	5.1	10.4	5.6	6.6
	女性		(n= 740)	0.1	0.4	1.9	3.0	3.2	18.2	9.2	14.2	19.9	8.6	15.1	6.1	7.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	0.0	4.6	3.1	15.4	4.6	18.5	12.3	18.5	7.7	6.2	7.7	1.5	5.7
		75～84歳	(n= 179)	0.0	0.6	1.7	2.8	3.4	21.8	11.7	15.1	23.5	4.5	8.4	6.7	6.7
		85歳以上	(n= 188)	0.5	0.5	0.0	3.2	3.2	22.9	8.5	17.0	19.7	5.3	13.3	5.9	6.9
	女性	65～74歳	(n= 55)	0.0	1.8	5.5	3.6	1.8	7.3	3.6	18.2	20.0	10.9	16.4	10.9	7.2
		75～84歳	(n= 249)	0.4	0.0	2.8	4.0	4.8	18.1	14.1	13.7	17.7	5.6	12.0	6.8	6.7
		85歳以上	(n= 436)	0.0	0.5	0.9	2.3	2.5	19.7	7.1	14.0	21.1	10.1	16.7	5.0	7.2
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	0.3	1.2	2.2	4.6	4.0	21.0	9.0	15.4	19.1	6.8	11.7	4.6	6.6
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	0.0	0.6	1.5	4.3	3.4	18.7	11.7	14.7	17.2	8.0	14.1	5.8	6.9
	息子・娘と同居		(n= 382)	0.3	0.5	1.6	2.6	2.6	19.4	7.9	15.4	21.5	6.8	14.9	6.5	7.0
	その他		(n= 145)	0.0	0.0	1.4	2.8	4.1	17.9	9.7	15.9	20.7	9.7	11.0	6.9	7.0

問 15　あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。（１つに○）

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」（34.5%）が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(28.5%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(11.8%)と続いている。

要介護度別にみると、要支援では「個人的なことを相談し合える人がいる」（19.4%)、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」（33.9%)、要介護（中重度）では「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」（18.4%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

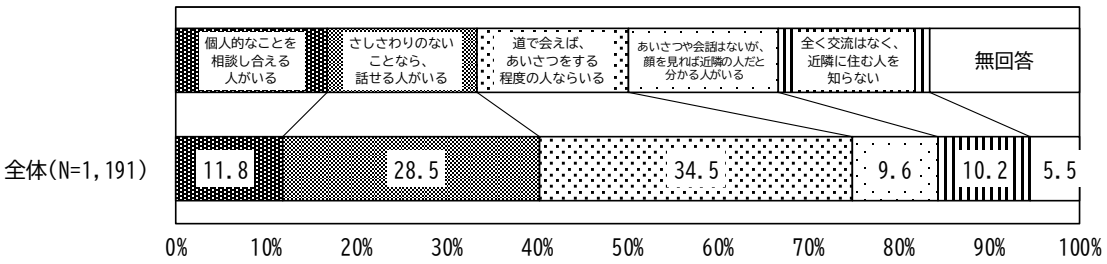
性別にみると、男性では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」（41.0%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性は年代が高くなるほど「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」の割合は増えている。また、女性の 65～74 歳では、「個人的なことを相談し合える人がいる」（21.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「個人的なことを相談し合える人がいる」（19.1%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

居住圏域別にみると、「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合は、四谷（16.4%）が最も多くなっている。また、武蔵台では「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(39.3%)が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　近所づきあいの程度（全体）



図表　近所づきあいの程度

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別）

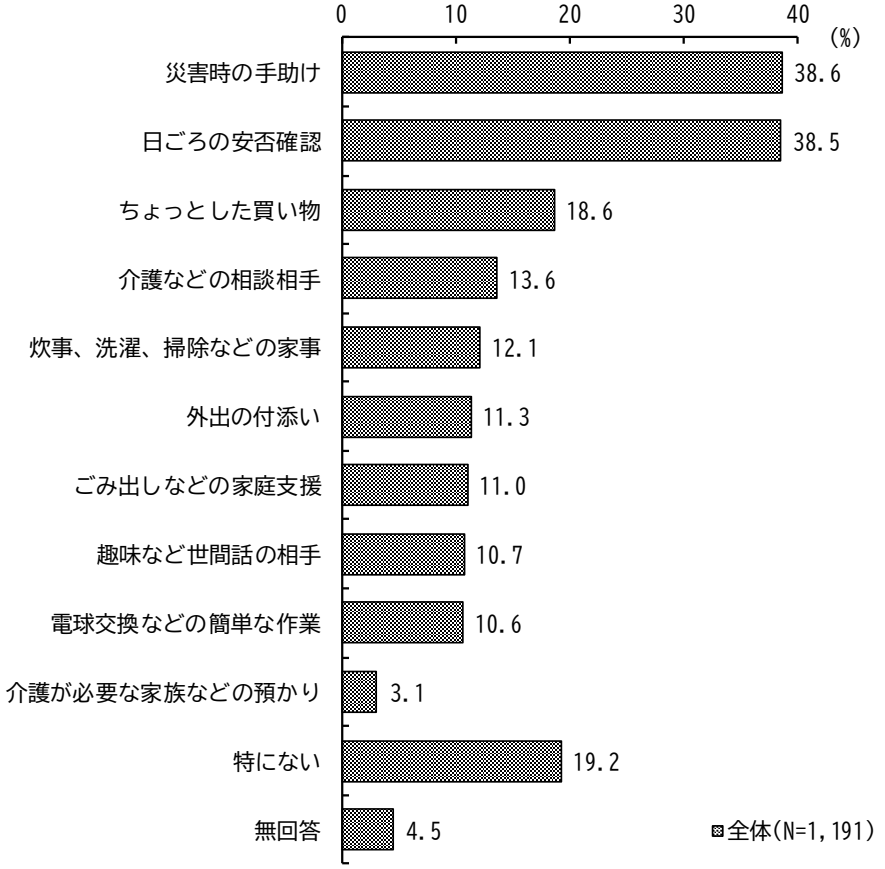
（%）

				個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
全体			(N=1,191)	11.8	28.5	34.5	9.6	10.2	5.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	19.4	33.9	32.6	7.0	3.6	3.6
	要介護（軽度）		(n= 460)	9.8	27.4	36.7	10.0	10.7	5.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	4.3	25.3	32.9	12.6	18.4	6.5
性別	男性		(n= 432)	5.1	25.2	41.0	14.1	9.7	4.9
	女性		(n= 740)	15.8	30.1	31.2	6.9	10.4	5.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	4.6	26.2	32.3	15.4	18.5	3.1
		75～84歳	(n= 179)	3.9	24.0	40.8	16.8	8.9	5.6
		85歳以上	(n= 188)	6.4	26.1	44.1	11.2	7.4	4.8
	女性	65～74歳	(n= 55)	21.8	16.4	27.3	14.5	12.7	7.3
		75～84歳	(n= 249)	18.5	28.9	31.7	5.6	9.6	5.6
		85歳以上	(n= 436)	13.5	32.6	31.4	6.7	10.6	5.3
家族構成別	１人暮らし		(n= 324)	19.1	29.3	28.4	8.6	7.7	6.8
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	10.1	29.1	36.2	11.0	9.2	4.3
	息子・娘と同居		(n= 382)	9.4	28.3	37.7	8.1	12.0	4.5
	その他		(n= 145)	6.2	25.5	35.9	11.7	13.1	7.6
居住圏域別	中央		(n= 198)	11.6	22.2	43.4	7.1	12.1	3.5
	白糸台		(n= 108)	15.7	32.4	26.9	11.1	5.6	8.3
	西府		(n= 78)	12.8	26.9	30.8	14.1	11.5	3.8
	武蔵台		(n= 84)	11.9	39.3	33.3	6.0	3.6	6.0
	新町		(n= 124)	12.1	27.4	33.9	12.1	9.7	4.8
	住吉		(n= 135)	11.9	30.4	34.8	8.9	10.4	3.7
	是政		(n= 110)	11.8	29.1	34.5	6.4	11.8	6.4
	紅葉丘		(n= 97)	14.4	27.8	30.9	8.2	11.3	7.2
	押立		(n= 58)	8.6	37.9	22.4	13.8	8.6	8.6
	四谷		(n= 55)	16.4	30.9	25.5	10.9	10.9	5.5
	片町		(n= 131)	6.9	23.7	39.7	11.5	13.0	5.3

問 16　あなたが、高齢や病気などで日常生活が不自由になったとき、隣近所の人に手助けしてもらうとしたらどんなことをしてほしいですか。（３つまでに○）

「災害時の手助け」（38.6%）が最も多く、次いで「日ごろの安否確認」（38.5%）、「ちょっとした買い物」（18.6%）、「介護などの相談相手」（13.6%）と続いている。

図表　日常生活が不自由になったとき隣近所の人にしてほしい手助け
（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要支援では「ちょっとした買い物」（24.0%）が全体より５ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では「災害時の手助け」（49.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。また、男女ともに年代が高くなるほど「日ごろの安否確認」の割合が高くなっている。

図表　日常生活が不自由になったとき隣近所の人にしてほしい手助け
（全体、要介護度別、性別、性・年代別：複数回答）

(%)

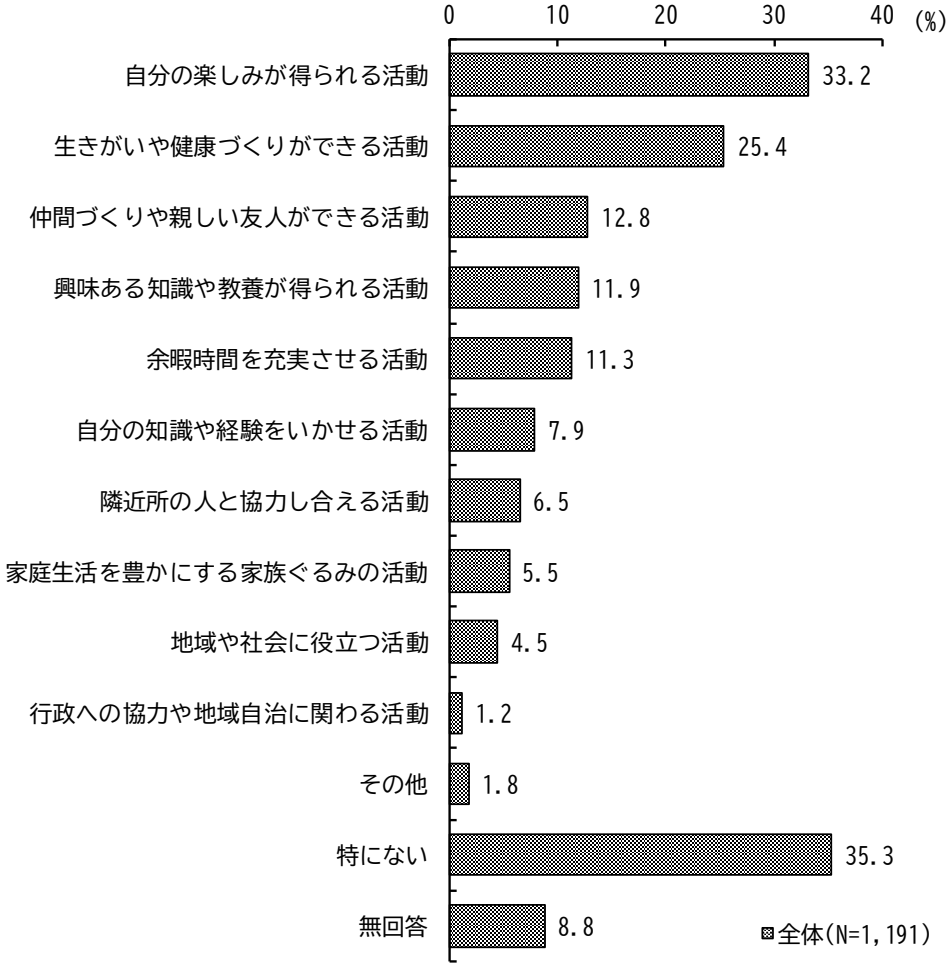
				災害時の手助け	日ごろの安否確認	ちょっとした買い物	介護などの相談相手	炊事、洗濯、掃除などの家事	外出の付添い
全体			(N=1,191)	38.6	38.5	18.6	13.6	12.1	11.3
要介護度別	要支援		(n= 387)	38.8	38.5	24.0	12.9	12.7	11.9
	要介護（軽度）		(n= 460)	37.4	38.0	15.2	14.6	12.6	12.0
	要介護（中重度）		(n= 277)	40.8	41.2	16.6	14.4	10.1	10.8
性別	男性		(n= 432)	40.3	38.2	17.6	14.1	13.4	11.3
	女性		(n= 740)	38.1	39.2	19.1	13.4	11.1	11.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	47.7	23.1	18.5	6.2	13.8	15.4
		75～84歳	(n= 179)	32.4	38.0	16.8	15.6	17.3	12.3
		85歳以上	(n= 188)	45.2	43.6	18.1	15.4	9.6	9.0
	女性	65～74歳	(n= 55)	49.1	32.7	20.0	10.9	20.0	7.3
		75～84歳	(n= 249)	33.7	38.6	20.1	15.3	15.3	12.0
		85歳以上	(n= 436)	39.2	40.4	18.3	12.6	7.6	11.0

				ごみ出しなどの家庭支援	趣味など世間話の相手	電球交換などの簡単な作業	介護が必要な家族などの預かり	特にない	無回答
全体			(N=1,191)	11.0	10.7	10.6	3.1	19.2	4.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	12.7	13.4	11.1	2.1	17.6	3.1
	要介護（軽度）		(n= 460)	10.9	8.9	12.6	2.8	20.4	3.7
	要介護（中重度）		(n= 277)	7.9	10.8	6.5	4.7	19.9	6.5
性別	男性		(n= 432)	12.3	9.3	11.6	2.3	19.2	4.2
	女性		(n= 740)	10.3	11.8	9.7	3.4	19.3	4.6
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	16.9	6.2	18.5	1.5	20.0	1.5
		75～84歳	(n= 179)	11.7	9.5	11.2	2.2	19.6	2.8
		85歳以上	(n= 188)	11.2	10.1	9.6	2.7	18.6	6.4
	女性	65～74歳	(n= 55)	14.5	14.5	12.7	5.5	16.4	5.5
		75～84歳	(n= 249)	12.0	10.8	11.6	3.6	18.1	5.2
		85歳以上	(n= 436)	8.7	11.9	8.3	3.0	20.4	4.1

問 17　あなたが、これから参加したい活動はどのようなものですか。（３つまでに○）

「自分の楽しみが得られる活動」（33.2%）が最も多く、次いで「生きがいや健康づくりができる活動」（25.4%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（12.8%）、「興味ある知識や教養が得られる活動」（11.9%）と続いている。一方、「特にない」は 35.3%となっている。

図表　これから参加したい活動（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「特にない」の割合は高くなっている。また、要介護（中重度）では「余暇時間を充実させる活動」以外の項目が、全体より低い割合となっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「自分の楽しみが得られる活動」（41.8%）が全体より５ポイント以上高く、「余暇時間を充実させる活動」（21.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。一方、男性の 75～84 歳では「特にない」（42.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　これから参加したい活動

（全体、要介護度別、性別、性・年代別：複数回答）

（%）

				自分の楽しみが得られる活動	生きがいや健康づくりができる活動	仲間づくりや親しい友人ができる活動	興味ある知識や教養が得られる活動	余暇時間を充実させる活動	自分の知識や経験をいかせる活動	隣近所の人と協力し合える活動
全体			(N=1,191)	33.2	25.4	12.8	11.9	11.3	7.9	6.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	35.4	29.5	15.5	15.5	10.6	9.3	8.0
	要介護（軽度）		(n= 460)	34.6	25.0	13.5	12.0	12.0	7.2	5.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	28.2	19.9	7.9	6.9	11.6	6.5	6.1
性別	男性		(n= 432)	30.8	22.9	10.0	13.4	12.0	10.2	6.5
	女性		(n= 740)	34.6	27.0	14.2	10.9	10.9	6.6	6.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	30.8	23.1	10.8	20.0	16.9	12.3	3.1
		75～84歳	(n= 179)	26.3	22.9	10.1	14.0	10.1	8.4	7.3
		85歳以上	(n= 188)	35.1	22.9	9.6	10.6	12.2	11.2	6.9
	女性	65～74歳	(n= 55)	41.8	23.6	16.4	12.7	21.8	12.7	3.6
		75～84歳	(n= 249)	36.5	29.3	13.7	13.3	11.2	8.8	8.0
		85歳以上	(n= 436)	32.6	26.1	14.2	9.4	9.4	4.6	5.3

				家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動	地域や社会に役立つ活動	行政への協力や地域自治に関わる活動	その他	特にない	無回答
全体			(N=1,191)	5.5	4.5	1.2	1.8	35.3	8.8
要介護度別	要支援		(n= 387)	5.9	5.9	1.0	2.3	32.6	7.0
	要介護（軽度）		(n= 460)	6.5	3.7	1.7	1.3	33.5	10.0
	要介護（中重度）		(n= 277)	3.2	3.6	0.4	1.8	43.3	8.3
性別	男性		(n= 432)	6.7	4.6	1.6	1.9	38.2	7.9
	女性		(n= 740)	4.6	4.5	0.9	1.9	33.8	9.3
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	4.6	3.1	4.6	3.1	35.4	3.1
		75～84歳	(n= 179)	6.7	7.3	0.0	1.7	42.5	7.3
		85歳以上	(n= 188)	7.4	2.7	2.1	1.6	35.1	10.1
	女性	65～74歳	(n= 55)	5.5	7.3	0.0	1.8	27.3	10.9
		75～84歳	(n= 249)	3.6	6.0	1.6	1.2	28.9	10.8
		85歳以上	(n= 436)	5.0	3.2	0.7	2.3	37.4	8.3

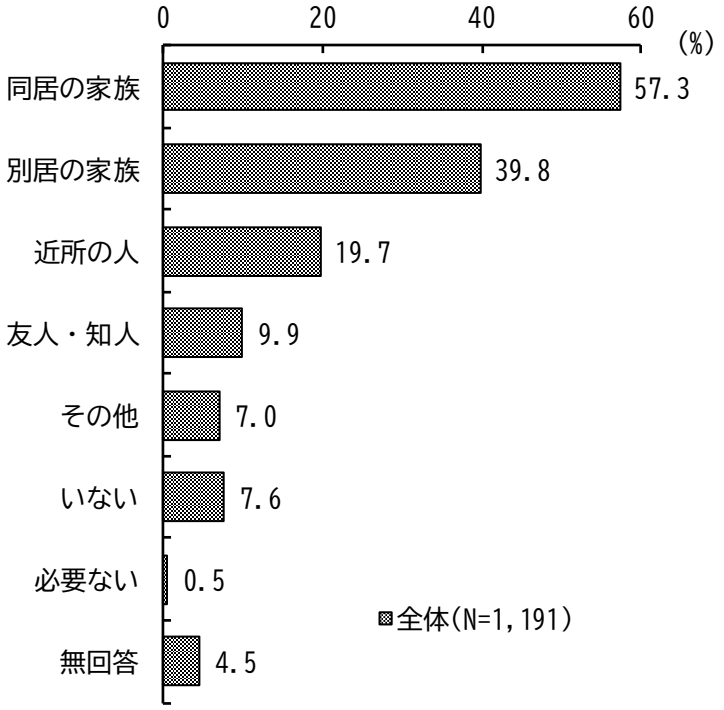
（8）災害時の対応

問 18　地震等の災害が起こったときにあなたの手助けをしてくれる人はいますか。
（いくつでも○）

「同居の家族」（57.3%）が最も多く、次いで「別居の家族」（39.8%）、「近所の人」（19.7%）、「友人・知人」（9.9%）と続いている。

一方、「いない」は 7.6%、「必要ない」は 0.5%となっている。

図表　災害時に助けてくれる人（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要支援では「別居の家族」（47.5%）、「近所の人」（26.1%）が全体より５ポイント以上高くなっている。要介護（軽度）、要介護（中重度）では、「同居の家族」（要介護（軽度）：62.6%、要介護（中重度）：66.1%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 85 歳以上では「同居の家族」（64.4%）、「別居の家族」（47.9%）が全体より５ポイント以上高くなっている。また、男女ともに年代が高くなるほど「いない」の割合は低くなっている。

図表　災害時に助けてくれる人

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				同居の家族	別居の家族	近所の人	友人・知人	その他	いない	必要ない	無回答
全体			(N=1,191)	57.3	39.8	19.7	9.9	7.0	7.6	0.5	4.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	47.3	47.5	26.1	13.7	5.4	10.6	0.5	3.4
	要介護（軽度）		(n= 460)	62.6	38.0	17.4	7.6	6.3	5.7	0.0	5.4
	要介護（中重度）		(n= 277)	66.1	35.0	13.7	7.6	10.8	5.1	0.7	3.6
性別	男性		(n= 432)	61.8	41.7	20.4	9.3	5.1	9.7	1.2	3.2
	女性		(n= 740)	54.9	38.9	19.2	10.0	8.1	5.9	0.1	5.1
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	55.4	27.7	18.5	12.3	6.2	18.5	0.0	1.5
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	61.5	40.2	19.6	7.8	4.5	10.6	2.2	2.8
		85 歳以上	(n= 188)	64.4	47.9	21.8	9.6	5.3	5.9	0.5	4.3
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	56.4	27.3	16.4	14.5	10.9	9.1	0.0	9.1
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	53.0	40.2	20.1	12.4	6.8	7.6	0.0	5.6
		85 歳以上	(n= 436)	55.7	39.7	19.0	8.0	8.5	4.6	0.2	4.4
家族構成別	1 人暮らし		(n= 324)	3.7	55.6	26.5	13.6	7.4	19.1	0.3	4.9
	夫婦 2 人暮らし		(n= 326)	69.6	47.5	22.7	11.7	4.0	5.2	0.3	4.6
	息子・娘と同居		(n= 382)	88.7	26.4	14.4	6.3	3.1	2.6	0.5	4.2
	その他		(n= 145)	66.2	25.5	11.0	6.9	22.8	0.7	0.7	3.4

問 19　災害に備えてどのようなことをしていますか。（いくつでも○）

「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップ（地震、水害、土砂災害）の確認」（34.3%）が最も多く、次いで「日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流」（17.0%）、「地域での防災訓練への参加のお誘い」（5.2%）、「住民同士で行う防災組織の活動の充実」（4.8%）と続いている。

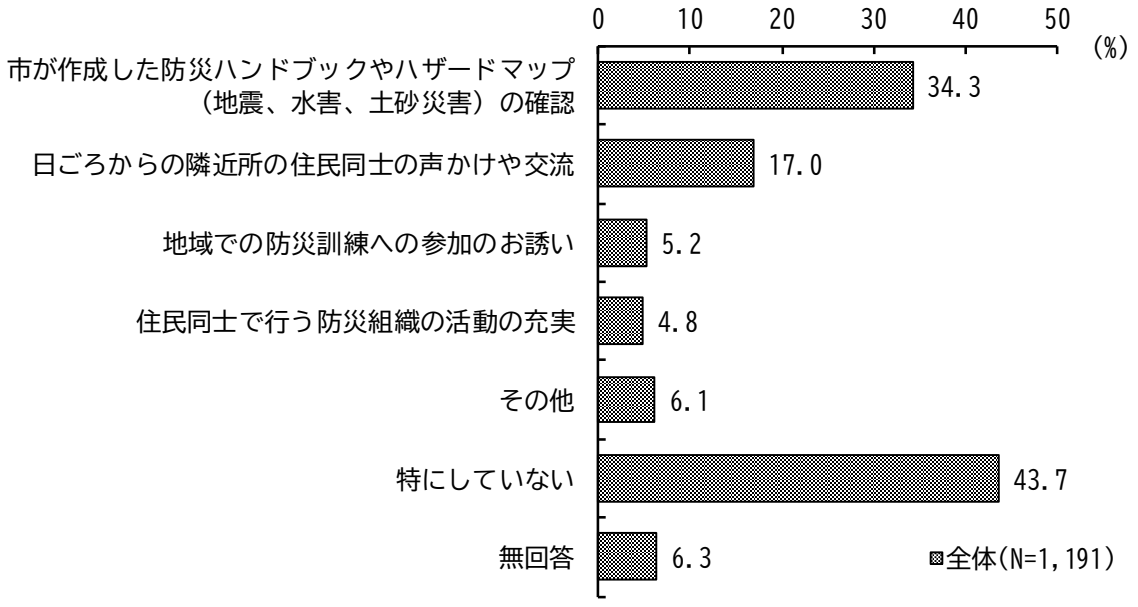
一方、「特にしていない」は 43.7%となっている。

要介護度別にみると、要支援では「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップの確認」（42.1%）、「日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流」（23.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。一方、要介護度が高くなるほど「特にしていない」の割合は高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳、男性の 85 歳以上、女性の 65～74 歳では「市が作成した防災ハンドブックやハザードマップの確認」（男性の 65～74 歳：40.0%、男性の 85 歳以上：41.0%、女性の 65～74 歳：41.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。一方、男性の 65～74 歳では「特にしていない」（55.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

居住圏域別にみると、武蔵台では「日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流」（23.8%）、「地域での防災訓練への参加のお誘い」（10.7%）が全体より５ポイント以上高くなっている。一方、西府では「特にしていない」（53.8%）が全体より 10 ポイント以上高く、紅葉丘では「特にしていない」（50.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　災害に備えて取り組んでいること（全体：複数回答）



図表　災害に備えて取り組んでいること

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別、居住圏域別：複数回答）

（%）

				市が作成した防災ハンドブックやハザードマップの確認	日ごろからの隣近所の住民同士の声かけや交流	地域での防災訓練への参加のお誘い	住民同士で行う防災組織の活動の充実	その他	特にしていない	無回答
全体			(N=1,191)	34.3	17.0	5.2	4.8	6.1	43.7	6.3
要介護度別	要支援		(n= 387)	42.1	23.8	8.3	6.7	6.7	34.6	5.4
	要介護（軽度）		(n= 460)	30.7	15.0	4.3	4.6	5.4	47.0	8.0
	要介護（中重度）		(n= 277)	32.1	12.3	2.5	2.2	7.6	48.0	4.3
性別	男性		(n= 432)	38.0	16.0	6.3	5.8	4.4	44.7	4.4
	女性		(n= 740)	32.0	17.4	4.6	4.2	7.2	43.4	7.3
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	40.0	7.7	4.6	0.0	4.6	55.4	1.5
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	34.1	16.2	3.4	5.0	5.0	45.3	4.5
		85 歳 以 上	(n= 188)	41.0	18.6	9.6	8.5	3.7	40.4	5.3
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	41.8	21.8	7.3	5.5	14.5	25.5	12.7
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	35.3	17.3	7.6	4.8	6.0	41.8	8.0
		85 歳 以 上	(n= 436)	28.9	17.0	2.5	3.7	6.9	46.6	6.2
家族構成別	1 人 暮 ら し		(n= 324)	34.3	18.2	3.4	4.6	6.8	42.0	7.1
	夫婦２人暮らし		(n= 326)	42.3	22.4	8.6	5.8	5.5	36.2	6.4
	息子・娘と同居		(n= 382)	31.7	14.7	4.5	4.5	5.0	47.6	5.8
	そ の 他		(n= 145)	24.8	9.0	4.1	2.8	8.3	55.2	4.1
居住圏域別	中央		(n= 198)	39.4	17.2	4.5	5.6	6.6	41.4	5.1
	白糸台		(n= 108)	29.6	21.3	8.3	5.6	5.6	44.4	10.2
	西府		(n= 78)	23.1	14.1	6.4	6.4	10.3	53.8	2.6
	武蔵台		(n= 84)	35.7	23.8	10.7	3.6	6.0	32.1	10.7
	新町		(n= 124)	36.3	14.5	2.4	3.2	6.5	45.2	6.5
	住吉		(n= 135)	31.1	20.7	4.4	5.9	5.2	43.0	8.9
	是政		(n= 110)	38.2	13.6	8.2	2.7	2.7	41.8	6.4
	紅葉丘		(n= 97)	27.8	18.6	2.1	5.2	7.2	50.5	3.1
	押立		(n= 58)	32.8	10.3	5.2	8.6	12.1	37.9	6.9
	四谷		(n= 55)	43.6	21.8	3.6	3.6	1.8	41.8	3.6
	片町		(n= 131)	37.4	13.0	3.1	3.8	4.6	46.6	5.3

（9）情報

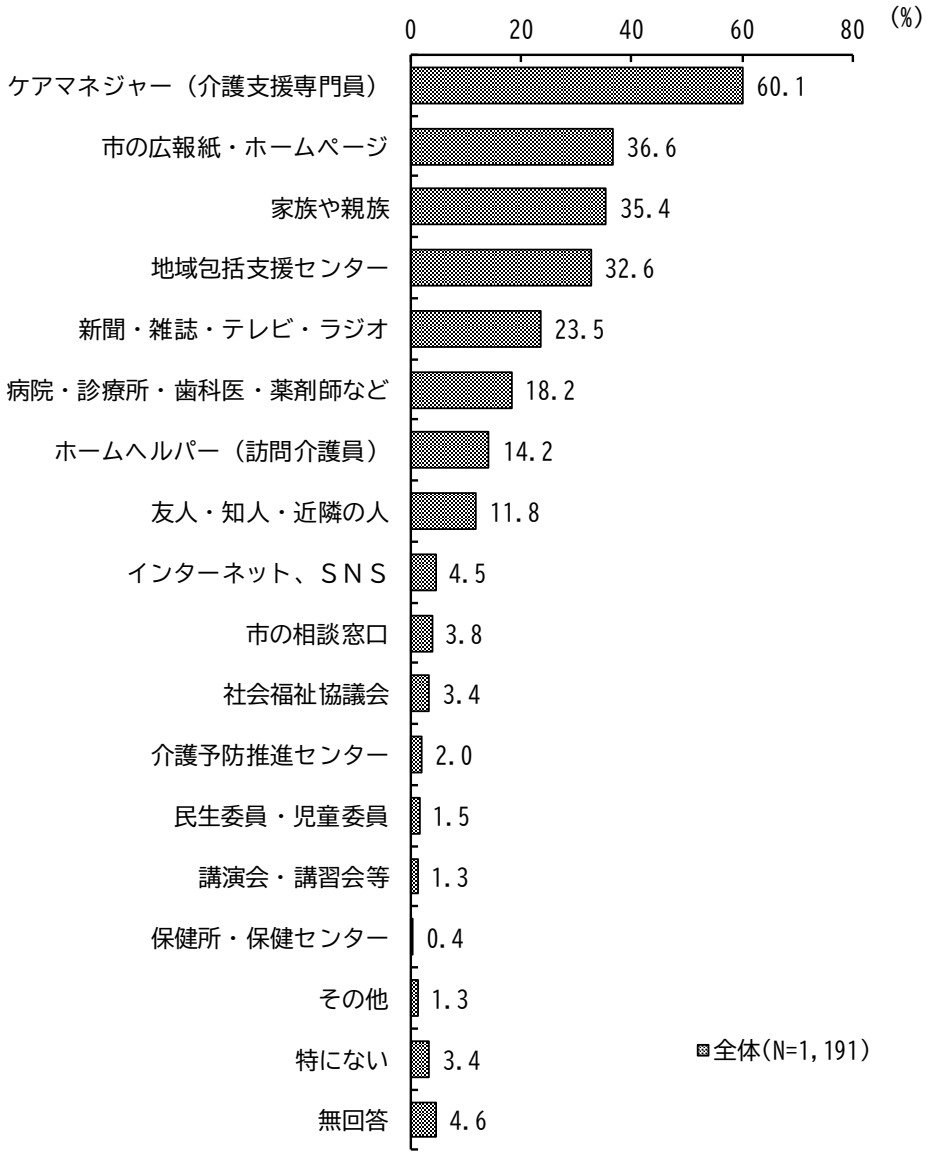
問 20　あなたは、健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等に関する情報をどこから（誰から）入手していますか。（いくつでも○）

「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（60.1%）が最も多く、次いで「市の広報紙・ホームページ」（36.6%）、「家族や親族」（35.4%）、「地域包括支援センター」（32.6%）と続いている。一方、「特にない」は 3.4%となっている。

要介護度別にみると、要支援では「市の広報紙・ホームページ」（46.8%）、「地域包括支援センター」（50.6%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。また、要介護（中重度）では、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（72.6%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、女性の 65～74 歳では、「地域包括支援センター」（49.1%）、「インターネット・ＳＮＳ」（14.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等の情報入手先
（全体：複数回答）



図表　健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動、権利擁護等の情報入手先
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				ケアマネジャー（介護支援専門員）	市の広報紙・ホームページ	家族や親族	地域包括支援センター	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	ホームヘルパー（訪問介護員）	友人・知人・近隣の人	インターネット・SNS
全体			(N=1,191)	60.1	36.6	35.4	32.6	23.5	18.2	14.2	11.8	4.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	50.9	46.8	31.8	50.6	28.9	20.7	12.9	17.8	4.7
	要介護（軽度）		(n= 460)	64.3	33.5	40.4	25.2	21.7	16.5	12.2	9.8	3.3
	要介護（中重度）		(n= 277)	72.6	28.5	33.6	20.9	18.8	18.1	18.1	6.5	7.2
性別	男性		(n= 432)	59.3	37.5	34.0	35.2	25.9	23.4	12.0	9.0	4.6
	女性		(n= 740)	61.2	36.2	36.5	31.4	22.4	15.5	15.3	13.5	4.5
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	58.5	32.3	26.2	27.7	20.0	23.1	15.4	4.6	12.3
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	62.6	38.0	30.2	36.3	30.7	20.7	12.3	9.5	4.5
		85 歳 以 上	(n= 188)	56.4	38.8	40.4	36.7	23.4	26.1	10.6	10.1	2.1
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	58.2	40.0	14.5	49.1	12.7	14.5	10.9	18.2	14.5
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	59.8	38.2	30.9	31.3	25.3	19.3	18.5	15.3	6.4
		85 歳 以 上	(n= 436)	62.4	34.6	42.4	29.1	22.0	13.5	14.0	11.9	2.1
家族構成別	１ 人 暮 ら し		(n= 324)	56.8	35.2	31.2	37.7	24.7	18.2	20.1	15.1	3.4
	夫 婦 ２ 人 暮 ら し		(n= 326)	61.0	45.4	33.7	39.0	31.3	21.8	16.0	16.0	5.8
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 382)	62.8	33.5	40.3	28.8	17.3	14.9	9.7	7.3	4.7
	そ の 他		(n= 145)	60.7	29.7	35.9	18.6	19.3	17.9	9.7	6.9	4.1

				市の相談窓口	社会福祉協議会	介護予防推進センター	民生委員・児童委員	講演会・講習会等	保健所・保健センター	その他	特にない	無回答
全体			(N=1,191)	3.8	3.4	2.0	1.5	1.3	0.4	1.3	3.4	4.6
要介護度別	要支援		(n= 387)	2.3	5.4	2.1	0.8	3.1	0.3	0.8	2.3	4.9
	要介護（軽度）		(n= 460)	3.7	2.2	2.6	2.0	0.7	0.7	2.2	3.0	4.8
	要介護（中重度）		(n= 277)	5.4	2.5	0.7	0.7	0.4	0.4	1.1	4.3	3.2
性別	男性		(n= 432)	5.3	2.8	3.2	0.9	0.5	0.2	1.2	3.9	3.5
	女性		(n= 740)	2.7	3.8	1.4	1.6	1.9	0.5	1.5	3.0	5.3
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 65)	7.7	6.2	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	1.5
		75 ～ 84 歳	(n= 179)	5.0	2.8	1.7	1.1	0.6	0.0	1.7	3.9	2.2
		85 歳 以 上	(n= 188)	4.8	1.6	5.3	1.1	0.5	0.5	1.1	2.7	5.3
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 55)	10.9	5.5	1.8	0.0	1.8	1.8	1.8	0.0	9.1
		75 ～ 84 歳	(n= 249)	2.4	4.8	1.2	1.2	2.4	0.8	1.2	2.8	6.0
		85 歳 以 上	(n= 436)	1.8	3.0	1.4	2.1	1.6	0.2	1.6	3.4	4.4
家族構成別	１ 人 暮 ら し		(n= 324)	2.2	6.5	1.9	1.9	2.2	0.3	0.6	3.7	4.9
	夫 婦 ２ 人 暮 ら し		(n= 326)	5.5	3.4	2.8	1.8	1.5	0.6	1.8	1.2	4.3
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 382)	2.1	0.8	1.8	1.3	0.3	0.3	1.3	2.9	4.2
	そ の 他		(n= 145)	6.2	3.4	0.7	0.7	1.4	0.0	2.1	6.9	4.1

問 21　あなたは、暮らしの問題や福祉などについて困りごとがあったとき、どこに（誰に）相談しますか。（いくつでも○）

「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（63.6%）が最も多く、次いで「家族や親族」（54.8%）、「地域包括支援センター」（32.5%）、「市の相談窓口」（18.4%）と続いている。

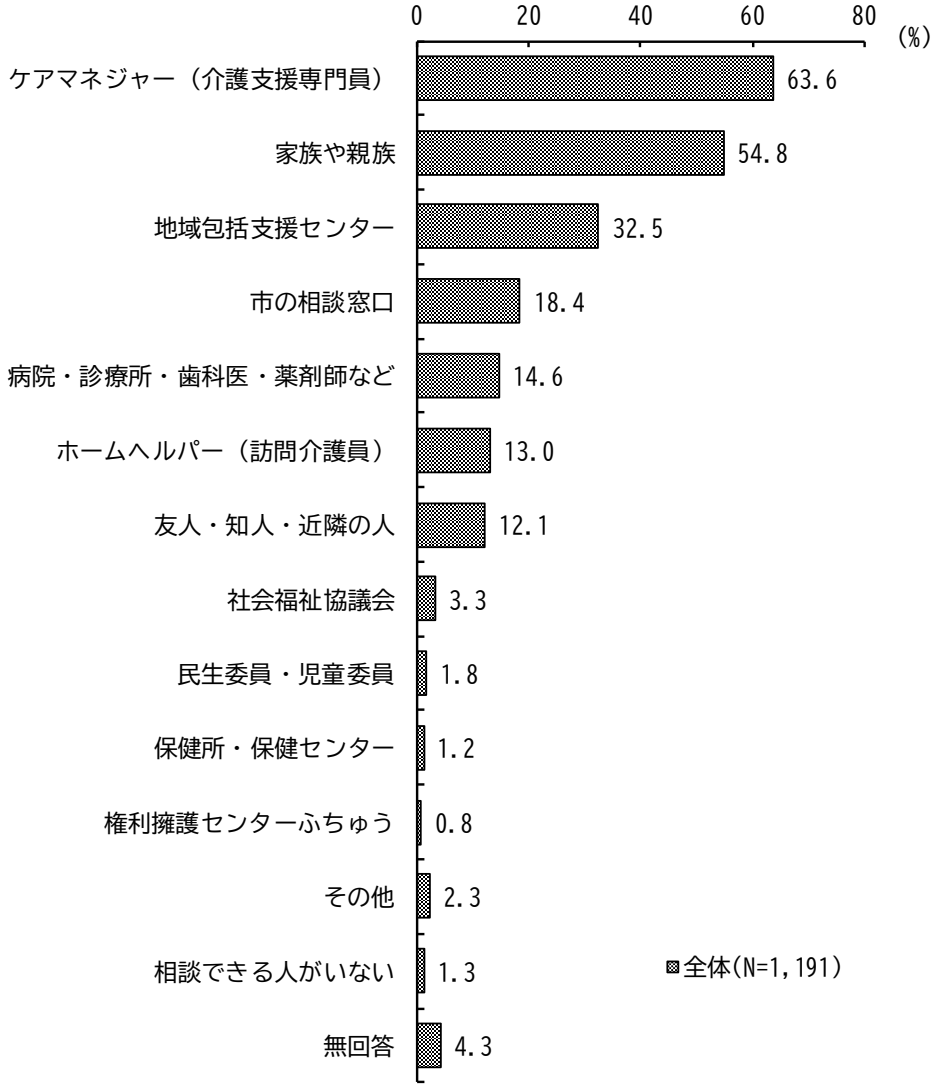
一方、「相談できる人がいない」は 1.3%となっている。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が高くなっている。また、要介護（中重度）では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（77.3%）、要支援では「地域包括支援センター」（51.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

性別にみると、男性では「市の相談窓口」（23.4%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（72.3%）、「市の相談窓口」（26.2%）、女性の 85 歳以上では、「家族や親族」（62.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。また、女性の 65～74 歳では「地域包括支援センター」（49.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（全体：複数回答）



図表　暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				ケアマネジャー（介護支援専門員）	家族や親族	地域包括支援センター	市の相談窓口	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	ホームヘルパー（訪問介護員）	友人・知人・近隣の人
全体			(N=1,191)	63.6	54.8	32.5	18.4	14.6	13.0	12.1
要介護度別	要支援		(n= 387)	52.2	55.8	51.2	20.7	14.7	11.4	19.1
	要介護（軽度）		(n= 460)	69.1	56.5	25.0	15.0	14.6	12.4	9.6
	要介護（中重度）		(n= 277)	77.3	52.7	19.9	20.9	14.1	16.2	6.5
性別	男性		(n= 432)	67.4	50.9	32.4	23.4	16.9	11.6	10.0
	女性		(n= 740)	61.8	57.4	32.6	15.4	13.4	13.4	13.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	72.3	46.2	24.6	26.2	12.3	16.9	10.8
		75～84歳	(n= 179)	69.8	44.7	29.1	22.3	14.5	11.2	9.5
		85歳以上	(n= 188)	63.3	58.5	38.3	23.4	20.7	10.1	10.1
	女性	65～74歳	(n= 55)	63.6	36.4	49.1	23.6	14.5	9.1	10.9
		75～84歳	(n= 249)	60.2	52.6	31.7	18.5	13.7	15.3	16.9
		85歳以上	(n= 436)	62.4	62.8	31.0	12.6	13.1	12.8	11.9
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	57.7	54.6	38.0	14.8	13.3	18.8	15.7
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	66.0	51.5	38.0	26.1	16.3	12.9	13.5
	息子・娘と同居		(n= 382)	66.8	57.3	27.7	13.4	13.9	8.9	8.1
	その他		(n= 145)	64.1	57.2	22.1	22.1	15.2	11.0	10.3

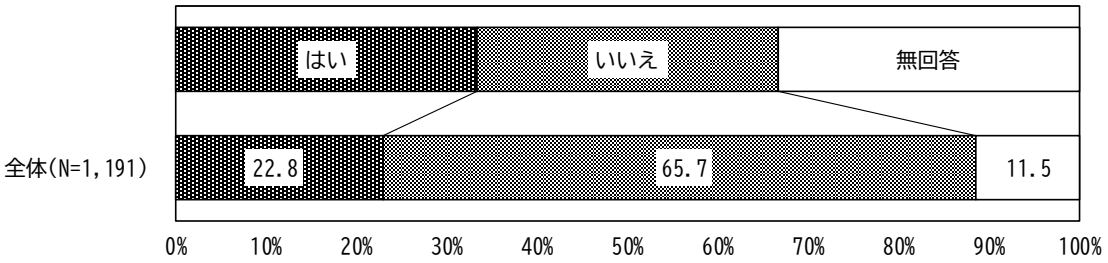
				社会福祉協議会	民生委員・児童委員	保健所・保健センター	権利擁護センターふちゅう	その他	相談できる人がいない	無回答
全体			(N=1,191)	3.3	1.8	1.2	0.8	2.3	1.3	4.3
要介護度別	要支援		(n= 387)	4.1	1.8	1.3	0.5	3.4	1.3	4.1
	要介護（軽度）		(n= 460)	3.0	1.7	1.3	0.7	1.7	0.7	4.6
	要介護（中重度）		(n= 277)	2.5	1.1	1.1	1.4	1.8	1.8	3.2
性別	男性		(n= 432)	3.7	2.1	1.2	1.2	2.1	2.3	3.0
	女性		(n= 740)	3.1	1.4	1.2	0.5	2.4	0.8	5.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	3.1	0.0	1.5	1.5	1.5	3.1	1.5
		75～84歳	(n= 179)	3.4	1.7	0.6	1.1	2.8	2.8	2.2
		85歳以上	(n= 188)	4.3	3.2	1.6	1.1	1.6	1.6	4.3
	女性	65～74歳	(n= 55)	5.5	0.0	1.8	1.8	1.8	0.0	9.1
		75～84歳	(n= 249)	3.6	0.8	1.6	0.4	3.2	0.0	5.6
		85歳以上	(n= 436)	2.5	1.8	0.9	0.5	2.1	1.4	4.1
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	4.6	1.2	0.3	0.6	1.9	2.2	4.3
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	5.2	2.5	1.8	1.2	1.5	0.0	4.6
	息子・娘と同居		(n= 382)	0.5	1.8	0.3	0.3	1.3	1.6	4.5
	その他		(n= 145)	2.8	1.4	3.4	0.7	7.6	1.4	2.1

問 22　現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいか分からない生活上の困りごとを抱えていますか（１つに○）

「はい」が 22.8%、「いいえ」が 65.7%となっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「はい」（35.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか（全体）



図表　どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

				はい	いいえ	無回答
全体			(N=1,191)	22.8	65.7	11.5
要介護度別	要支援		(n= 387)	24.0	64.3	11.6
	要介護（軽度）		(n= 460)	20.4	68.7	10.9
	要介護（中重度）		(n= 277)	22.7	67.9	9.4
性別	男性		(n= 432)	22.0	69.0	9.0
	女性		(n= 740)	23.0	64.3	12.7
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	35.4	60.0	4.6
		75～84歳	(n= 179)	19.6	70.4	10.1
		85歳以上	(n= 188)	19.7	70.7	9.6
	女性	65～74歳	(n= 55)	23.6	63.6	12.7
		75～84歳	(n= 249)	30.1	57.8	12.0
		85歳以上	(n= 436)	18.8	68.1	13.1
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	25.6	61.7	12.7
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	25.8	60.1	14.1
	息子・娘と同居		(n= 382)	18.3	73.6	8.1
	その他		(n= 145)	20.7	68.3	11.0

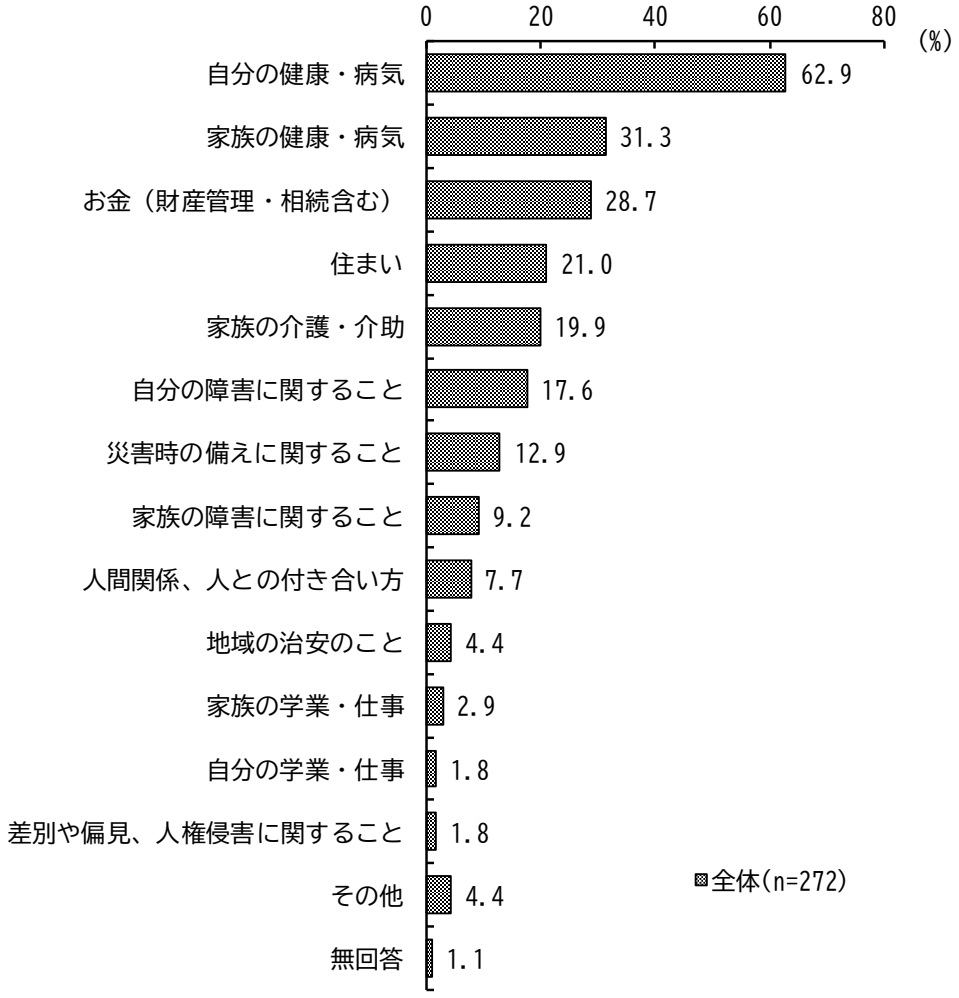
問 22-１　問 22 で「はい」とお答えの方におたずねします
差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。（いくつでも○）

「自分の健康・病気」（62.9%）が最も多く、次いで「家族の健康・病気」（31.3%）、「お金（財産管理・相続含む）」（28.7%）、「住まい」（21.0%）と続いている。

要介護度別にみると、要介護（中重度）では「家族の介護・介助」（30.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。また、要介護（軽度）では「お金（財産管理・相続含む）」（34.0%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性別にみると、男性では「お金（財産管理・相続含む）」（34.7%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　悩みの内容（悩みがある人：複数回答）



図表　悩みの内容

（悩みがある人、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				自分の健康・病気	家族の健康・病気	お金（財産管理・相続含む）	住まい	家族の介護・介助	自分の障害に関すること	災害時の備えに関すること	家族の障害に関すること
全体			(n= 272)	62.9	31.3	28.7	21.0	19.9	17.6	12.9	9.2
要介護度別	要支援		(n= 93)	68.8	29.0	20.4	21.5	16.1	17.2	17.2	10.8
	要介護（軽度）		(n= 94)	62.8	31.9	34.0	23.4	18.1	18.1	9.6	10.6
	要介護（中重度）		(n= 63)	54.0	34.9	33.3	17.5	30.2	12.7	12.7	4.8
性別	男性		(n= 95)	64.2	33.7	34.7	20.0	13.7	21.1	8.4	6.3
	女性		(n= 170)	62.9	31.2	25.3	21.8	22.4	15.3	14.7	10.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 23)	65.2	17.4	43.5	21.7	13.0	34.8	4.3	4.3
		75～84歳	(n= 35)	62.9	28.6	40.0	20.0	11.4	20.0	14.3	5.7
		85歳以上	(n= 37)	64.9	48.6	24.3	18.9	16.2	13.5	5.4	8.1
	女性	65～74歳	(n= 13)	53.8	30.8	15.4	30.8	7.7	15.4	7.7	7.7
		75～84歳	(n= 75)	64.0	30.7	26.7	24.0	24.0	13.3	14.7	10.7
		85歳以上	(n= 82)	63.4	31.7	25.6	18.3	23.2	17.1	15.9	9.8
家族構成別	1人暮らし		(n= 83)	71.1	15.7	28.9	26.5	4.8	16.9	19.3	3.6
	夫婦2人暮らし		(n= 84)	58.3	46.4	22.6	19.0	29.8	20.2	16.7	11.9
	息子・娘と同居		(n= 70)	57.1	25.7	35.7	20.0	24.3	17.1	0.0	11.4
	その他		(n= 30)	70.0	50.0	23.3	16.7	23.3	13.3	16.7	13.3

				人間関係、人との付き合い方	地域の治安のこと	家族の学業・仕事	自分の学業・仕事	差別や偏見、人権侵害に関すること	その他	無回答
全体			(n= 272)	7.7	4.4	2.9	1.8	1.8	4.4	1.1
要介護度別	要支援		(n= 93)	8.6	4.3	2.2	1.1	2.2	5.4	1.1
	要介護（軽度）		(n= 94)	8.5	3.2	2.1	3.2	2.1	3.2	1.1
	要介護（中重度）		(n= 63)	7.9	6.3	4.8	0.0	0.0	6.3	1.6
性別	男性		(n= 95)	3.2	2.1	1.1	3.2	0.0	4.2	1.1
	女性		(n= 170)	10.0	5.9	4.1	1.2	2.4	4.7	1.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 23)	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0
		75～84歳	(n= 35)	2.9	2.9	2.9	5.7	0.0	5.7	2.9
		85歳以上	(n= 37)	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0
	女性	65～74歳	(n= 13)	30.8	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7
		75～84歳	(n= 75)	10.7	2.7	1.3	2.7	0.0	4.0	0.0
		85歳以上	(n= 82)	6.1	8.5	6.1	0.0	3.7	6.1	1.2
家族構成別	1人暮らし		(n= 83)	9.6	4.8	2.4	1.2	2.4	3.6	0.0
	夫婦2人暮らし		(n= 84)	3.6	6.0	1.2	2.4	1.2	3.6	1.2
	息子・娘と同居		(n= 70)	7.1	4.3	7.1	0.0	2.9	4.3	2.9
	その他		(n= 30)	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	10.0	0.0

（10）在宅療養

問 23　脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか。（１つに○）

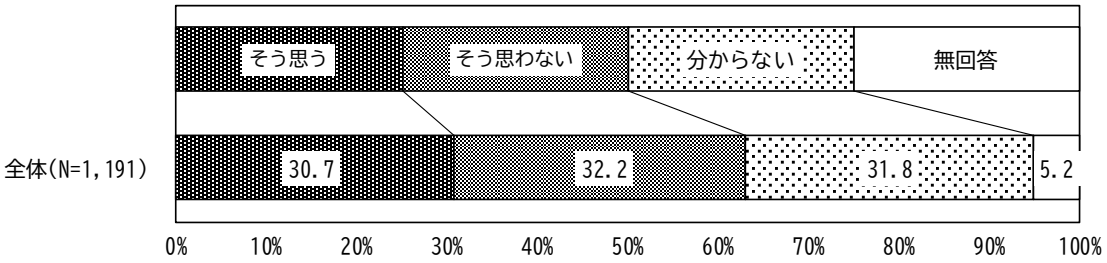
「そう思う」が 30.7%、「そう思わない」が 32.2%、「分からない」が 31.8%となっている。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど、「そう思う」の割合は高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「そう思う」（43.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦２人暮らしでは「そう思う」（36.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　自宅で療養を続けたいと思うか（全体）



図表　自宅で療養を続けたいと思うか
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

			そう思う	そう思わない	分からない	無回答
全体		(N=1,191)	30.7	32.2	31.8	5.2
要介護度別	要支援	(n= 387)	27.1	39.5	27.4	5.9
	要介護（軽度）	(n= 460)	30.7	33.3	32.4	3.7
	要介護（中重度）	(n= 277)	36.1	23.1	35.7	5.1
性別	男性	(n= 432)	34.5	29.4	30.6	5.6
	女性	(n= 740)	28.4	33.5	33.1	5.0
性・年代別	男性 65～74 歳	(n= 65)	43.1	30.8	21.5	4.6
	男性 75～84 歳	(n= 179)	34.1	29.1	30.2	6.7
	男性 85 歳以上	(n= 188)	31.9	29.3	34.0	4.8
	女性 65～74 歳	(n= 55)	30.9	27.3	36.4	5.5
	女性 75～84 歳	(n= 249)	30.9	34.1	29.3	5.6
	女性 85 歳以上	(n= 436)	26.6	33.9	34.9	4.6
家族構成別	１人暮らし	(n= 324)	25.3	37.0	30.9	6.8
	夫婦２人暮らし	(n= 326)	36.2	31.0	29.4	3.4
	息子・娘と同居	(n= 382)	31.9	29.1	34.3	4.7
	その他	(n= 145)	27.6	33.1	33.8	5.5

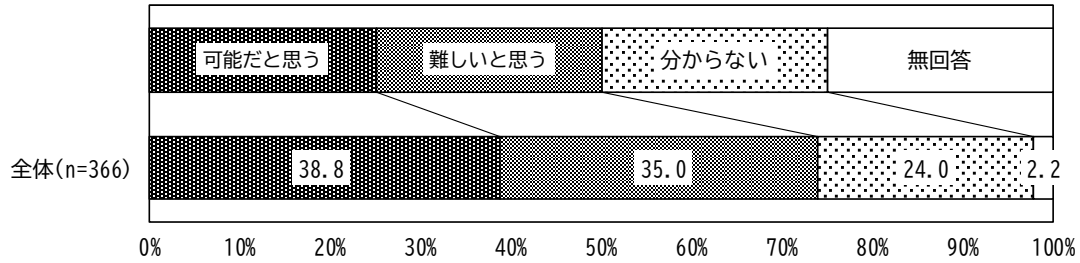
問 23-1　問 23 で「そう思う」とお答えの方におたずねします
ご自宅での療養は可能だと思いますか。（１つに○）

「可能だと思う」が 38.8%、「難しいと思う」が 35.0%、「分からない」が 24.0%となっている。

要介護度別にみると、要介護（中重度）では「可能だと思う」（45.0%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 75～84 歳では「可能だと思う」（45.9%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　自宅療養は可能だと思うか（自宅療養を続けたいと思う人）



図表　自宅療養は可能だと思うか
（自宅療養を続けたいと思う人、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

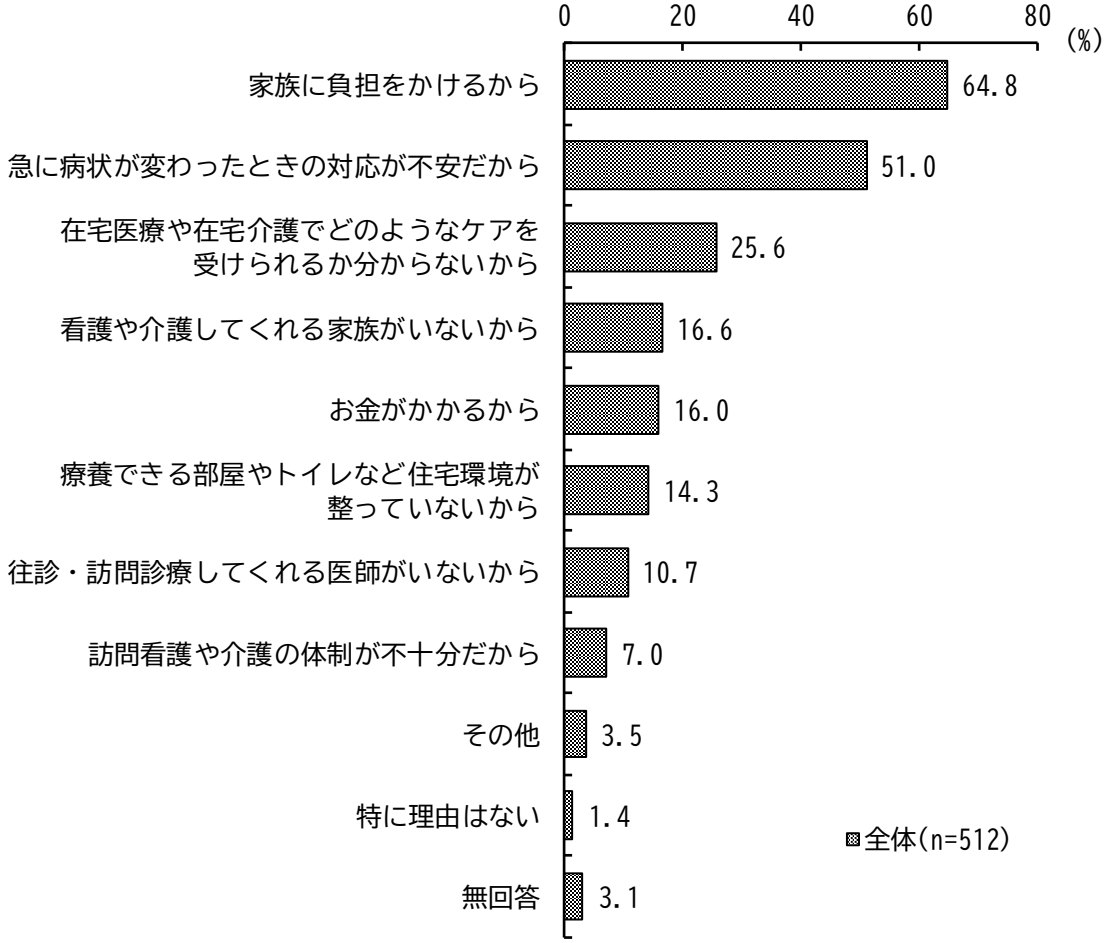
(%)

				可能だと思う	難しいと思う	分からない	無回答
全体			(n= 366)	38.8	35.0	24.0	2.2
要介護度別	要支援		(n= 105)	43.8	39.0	14.3	2.9
	要介護（軽度）		(n= 141)	31.2	36.2	30.5	2.1
	要介護（中重度）		(n= 100)	45.0	31.0	22.0	2.0
性別	男性		(n= 149)	39.6	33.6	25.5	1.3
	女性		(n= 210)	38.1	36.7	22.9	2.4
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 28)	39.3	35.7	25.0	0.0
		75～84歳	(n= 61)	45.9	27.9	26.2	0.0
		85歳以上	(n= 60)	33.3	38.3	25.0	3.3
	女性	65～74歳	(n= 17)	47.1	23.5	23.5	5.9
		75～84歳	(n= 77)	35.1	39.0	23.4	2.6
		85歳以上	(n= 116)	38.8	37.1	22.4	1.7
家族構成別	1人暮らし		(n= 82)	34.1	35.4	25.6	4.9
	夫婦2人暮らし		(n= 118)	38.1	38.1	22.0	1.7
	息子・娘と同居		(n= 122)	39.3	35.2	24.6	0.8
	その他		(n= 40)	47.5	27.5	25.0	0.0

問 23-２　問 23 で「そう思わない」又は問 23－１で「難しいと思う」とお答えの方におたずねします
それはなぜですか。（３つまでに○）

「家族に負担をかけるから」（64.8%）が最も多く、次いで「急に病状が変わった時の対応が不安だから」(51.0%)、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるか分からないから」（25.6%)、「看護や介護してくれる家族がいないから」（16.6%）と続いている。

図表　そう思わない、難しいと思う理由
（自宅療養を続けたいと思わない、難しいと思う人：複数回答）



要介護度別にみると、要支援では「看護や介護してくれる家族がいないから」（23.2%）、「往診・訪問診療してくれる医師がいないから」（16.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。また、要介護（中重度）では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（56.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性別にみると、男性では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（58.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「家族に負担をかけるから」の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「看護や介護してくれる家族がいないから」（31.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　そう思わない、難しいと思う理由
（自宅療養を続けたいと思わない、難しいと思う人、
要支援認定別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

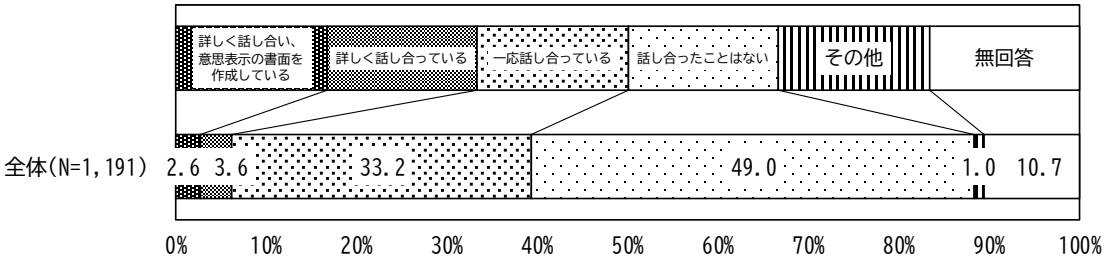
（%）

			家族に負担をかけるから	急に病状が変わったときの対応が不安だから	在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるか分からないから	看護や介護してくれる家族がいないから	お金がかかるから	療養できる部屋やトイレなど住宅環境が整っていないから	往診・訪問診療してくれる医師がいないから	訪問看護や介護の体制が不十分だから	その他	特に理由はない	無回答
全体		(n= 512)	64.8	51.0	25.6	16.6	16.0	14.3	10.7	7.0	3.5	1.4	3.1
要介護度別	要支援	(n= 194)	63.4	50.5	28.9	23.2	17.0	10.3	16.5	4.6	2.6	2.1	4.1
	要介護（軽度）	(n= 204)	66.2	48.0	25.0	12.3	17.6	18.6	9.3	7.4	2.9	0.5	2.9
	要介護（中重度）	(n= 95)	66.3	56.8	21.1	13.7	12.6	14.7	3.2	10.5	7.4	1.1	2.1
性別	男性	(n= 177)	62.1	58.2	28.2	15.8	19.8	11.9	13.0	7.9	3.4	1.1	2.3
	女性	(n= 325)	66.5	47.1	24.0	17.2	14.2	15.4	9.2	6.5	3.7	1.5	3.7
性・年代別	男性 65～74歳	(n= 30)	43.3	50.0	23.3	33.3	33.3	13.3	10.0	6.7	3.3	3.3	0.0
	男性 75～84歳	(n= 69)	62.3	56.5	24.6	7.2	14.5	10.1	14.5	7.2	5.8	1.4	4.3
	男性 85歳以上	(n= 78)	69.2	62.8	33.3	16.7	19.2	12.8	12.8	9.0	1.3	0.0	1.3
	女性 65～74歳	(n= 19)	52.6	63.2	31.6	31.6	10.5	26.3	10.5	26.3	5.3	0.0	0.0
	女性 75～84歳	(n= 115)	64.3	40.0	23.5	19.1	18.3	14.8	11.3	3.5	4.3	1.7	6.1
	女性 85歳以上	(n= 191)	69.1	49.7	23.6	14.7	12.0	14.7	7.9	6.3	3.1	1.6	2.6
家族構成別	１人暮らし	(n= 149)	48.3	53.0	26.8	31.5	19.5	13.4	10.7	6.0	2.7	2.0	2.7
	夫婦２人暮らし	(n= 146)	71.2	50.7	32.9	15.1	17.8	14.4	15.1	5.5	2.7	0.7	4.1
	息子・娘と同居	(n= 154)	72.7	49.4	19.5	6.5	14.3	13.0	9.7	9.1	1.3	1.3	3.9
	その他	(n= 59)	69.5	49.2	20.3	10.2	8.5	18.6	1.7	8.5	13.6	1.7	0.0

問 24　あなたは、人生の最期をどうすごしたいか、ご家族等※や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。（１つに○）
※ご家族の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めてほしいと思う人（友人、知人）を含みます。

「話し合ったことはない」（49.0%）が最も多く、次いで「一応話し合っている」（33.2%）、「詳しく話し合っている」(3.6%)、「詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している」(2.6%)と続いている。

図表　人生の最期をどう過ごしたいか、家族等や医療介護関係者と話し合ったことがあるか
（全体）



要介護度別にみると、要介護（中重度）では「話し合ったことはない」の割合は 51.3%で半数以上を占めている。

性別にみると、《話し合っている》（「詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している」、「詳しく話し合っている」、「一応話し合っている」の計）は、女性（41.2%）が男性（36.7%）より 4.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性の 65～74 歳では「話し合ったことはない」（66.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、息子・娘と同居では「話し合ったことはない」（55.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　人生の最期をどう過ごしたいか、家族等や医療介護関係者と話し合ったことがあるか
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

				詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している	詳しく話し合っている	一応話し合っている	話し合ったことはない	その他	無回答
全体			(N=1,191)	2.6	3.6	33.2	49.0	1.0	10.7
要介護度別	要支援		(n= 387)	3.6	3.9	33.6	48.1	0.8	10.1
	要介護（軽度）		(n= 460)	2.4	3.5	36.3	47.8	1.1	8.9
	要介護（中重度）		(n= 277)	2.2	2.9	31.8	51.3	1.4	10.5
性別	男性		(n= 432)	0.9	2.5	33.3	51.9	0.7	10.6
	女性		(n= 740)	3.5	4.2	33.5	47.4	1.1	10.3
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 65)	0.0	1.5	21.5	66.2	1.5	9.2
		75～84歳	(n= 179)	1.1	2.2	35.2	49.7	0.0	11.7
		85歳以上	(n= 188)	1.1	3.2	35.6	48.9	1.1	10.1
	女性	65～74歳	(n= 55)	1.8	3.6	34.5	49.1	1.8	9.1
		75～84歳	(n= 249)	3.6	5.2	32.1	45.0	1.2	12.9
		85歳以上	(n= 436)	3.7	3.7	34.2	48.6	0.9	8.9
家族構成別	1人暮らし		(n= 324)	3.1	4.9	35.2	43.2	0.3	13.3
	夫婦2人暮らし		(n= 326)	1.2	3.1	35.3	49.1	1.2	10.1
	息子・娘と同居		(n= 382)	2.6	2.6	29.1	55.8	1.0	8.9
	その他		(n= 145)	4.1	4.8	35.2	44.8	2.1	9.0

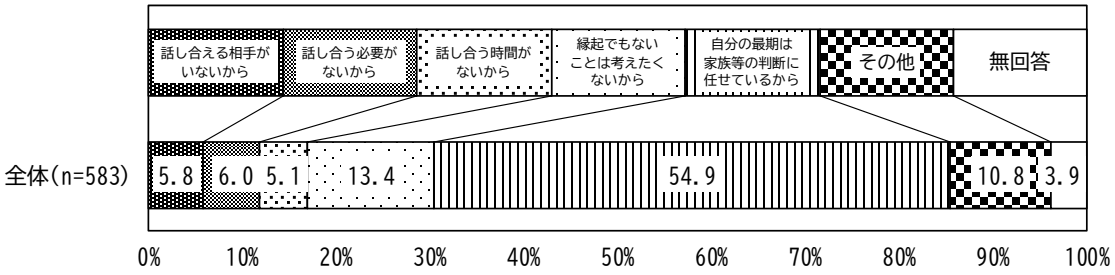
問 24-１　問 24 で「話し合ったことはない」とお答えの方におたずねします　それはなぜですか。（もっとも当てはまるもの１つに○）

「自分の最期は家族等の判断に任せているから」（54.9%）が最も多く、次いで「縁起でもないことは考えたくないから」（13.4%）、「話し合う必要がないから」（6.0%）、「話し合える相手がいないから」（5.8%）と続いている。

要介護度別にみると、すべての介護度で「自分の最期は家族等の判断に任せているから」が最も多く、要支援では「話し合える相手がいないから」、要介護（軽度）、要介護（中重度）では「縁起でもないことは考えたくないから」と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「自分の最期は家族等の判断に任せているから」の割合は高くなっている。

図表　話し合ったことがない理由（人生の最期について話し合ったことがない人）



図表　話し合ったことがない理由
（人生の最期について話し合ったことがない人、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

				話し合える相手がいないから	話し合う必要がないから	話し合う時間がないから	縁起でもないことは考えたくないから	自分の最期は家族等の判断に任せているから	その他	無回答
全体			(n= 583)	5.8	6.0	5.1	13.4	54.9	10.8	3.9
要介護度別	要支援		(n= 186)	10.8	5.9	6.5	8.6	52.7	11.8	3.8
	要介護（軽度）		(n= 220)	3.6	6.4	5.0	17.3	55.0	9.1	3.6
	要介護（中重度）		(n= 142)	1.4	6.3	4.2	14.8	59.9	10.6	2.8
性別	男性		(n= 224)	8.5	8.9	4.5	13.4	50.9	10.7	3.1
	女性		(n= 351)	4.0	4.0	5.1	13.7	57.8	11.1	4.3
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 43)	18.6	9.3	11.6	7.0	41.9	9.3	2.3
		75 ～ 84 歳	(n= 89)	9.0	11.2	2.2	16.9	46.1	10.1	4.5
		85 歳 以 上	(n= 92)	3.3	6.5	3.3	13.0	59.8	12.0	2.2
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 27)	14.8	18.5	11.1	3.7	29.6	14.8	7.4
		75 ～ 84 歳	(n= 112)	5.4	3.6	2.7	13.4	55.4	15.2	4.5
		85 歳 以 上	(n= 212)	1.9	2.4	5.7	15.1	62.7	8.5	3.8
家族構成別	1 人 暮 ら し		(n= 140)	16.4	3.6	10.0	12.9	43.6	10.7	2.9
	夫 婦 2 人 暮 ら し		(n= 160)	5.0	6.9	3.1	10.0	58.8	9.4	6.9
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 213)	0.5	6.1	4.2	15.5	58.7	12.2	2.8
	そ の 他		(n= 65)	3.1	9.2	3.1	15.4	55.4	10.8	3.1

問 25　市の介護保険制度や高齢者保健福祉サービスについて、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、146 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
サービスへの感謝・満足	32
サービス、事業に関する要望	15
現状や将来に対する希望、不安	9
施設の整備、入所・入居に関する要望	7
相談窓口、連絡先がわからない	7
情報提供、周知の充実	6
交通・移動支援の充実	6
家族への支援の充実	6
手続きに時間がかかる	5
介護サービスの質の向上（スタッフを含む）	3
介護保険料、サービスの金額	4
要介護認定の方法	2
アンケートへの意見や感想	2
住まいの不安	1
その他	9
わからない・特になし	32

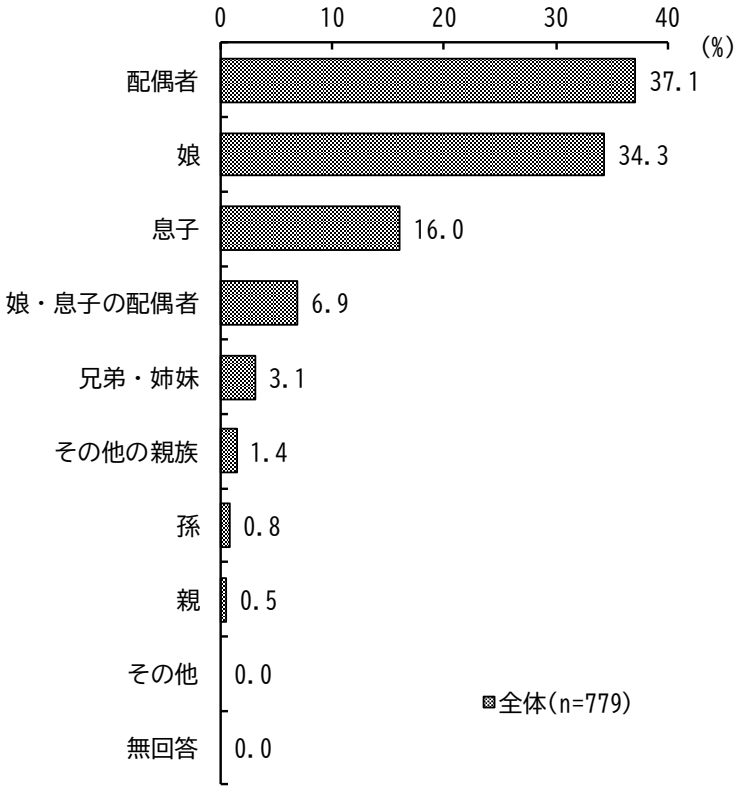
（11）主な介護者の状況や意向

問 26　あて名のご本人を主に介護しているのは、どなたですか。（１つに○）

※問 26 から問 34 の回答者数は、問 26 で「１」～「８」（主な介護者が親族等）と回答した 779 サンプルを全体としている。

「配偶者」（37.1%）が最も多く、次いで「娘」（34.3%）、「息子」（16.0%）、「娘・息子の配偶者」（6.9%）と続いている。

図表　主な介護者（全体）



性別にみると、男性では「配偶者」(65.2%)が最も多く、次いで「娘」(18.1%)、「息子」(9.9%)と続いている。一方、女性では「娘」(45.1%)が最も多く、次いで「息子」(19.4%)、「配偶者」(19.2%)と続いている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「娘」(50.7%)が全体より 10 ポイント以上高くなっている。夫婦２人暮らしでは「配偶者」(88.5%)が全体より 50 ポイント以上高くなっている。息子・娘と同居では「娘」(47.2%)、「息子」(25.9%)が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　主な介護者（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

(%)

			配偶者	娘	息子	娘・息子の配偶者	兄弟・姉妹	その他の親族	孫	親	その他	無回答
全体		(n= 779)	37.1	34.3	16.0	6.9	3.1	1.4	0.8	0.5	0.0	0.0
要介護度別	要支援	(n= 174)	33.9	41.4	16.7	4.6	1.7	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0
	要介護（軽度）	(n= 349)	34.1	34.7	18.1	7.2	3.7	1.4	0.6	0.3	0.0	0.0
	要介護（中重度）	(n= 224)	42.9	30.8	12.9	8.5	2.2	0.9	0.4	1.3	0.0	0.0
性別	男性	(n= 293)	65.2	18.1	9.9	2.4	3.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0
	女性	(n= 474)	19.2	45.1	19.4	9.7	3.0	1.9	0.8	0.8	0.0	0.0
性・年代別	男性 65～74歳	(n= 37)	75.7	2.7	2.7	2.7	10.8	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0
	男性 75～84歳	(n= 119)	76.5	11.8	5.0	1.7	4.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	男性 85歳以上	(n= 137)	52.6	27.7	16.1	2.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 65～74歳	(n= 27)	55.6	18.5	11.1	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 75～84歳	(n= 146)	39.7	36.3	10.3	6.2	4.1	1.4	0.7	1.4	0.0	0.0
	女性 85歳以上	(n= 301)	6.0	51.8	24.6	11.6	2.3	2.0	1.0	0.7	0.0	0.0
家族構成別	１人暮らし	(n= 142)	2.1	50.7	19.0	9.9	9.2	5.6	2.1	1.4	0.0	0.0
	夫婦２人暮らし	(n= 226)	88.5	6.2	3.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	息子・娘と同居	(n= 316)	17.7	47.2	25.9	7.9	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0
	その他	(n= 87)	29.9	36.8	6.9	9.2	12.6	3.4	1.1	0.0	0.0	0.0

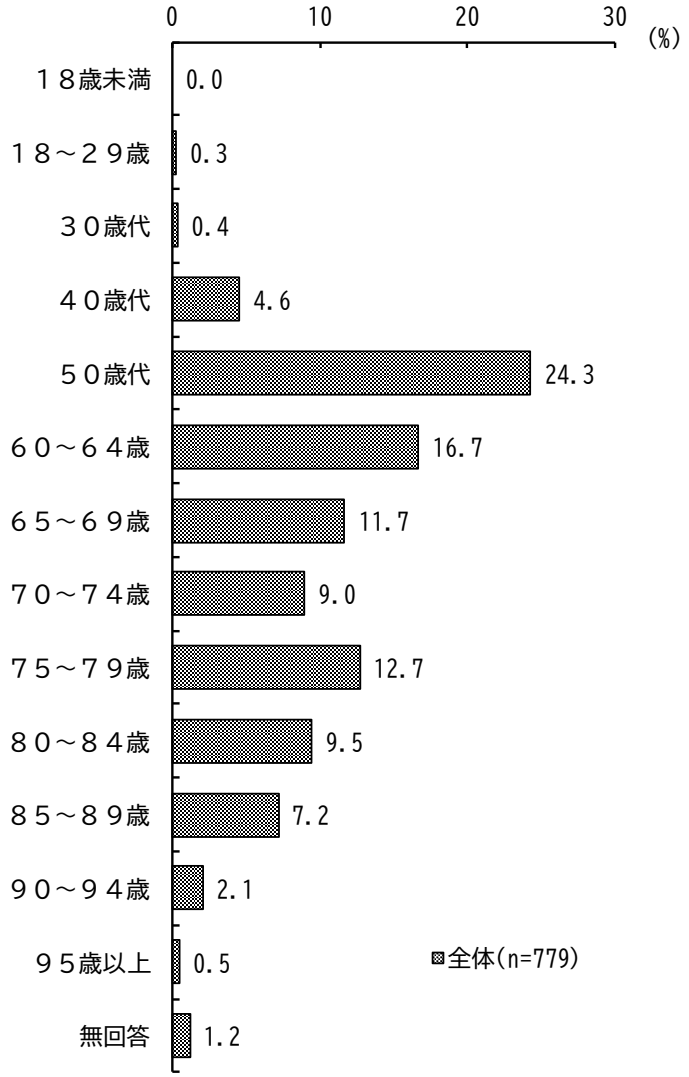
問 27　あて名のご本人を主に介護している方の年齢はおいくつですか。（１つに○）

「50 歳代」（24.3%）が最も多く、次いで「60～64 歳」（16.7%）、「75～79 歳」（12.7%）、「65～69 歳」（11.7%）、「80～84 歳」（9.5%）と続いている。

性別にみると、男性では「75～79 歳」（21.2%）が最も多く、次いで「50 歳代」（17.4%）、「80～84 歳」（16.0%）と続いている。女性では「50 歳代」（28.9%）が最も多く、次いで「60～64 歳」（21.5%）、「65～69 歳」（14.1%）と続いている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「50 歳代」（38.0%）が最も多く、次いで「60～64 歳」（27.5%）、「65～69 歳」（12.0%）と続いている。夫婦２人暮らしでは「75～79 歳」（26.1%）が最も多く、次いで「80～84 歳」（19.9%）、「85～89 歳」（17.3%）と続いている。

図表　主な介護者の年齢（全体）



図表　主な介護者の年齢

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

				18歳未満	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳
全体			(n= 779)	0.0	0.3	0.4	4.6	24.3	16.7	11.7
要介護度別	要支援		(n= 174)	0.0	0.6	0.6	3.4	30.5	16.7	8.6
	要介護（軽度）		(n= 349)	0.0	0.3	0.3	4.6	25.5	17.5	14.0
	要介護（中重度）		(n= 224)	0.0	0.0	0.0	6.3	20.1	16.1	11.2
性別	男性		(n= 293)	0.0	0.3	0.3	3.1	17.4	8.9	8.2
	女性		(n= 474)	0.0	0.2	0.4	5.7	28.9	21.5	14.1
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 37)	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	10.8	40.5
		75～84歳	(n= 119)	0.0	0.0	0.8	5.0	13.4	0.8	1.7
		85歳以上	(n= 137)	0.0	0.0	0.0	2.2	25.5	15.3	5.1
	女性	65～74歳	(n= 27)	0.0	0.0	7.4	18.5	11.1	0.0	7.4
		75～84歳	(n= 146)	0.0	0.7	0.0	12.3	39.0	2.7	0.7
		85歳以上	(n= 301)	0.0	0.0	0.0	1.3	25.6	32.6	21.3
家族構成別	1人暮らし		(n= 142)	0.0	0.7	0.7	3.5	38.0	27.5	12.0
	夫婦2人暮らし		(n= 226)	0.0	0.0	0.0	0.4	6.2	3.1	7.5
	息子・娘と同居		(n= 316)	0.0	0.0	0.6	7.6	31.0	21.5	15.5
	その他		(n= 87)	0.0	1.1	0.0	6.9	24.1	16.1	9.2

				70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答
全体			(n= 779)	9.0	12.7	9.5	7.2	2.1	0.5	1.2
要介護度別	要支援		(n= 174)	5.2	13.8	10.9	7.5	1.7	0.6	0.0
	要介護（軽度）		(n= 349)	10.0	8.9	8.0	6.9	2.0	0.6	1.4
	要介護（中重度）		(n= 224)	9.8	17.9	9.8	5.4	2.2	0.4	0.9
性別	男性		(n= 293)	11.9	21.2	16.0	10.9	0.7	0.3	0.7
	女性		(n= 474)	6.8	7.6	5.7	4.4	2.5	0.6	1.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 37)	37.8	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7
		75～84歳	(n= 119)	14.3	45.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.8
		85歳以上	(n= 137)	2.9	5.1	18.2	23.4	1.5	0.7	0.0
	女性	65～74歳	(n= 27)	37.0	14.8	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		75～84歳	(n= 146)	2.7	15.1	15.1	8.9	0.0	0.7	2.1
		85歳以上	(n= 301)	6.0	3.3	1.3	2.7	4.0	0.7	1.3
家族構成別	1人暮らし		(n= 142)	7.0	3.5	2.8	1.4	0.7	0.0	2.1
	夫婦2人暮らし		(n= 226)	12.4	26.1	19.9	17.3	4.4	0.9	1.8
	息子・娘と同居		(n= 316)	6.6	8.2	4.4	3.2	0.9	0.3	0.0
	その他		(n= 87)	11.5	9.2	12.6	4.6	1.1	1.1	2.3

問 28　あて名のご本人を主に介護している方はどこに住んでいますか。（１つに○）

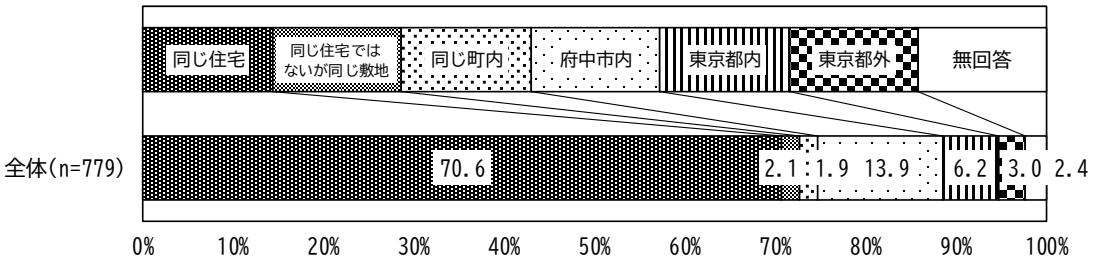
「同じ住宅」（70.6%）が最も多く、次いで「府中市内」（13.9%）、「東京都内」（6.2%）、「東京都外」（3.0%）と続いている。

要介護度別にみると、介護度が上がるほど「同じ住宅」の割合は高くなっている。

性別にみると、男性では「同じ住宅」（78.2%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、１人暮らしでは「府中市内」（41.5%）が最も多く、次いで「東京都内」（25.4%）、「東京都外」（14.1%）と続いている。

図表　主な介護者の居住地（全体）



図表　主な介護者の居住地
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

				同じ住宅	同じ住宅ではないが同じ敷地	同じ町内	府中市内	東京都内	東京都外	無回答
全体			(n= 779)	70.6	2.1	1.9	13.9	6.2	3.0	2.4
要介護度別	要支援		(n= 174)	56.9	4.0	1.7	15.5	10.3	6.3	5.2
	要介護（軽度）		(n= 349)	73.1	1.4	1.4	14.6	4.9	2.6	2.0
	要介護（中重度）		(n= 224)	79.0	1.3	2.7	10.7	4.9	0.9	0.4
性別	男性		(n= 293)	78.2	2.0	1.0	10.9	4.8	2.0	1.0
	女性		(n= 474)	65.8	2.1	2.5	15.8	7.2	3.4	3.2
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 37)	81.1	0.0	0.0	16.2	0.0	2.7	0.0
		75～84歳	(n= 119)	78.2	1.7	0.8	12.6	4.2	1.7	0.8
		85歳以上	(n= 137)	77.4	2.9	1.5	8.0	6.6	2.2	1.5
	女性	65～74歳	(n= 27)	74.1	3.7	3.7	18.5	0.0	0.0	0.0
		75～84歳	(n= 146)	68.5	0.7	2.1	14.4	9.6	2.1	2.7
		85歳以上	(n= 301)	63.8	2.7	2.7	16.3	6.6	4.3	3.7
家族構成別	１人暮らし		(n= 142)	4.2	6.3	5.6	41.5	25.4	14.1	2.8
	夫婦２人暮らし		(n= 226)	84.5	1.8	0.9	8.4	2.2	0.0	2.2
	息子・娘と同居		(n= 316)	88.0	0.9	0.9	6.0	1.9	0.0	2.2
	その他		(n= 87)	79.3	0.0	1.1	12.6	1.1	3.4	2.3

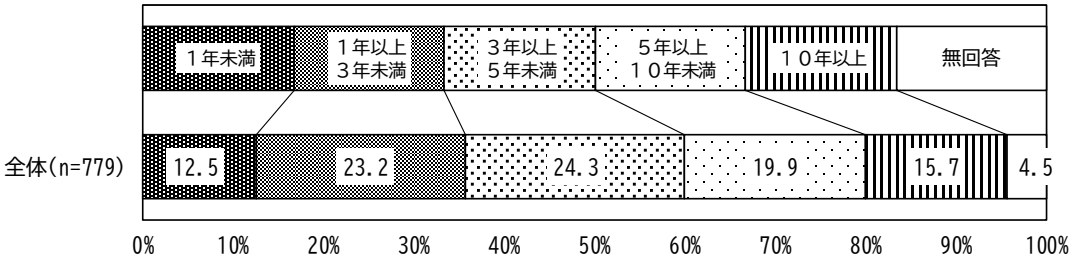
問 29　あて名のご本人を介護している期間はどのくらいですか。（１つに○）

「３年以上５年未満」（24.3%）が最も多く、次いで「１年以上３年未満」（23.2%）、「５年以上 10 年未満」（19.9%）、「10 年以上」（15.7%）と続いている。

要介護度別にみると、要介護（中重度）では「５年以上 10 年未満」（28.6%）が最も多く、次いで「３年以上５年未満」（23.2%）、「10 年以上」（20.1%）と続いている。

性・年代別にみると、女性の 75～84 歳では「１年以上３年未満」（31.5%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　介護している期間（全体）



図表　介護している期間
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

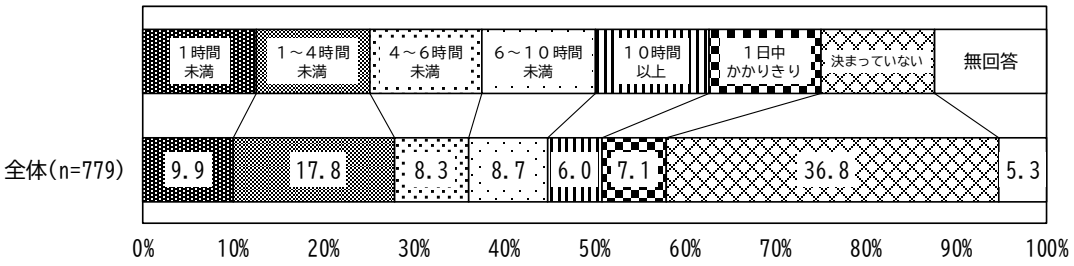
				１年未満	１年以上３年未満	３年以上５年未満	５年以上１０年未満	１０年以上	無回答
全体			(n= 779)	12.5	23.2	24.3	19.9	15.7	4.5
要介護度別	要支援		(n= 174)	14.4	26.4	23.0	13.2	13.8	9.2
	要介護（軽度）		(n= 349)	12.3	26.4	26.1	18.3	13.5	3.4
	要介護（中重度）		(n= 224)	10.3	17.0	23.2	28.6	20.1	0.9
性別	男性		(n= 293)	15.7	24.6	24.2	16.4	16.4	2.7
	女性		(n= 474)	10.3	22.6	23.8	22.4	15.4	5.5
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 37)	24.3	24.3	16.2	16.2	18.9	0.0
		75～84歳	(n= 119)	15.1	22.7	25.2	15.1	18.5	3.4
		85歳以上	(n= 137)	13.9	26.3	25.5	17.5	13.9	2.9
	女性	65～74歳	(n= 27)	11.1	25.9	18.5	25.9	11.1	7.4
		75～84歳	(n= 146)	11.6	31.5	22.6	17.1	13.7	3.4
		85歳以上	(n= 301)	9.6	17.9	24.9	24.6	16.6	6.3
家族構成別	１人暮らし		(n= 142)	17.6	23.2	21.1	11.3	19.7	7.0
	夫婦２人暮らし		(n= 226)	13.3	19.5	23.9	20.8	17.7	4.9
	息子・娘と同居		(n= 316)	10.1	25.6	25.3	24.4	12.0	2.5
	その他		(n= 87)	10.3	24.1	27.6	14.9	17.2	5.7

問 30　あて名のご本人の介護に１日に平均してどのくらい関わっていますか。（１つに○）

「決まっていない」（36.8%）が最も多く、次いで「１～４時間未満」（17.8%）、「１時間未満」（9.9%）、「６～10 時間未満」（8.7%）と続いている。

要介護度別にみると、要支援では「決まっていない」（51.1%）が半数以上を占めている。要介護（中重度）では「１日中かかりきり」（19.6%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　１日に介護している平均時間（全体）



図表　１日に介護している平均時間
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

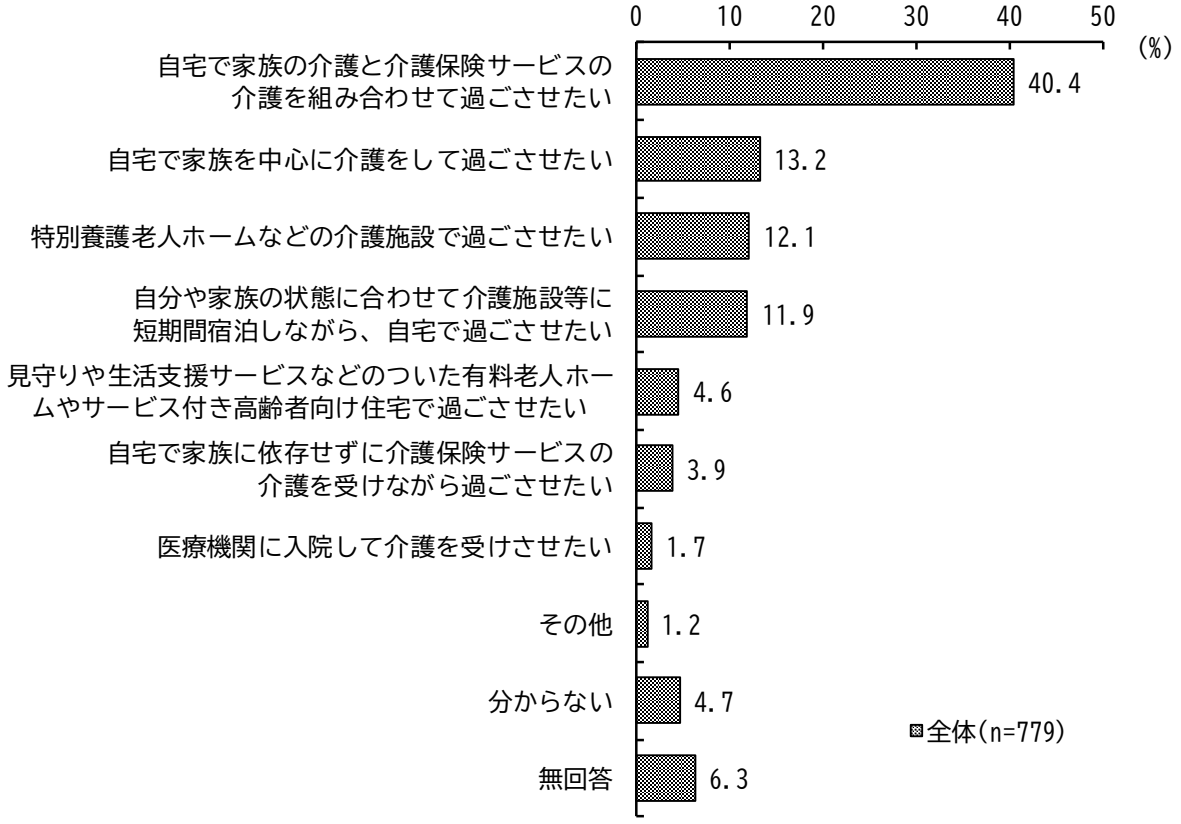
（%）

				１時間未満	１～４時間未満	４～６時間未満	６～１０時間未満	１０時間以上	１日中かかりきり	決まっていない	無回答
全体			（n= 779）	9.9	17.8	8.3	8.7	6.0	7.1	36.8	5.3
要介護度別	要支援		（n= 174）	16.7	10.3	7.5	2.9	0.6	0.6	51.1	10.3
	要介護（軽度）		（n= 349）	10.0	23.5	9.2	10.9	4.9	2.6	35.2	3.7
	要介護（中重度）		（n= 224）	4.5	16.1	8.9	10.7	12.5	19.6	25.9	1.8
性別	男性		（n= 293）	8.5	19.1	7.5	8.2	6.5	8.9	38.2	3.1
	女性		（n= 474）	11.0	16.9	9.1	9.3	5.9	5.9	36.1	5.9
性・年代別	男性	65～74歳	（n= 37）	8.1	29.7	2.7	18.9	5.4	10.8	24.3	0.0
		75～84歳	（n= 119）	5.0	14.3	5.0	7.6	7.6	8.4	46.2	5.9
		85歳以上	（n= 137）	11.7	20.4	10.9	5.8	5.8	8.8	35.0	1.5
	女性	65～74歳	（n= 27）	14.8	18.5	3.7	7.4	14.8	11.1	22.2	7.4
		75～84歳	（n= 146）	10.3	15.8	9.6	6.8	6.2	6.8	40.4	4.1
		85歳以上	（n= 301）	11.0	17.3	9.3	10.6	5.0	5.0	35.2	6.6
家族構成別	１人暮らし		（n= 142）	13.4	15.5	7.0	2.8	0.7	2.8	47.9	9.9
	夫婦２人暮らし		（n= 226）	8.0	16.8	8.8	9.7	6.2	9.3	36.3	4.9
	息子・娘と同居		（n= 316）	9.5	20.6	8.9	10.1	8.5	6.0	33.2	3.2
	その他		（n= 87）	11.5	14.9	5.7	11.5	5.7	10.3	34.5	5.7

問 31　今後、あて名のご本人がどこで生活するのが良いと考えていますか。
（もっとも当てはまるもの１つに○）

「自宅で家族の介護と介護保険サービスの介護を組み合わせて過ごさせたい」（40.4%）が最も多く、次いで「自宅で家族を中心に介護をして過ごさせたい」（13.2%）、「特別養護老人ホームなどの介護施設で過ごさせたい」（12.1%）、「自分や家族の状態に合わせて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で過ごさせたい」（11.9%）と続いている。

図表　被介護者が生活するのによいところ（全体）



要介護度別にみると、すべての介護度で「自宅で家族の介護と介護保険サービスの介護を組み合わせて過ごさせたい」が最も多く、要支援では「自宅で家族を中心に介護をして過ごさせたい」、要介護（軽度）では「自分や家族の状態に合わせて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で過ごさせたい」、要介護（中重度）では「特別養護老人ホームなどの介護施設で過ごさせたい」が続いている。

性・年代別にみると、男性の 75～84 歳では「自宅で家族を中心に介護をして過ごさせたい」（19.3%）、「自分や家族の状態に合わせて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で過ごさせたい」（17.6%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　被介護者が生活するのによいところ
（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別）

（%）

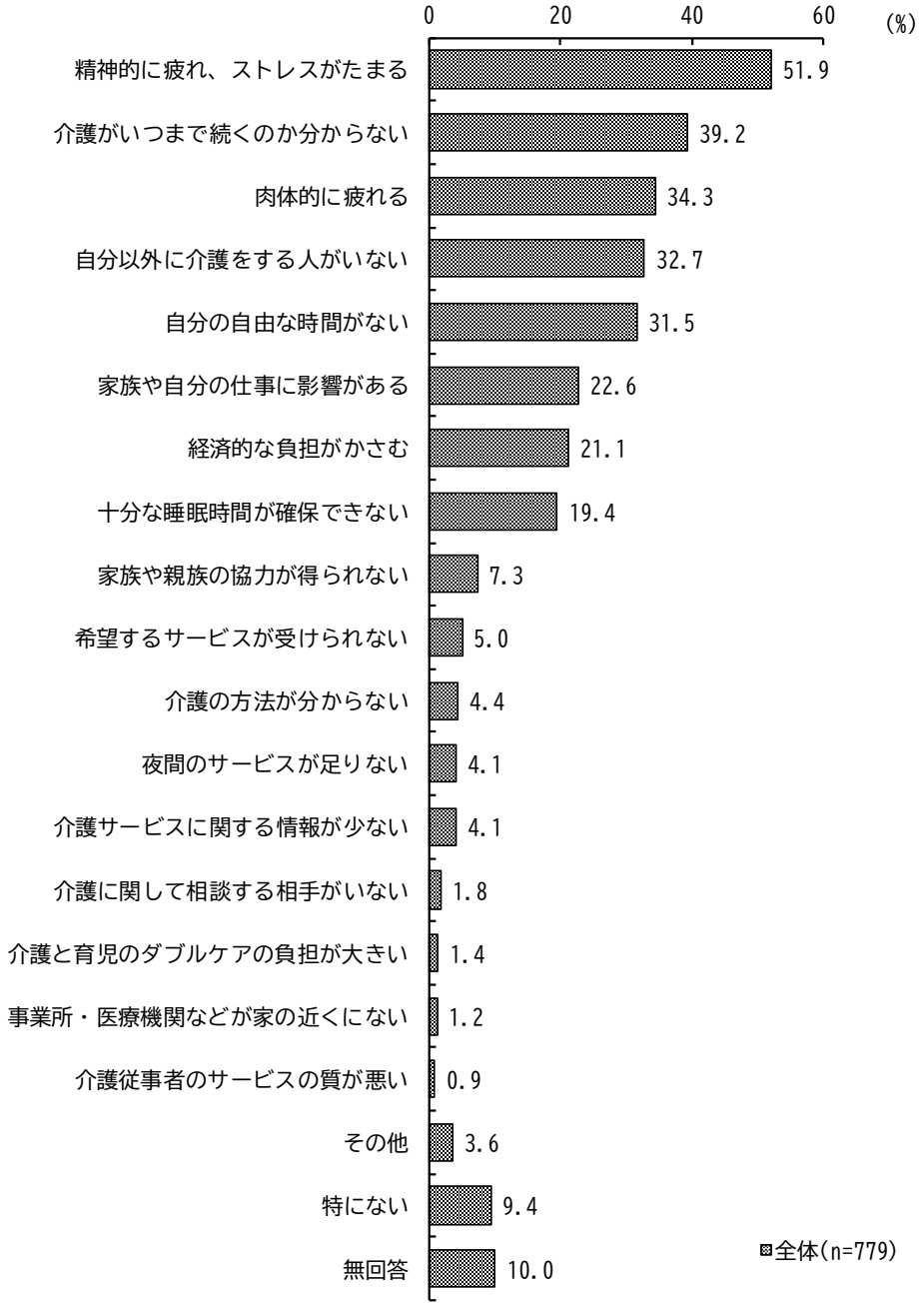
				自宅で家族の介護と介護保険サービスの介護を組み合わせて過ごさせたい	自宅で家族を中心に介護をして過ごさせたい	特別養護老人ホームなどの介護施設で過ごさせたい	自分や家族の状態に合わせて介護施設等に短期間宿泊しながら、自宅で過ごさせたい	見守りや生活支援サービスなどのついた有料老人ホーム等で過ごさせたい	自宅で家族に依存せずに介護保険サービスの介護を受けながら過ごさせたい	医療機関に入院して介護を受けさせたい	その他	分からない	無回答
全体			(n= 779)	40.4	13.2	12.1	11.9	4.6	3.9	1.7	1.2	4.7	6.3
要介護度別	要支援		(n= 174)	39.7	17.2	2.9	6.3	4.6	9.2	1.7	0.6	6.9	10.9
	要介護（軽度）		(n= 349)	40.1	12.6	14.0	14.6	4.6	2.0	1.1	1.1	4.3	5.4
	要介護（中重度）		(n= 224)	44.2	11.2	16.1	13.8	3.6	2.7	2.2	1.3	3.1	1.8
性別	男性		(n= 293)	37.9	17.4	13.3	12.3	5.8	2.7	2.0	0.3	3.8	4.4
	女性		(n= 474)	42.0	10.8	11.2	12.0	4.0	4.6	1.5	1.5	5.5	7.0
性・年代別	男性	65～74歳	(n= 37)	56.8	13.5	5.4	5.4	8.1	5.4	2.7	0.0	0.0	2.7
		75～84歳	(n= 119)	30.3	19.3	14.3	17.6	3.4	1.7	4.2	0.8	4.2	4.2
		85歳以上	(n= 137)	39.4	16.8	14.6	9.5	7.3	2.9	0.0	0.0	4.4	5.1
	女性	65～74歳	(n= 27)	37.0	18.5	11.1	11.1	3.7	3.7	0.0	0.0	3.7	11.1
		75～84歳	(n= 146)	41.1	13.0	10.3	11.0	3.4	6.2	3.4	0.0	7.5	4.1
		85歳以上	(n= 301)	42.9	9.0	11.6	12.6	4.3	4.0	0.7	2.3	4.7	8.0
家族構成別	1人暮らし		(n= 142)	35.2	4.9	16.2	4.9	8.5	9.2	0.7	1.4	4.9	14.1
	夫婦2人暮らし		(n= 226)	41.6	16.8	12.4	11.5	3.1	2.7	2.7	0.4	4.0	4.9
	息子・娘と同居		(n= 316)	44.6	13.3	10.8	14.9	2.8	2.2	1.3	0.9	5.7	3.5
	その他		(n= 87)	32.2	16.1	9.2	13.8	8.0	4.6	2.3	2.3	3.4	8.0

問 32　介護をしていくうえで、どのようなことに問題がありますか。（いくつでも○）

「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（51.9%）が最も多く、次いで「介護がいつまで続くのか分からない」（39.2%）、「肉体的に疲れる」（34.3%）、「自分以外に介護をする人がいない」（32.7%）と続いている。

要介護度別にみると、要介護（中重度）では「介護がいつまで続くのか分からない」（54.0%）、「肉体的に疲れる」（46.0%）、「自分の自由な時間がない」（44.6%）、「自分以外に介護をする人がいない」（42.9%）、「十分な睡眠時間が確保できない」（33.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　介護をしていく上での問題点（全体：複数回答）



図表　介護をしていく上での問題点

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

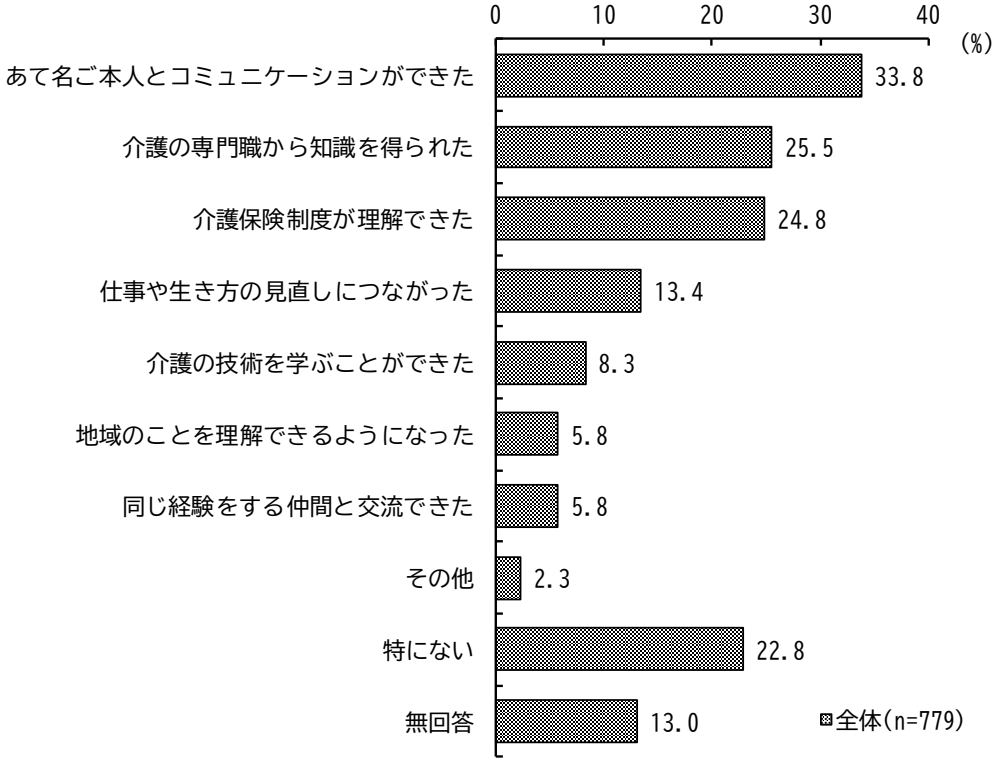
				精神的に疲れ、ストレスがたまる	介護がいつまで続くのか分からない	肉体的に疲れる	自分以外に介護をする人がいない	自分の自由な時間がない	家族や自分の仕事に影響がある	経済的な負担がかさむ	十分な睡眠時間が確保できない	家族や親族の協力が得られない	希望するサービスが受けられない
全体			(n= 779)	51.9	39.2	34.3	32.7	31.5	22.6	21.1	19.4	7.3	5.0
要介護度別	要支援		(n= 174)	32.8	19.0	20.1	20.1	14.9	12.6	10.3	8.0	4.6	10.3
	要介護（軽度）		(n= 349)	56.7	40.7	34.4	33.0	32.1	23.5	22.1	16.6	5.4	3.4
	要介護（中重度）		(n= 224)	60.7	54.0	46.0	42.9	44.6	30.8	29.9	33.0	11.6	4.0
性別	男性		(n= 293)	57.7	44.0	42.7	34.5	30.4	15.7	26.6	19.8	5.8	4.4
	女性		(n= 474)	48.5	36.1	29.1	31.9	32.3	27.0	18.1	19.0	8.4	5.5
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 37)	67.6	48.6	48.6	51.4	35.1	10.8	40.5	13.5	8.1	2.7
		75 ～ 84 歳	(n= 119)	58.8	47.9	43.7	32.8	32.8	14.3	26.1	15.1	2.5	5.9
		85 歳 以 上	(n= 137)	54.0	39.4	40.1	31.4	27.0	18.2	23.4	25.5	8.0	3.6
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 27)	51.9	18.5	22.2	29.6	22.2	25.9	22.2	3.7	0.0	3.7
		75 ～ 84 歳	(n= 146)	46.6	38.4	32.9	34.9	35.6	20.5	21.2	17.8	7.5	6.8
		85 歳 以 上	(n= 301)	49.2	36.5	27.9	30.6	31.6	30.2	16.3	20.9	9.6	5.0
家族構成別	1 人 暮 ら し		(n= 142)	32.4	28.2	25.4	25.4	20.4	26.8	10.6	7.0	8.5	5.6
	夫 婦 2 人 暮 ら し		(n= 226)	50.4	43.8	38.9	39.8	25.7	9.7	22.1	16.4	5.3	2.7
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 316)	61.4	41.1	34.2	32.0	40.5	29.7	26.3	25.9	8.5	6.6
	そ の 他		(n= 87)	52.9	39.1	37.9	31.0	33.3	21.8	16.1	23.0	6.9	4.6

				介護の方法が分からない	夜間のサービスが足りない	介護サービスに関する情報が少ない	介護に関して相談する相手がいない	介護と育児のダブルケアの負担が大きい	事業所・医療機関などが家の近くにない	介護従事者のサービスの質が悪い	その他	特にない	無回答
全体			(n= 779)	4.4	4.1	4.1	1.8	1.4	1.2	0.9	3.6	9.4	10.0
要介護度別	要支援		(n= 174)	2.3	2.3	4.0	2.3	0.6	1.1	0.6	2.3	16.1	20.7
	要介護（軽度）		(n= 349)	6.3	3.7	5.2	1.1	1.1	0.9	0.6	3.7	8.6	8.0
	要介護（中重度）		(n= 224)	3.1	5.4	2.7	2.7	2.7	1.8	1.8	4.5	5.8	3.1
性別	男性		(n= 293)	4.4	4.1	5.8	1.0	1.0	1.4	0.7	2.0	7.5	6.8
	女性		(n= 474)	4.4	4.2	3.2	2.3	1.7	1.1	1.1	4.6	10.8	11.6
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 37)	2.7	2.7	8.1	0.0	0.0	2.7	2.7	5.4	5.4	2.7
		75 ～ 84 歳	(n= 119)	5.0	3.4	6.7	2.5	1.7	0.0	0.0	1.7	7.6	5.0
		85 歳 以 上	(n= 137)	4.4	5.1	4.4	0.0	0.7	2.2	0.7	1.5	8.0	9.5
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 27)	3.7	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0	0.0	7.4	11.1	11.1
		75 ～ 84 歳	(n= 146)	5.5	1.4	2.7	2.7	2.7	2.1	1.4	2.7	10.3	13.7
		85 歳 以 上	(n= 301)	4.0	5.6	3.3	2.3	0.7	0.7	1.0	5.3	11.0	10.6
家族構成別	1 人 暮 ら し		(n= 142)	2.1	4.9	2.8	2.1	2.8	0.7	0.0	5.6	10.6	20.4
	夫 婦 2 人 暮 ら し		(n= 226)	3.1	2.7	6.6	0.4	0.0	0.9	1.3	1.3	8.0	10.2
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 316)	6.3	4.7	3.2	3.2	1.3	1.6	0.9	3.8	9.5	5.7
	そ の 他		(n= 87)	3.4	3.4	2.3	0.0	2.3	1.1	1.1	4.6	9.2	8.0

問 33　介護をしていて良かったと思うことはどのようなことですか。（いくつでも○）

「あて名ご本人とコミュニケーションができた」（33.8%）が最も多く、次いで「介護の専門職から知識を得られた」（25.5%）、「介護保険制度が理解できた」（24.8%）、「仕事や生き方の見直しにつながった」（13.4%）と続いている。一方、「特にない」は 22.8%となっている。

図表　介護をしていて良かったと思うこと（全体：複数回答）



要介護度別にみると、要介護（中重度）では「あて名ご本人とコミュニケーションができた」（39.7%）、「介護の専門職から知識を得られた」（34.4%）、「介護の技術を学ぶことができた」（17.4%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「あて名ご本人とコミュニケーションができた」の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦２人暮らしでは「介護の専門職から知識を得られた」（31.9%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　介護をしていて良かったと思うこと

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

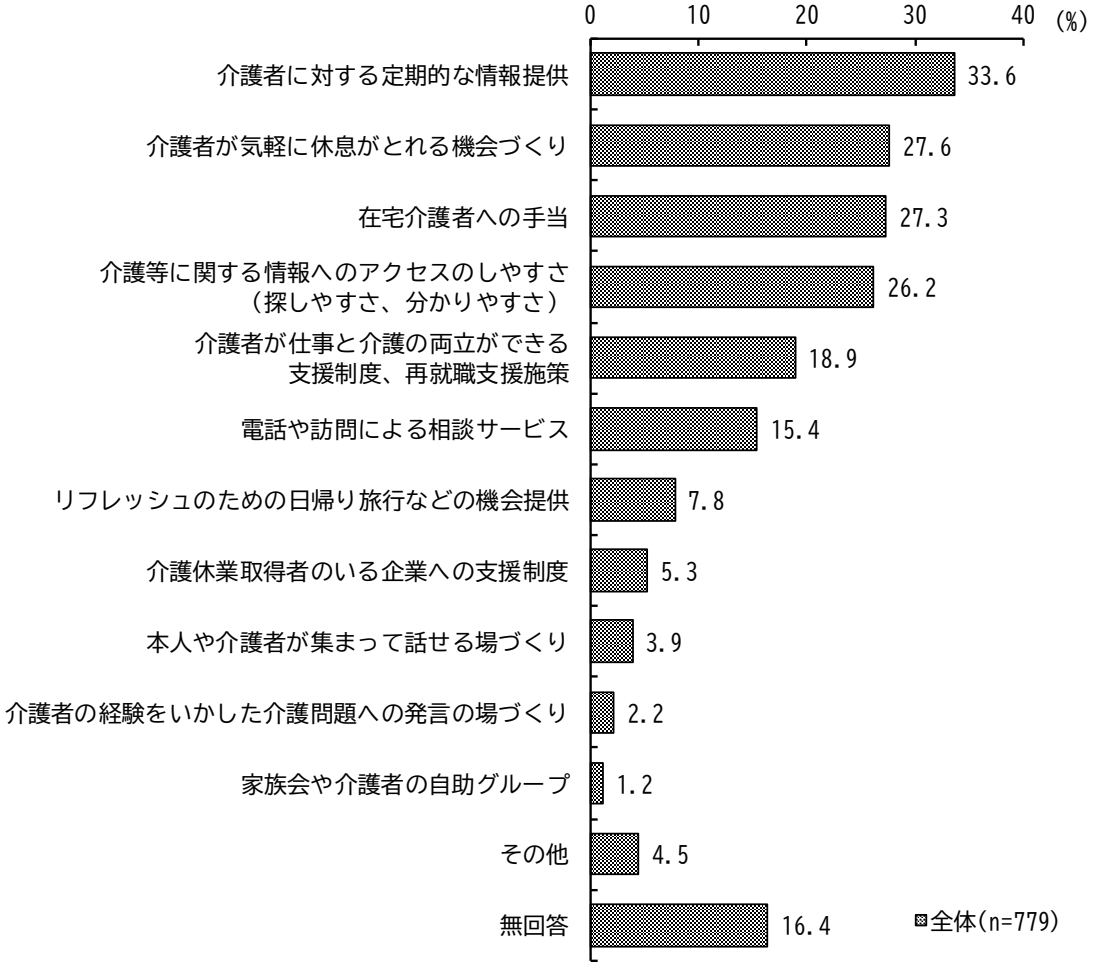
			あて名ご本人とコミュニケーションができた	介護の専門職から知識を得られた	介護保険制度が理解できた	仕事や生き方の見直しにつながった	介護の技術を学ぶことができた	地域のことを理解できるようになった	同じ経験をする仲間と交流できた	その他	特にない	無回答
全体		(n= 779)	33.8	25.5	24.8	13.4	8.3	5.8	5.8	2.3	22.8	13.0
要介護度別	要支援	(n= 174)	23.0	14.4	20.1	11.5	3.4	5.2	4.6	1.1	21.3	25.9
	要介護（軽度）	(n= 349)	36.1	25.5	26.1	14.0	5.2	7.2	6.0	2.0	22.3	10.0
	要介護（中重度）	(n= 224)	39.7	34.4	28.1	13.8	17.4	4.9	6.7	4.0	24.1	5.4
性別	男性	(n= 293)	33.1	28.3	27.3	13.3	9.6	6.5	6.8	2.7	24.2	10.2
	女性	(n= 474)	34.4	24.1	23.6	13.7	7.6	5.3	5.1	2.1	22.2	14.1
性・年代別	男性 65～74歳	(n= 37)	29.7	24.3	27.0	10.8	5.4	8.1	8.1	0.0	24.3	5.4
	男性 75～84歳	(n= 119)	31.9	31.9	30.3	8.4	11.8	8.4	7.6	4.2	21.8	9.2
	男性 85歳以上	(n= 137)	35.0	26.3	24.8	18.2	8.8	4.4	5.8	2.2	26.3	12.4
	女性 65～74歳	(n= 27)	29.6	40.7	37.0	14.8	3.7	7.4	0.0	0.0	25.9	14.8
	女性 75～84歳	(n= 146)	30.1	28.8	20.5	16.4	8.9	7.5	4.8	1.4	22.6	15.1
	女性 85歳以上	(n= 301)	36.9	20.3	23.9	12.3	7.3	4.0	5.6	2.7	21.6	13.6
家族構成別	１人暮らし	(n= 142)	38.0	19.7	24.6	8.5	4.9	7.0	4.9	2.1	19.7	19.7
	夫婦２人暮らし	(n= 226)	28.8	31.9	26.5	13.7	8.4	8.0	7.5	1.8	22.6	13.7
	息子・娘と同居	(n= 316)	33.5	23.4	22.2	17.1	9.5	4.1	4.4	1.9	26.6	8.9
	その他	(n= 87)	40.2	27.6	29.9	8.0	10.3	4.6	8.0	4.6	16.1	14.9

問 34　介護者支援策として必要だと思うのはどれですか。（３つまでに○）

「介護者に対する定期的な情報提供」（33.6%）が最も多く、次いで「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（27.6%）、「在宅介護者への手当」（27.3%）、「介護等に関する情報へのアクセスのしやすさ（探しやすさ、分かりやすさ）」（26.2%）と続いている。

要介護度別にみると、要介護（中重度）では「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（37.5%）が最も多く、次いで「在宅介護者への手当」（36.6%）、「介護者に対する定期的な情報提供」（33.9%）と続いている。

図表　介護者支援として必要だと思うもの（全体：複数回答）



図表　介護者支援として必要だと思うもの

（全体、要介護度別、性別、性・年代別、家族構成別：複数回答）

（%）

				介護者に対する定期的な情報提供	介護者が気軽に休息がとれる機会づくり	在宅介護者への手当	介護等に関する情報へのアクセスのしやすさ（探しやすさ、分かりやすさ）	介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策	電話や訪問による相談サービス	リフレッシュのための日帰り旅行などの機会提供
全体			(n= 779)	33.6	27.6	27.3	26.2	18.9	15.4	7.8
要介護度別	要支援		(n= 174)	35.1	17.2	20.1	24.7	14.4	20.1	5.2
	要介護（軽度）		(n= 349)	33.2	26.9	26.4	26.1	21.5	13.8	9.2
	要介護（中重度）		(n= 224)	33.9	37.5	36.6	29.5	19.6	14.3	8.5
性別	男性		(n= 293)	38.2	27.6	28.3	25.9	15.7	20.8	9.9
	女性		(n= 474)	30.8	27.8	26.8	26.6	21.1	12.4	6.8
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 37)	37.8	27.0	35.1	32.4	18.9	10.8	2.7
		75 ～ 84 歳	(n= 119)	37.8	26.9	29.4	26.1	16.0	19.3	13.4
		85 歳 以 上	(n= 137)	38.7	28.5	25.5	24.1	14.6	24.8	8.8
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 27)	44.4	33.3	29.6	29.6	14.8	18.5	0.0
		75 ～ 84 歳	(n= 146)	33.6	24.7	25.3	26.0	18.5	13.7	8.2
		85 歳 以 上	(n= 301)	28.2	28.9	27.2	26.6	22.9	11.3	6.6
家族構成別	１ 人 暮 ら し		(n= 142)	25.4	20.4	20.4	24.6	20.4	12.7	5.6
	夫 婦 ２ 人 暮 ら し		(n= 226)	39.4	29.6	24.8	24.8	8.0	21.2	7.5
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 316)	36.4	30.1	32.3	26.3	25.9	13.3	9.5
	そ の 他		(n= 87)	25.3	26.4	28.7	31.0	20.7	13.8	5.7

				介護休業取得者のいる企業への支援制度	本人や介護者が集まって話せる場づくり	介護者の経験をいかした介護問題への発言の場づくり	家族会や介護者の自助グループ	その他	無回答
全体			(n= 779)	5.3	3.9	2.2	1.2	4.5	16.4
要介護度別	要支援		(n= 174)	5.2	5.2	1.7	1.1	2.9	25.9
	要介護（軽度）		(n= 349)	5.2	3.4	2.0	1.1	4.6	16.0
	要介護（中重度）		(n= 224)	6.3	3.1	3.1	1.3	5.4	7.1
性別	男性		(n= 293)	5.5	4.8	3.1	1.4	3.8	10.9
	女性		(n= 474)	5.3	3.4	1.7	1.1	5.1	19.0
性・年代別	男性	65 ～ 74 歳	(n= 37)	5.4	0.0	8.1	0.0	5.4	10.8
		75 ～ 84 歳	(n= 119)	5.9	5.9	2.5	0.8	3.4	9.2
		85 歳 以 上	(n= 137)	5.1	5.1	2.2	2.2	3.6	12.4
	女性	65 ～ 74 歳	(n= 27)	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	18.5
		75 ～ 84 歳	(n= 146)	6.8	5.5	0.7	2.7	3.4	21.9
		85 歳 以 上	(n= 301)	5.0	2.7	2.0	0.0	6.3	17.6
家族構成別	１ 人 暮 ら し		(n= 142)	6.3	2.8	1.4	0.0	6.3	27.5
	夫 婦 ２ 人 暮 ら し		(n= 226)	1.8	5.8	2.2	2.2	2.2	15.9
	息 子 ・ 娘 と 同 居		(n= 316)	8.2	2.5	1.6	0.9	4.1	11.4
	そ の 他		(n= 87)	2.3	5.7	5.7	0.0	8.0	17.2

問 35　介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市へのご意見・ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、168 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
家族への支援の充実	30
サービスへの感謝・満足	21
サービス、事業に関する要望	17
現状や将来に対する希望、不安	12
仕事と介護の両立が困難	12
交通・移動支援の充実	9
施設の整備、入所・入居に関する希望	8
アンケートへの意見や感想	7
情報提供、周知の充実	6
要介護認定の方法	6
介護サービスの質の向上（スタッフを含む）	6
相談窓口、連絡先がわからない	3
住まいの不安	3
介護保険料、サービスの金額	3
認知症のある人の介護	3
手続きに時間がかかる	1
その他	11
わからない・特になし	10

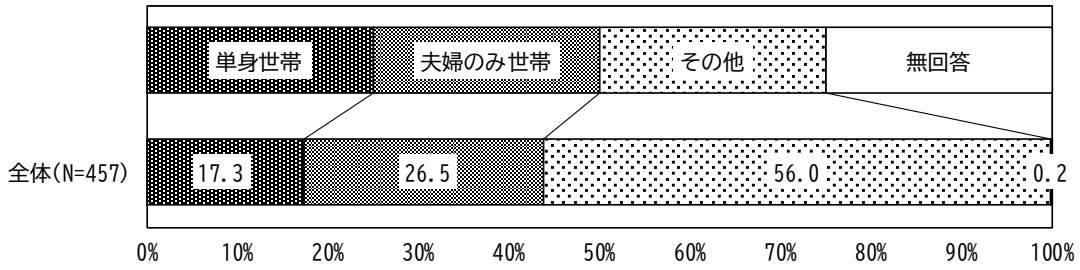
３　在宅介護実態調査

（１）調査対象者（本人）の状況

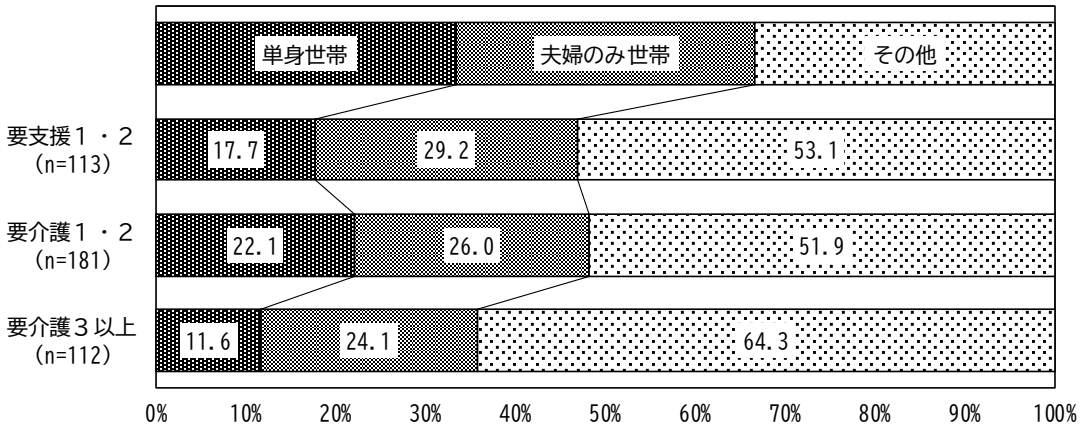
問１　世帯類型について、ご回答ください（１つを選択）

「単身世帯」が 17.3%、「夫婦のみ世帯」が 26.5%、「その他」が 56.0%となっている。
要介護度別にみると、要介護度が高くなるほど「夫婦のみ世帯」の割合は低くなっている。

図表　世帯類型（全体）



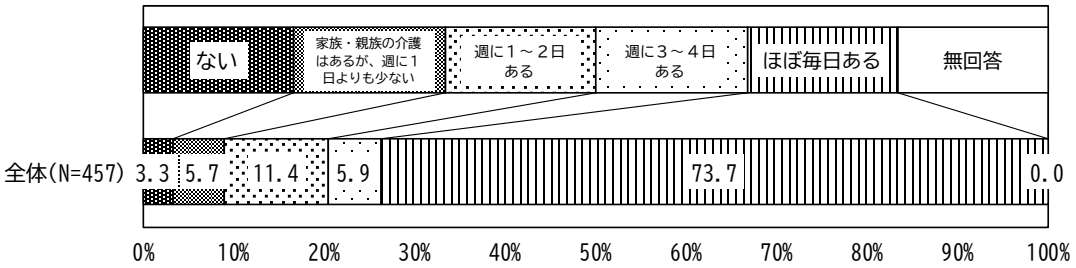
図表　世帯類型（要介護度別）



問２　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（１つを選択）

「ほぼ毎日ある」（73.7%）が最も多く、次いで「週に１～２日ある」（11.4%）、「週に３～４日ある」（5.9%）、「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」（5.7%）、「ない」（3.3%）と続いている。

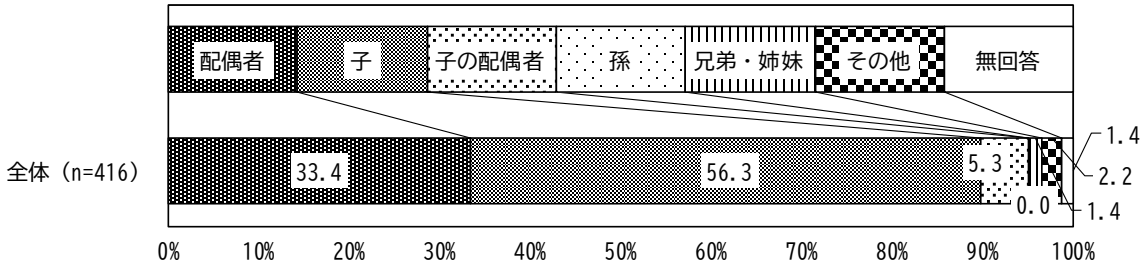
図表　家族等の介護の頻度（全体）



問３　問２で「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」、「週に１～２日ある」、「週に３～４日ある」、「ほぼ毎日ある」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、どなたですか（１つを選択）

「子」（56.3%）が最も多く、次いで「配偶者」（33.4%）、「子の配偶者」（5.3%）と続いている。

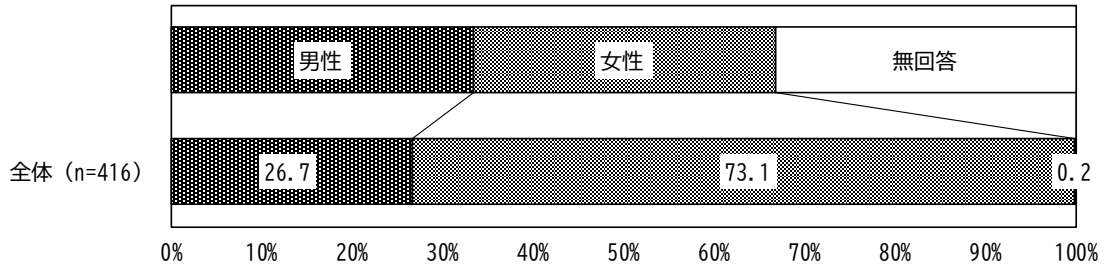
図表　主な介護者
（家族・親族から介護を受けている人）



問４　問２で「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」、「週に１～２日ある」、「週に３～４日ある」、「ほぼ毎日ある」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方の性別について、ご回答ください（１つを選択）

「男性」が 26.7%、「女性」が 73.1%となっている。

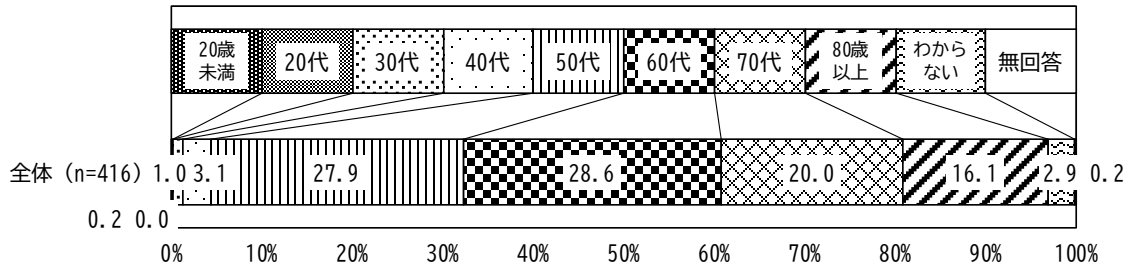
図表　主な介護者の性別
（家族・親族から介護を受けている人）



問５　問２で「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」、「週に１～２日ある」、「週に３～４日ある」、「ほぼ毎日ある」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（１つを選択）

「60 代」（28.6%）が最も多く、次いで「50 代」（27.9%）、「70 代」（20.0%）、「80 歳以上」（16.1%）と続いている。

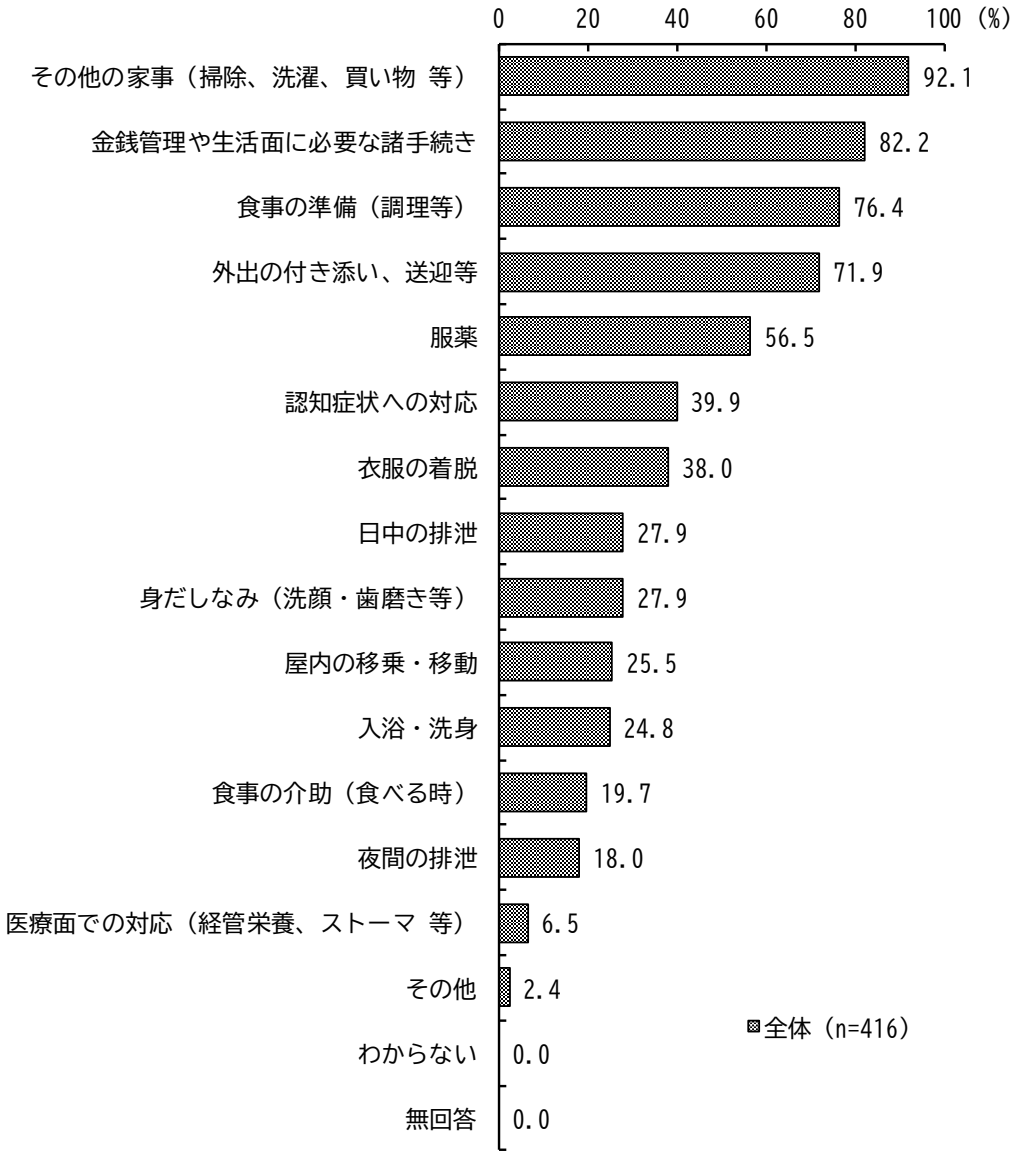
図表　主な介護者の年齢
（家族・親族から介護を受けている人）



問６　問２で「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」、「週に１～２日ある」、「週に３～４日ある」、「ほぼ毎日ある」と回答した方にお伺いします。
現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等」（92.1%）が最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（82.2%）、「食事の準備（調理等）」（76.4%）、「外出の付き添い、送迎等」（71.9%）、「服薬」（56.5%）と続いている。

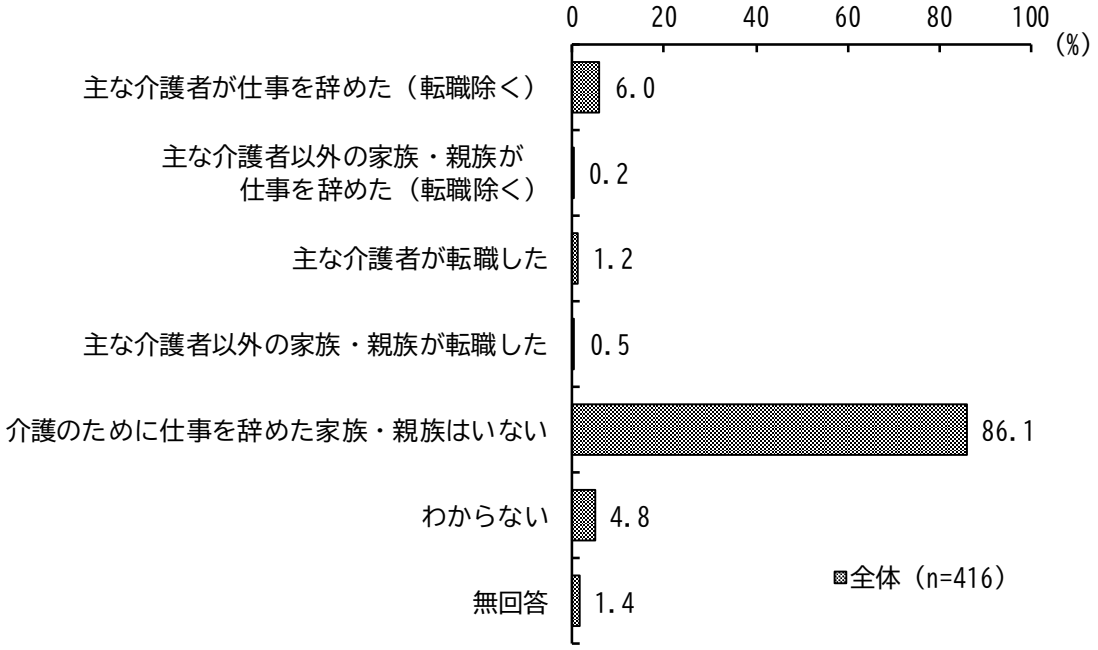
図表　主な介護者が行っている介護
（家族・親族から介護を受けている人：複数回答）



問７　問２で「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」、「週に１～２日ある」、「週に３～４日ある」、「ほぼ毎日ある」と回答した方にお伺いします。
ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去１年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）
※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 86.1%となっている。

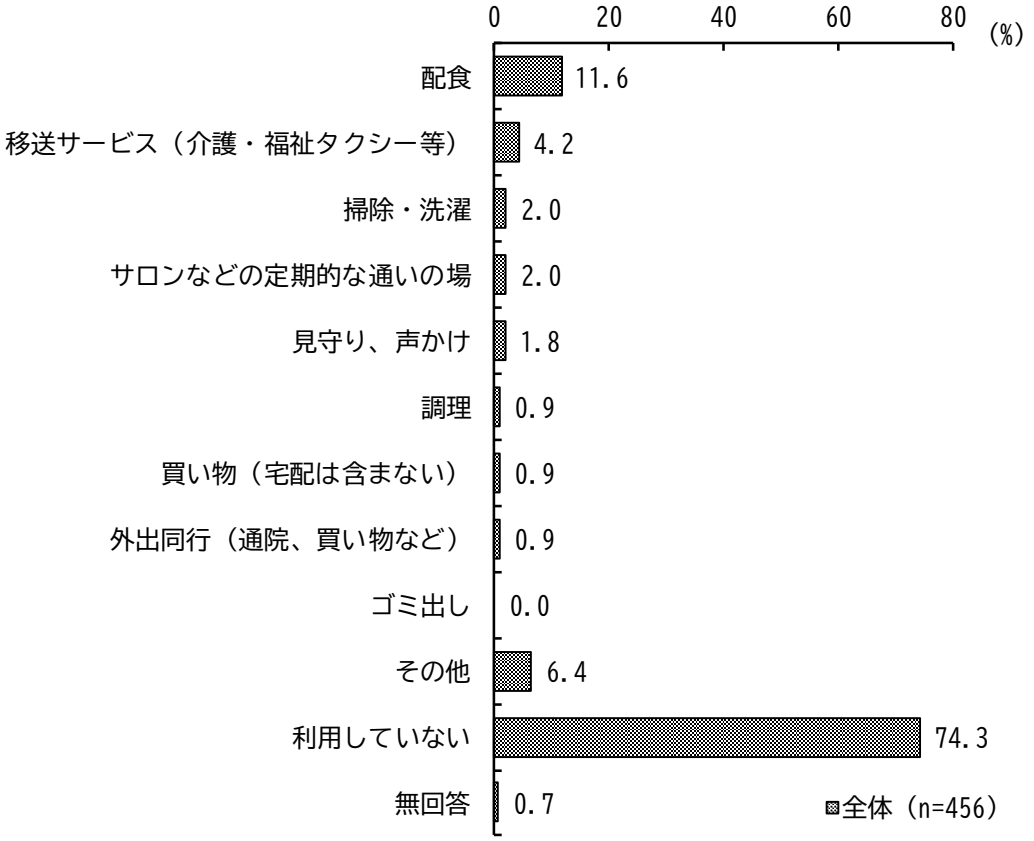
図表　介護のための離職の有無
（家族・親族から介護を受けている人：複数回答）



問８　現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）
※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

「配食」が 11.6%となっている。一方、「利用していない」は 74.3%となっている。

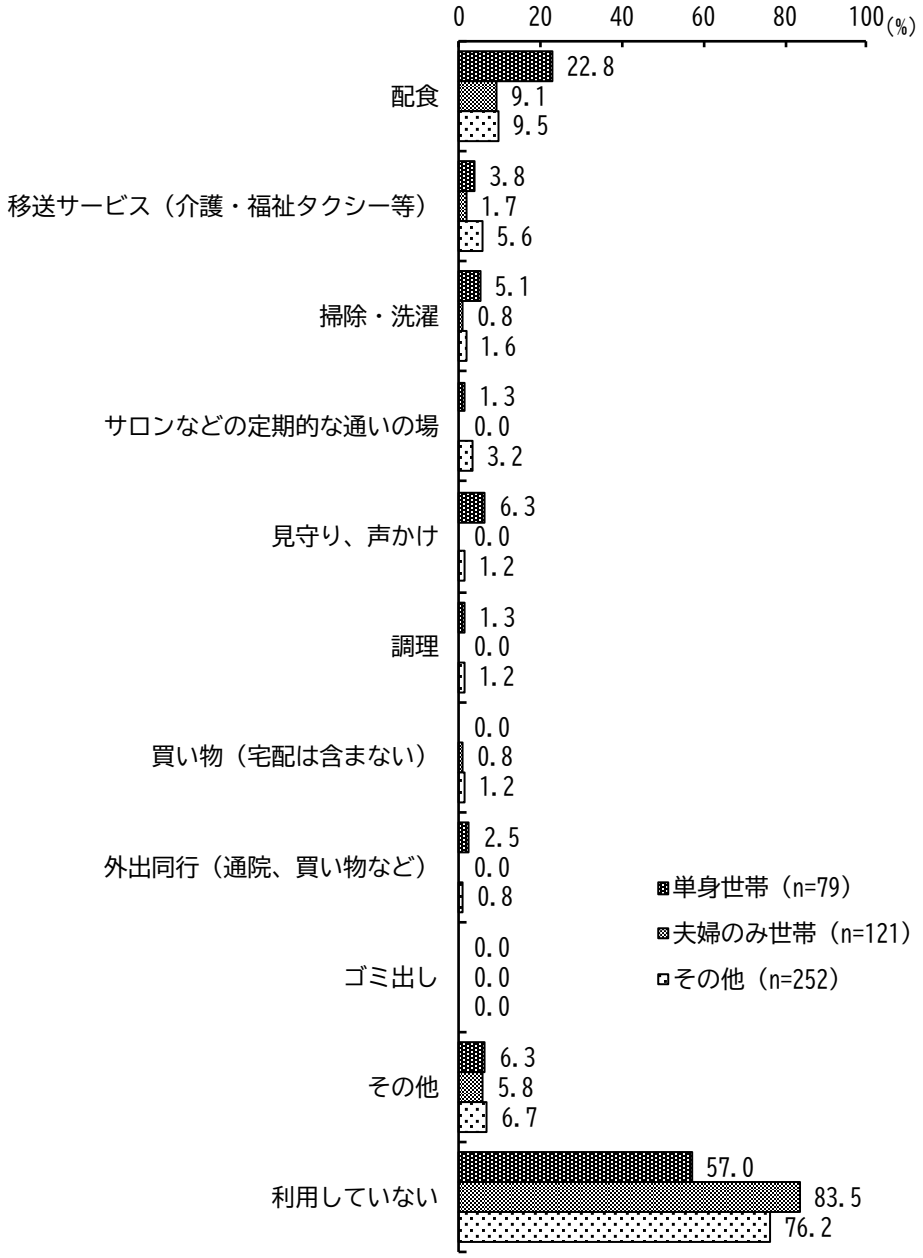
図表　介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（全体：複数回答）



世帯類型別にみると、単身世帯では「利用していない」（57.0%）が最も多く、次いで「配食（22.8%）、「見守り、声かけ」、「その他」（ともに 6.3%）、「掃除・洗濯」（5.1%）と続いている。

一方、夫婦のみ世帯では「利用していない」（83.5%）は８割を超えている。

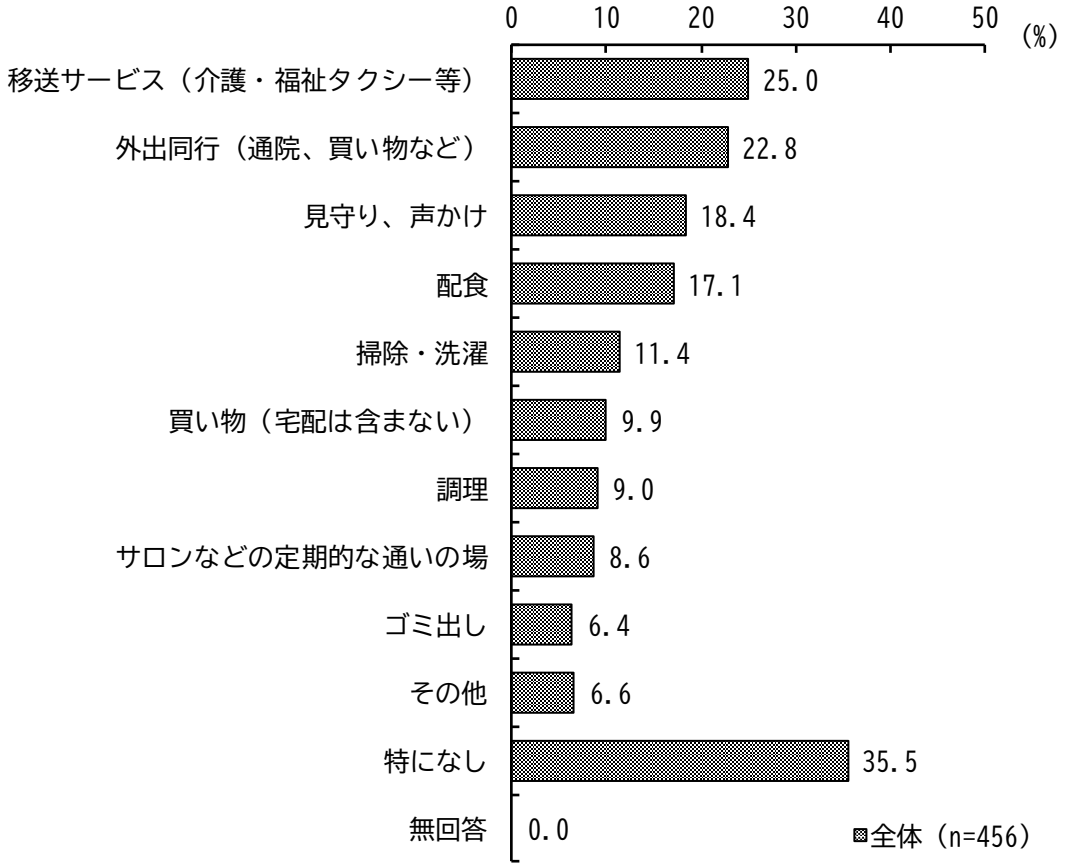
図表　介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況
（世帯類型別：複数回答）



問９　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）
※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

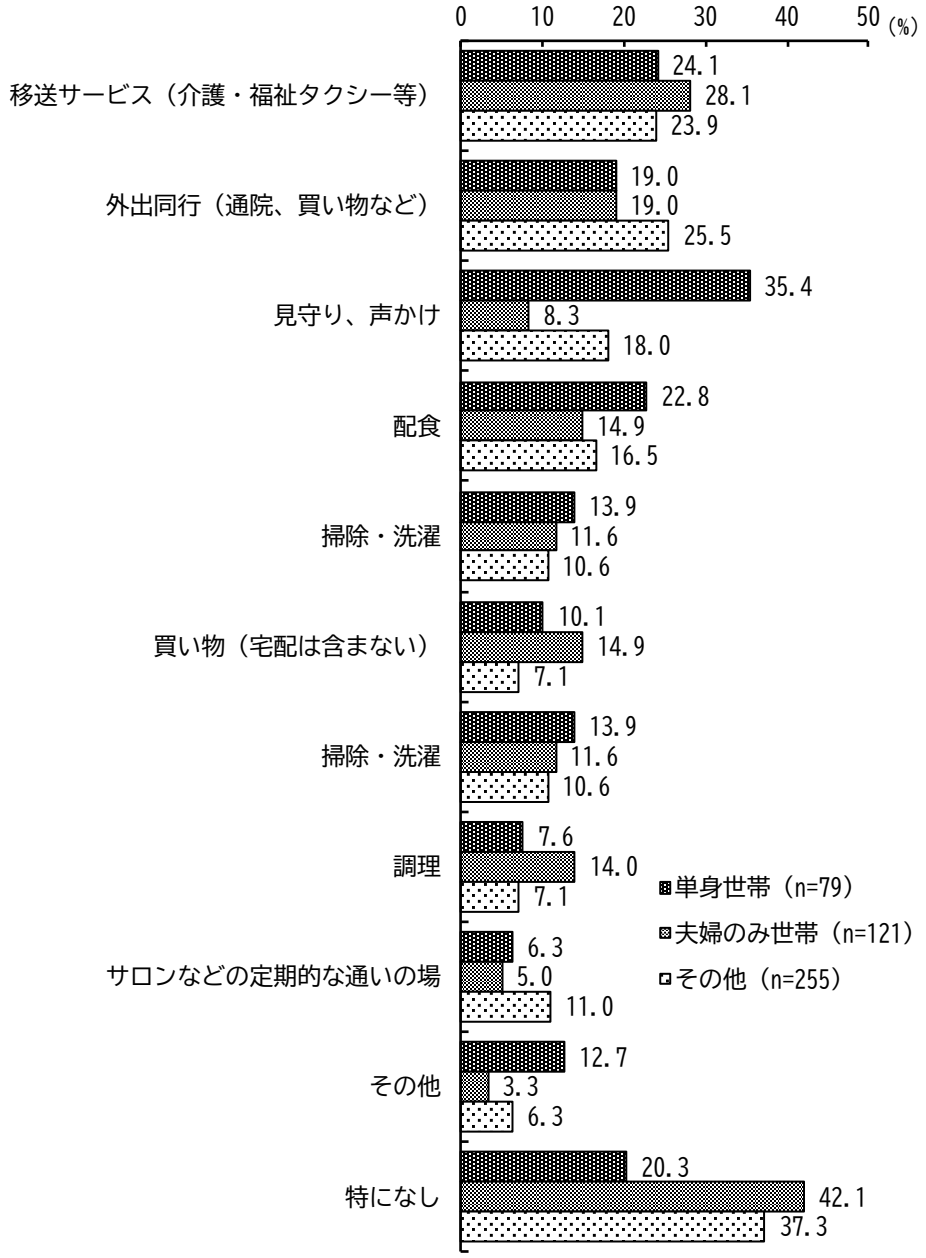
「移送サービス（介護・福祉タクシー等」（25.0%）が最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など)」（22.8%)、「見守り、声かけ」（18.4%)、「配食」（17.1%）と続いている。
一方、「特になし」は 35.5%となっている。

図表　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（全体：複数回答）



世帯類型別にみると、単身世帯では「見守り、声かけ」（35.4%）が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（24.1%）、「配食」（22.8%）と続いている。夫婦のみ世帯では「特になし」（42.1%）が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（28.1%）、「外出同行（通院、買い物など）」（19.0%）と続いている。その他では「特になし」（37.3%）が最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（25.5%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（23.9%）と続いている。

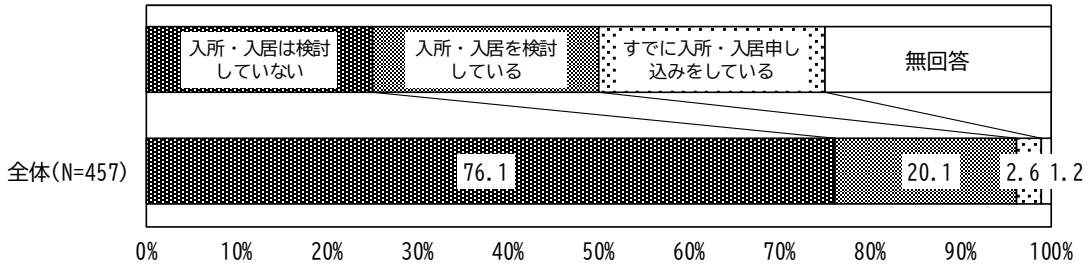
図表　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス
（世帯類型別：複数回答）



問 10　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（１つを選択）
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

「入所・入居は検討していない」（76.1%）が最も多く、次いで「入所・入居を検討している」（20.1%）、「すでに入所・入居申し込みをしている」（2.6%）と続いている。

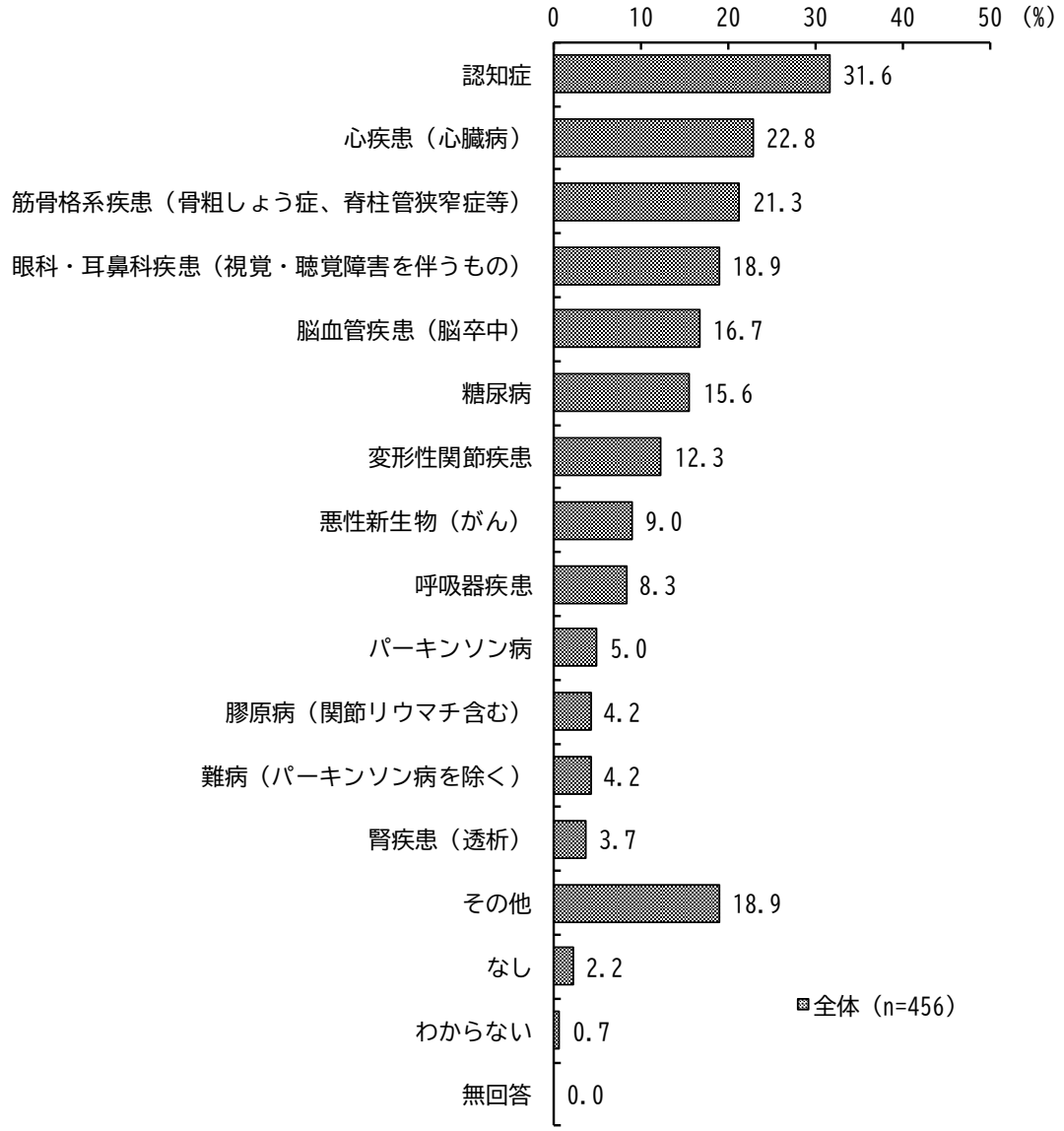
図表　施設等への入所・入居の検討状況（全体）



問 11　ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）

「認知症」(31.6%) が最も多く、次いで「心疾患」(22.8%)、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(21.3%)、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの)」(18.9%）と続いている。

図表　本人が抱えている傷病（全体：複数回答）

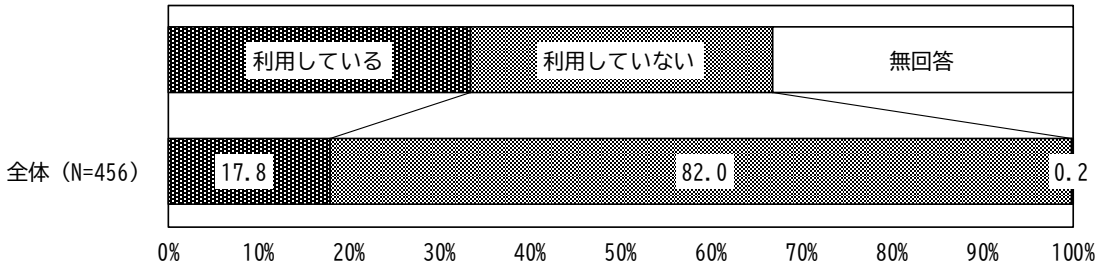


問 12　ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（１つを選択）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

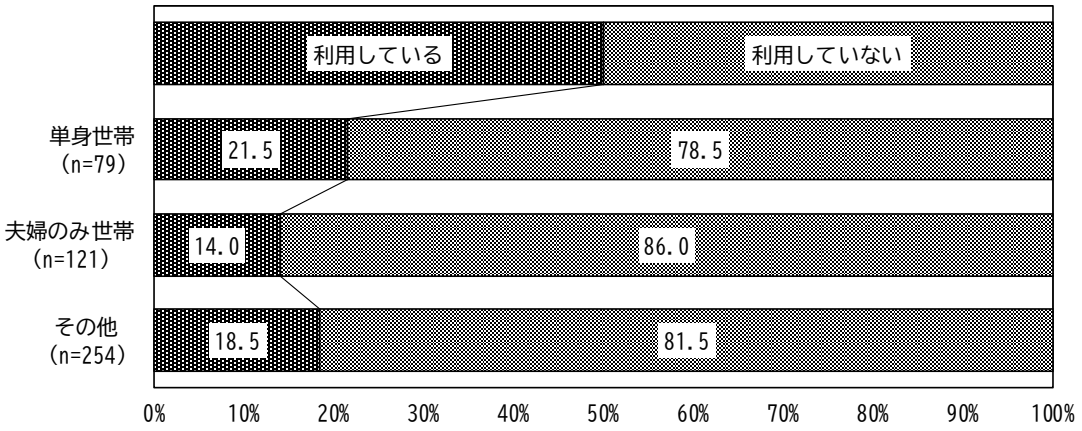
「利用している」が 17.8%、「利用していない」が 82.0%となっている。

世帯類型別にみると、単身世帯では「利用している」（21.5%）が２割強、「利用していない」（78.5%）が８割弱となっている。夫婦のみ世帯では「利用している」（14.0%）が１割台、「利用していない」（86.0%）が８割台となっている。その他では「利用している」（18.5%）が２割弱、「利用していない」（81.5%）が８割強となっている。

図表　訪問診療の利用の有無（全体）



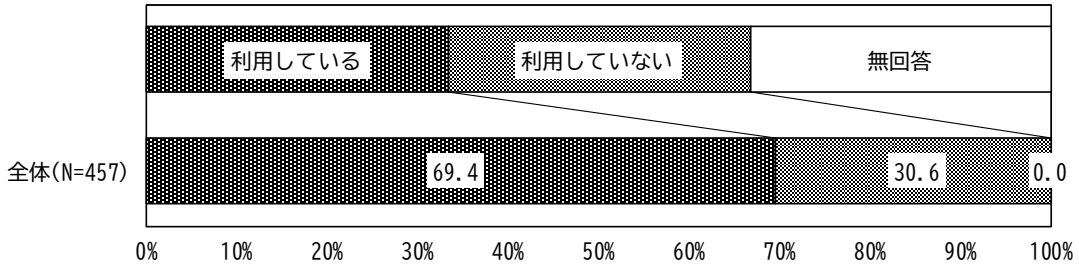
図表　訪問診療の利用の有無（世帯類型別）



問 13　現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（１つを選択）

「利用している」が 69.4%、「利用していない」が 30.6%となっている。

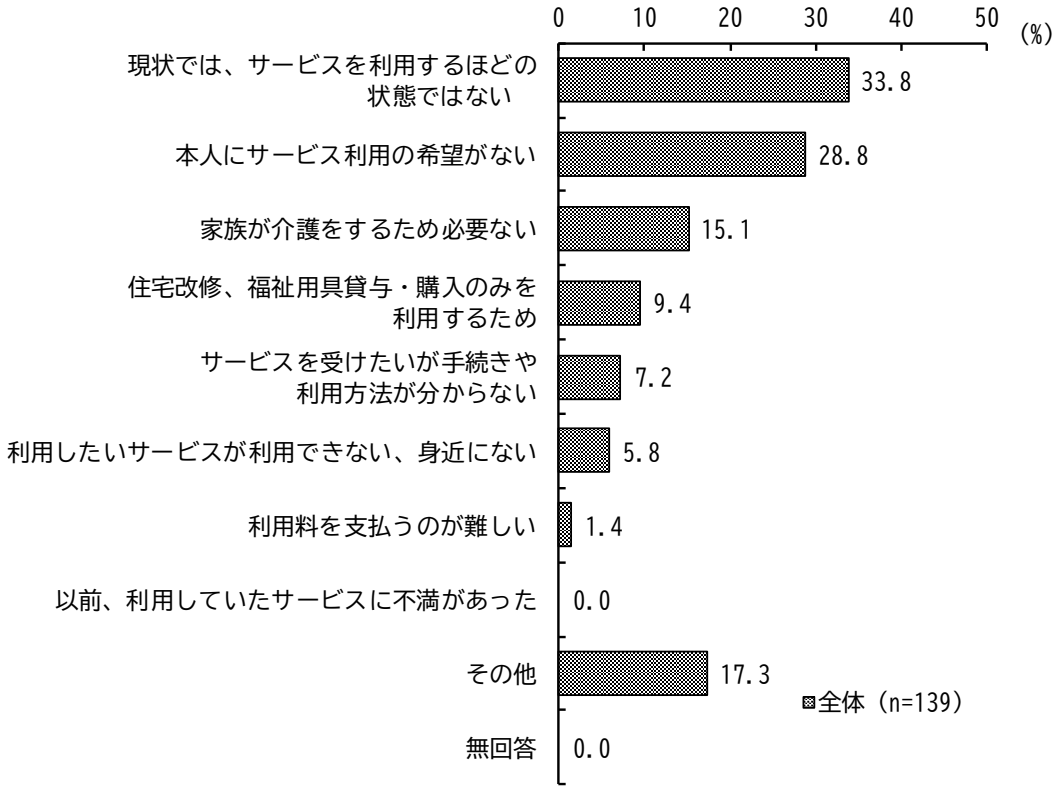
図表　介護保険サービスの利用の有無（全体）



問 14　問 13 で「利用していない」と回答した方にお伺いします。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」（33.8%）が最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」（28.8%）、「家族が介護をするため必要ない」（15.1%）と続いている。

図表　介護保険サービスを未利用の理由
（介護保険サービスを利用していない人：複数回答）



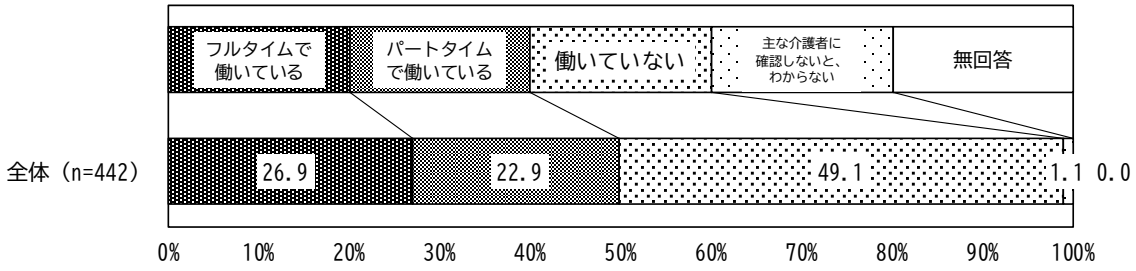
（２）主な介護者の状況

問１　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（１つを選択）

※「パートタイム」とは、「１週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

「フルタイムで働いている」(26.9%)、「パートタイムで働いている」(22.9%)を合わせた割合は 49.8%となっている。一方、「働いてない」は 49.1%となっている。

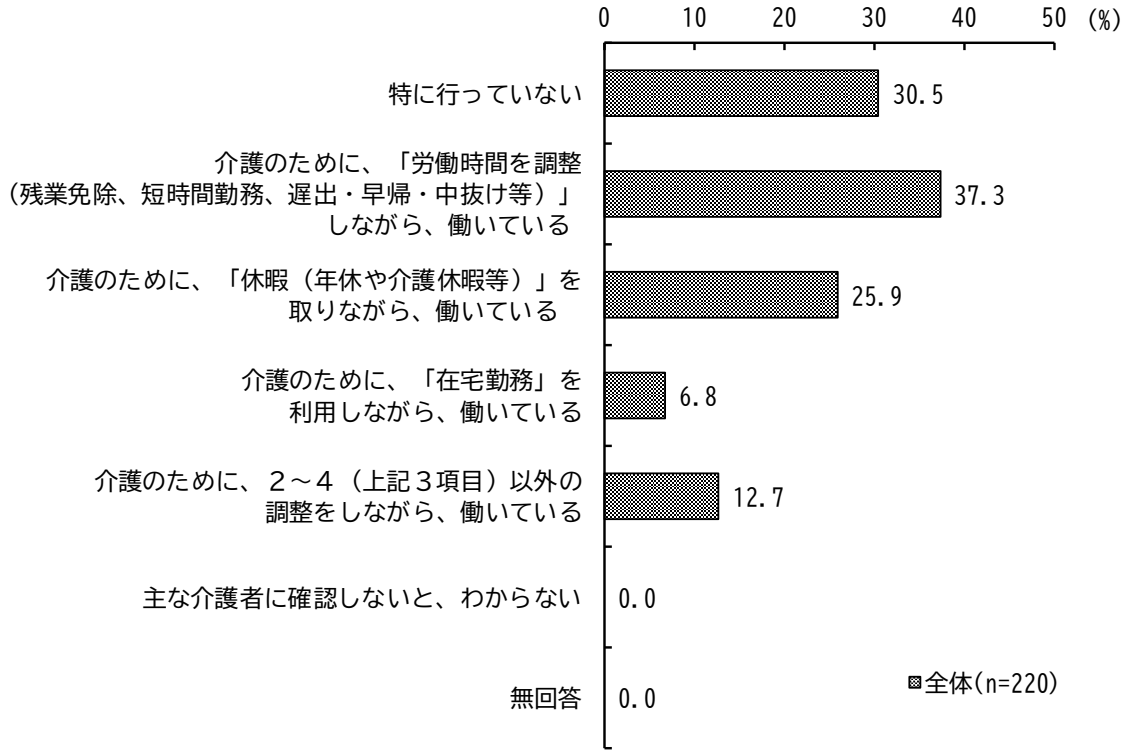
図表　主な介護者の勤務形態（家族・親族から介護を受けている人）



問２　問１で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

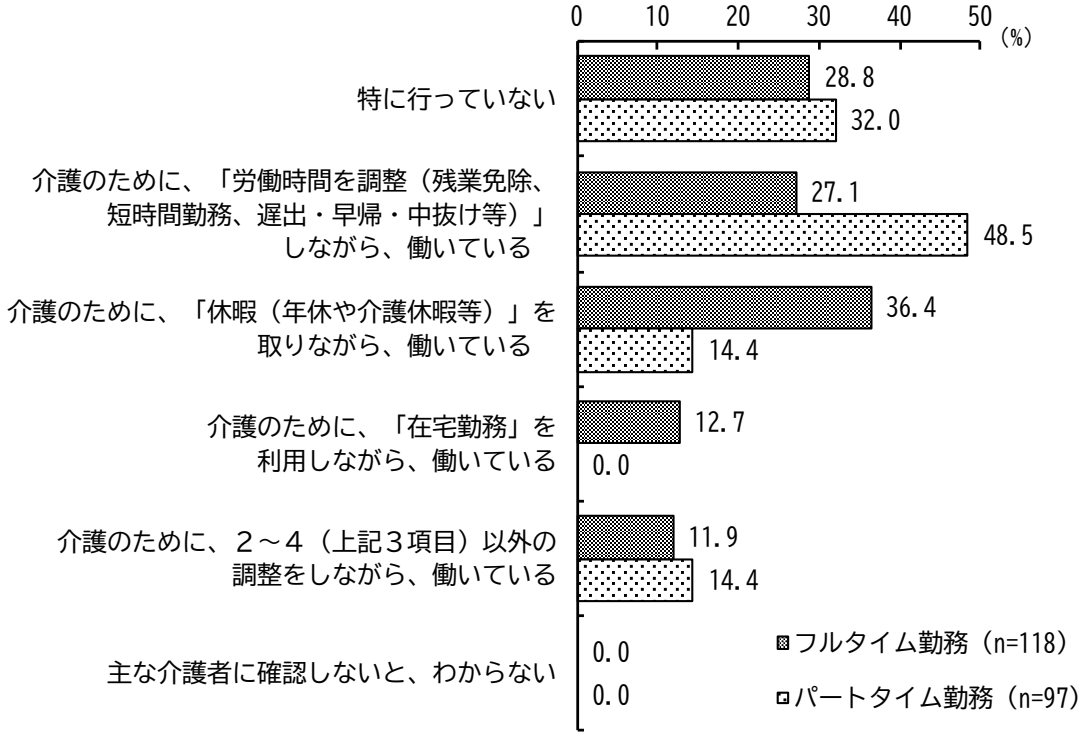
「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（37.3%）が最も多く、次いで「特に行っていない」（30.5%）、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（25.9%）と続いている。「特に行っていない（30.5%）」を差し引いた《働き方について何らかの調整をしている》の割合は 69.5%となっている。

図表　主な介護者の働き方の調整の状況
（介護者が働いている人：複数回答）



介護者の勤務形態別にみると、フルタイム勤務では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（36.4%）が最も多く、次いで「特に行っていない」（28.8%）、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（27.1%）と続いている。パートタイム勤務では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（48.5%）が最も多く、次いで「特に行っていない」32.0（%）、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために２～４（上記３項目）以外の調整をしながら働いている」（ともに 14.4%）と続いている。

図表　主な介護者の働き方の調整の状況
（介護者が働いている人、介護者の勤務形態別：複数回答）

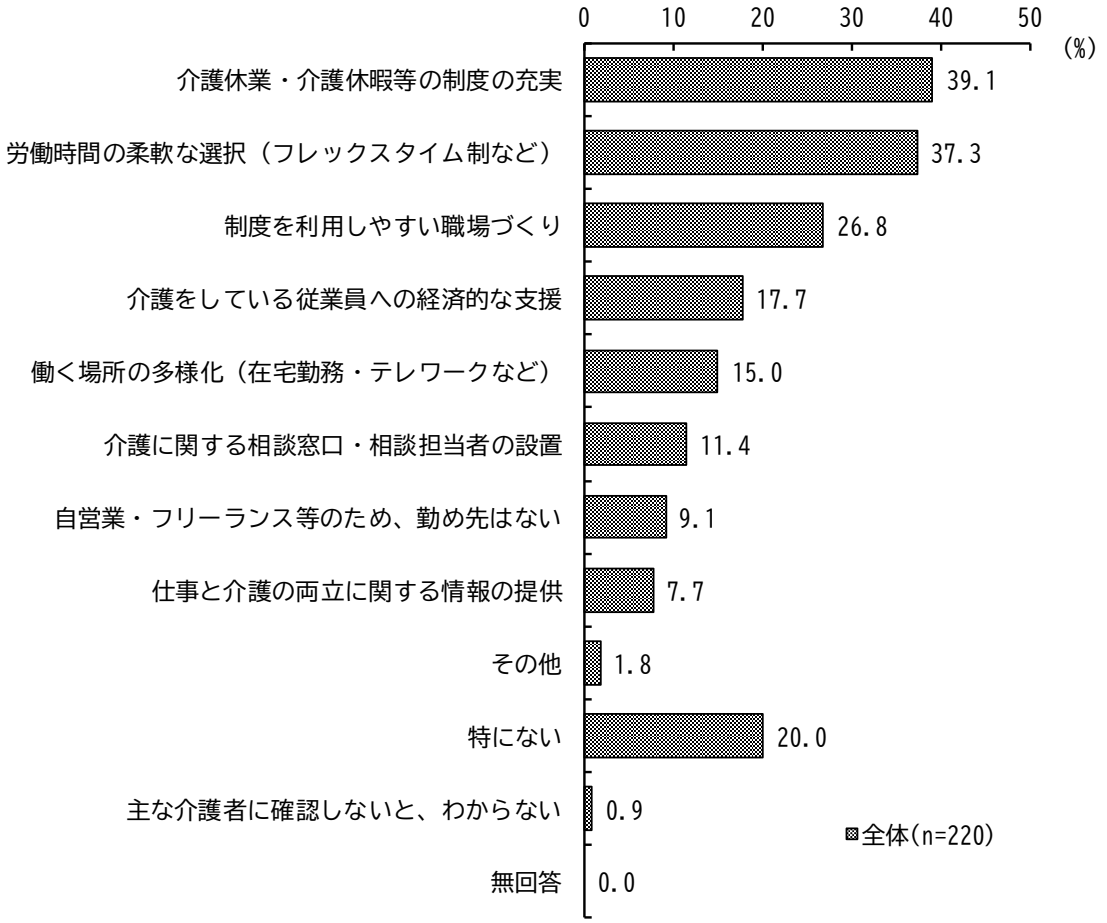


問３　問１で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（３つまで選択可）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（39.1%）が最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（37.3%）、「制度を利用しやすい職場づくり」（26.8%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（17.7%）と続いている。

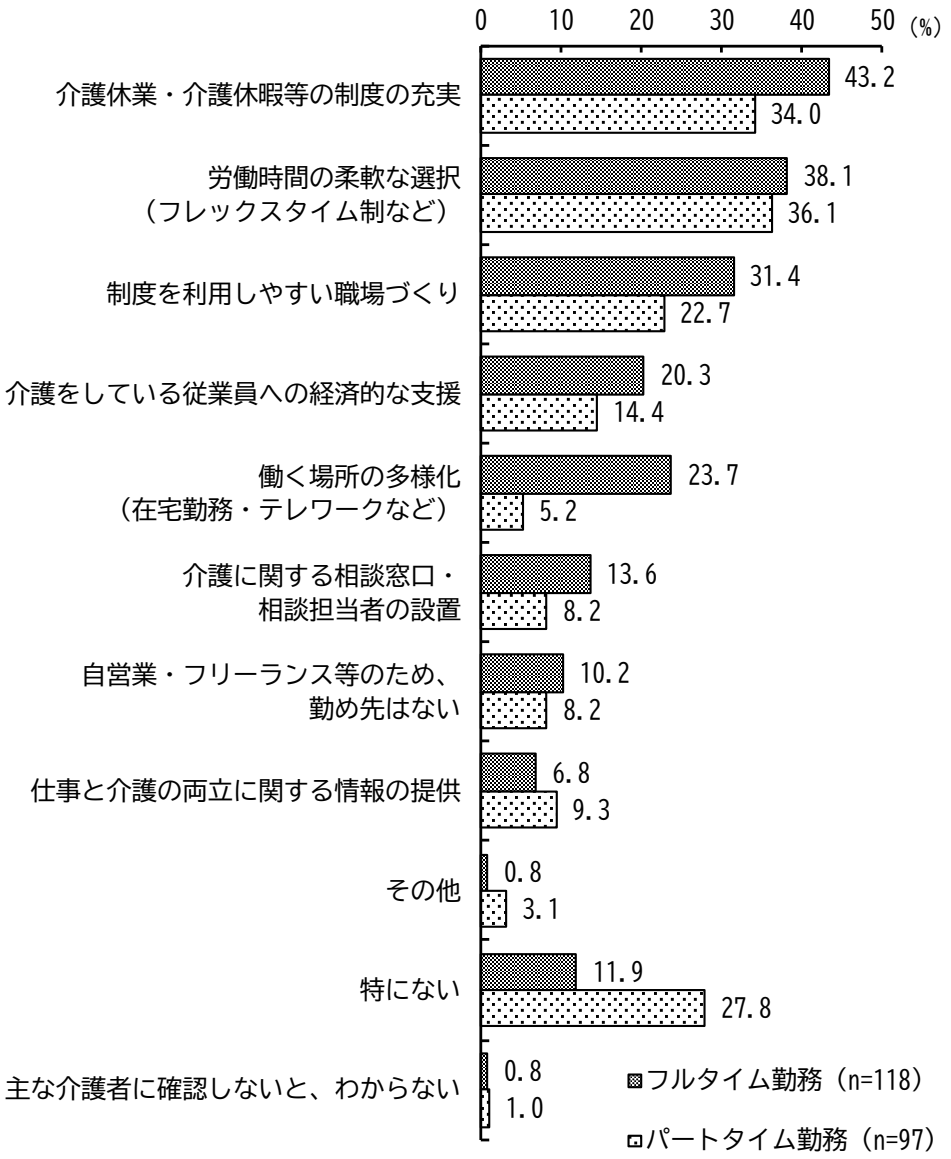
一方、「特にない」は 20.0%となっている。

図表　仕事と介護の両立に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援
（介護者が働いている人：複数回答）



介護者の勤務形態別にみると、フルタイム勤務では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（43.2%）が最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（38.1%）、「制度を利用しやすい職場づくり」（31.4%）と続いている。パートタイム勤務では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（36.1%）が最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（34.0%）、「特にない」（27.8%）と続いている。

図表　仕事と介護の両立に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援
（介護者が働いている人、介護者の勤務形態別：複数回答）

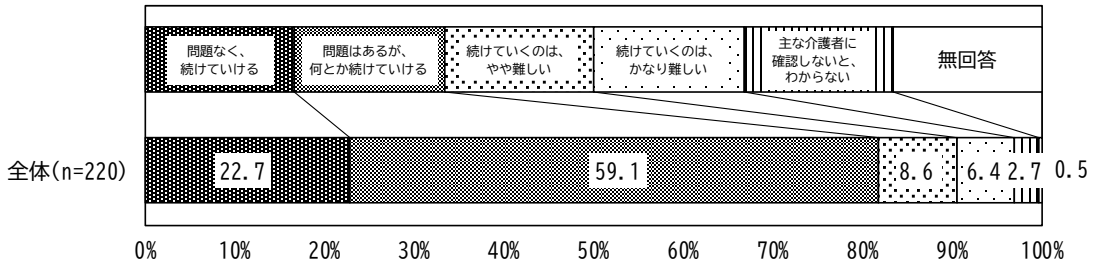


問４　問１で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（１つを選択）

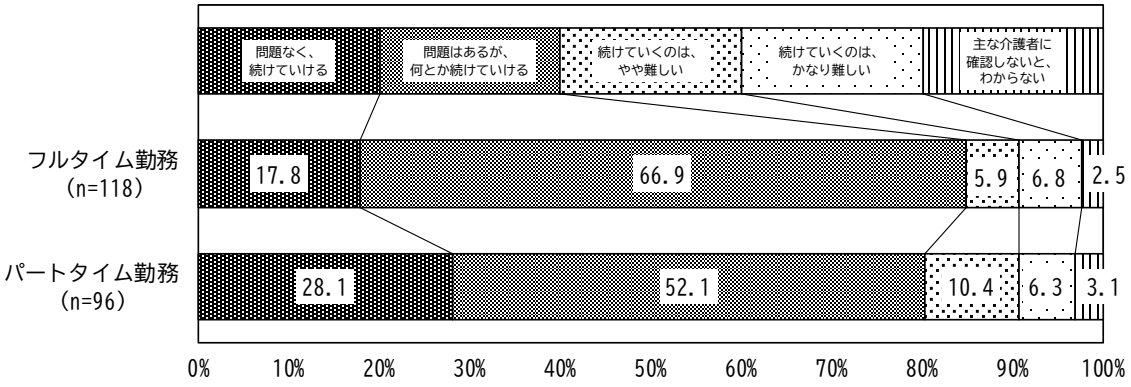
「問題なく、続けていける」(22.7%)、「問題はあるが、何とか続けていける」(59.1%)を合わせた割合は 81.8%となっている。一方、「続けていくのは、やや難しい」(8.6%)、「続けていくのは、かなり難しい」(6.4%)を合わせた割合は 15.0%となっている。

介護者の勤務形態別にみると、フルタイム勤務では「問題なく、続けていける」(17.8%)、「問題はあるが、何とか続けていける」(66.9%)を合わせた割合は 84.7%となっている。一方、「続けていくのは、やや難しい」(5.9%)、「続けていくのは、かなり難しい」(6.8%)を合わせた割合は 12.7%となっている。パートタイム勤務では「問題なく、続けていける」(28.1%)、「問題はあるが、何とか続けていける」(52.1%)を合わせた割合は 80.2%となっている。一方、「続けていくのは、やや難しい」(10.4%)、「続けていくのは、かなり難しい」(6.3%)を合わせた割合は 16.7%となっている。

図表　主な介護者の就労継続の可否に係る意識
（介護者が働いている人）



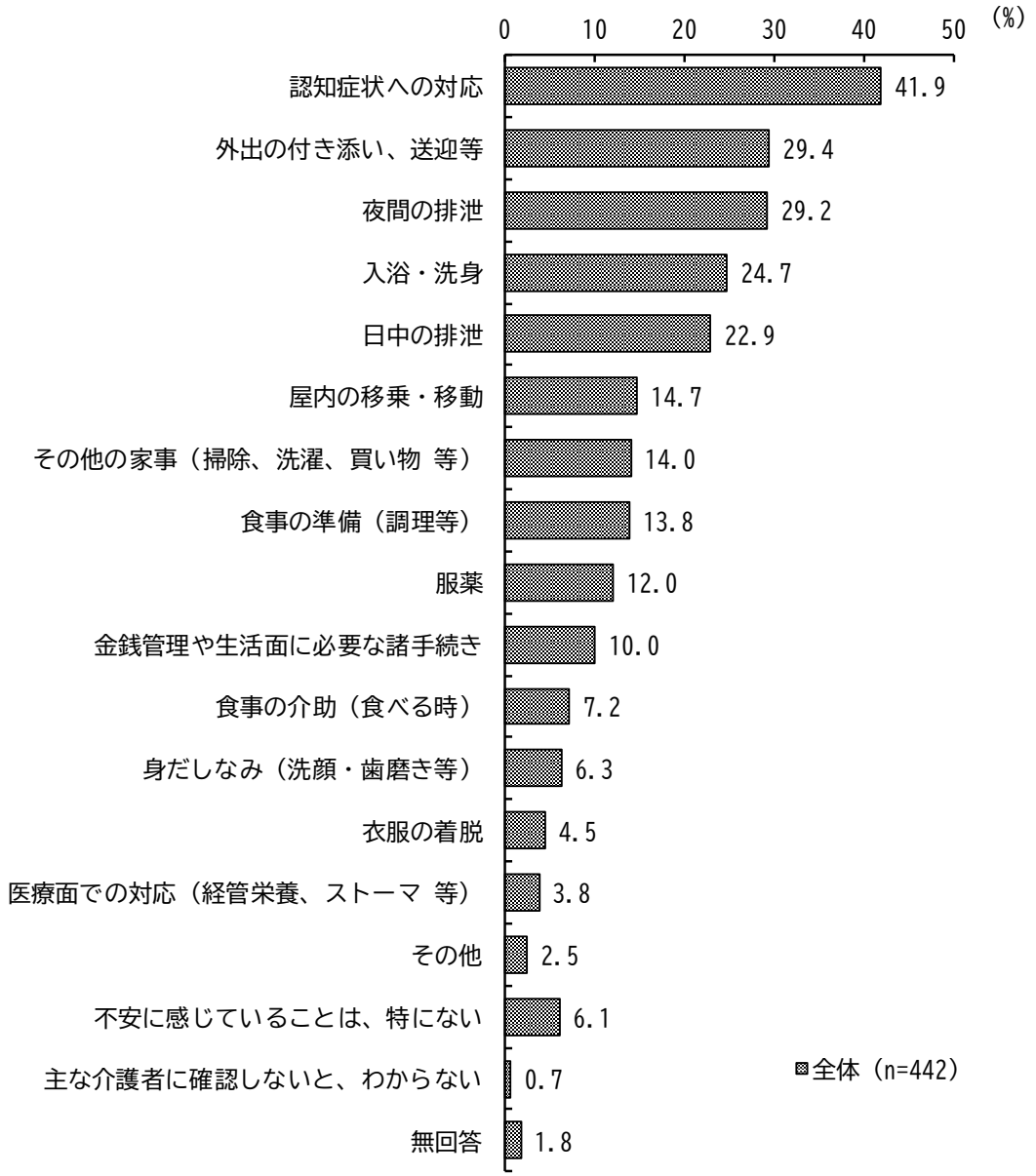
図表　主な介護者の就労継続の可否に係る意識
（介護者が働いている人、介護者の勤務形態別）



問５　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（３つまで選択可）

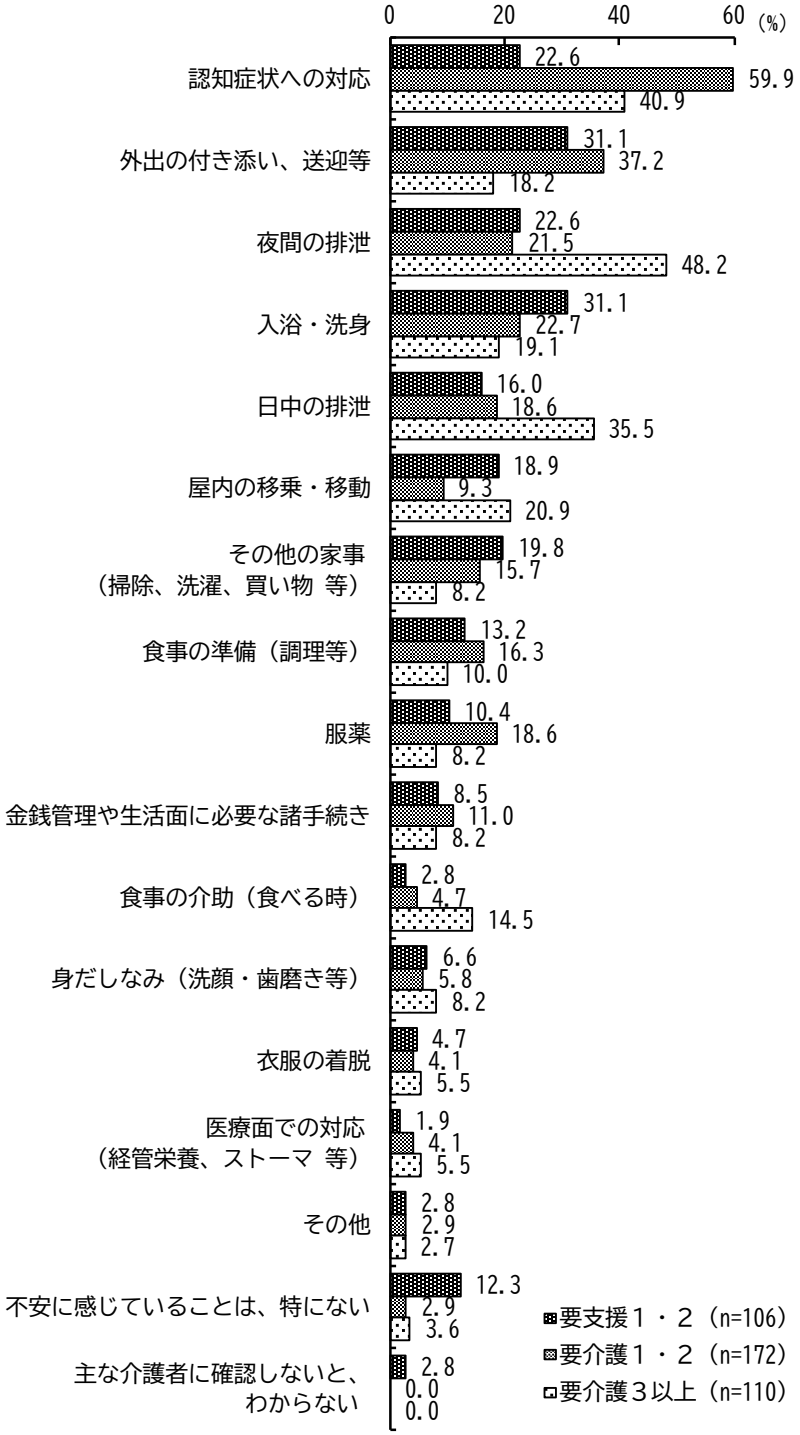
「認知症の症状への対応」(41.9%) が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(29.4%)、「夜間の排泄」(29.2%)、「入浴・洗身」(24.7%) と続いている。

図表　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
（家族・親族から介護を受けている人：複数回答）



要介護度別にみると、要支援１・２では「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」（ともに31.1%）が最も多く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」（ともに22.6%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（19.8%）と続いている。要介護１・２では「認知症状への対応」（59.9%）が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」（37.2%）、「入浴・洗身」（22.7%）と続いている。要介護３以上では「夜間の排泄」（48.2%）が最も多く、次いで「認知症状への対応」（40.9%）、「日中の排泄」（35.5%）と続いている。

図表　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
（家族・親族から介護を受けている人、要介護度別：複数回答）



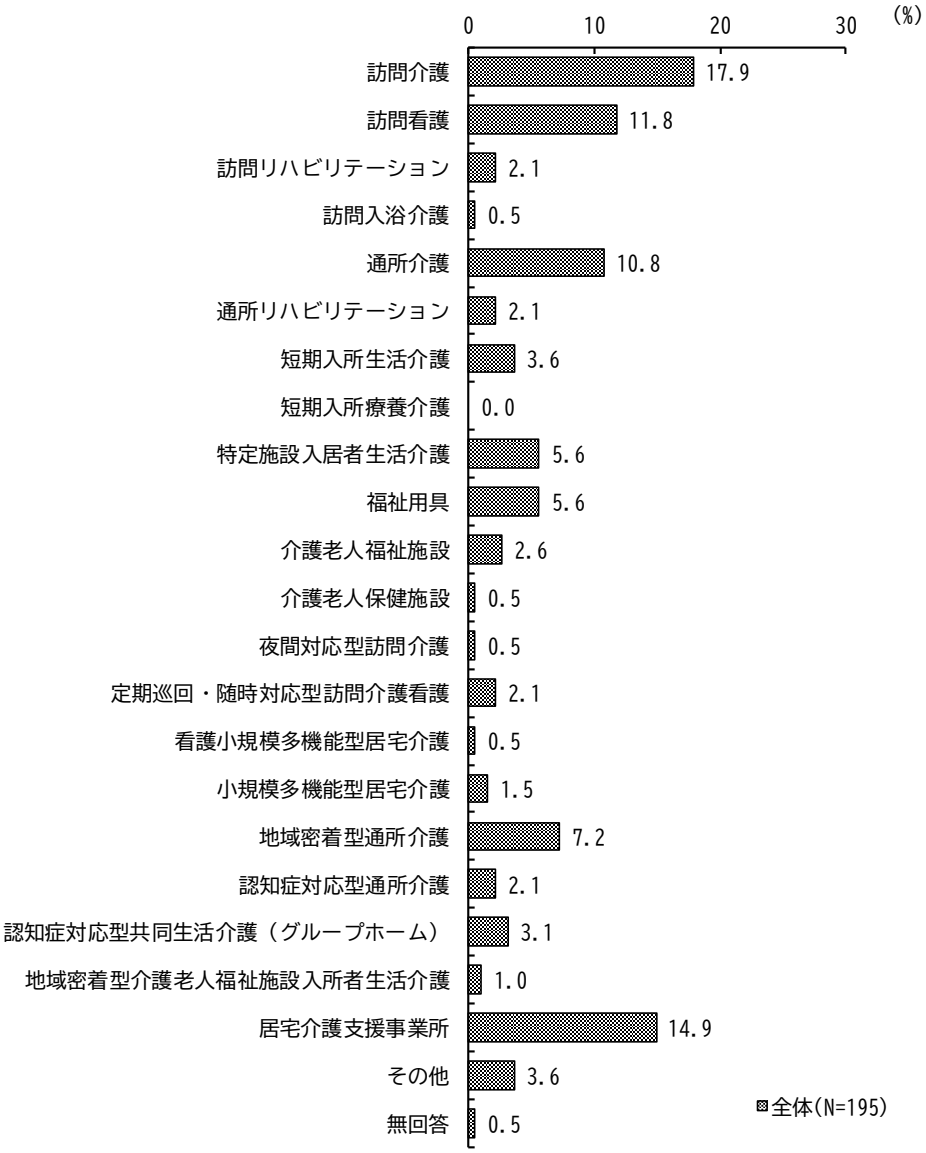
４　介護保険サービス提供事業者調査

（１）基本属性

問１（１）　貴事業所が府中市内で提供しているサービス（予防を含む）は次のうちどれですか。封筒のあて名に記載されている事業所が提供するサービスの種別に○をつけてください。（１つに○）

「訪問介護」(17.9%)が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」(14.9%)、「訪問看護」(11.8%)、「通所介護」（10.8%）と続いている。

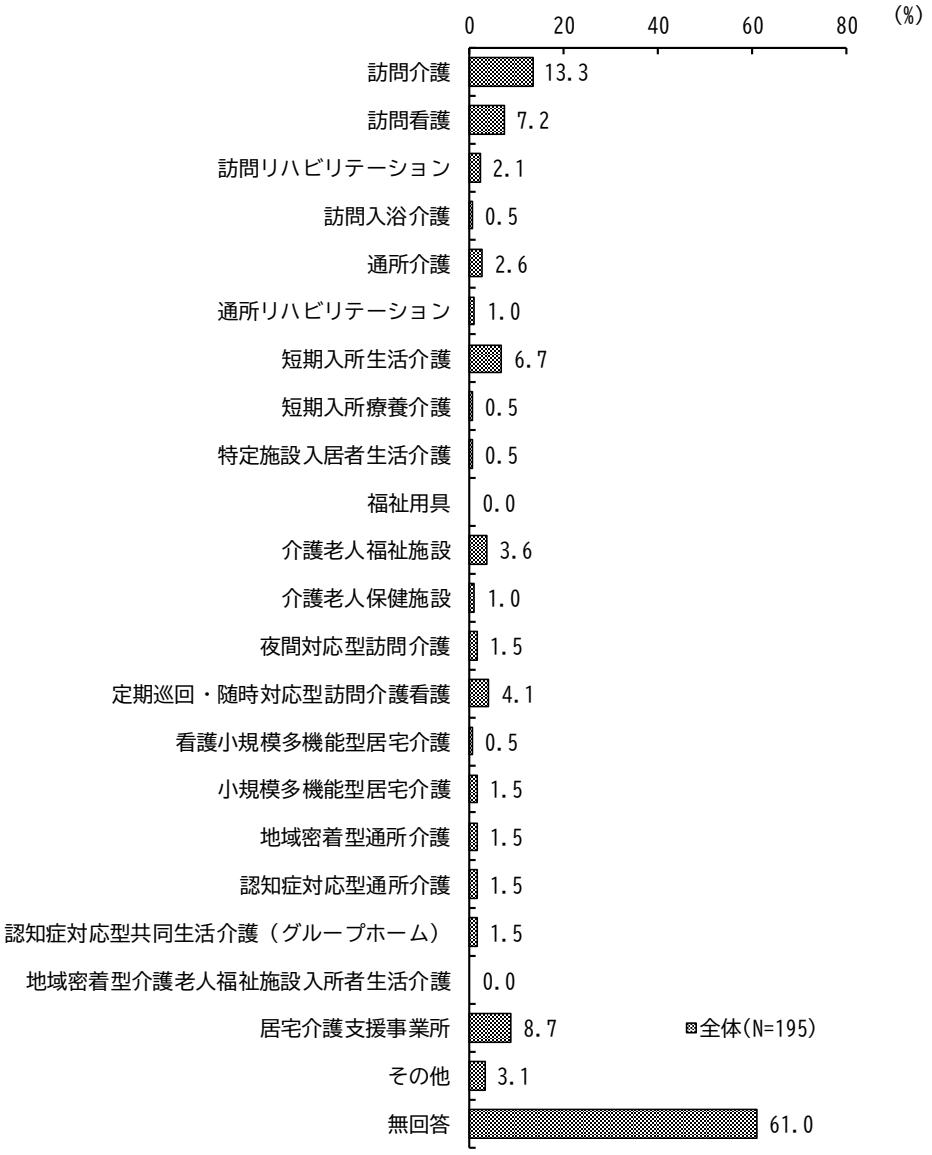
図表　提供しているサービス（宛名記載）（全体）



問１（２）　貴事業所が府中市内で提供しているサービス（予防を含む）は次のうちどれですか。上記以外の介護保険サービスを提供していますか。（いくつでも○）

「訪問介護」（13.3%）が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」（8.7%）、「訪問看護」（7.2%）が続いている。

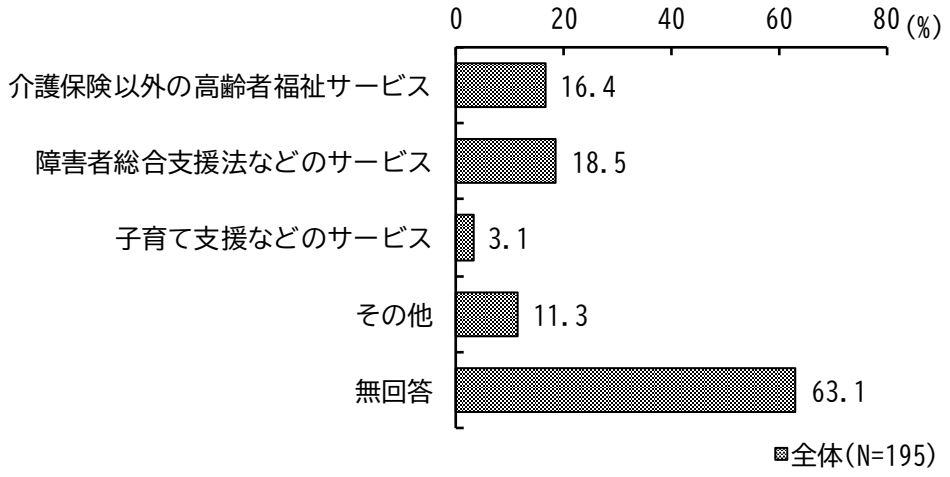
図表　他に提供しているサービス（全体：複数回答）



問１（３）　介護保険以外のサービスを提供されていますか。（いくつでも○）

「障害者総合支援法などのサービス」（18.5%）が最も多く、「介護保険以外の高齢者福祉サービス」（16.4%）、「その他」（11.3%）、「子育て支援などのサービス」（3.1%）と続いている。

図表　介護保険以外のサービスの提供の有無（全体：複数回答）



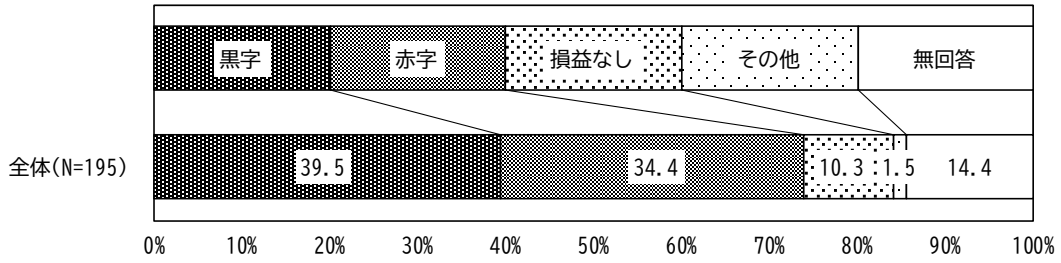
（２）事業運営

問２　貴事業所の昨年度の事業採算について、お差支えなければお答えください。（１つに○）

「黒字」（39.5%）が「赤字」（34.4%）を 5.1 ポイント上回っている。

提供サービス別にみると、「黒字」の割合が最も高いのは「特定施設入居者生活介護」と「福祉用具」（同率 54.5%）で、次いで「地域密着型通所介護」（50.0%）と続いている。「赤字」が最も多いのは「介護老人福祉施設」（80.0%）で、続く「短期入所生活介護」と「地域密着型通所介護」（同率 42.9%）を大きく引きはなしている。

図表　昨年度の事業採算（全体）



図表　昨年度の事業採算（全体、提供サービス別）

（%）

			黒字	赤字	損益なし	その他	無回答
全体		(N=195)	39.5	34.4	10.3	1.5	14.4
提供サービス別（ｎ≧5）	訪問介護	(n= 35)	37.1	31.4	17.1	2.9	11.4
	訪問看護	(n= 23)	34.8	39.1	13.0	0.0	13.0
	通所介護	(n= 21)	47.6	33.3	4.8	0.0	14.3
	短期入所生活介護	(n= 7)	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	54.5	27.3	0.0	0.0	18.2
	福祉用具	(n= 11)	54.5	18.2	18.2	9.1	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	50.0	42.9	0.0	0.0	7.1
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	37.9	34.5	10.3	0.0	17.2

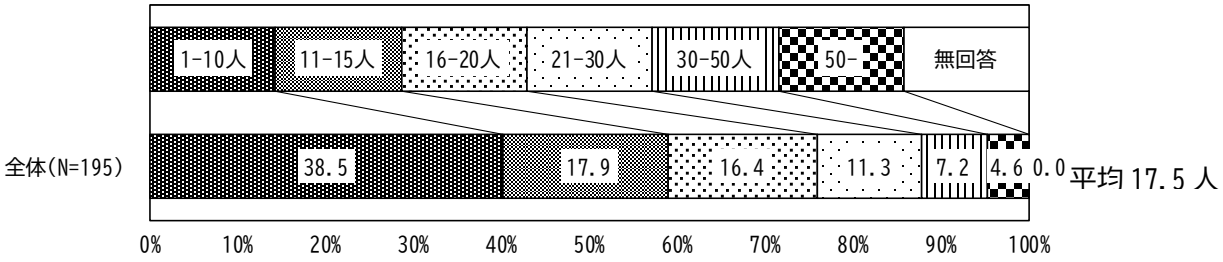
問３（１）　貴事業所に所属する職員について、お伺いします。職員の総数を、ご記入ください（令和７年１０月１日時点）。
※前月に出勤のない、長期休暇（育児休業等）中の職員は人数に含めないでください。
※「外国人」には、EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者・技能実習・在留資格「介護」、特定技能により勤務している人数をご記入ください。

事業所に所属する職員の総数は、平均 17.5 人である。「１-10 人」が 38.5%で最も多く、「11-15 人」（17.9%）、「16-20 人」（16.4%）が続いている。

職員のうち外国人の人数は、平均 0.96 人である。「1～５人」（52.8%）が半数以上となっている。「０人」は 41.5%である。

職員のうち派遣職員の人数は、平均 0.87 人である。「1～５人」（53.3%）が半数以上となっている。「０人」は 41.0%である。

図表　職員の総数（全体）



図表　職員のうち、外国人職員と派遣職員の人数（全体）

（%）

		0人	1～5人	6～10人	11人～	無回答	平均(人)
外国人職員	(N=195)	41.5	52.8	1.0	1.0	3.6	0.96
派遣職員	(N=195)	41.0	53.3	1.5	0.5	3.6	0.87

問３（２）　過去１年間（令和６年１０月１日～令和７年９月３０日）の職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。

常勤職員の採用者数の平均は 2.27 人、離職者数の平均は 1.73 人である。分布は「１人」が最も多くなっている（採用者 26.7%、離職者 32.8%）。非常勤職員の採用者数の平均は 2.09 人、離職者数の平均は 1.81 人である。非常勤職員も常勤職員と同様に採用者、離職者ともに「１人」（採用者 31.3%、離職者 33.8%）が最も多い。

提供サービス別にみると、介護老人福祉施設での、常勤職員採用者の平均人数は 9.40 人、離職者の平均人数は 6.80 人であり、非常勤職員採用者の平均人数も 8.20 人、離職者の平均人数も 9.00 人と、最も多くなっている。

図表　常勤職員の採用者数と離職者数（全体、提供サービス別：複数回答）

（%）

			常勤採用者								常勤離職者							
			0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均（人）	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均（人）
全体		(N=195)	24.6	26.7	15.4	11.8	4.1	13.8	3.6	2.27	25.6	32.8	20.0	7.2	3.1	7.7	3.6	1.73
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	25.7	42.9	5.7	14.3	0.0	8.6	2.9	1.71	28.6	34.3	22.9	5.7	0.0	5.7	2.9	1.38
	訪問看護	(n= 23)	26.1	30.4	13.0	4.3	4.3	17.4	4.3	2.36	26.1	34.8	4.3	8.7	8.7	13.0	4.3	1.77
	通所介護	(n= 21)	23.8	33.3	38.1	4.8	0.0	0.0	0.0	1.24	19.0	33.3	42.9	0.0	4.8	0.0	0.0	1.38
	短期入所生活介護	(n= 7)	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	5.83	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	4.83
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	9.1	9.1	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	3.36	9.1	36.4	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0	2.55
	福祉用具	(n= 11)	9.1	27.3	27.3	9.1	9.1	18.2	0.0	2.55	18.2	63.6	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	1.09
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	9.40	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	60.0	0.0	6.80
	地域密着型通所介護	(n= 14)	50.0	28.6	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	1.07	64.3	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.43
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	2.33	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	1.50
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	41.4	31.0	20.7	0.0	6.9	0.0	0.0	1.00	48.3	27.6	17.2	3.4	0.0	3.4	0.0	0.90

図表　非常勤職員の採用者数と離職者数（全体、提供サービス別：複数回答）

（%）

			非常勤採用者								非常勤離職者							
			0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均（人）	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均（人）
全体		(N=195)	27.2	31.3	12.8	9.2	2.1	13.8	3.6	2.09	27.2	33.8	14.4	9.2	4.1	7.7	3.6	1.81
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	31.4	37.1	14.3	8.6	2.9	2.9	2.9	1.24	31.4	31.4	14.3	11.4	5.7	2.9	2.9	1.41
	訪問看護	(n= 23)	34.8	30.4	8.7	0.0	4.3	17.4	4.3	1.68	26.1	30.4	17.4	13.0	8.7	0.0	4.3	1.45
	通所介護	(n= 21)	23.8	14.3	19.0	19.0	4.8	19.0	0.0	2.76	4.8	28.6	33.3	9.5	9.5	14.3	0.0	2.48
	短期入所生活介護	(n= 7)	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	4.33	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	6.50
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	9.1	9.1	18.2	27.3	0.0	36.4	0.0	3.64	9.1	36.4	9.1	9.1	9.1	27.3	0.0	3.18
	福祉用具	(n= 11)	27.3	54.5	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	2.91	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.82
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	8.20	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	9.00
	地域密着型通所介護	(n= 14)	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	2.00	28.6	21.4	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0	1.64
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.67	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	51.7	44.8	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.52	51.7	37.9	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.62

問３（３）　（２）の採用者・離職者数について、常勤・非常勤の別・職種（業務区分）別をご記入ください。

職種別の常勤採用者数では平均人数が最も多いのは「福祉施設職員」（0.74 人）で、「ホームヘルパー（訪問介護員）」（0.49 人）、「看護師・准看護師」（0.45 人）と続いている。非常勤採用者数も常勤と同様に「福祉施設職員」（0.60 人）、「ホームヘルパー（訪問介護員）」（0.54 人）、「看護師・准看護師」（0.45 人）の順である。

図表　職種（業務区分）別の常勤採用者数（全体）

（%）

		常勤採用者							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均(人)
ケアマネジャー（介護支援専門員）	(N=195)	79.5	11.8	3.6	1.0	0.5	0.0	3.6	0.25
生活相談員	(N=195)	82.1	11.3	2.1	0.5	0.0	0.5	3.6	0.22
看護師・准看護師	(N=195)	75.4	10.8	5.6	1.5	1.5	1.5	3.6	0.45
福祉施設職員	(N=195)	70.8	9.7	6.7	3.1	2.6	3.6	3.6	0.74
ホームヘルパー（訪問介護員）	(N=195)	74.4	11.8	2.1	5.1	1.5	1.5	3.6	0.49
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(N=195)	81.5	9.7	2.1	2.1	0.5	0.5	3.6	0.28
機能訓練指導員	(N=195)	84.6	11.3	0.5	0.0	0.0	0.0	3.6	0.13
その他	(N=195)	79.5	10.3	2.1	4.1	0.0	0.5	3.6	0.30

図表　職種（業務区分）別の非常勤採用者数（全体）

（%）

		非常勤採用者							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均(人)
ケアマネジャー（介護支援専門員）	(N=195)	82.1	13.3	0.5	0.5	0.0	0.0	3.6	0.16
生活相談員	(N=195)	84.6	10.3	1.0	0.5	0.0	0.0	3.6	0.14
看護師・准看護師	(N=195)	75.9	10.8	4.6	0.5	2.1	2.6	3.6	0.45
福祉施設職員	(N=195)	71.8	12.3	6.2	1.5	0.0	4.6	3.6	0.60
ホームヘルパー（訪問介護員）	(N=195)	75.9	11.3	3.6	4.1	0.0	1.5	3.6	0.54
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(N=195)	82.1	11.3	2.6	0.0	0.5	0.0	3.6	0.19
機能訓練指導員	(N=195)	85.6	10.3	0.0	0.0	0.5	0.0	3.6	0.13
その他	(N=195)	80.0	9.7	2.1	1.5	1.0	2.1	3.6	0.43

職種別の常勤離職者数では平均人数が最も多いのは「福祉施設職員」(0.65 人）で、「看護師・准看護師」(0.39 人)、「ホームヘルパー（訪問介護員)」(0.38 人)、と続いている。非常勤離職者数は「福祉施設職員」(0.68 人)、「ホームヘルパー（訪問介護員)」(0.40 人)、「看護師・准看護師」(0.33 人）の順である。

図表　職種（業務区分）別の常勤離職者数（全体）

（%）

		常勤離職者							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均(人)
ケアマネジャー（介護支援専門員）	(N=195)	79.5	13.8	3.1	0.0	0.0	0.0	3.6	0.21
生活相談員	(N=195)	84.1	11.8	0.5	0.0	0.0	0.0	3.6	0.13
看護師・准看護師	(N=195)	76.9	9.2	5.6	3.1	0.0	1.5	3.6	0.39
福祉施設職員	(N=195)	72.3	10.8	5.1	4.1	1.5	2.6	3.6	0.65
ホームヘルパー（訪問介護員）	(N=195)	75.4	11.3	6.7	2.1	0.0	1.0	3.6	0.38
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(N=195)	81.0	9.7	3.6	1.5	0.5	0.0	3.6	0.24
機能訓練指導員	(N=195)	85.1	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.12
その他	(N=195)	82.1	9.2	4.1	0.0	0.0	1.0	3.6	0.28

図表　職種（業務区分）別の非常勤離職者数（全体）

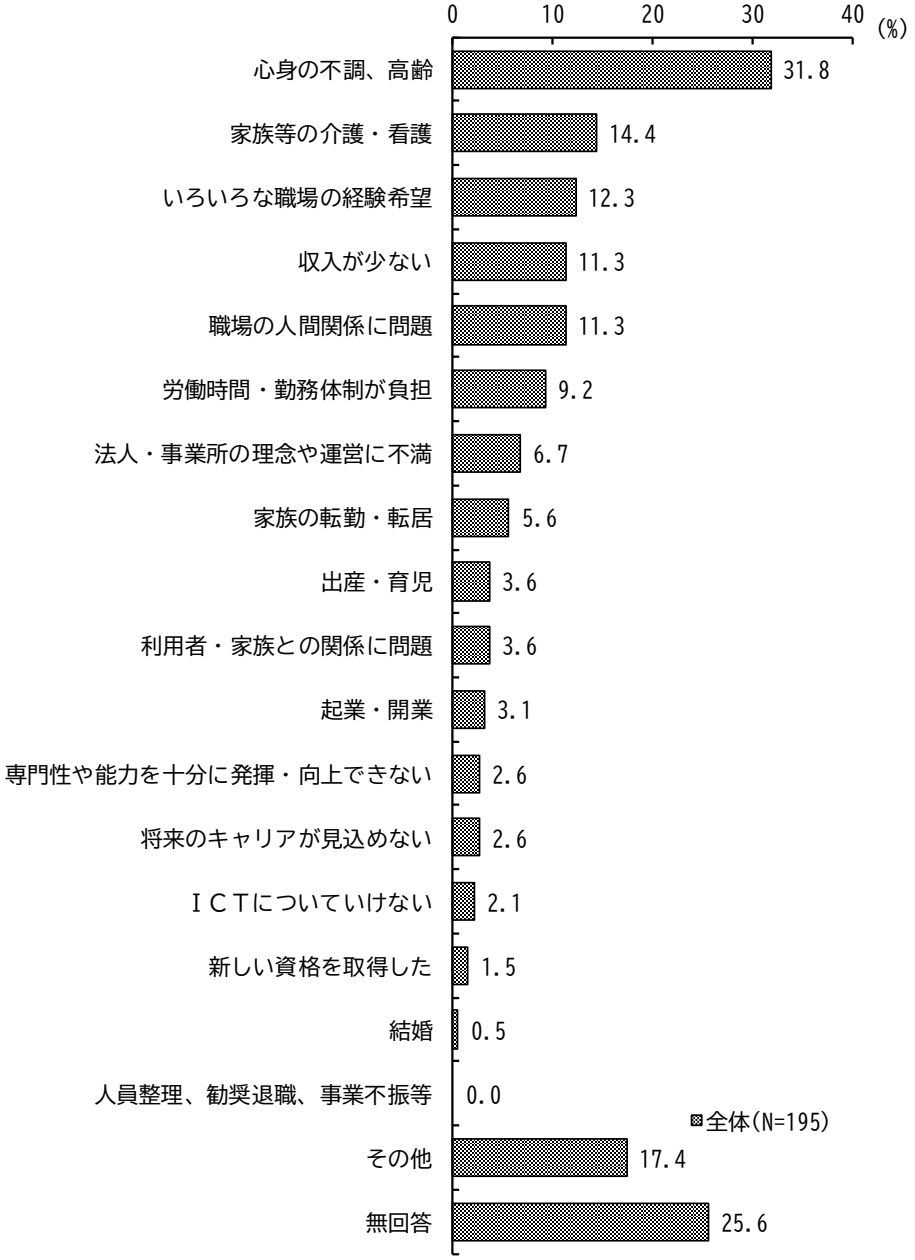
（%）

		非常勤離職者							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均(人)
ケアマネジャー（介護支援専門員）	(N=195)	81.0	14.4	1.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.17
生活相談員	(N=195)	85.6	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.11
看護師・准看護師	(N=195)	74.9	14.9	3.1	3.6	0.0	0.0	3.6	0.33
福祉施設職員	(N=195)	72.8	10.8	5.1	2.6	1.0	4.1	3.6	0.68
ホームヘルパー（訪問介護員）	(N=195)	74.4	14.4	2.6	3.1	1.0	1.0	3.6	0.40
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(N=195)	82.6	10.3	3.1	0.5	0.0	0.0	3.6	0.19
機能訓練指導員	(N=195)	85.6	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.11
その他	(N=195)	81.5	8.7	1.5	1.0	1.5	2.1	3.6	0.42

問３（４）　把握している範囲で結構ですので、離職理由についてお答えください。（いくつでも○）

「心の不調、高齢」（31.8%）が最も多く、次いで「家族等の介護・看護」（14.4%）、「いろいろな職場の経験希望」（12.3%）と続いている。

図表　離職理由（全体：複数回答）

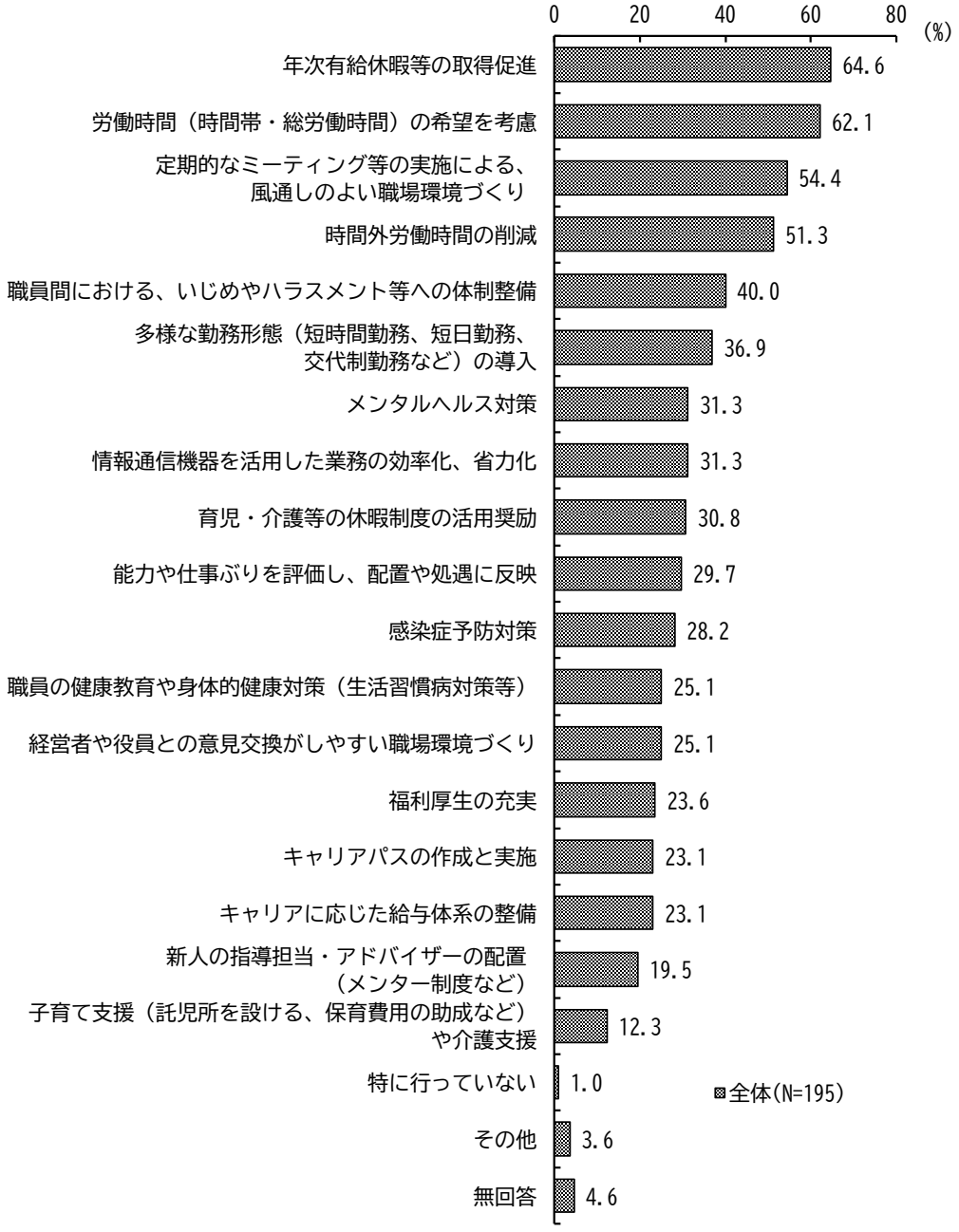


問３（５）　貴事業所で、離職者が出ないようにしている工夫についてお答えください。（いくつでも○）

「年次有給休暇等の取得促進」（64.6%）、「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望を考慮」（62.1%）が６割を超え上位に挙げられている。続く「定期的なミーティング等の実施による、風通しのよい職場環境づくり」（54.4%）、「時間外労働時間の削減」（51.3%）の２項目が５割を超えている。

提供サービス別にみると、認知症対応型共同生活介護を除き「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望を考慮」の回答は上位に挙げられ、50%を超えている。また、「年次有給休暇等の取得促進」については最も多い「特定施設入居者生活介護」（90.9%）と最も少ない「介護老人福祉施設」（20.0%）と差が大きい。

図表　離職防止策（全体：複数回答）



図表　離職防止策（全体、提供サービス別）

（%）

			年次有給休暇等の取得促進	労働時間の希望を考慮	定期的なミーティング等の実施による風通しのよい職場	時間外労働時間の削減	職員間におけるいじめ等への体制整備	多様な勤務形態の導入	メンタルヘルス対策	情報通信機器を活用した業務の効率化、省力化	育児・介護等の休暇制度の活用奨励	能力や仕事ぶりを評価し、配置等に反映	感染症予防対策
全体		(N=195)	64.6	62.1	54.4	51.3	40.0	36.9	31.3	31.3	30.8	29.7	28.2
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	68.6	82.9	60.0	34.3	37.1	25.7	28.6	25.7	20.0	34.3	42.9
	訪問看護	(n= 23)	65.2	56.5	56.5	65.2	39.1	43.5	13.0	34.8	39.1	34.8	26.1
	通所介護	(n= 21)	66.7	71.4	66.7	47.6	47.6	61.9	42.9	28.6	47.6	38.1	19.0
	短期入所生活介護	(n= 7)	71.4	57.1	57.1	71.4	57.1	28.6	57.1	28.6	57.1	28.6	57.1
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	90.9	54.5	45.5	72.7	72.7	54.5	36.4	63.6	27.3	45.5	27.3
	福祉用具	(n= 11)	54.5	54.5	36.4	45.5	45.5	27.3	63.6	18.2	36.4	9.1	27.3
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	78.6	85.7	78.6	78.6	57.1	50.0	28.6	35.7	21.4	50.0	35.7
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	50.0	16.7	16.7
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	69.0	51.7	41.4	44.8	24.1	41.4	24.1	34.5	24.1	17.2	17.2

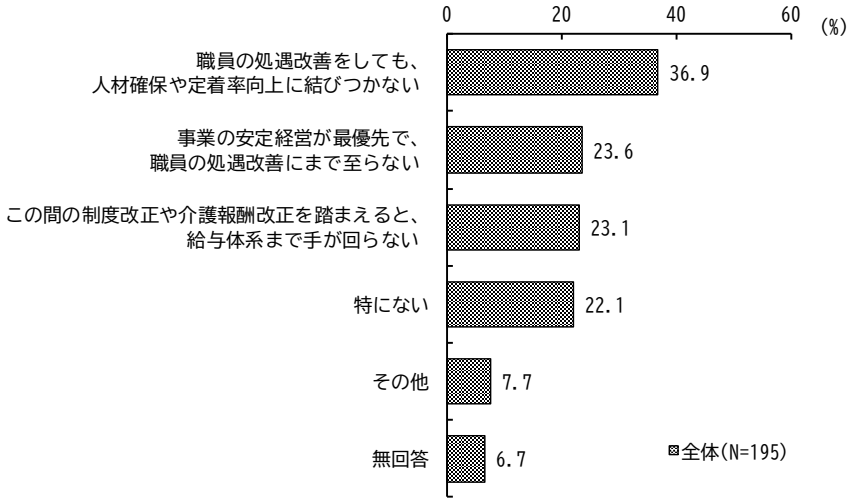
			職員の健康教育や身体的健康対策	経営者等との意見交換がしやすい職場環境づくり	福利厚生の充実	キャリアパスの作成と実施	キャリアに応じた給与体系の整備	新人の指導担当・アドバイザーの配置	子育て支援や介護支援	特に行っていない	その他	無回答
全体		(N=195)	25.1	25.1	23.6	23.1	23.1	19.5	12.3	1.0	3.6	4.6
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	20.0	22.9	25.7	22.9	20.0	8.6	8.6	0.0	0.0	2.9
	訪問看護	(n= 23)	26.1	34.8	26.1	8.7	26.1	13.0	4.3	0.0	4.3	4.3
	通所介護	(n= 21)	23.8	23.8	33.3	28.6	19.0	28.6	9.5	0.0	0.0	0.0
	短期入所生活介護	(n= 7)	42.9	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	27.3	36.4	45.5	18.2	27.3	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	9.1	9.1	9.1	27.3	27.3	36.4	18.2	0.0	0.0	9.1
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	28.6	64.3	28.6	50.0	42.9	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	24.1	17.2	13.8	10.3	17.2	10.3	17.2	0.0	10.3	3.4

問４　貴事業所では、職員の処遇改善を行ううえで、どのような課題があると考えていますか。（いくつでも○）

「職員の処遇改善をしても、人員確保や定着率向上に結びつかない」（36.9%）が最も多く、続く「事業の安定経営が最優先で、職員の処遇改善にまで至らない」（23.6%）を 10 ポイント以上上回っている。

提供サービス別にみると、「訪問介護」、「短期入所生活介護」、「特定施設入居者生活介護」、「介護老人福祉施設」、「地域密着型通所介護」の５種類で「職員の処遇改善しても人材確保等に結びつかない」が１位に挙げられており、「訪問看護」、「地域密着型通所介護」、「居宅介護支援事業所」では「この間の制度改正等を踏まえると給与体系まで手が回らない」が１位に挙げられている。

図表　職員の処遇改善の課題（全体）



図表　職員の処遇改善の課題（全体、提供サービス別）

(%)

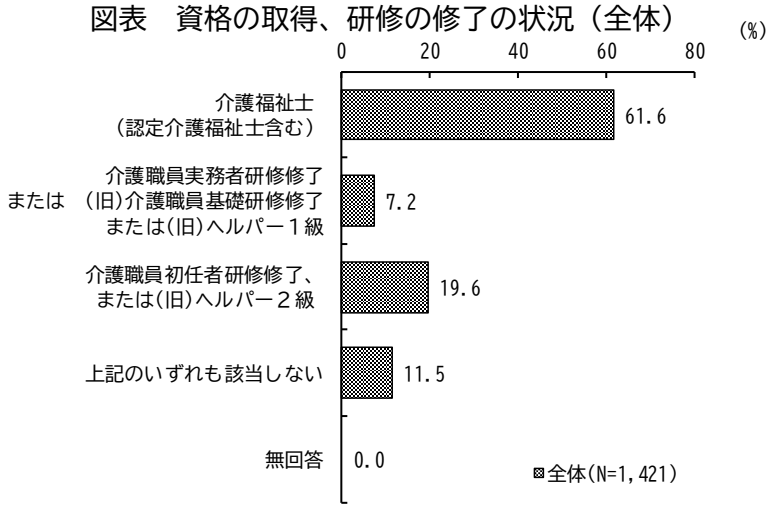
			職員の処遇改善しても人材確保等に結びつかない	事業の安定経営が最優先で処遇改善まで至らない	この間の制度改正等を踏まえると給与体系まで手が回らない	特にない	その他	無回答
全体		(N=195)	36.9	23.6	23.1	22.1	7.7	6.7
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	57.1	25.7	25.7	20.0	2.9	5.7
	訪問看護	(n= 23)	17.4	21.7	30.4	21.7	8.7	13.0
	通所介護	(n= 21)	28.6	42.9	38.1	9.5	9.5	0.0
	短期入所生活介護	(n= 7)	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	54.5	0.0	0.0	36.4	0.0	9.1
	福祉用具	(n= 11)	36.4	18.2	9.1	45.5	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	42.9	21.4	42.9	14.3	7.1	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	13.8	17.2	27.6	24.1	24.1	6.9

問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（１）資格の取得、研修の修了の状況

「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」（61.6%）が最も多く、続く「介護職員初任者研修修了、または（旧）ホームヘルパー２級」（19.6%）を大きく引き離している。

図表　資格の取得、研修の修了の状況（全体）

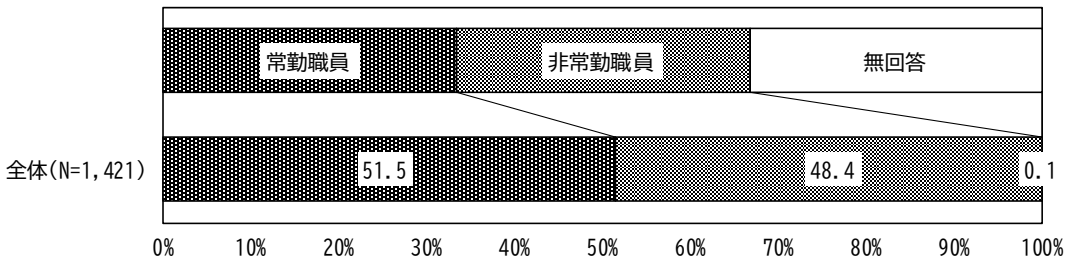


問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（２）雇用形態

「常勤職員」（51.5%）と「非常勤職員」（48.4%）がほぼ半数ずつとなっている。

図表　雇用形態（全体）

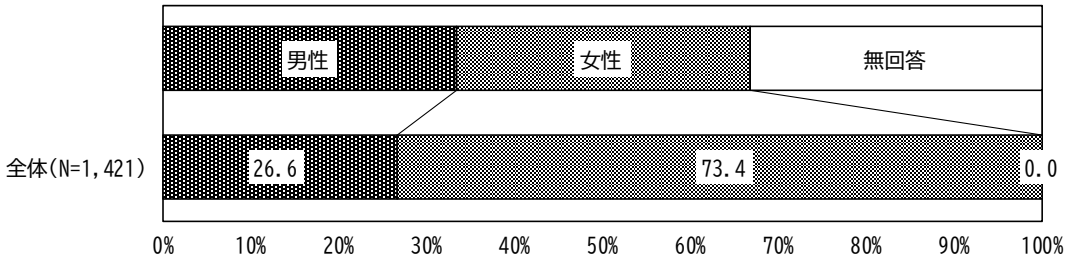


問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（３）性別

「男性」が 26.6%、「女性」が 73.4%となっている。

図表　性別（全体）

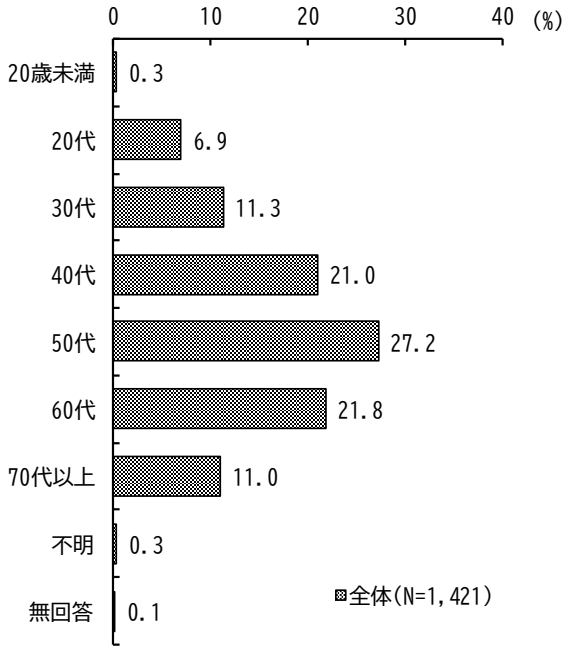


問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（４）年齢

「50 代」（27.2%）が最も多く、次いで「60 代」（21.8%）、「40 代」（21.0%）と続いている。

図表　年齢（全体）



提供サービス別にみると、16 職種のうち９職種で「50 代」が最も多くなっている。４職種で「40 代」が多く、３職種で「60 代」が最も多い。また、「訪問介護」の年齢が高い傾向にあり、「訪問看護」のみ「30 代」が最も多くなっている。

図表　年齢（全体、提供サービス別）

（%）

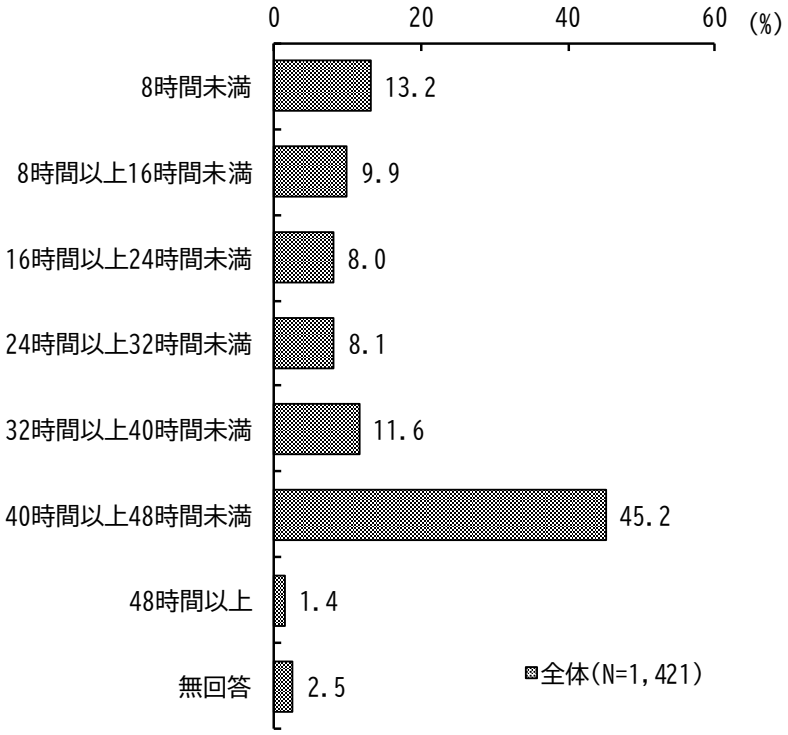
			２０歳未満	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	不明
全体		(N=1419)	0.3	6.9	11.3	21.1	27.3	21.8	11.0	0.3
提供サービス別（ｎ≧5）	訪問介護	(n= 362)	0.0	0.8	5.8	19.1	27.1	26.0	21.3	0.0
	訪問看護	(n= 14)	0.0	14.3	42.9	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0
	通所介護	(n= 134)	0.7	5.2	7.5	23.1	33.6	26.1	3.7	0.0
	通所リハビリテーション	(n= 15)	0.0	0.0	6.7	33.3	26.7	33.3	0.0	0.0
	短期入所生活介護	(n= 95)	0.0	7.4	13.7	20.0	22.1	26.3	10.5	0.0
	福祉用具	(n= 248)	0.0	12.1	15.7	22.6	25.8	19.0	4.8	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 24)	0.0	16.7	20.8	33.3	29.2	0.0	0.0	0.0
	介護老人保健施設	(n= 136)	0.0	16.2	16.9	15.4	27.2	17.6	6.6	0.0
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	(n= 12)	0.0	8.3	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	0.0
	看護小規模多機能型居宅介護	(n= 62)	0.0	3.2	12.9	27.4	32.3	19.4	4.8	0.0
	小規模多機能型居宅介護	(n= 9)	0.0	0.0	11.1	11.1	55.6	22.2	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 23)	0.0	0.0	4.3	26.1	39.1	17.4	13.0	0.0
	認知症対応型通所介護	(n= 64)	3.1	10.9	15.6	23.4	20.3	10.9	12.5	3.1
	認知症対応型共同生活介護	(n= 26)	0.0	0.0	7.7	15.4	53.8	19.2	3.8	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(n= 98)	1.0	13.3	14.3	21.4	26.5	21.4	2.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 12)	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	33.3	16.7	0.0
	その他	(n= 68)	0.0	0.0	5.9	20.6	16.2	25.0	32.4	0.0

問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（５）過去１週間の勤務時間　※ 残業時間を含む。休憩時間は除く。

「40 時間以上 48 時間未満」（45.2%）が最も多く、続く「８時間未満」（13.2%）を大きく引き離している。

図表　過去 1 週間の勤務時間（全体）



提供サービス別にみると、16 職種のうち 13 職種で「40 時間以上 48 時間未満」が最も多くなっている。「訪問看護」と「地域密着型通所介護」では「32 時間以上 40 時間未満」が最も多く、「認知症対応型共同生活介護」では「０時間以上８時間未満」が最も多い。

図表　過去 1 週間の勤務時間（全体、提供サービス別）

（%）

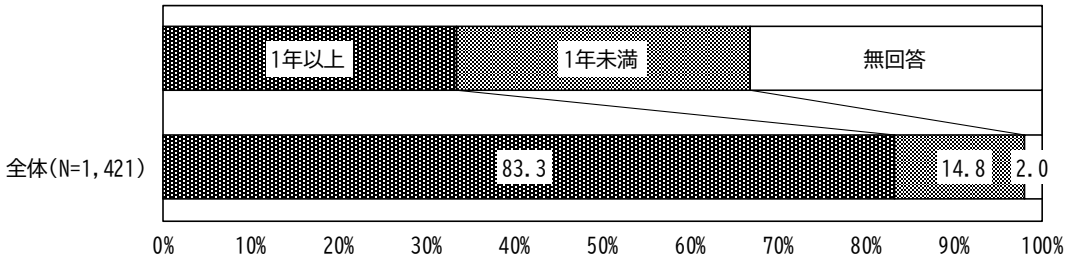
			0-8時間	8-16時間	16-24時間	24-32時間	32-40時間	40-48時間	48-56時間	無回答
全体		(N=1419)	13.6	10.2	8.2	8.3	11.9	46.4	1.4	2.3
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 362)	27.6	16.3	10.2	6.6	9.1	28.5	1.1	0.6
	訪問看護	(n= 14)	7.1	0.0	7.1	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0
	通所介護	(n= 134)	6.7	10.4	12.7	16.4	16.4	37.3	0.0	0.0
	通所リハビリテーション	(n= 15)	0.0	6.7	6.7	13.3	6.7	66.7	0.0	0.0
	短期入所生活介護	(n= 95)	5.3	13.7	7.4	6.3	6.3	55.8	5.3	0.0
	福祉用具	(n= 248)	4.8	6.5	5.6	10.5	17.3	46.0	1.2	8.1
	介護老人福祉施設	(n= 24)	8.3	4.2	0.0	0.0	12.5	70.8	4.2	0.0
	介護老人保健施設	(n= 136)	4.4	10.3	7.4	4.4	5.9	65.4	2.2	0.0
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	(n= 12)	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7	66.7	0.0	0.0
	看護小規模多機能型居宅介護	(n= 62)	19.4	3.2	4.8	8.1	12.9	50.0	1.6	0.0
	小規模多機能型居宅介護	(n= 9)	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	77.8	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 23)	0.0	0.0	8.7	21.7	43.5	30.4	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	(n= 64)	17.2	15.6	14.1	6.3	10.9	32.8	3.1	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 26)	61.5	3.8	7.7	3.8	3.8	19.2	0.0	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(n= 98)	1.0	0.0	6.1	9.2	10.2	73.5	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	(n= 68)	19.1	13.2	4.4	0.0	4.4	57.4	1.5	0.0

問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。

（６）現在の施設等での勤務年数

「1 年以上」（83.3%）が約８割となっており、「1 年未満」（14.8%）を大きく上回っている。

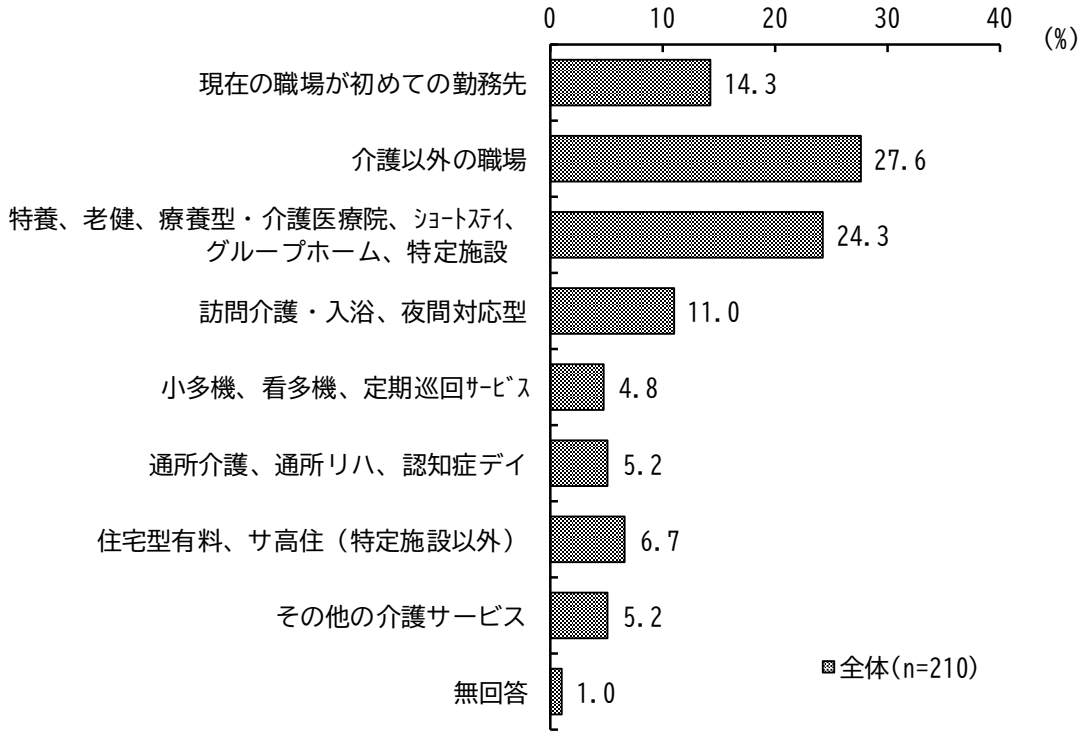
図表　現在の施設等での勤務年数（全体）



問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。
（６）で「１年未満」と回答した場合のみお答えください。
（７）現在の施設等に勤務する直前の職場　※地域密着型を含む

「介護以外の職場」（27.6%）が最も多く、次いで「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」（24.3%）、「訪問介護・入浴、夜間対応型」（11.0%）と続いている。一方、「現在の職場が初めての勤務先」は 14.3%である。

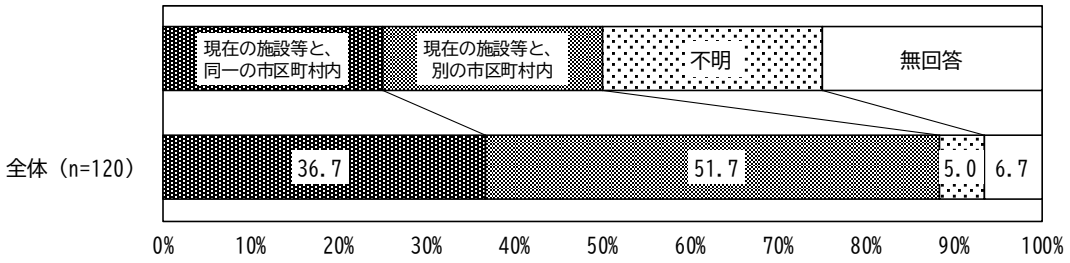
図表　現在の施設等に勤務する直前の職場
（現在の施設等での勤務年数が１年未満の人）



問５　貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください（令和７年１０月１日時点）。
（６）で「１年未満」と回答した場合のみお答えください。
（８）直前の職場について

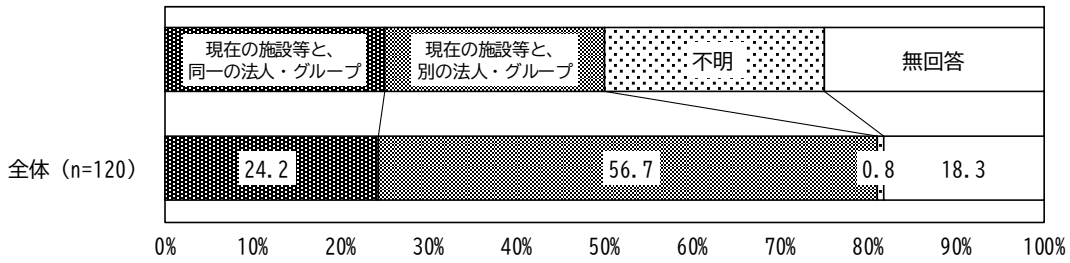
直前の職場の市区町村をたずねたところ、「現在の施設等と、別の市区町村内」（51.7%）がおよそ半数となっている。

図表　直前の職場（市町村）（現在の施設等での勤務年数が１年未満の人）



直前の職場の法人をたずねたところ、「現在の施設等と、別の法人・グループ」（56.7%）がおよそ６割となっている。

図表　直前の職場（法人）（現在の施設等での勤務年数が１年未満の人）



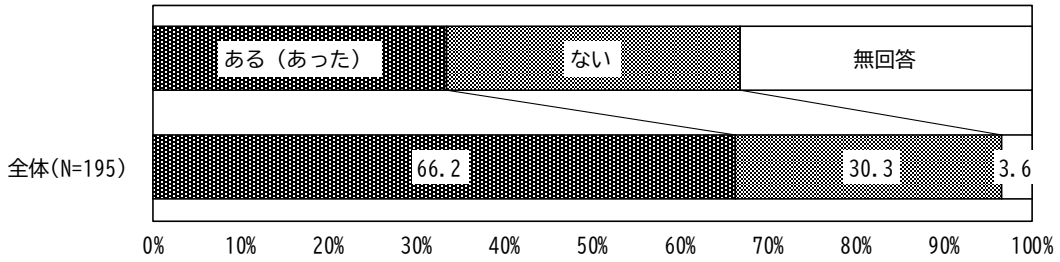
（３）サービス提供における課題

問６　サービス提供で困難だったケースがありましたか。（１つに○）

「ある（あった）」（66.2%）が「ない」（30.3%）を大きく上回っている。

提供サービス別にみると、「訪問介護」、「訪問看護」、「通所介護」、「介護老人福祉施設」、「地域密着型通所介護」、「居宅介護支援事業所」で「ある（あった）」が６割を超える回答となっている。とりわけ「居宅介護支援事業所」では 96.6%で「ある（あった）」が大多数となっている。一方、「ない」が「ある（あった）」を上回っているのは「特定施設入居者生活介護」、「福祉用具」、「認知症対応型共同生活介護」である。

図表　サービス提供の困難ケースの有無（全体）



図表　サービス提供の困難ケースの有無（全体、提供サービス別）

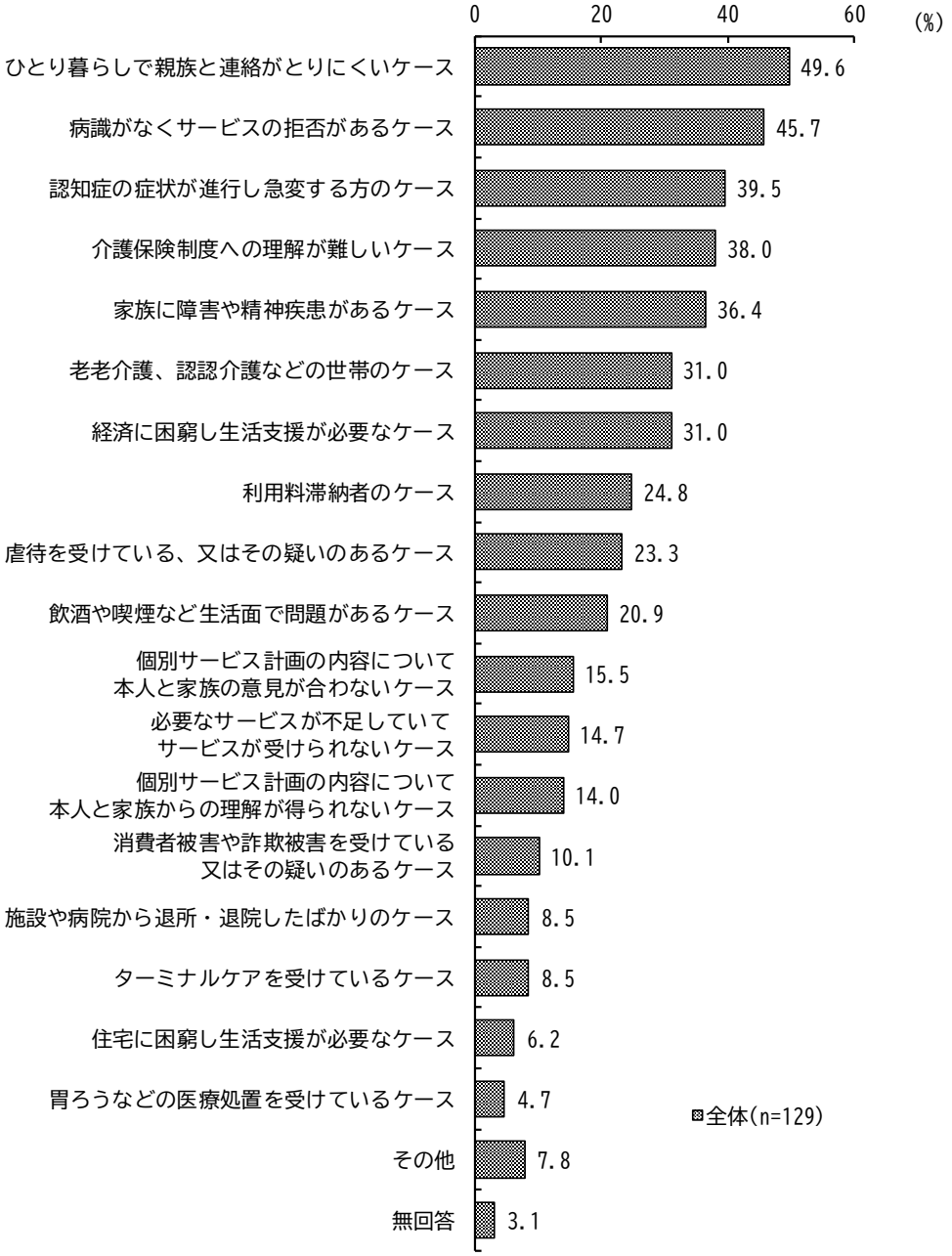
（%）

			ある（あった）	ない	無回答
全体		(N=195)	66.2	30.3	3.6
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	68.6	28.6	2.9
	訪問看護	(n= 23)	65.2	30.4	4.3
	通所介護	(n= 21)	66.7	33.3	0.0
	短期入所生活介護	(n= 7)	57.1	28.6	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	27.3	72.7	0.0
	福祉用具	(n= 11)	45.5	54.5	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	60.0	40.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	71.4	28.6	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	66.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	96.6	3.4	0.0

問６-１　問６で「ある（あった）」とお答えの事業所におたずねします。
それはどのようなケースですか。（いくつでも○）

「ひとり暮らしで親族と連絡がとりにくいケース」（49.6%）が最も多く、「病識がなくサービスの拒否があるケース」（45.7%）、「認知症の症状が進行し急変する方のケース」（39.5%）、「介護保険制度への理解が難しいケース」（38.0%）と続いている。

図表　困難ケースの内容（困難ケースがある（あった）事業所：複数回答）



問６-２　前記のケース対応にあたり、必要な行政支援としてどのようなことが考えられますか。具体的にお書きください。

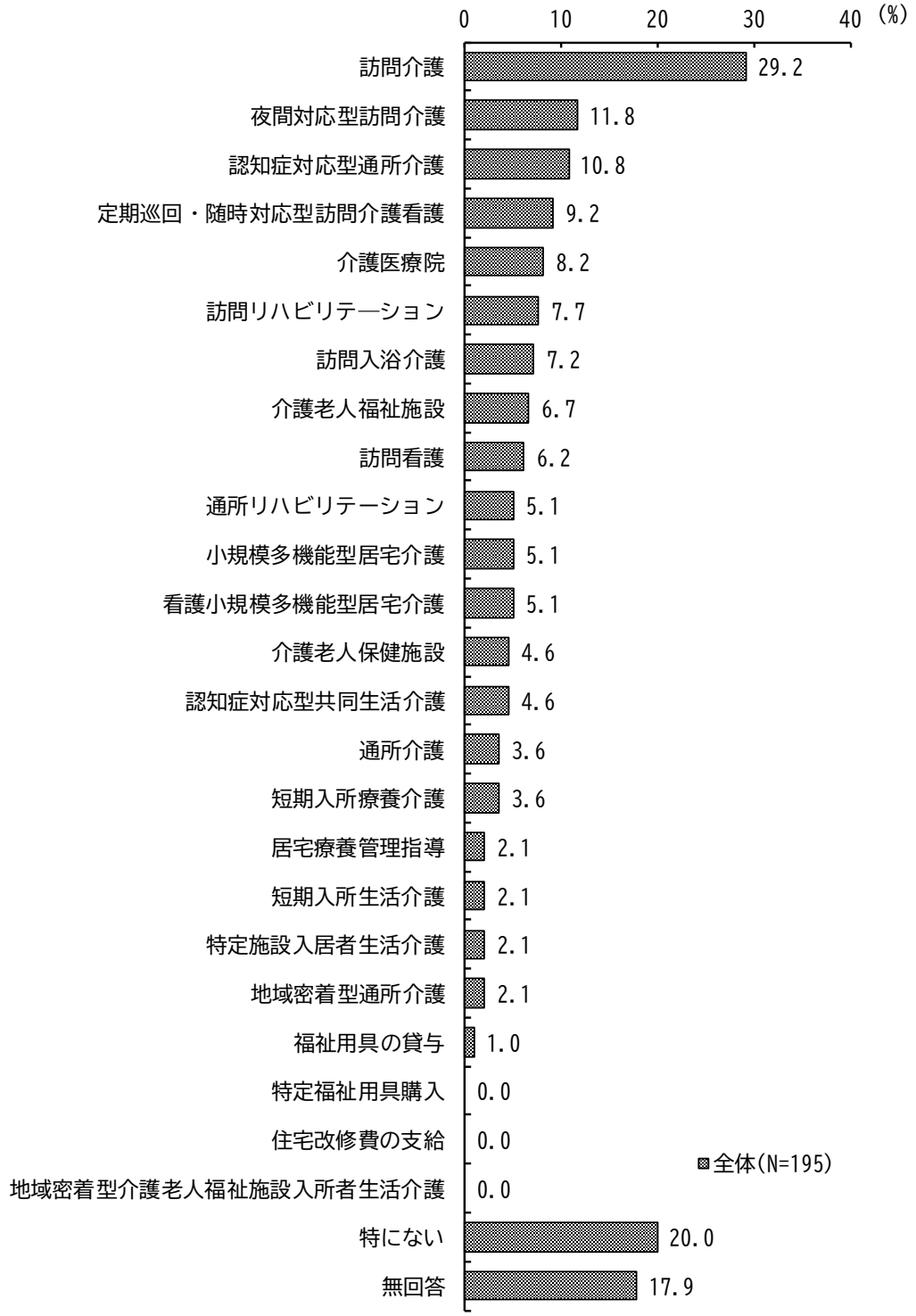
自由記述形式で聞いたところ、74 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
利用者・家族への介護保険に関する周知	17 件
独居、虐待、困難ケース、カスタマーハラスメント等への市の関与を希望	17 件
包括との連携	８件
利用料滞納に対する対応、身元保証制度の充実	５件
サービス担当者会議での制度などの説明、ケアマネへの研修	４件
生保など各種窓口との連携、支援	４件
地域の見守りネットワークの強化	２件
介護認定調査の質の統一、迅速な事務処理	２件
ADL 急変時の区変など特急対応	２件
居宅ケアマネに関するシステム整備、法整備	２件
各サービス事業所間での改善	１件
社協の素早い介入	１件
決定権	１件
今後必要になる	１件
特例措置の検討	１件
精神疾患の方を医療につなげる仕組み	１件
高齢者や障がい者が入居できる公営住宅の充実	１件
行政に現場の状況を知って欲しい	１件
介護人材の支援	１件
特になし	２件

問７（１）　担当している地域で、事業所数もしくは定員など、量的に不足していると感じるサービスはありますか。（３つまで選んで番号を記入）

「訪問介護」（29.2%）が最も多く、次いで「夜間対応型訪問介護」（11.8%）、「認知症対応型通所介護」（10.8%）と続いている。

図表　量的に不足しているサービス（全体：複数回答）



問７（２）　担当している地域で、事業所数もしくは定員など、ケアプランに組み入れにくいサービスはありますか。（３つまで選んで番号を記入）

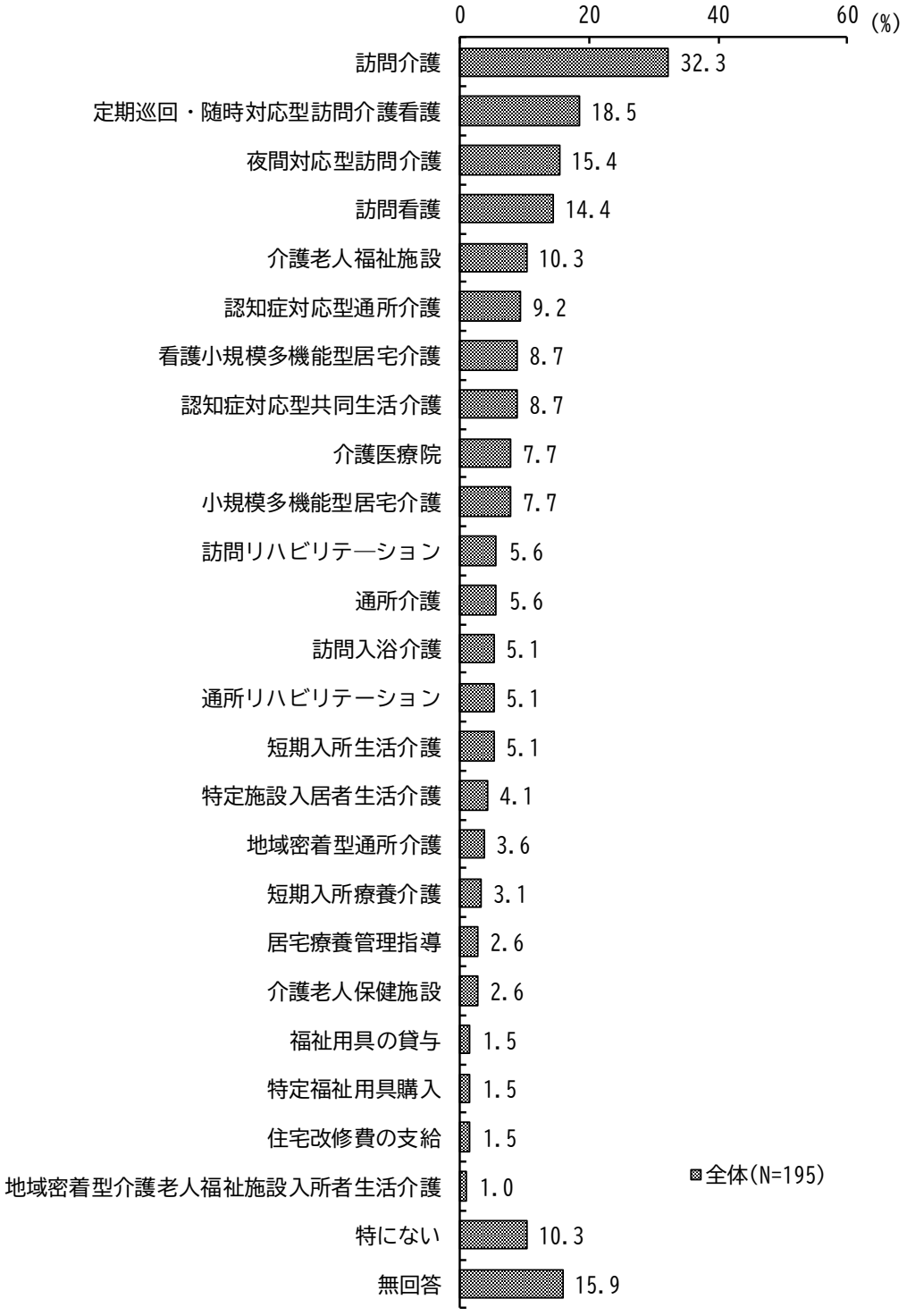
「特にない」(43.6%) との回答が４割を超えている。具体的なサービスとしては、「定期巡回・随時対応型訪問看護」(8.2%)、「小規模多機能型居宅介護」(7.2%)、「訪問リハビリテーション」(6.2%)、「夜間対応型訪問介護」(6.2%) が上位に挙げられている。

図表　ケアプランに組み入れにくいサービス（全体：複数回答）

問７（３）　担当している地域で、事業所数もしくは定員など、今後必要性がより高まると思われるサービスはありますか。（３つまで選んで番号を記入）

「訪問介護」（32.3%）が最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（18.5%）、「夜間対応型訪問介護」（15.4%）、「訪問看護」（14.4%）と続いている。一方、「特にない」は10.3%となっている。

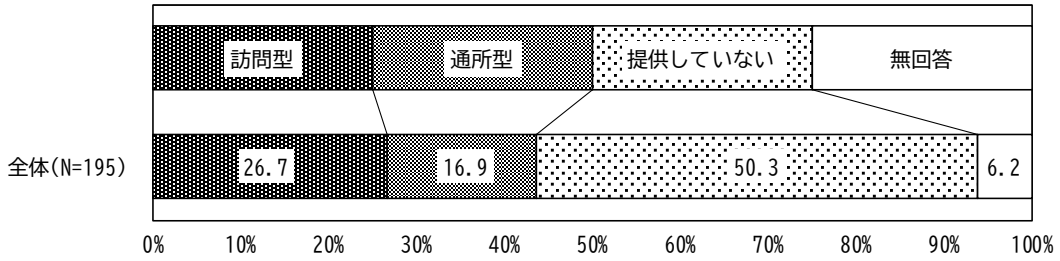
図表　必要性が高まると思われるサービス（全体：複数回答）



問８　貴事業所では介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」）のサービスを提供していますか。（１つに○）

「提供していない」（50.3%）がおよそ半数となっている。総合事業のサービスを提供しているのは「訪問型」（26.7%）、「通所型」（16.9%）となっている。

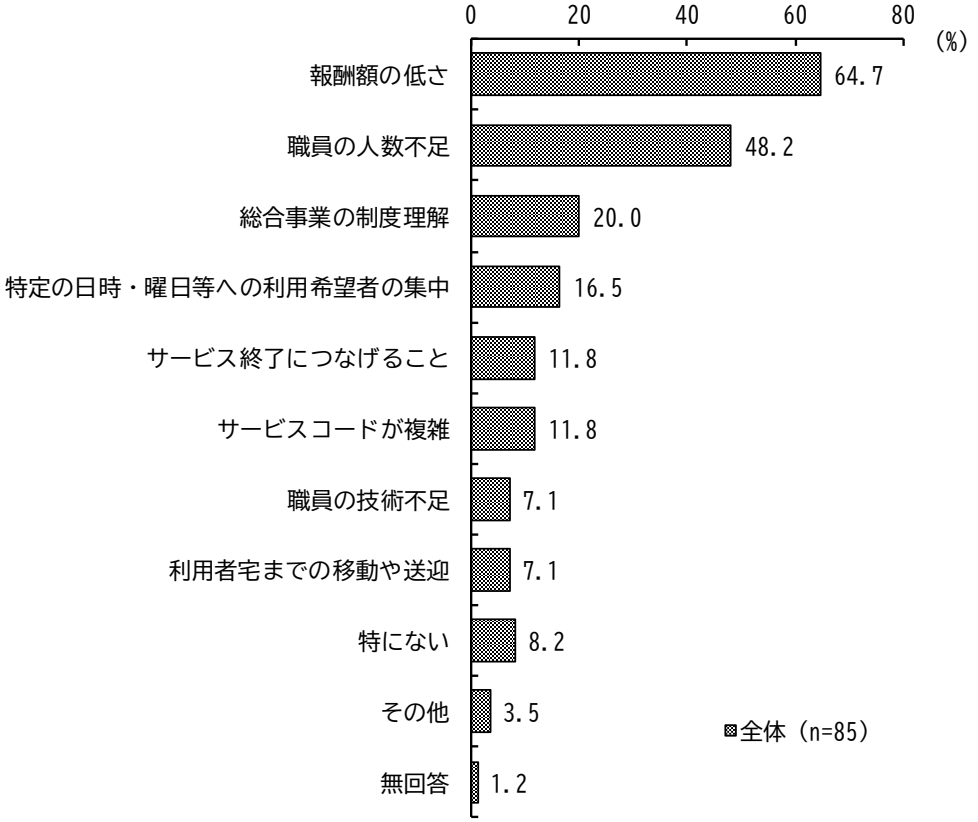
図表　介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの提供の有無（全体）



問８-１　問８で「訪問型」又は「通所型」とお答えの事業所におたずねします
総合事業のサービスを提供していくうえで、どのような課題がありますか。（いくつでも○）

「報酬額の低さ」（64.7%）が最も多く、続く「職員の人数不足」（48.2%）の２項目が上位に挙げられている。

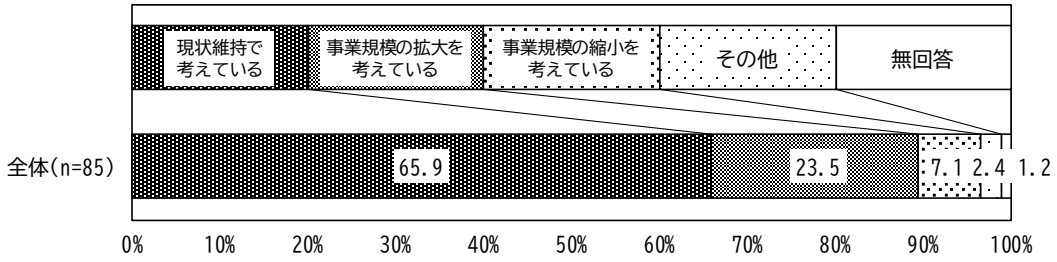
図表　総合事業を進めていく上での課題
（総合事業を提供している事業所：複数回答）



問８-２　問８で「訪問型」又は「通所型」とお答えの事業所におたずねします
貴事業所で提供しているサービスについて、今後、どのように考えていますか。（１つに○）

「現状維持で考えている」（65.9%）が最も多く、次いで「事業規模の拡大を考えている」（23.5%）、「事業規模の縮小を考えている」（7.1%）と続いている。

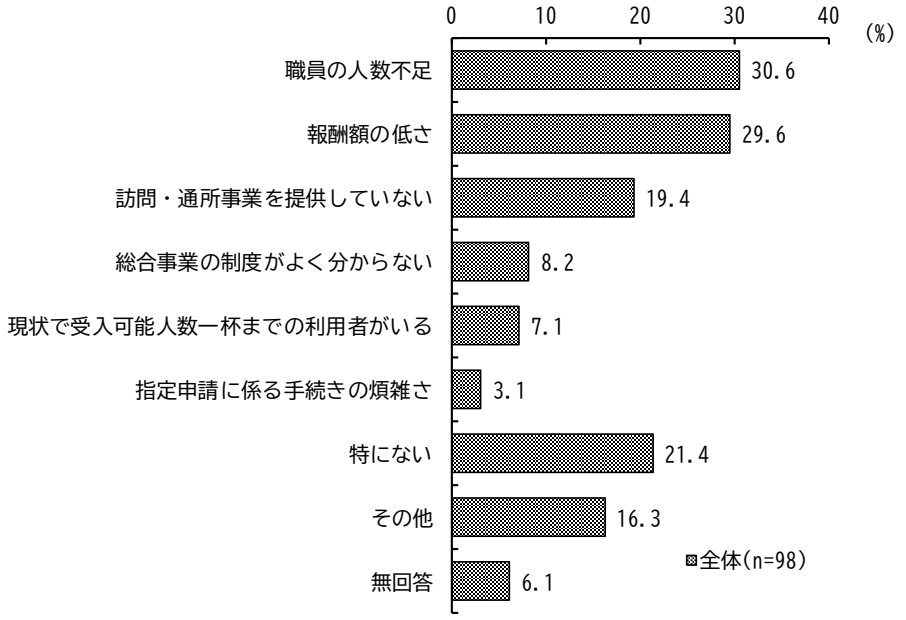
図表　今後のサービス提供の見通し（総合事業を提供している事業所）



問８-３　問８で「提供していない」とお答えの事業所におたずねします
総合事業のサービスを提供しない理由は何ですか。（いくつでも○）

「職員の人数不足」（30.6%）が最も多く、次いで「報酬額の低さ」（29.6%）と続いている。「特にない」（21.4%）との回答が約２割となっている。

図表　総合事業を提供しない理由
（総合事業を提供していない事業所：複数回答）

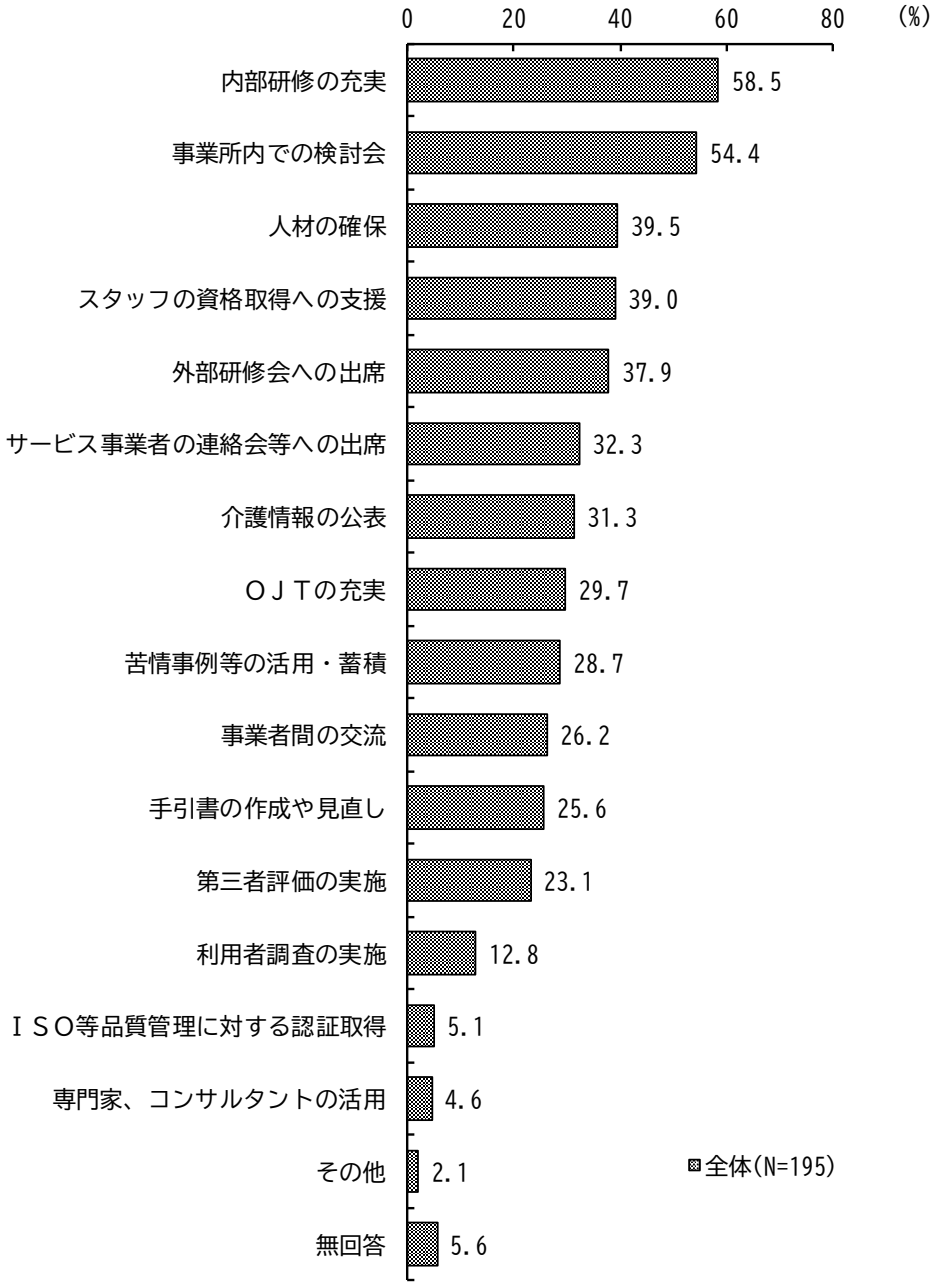


（４）サービスの質の向上と人材確保に向けた取組

問９　貴事業所では質の向上に対する取組をどのように行っていますか。（いくつでも○）

「内部研修の充実」（58.5%）が最も多く、次いで「事業所内での検討会」（54.4%）、「人材の確保」（39.5%）、「スタッフの資格取得への支援」（39.0%）と続いている。

図表　サービスの質の向上に対する取組（全体：複数回答）

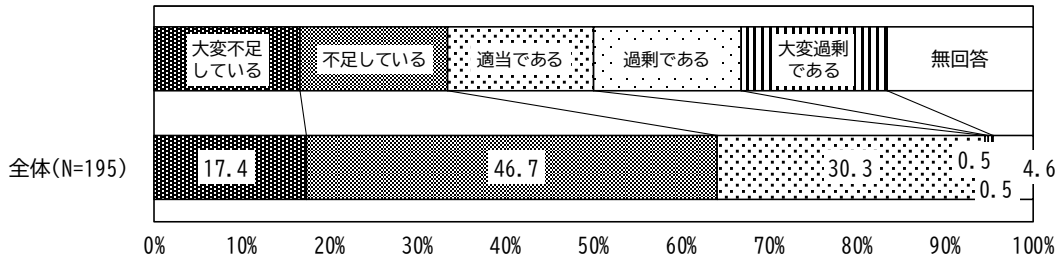


問 10　貴事業所における現在の職員の過不足についてお答えください。（１つに○）

「不足している」（46.7%）がおよそ半数となっている。「大変不足している」（17.4%）と合わせると６割以上が『不足している』との回答である。「適当である」（30.3%）は約３割となっている。

提供サービス別にみると、『不足している』が最も多いのは、「訪問介護」（計 88.6%）で、次いで「訪問看護」（計 73.9%）、「短期入所生活介護」（計 71.4%）が続いている。一方、「認知症対応型共同生活介護」では「適当である」（83.3%）が８割を超えている。

図表　現在の職員の過不足状況（全体）



図表　現在の職員の過不足状況（全体、提供サービス別）

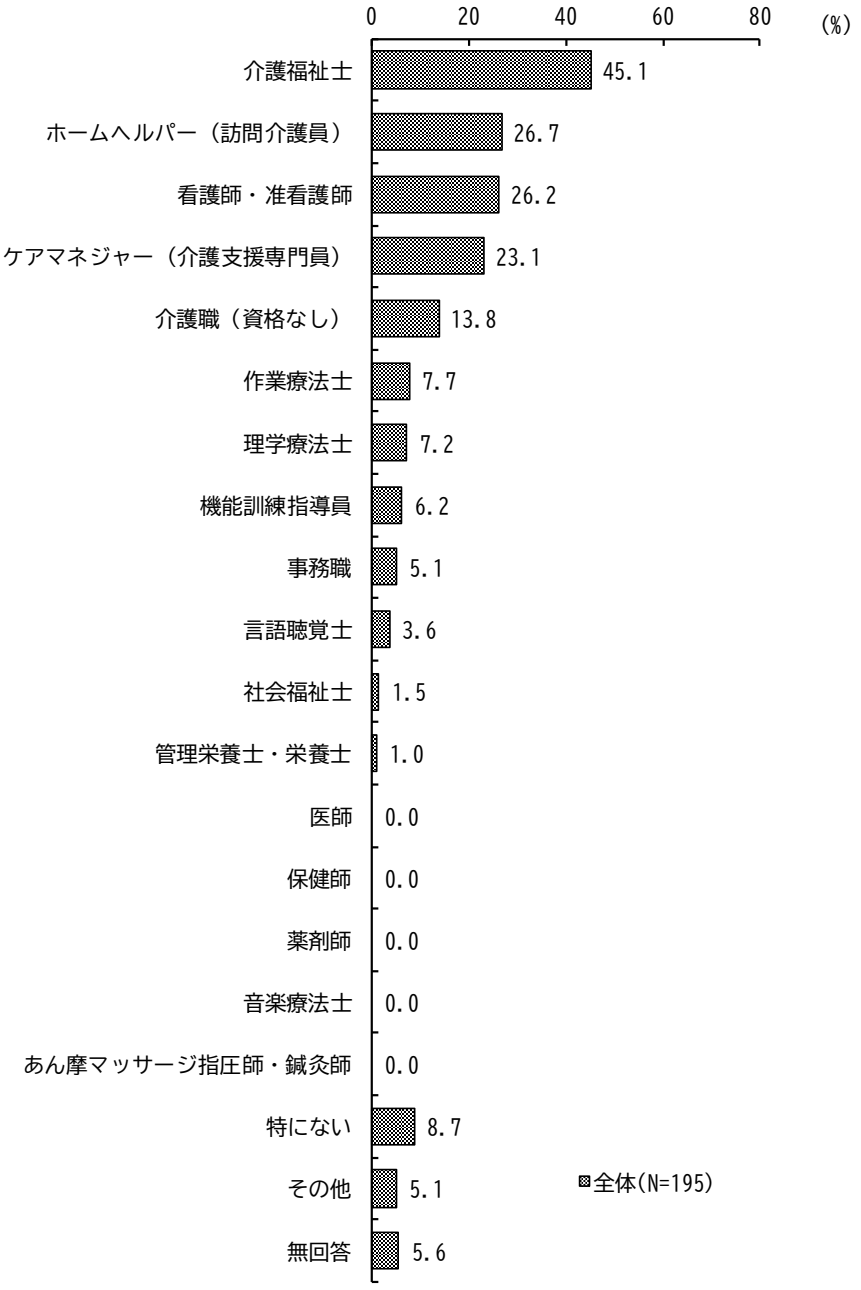
(%)

			大変不足している	不足している	適当である	過剰である	大変過剰である	無回答
全体		(N=195)	17.4	46.7	30.3	0.5	0.5	4.6
提供サービス別（ｎ≧5）	訪問介護	(n= 35)	40.0	48.6	5.7	0.0	2.9	2.9
	訪問看護	(n= 23)	4.3	69.6	21.7	0.0	0.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	19.0	42.9	33.3	0.0	0.0	4.8
	短期入所生活介護	(n= 7)	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	18.2	45.5	36.4	0.0	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	18.2	36.4	45.5	0.0	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	17.2	48.3	31.0	0.0	0.0	3.4

問 11　貴事業所において、特に人材確保の困難な職種はどれですか。（いくつでも○）

「介護福祉士」（45.1%）が最も多く、次いで「ホームヘルパー（訪問介護員）」（26.7%）、「看護師・准看護師」（26.2%）が続いている。

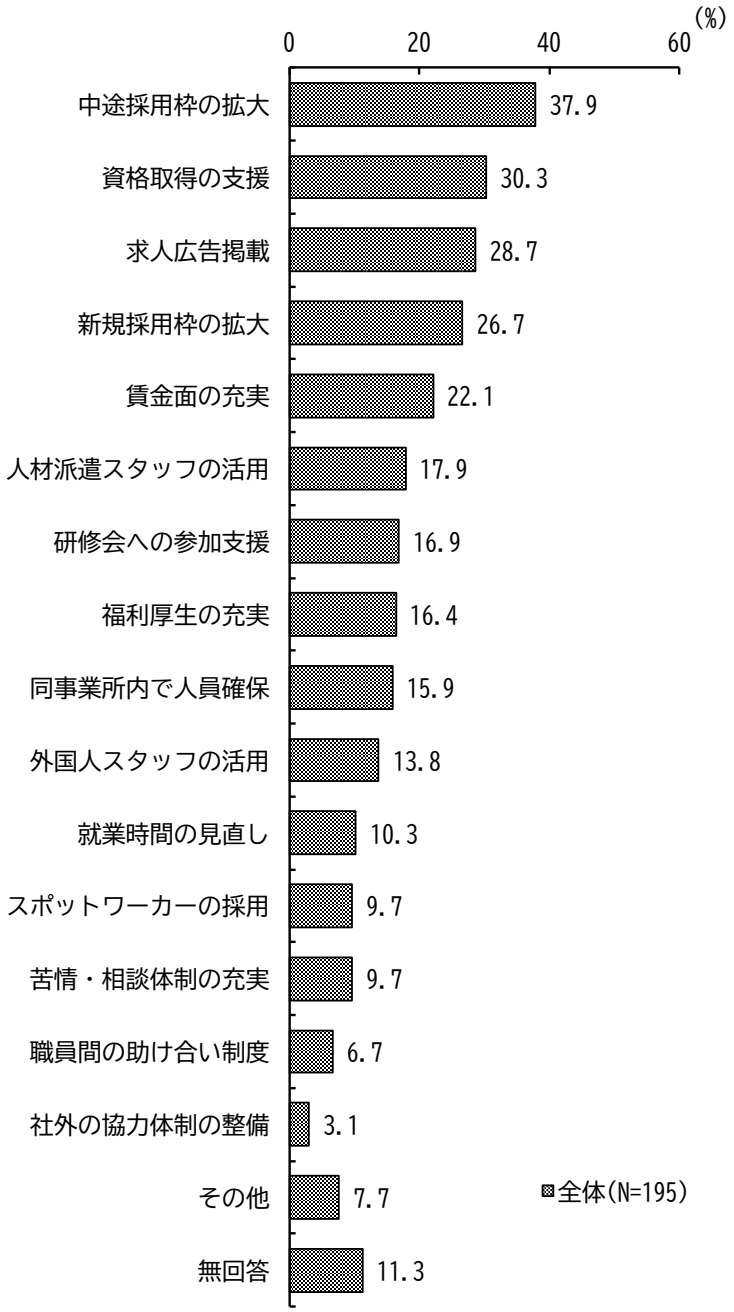
図表　確保の困難な職種（全体：複数回答）



問 12　人材を確保するためにどのような取組を行っていますか。（いくつでも○）

「中途採用枠の拡大」（37.9%）が最も多く、「資格取得の支援」（30.3%）、「求人広告掲載」（28.7%）が続いている。

図表　人材を確保するための取組（全体：複数回答）



提供サービス別にみると、「介護老人福祉施設」の「外国人スタッフの活用」（80.0%）が最も多く、次いで「特定施設入居者生活介護」の「中途採用枠の拡大」（72.7%）、「特定施設入居者生活介護」の「人材派遣スタッフの活用」（63.6%）が続いている。

図表　人材を確保するための取組（全体、提供サービス別）

（%）

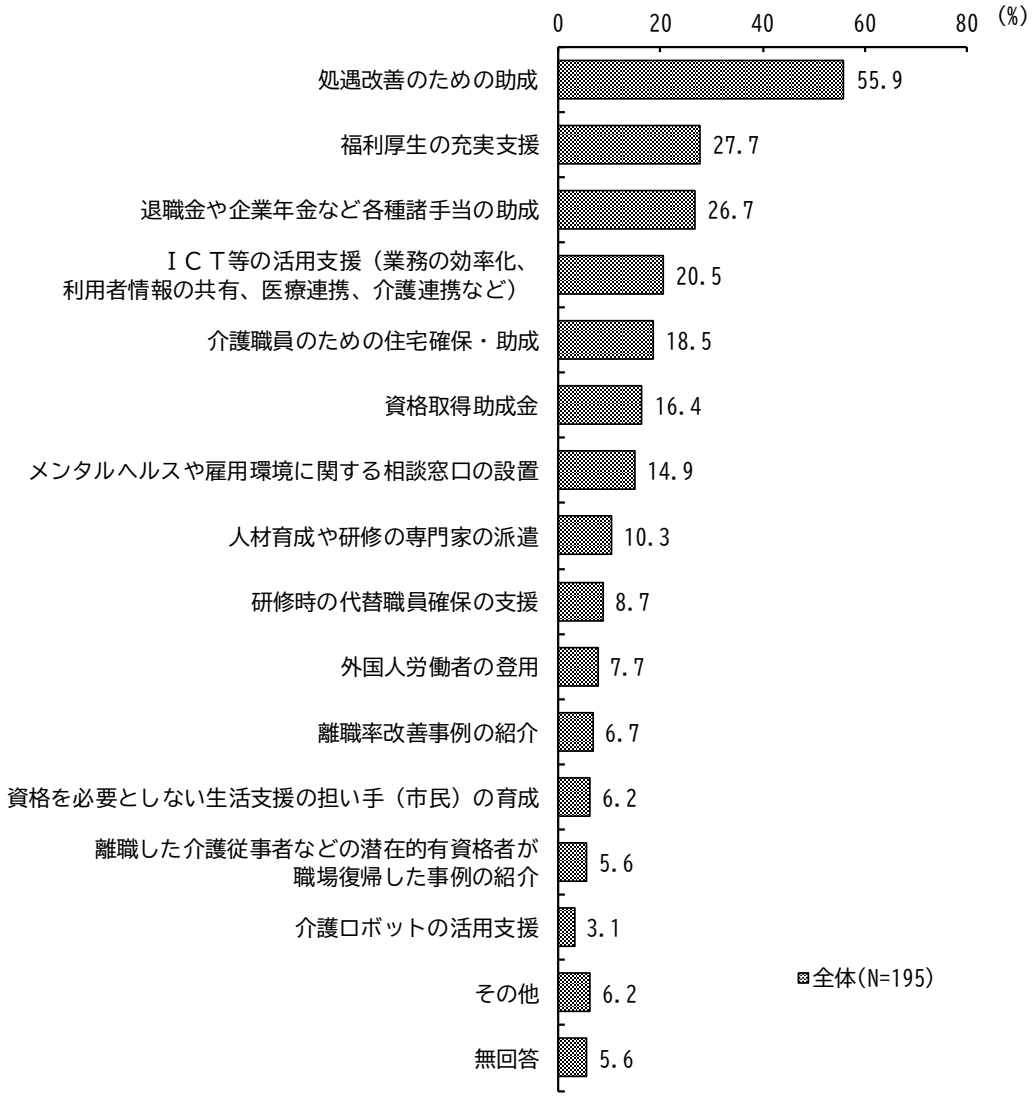
			中途採用枠の拡大	資格取得の支援	求人広告掲載	新規採用枠の拡大	賃金面の充実	人材派遣スタッフの活用	研修会への参加支援	福利厚生の充実	同事業所内で人員確保
全体		(N=195)	37.9	30.3	28.7	26.7	22.1	17.9	16.9	16.4	15.9
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	37.1	37.1	37.1	25.7	22.9	8.6	20.0	17.1	28.6
	訪問看護	(n= 23)	52.2	13.0	21.7	13.0	30.4	8.7	21.7	8.7	4.3
	通所介護	(n= 21)	42.9	42.9	52.4	28.6	33.3	33.3	19.0	14.3	28.6
	短期入所生活介護	(n= 7)	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	57.1	14.3	14.3	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	72.7	45.5	36.4	54.5	36.4	63.6	18.2	36.4	9.1
	福祉用具	(n= 11)	45.5	9.1	27.3	54.5	36.4	0.0	0.0	9.1	27.3
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	21.4	50.0	28.6	28.6	21.4	14.3	21.4	21.4	14.3
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	20.7	24.1	31.0	10.3	17.2	3.4	17.2	17.2	3.4

			外国人スタッフの活用	就業時間の見直し	スポットワーカーの採用	苦情・相談体制の充実	職員間の助け合い制度	社外の協力体制の整備	その他	無回答
全体		(N=195)	13.8	10.3	9.7	9.7	6.7	3.1	7.7	11.3
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	5.7	11.4	11.4	8.6	0.0	0.0	8.6	14.3
	訪問看護	(n= 23)	4.3	8.7	0.0	0.0	4.3	0.0	13.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	9.5	0.0	0.0	19.0	4.8	0.0	0.0	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	54.5	9.1	27.3	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0
	福祉用具	(n= 11)	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1
	介護老人福祉施設	(n= 5)	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	7.1	35.7	35.7	28.6	7.1	14.3	0.0	7.1
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	0.0	10.3	0.0	3.4	13.8	3.4	13.8	20.7

問 13　人材の確保・育成、定着促進、環境改善のために有効と考えられる支援策はどのようなものですか。（３つまでに○）

「処遇改善のための助成」（55.9%）が半数を超え最も多い回答で、続く「福利厚生の充実支援」（27.7%）、「退職金や企業年金など各種諸手当の助成」（26.7%）を大きく引き離している。

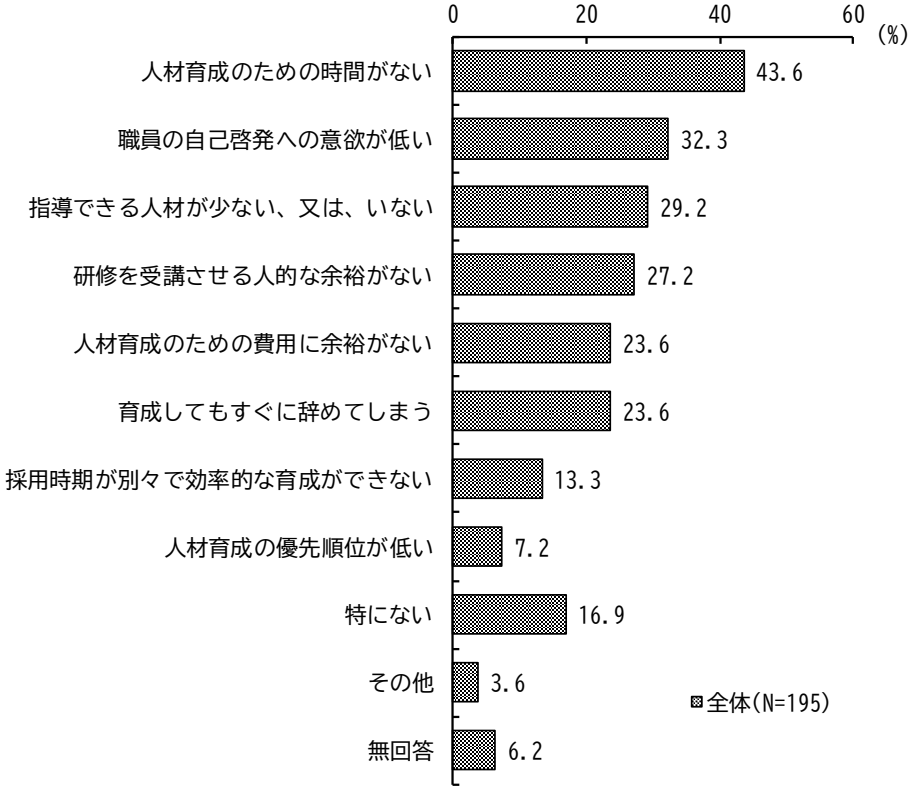
図表　人材の確保・育成、定着促進、環境改善のために有効な支援策
（全体：複数回答）



問 14　職員の研修・教育等に関して困っていることは何ですか。（いくつでも○）

「人材育成のための時間がない」（43.6%）が最も多く、次いで「職員の自己啓発への意欲が低い」（32.3%）、「指導できる人材が少ない、又は、いない」（29.2%）となっている。

図表　職員の研修・教育等に関して困っていること（全体：複数回答）



提供サービス別にみると、「職員の自己啓発への意欲が低い」の割合は、「特定施設入居者生活介護」、「介護老人福祉施設」では全体より 20 ポイント以上高く、「訪問介護」、「通所介護」、「短期入所生活介護」では全体より 10 ポイント以上高くなっている

図表　職員の研修・教育等に関して困っていること
（全体、提供サービス別：複数回答）

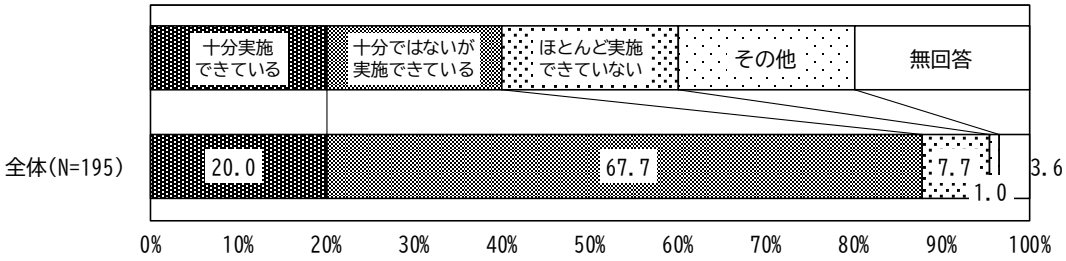
（%）

			人材育成のための時間がない	人材育成のための費用に余裕がない	職員の自己啓発への意欲が低い	人材育成の優先順位が低い	指導できる人材が少ない、又はいない	採用時期が別々で効率的な育成ができない	育成してもすぐに辞めてしまう	研修を受講させる人的な余裕がない	特にない	その他	無回答
全体		(N=195)	43.6	23.6	32.3	7.2	29.2	13.3	23.6	27.2	16.9	3.6	6.2
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	42.9	22.9	45.7	11.4	22.9	11.4	25.7	28.6	8.6	0.0	5.7
	訪問看護	(n= 23)	39.1	26.1	17.4	4.3	17.4	0.0	13.0	21.7	17.4	4.3	4.3
	通所介護	(n= 21)	47.6	33.3	47.6	4.8	33.3	14.3	28.6	52.4	14.3	0.0	4.8
	短期入所生活介護	(n= 7)	28.6	14.3	42.9	0.0	57.1	57.1	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	54.5	9.1	54.5	9.1	45.5	9.1	27.3	45.5	18.2	0.0	9.1
	福祉用具	(n= 11)	54.5	9.1	18.2	0.0	27.3	9.1	36.4	0.0	36.4	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	60.0	60.0	60.0	0.0	60.0	60.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	57.1	42.9	21.4	14.3	28.6	14.3	35.7	28.6	21.4	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	48.3	31.0	20.7	10.3	24.1	6.9	13.8	3.4	13.8	6.9	3.4

問 15　事業所内での講習会・研修（基準や加算に位置付られている研修以外）は十分実施できているると思いますか。できていない場合は理由を具体的にお書きください。（１つに○）

「十分ではないが、実施できている」（67.7%）が最も多く、「十分実施できている」（20.0%）と合わせるとおよそ９割が『実施できている』との回答である。

図表　事業所内での研修の実施状況（全体）

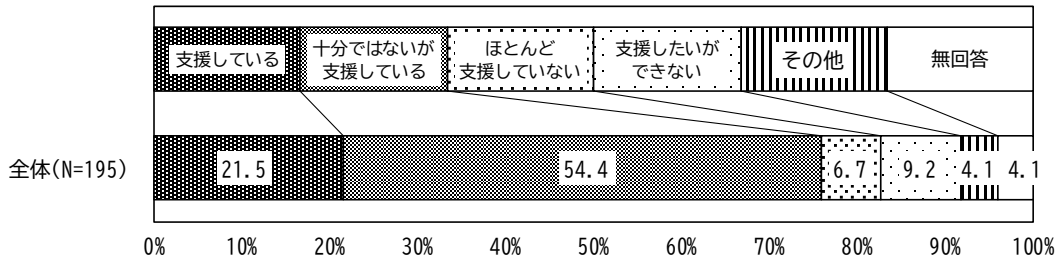


問 16　外部の研修や事例検討、勉強会について、非常勤を含む職員が積極的に参加できるよう支援していますか。支援していない・できない場合は、その理由を具体的にお書きください。（1つに○）

「十分ではないが支援している」（54.4%）が最も多く、「支援している」（21.5%）と合わせると、およそ４分の３が「支援している』との回答である。

提供サービス別にみると、「地域密着型通所介護」をのぞき「支援している」と「十分ではないが支援している」』の回答の合計が７割を超えている。「地域密着型通所介護」は「支援したいができない」（21.4%）が全体を 10 ポイント以上上回っている。

図表　外部の研修等への参加支援の状況（全体）



図表　外部の研修等への参加支援の状況（全体、提供サービス別）

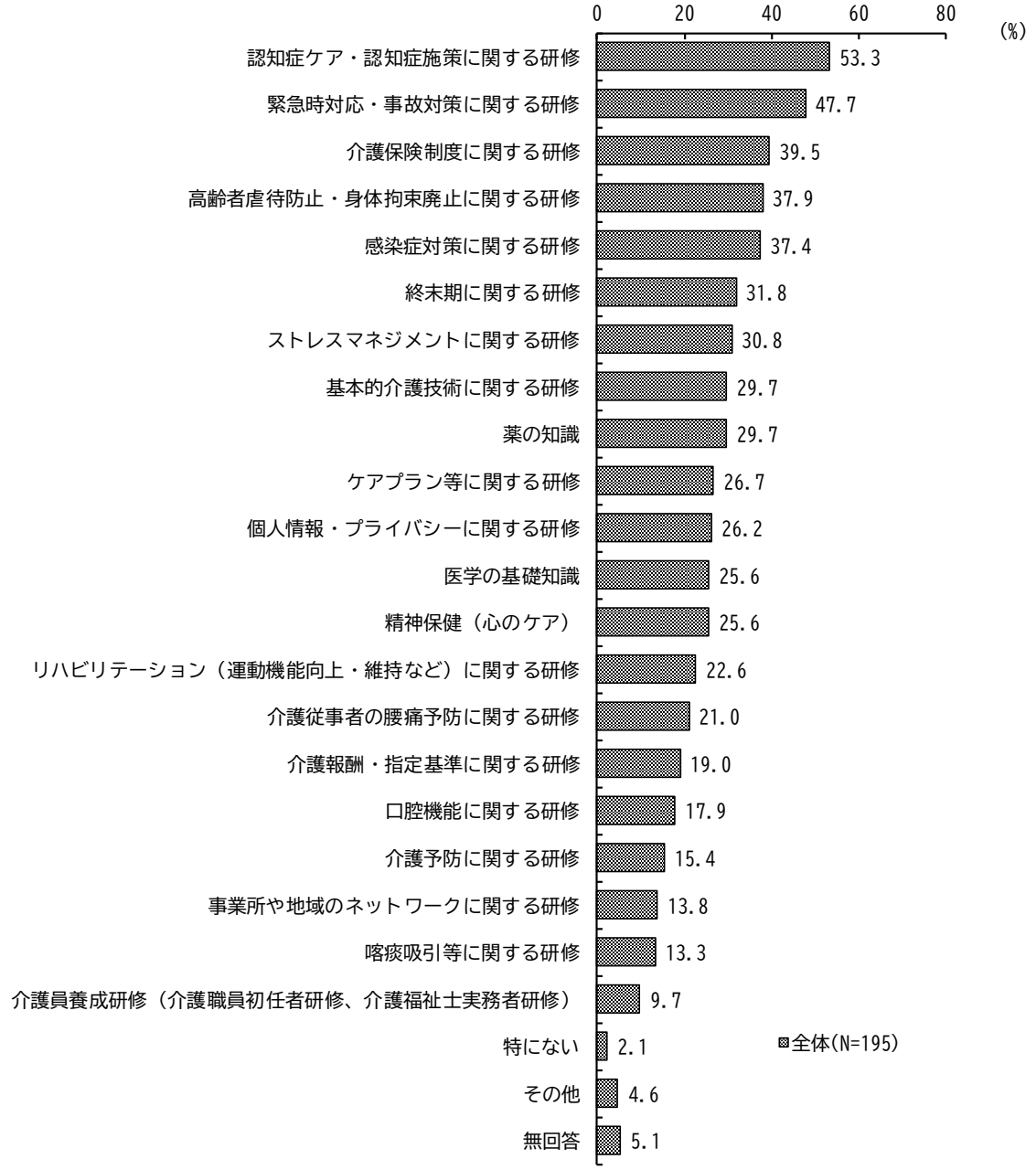
(%)

			支援している	十分ではないが支援している	ほとんど支援していない	支援したいができない	その他	無回答
全体		(N=195)	21.5	54.4	6.7	9.2	4.1	4.1
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	22.9	48.6	14.3	11.4	0.0	2.9
	訪問看護	(n= 23)	34.8	43.5	0.0	17.4	0.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	23.8	47.6	4.8	9.5	4.8	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	14.3	57.1	0.0	0.0	14.3	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	9.1	72.7	18.2	0.0	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	9.1	81.8	0.0	9.1	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	0.0	57.1	14.3	21.4	7.1	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	51.7	34.5	0.0	0.0	13.8	0.0

問 17　貴事業所の職員に必要だと考えられる研修はどのような内容ですか。（いくつでも○）

「認知症ケア・認知症施策に関する研修」（53.3%）が最も多く、次いで「緊急時対応・事故対策に関する研修」（47.7%）、「介護保険制度に関する研修」（39.5%）が続いている。

図表　職員に必要だと考えられる研修（全体：複数回答）



職員の研修・教育に関する困りごと別にみると、「採用時期が別々で効率的な育成ができない」では「認知症ケア・認知症施策に関する研修」（84.6%）が全体より 30 ポイント以上高くなっている。「職員の自己啓発への意欲が低い」では「基本的介護技術に関する研修」（57.1%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　職員に必要だと考えられる研修
（全体、職員の研修・教育等に関する困りごと別：複数回答）

(%)

			認知症ケア・認知症施策に関する研修	緊急時対応・事故対策に関する研修	介護保険制度に関する研修	高齢者虐待防止等に関する研修	感染症対策に関する研修	終末期に関する研修	ストレスマネジメントに関する研修	基本的介護技術に関する研修	薬の知識	ケアプラン等に関する研修	個人情報・プライバシーに関する研修	医学の基礎知識
全体		(N=195)	53.3	47.7	39.5	37.9	37.4	31.8	30.8	29.7	29.7	26.7	26.2	25.6
職員の研修・教育等に関する困りごと別	人材育成のための時間がない	(n= 85)	55.3	45.9	44.7	38.8	38.8	37.6	31.8	38.8	27.1	27.1	28.2	22.4
	人材育成のための費用に余裕がない	(n= 46)	54.3	50.0	47.8	39.1	41.3	30.4	37.0	39.1	26.1	21.7	34.8	23.9
	職員の自己啓発への意欲が低い	(n= 63)	68.3	54.0	49.2	42.9	39.7	34.9	31.7	57.1	31.7	39.7	33.3	28.6
	人材育成の優先順位が低い	(n= 14)	64.3	57.1	64.3	50.0	50.0	42.9	21.4	42.9	42.9	42.9	28.6	35.7
	指導できる人材が少ない、又はいない	(n= 57)	70.2	61.4	47.4	47.4	42.1	35.1	38.6	42.1	33.3	33.3	28.1	28.1
	採用時期が別々で効率的な育成ができない	(n= 26)	84.6	73.1	65.4	57.7	53.8	42.3	42.3	53.8	38.5	42.3	53.8	38.5
	育成してもすぐに辞めてしまう	(n= 46)	67.4	50.0	45.7	39.1	43.5	30.4	30.4	39.1	32.6	34.8	37.0	28.3
	研修を受講させる人的な余裕がない	(n= 53)	71.7	64.2	47.2	47.2	43.4	45.3	35.8	45.3	39.6	26.4	39.6	34.0
	特にない	(n= 33)	45.5	54.5	30.3	48.5	39.4	30.3	33.3	12.1	39.4	18.2	18.2	30.3
	その他	(n= 7)	71.4	85.7	85.7	71.4	71.4	57.1	71.4	42.9	42.9	42.9	71.4	42.9

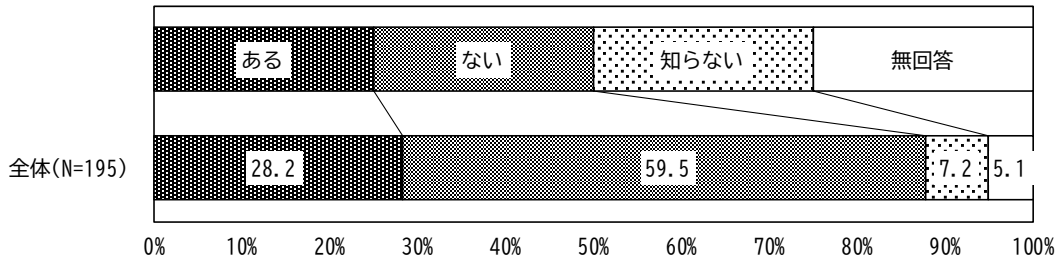
			精神保健（心のケア）	リハビリテーション（運動機能向上・維持など）に関する研修	介護従事者の腰痛予防に関する研修	介護報酬・指定基準に関する研修	口腔機能に関する研修	介護予防に関する研修	事業所や地域のネットワークに関する研修	喀痰吸引等に関する研修	介護員養成研修（介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修）	特にない	その他	無回答
全体		(N=195)	25.6	22.6	21.0	19.0	17.9	15.4	13.8	13.3	9.7	2.1	4.6	5.1
職員の研修・教育等に関する困りごと別	人材育成のための時間がない	(n= 85)	27.1	25.9	28.2	17.6	20.0	15.3	12.9	11.8	15.3	2.4	1.2	1.2
	人材育成のための費用に余裕がない	(n= 46)	23.9	32.6	37.0	23.9	19.6	10.9	19.6	15.2	15.2	0.0	6.5	4.3
	職員の自己啓発への意欲が低い	(n= 63)	33.3	25.4	27.0	15.9	28.6	23.8	14.3	15.9	12.7	0.0	6.3	1.6
	人材育成の優先順位が低い	(n= 14)	42.9	28.6	28.6	21.4	28.6	35.7	35.7	7.1	28.6	0.0	7.1	0.0
	指導できる人材が少ない、又はいない	(n= 57)	35.1	33.3	28.1	12.3	28.1	22.8	14.0	12.3	12.3	1.8	1.8	0.0
	採用時期が別々で効率的な育成ができない	(n= 26)	46.2	26.9	42.3	19.2	42.3	26.9	11.5	15.4	19.2	3.8	0.0	3.8
	育成してもすぐに辞めてしまう	(n= 46)	28.3	37.0	30.4	21.7	26.1	23.9	10.9	13.0	15.2	0.0	4.3	2.2
	研修を受講させる人的な余裕がない	(n= 53)	39.6	24.5	34.0	28.3	28.3	15.1	18.9	18.9	17.0	0.0	3.8	1.9
	特にない	(n= 33)	24.2	21.2	18.2	15.2	15.2	15.2	9.1	9.1	6.1	3.0	3.0	0.0
	その他	(n= 7)	71.4	42.9	42.9	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0

問 18　貴事業所では福祉サービス第三者評価※を受審したことがありますか。（１つに○）
※第三者の目から見た評価結果を幅広く利用者や事業者に公表することにより、利用者に対する情報提供を行うとともに、サービスの質の向上に向けた事業者の取り組みを促すことで、利用者本位の福祉の実現を目指すもの。

「ない」（59.5%）が「ある」（28.2%）を大きく上回っている。

提供サービス別にみると、「介護老人福祉施設」と「認知症対応型共同生活介護」は「ある」が 100%で、「短期入所生活介護」（85.7%）が続いている。一方、「ない」の割合が高いのは、「地域密着型通所介護」（92.9%）、「訪問看護」（91.3%）、「居宅介護支援事業所」（82.8%）となっている。

図表　福祉サービス第三者評価の受審の有無（全体）



図表　福祉サービス第三者評価の受審の有無（全体、提供サービス別）

（%）

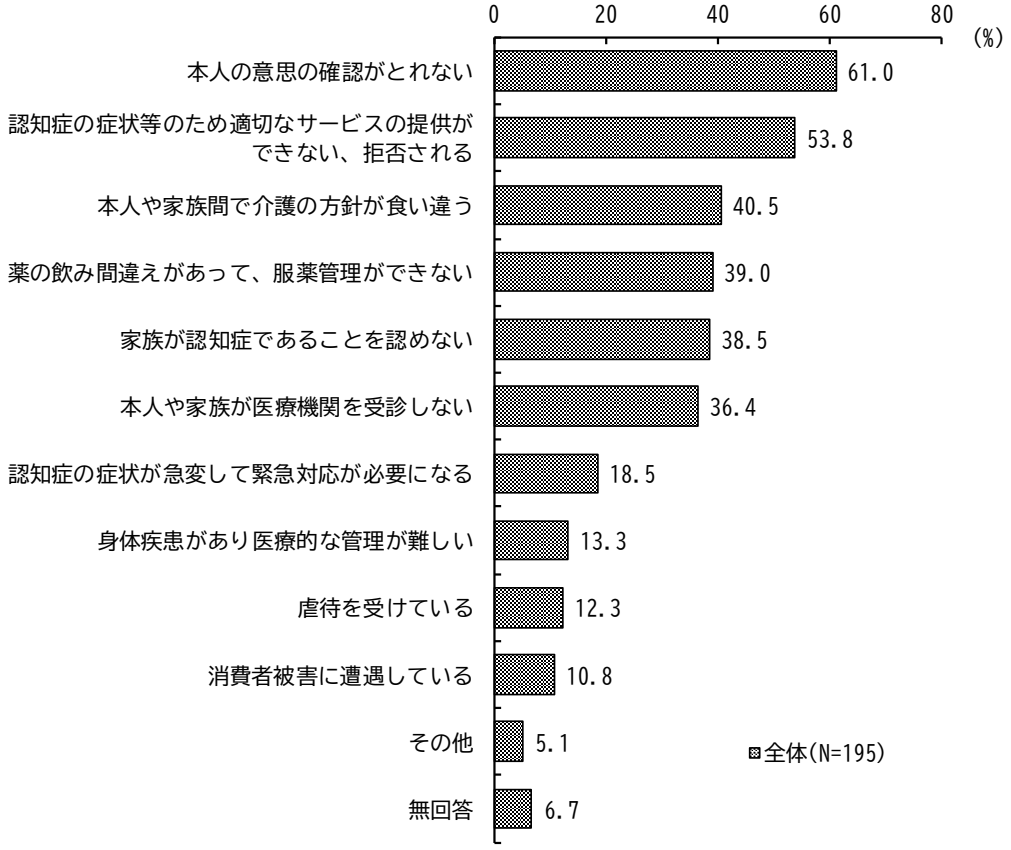
			ある	ない	知らない	無回答
全体		(N=195)	28.2	59.5	7.2	5.1
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	20.0	71.4	2.9	5.7
	訪問看護	(n= 23)	4.3	91.3	0.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	42.9	38.1	9.5	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	85.7	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	18.2	63.6	18.2	0.0
	福祉用具	(n= 11)	27.3	54.5	18.2	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	100.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	7.1	92.9	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	100.0	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	17.2	82.8	0.0	0.0

（５）認知症のある利用者のサービス利用

問 19　認知症のある利用者の状況で、実際にあることは次のどれですか。またそのうち、最も大変なことはどれですか。（いくつでも○、最も大変なことに◎）

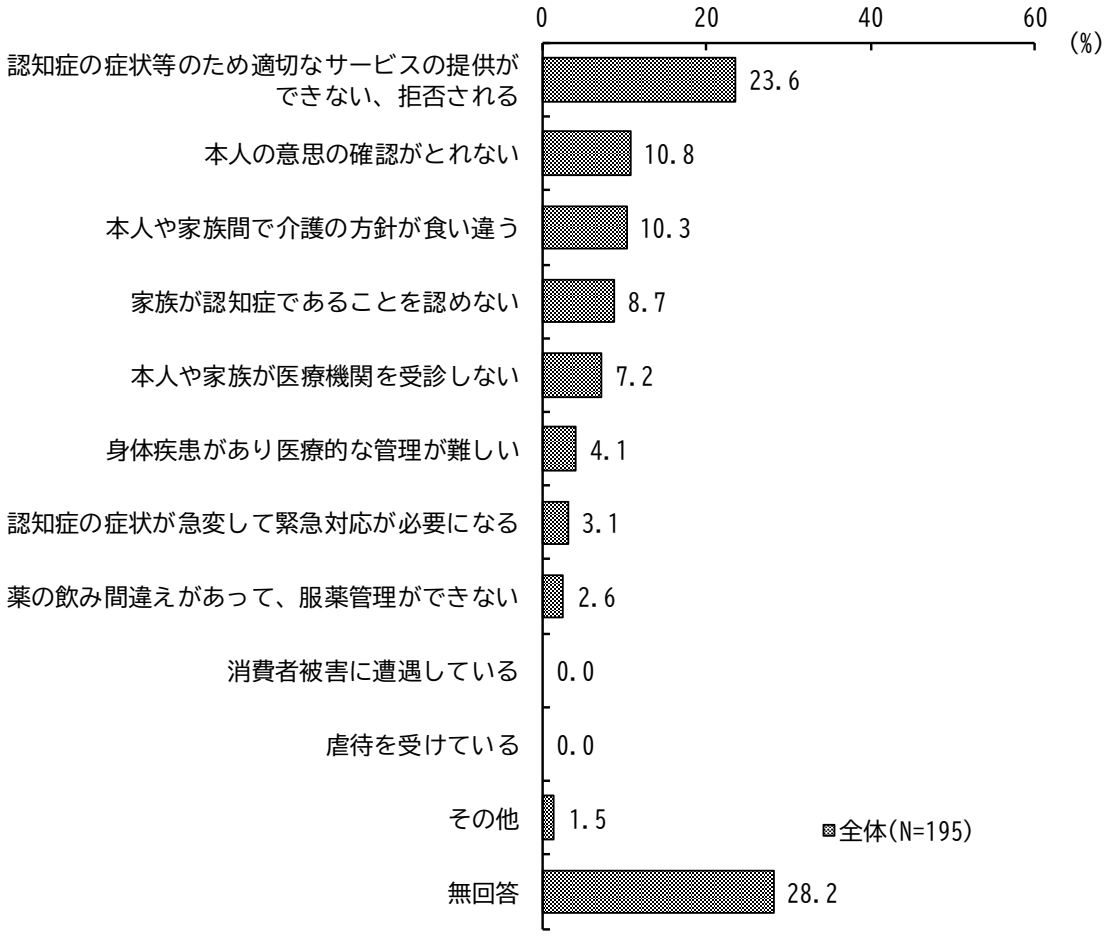
認知症のある利用者の状況については、「本人の意思の確認がとれない」(61.0%)が最も多く、続く「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(53.8%）の２項目が５割以上の回答となっている。

図表　認知症のある利用者の状況で実際にあること（全体：複数回答）



認知症のある利用者の状況で最も大変なことは、「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」（23.6%）で最も多く、続く「本人の意思の確認がとれない」（10.8%）以下を大きく引きはなしている。

図表　認知症のある利用者の状況で最も大変なこと（全体）

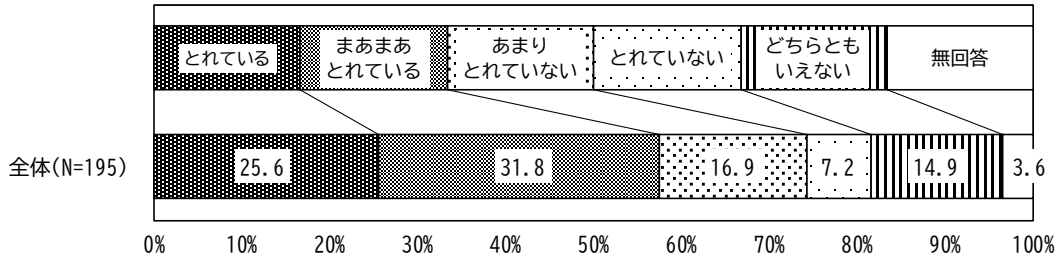


問 20　貴事業所では、認知症のある利用者の支援にあたっては、かかりつけ医との連携はとれていると思いますか。（１つに○）

「まあまあとれている」（31.8%）が最も多く、続く「とれている」（25.6%）と合わせると６割弱が『とれている』との回答である。

提供サービス別にみると、『「とれている」と「まあまあとれている」』の合計割合が高いのは「特定施設入居者生活介護」、「認知症対応型共同生活介護」（同率で 100.0%）、「訪問看護」（86.9%）の順となっている。一方、『とれている』の割合が低いのは、「福祉用具」（9.1%）、「地域密着型通所介護」（21.4%）、「通所介護」（33.4%）の順となっている。

図表　認知症のある利用者の支援にあたってのかかりつけ医との連携（全体）



図表　認知症のある利用者の支援にあたってのかかりつけ医との連携
（全体、提供サービス別）

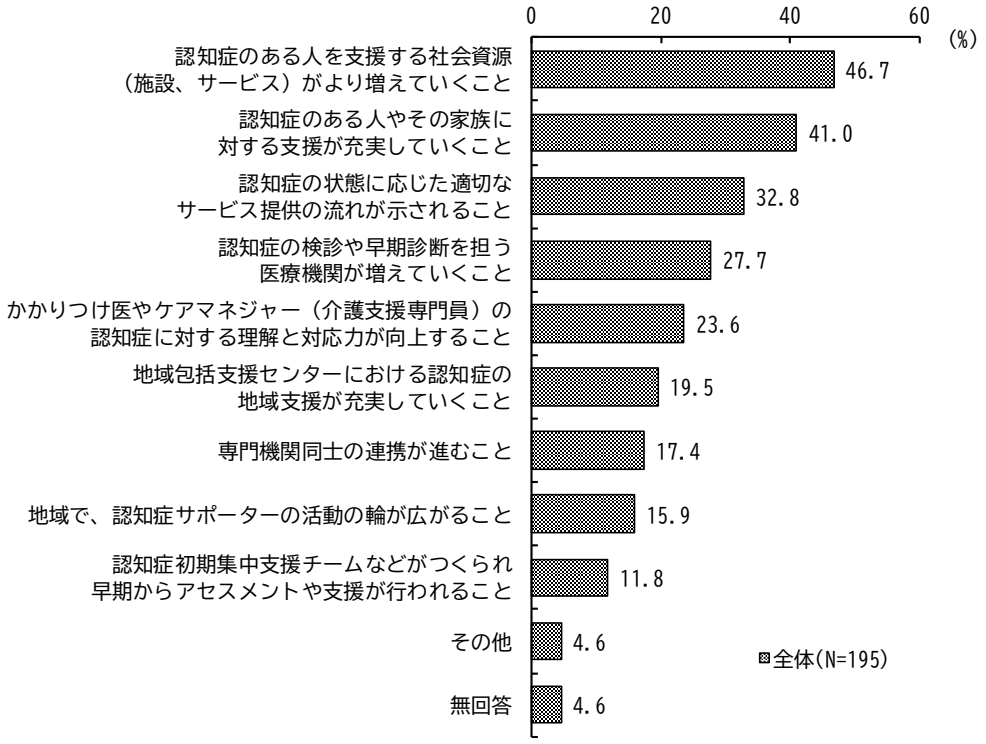
(%)

			とれている	まあまあとれている	あまりとれていない	とれていない	どちらともいえない	無回答
全体		(N=195)	25.6	31.8	16.9	7.2	14.9	3.6
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	25.7	25.7	17.1	5.7	22.9	2.9
	訪問看護	(n= 23)	65.2	21.7	4.3	0.0	4.3	4.3
	通所介護	(n= 21)	4.8	28.6	23.8	19.0	14.3	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	0.0	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	0.0	9.1	36.4	27.3	27.3	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	7.1	14.3	42.9	28.6	7.1	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	13.8	55.2	10.3	0.0	20.7	0.0

問 21　今後、認知症のある利用者の支援にあたり、必要になることは次のどれですか。
（３つまでに○）

「認知症のある人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」（46.7%）が最も多く、次いで「認知症のある人やその家族に対する支援が充実していくこと」（41.0%）、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」（32.8%）が続いている。

図表　認知症のある利用者の支援に必要なこと（全体：複数回答）



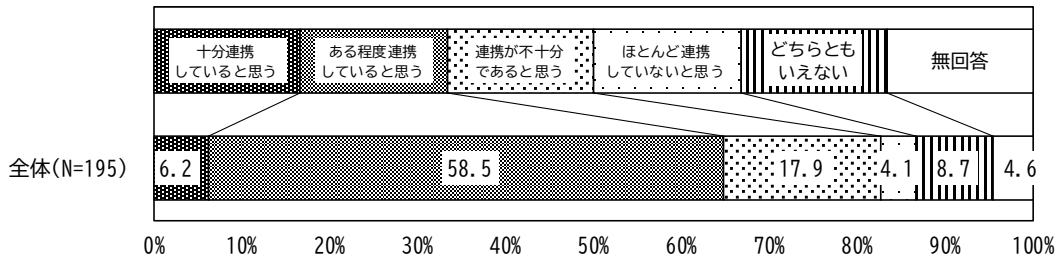
（６）医療と介護の連携状況

問 22　府中市民の在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況についてどのように思いますか。（１つに○）

府中市民の在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況については、「ある程度連携していると思う」（58.5%）が最も多く、「十分連携していると思う」（6.2%）と合わせると、64.7%が『連携している』との回答となっている。「連携が不十分であると思う」（17.9%）は２割弱となっている。

提供サービス別にみると、『連携している』の割合が高いのは「福祉用具」（100.0%）、「認知症対応型共同生活介護」（83.3%）、「訪問看護」（82.6%）の順となっている。一方、『連携している』の割合が低いのは、「地域密着型通所介護」（35.7%）、「短期入所生活介護」（42.9%）、「通所介護」（52.4%）となっている。

図表　市内の在宅療養者への医療と介護の連携の状況（全体）



図表　市内の在宅療養者への医療と介護の連携の状況（全体、提供サービス別）

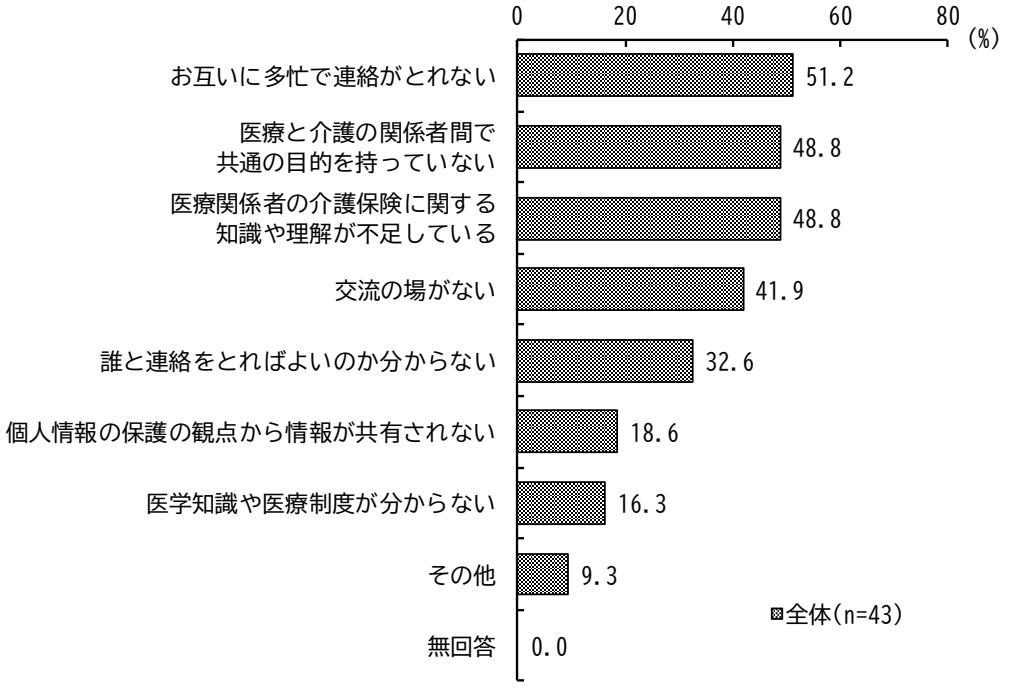
(%)

			十分連携していると思う	ある程度連携していると思う	連携が不十分であると思う	ほとんど連携していないと思う	どちらともいえない	無回答
全体		(N=195)	6.2	58.5	17.9	4.1	8.7	4.6
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	5.7	57.1	20.0	0.0	14.3	2.9
	訪問看護	(n= 23)	13.0	69.6	13.0	0.0	0.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	0.0	52.4	23.8	9.5	4.8	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	9.1	63.6	18.2	0.0	9.1	0.0
	福祉用具	(n= 11)	18.2	81.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	0.0	35.7	14.3	28.6	14.3	7.1
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	6.9	62.1	24.1	0.0	6.9	0.0

問 22-１　問 22 で「連携が不十分であると思う」又は「ほとんど連携していないと思う」とお答えの事業所におたずねします
そのように考える理由は何ですか。（いくつでも○）

「お互いに多忙で連絡がとれない」（51.2%）が最も多く、次いで「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」、「医療関係者の介護保険に関する知識や理解が不足している」（ともに 48.8%）が続いている。

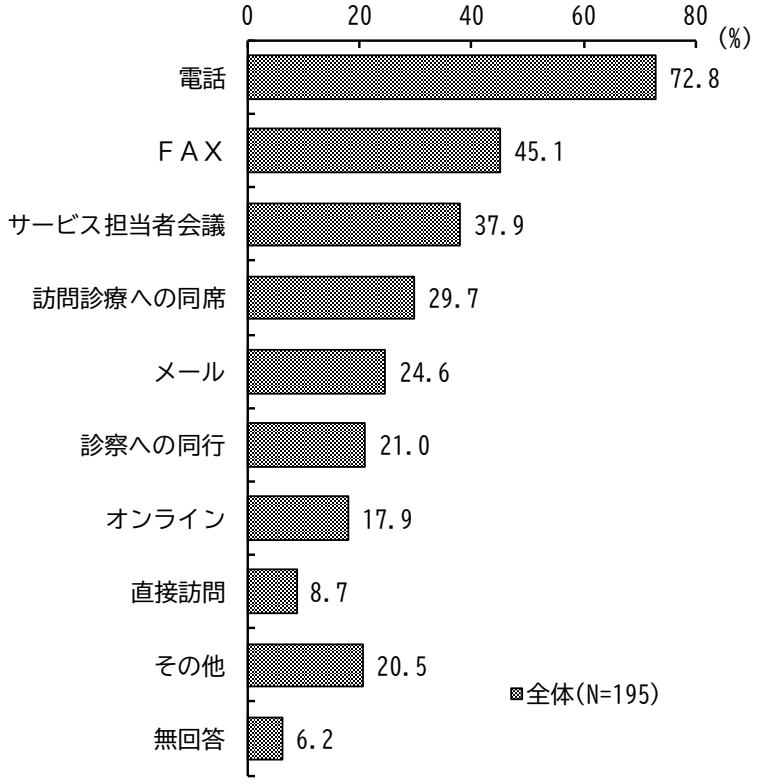
図表　連携が不十分だと考える理由
（連携が不十分であると回答した事業所：複数回答）



問 23　医療機関やかかりつけ医と通常どのような方法で情報を交換していますか。（いくつでも○）

「電話」（72.8%）が最も多く、次いで「ＦＡＸ」（45.1%）、「サービス担当者会議」（37.9%）が続いている。

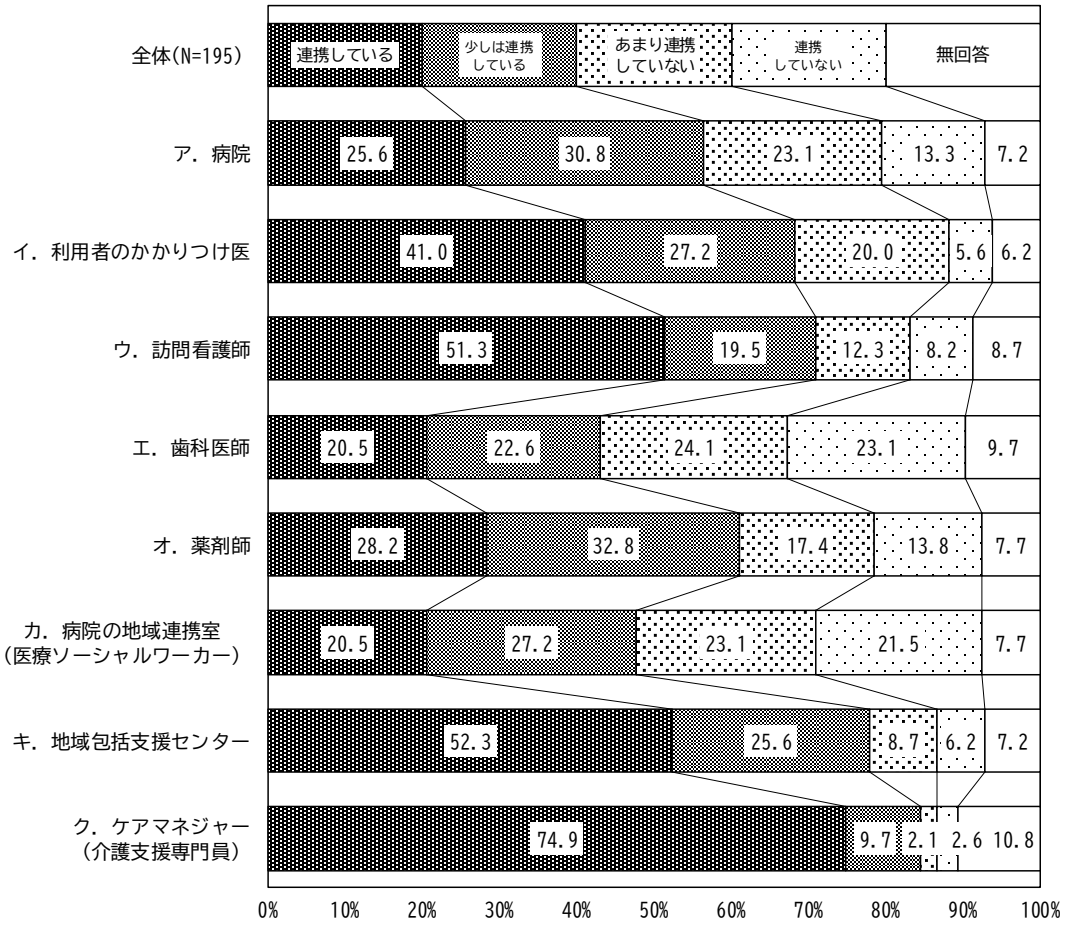
図表　医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法（全体：複数回答）



問 24　貴事業所のサービス利用者について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。（ア～クのそれぞれに１つずつ○）

「連携している」が最も多いのは「ケアマネジャー」（74.9%）で、次いで「地域包括支援センター」（52.3%）、「訪問看護師」（51.3%）の順に多くなっている。

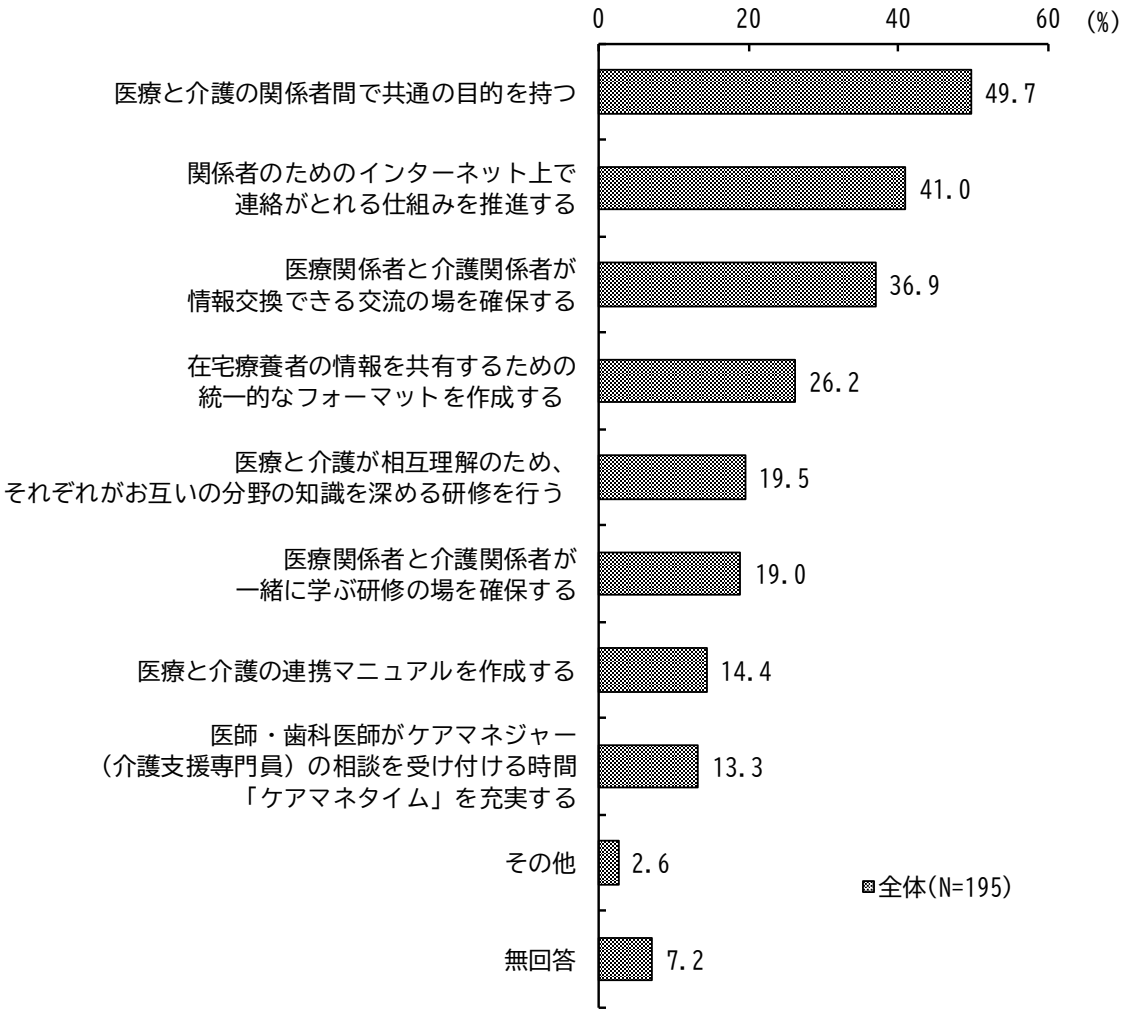
図表　関係機関、職種との連携（全体）



問 25　貴事業所では、医療と介護の連携を図るためにどのようなことが必要だとお考えですか。（３つまでに○）

「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」（49.7%）が最も多く、次いで「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」（41.0%）、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（36.9%）が続いている。

図表　医療と介護の連携を図るために必要なこと（全体：複数回答）



提供サービス別に回答の多い項目をみると、「認知症対応型共同生活介護」の「医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う」（83.3%）が最も多く、「特定施設入居者生活介護」の「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」（81.8%）、「短期入所生活介護」の「医療と介護の連携マニュアルを作成する」（71.4%）が続いている。

図表　医療と介護の連携を図るために必要なこと（全体、提供サービス別）

（%）

			医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ	医療と介護の連携マニュアルを作成する	医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う	医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する	医師・歯科医師がケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する	医療関係者と介護関係者が一緒に学ぶ研修の場を確保する	在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する	関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する	その他	無回答
全体		(N=195)	49.7	41.0	36.9	26.2	19.5	19.0	14.4	13.3	2.6	7.2
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	51.4	42.9	25.7	42.9	11.4	17.1	25.7	22.9	2.9	5.7
	訪問看護	(n= 23)	65.2	43.5	39.1	30.4	21.7	13.0	4.3	4.3	0.0	4.3
	通所介護	(n= 21)	42.9	38.1	28.6	28.6	28.6	4.8	14.3	19.0	0.0	14.3
	短期入所生活介護	(n= 7)	42.9	71.4	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	81.8	18.2	45.5	9.1	9.1	27.3	36.4	9.1	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	63.6	36.4	27.3	36.4	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1
	介護老人福祉施設	(n= 5)	40.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	28.6	42.9	57.1	28.6	21.4	7.1	14.3	14.3	0.0	14.3
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	66.7	0.0	83.3	0.0	16.7	66.7	33.3	0.0	16.7	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	41.4	51.7	37.9	24.1	27.6	31.0	6.9	24.1	3.4	3.4

問 26　貴事業所では、医療と介護の連携で、どんなことに苦労していますか。具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、120 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
連絡、コミュニケーションが取りづらい	35 件
医師や病院で連携が異なる、医療と介護が対等でないと感じる	17 件
現状で問題ない	11 件
医療側の介護保険に関する理解が乏しい	8件
ケアマネを通しての連携では不十分	7件
夜間の救急搬送、急変時の依頼や相談に不安	5件
医療機関との連携の仕方、連携のメリットがわからない	4件
利用者が複数医療機関と関わりがある場合の調整が難しい	4件
利用者の病識の理解不足や医療側との連携を拒んでいる	3件
各サービスが独立している、関わる機会がない	3件
訪問診療と契約がない場合は連携が難しい	3件
医師と利用者の認識、意見が合っていない	3件
ケアマネタイムの明確化	1件
医療ケアが必要な人は対象外	1件
事業所によって連絡手段や連携に差がある	1件
入浴サービス利用時の判断基準の確認	1件
土曜日や祝日に相談ができない	1件
利用者の震えが止まらず往診を依頼したが断られたケースあり	1件
仲介者の存在	1件
医療専門知識などの情報を報告連絡し連携を図ること	1件
特になし	9件

問 27　貴事業所では、医療機関（病院（地域連携室）、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション）にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、470 件（病院（地域連携室）：106 件、診療所：94 件、歯科診療所：87 件、薬局：90 件、訪問看護ステーション：92 件）の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【病院（地域連携室）：106 件】

内容	件数
スムーズな入退院、入退院時等の情報共有、カンファレンスの充実	33 件
連携ネットワークの充実、スピーディーな連携	12 件
入浴時、運動時に気をつけること、生活上での注意事項を共有して欲しい	11 件
介護サービス、在宅生活についての理解促進	7件
関係性の向上	4件
救急搬送の受け入れ	4件
在宅へ戻れない方は回復期の病院に紹介して欲しい	4件
本人、家族が理解しやすい適切な医療指導	3件
ICT など利用促進	3件
院内間での共通認識	2件
地域のネットワークの中心	2件
利用者の紹介	2件
専門職へのヒアリングをしっかり行って欲しい	1件
加算取得に向けた対応	1件
現状で相談できており問題ない	1件
施設、病院合同研修会	1件
介護事業所の情報公表	1件
夜間帯の吸引について契約できる外部医療機関	1件
身寄りのない方の受け入れ	1件
特になし	12 件

【診療所：94 件】

内容	件数
情報提供、情報共有による連携強化	43 件
介護サービス、在宅生活についての理解促進	7件
ICT など利用促進	7件
関係性の向上	6件
利用者の医療窓口、医療拠点	2件
利用者の紹介	2件
夜間帯の吸引について契約できる外部医療機関	1件
医療と介護の役割の明確化	1件
現状の連携で満足	1件
速やかな受診	1件
特になし	23 件

【歯科診療所：87 件】

内容	件数
情報提供、情報共有による連携強化	22 件
専門的な助言、相談など	15 件
ICT など利用促進	3件
関係性の向上	2件
現状の連携で満足	2件
歯科とつながるきっかけやツールが欲しい	2件
介護サービス等の理解促進	2件
通院困難な場合の相談、支援	2件
MSW による仲介	1件
利用者の紹介	1件
速やかな受診	1件
特になし	34 件

【薬局：90 件】

内容	件数
情報提供、情報共有による連携強化	20 件
専門的な助言、相談など	12 件
タイムリーな配薬、適切な薬剤管理	7件
ICT など利用促進	4件
介護サービスの理解促進、サービス利用時の関与	4件
現状の連携で満足	3件
急な薬の変更対応	2件
配薬時の利用者観察	2件
直接かかわりがない、よく分からない	2件
関係性の向上	1件
臨時薬のセット	1件
利用者への分かりやすい説明	1件
主治医との仲介役	1件
日付を入れてほしい	1件
利用者の紹介	1件
対応に差がある	1件
特になし	27 件

【訪問看護ステーション：92 件】

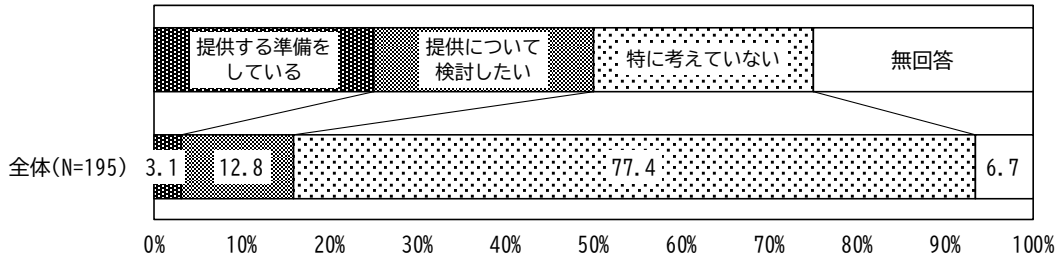
内容	件数
情報提供、情報共有による連携強化	40 件
専門的な助言、相談など	7件
現状の連携で満足	6件
ICT など利用促進	4件
介護サービスの理解促進、サービス利用時の関与	3件
関係性の向上	2件
役割分担をして報告過多にならないように	1件
病院と利用者の橋渡し	1件
本人、家族が理解しやすい適切な医療指導	1件
利用者の紹介	1件
対応に差がある	1件
夜間帯の吸引について契約できる外部医療機関	1件
特になし	24 件

（7）共生型サービス

問 28　介護保険法における高齢者や障害のある人がともに利用できる「共生型サービス」の提供について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1つに○）

「特に考えていない」（77.4%）が最も多く、続く「提供について検討したい」（12.8%）を大きく上回っている。

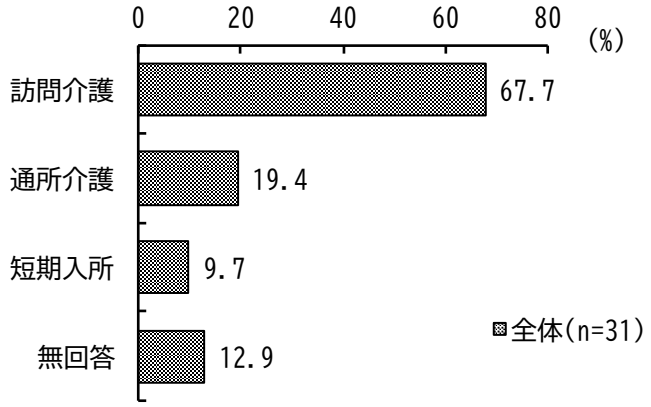
図表　共生型サービスへの参入意向（全体）



問 28-1　問 28 で「提供する準備をしている」又は「提供について検討したい」とお答えの事業所におたずねします
準備又は検討している共生型サービスの種類は何ですか。（いくつでも○）

「訪問介護」が 67.7%、「通所介護」が 19.4%、「短期入所」が 9.7%となっている。

図表　準備又は検討している共生型サービスの種類
（共生型サービスの提供を準備・検討している事業所：複数回答）



問 28-2　問 28 で「提供する準備をしている」又は「提供について検討したい」とお答えの事業所におたずねします

共生型サービスを提供するにあたって、課題等があれば、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、10 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

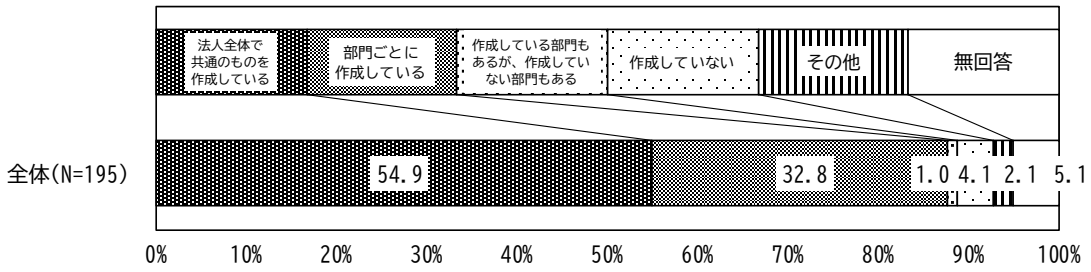
内容	件数
人員配置が負担	２件
障害事業は単価が安く差がある	１件
まだ分からない	１件
判断する資料、時間がない	１件
資金の問題	１件
請求処理が二重になり負担	１件
計画を誰が作って配分をどうするか難しい	１件
特になし	２件

（８）災害時の体制

問 29　災害弱者に対する対策が重要となっていますが、貴法人では、災害時のマニュアルを作成していますか。（１つに○）

「法人全体で共通のものを作成している」（54.9%）が最も多く、次いで「部門ごとに作成している」（32.8%）が続いている。「作成していない」は 4.1%の回答となっている。

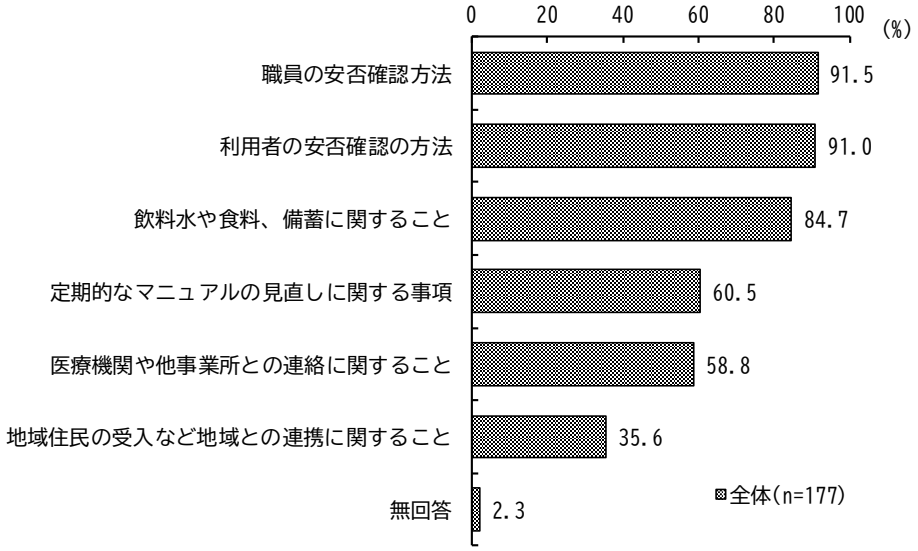
図表　災害時のマニュアルの作成の有無（全体）



問 29-１　問 29 で「法人全体で共通のものを作成している」、「部門ごとに作成している」、「作成している部門もあるが、作成していない部門もある」、「その他」とお答えの事業所におたずねします。
マニュアルに次の内容は含まれていますか。（いくつでも○）

「職員の安否確認方法」（91.5%）と次いで多い「利用者の安否確認の方法」（91.0%）は９割を超え、続く「飲料水や食料、備蓄に関すること」（84.7%）は８割を超えている。

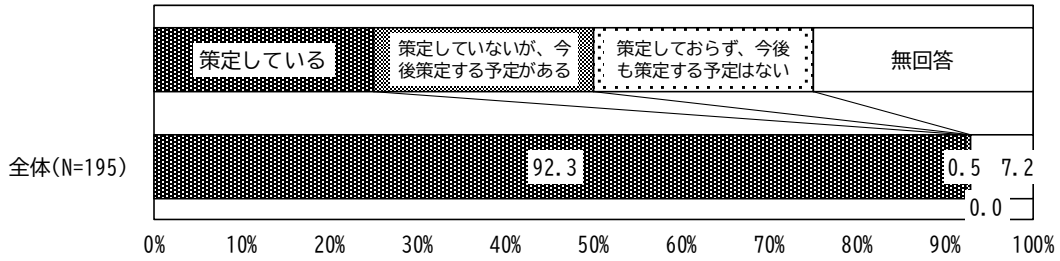
図表　マニュアルの内容
（災害時のマニュアルを作成している事業所：複数回答）



問 30　貴事業所では、ＢＣＰ（災害時の事業継続計画）を策定していますか。（１つに○）

「策定している」（92.3%）が９割を超えている。

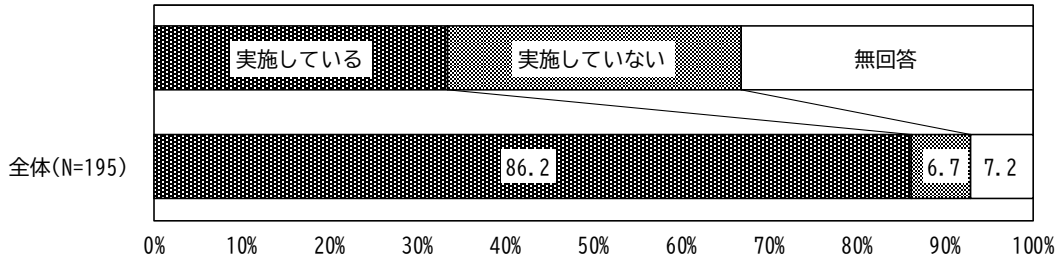
図表　ＢＣＰの策定の有無（全体）



問 31　貴事業所では地震等の災害が発生したときの避難訓練や安否確認の訓練を実施していますか。（１つに○）

「実施している」（86.2%）が９割弱となっており、「実施していない」（6.7%）を大きく上回っている。

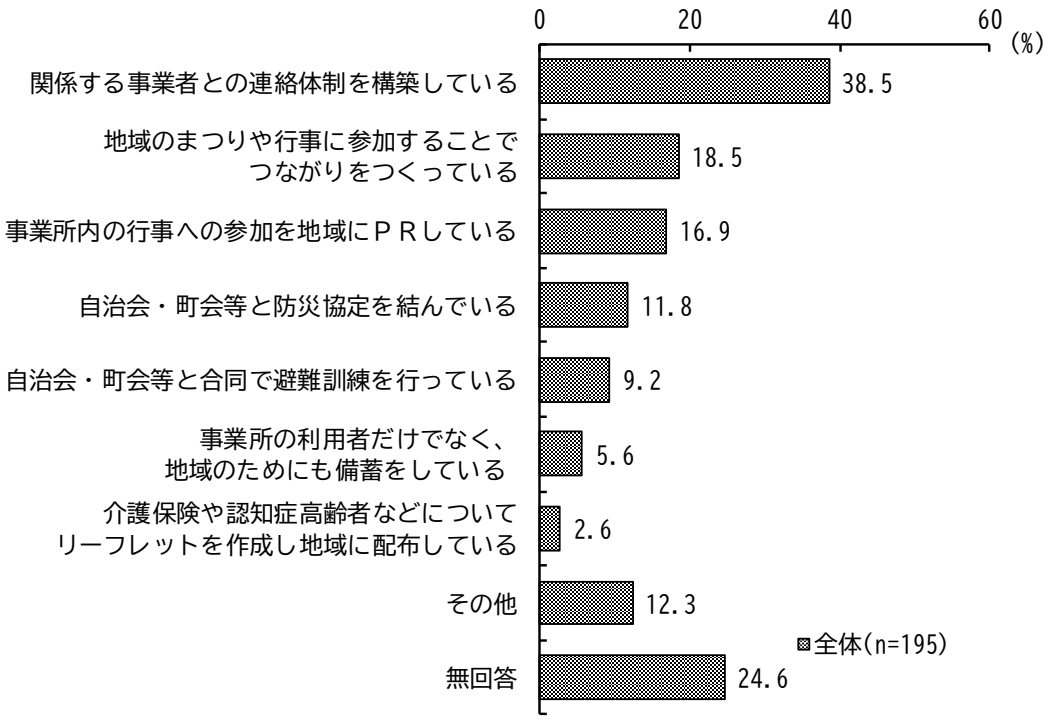
図表　避難訓練や安否確認の訓練の実施（全体）



問 32　貴事業所では、災害時に備えて、どの程度、地域と連携していますか。（いくつでも○）

「関係する事業者との連携体制を構築している」（38.5%）との回答が最も多く、「地域のまつりや行事に参加することでつながりをつくっている」（18.5%）、「事業所内の行事への参加を地域にＰＲしている」（16.9%）が続いている。

図表　災害時に備えた地域との連携の程度（全体：複数回答）



問 33　災害発生時における貴事業所が抱える課題などについてお書きください。
（例：サービス利用者の安否確認が事業所間で共有できない　など）

自由記述形式で聞いたところ、106 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

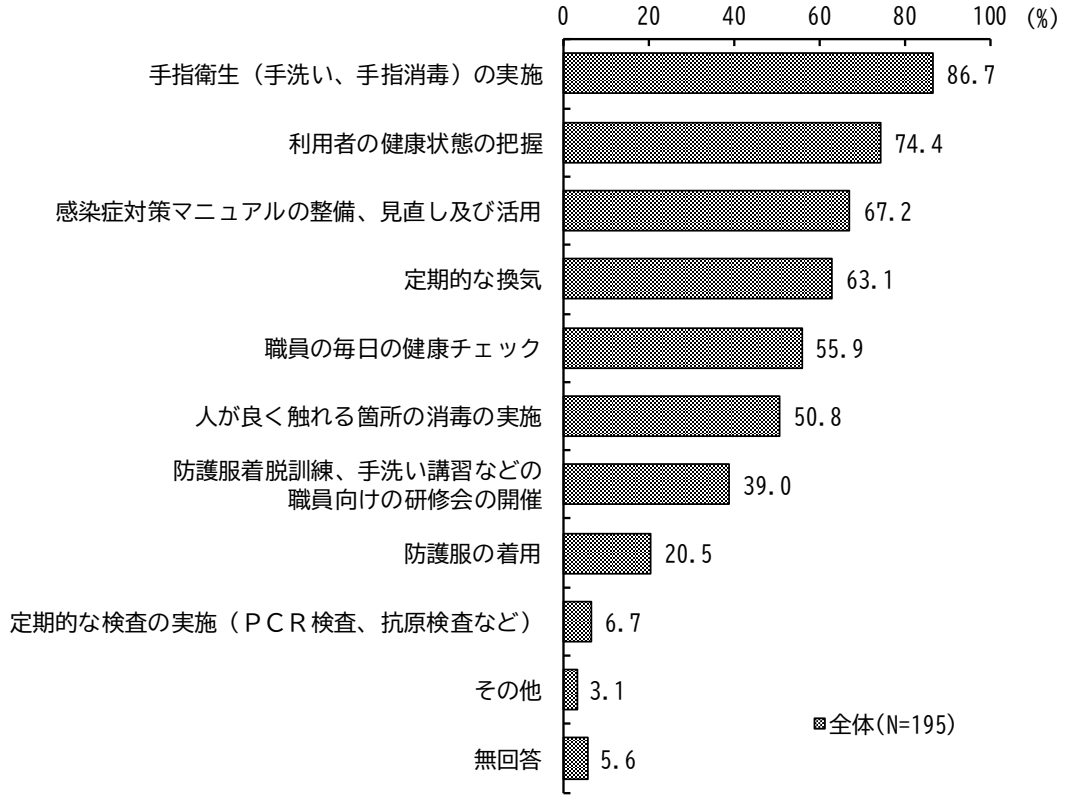
内容	件数
発災時の職員の出勤状況が不安	30 件
安否確認、避難がスムーズに行えるか	30 件
川が近く水害が心配	８件
小規模事業所なのでどのように動けるか不安	６件
サービス提供時間中の被災に対しての動き方	５件
実際に災害時に BCP やマニュアル通りにいかない不安がある	５件
インフラ停止時にサービス提供や連絡が難しい	５件
電源、備蓄が十分でない	３件
これから検討する	２件
地域での連携システムや研修が必要	２件
BCP を居宅・訪問看護共通で作成しているが、共通の利用者だけでないこと	１件
BCP 作成	１件
訓練内容を見直す必要がある	１件
事業所と法人の BCP に違いがある	１件
二方向避難が確保できない	１件
LINE で共有している	１件
一時避難所との連携確認が不十分	１件
各事業所間との役割分担が不十分	１件
特になし	２件

（９）感染症対策

問 34　感染症防止のために貴事業所が取り組んでいることは何ですか。（いくつでも○）
（○の場合には（　）内に必要な文言をご記入ください）

「手指衛生（手洗い、手指消毒）の実施」（86.7%）が最も多く、次いで「利用者の健康状態の把握」（74.4%）、「感染症対策マニュアルの整備、見直し及び活用」（67.2%）が続いている。

図表　感染症防止のために取り組んでいること（全体：複数回答）

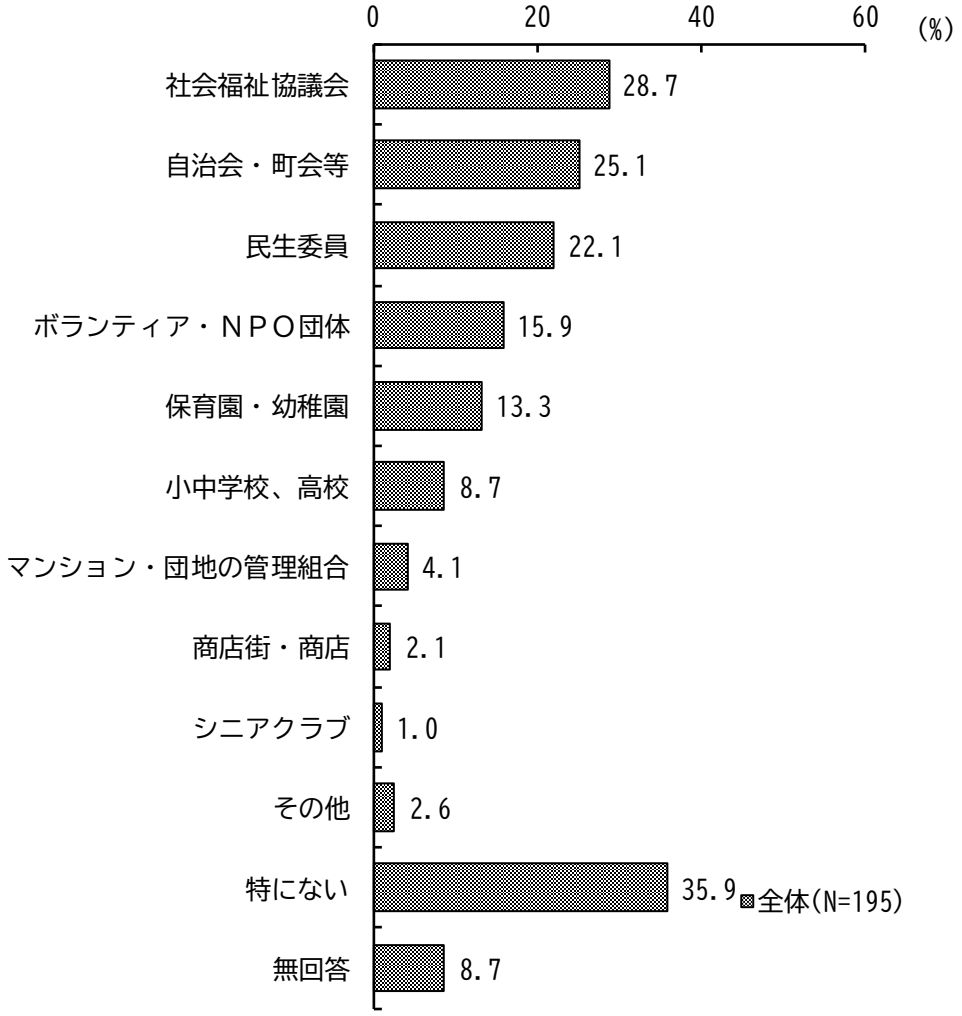


（10）地域との関わり

問 35　貴事業所では、以下のような地域の各団体や組織との関わりはありますか。
（いくつでも○）

「社会福祉協議会」（28.7%）が最も多く、次いで「自治会・町会等」（25.1%）、「民生委員」（22.1%）の順となっている。

図表　地域団体や組織との関わり（全体：複数回答）



提供サービス別にみると、「短期入所生活介護」は「民生委員」（71.4%）、「社会福祉協議会」、「自治会・町会等」、「ボランティア・NPO 団体」（同率 57.1%）と４つの地域の団体や組織が 50%を超える回答となっている。また、「介護老人福祉施設」は「自治会・町会等」（100.0%）、「社会福祉協議会」、「ボランティア・NPO 団体」（同率 60.0%）が挙げられている。

図表　地域団体や組織との関わり（全体、提供サービス別）

(%)

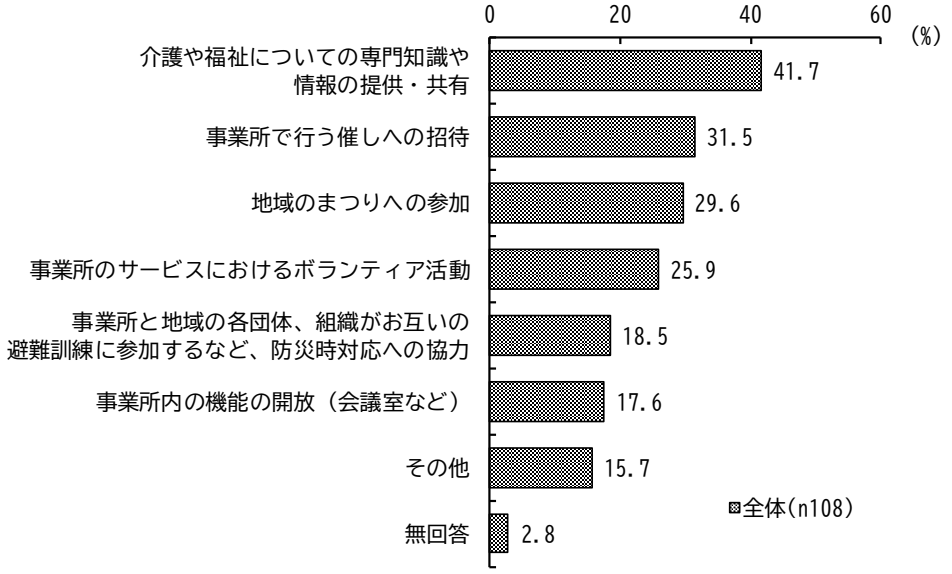
			社会福祉協議会	自治会・町会等	民生委員	ボランティア・NPO団体	保育園・幼稚園	小中学校、高校
全体		(N=195)	28.7	25.1	22.1	15.9	13.3	8.7
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	20.0	20.0	8.6	5.7	5.7	0.0
	訪問看護	(n= 23)	13.0	8.7	4.3	4.3	4.3	0.0
	通所介護	(n= 21)	28.6	14.3	14.3	38.1	23.8	28.6
	短期入所生活介護	(n= 7)	57.1	57.1	71.4	57.1	28.6	28.6
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	27.3	63.6	18.2	27.3	18.2	9.1
	福祉用具	(n= 11)	36.4	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	(n= 5)	60.0	100.0	40.0	60.0	20.0	20.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	35.7	35.7	71.4	7.1	7.1	7.1
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	16.7	33.3	50.0	16.7	33.3	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	34.5	13.8	13.8	3.4	3.4	0.0

			マンションの管理組合・団地	商店街・商店	シニアクラブ	その他	特にない	無回答
全体		(N=195)	4.1	2.1	1.0	2.6	35.9	8.7
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	2.9	0.0	0.0	0.0	54.3	8.6
	訪問看護	(n= 23)	8.7	4.3	0.0	13.0	52.2	8.7
	通所介護	(n= 21)	0.0	4.8	0.0	0.0	23.8	19.0
	短期入所生活介護	(n= 7)	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
	福祉用具	(n= 11)	0.0	9.1	0.0	9.1	45.5	18.2
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	6.9	3.4	0.0	0.0	51.7	3.4

問 35-１　問 35 で「特にない」以外をお答えの事業所におたずねします　どのような関わりがありますか。（いくつでも○）

「介護や福祉についての専門知識や情報の提供・共有」（41.7%）が最も多く、次いで「事業所で行う催しへの招待」（31.5%）、「地域のまつりへの参加」（29.6%）の順に続いている。

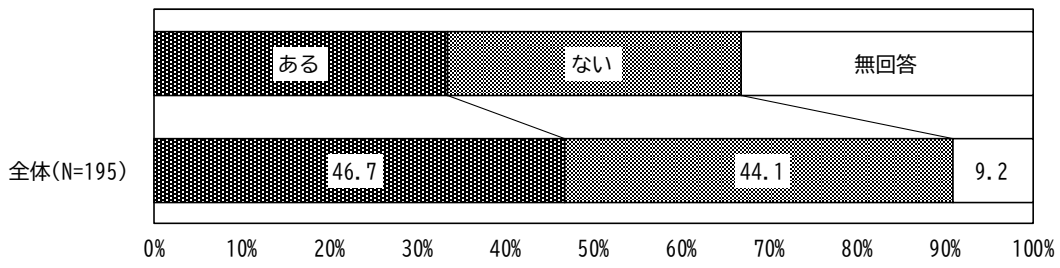
図表　関わりの内容
（地域の各団体や組織と関わりがある事業所：複数回答）



問 36　貴事業所では、地域包括支援センターが実施する地域ケア会議（地域支援連絡会）に参加したことはありますか。（１つに○）

「ある」（46.7%）が「ない」（44.1%）をわずかに上回っている。

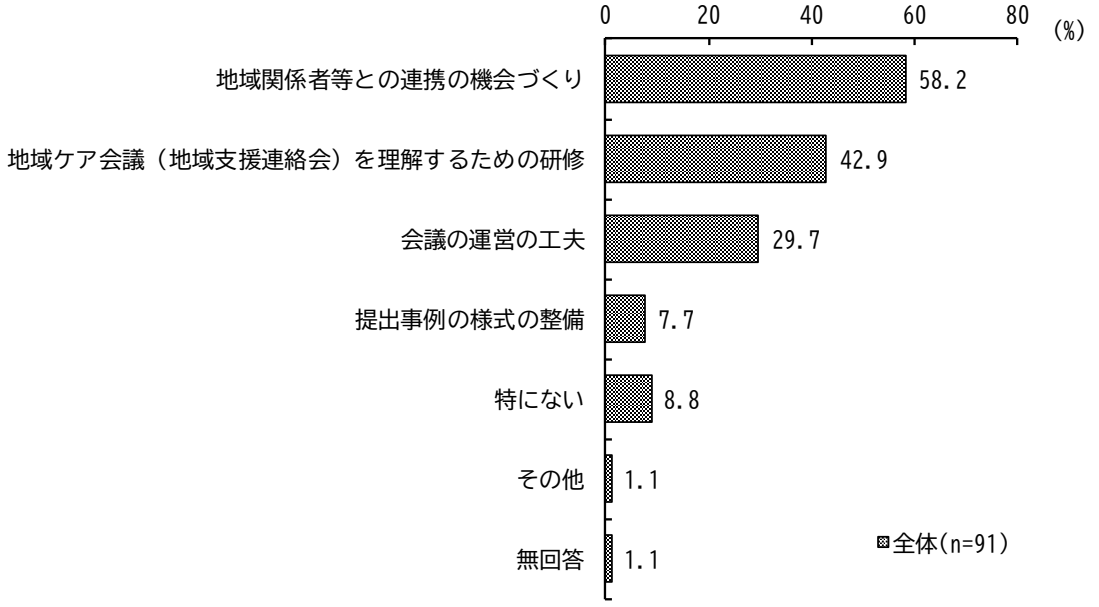
図表　地域ケア会議への出席の有無（全体）



問 36-１　問 36 で「ある」とお答えの事業所におたずねします
地域ケア会議（地域支援連絡会）を活発にするために必要と思われることは何ですか。
（２つまでに○）

「地域関係者との連携の機会づくり」（58.2%）が最も多く、次いで「地域ケア会議（地域支援連絡会）を理解するための研修」（42.9%）、「会議の運営の工夫」（29.7%）の順に続いている。

図表　地域ケア会議を活発にするために必要なこと
（地域ケア会議に出席している事業所：複数回答）



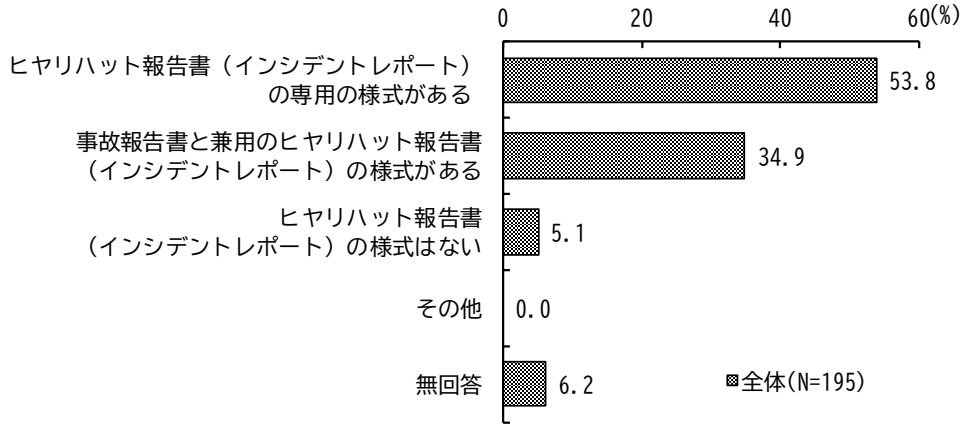
（11）事故やトラブルの対応策

問 37　貴事業所には、ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の決まった様式がありますか。（１つに○）

「ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の専用様式がある」（53.8%）が最も多く、「事故報告書と兼用のヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の様式がある」（34.9%）が続いている。

提供サービス別にみると、「訪問介護」、「訪問看護」、「通所介護」、「地域密着型通所介護」、「認知症対応型共同生活介護」で「ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の専用様式がある」が 50%を超えている。

図表　ヒヤリハット報告書の様式の有無（全体）



図表　ヒヤリハット報告書の様式の有無（全体、提供サービス別）

(%)

			ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の専用の様式がある	事故報告書と兼用のヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の様式がある	ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の様式はない	その他	無回答
全体		(N=195)	53.8	34.9	5.1	0.0	6.2
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	57.1	37.1	2.9	0.0	2.9
	訪問看護	(n= 23)	65.2	26.1	0.0	0.0	8.7
	通所介護	(n= 21)	57.1	23.8	4.8	0.0	14.3
	短期入所生活介護	(n= 7)	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0
	福祉用具	(n= 11)	27.3	54.5	9.1	0.0	9.1
	介護老人福祉施設	(n= 5)	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	78.6	21.4	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	48.3	31.0	17.2	0.0	3.4

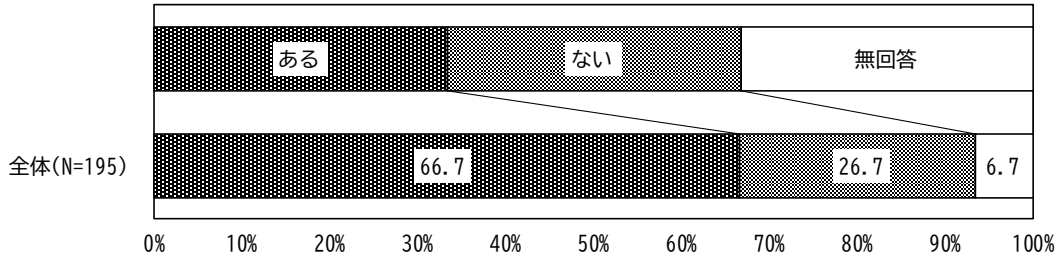
問 38　貴事業所には、ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）の報告基準や報告手順のマニュアルはありますか。（１つに○）

「ある」（66.7%）がおよそ３分の２となっており、「ない」（26.7%）を 40 ポイント上回っている。

提供サービス別にみると、「居宅介護支援事業所」を除くサービスで「ある」が「ない」を上回っている。とりわけ「ある」の割合が高いのは「認知症対応型共同生活介護」（100.0%）、「特定施設入居者生活介護」（81.8%）、「介護老人福祉施設」（80.0%）が８割を超えている。

一方、「ない」が最も多いのは、「居宅介護支援事業所」（55.2%）で、「福祉用具」（36.4%）、「訪問介護」（31.4%）が続いている。

図表　ヒヤリハットの報告基準や報告手順のマニュアルの有無（全体）



図表　ヒヤリハットの報告基準や報告手順のマニュアルの有無
（全体、提供サービス別）

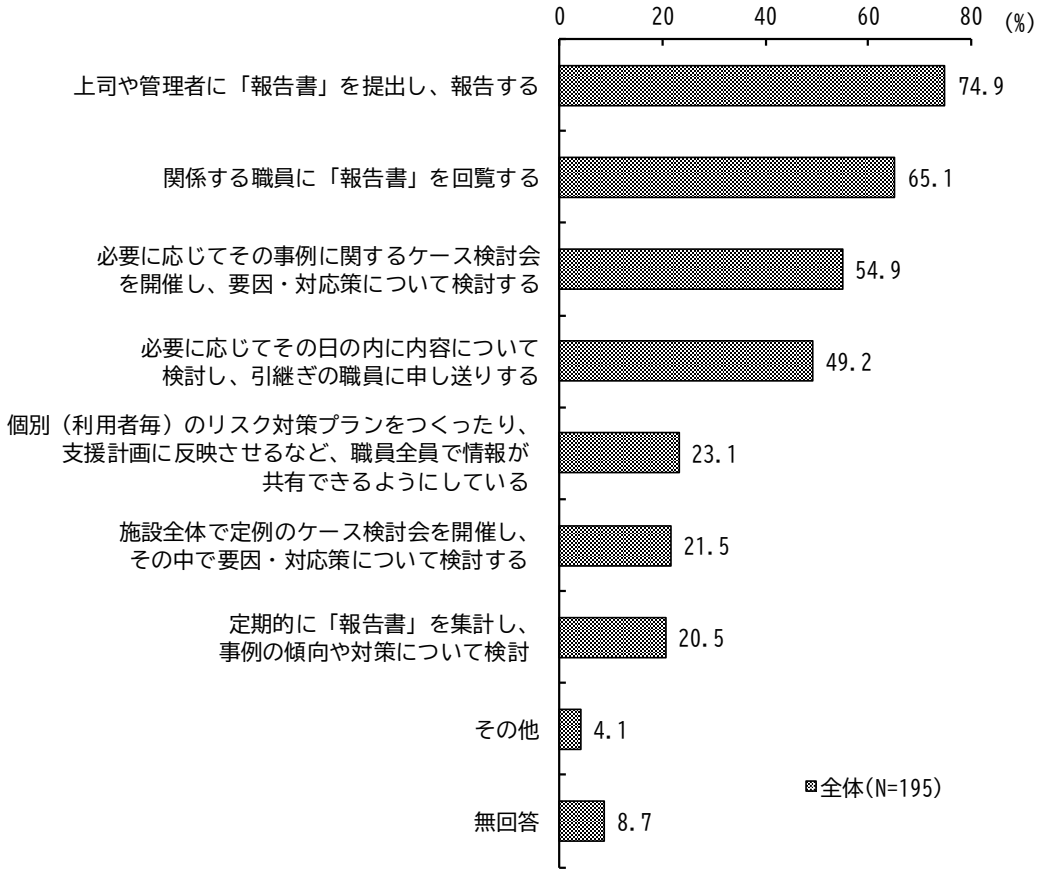
（%）

			ある	ない	無回答
全体		(N=195)	66.7	26.7	6.7
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	62.9	31.4	5.7
	訪問看護	(n= 23)	73.9	17.4	8.7
	通所介護	(n= 21)	71.4	14.3	14.3
	短期入所生活介護	(n= 7)	57.1	28.6	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	81.8	18.2	0.0
	福祉用具	(n= 11)	54.5	36.4	9.1
	介護老人福祉施設	(n= 5)	80.0	20.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	71.4	28.6	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	100.0	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	41.4	55.2	3.4

問 39　報告のあがった「ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）」をどのように活用していますか。（いくつでも○）

「上司や管理者に「報告書」を提出し、報告する」（74.9%）が最も多く、次いで「関係する職員に「報告書」を回覧する」（65.1%）、「必要に応じてその事例に関するケース検討会を開催し、要因・対応策について検討する」（54.9%）が続いている。

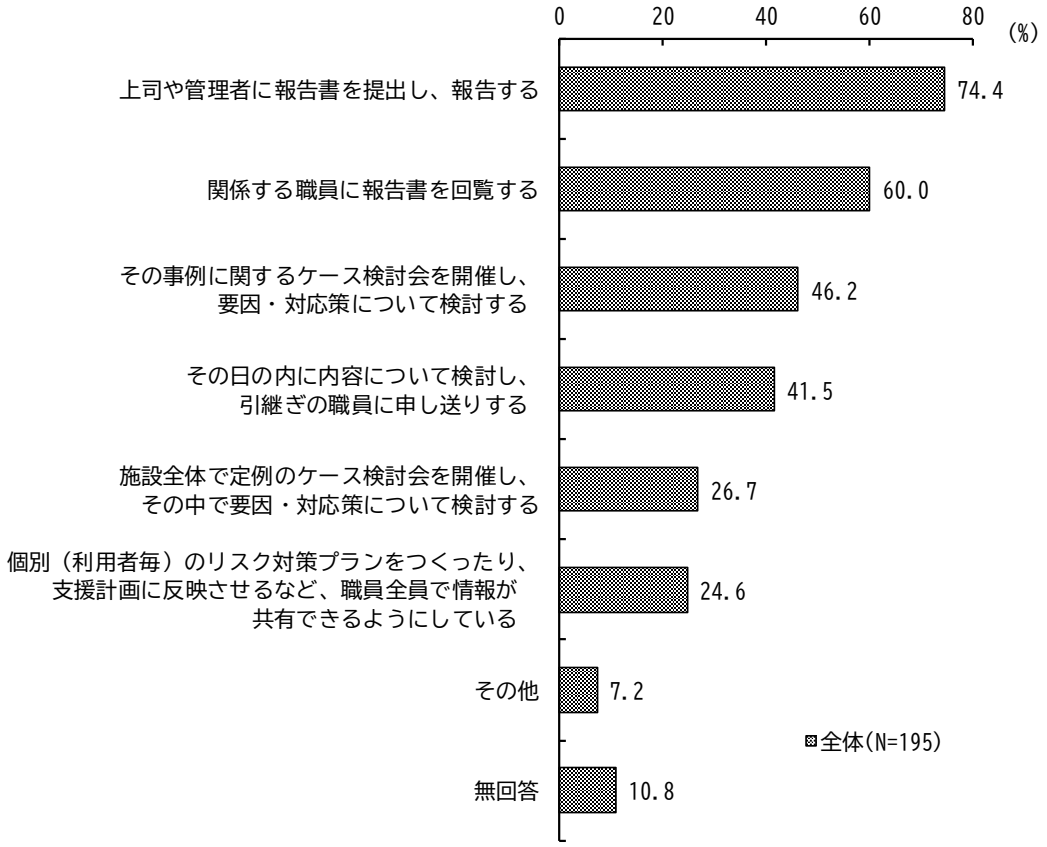
図表　ヒヤリハット報告書の活用
（全体：複数回答）



問 40　行政報告をした事故に関して、事業所内での情報共有や再発防止の取組をどのように行っていますか。（いくつでも○）

「上司や管理者に報告書を提出し、報告する」（74.4%）が最も多く、次いで「関係する職員に報告書を回覧する」（60.0%）、「その事例に関するケース検討会を開催し、要因・対応策について検討する」（46.2%）が続いている。

図表　事故に関する情報共有や再発防止の取組
（全体：複数回答）

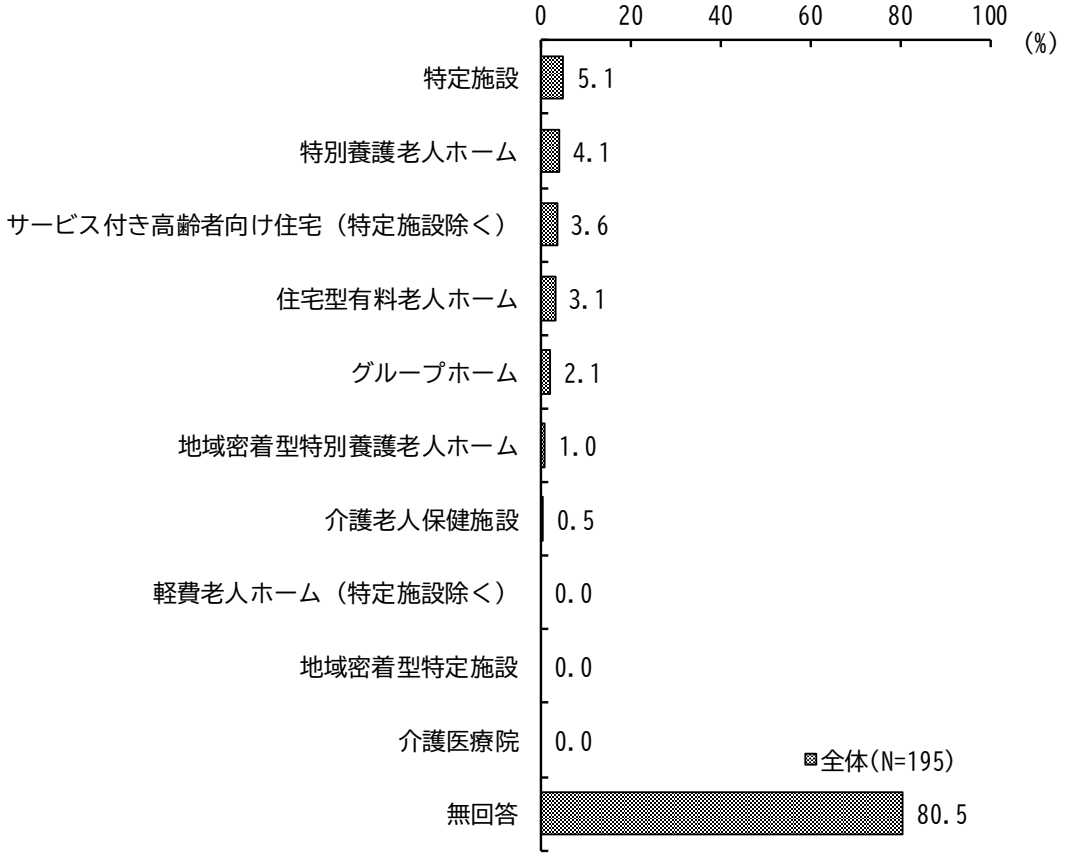


（12）利用者の居所変更の状況

問 41　該当するサービス種別を、ご回答ください。（１つに○）

「特定施設」（5.1%）、「特別養護老人ホーム」（4.1%）、「サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）」（3.6%）、「住宅型有料老人ホーム」（3.1%）、「グループホーム」（2.1%）等から回答を得た。

サービス種別（全体）



問 42　貴施設等の概要について、以下にご記入ください。
問 43　現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。
問 44　過去１年間（令和６年１０月１日～令和７年９月３０日）に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。
問 45　問 44 でご記入いただいた過去１年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。
問 46　過去１年間（令和６年１０月１日～令和７年９月３０日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。
問 47　問 46 でご記入いただいた過去１年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。
問 48　問 46 でご記入いただいた過去１年間の退去者について、退居先別の人数をご記入ください。

問 42 から問 48 は、入所・入居施設の利用状況について、施設種別で実人数の集計を行った。

①住宅型有料老人ホーム

住宅型有料老人ホームは、入居前 374 人のうち「（市内）病院・診療所」が最も多く 297 人である。退去先としては 365 人のうち最も多いのは「死亡」で 262 人である。退去された方の要介護度では「要介護５」が最も多く 71 人、「要介護４」が 65 人と続いている。

図表　住宅型有料老人ホームの居所変更

【入居前】	市内（人）	市外（人）
1）自宅　（※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	37	16
2）住宅型有料老人ホーム	5	6
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	0	0
5）グループホーム	0	0
6）特定施設	0	0
7）地域密着型特定施設	0	0
8）介護老人保健施設	2	0
9）介護医療院	0	0
10）特別養護老人ホーム	0	0
11）地域密着型特別養護老人ホーム	0	0
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	297	11
13）その他	0	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	0	
計	374	

【現在】入居者（人）	229

【退去先】	市内（人）	市外（人）
1）自宅　（※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	4	2
2）住宅型有料老人ホーム	4	2
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	0	0
5）グループホーム	0	0
6）特定施設	0	3
7）地域密着型特定施設	0	0
8）介護老人保健施設	0	0
9）介護医療院	0	0
10）特別養護老人ホーム	10	0
11）地域密着型特別養護老人ホーム	0	2
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	0	0
13）その他	0	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	76	
15）死亡	262	
計	365	

【退去者の状況】（人）	
自立	0
要支援１	0
要支援２	0
要介護１	0
要介護２	6
要介護３	32
要介護４	65
要介護５	71
新規申請中	0

②サービス付き高齢者向け住宅

サービス付き高齢者向け住宅は、入居前 73 人のうち市内の自宅から移った方は 20 人が最も多く、市外の自宅から移った方は 14 人で続いている。退去先としては 73 人のうち「死亡」が最も多く 14 人、「(市内) 特別養護老人ホーム」が 10 人で続いている。退去された方の要介護度では「要介護４」が最も多く 16 人、「要介護１」が９人が続いている。

図表　サービス付き高齢者向け住宅（軽費除）の居所変更

【入居前】	市内（人）	市外（人）
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	20	14
2）住宅型有料老人ホーム	1	1
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	1	1
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	1	3
5）グループホーム	1	1
6）特定施設	1	1
7）地域密着型特定施設	1	1
8）介護老人保健施設	4	1
9）介護医療院	1	1
10）特別養護老人ホーム	1	1
11）地域密着型特別養護老人ホーム	1	1
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	6	4
13）その他	2	1
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	1	
計	73	

【現在】入居者（人）	185

【退去先】	市内	市外
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	4	1
2）住宅型有料老人ホーム	1	1
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	1	1
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	5	3
5）グループホーム	1	1
6）特定施設	2	4
7）地域密着型特定施設	1	1
8）介護老人保健施設	1	1
9）介護医療院	1	1
10）特別養護老人ホーム	10	6
11）地域密着型特別養護老人ホーム	4	1
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	1	1
13）その他	1	1
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	3	
15）死亡	14	
計	73	

【退去者の状況】（人）	
自立	4
要支援１	1
要支援２	1
要介護１	9
要介護２	6
要介護３	8
要介護４	16
要介護５	6
新規申請中	1

③グループホーム

グループホームは、入居前 19 人のうち「(市内) 自宅」から移った方が最も多く 12 人である。退去先としては 10 人のうち「(市内) 地域密着型特別養護老人ホーム」に移った方が５人で最も多くなっている。退去された方の要介護度では「要介護３」「要介護４」が最も多くそれぞれ５人である。

図表　グループホームの居所変更

【入居前】	市内（人）	市外（人）
1）自宅　（※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	12	2
2）住宅型有料老人ホーム	1	0
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	0	0
5）グループホーム	0	0
6）特定施設	0	0
7）地域密着型特定施設	2	0
8）介護老人保健施設	0	1
9）介護医療院	0	0
10）特別養護老人ホーム	0	0
11）地域密着型特別養護老人ホーム	0	0
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	1	0
13）その他	0	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	0	
計	19	

【現在】入居者（人）	70

【退去先】	市内（人）	市外（人）
1）自宅　（※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	0	0
2）住宅型有料老人ホーム	2	1
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	0	0
5）グループホーム	0	0
6）特定施設	0	0
7）地域密着型特定施設	0	0
8）介護老人保健施設	0	0
9）介護医療院	0	1
10）特別養護老人ホーム	1	0
11）地域密着型特別養護老人ホーム	5	0
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	0	0
13）その他	0	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	0	
15）死亡	0	
計	10	

【退去者の状況】（人）	
自立	0
要支援１	0
要支援２	0
要介護１	1
要介護２	2
要介護３	5
要介護４	5
要介護５	2
新規申請中	0

④特定施設

特定施設は、入居前 194 人のうち「(市内) 自宅」から移った方が最も多く 48 人である。退去先としては 139 人のうち「死亡」が 74 人で最も多く、次いで「(市外) 地域密着型特別養護老人ホーム」に移った方が 10 人で続いている。退去された方の要介護度では「要介護１」が 25 人で最も多く、「要介護４」が 20 人で続いている。

図表　特定施設の居所変更

【入居前】	市内（人）	市外（人）
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	48	42
2）住宅型有料老人ホーム	1	1
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	1	1
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	1
5）グループホーム	1	4
6）特定施設	7	9
7）地域密着型特定施設	1	1
8）介護老人保健施設	4	4
9）介護医療院	1	1
10）特別養護老人ホーム	1	1
11）地域密着型特別養護老人ホーム	1	1
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	20	33
13）その他	4	1
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	2	
計	194	

【現在】入居者（人）	583

【退去先】	市内（人）	市外（人）
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	7	8
2）住宅型有料老人ホーム	0	2
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	4	0
5）グループホーム	3	0
6）特定施設	6	7
7）地域密着型特定施設	0	0
8）介護老人保健施設	1	0
9）介護医療院	2	0
10）特別養護老人ホーム	5	0
11）地域密着型特別養護老人ホーム	8	10
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	0	0
13）その他	1	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	1	
15）死亡	74	
計	139	

【退去者の状況】（人）	
自立	5
要支援１	10
要支援２	5
要介護１	25
要介護２	12
要介護３	19
要介護４	20
要介護５	15
新規申請中	1

⑤特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームは、入居前 239 人のうち「（市内）介護老人保健施設」から移った方が最も多く 64 人である。退去先としては 163 人のうち「死亡」が 119 人で最も多く、次いで「（市内）特別養護老人ホーム」に移った方が 18 人で続いている。退去された方の要介護度では「要介護４」が 51 人で最も多く、「要介護５」が 31 人で続いている。

図表　特別養護老人ホームの居所変更

【入居前】	市内（人）	市外（人）
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	40	9
2）住宅型有料老人ホーム	13	5
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	1	3
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	10	1
5）グループホーム	8	3
6）特定施設	9	1
7）地域密着型特定施設	1	1
8）介護老人保健施設	64	10
9）介護医療院	5	1
10）特別養護老人ホーム	1	3
11）地域密着型特別養護老人ホーム	1	1
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	27	16
13）その他	3	1
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	1	
計	239	

【現在】入居者（人）	528

【退去先】	市内（人）	市外（人）
1）自宅 （※ 兄弟・子ども・親戚等の家含む）	0	0
2）住宅型有料老人ホーム	2	0
3）軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0
4）サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	2
5）グループホーム	0	0
6）特定施設	0	0
7）地域密着型特定施設	0	0
8）介護老人保健施設	0	0
9）介護医療院	4	4
10）特別養護老人ホーム	18	11
11）地域密着型特別養護老人ホーム	1	0
12）病院・診療所（一時的な入院を除く）	0	0
13）その他	0	0
14）入居・入所する前の居場所を把握していない	0	
15）死亡	119	
計	163	

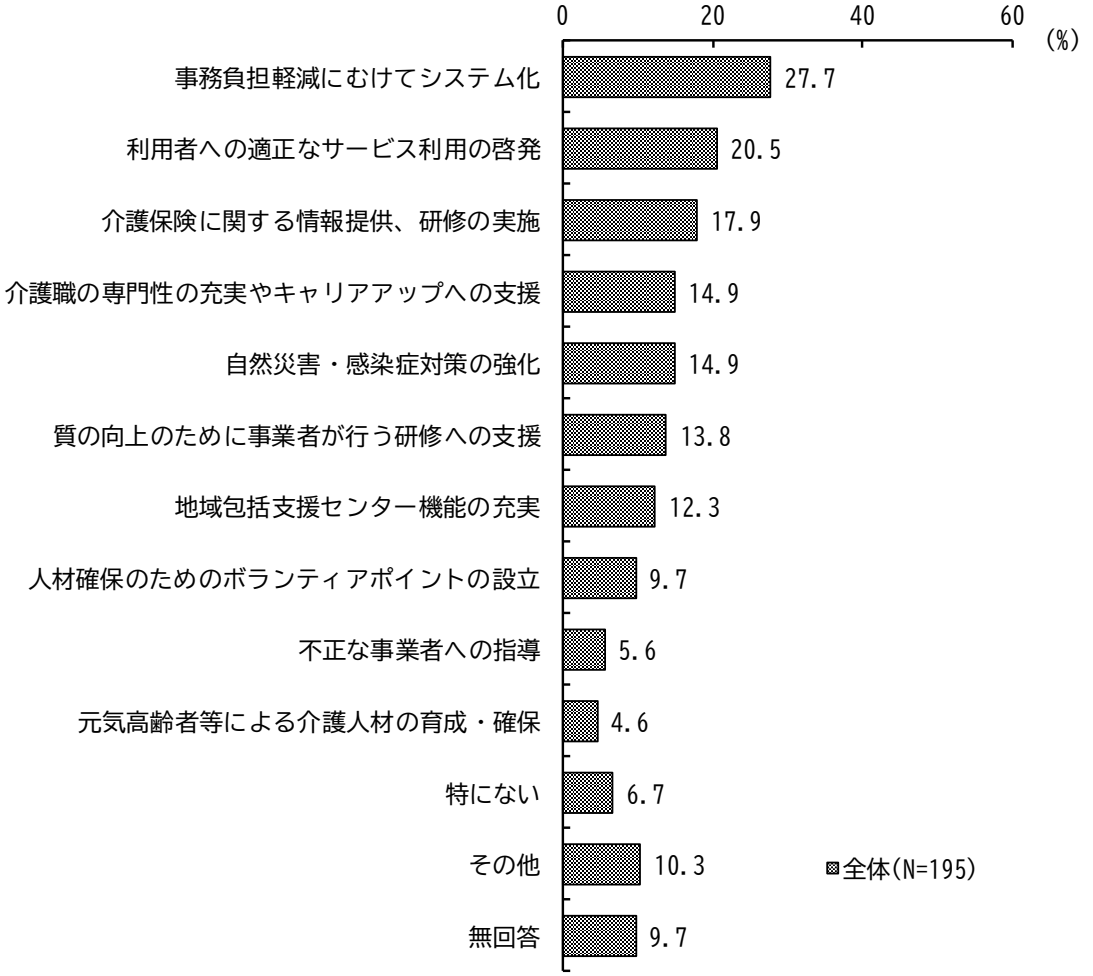
【退去者の状況】（人）	
自立	3
要支援１	3
要支援２	3
要介護１	3
要介護２	8
要介護３	27
要介護４	51
要介護５	31
新規申請中	2

（13）府中市への意向

問 49　今後、保険者としての府中市に対し、事業者として望むことは何ですか。
（２つまでに○）

「事務負担軽減にむけてシステム化」（27.7%）が最も多く、次いで「利用者への適正なサービス利用の啓発」（20.5%）、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（17.9%）の順に続いている。

図表　事業者として市に望むこと（全体：複数回答）



提供サービス別に高い回答の項目をみると、「居宅介護支援事業所」における「事務負担軽減にむけてシステム化」（44.8%）が最も高く、「短期入所生活介護」における「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（42.9%）、「介護老人福祉施設」における「地域包括支援センター機能の充実」（40.0%）が続いている。

図表　事業者として市に望むこと（全体、提供サービス別）

（%）

			事務負担軽減にむけてシステム化	利用者への適正なサービス利用の啓発	介護保険に関する情報提供、研修の実施	介護職の専門性の充実やキャリアアップへの支援	自然災害・感染症対策の強化	質の向上のために事業者が行う研修への支援	地域包括支援センター機能の充実
全体		(N=195)	27.7	20.5	17.9	14.9	14.9	13.8	12.3
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	31.4	28.6	25.7	22.9	22.9	11.4	5.7
	訪問看護	(n= 23)	17.4	17.4	13.0	8.7	34.8	8.7	26.1
	通所介護	(n= 21)	19.0	19.0	4.8	14.3	9.5	9.5	9.5
	短期入所生活介護	(n= 7)	28.6	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	0.0
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	18.2	9.1	27.3	18.2	36.4	9.1	9.1
	福祉用具	(n= 11)	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1	18.2	18.2
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	35.7	28.6	21.4	14.3	0.0	21.4	14.3
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	44.8	27.6	31.0	6.9	3.4	20.7	13.8

			人材確保のためのポイントの設立	不正な事業者への指導	元気高齢者等による介護人材の育成・確保	特にない	その他	無回答
全体		(N=195)	9.7	5.6	4.6	6.7	10.3	9.7
提供サービス別（n≧5）	訪問介護	(n= 35)	2.9	5.7	2.9	5.7	0.0	8.6
	訪問看護	(n= 23)	4.3	4.3	4.3	8.7	13.0	8.7
	通所介護	(n= 21)	23.8	9.5	9.5	0.0	9.5	23.8
	短期入所生活介護	(n= 7)	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	特定施設入居者生活介護	(n= 11)	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	福祉用具	(n= 11)	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	18.2
	介護老人福祉施設	(n= 5)	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	地域密着型通所介護	(n= 14)	14.3	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0
	認知症対応型共同生活介護	(n= 6)	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	居宅介護支援事業所	(n= 29)	10.3	3.4	3.4	0.0	17.2	3.4

問 50　介護保険制度をよりよい制度としていくためのご意見や医療と介護の連携についてのご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、37 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
医療・多職種連携、官民の連携強化	13 件
ICT の導入・向上	8件
介護保険制度の運用見直し	6件
事務手続きが困難、時間がかかる	5件
特になし	5件

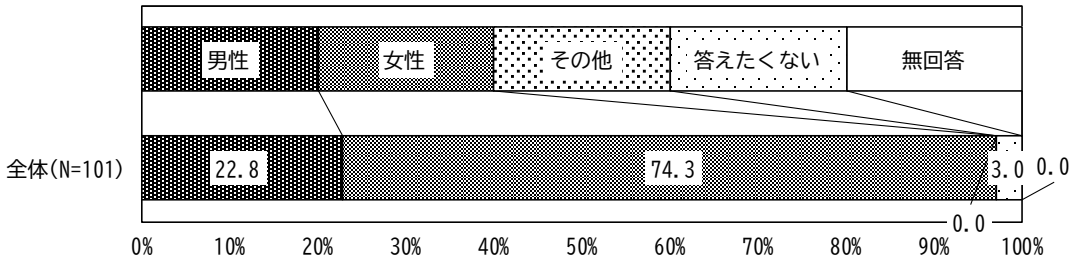
５　介護支援専門員（ケアマネジャー）調査

（１）基本属性

問１　あなたの性別※をお答えください。（１つに○）
※性別については、戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

「男性」が 22.8%、「女性」が 74.3%、「答えたくない」が 3.0%となっている。

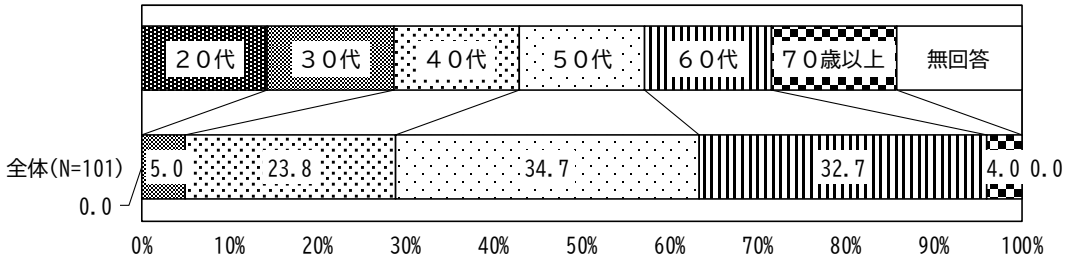
図表　性別（全体）



問２　あなたの年齢をお答えください。（１つに○）

「50 代」(34.7%)が最も多く、次いで「60 代」(32.7%)、「40 代」(23.8%)、「30 代」(5.0%)、「70 歳以上」(4.0%）と続いている。

図表　年齢（全体）

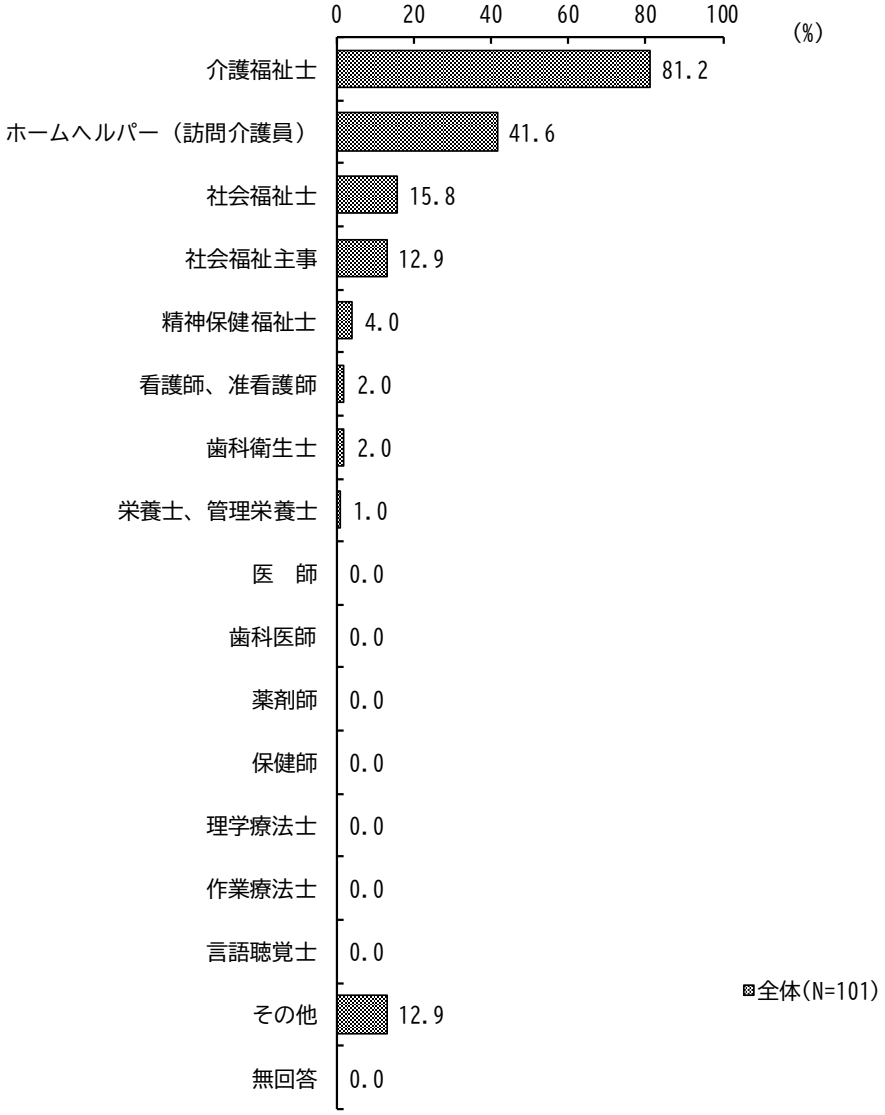


問３　あなたは、介護支援専門員（以下「ケアマネジャー」）以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。（いくつでも○）

「介護福祉士」(81.2%)が最も多く、次いで「ホームヘルパー（訪問介護員)」(41.6%)、「社会福祉士」(15.8%)、「社会福祉主事」(12.9%)と続いている。

「その他」(12.9%）の内容は、「福祉住環境コーディネーター」、「保育士」、「教育職員」、「柔道整復師」などであった。

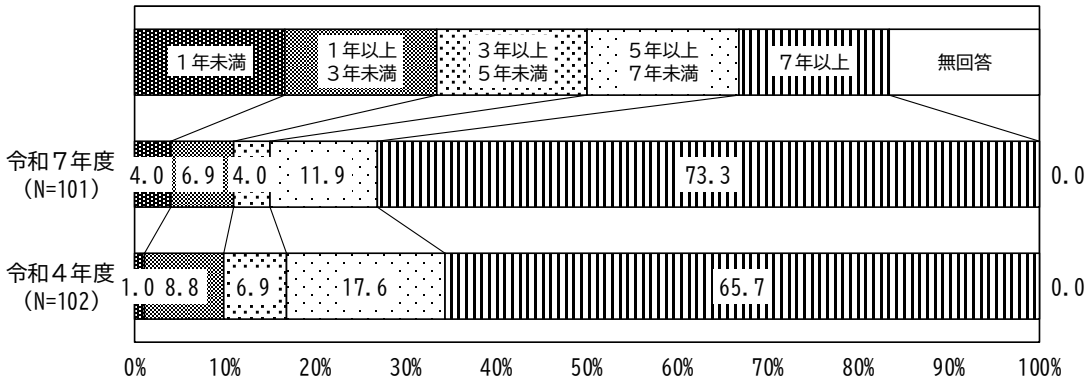
図表　ケアマネジャー以外の所有資格（全体：複数回答）



問４　あなたは、ケアマネジャー業務に従事してどのくらいの経験がありますか。転職などをしている場合は、前職なども含めた合計期間で答えてください。（１つに○）
（令和７年１０月１日時点）

「７年以上」(73.3%)が最も多く、次いで「５年以上７年未満」(11.9%)、「１年以上３年未満」(6.9%)、「３年以上５年未満」、「１年未満」(ともに 4.0%）と続いている。前回調査と比較すると「７年以上」(今回：73.3%、前回：65.7%）の割合が 7.6 ポイント高くなっている。

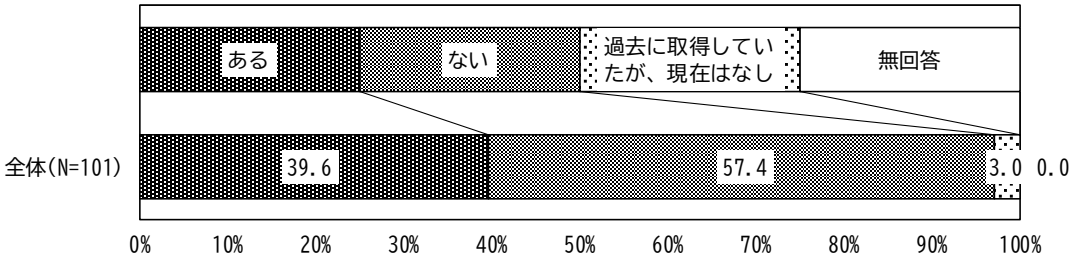
図表　ケアマネジャー業務の経験年数（全体）【前回比較】



問５　あなたは、主任ケアマネジャー（主任介護支援専門員）の資格を有していますか。
（１つに○）

「ない」(57.4%)が最も多く、次いで「ある」(39.6%)「過去に取得していたが、現在はなし」(3.0%)、と続いている。

図表　主任ケアマネジャー資格の有無（全体）



経験年数別にみると、７年未満では「ない」が全体より高く、７年以上では「ある」（52.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　主任ケアマネジャー資格の有無
（全体、経験年数別）

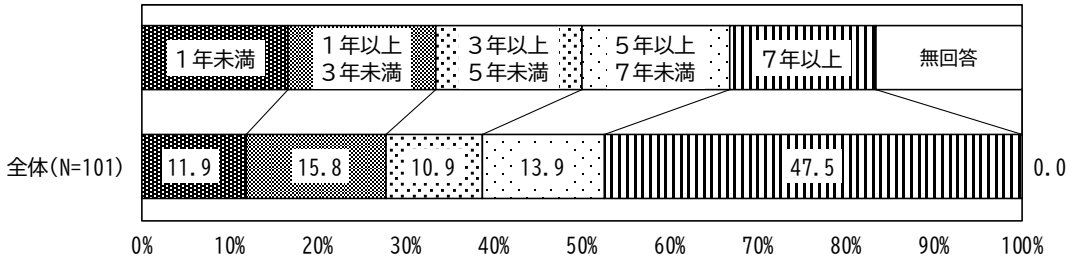
（%）

			ある	ない	過去に取得していたが、現在はなし	無回答
全体		(N=101)	39.6	57.4	3.0	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	0.0	100.0	0.0	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	8.3	91.7	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	52.7	43.2	4.1	0.0

問６　あなたは、現在の居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして在籍している期間はどのくらいですか。（１つに○）

「７年以上」（47.5%）が最も多く、次いで「１年以上３年未満」（15.8%）、「５年以上７年未満」（13.9%）、「１年未満」（11.9%）、「３年以上５年未満」（10.9%）と続いている。

図表　現在の居宅介護支援事業所での在職期間（全体）



（２）ケアマネジャー業務の担当状況

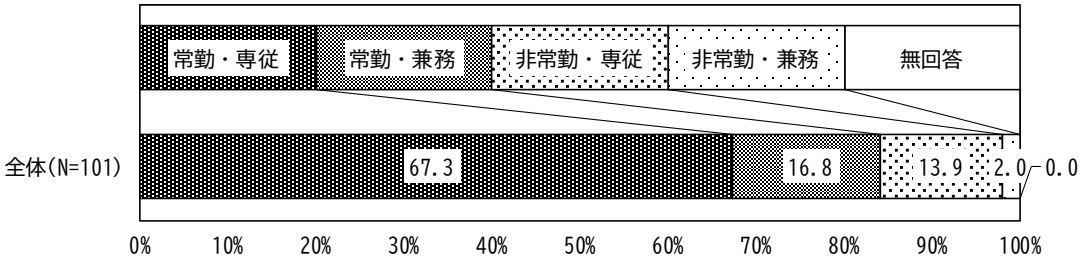
問７　あなたの勤務形態をお答えください。（１つに○）

「常勤・専従」(67.3%) が最も多く、次いで「常勤・兼務」(16.8%)、「非常勤・専従」(13.9%)、「非常勤・兼務」（2.0%）と続いている。

年代別にみると、60 代では「非常勤・専従(24.2%)」が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「非常勤・兼務」（13.3%）が全体より 10 ポイント以上高く、５年以上７年未満では「常勤・専従」(91.7%) が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　勤務形態（全体）



図表　勤務形態
（全体、性別、年代別、経験年数別）

(%)

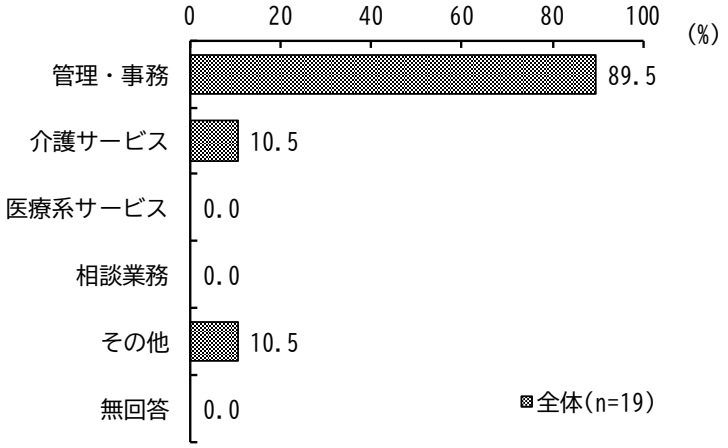
			常勤・専従	常勤・兼務	非常勤・専従	非常勤・兼務	無回答
全体		(N=101)	67.3	16.8	13.9	2.0	0.0
性別	男性	(n= 23)	65.2	26.1	0.0	8.7	0.0
	女性	(n= 75)	66.7	14.7	18.7	0.0	0.0
	その他	(n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない	(n= 3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	４０代	(n= 24)	70.8	20.8	0.0	8.3	0.0
	５０代	(n= 35)	74.3	17.1	8.6	0.0	0.0
	６０代	(n= 33)	63.6	12.1	24.2	0.0	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	73.3	6.7	6.7	13.3	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	62.2	20.3	17.6	0.0	0.0

問７-１　問７で「常勤・兼務」又は「非常勤・兼務」と答えた方におたずねします
どのような業務を兼務していますか。（いくつでも○）

「管理・事務」（89.5%）が最も多く、次いで「介護サービス」（10.5%）となっている。

「その他」（10.5%）の内容は、「代表取締役」、「成年後見」、「刑事司法ソーシャルワーカー」などであった。

図表　兼務している業務（業務を兼務している人：複数回答）



（３）ケアプランの作成状況

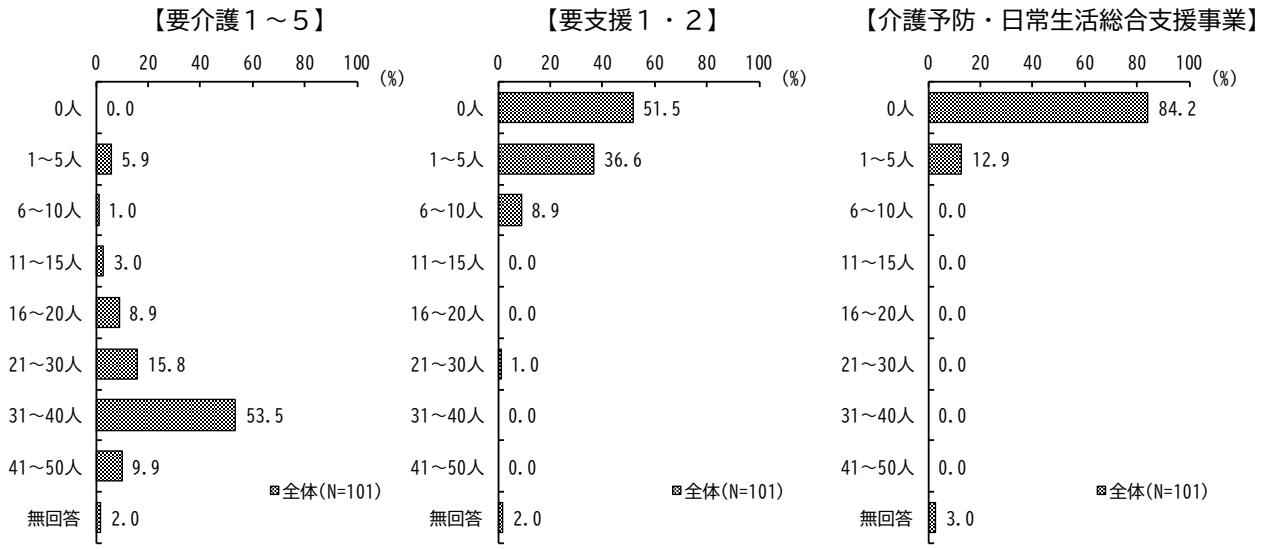
問８　令和７年１０月１日現在、あなたが担当している利用者数（一時的入院中などを含め、継続的に関わっている総利用者数）をご記入ください。担当している利用者や件数がない場合には「０」と記入してください。

要介護１～５のケアプラン作成数は、「31～40 人」(53.5%)が最も多く、次いで「21～30 人」(15.8%)、「41～50 人」(9.9%)、「16～20 人」(8.9%)と続いている。

介護予防プラン（要支援１・２）作成数は、「０人（なし）」(51.5%)が最も多く、次いで「１～５人」(36.6%)、「６～10 人」(8.9%)、と続いている。

介護予防・日常生活総合事業対象者は、「０人（なし）」(84.2%)が最も多く、次いで「１～５人」(12.9%)となっている。

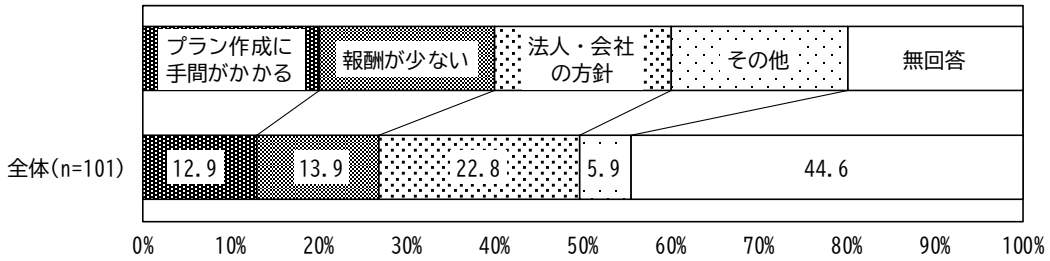
図表　担当している利用者数（全体：複数回答）



問8-1　問8-1、問8-2について、居宅介護支援事業所の管理者（又は管理者に類する方）におたずねします
介護予防プランの作成を受託していない場合、その理由をお答えください。
（もっとも当てはまるもの１つに○）

「法人・会社の方針」（22.8%）が最も多く、次いで「報酬が少ない」（13.9%）、「プラン作成に手間がかかる」（12.9%）と続いている。

図表　介護予防プランの作成を受託していない理由（全体）



問8-2　問8-1、問8-2について、居宅介護支援事業所の管理者（又は管理者に類する方）におたずねします
介護予防プランの受託件数を増やすうえで課題となることは何ですか。
具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、51 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

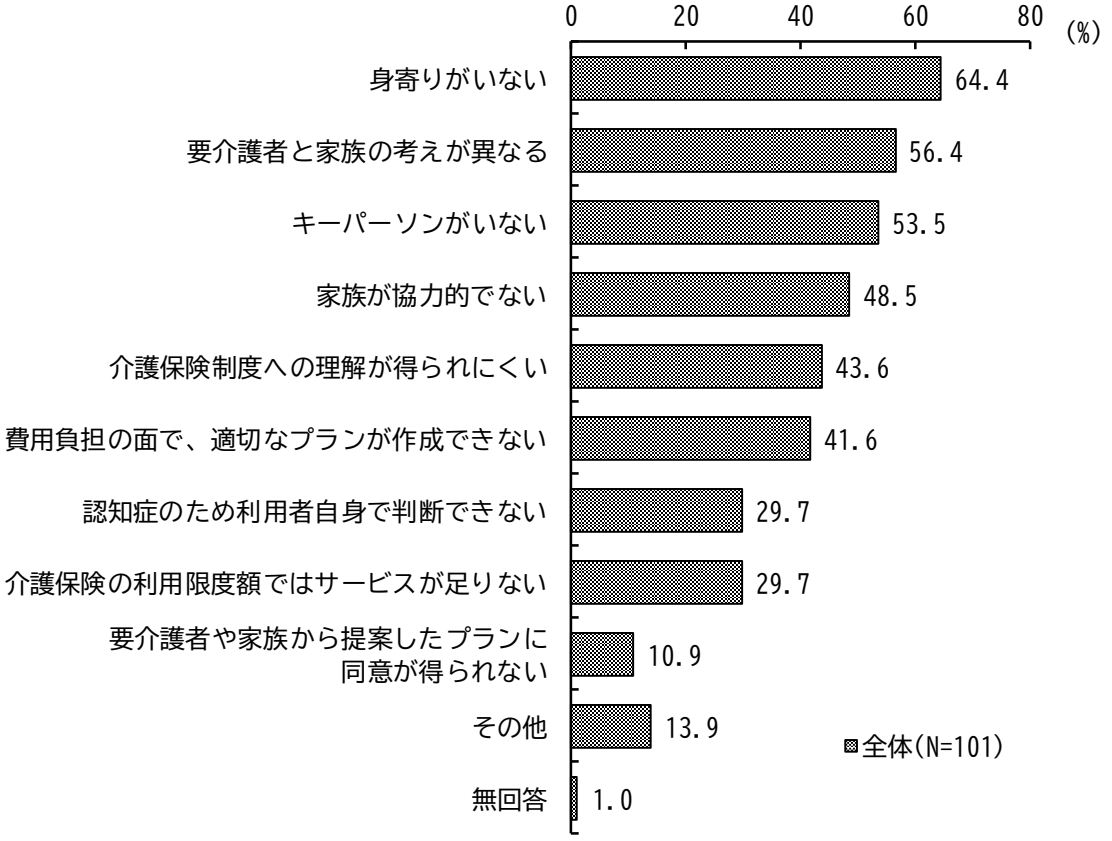
内容	件数
プラン料が低い・手間の割に報酬が低い	26 件
書式の簡潔化・介護と書式を統一すべき	21 件
時間が取られ過ぎる	1 件
職員が増えたら考える	1 件
サービスを受ける事業所が少ない	1 件
上層部の見解	1 件

問９　あなたは、ケアプランを作成する際、どのようなことで困っていますか。
（いくつでも○）

「身寄りがない」（64.4%)が最も多く、次いで「要介護者と家族の考えが異なる」（56.4%)、「キーパーソンがいない」（53.5%)、「家族が協力的でない」（48.5%）と続いている。

「その他」（13.9%）の内容は、「インフォーマルな支援が少ない」、「深いアセスメントができない、「ハラスメントを受けても断れない」などであった。

図表　ケアプランを作成する際、困っていること（全体：複数回答）

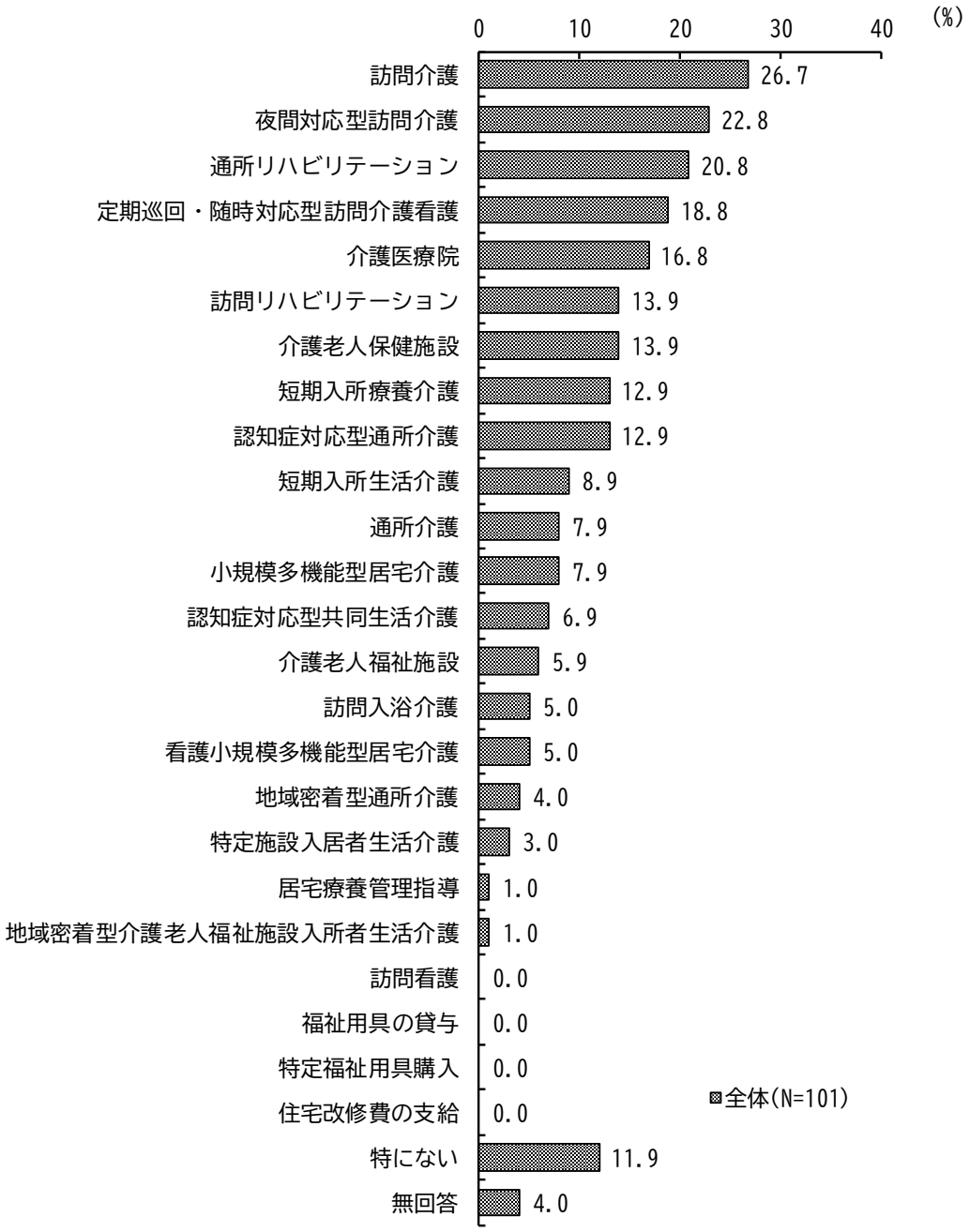


（４）担当地域におけるサービスの状況

問 10　担当している地域で、事業所数もしくは定員など、（１）量的に不足していると感じるサービス、（２）今後必要性がより高まると思われるサービスはありますか。
（（１）から（２）について、それぞれ３つまで下の１～２５より選んで番号を記入）
（１）量的に不足していると感じるサービス

「訪問介護」（26.7%）が最も多く、次いで「夜間対応型訪問介護」（22.8%）、「通所リハビリテーション」（20.8%）、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（18.8%）と続いている。

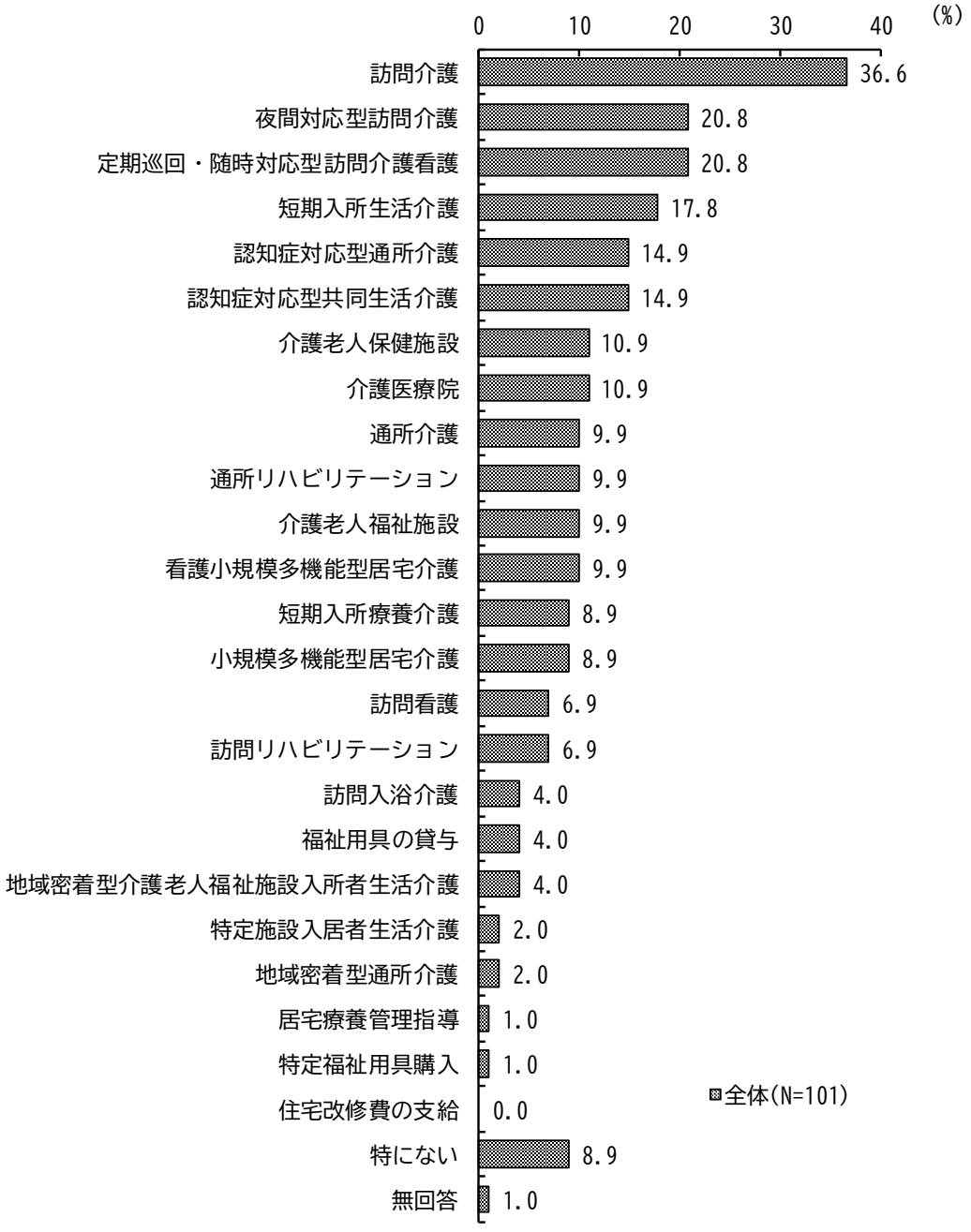
図表　量的に不足しているサービス（全体：複数回答）



問 10　担当している地域で、事業所数もしくは定員など、（１）量的に不足していると感じるサービス、（２）今後必要性がより高まると思われるサービスはありますか。
（（１）から（２）について、それぞれ３つまで下の１～２５より選んで番号を記入）
（２）今後必要性がより高まると思われるサービス

「訪問介護」(36.6%)が最も多く、次いで「夜間対応型訪問介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（ともに 20.8%）、「短期入所生活介護」（17.8%）、「認知症対応型通所介護」、「認知症対応型共同生活介護」（ともに 14.9%）と続いている。

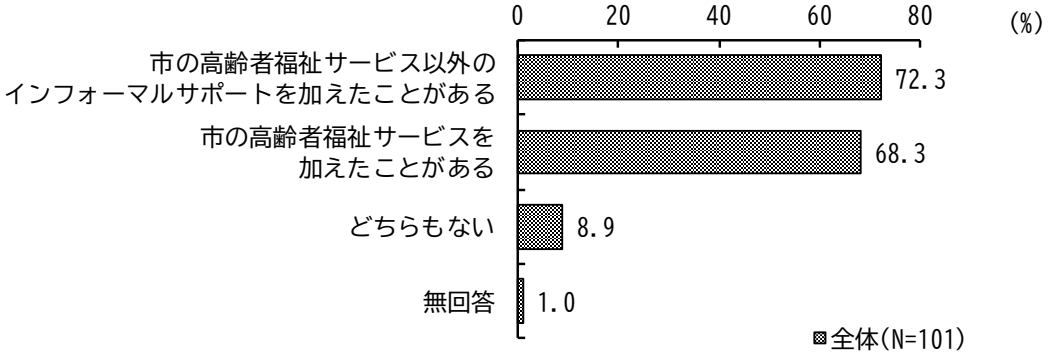
図表　今後必要性が高まると思われるサービス（全体：複数回答）



問 11　あなたは、介護保険サービス以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことがありますか。（いくつでも○）

「市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある」が 72.3%、「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」が 68.3%、「どちらもない」が 8.9%となっている。

図表　介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことがあるか
（全体：複数回答）



資格別にみると、社会福祉士では「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」（56.3%）、社会福祉主事では「市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある」（61.5%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「どちらもない」（46.7%）が全体より 30 ポイント以上高く、５年以上７年未満では「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」（100.0%）が全体より 30 ポイント以上、「市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある」（91.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことがあるか
（全体、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

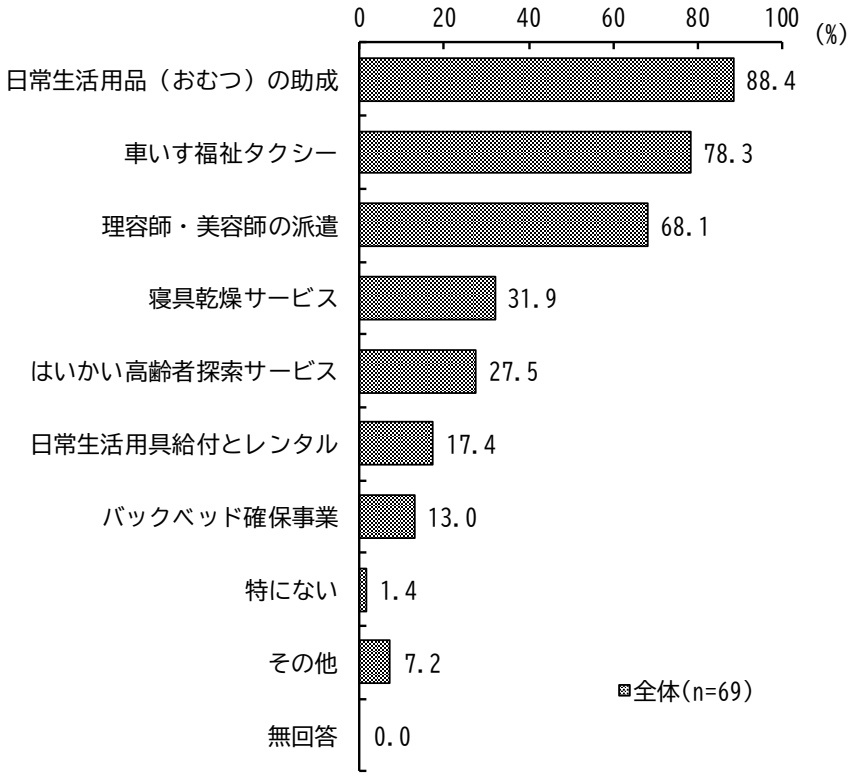
（%）

			市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある	市の高齢者福祉サービスを加えたことがある	どちらもない	無回答
全体		(N=101)	72.3	68.3	8.9	1.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	69.5	69.5	8.5	1.2
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	71.4	66.7	7.1	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	81.3	56.3	6.3	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	61.5	76.9	23.1	0.0
	その他	(n= 13)	61.5	61.5	15.4	7.7
経験年数別	５年未満	(n= 15)	46.7	26.7	46.7	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	100.0	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	74.3	71.6	2.7	1.4
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	80.0	70.0	0.0	0.0
	ない	(n= 58)	67.2	67.2	15.5	1.7
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	66.7	0.0	0.0

問 11-1　問 11 で「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」とお答えの方におたずねします
ケアプランに加えた高齢者福祉サービスはどれですか。（いくつでも○）

「日常生活用品(おむつ)の助成」(88.4%)が最も多く、次いで「車いす福祉タクシー」(78.3%)、「理容師・美容師の派遣」（68.1%)、「寝具乾燥サービス」（31.9%）と続いている。

図表　ケアプランに加えた高齢者福祉サービス
（市の高齢者福祉サービスを加えたことがある人：複数回答）



経験年数別にみると、５年以上７年未満では「寝具乾燥サービス」（16.7%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格がないでは「バックベッド確保事業」（23.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　ケアプランに加えた高齢者福祉サービス
（市の高齢者福祉サービスを加えたことがある人、
経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

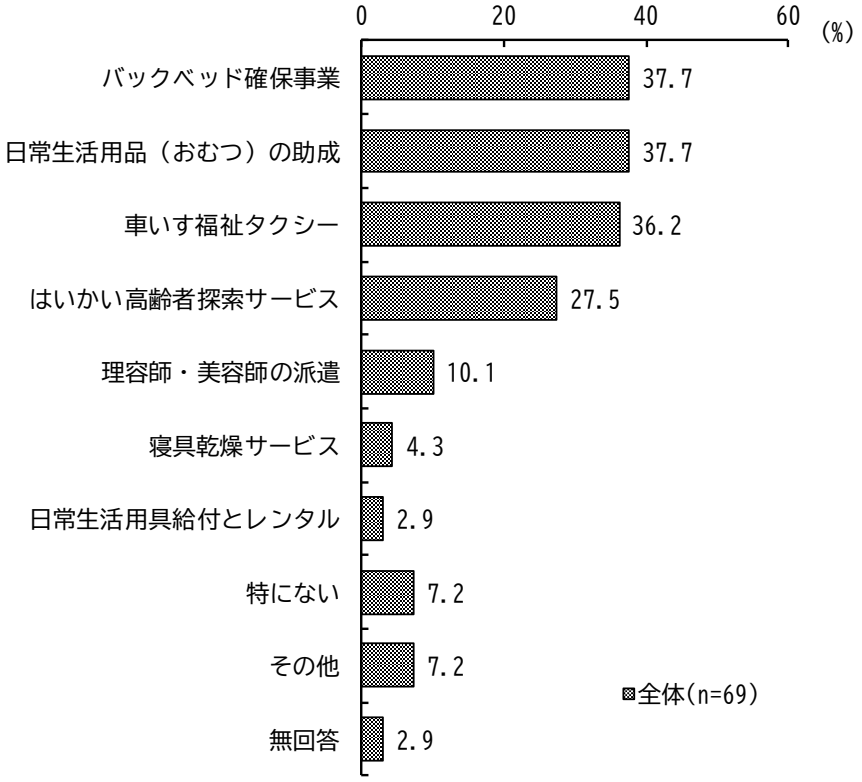
（%）

			日常生活用品（おむつ）の助成	車いす福祉タクシー	理容師・美容師の派遣	寝具乾燥サービス	はいかい高齢者探索サービス	日常生活用具給付とレンタル	バックベッド確保事業	特にない	その他	無回答
全体		(n= 69)	88.4	78.3	68.1	31.9	27.5	17.4	13.0	1.4	7.2	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 4)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	83.3	75.0	58.3	16.7	25.0	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0
	７年以上	(n= 53)	88.7	77.4	67.9	37.7	30.2	22.6	13.2	0.0	7.5	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 28)	92.9	78.6	75.0	39.3	32.1	17.9	0.0	0.0	10.7	0.0
	ない	(n= 39)	84.6	76.9	64.1	28.2	25.6	12.8	23.1	2.6	5.1	0.0
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 11-2　問 11 で「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」とお答えの方におたずねします。
今後一層の充実が必要と感じる高齢者福祉サービスは次のどれですか。（２つまでに○）

「バックベッド確保事業」、「日常生活用品（おむつ）の助成」（ともに 37.7%)が最も多く、次いで「車いす福祉タクシー」（36.2%)、「はいかい高齢者探索サービス」（27.5%)、「理容師・美容師の派遣」（10.1%）と続いている。

図表　今後一層の充実が必要と思う高齢者福祉サービス
（市の高齢者福祉サービスを加えたことがある人：複数回答）



資格別にみると、ホームヘルパー（訪問介護員）では「理容師・美容師の派遣」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　今後一層の充実が必要と思う高齢者福祉サービス
（市の高齢者福祉サービスを加えたことがある人、
資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

(%)

			バックベッド確保事業	日常生活用品（おむつ）の助成	車いす福祉タクシー	はいかい高齢者探索サービス	理容師・美容師の派遣	寝具乾燥サービス	日常生活用具給付とレンタル	特にない	その他	無回答
全体		(n= 69)	37.7	37.7	36.2	27.5	10.1	4.3	2.9	7.2	7.2	2.9
（上位４位）資格別	介護福祉士	(n= 57)	36.8	40.4	36.8	24.6	12.3	5.3	3.5	7.0	5.3	3.5
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 28)	35.7	39.3	39.3	25.0	25.0	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
	社会福祉士	(n= 9)	66.7	11.1	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	社会福祉主事	(n= 10)	50.0	20.0	50.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	その他	(n= 8)	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 4)	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	41.7	25.0	41.7	33.3	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0
	７年以上	(n= 53)	37.7	41.5	37.7	26.4	11.3	3.8	3.8	5.7	5.7	3.8
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 28)	42.9	42.9	28.6	32.1	3.6	3.6	3.6	7.1	3.6	3.6
	ない	(n= 39)	33.3	35.9	43.6	23.1	12.8	5.1	2.6	7.7	10.3	2.6
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 11-3　問 11-2で「その他」以外をお答えの方におたずねします。
その理由を２つまで具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、106 件（バックベッド確保事業：26 件、日常生活用具給付とレンタル：２件、はいかい高齢者探索サービス：19 件、日常生活用品（おむつ）の助成：27 件、車いす福祉タクシー：20 件、寝具乾燥サービス：１件、理容師･美容師の派遣：７件、特にない：３件）の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【バックベッド確保事業：26 件】

内容	件数
医療処置が必要な方の（レスパイト等）施設対応が難しい	16 件
病院が少ない・病院での対応が良くない	４件
バックベッドが足りない・不確か	４件
料金など概要が分からない	１件
介護保険施設を利用できない場合に医療保険の病院利用がスムーズではない	１件

【日常生活用具給付とレンタル：２件】

内容	件数
介護度が低くても立ちあがり、歩行が出来ない方がいる場合がある	１件
介護未認定の方への早期介入という視点で環境整備支援の充実は必須である	１件

【はいかい高齢者探索サービス：19 件】

内容	件数
認知症の方の増加に対応するため	９件
同居家族の負担軽減のため	３件
独居や夫婦世帯で認知症のケースが増えているため	３件
ケアマネや事業所の（捜索の）負担軽減のため	２件
はいかいは命の危険があるため	１件
市の事業は活用しにくい	１件

【日常生活用品（おむつ）の助成：27 件】

内容	件数
利用者が多い、増えている	６件
介護度に関わらず個別の対応が必要	６件
おむつ替えを減らすと症状が悪化する可能性がある	４件
ポイントが足りないという方が多い	３件
おむつは高額・運ぶのも大変なため	３件
日常生活に必須である	２件
家族の負担軽減につながる	１件
購入の手間が大変	１件
その他	１件

【車いす福祉タクシー：20 件】

内容	件数
利用者が増えると考えられる、現状の枚数では足りない方がいる	６件
移動手段の確保のため必要	５件
（一般の）タクシー料金は高い	３件
現状は予約が取りにくい	２件
高額な利用料が抑えられる	１件
車椅子利用者が多い	１件
介護保険に含まれないニーズがある	１件
（一般の）タクシーは昇降が難しい	１件

【寝具乾燥サービス：１件】

内容	件数
訪問介護では短時間派遣が布団干しまでは行うことが難しい	１件

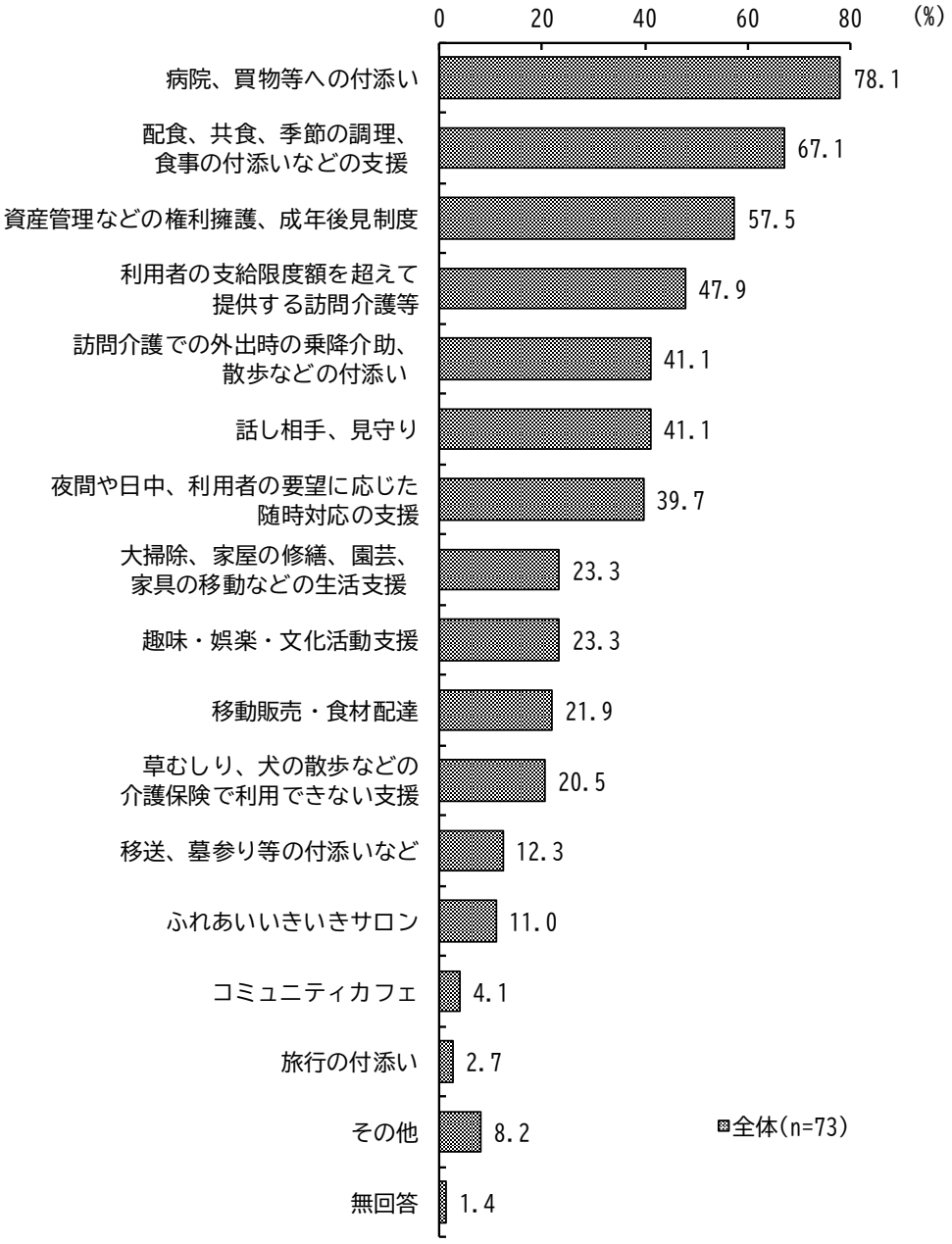
【理容師･美容師の派遣：７件】

内容	件数
必要な方が多いと感じる	３件
身だしなみ、清潔保持のために必要	２件
家族の対応が難しい	１件
65 歳未満でも介護 3 以上には必要	１件

問 11-4　問 11 で「市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある」とお答えの方におたずねします
ケアプランに加えたインフォーマルサポートはどのような内容のものですか。
（いくつでも○）

「病院、買物等への付添い」（78.1%）が最も多く、次いで「配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援」（67.1%）、「資産管理などの権利擁護、成年後見制度」（57.5%）、「利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等」（47.9%）と続いている。

図表　ケアプランに加えたインフォーマルサポート
（市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある人：複数回答）



経験年数別にみると、５年未満では「利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等」（6.7%）など６項目で全体より 20 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「病院、買物等への付添い」（75.0%）、「夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援」（58.3%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「話し相手、見守り」（16.7%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格があるでは「配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援」（60.0%）、「資産管理などの権利擁護、成年後見制度」（52.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　ケアプランに加えたインフォーマルサポート
（市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある人、
経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			病院、買物等への付添い	配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援	資産管理などの権利擁護、成年後見制度	利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等	訪問介護での外出時の乗降介助、散歩などの付添い	話し相手、見守り	夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援	大掃除、家屋の修繕、園芸、家具の移動などの生活支援	趣味・娯楽・文化活動支援
全体		(n= 73)	78.1	67.1	57.5	47.9	41.1	41.1	39.7	23.3	23.3
経験年数別	５年未満	(n= 7)	42.9	42.9	42.9	14.3	28.6	57.1	14.3	28.6	14.3
	５年以上７年未満	(n= 11)	81.8	54.5	54.5	36.4	36.4	18.2	63.6	18.2	9.1
	７年以上	(n= 55)	81.8	72.7	60.0	54.5	43.6	43.6	38.2	23.6	27.3
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 32)	81.3	75.0	65.6	53.1	43.8	40.6	31.3	21.9	28.1
	ない	(n= 39)	74.4	61.5	51.3	43.6	38.5	41.0	48.7	25.6	20.5
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

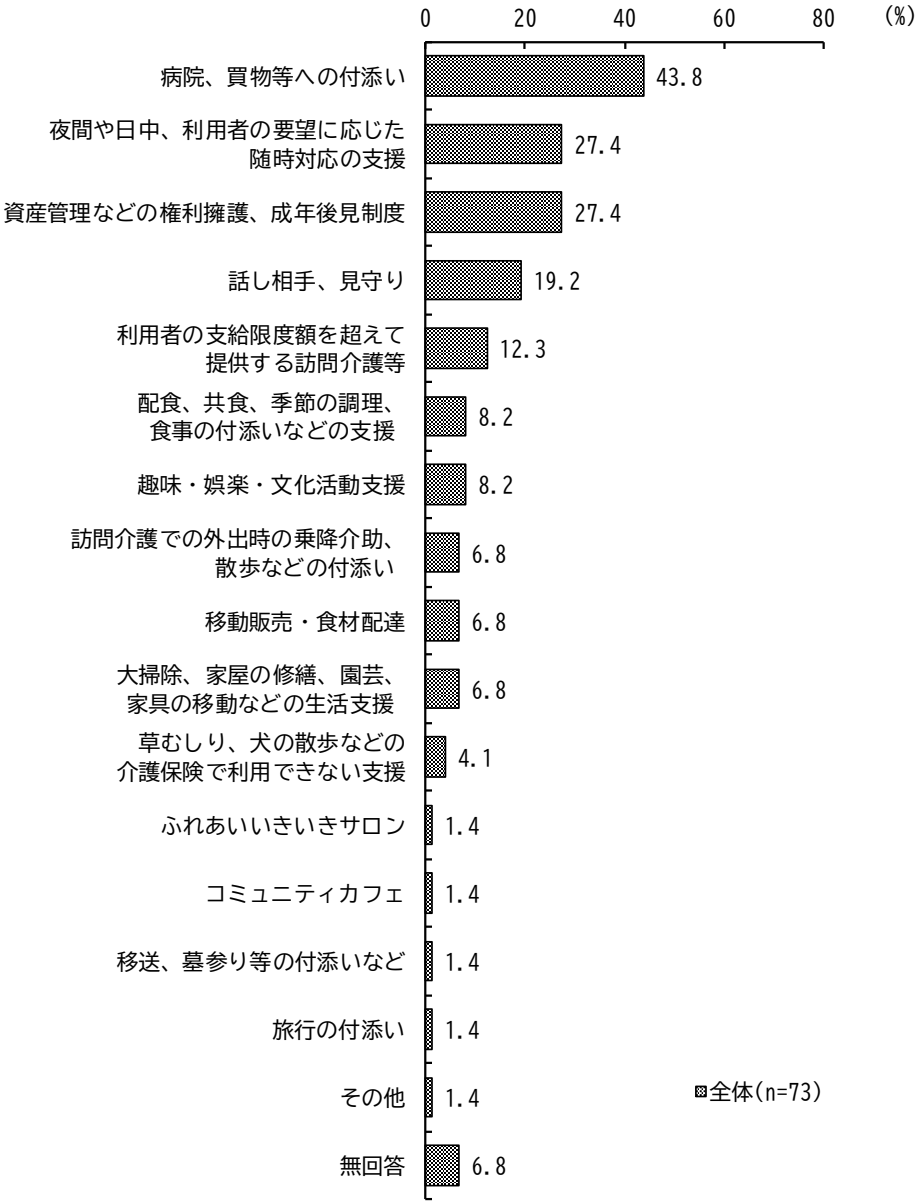
（%）

			移動販売・食材配達	草むしり、犬の散歩などの介護保険で利用できない支援	移送、墓参り等の付添いなど	ふれあいいきいきサロン	コミュニティカフェ	旅行の付添い	その他	無回答
全体		(n= 73)	21.9	20.5	12.3	11.0	4.1	2.7	8.2	1.4
経験年数別	５年未満	(n= 7)	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3
	５年以上７年未満	(n= 11)	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
	７年以上	(n= 55)	21.8	21.8	12.7	10.9	1.8	1.8	10.9	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 32)	28.1	25.0	12.5	6.3	3.1	0.0	9.4	0.0
	ない	(n= 39)	17.9	15.4	12.8	15.4	5.1	5.1	7.7	2.6
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 11-5　問 11 で「市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある」とお答えの方におたずねします
今後一層の充実が必要と感じるインフォーマルサポートは次のどれですか。（２つまでに○）

今後一層の充実が必要と感じるインフォーマルサポートは、「病院、買物等への付添い」43.8%）が最も多く、次いで「夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援」、「資産管理などの権利擁護、成年後見制度」（ともに 27.4%）、「話し相手、見守り」（19.2%）と続いている。

図表　今後一層の充実が必要と感じるインフォーマルサポート
（市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある人：複数回答）



経験年数別にみると、５年以上７年未満では「夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援」（63.6%）、「病院、買物等への付添い」（54.5%）、「大掃除、家屋の修繕、園芸、家具の移動などの生活支援」（18.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　今後一層の充実が必要と感じるインフォーマルサポート
（市の高齢者福祉サービス以外のインフォーマルサポートを加えたことがある人、
経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			病院、買物等への付添い	夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援	資産管理などの権利擁護、成年後見制度	話し相手、見守り	利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等	配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援	趣味・娯楽・文化活動支援	訪問介護での外出時の乗降介助、散歩などの付添い	移動販売・食材配達
全体		(n= 73)	43.8	27.4	27.4	19.2	12.3	8.2	8.2	6.8	6.8
経験年数別	５年未満	(n= 7)	28.6	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	５年以上７年未満	(n= 11)	54.5	63.6	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1
	７年以上	(n= 55)	43.6	21.8	27.3	16.4	16.4	9.1	10.9	9.1	7.3
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 32)	37.5	18.8	31.3	18.8	15.6	9.4	12.5	6.3	9.4
	ない	(n= 39)	46.2	35.9	23.1	20.5	7.7	7.7	5.1	7.7	5.1
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（%）

			大掃除、家屋の修繕、園芸、家具の移動などの生活支援	草むしり、犬の散歩などの介護保険で利用できない支援	ふれあいいきいきサロン	コミュニティカフェ	移送、墓参り等の付添いなど	旅行の付添い	その他	無回答
全体		(n= 73)	6.8	4.1	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	6.8
経験年数別	５年未満	(n= 7)	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3
	５年以上７年未満	(n= 11)	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	７年以上	(n= 55)	3.6	3.6	1.8	1.8	1.8	0.0	1.8	7.3
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 32)	3.1	6.3	3.1	3.1	3.1	0.0	3.1	6.3
	ない	(n= 39)	10.3	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	7.7
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 11-6　問 11-5の回答についておたずねします
その理由を２つまで具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、193 件（利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等：11 件、訪問介護での外出時の乗降介助、散歩などの付添い：10 件、病院、買物等への付添い：36 件、移動販売・食材配達：８件、ふれあいいきいきサロン：１件、コミュニティカフェ：２件、話し相手、見守り：26 件、夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援：24 件、草むしり、犬の散歩などの介護保険で利用できない支援：７件、大掃除、家屋の修繕、園芸、家具の移動などの生活支援：10 件、配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援：８件、移送、墓参り等の付添いなど：５件、旅行の付添い：１件、資産管理などの権利擁護、成年後見制度：32 件、趣味・娯楽・文化活動支援：10 件、その他：２件）の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等：11 件】

内容	件数
独居・日中独居・介護度が重いなど、たくさんサービスが必要な場合支給限度額を超えてしまう	８件
部分支援が追いついていかない	１件
高い事業所の方は利用を控えるケースがある	１件
社協の協力員を断られるケースがある	１件

【訪問介護での外出時の乗降介助、散歩などの付添い：10 件】

内容	件数
（認知症の徘徊対応も含め）散歩のニーズがある	４件
独居や高齢者世帯が多い	３件
介護保険以外の外出支援サービスは社会性の維持に必要だから	１件
家事支援より必要である利用者が多い	１件
屋外での移動に介助が必要な方が多い	１件

【病院、買物等への付添い：36 件】

内容	件数
通院や検査のため院内の介助など必要（要望が多い）	15 件
家族で対応できないケースが増えている	８件
利用者の要望がある	３件
ヘルパー確保が難しい、高額である	３件
自分で買い物がしたいという声がある	２件
買い物が遠い、重い物が持てない	１件
訪問介護の事業所が対応していない、調整が難しい	１件
介護保険支援だけでは完結できない内容がある	１件
医師からケアマネの動向を求められ調整に苦慮している	１件
その他	１件

【移動販売・食材配達：８件】

内容	件数
買い物が不便な地域に住む方がいる	３件
外出が難しくても買い物を楽しめる	３件
限度額内でのサービス利用が難しい	２件

【ふれあいいきいきサロン：１件】

内容	件数
交流の場は必要	１件

【コミュニティカフェ：２件】

内容	件数
交流の場は必要	１件
介護保険サービス以外で地域に関わって楽しめる場所があるといい	１件

【話し相手、見守り：26 件】

内容	件数
単身世帯、高齢世帯、日中独居の方のニーズがある	12 件
介護保険サービスの範囲では限りがある	６件
認知症の進行をやわらげる・認知症なので見守りが必要	４件
デイサービスや外出を拒むが話し相手を望む方がいる	３件
その他	１件

【夜間や日中、利用者の要望に応じた随時対応の支援：24 件】

内容	件数
単身世帯、高齢世帯、日中独居の方のニーズがある	７件
家族や地域の支援のため	６件
介護保険サービスの範囲では限りがある	５件
排泄支援の増回が必要	２件
困った時だけ来て欲しいという方への対応	２件
認知症独居の方が増えてくると思われるため	１件
夜間随時対応型訪問介護の利用が適切な方が増えている	１件

【草むしり、犬の散歩などの介護保険で利用できない支援：７件】

内容	件数
単身世帯、高齢世帯、日中独居の方のニーズがある	３件
自分で出来ない方が多い	２件
ペットの支援は本人にとっては重要なことだから	１件
無理してやると転倒リスクがある	１件

【大掃除、家屋の修繕、園芸、家具の移動などの生活支援：10 件】

内容	件数
介護保険サービスの範囲では限りがある	5件
できない方が多い・利用者から希望がある	3件
ゴミが多いお宅には必要	1件
家族に頼めない方が多い	1件

【配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援：8件】

内容	件数
食の充実は一番の介護予防	4件
単身世帯、高齢世帯、日中独居の方のニーズがある	2件
閉じこもりがちな方の食欲向上につながる	1件
介護保険サービスの範囲では限りがある	1件

【移送、墓参り等の付添いなど：5件】

内容	件数
家族に頼めない方が多い	1件
単身世帯、高齢世帯、日中独居の方のニーズがある	1件
地域とのつながり維持のため	1件
利用者の要望がある	1件
介護保険サービスの範囲では限りがある	1件

【旅行の付き添い：1件】

内容	件数
ニーズがある	1件

【資産管理などの権利擁護、成年後見制度：32 件】

内容	件数
身寄りのない方が増えている	12 件
（認知症など）金銭管理ができない独居、老々介護の方が増えている	11 件
認知症を含めて理解・判断能力が低下した方の包括的な在宅支援が必要	4件
詐欺が増えている	1件
介護保険サービスの範囲では限りがある	1件
窓口が少なく手続きが面倒	1件
本人が信頼を置いている方でないと立ち入れない場面が多い	1件
身上監護を含めた支援が必要	1件

【趣味・娯楽・文化活動支援：10 件】

内容	件数
生きがい・楽しみを持ってほしい	５件
本人の趣味に合うデイサービスが見つからない	２件
インフォーマルサービスの情報が得られない	１件
活動団体に「送迎付き」を希望	１件
介護保険サービスの範囲では限りがある	１件

【その他：２件】

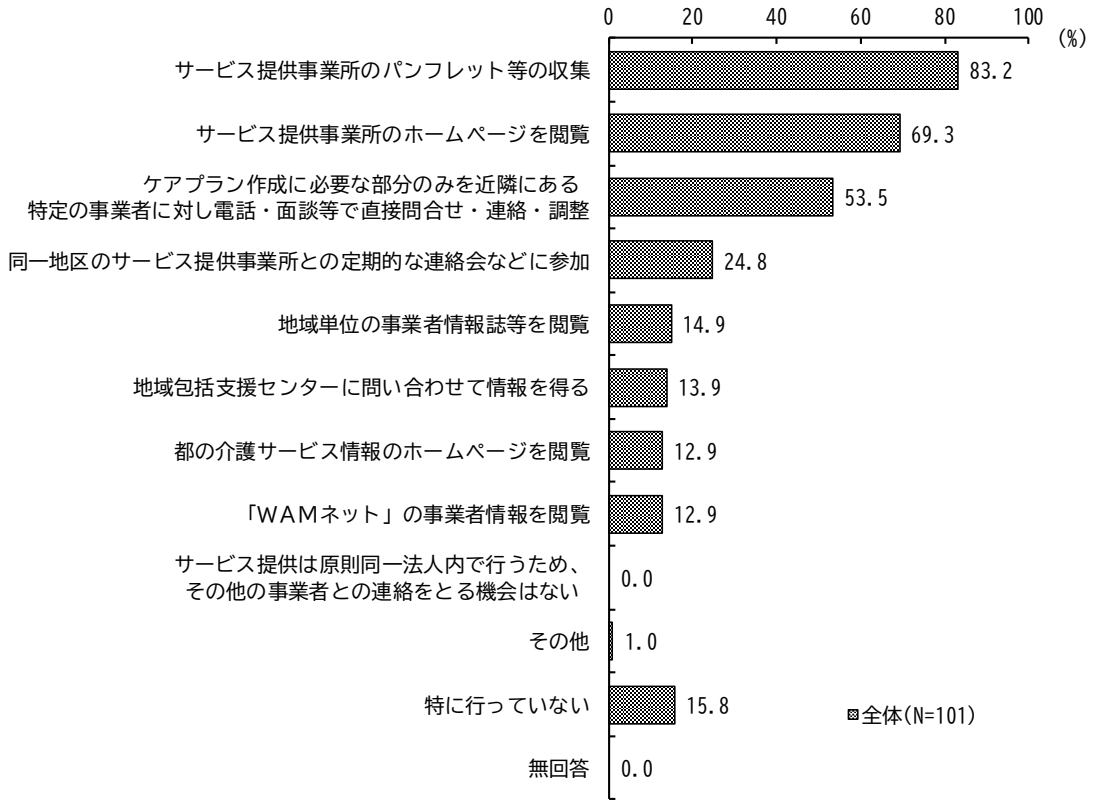
内容	件数
認知症の方と介護者が気軽に行けて、交流ができる場所があるといい	１件
単独世帯では１日２・３回の服薬確認だけをすることは不可能で介護保険でも服薬確認だけのサービスがない	１件

（５）サービス提供事業所との関わり

問 12　サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整はどのようにしていますか。（いくつでも○）

「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」(83.2%)が最も多く、次いで「サービス提供事業所のホームページを閲覧」(69.3%)、「ケアプラン作成に必要な部分のみを近隣にある特定の事業者に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整」(53.5%)、「同一地区のサービス提供事業所との定期的な連絡会などに参加」(24.8%）と続いている。

図表　サービス提供事業所に関する情報収集や連絡、調整の方法
（全体：複数回答）



性別にみると、男性は「ケアプラン作成に必要な部分のみを近隣にある特定の事業者に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整」（30.4%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。

年代別にみると、40 代では「都の介護サービス情報のホームページを閲覧」（29.2%）、「「ＷＡＭネット」の事業者情報を閲覧」（25.0%）が、50 代では「サービス提供事業所のホームページを閲覧」（80.0%）が、60 代では「同一地区のサービス提供事業所との定期的な連絡会などに参加」（36.4%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉主事は「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」（100.0%）など４項目で全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」（66.7%）が全体より 10 ポイント以上低く、５年以上７年未満では「サービス提供事業所のホームページを閲覧」（83.3%）、「都の介護サービス情報のホームページを閲覧」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格があるは「同一地区のサービス提供事業所との定期的な連絡会などに参加」（37.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　サービス提供事業所に関する情報収集や連絡、調整の方法

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			サービス提供事業所のパンフレット等の収集	サービス提供事業所のホームページを閲覧	ケアプラン作成に必要な部分のみを近隣にある特定の事業者に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整	同一地区のサービス提供事業所との定期的な連絡会などに参加	地域単位の事業者情報誌等を閲覧	地域包括支援センターに問い合わせて情報を得る	都の介護サービス情報のホームページを閲覧	「ＷＡＭネット」の事業者情報を閲覧	サービス提供は原則同一法人内で行うため、その他の事業者との連絡をとる機会はない	特に行っていない	その他	無回答
全体		(N=101)	83.2	69.3	53.5	24.8	14.9	13.9	12.9	12.9	0.0	1.0	15.8	0.0
性別	男性	(n= 23)	78.3	65.2	30.4	26.1	21.7	4.3	26.1	17.4	0.0	4.3	13.0	0.0
	女性	(n= 75)	85.3	70.7	58.7	24.0	12.0	16.0	8.0	12.0	0.0	0.0	17.3	0.0
	答えたくない	(n= 3)	66.7	66.7	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	60.0	60.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	４０代	(n= 24)	83.3	66.7	50.0	25.0	20.8	4.2	29.2	25.0	0.0	4.2	4.2	0.0
	５０代	(n= 35)	85.7	80.0	57.1	8.6	11.4	14.3	8.6	14.3	0.0	0.0	17.1	0.0
	６０代	(n= 33)	84.8	60.6	54.5	36.4	12.1	15.2	6.1	3.0	0.0	0.0	21.2	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	75.0	75.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	84.1	67.1	51.2	23.2	14.6	15.9	13.4	13.4	0.0	1.2	15.9	0.0
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	85.7	69.0	52.4	26.2	11.9	19.0	11.9	7.1	0.0	2.4	19.0	0.0
	社会福祉士	(n= 16)	75.0	68.8	56.3	25.0	12.5	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	100.0	84.6	76.9	15.4	7.7	7.7	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	76.9	76.9	61.5	15.4	7.7	30.8	0.0	15.4	0.0	0.0	46.2	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	66.7	60.0	60.0	13.3	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	83.3	41.7	16.7	8.3	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	85.1	68.9	54.1	28.4	18.9	14.9	12.2	16.2	0.0	0.0	14.9	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	85.0	65.0	52.5	37.5	22.5	15.0	12.5	20.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	ない	(n= 58)	81.0	70.7	55.2	17.2	10.3	13.8	13.8	8.6	0.0	1.7	19.0	0.0
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	100.0	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 12-1　問 12 で「特に行っていない」とお答えした方におたずねします。
問 12-1　その理由を具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、２件の回答があった。
内容は「他に情報収集の方法がない。」、「ある程度の情報を知っているから。」となっている。

問 13　問 12 に関して、情報収集するうえでの課題はありますか。

自由記述形式で聞いたところ、65 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

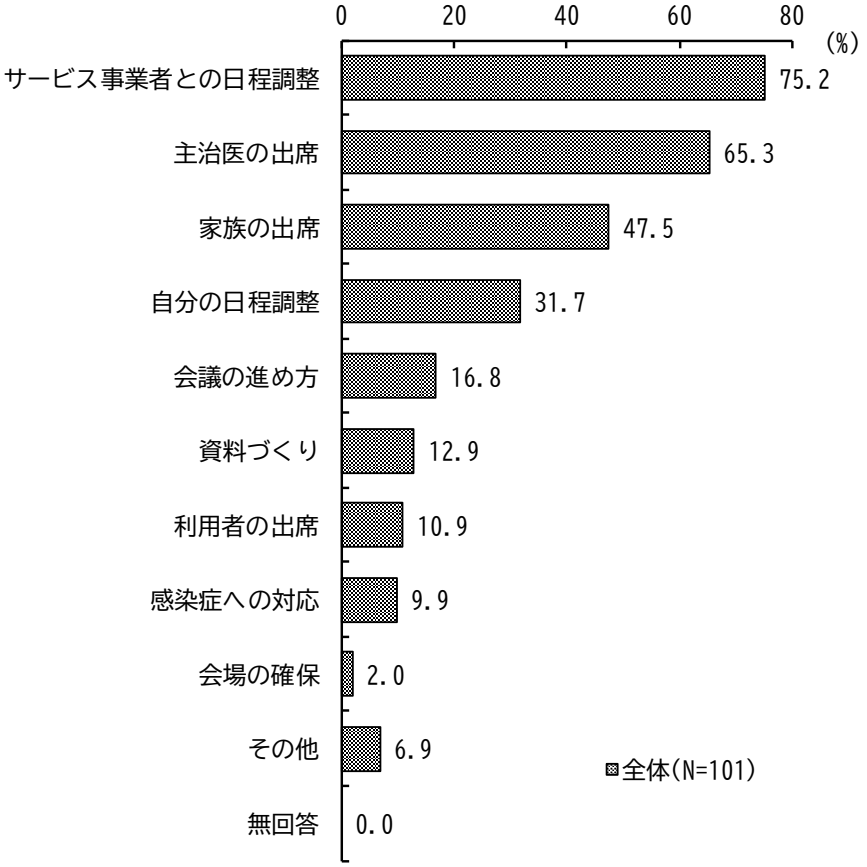
内容	件数
インターネットの情報について（更新が不十分、詳細が分からないなど）	11 件
パンフレット・冊子の情報提供について（更新が不十分、詳細が分からないなど）	10 件
ホームページやパンフレットで詳細が分からず、問い合わせに手間がかかる	7件
本人の希望と事業所のマッチングが難しい	4件
情報は多いが欲しい時に欲しい情報が見つからない	4件
担当者の変更が多い、担当者との調整が非効率	4件
空き情報は分かるが、申し込みができる事業所は少ない	2件
（障害者など）連携の少ない事業所や事業の情報は集めにくい	2件
知っている事業所に依頼が偏ってしまう	2件
エリアで利用できない場合もあり、市外の事業所の情報収集も必要	2件
利用者が選択できるように情報提供すること	1件
先方の担当者で情報が変わってくる	1件
情報が得にくい	1件
営業に来るところは空きがあるという認識	1件
パンフレットをホームページからダウンロードできるようにしてほしい	1件
見学に行くとパンフレットと違うと感じる	1件
時間がなく直接見学ができない	1件
特になし	10 件

（６）サービス担当者会議

問 14　サービス担当者会議の開催にあたって、困難と感じることは何ですか。（いくつでも○）

「サービス事業者との日程調整」（75.2%）が最も多く、次いで「主治医の出席」（65.3%）、「家族の出席」（47.5%）、「自分の日程調整」（31.7%）と続いている。

図表　サービス担当者会議の開催にあたって困難と感じること
（全体：複数回答）



性別、年代別にみると、男性、40 代では「家族の出席」（男性:30.4%、40 代:33.3%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

資格別にみると、社会福祉士では「サービス事業者との日程調整」（56.3%）、「家族の出席」（37.5%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。社会福祉主事では「利用者の出席」（23.1%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「主治医の出席」（46.2%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「主治医の出席」（33.3%）、「家族の出席」（26.7%）が全体より 10 ポイント以上低く、一方で「会議の進め方」（40.0%）、「資料づくり」（26.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。５年以上７年未満では「サービス事業者との日程調整」（91.7%）、「家族の出席」（58.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　サービス担当者会議の開催にあたって困難と感じること
（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

(%)

			サービス事業者との日程調整	主治医の出席	家族の出席	自分の日程調整	会議の進め方	資料づくり	利用者の出席	感染症への対応	会場の確保	その他	無回答
全体		(N=101)	75.2	65.3	47.5	31.7	16.8	12.9	10.9	9.9	2.0	6.9	0.0
性別	男性	(n= 23)	73.9	69.6	30.4	26.1	8.7	13.0	13.0	8.7	4.3	13.0	0.0
	女性	(n= 75)	74.7	62.7	53.3	34.7	20.0	13.3	9.3	10.7	1.3	5.3	0.0
	答えたくない	(n= 3)	100.0	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	80.0	20.0	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	４０代	(n= 24)	70.8	62.5	33.3	29.2	16.7	16.7	4.2	12.5	0.0	8.3	0.0
	５０代	(n= 35)	77.1	65.7	57.1	28.6	25.7	17.1	14.3	5.7	2.9	8.6	0.0
	６０代	(n= 33)	72.7	69.7	48.5	33.3	3.0	6.1	12.1	15.2	3.0	3.0	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	100.0	100.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	81.7	64.6	51.2	29.3	19.5	14.6	11.0	11.0	1.2	4.9	0.0
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	81.0	69.0	47.6	28.6	21.4	21.4	9.5	9.5	2.4	11.9	0.0
	社会福祉士	(n= 16)	56.3	62.5	37.5	25.0	0.0	6.3	6.3	6.3	6.3	18.8	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	84.6	46.2	38.5	23.1	7.7	7.7	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	76.9	69.2	53.8	46.2	46.2	23.1	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	66.7	33.3	26.7	40.0	40.0	26.7	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	50.0	58.3	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0
	７年以上	(n= 74)	74.3	74.3	50.0	31.1	13.5	12.2	13.5	10.8	2.7	5.4	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	67.5	67.5	42.5	27.5	12.5	10.0	10.0	7.5	2.5	12.5	0.0
	ない	(n= 58)	81.0	63.8	50.0	34.5	20.7	15.5	12.1	12.1	1.7	3.4	0.0
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

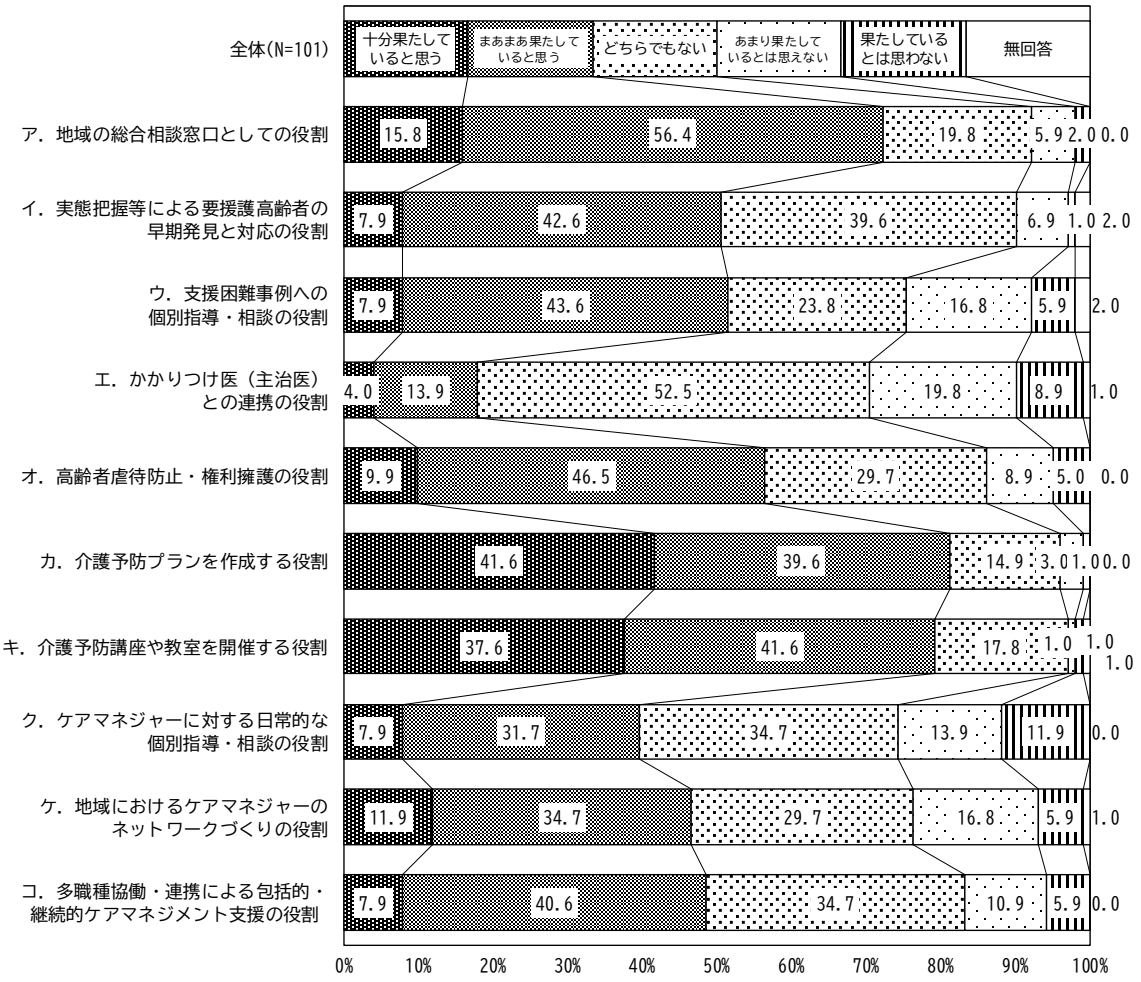
（７）地域包括支援センターの役割

問 15　市内の地域包括支援センターは、その役割を果たしていると思いますか。次の各項目についてお答えください。（ア～コのそれぞれ１つに○）

「十分果たしていると思う」と「まあまあ果たしていると思う」を合わせた割合は、『カ．介護予防プランを作成する役割』(81.2%)が最も多く、次いで『キ．介護予防講座や教室を開催する役割』(79.2%)、『ア．地域の総合相談窓口としての役割』(72.2%)、『オ．高齢者虐待防止・権利擁護の役割』(56.4%)と続いている。

一方、「あまり果たしているとは思えない」と「果たしているとは思わない」を合わせた割合は、『エ．かかりつけ医（主治医）との連携の役割』(28.7%)が最も多く、次いで『ク．ケアマネジャーに対する日常的な個別指導・相談の役割』(25.8%)、『ケ．地域におけるケアマネジャーのネットワークづくりの役割』、『ウ．支援困難事例への個別指導・相談の役割』(ともに 22.7%)、『コ．多職種協働・連携による包括的・継続的ケアマネジメント支援の役割』(16.8%）と続いている。

図表　地域包括支援センターの役割に対する評価（全体）



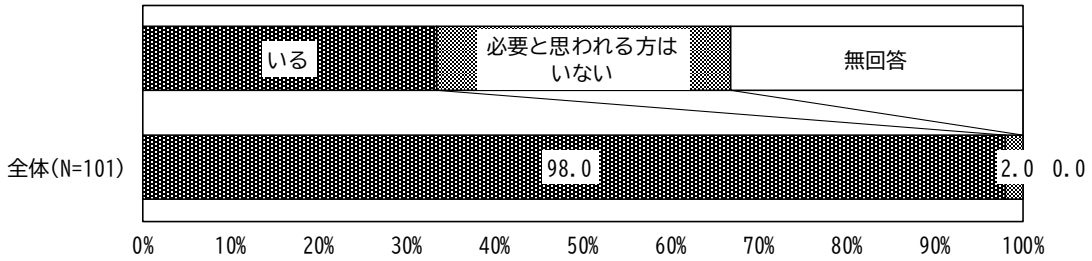
（8）サービス利用者の在宅医療の状況

問 16　あなたが担当している利用者の中に、訪問診療、訪問看護や訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる方はいますか。（アからエのそれぞれ１つに○）

【ア．訪問診療】

「いる」が 98.0%、「必要と思われる方はいない」が 2.0%となっている。

図表　訪問診療（全体）

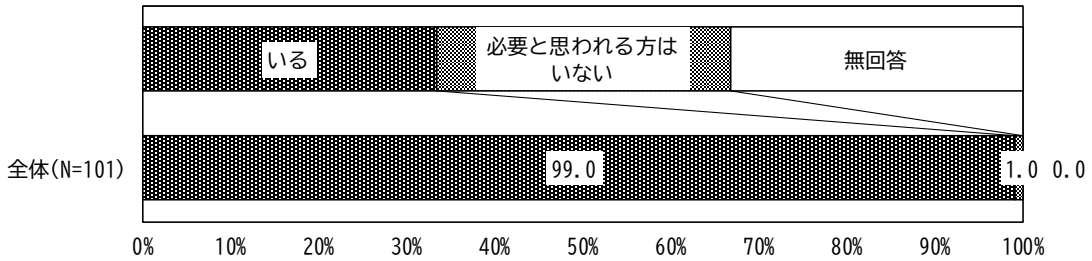


	必要と思われる方の数	実際に利用している方の数	充足率
合計人数	976	779	79.8%

【イ．訪問看護】

訪問看護は、「いる」が 99.0%、「必要と思われる方はいない」が 1.0%となっている。

図表　訪問看護（全体）

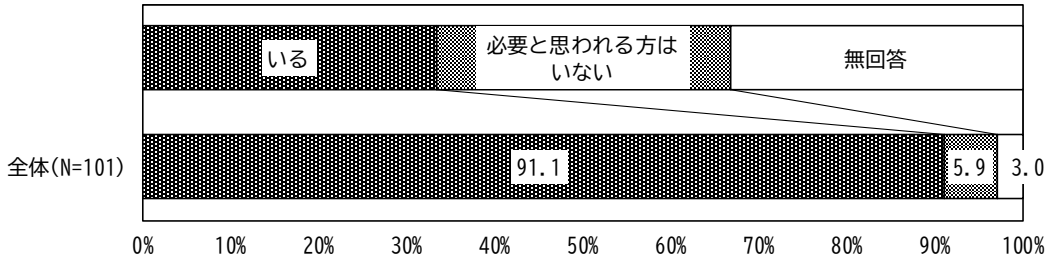


	必要と思われる方の数	実際に利用している方の数	充足率
合計人数	1,179	1,031	87.4%

【ウ．訪問歯科診療】

訪問歯科診療は、「いる」が 91.1%、「必要と思われる方はいない」が 5.9%となっている。

図表　訪問歯科診療（全体）

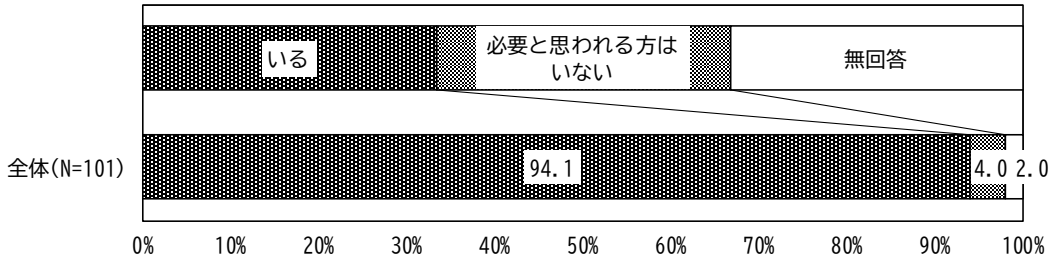


	必要と思われる方の数	実際に利用している方の数	充足率
合計人数	542	352	64.9%

【エ．訪問服薬管理指導】

訪問服薬管理指導は、「いる」が 94.1%、「必要と思われる方はいない」が 4.0%となっている。

図表　訪問服薬管理指導（全体）

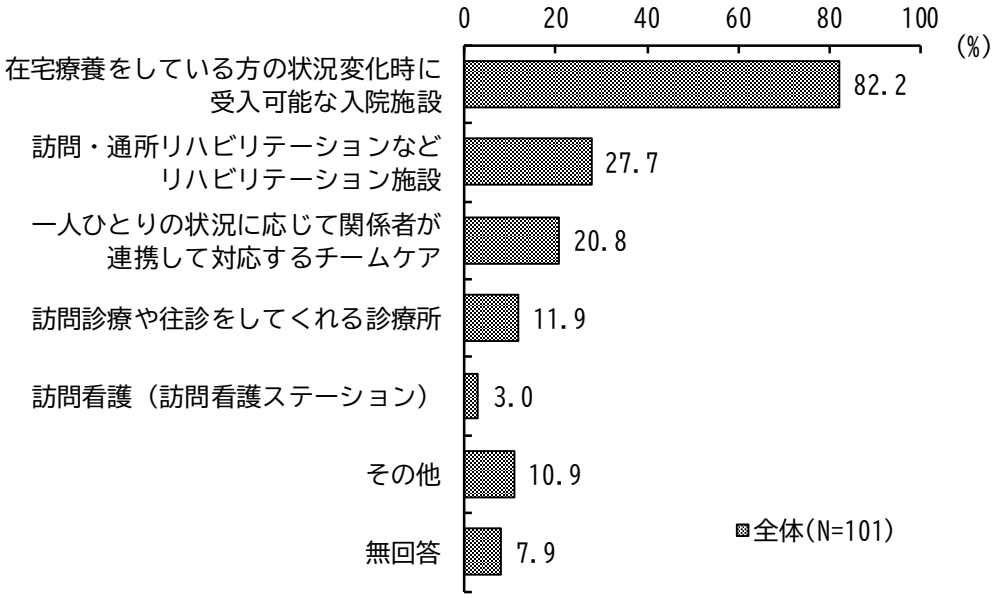


	必要と思われる方の数	実際に利用している方の数	充足率
合計人数	758	541	71.4%

問 17　あなたは、専門職の立場からみて、高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能は何だと考えますか。（いくつでも○）

「在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設」(82.2%)が最も多く、次いで「訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設」（27.7%)、「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」（20.8%)、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」（11.9%）と続いている。

図表　高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能
（全体：複数回答）



性別にみると、男性は「訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設」（39.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉主事は「在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設」（92.3%）、「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」（30.8%）、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」（30.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満、５年以上７年未満では「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」（ともに 33.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。一方で、５年未満は「在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設」（66.7%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

図表　高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能
（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

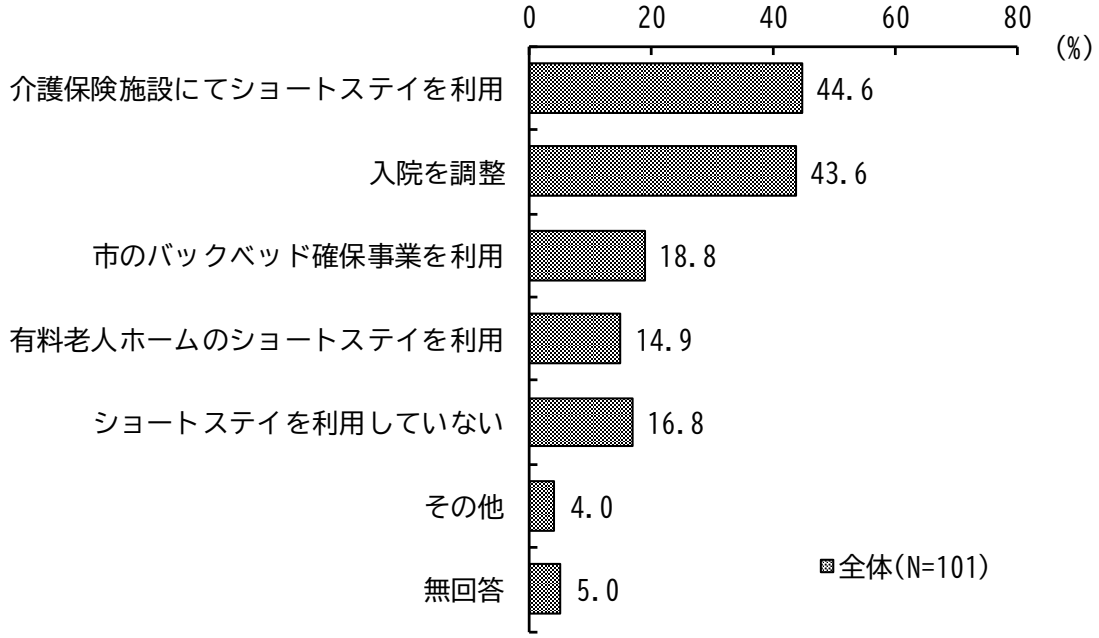
（%）

			在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設	訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設	一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア	訪問診療や往診をしてくれる診療所	訪問看護（訪問看護ステーション）	その他	無回答
全体		(N=101)	82.2	27.7	20.8	11.9	3.0	10.9	7.9
性別	男性	(n= 23)	73.9	39.1	17.4	17.4	4.3	17.4	4.3
	女性	(n= 75)	84.0	25.3	21.3	10.7	2.7	9.3	9.3
	答えたくない	(n= 3)	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	60.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	４０代	(n= 24)	83.3	25.0	29.2	12.5	8.3	20.8	0.0
	５０代	(n= 35)	85.7	31.4	11.4	17.1	2.9	5.7	8.6
	６０代	(n= 33)	81.8	24.2	15.2	9.1	0.0	12.1	9.1
	７０歳以上	(n= 4)	75.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
（上位４位）資格別	介護福祉士	(n= 82)	81.7	26.8	23.2	11.0	3.7	8.5	8.5
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	85.7	40.5	21.4	11.9	2.4	7.1	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	87.5	31.3	0.0	6.3	0.0	25.0	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	92.3	7.7	30.8	30.8	7.7	7.7	0.0
	その他	(n= 13)	76.9	53.8	46.2	15.4	7.7	7.7	7.7
経験年数別	５年未満	(n= 15)	66.7	20.0	33.3	6.7	6.7	0.0	20.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	8.3	33.3	8.3	8.3	0.0	8.3
	７年以上	(n= 74)	83.8	32.4	16.2	13.5	1.4	14.9	5.4
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	85.0	30.0	17.5	7.5	0.0	15.0	5.0
	ない	(n= 58)	79.3	25.9	22.4	15.5	5.2	6.9	10.3
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

問 18　医療的ケア（胃ろう、吸引、インスリン、人工肛門など）が必要な利用者のショートステイ（レスパイト）に関して、どのように対応されていますか。（いくつでも○）

医療的ケアが必要な人のショートステイの利用状況は、「介護保険施設にてショートステイを利用」（44.6%）が最も多く、次いで「入院を調整」（43.6%）、「市のバックベッド確保事業を利用」（18.8%）、「ショートステイを利用していない」（16.8%）と続いている。

図表　医療的ケアが必要な人のショートステイの利用状況
（全体：複数回答）



性別にみると、男性は「介護保険施設にてショートステイを利用」（21.7%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。

年代別にみると、40 代は「有料老人ホームのショートステイを利用」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉主事は「介護保険施設にてショートステイを利用」（61.5%）、「入院を調整」（53.8%）、「有料老人ホームのショートステイを利用」（30.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満、５年以上７年未満ともに「入院を調整」（５年未満:13.3%、５年以上７年未満:16.7%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。一方で、７年以上では「入院を調整」（54.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、「入院を調整」について、主任ケアマネ資格があるでは 62.5%と全体より 10 ポイント以上高く、主任ケアマネ資格がないでは 31.0%と全体より 10 ポイント以上低くなっている。

図表　医療的ケアが必要な人のショートステイの利用状況

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			介護保険施設にてショートステイを利用	入院を調整	市のバックベッド確保事業を利用	有料老人ホームのショートステイを利用	ショートステイを利用していない	その他	無回答
全体		(N=101)	44.6	43.6	18.8	14.9	16.8	4.0	5.0
性別	男性	(n= 23)	21.7	43.5	26.1	8.7	21.7	4.3	8.7
	女性	(n= 75)	52.0	44.0	16.0	16.0	16.0	4.0	4.0
	答えたくない	(n= 3)	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0
	４０代	(n= 24)	50.0	41.7	20.8	25.0	25.0	4.2	0.0
	５０代	(n= 35)	37.1	42.9	20.0	11.4	14.3	0.0	8.6
	６０代	(n= 33)	48.5	48.5	18.2	12.1	12.1	6.1	3.0
	７０歳以上	(n= 4)	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	43.9	42.7	17.1	14.6	18.3	3.7	6.1
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	35.7	47.6	26.2	2.4	26.2	2.4	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	31.3	43.8	12.5	12.5	25.0	6.3	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	61.5	53.8	23.1	30.8	15.4	7.7	0.0
	その他	(n= 13)	46.2	15.4	15.4	23.1	38.5	7.7	7.7
経験年数別	５年未満	(n= 15)	40.0	13.3	6.7	26.7	33.3	6.7	13.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	58.3	16.7	0.0	25.0	16.7	0.0	8.3
	７年以上	(n= 74)	43.2	54.1	24.3	10.8	13.5	4.1	2.7
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	47.5	62.5	20.0	12.5	7.5	5.0	0.0
	ない	(n= 58)	41.4	31.0	17.2	17.2	24.1	3.4	8.6
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 19　今後、医療的ケアが必要な在宅療養者が増加することが考えられます。このとき、在宅療養を継続するうえで必要と思われる支援・サービスを具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、79 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
レスパイト支援	14 件
医療との連携・関係性	13 件
医療的ケアができる老健、SS など	9件
24 時間対応のサービス・定期巡回サービス	8件
訪問系サービスの充実（訪問診療含め）	6件
医療行為ができるヘルパーが必要	3件
緊急時の訪診、訪看	3件
バックベッド確保事業の拡大と質の向上	3件
入院手続きの簡素化	2件
急変時の入院施設、一時的な受け入れ先が必要	2件
SS や入院が必要な場合のフローの明確化	2件
複数科の訪問診療	2件
医療側に高齢者対応の研修が必要	1件
夜間不安定な方は SS が利用できない	1件
入院中のリハビリフォローが必要	1件
生活を支える障害福祉制度	1件
家族の集まりなどの支援	1件
医療ケアに対する柔軟な仕組みづくり	1件
訪問診療、看護ともに不足していると感じない	1件
1 日に複数回必要な訪問医療サービス	1件
老健を検討して欲しい	1件
老健、特養の SS 利用ができるとよい	1件
わからない・特にない	2件

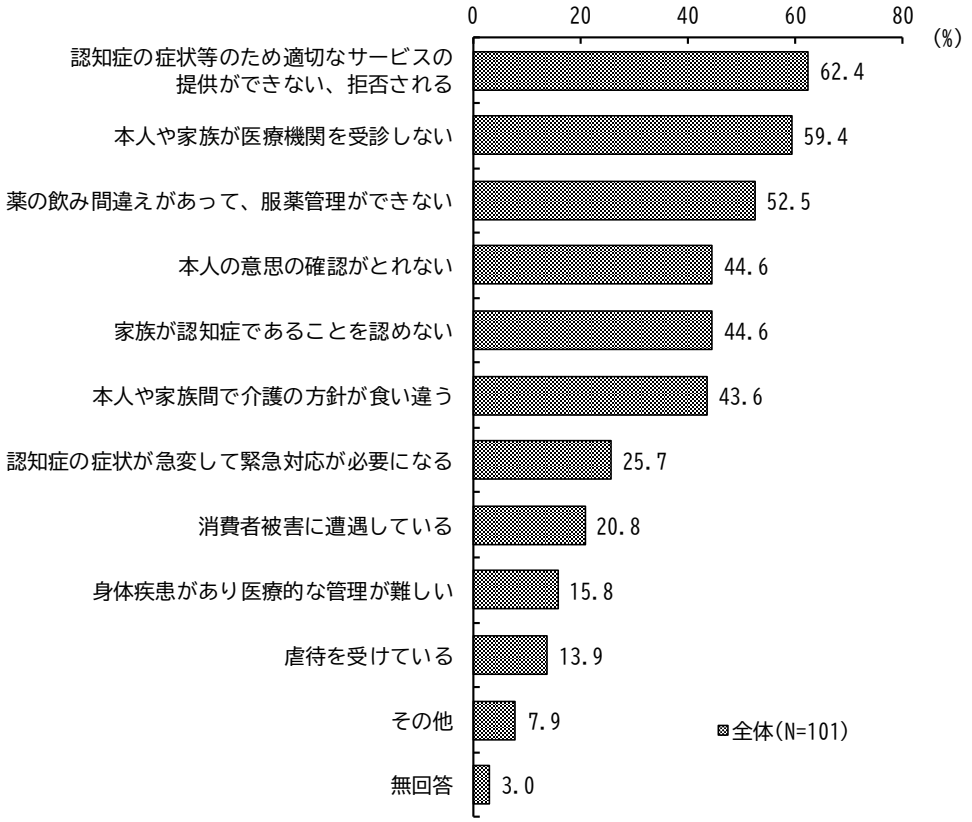
（９）認知症のある利用者のサービス利用

問 20　あなたが担当している認知症のある利用者の状況で、実際にあることは次のどれですか。またそのうち、最も大変なことはどれですか。（いくつでも○、最も大変なことに◎）

【実際にあること】

「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(62.4%)が最も多く、次いで「本人や家族が医療機関を受診しない」(59.4%)、「薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない」(52.5%)、「本人の意思の確認がとれない」、「家族が認知症であることを認めない」（ともに 44.6%）と続いている。

図表　認知症のある利用者の状況で実際にあること（全体：複数回答）



経験年数別にみると、5年未満では「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」（40.0%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。5年以上7年未満では「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」（75.0%）、「薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない」（66.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格があるは「虐待を受けている」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症のある利用者の状況で実際にあること
（全体、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される	本人や家族が医療機関を受診しない	薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない	本人の意思の確認がとれない	家族が認知症であることを認めない	本人や家族間で介護の方針が食い違う
全体		(N=101)	62.4	59.4	52.5	44.6	44.6	43.6
経験年数別	5年未満	(n= 15)	40.0	60.0	53.3	46.7	40.0	40.0
	5年以上7年未満	(n= 12)	75.0	58.3	66.7	16.7	50.0	41.7
	7年以上	(n= 74)	64.9	59.5	50.0	48.6	44.6	44.6
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	70.0	62.5	47.5	52.5	45.0	42.5
	ない	(n= 58)	58.6	56.9	56.9	41.4	44.8	43.1
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	66.7

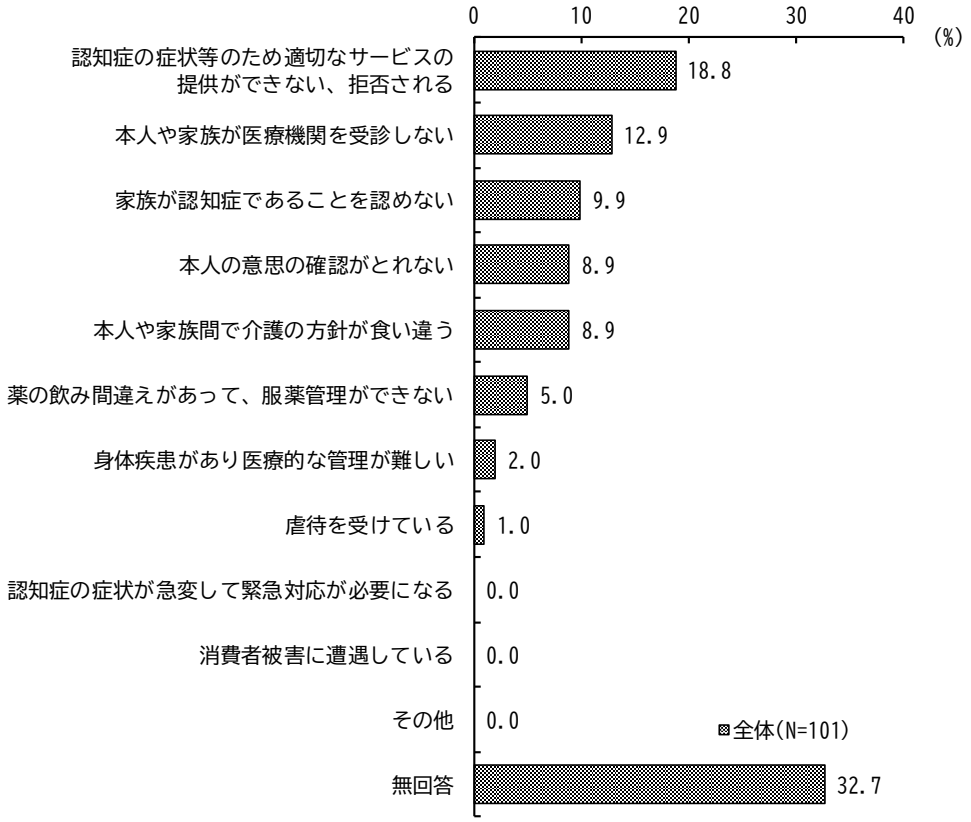
（%）

			認知症の症状が急変して緊急対応が必要になる	消費者被害に遭遇している	身体疾患があり医療的な管理が難しい	虐待を受けている	その他	無回答
全体		(N=101)	25.7	20.8	15.8	13.9	7.9	3.0
経験年数別	5年未満	(n= 15)	20.0	13.3	6.7	6.7	0.0	6.7
	5年以上7年未満	(n= 12)	33.3	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3
	7年以上	(n= 74)	25.7	23.0	18.9	16.2	9.5	1.4
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	32.5	20.0	15.0	25.0	7.5	0.0
	ない	(n= 58)	19.0	20.7	17.2	6.9	8.6	5.2
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

【最も大変なこと】

「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(18.8%)が最も多く、次いで「本人や家族が医療機関を受診しない」(12.9%)、「家族が認知症であることを認めない」(9.9%)、「本人の意思の確認がとれない」、「本人や家族間で介護の方針が食い違う」（ともに8.9%）と続いている。

図表　認知症のある利用者の状況で最も大変なこと（全体）



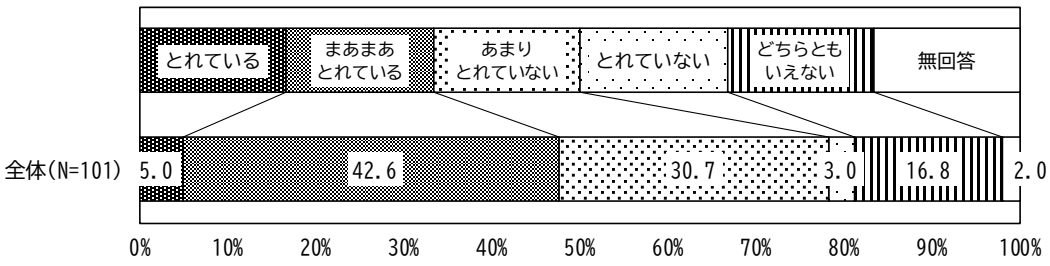
問 21　あなたは認知症のある利用者の支援にあたって、かかりつけ医との連携はとれていると思いますか。（１つに○）

「とれている」（5.0%）、「まあままとれている」（42.6%）を合わせた割合は 47.6%となっている。一方で、「あまりとれていない」（30.7%）、「とれていない」（3.0%）を合わせた割合は 33.7%となっている。

経験年数別にみると、５年以上７年未満では「あまりとれていない」（50.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格があるは「まあまあとれている」（57.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症のある利用者の支援にあたってのかかりつけ医との連携（全体）



図表　認知症のある利用者の支援にあたってのかかりつけ医との連携
（全体、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別）

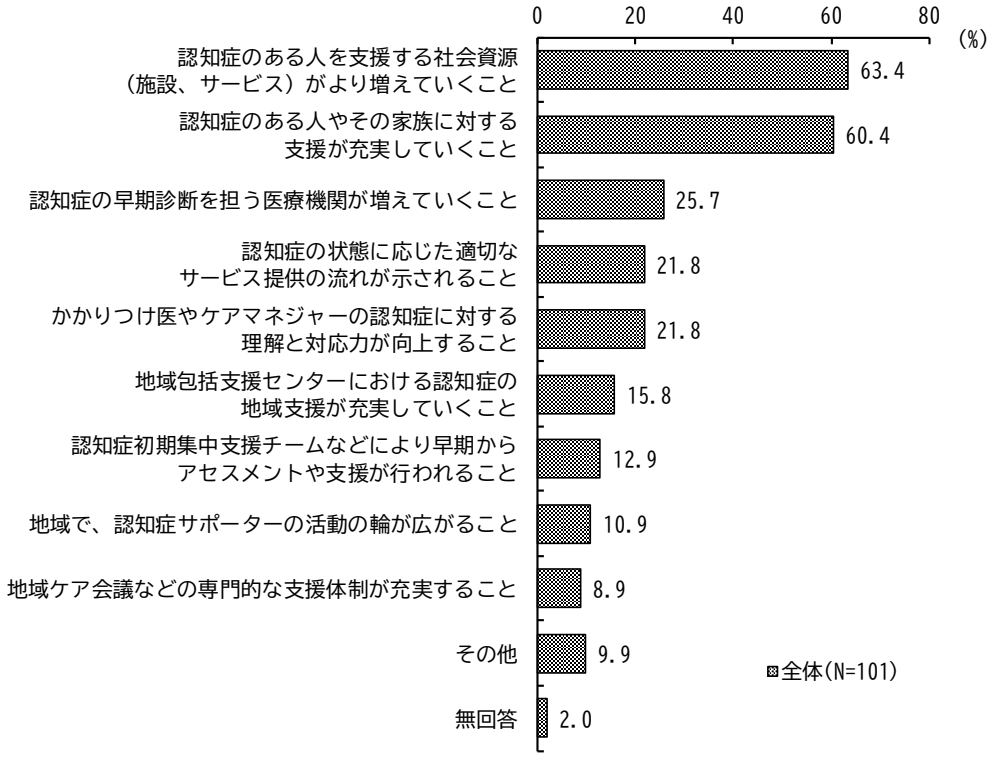
(%)

			とれている	まあまあとれている	あまりとれていない	とれていない	どちらともいえない	無回答
全体		(N=101)	5.0	42.6	30.7	3.0	16.8	2.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	0.0	40.0	33.3	6.7	13.3	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	0.0	25.0	50.0	0.0	16.7	8.3
	７年以上	(n= 74)	6.8	45.9	27.0	2.7	17.6	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	2.5	57.5	25.0	2.5	12.5	0.0
	ない	(n= 58)	6.9	34.5	32.8	3.4	19.0	3.4
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0

問 22　これから認知症のある利用者の支援にあたり必要になると思うことは、次のどれですか。（３つまでに○）

認知症のある利用者の支援に必要になることは、「認知症のある人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」（63.4%）が最も多く、次いで「認知症のある人やその家族に対する支援が充実していくこと」（60.4%）、「認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと」（25.7%）、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」、「かかりつけ医やケアマネジャーの認知症に対する理解と対応力が向上すること」（ともに 21.8%）と続いている。

図表　認知症のある利用者の支援に必要になること（全体：複数回答）



資格別にみると、社会福祉士では「認知症のある人やその家族に対する支援が充実していくこと」（81.3%）が、社会福祉主事では「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」（46.2%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」（40.0%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「認知症のある人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」（53.3%）、「認知症のある人やその家族に対する支援が充実していくこと」（46.7%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「認知症のある人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」（75.0%）、「認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと」（41.7%）、「認知症初期集中支援チームなどにより早期からアセスメントや支援が行われること」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　認知症のある利用者の支援に必要になること
（全体、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

(%)

			認知症のある人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと	認知症のある人やその家族に対する支援が充実していくこと	認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと	認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること	かかりつけ医やケアマネジャーの認知症に対する理解と対応力が向上すること	地域包括支援センターにおける認知症の地域支援が充実していくこと
全体		(N=101)	63.4	60.4	25.7	21.8	21.8	15.8
資格別（上位4位）	介護福祉士	(n= 82)	64.6	59.8	24.4	23.2	20.7	15.9
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	69.0	57.1	21.4	28.6	26.2	16.7
	社会福祉士	(n= 16)	75.0	81.3	25.0	6.3	18.8	18.8
	社会福祉主事	(n= 13)	53.8	46.2	30.8	46.2	15.4	0.0
	その他	(n= 13)	46.2	61.5	23.1	38.5	23.1	23.1
経験年数別	５年未満	(n= 15)	53.3	46.7	26.7	40.0	6.7	13.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	75.0	50.0	41.7	16.7	16.7	8.3
	７年以上	(n= 74)	63.5	64.9	23.0	18.9	25.7	17.6
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	70.0	70.0	25.0	15.0	25.0	15.0
	ない	(n= 58)	60.3	53.4	25.9	25.9	20.7	17.2
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0

(%)

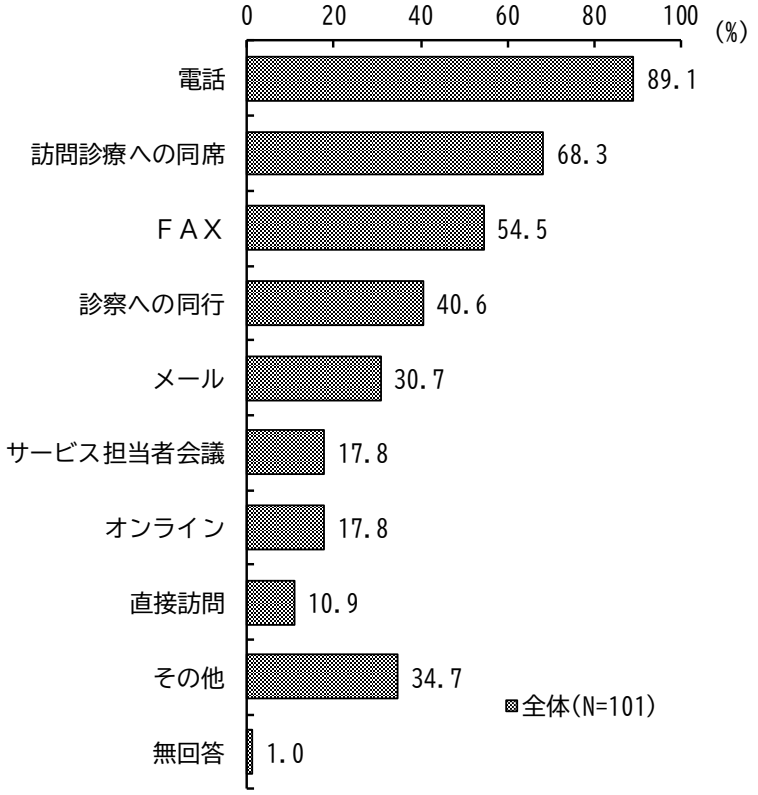
			認知症初期集中支援チームなどにより早期からアセスメントや支援が行われること	地域で、認知症サポーターの活動の輪が広がること	地域ケア会議などの専門的な支援体制が充実すること	その他	無回答
全体		(N=101)	12.9	10.9	8.9	9.9	2.0
資格別（上位4位）	介護福祉士	(n= 82)	12.2	9.8	8.5	9.8	2.4
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	11.9	4.8	4.8	9.5	4.8
	社会福祉士	(n= 16)	6.3	12.5	18.8	12.5	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	7.7	15.4	15.4	7.7	0.0
	その他	(n= 13)	7.7	15.4	0.0	23.1	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	0.0	20.0	0.0	20.0	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	25.0	16.7	16.7	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	13.5	8.1	9.5	9.5	1.4
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	20.0	10.0	10.0	7.5	0.0
	ない	(n= 58)	6.9	10.3	6.9	12.1	3.4
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0

（10）医療と介護の連携状況

問 23　医療機関やかかりつけ医と通常どのような方法で情報を交換していますか。
（いくつでも○）

「電話」（89.1%）が最も多く、次いで「訪問診療への同席」（68.3%）、「ＦＡＸ」（54.5%）、「診察への同行」（40.6%）と続いている。

図表　医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法（全体：複数回答）



性別にみると、男性では「ＦＡＸ」（73.9%）、「直接訪問」（26.1%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「訪問診療への同席」（56.5%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

年代別にみると、40 代では「ＦＡＸ」（75.0%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉士では「診察への同行」（25.0%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「訪問診療への同席」（40.0%）、「メール」（20.0%）、「診察への同行」（13.3%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、主任ケアマネ資格があるは「オンライン」（30.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

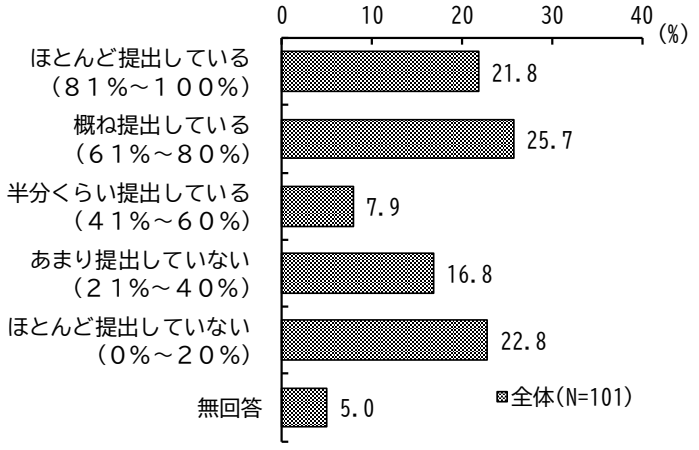
			電話	訪問診療への同席	ＦＡＸ	診察への同行	メール	サービス担当者会議	オンライン	直接訪問	その他	無回答
全体		(N=101)	89.1	68.3	54.5	40.6	30.7	17.8	17.8	10.9	34.7	1.0
性別	男性	(n= 23)	91.3	56.5	73.9	43.5	34.8	26.1	26.1	26.1	21.7	0.0
	女性	(n= 75)	88.0	70.7	49.3	38.7	30.7	16.0	16.0	6.7	37.3	1.3
	答えたくない	(n= 3)	100.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	100.0	100.0	60.0	40.0	60.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
	４０代	(n= 24)	91.7	70.8	75.0	41.7	33.3	20.8	25.0	12.5	33.3	0.0
	５０代	(n= 35)	91.4	62.9	42.9	45.7	28.6	14.3	17.1	8.6	34.3	2.9
	６０代	(n= 33)	87.9	66.7	51.5	33.3	24.2	18.2	12.1	9.1	36.4	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	50.0	75.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	89.0	67.1	53.7	41.5	26.8	19.5	14.6	7.3	37.8	1.2
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	85.7	71.4	52.4	40.5	35.7	23.8	14.3	9.5	28.6	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	93.8	75.0	50.0	25.0	31.3	12.5	18.8	18.8	43.8	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	92.3	76.9	53.8	30.8	30.8	15.4	7.7	7.7	30.8	0.0
	その他	(n= 13)	69.2	46.2	46.2	30.8	7.7	7.7	15.4	0.0	30.8	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	80.0	40.0	46.7	13.3	20.0	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	66.7	50.0	33.3	8.3	8.3	16.7	0.0	50.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	90.5	74.3	56.8	47.3	36.5	21.6	18.9	13.5	37.8	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	95.0	77.5	60.0	45.0	32.5	22.5	30.0	12.5	45.0	0.0
	ない	(n= 58)	84.5	62.1	48.3	37.9	27.6	12.1	10.3	8.6	29.3	1.7
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	100.0	66.7	100.0	33.3	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0

問 24　あなたは、利用者が入院する際に、どれくらいの頻度で情報提供書を作成し、入院先へ提供していますか。（１つに○）

「概ね提出している（61%～80%）」（25.7%）が最も多く、次いで「ほとんど提出していない（0%～20%）」（22.8%）、「ほとんど提出している（81%～100%）」（21.8%）、「あまり提出していない（21%～40%）」（16.8%）、「半分くらい提出している（41%～60%）」（7.9%）と続いている。

経験年数別にみると、５年未満では「あまり提出していない（21%～40%）」（6.7%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「概ね提出している（61%～80%）」（8.3%）が全体より 10 ポイント以上低く、一方で「ほとんど提出していない（0%～20%）」（33.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　入院時の情報提供書の提出状況（全体）



図表　入院時の情報提供書の提出状況
（全体、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別）

(%)

			ほとんど提出している（８１%～１００%）	概ね提出している（６１%～８０%）	半分くらい提出している（４１%～６０%）	あまり提出していない（２１%～４０%）	ほとんど提出していない（０%～２０%）	無回答
全体		(N=101)	21.8	25.7	7.9	16.8	22.8	5.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	13.3	20.0	13.3	6.7	26.7	20.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	16.7	8.3	16.7	16.7	33.3	8.3
	７年以上	(n= 74)	24.3	29.7	5.4	18.9	20.3	1.4
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	22.5	30.0	10.0	17.5	20.0	0.0
	ない	(n= 58)	22.4	22.4	6.9	17.2	22.4	8.6
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0

問 25　あなたは、医療関係機関（病院（地域連携室）、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション）にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、329 件（病院（地域連携室）：75 件、診療所：67 件、歯科診療所：61 件、薬局：60 件、訪問看護ステーション：66 件）の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【病院（地域連携室）：75 件】

内容	件数
入退院時の密な連携。入院時の経過の共有。	20 件
ケアマネとのタイムリーな情報共有、連携ネットワークの実装	15 件
連絡の取りやすさ、丁寧な対応	10 件
退院後の生活について本人、家族の意向を聞いて欲しい	5件
退院後の在宅生活やケアプランを理解して欲しい	5件
迅速な事務処理	3件
地域連携を重視してほしい、介護と医療の連携の周知	2件
必要時の退院時カンファレンスの設定	2件
通院経過などの報告書等があるとよい	2件
緊急時の柔軟な受け入れ	2件
連携の窓口が明示され連携しやすくなった	1件
患者に寄り添った診察	1件
家屋調査を取り入れて欲しい	1件
入院期間をしっかりとって欲しい	1件
医療依存度が高い利用者の医療ショートやレスパイト入院	1件
今後も連携を希望	1件
早期の連携	1件
特になし	2件

【診療所：67 件】

内容	件数
連絡の取りやすさ、直接相談できると良い（症状のアドバイスなど）	11 件
丁寧に対応して欲しい	8件
タイムリーな情報共有	6件
利用者の生活について本人、家族の意向を聞いて欲しい	4件
福祉への理解、他職種との連携	4件
ＭＳＣ、メール等の活用	4件
現状の連携が適切で助かっている	4件
連携ネットワークの実装	3件
必要時は病院など他機関につないで欲しい	2件
連携の取りやすさ	2件
必要な薬の処方	2件
主治医意見書をすみやかに書いて欲しい	2件

内容	件数
早めの連絡、入院時のフォロー	２件
柔軟な受け入れ、急変時の対応	２件
相談員、担当者を置いて欲しい	２件
訪看が入っているとなかなか訪診してもらえない	１件
問い合わせ時の情報提供	１件
サービス利用に必要な意見など柔軟な対応	１件
かかりつけ医としての役割	１件
ケアプランの意図	１件
専門的な医療サービスの提供	１件
特になし	３件

【歯科診療所：61 件】

内容	件数
口腔ケア、嚥下機能等の評価、食事形態などの相談	８件
診療情報を頂いている、今後も連携を図って欲しい	６件
タイムリーな情報共有、情報共有のしやすさ	６件
連携ネットワークの実装、スムーズな連携	４件
治療計画、事前に訪問日を知らせて欲しい	２件
連絡の取りやすさ、問い合わせ時の対応の統一	２件
回数を減らして欲しい	２件
適切な治療、入れ歯が合わない場合のフォロー	２件
ＭＳＣの活用	２件
臨時の往診、柔軟な受け入れ	２件
介護の理解、ケアプランの意図	２件
本人・家族の要望に応じて対応して欲しい	１件
定期的な診療を促して欲しい	１件
必要時は同席したい	１件
他職種との連携	１件
歯科医院のバリアフリー対応	１件
口腔リハビリの拡充	１件
居宅療養管理指導書に記載している内容の改善	１件
歯科にかかることが少ない	１件
報告書がいつも同じ。状態が分かるようにして欲しい	１件
自宅で嚥下検査ができる設備を備えたクリニック	１件
その他	１件
特になし	12 件

【薬局：60 件】

内容	件数
ケアマネへの情報提供（訪問日、薬の優先順位など）	10 件
薬剤管理指導、残薬の確認、服薬状況の確認	８件
現状の連携で満足	５件
連携の取りやすさ、連携ネットワークの実装	５件
介護サービスの理解、他職種との連携	４件
利用者にお薬カレンダー等、薬以外の情報提供	３件
情報共有のしやすさ	３件
オンラインでの情報共有	２件
複数の病院の薬の把握	１件
今後かかわりを増やしたい	１件
担当者会議への参加	１件
薬へのアドバイス	１件
診療情報の報告がない薬局が多い	１件
訪問薬局が薬を届けるだけの事例がある	１件
居宅療養管理指導書に記載している内容の改善	１件
連携出来ているところと出来ないところがある	１件
服薬ロボットの活用	１件
ＳＳ利用前の薬の準備	１件
一包化をすすめて欲しい	１件
特になし	９件

【訪問看護ステーション：66 件】

内容	件数
本人や家族の生活状況を把握したうえで改善案の提案	９件
現状の連携で満足	８件
主治医との連携、つなぎ役	７件
スムーズな連携、情報共有のしやすさ	７件
他職種との連携、介護への理解と連携	７件
柔軟性のあるサービス、対応	３件
退院前カンファレンス・担当者会議への出席	３件
対応の統一	３件
適切なサービスの提供	２件
緊急時加算時の迅速な対応・報告	２件
体調、医療面のサポート	２件
ＭＳＣなど連携ネットワーク活用の徹底	２件
リハビリと看護の評価内容があると良い	１件
担当者以外でも事業所に相談できるようにして欲しい	１件
医療保険のサービスでもチームに加わって欲しい	１件
リハビリ卒業の際に切り捨てないで欲しい	１件
リハビリがあると良い	１件
時間変更の頻度が多く困る	１件

内容	件数
市内の夜間対応の事業所が少なく市外事業所と調整している	１件
特になし	４件

問 26　あなたは、医療と介護の連携で、どんなことに苦労していますか。具体的にお書きください。

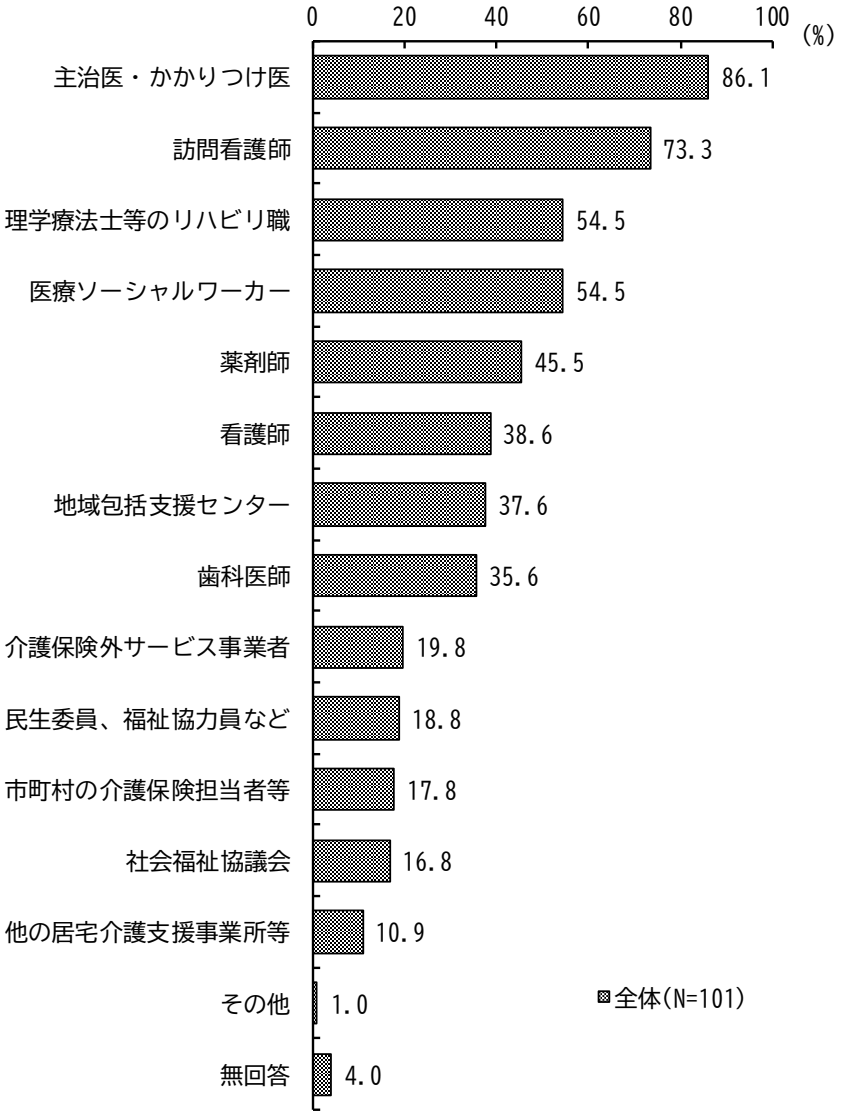
自由記述形式で聞いたところ、71 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
医師と連絡が取りづらく、書類作成に時間がかかる	13 件
病院や医師との関係がうまくいかない、連携が図りづらい	13 件
医療側に介護保険やサービスへの理解が乏しい	11 件
タイムリーな情報交換が難しい	６件
医療の専門的な話が理解できないことがある	３件
主治医がケアマネに退院時や受診時の動向を指示する	２件
通院の場合の連絡先が分からない	２件
事業所により見解が異なる	１件
本人の生活を考慮したうえで提案して欲しい	１件
医療枠の訪問看護を介護保険で請求できなかったケースがある	１件
ＩＣＴを活用した連携	１件
主治医連絡票の記載を渋られる	１件
文書で連絡しても返事が来ない	１件
受診頻度を減らしてもらえない	１件
全てケアマネに連絡してくるので負担が大きい	１件
急に医療が必要になり初回診療にケアマネが立ち会えない	１件
必要書類の依頼	１件
柔軟な受け入れができない	１件
本人の状況に合わせて薬を処方して欲しい	１件
以前より連携しやすくなった	１件
栄養指導の支援ができない	１件
連携室とのやり取りに不満	１件
情報共有の窓口が不在なとき	１件
その他	１件
特になし	４件

問 27　在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える職種・役職などは何ですか。（いくつでも○）

「主治医・かかりつけ医」（86.1%）が最も多く、次いで「訪問看護師」（73.3%）、「理学療法士等のリハビリ職」、「医療ソーシャルワーカー」（ともに 54.5%）、「薬剤師」（45.5%）と続いている。

図表　在宅療養を支える上で、さらに連携が必要と考える職種
（全体：複数回答）



資格別にみると、社会福祉士では「医療ソーシャルワーカー」（75.0%）、「薬剤師」（56.3%）が、社会福祉主事では「地域包括支援センター」（53.8%）、「民生委員、福祉協力員など」（30.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「主治医・かかりつけ医」（73.3%）など６項目で全体より 10 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「医療ソーシャルワーカー」（33.3%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。

図表　在宅療養を支える上で、さらに連携が必要と考える職種
（全体、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

(%)

			主治医・かかりつけ医	訪問看護師	理学療法士等のリハビリ職	医療ソーシャルワーカー	薬剤師	看護師	地域包括支援センター	歯科医師
全体		(N=101)	86.1	73.3	54.5	54.5	45.5	38.6	37.6	35.6
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	85.4	72.0	56.1	51.2	47.6	39.0	37.8	39.0
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	88.1	81.0	54.8	52.4	42.9	31.0	38.1	35.7
	社会福祉士	(n= 16)	75.0	62.5	50.0	75.0	56.3	25.0	25.0	43.8
	社会福祉主事	(n= 13)	84.6	69.2	38.5	53.8	46.2	46.2	53.8	30.8
	その他	(n= 13)	84.6	76.9	53.8	69.2	46.2	46.2	61.5	38.5
経験年数別	５年未満	(n= 15)	73.3	66.7	40.0	40.0	33.3	40.0	46.7	33.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	83.3	66.7	50.0	33.3	41.7	41.7	33.3	16.7
	７年以上	(n= 74)	89.2	75.7	58.1	60.8	48.6	37.8	36.5	39.2
主任ケアマネの有無別資格	ある	(n= 40)	87.5	72.5	57.5	57.5	47.5	30.0	32.5	35.0
	ない	(n= 58)	84.5	72.4	51.7	51.7	46.6	43.1	41.4	37.9
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	100.0	100.0	66.7	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0

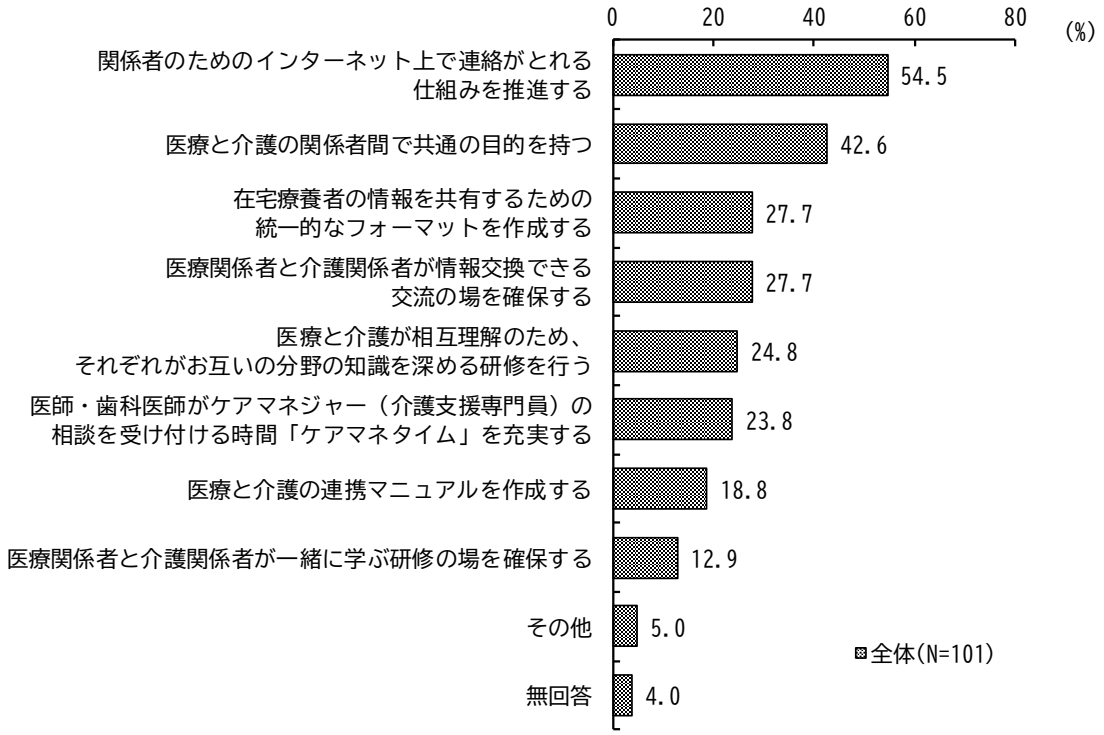
(%)

			介護保険外サービス事業者	民生委員、福祉協力員など	市町村の介護保険担当者等	社会福祉協議会	他の居宅介護支援事業所等	その他	無回答
全体		(N=101)	19.8	18.8	17.8	16.8	10.9	1.0	4.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	22.0	19.5	19.5	18.3	12.2	1.2	3.7
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	16.7	16.7	19.0	21.4	11.9	0.0	4.8
	社会福祉士	(n= 16)	25.0	0.0	18.8	25.0	6.3	0.0	6.3
	社会福祉主事	(n= 13)	15.4	30.8	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	23.1	30.8	38.5	38.5	15.4	0.0	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	13.3	13.3	6.7	20.0	0.0	0.0	13.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	8.3	8.3	25.0	8.3	16.7	0.0	8.3
	７年以上	(n= 74)	23.0	21.6	18.9	17.6	12.2	1.4	1.4
主任ケアマネの有無別資格	ある	(n= 40)	20.0	22.5	12.5	10.0	17.5	2.5	2.5
	ない	(n= 58)	19.0	15.5	22.4	22.4	6.9	0.0	5.2
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 28　貴事業所では、医療と介護の連携を図るためにどのようなことが必要だとお考えですか。（３つまでに○）

「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」（54.5%）が最も多く、次いで「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」（42.6%）、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（ともに 27.7%）、「医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う」（24.8%）と続いている。

図表　医療と介護の連携を図るために必要なこと（全体：複数回答）



性別にみると、男性は「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（43.5%）、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」（39.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

年代別にみると、50 代は「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」（42.9%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

資格別にみると、社会福祉士では「医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う」（37.5%）が、社会福祉主事では「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」（76.9%）、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（46.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「医師・歯科医師がケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する」（46.7%）、「医療と介護の連携マニュアルを作成する」（33.3%）が、５年以上７年未満では「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」（66.7%）、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」（50.0%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　医療と介護の連携を図るために必要なこと

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

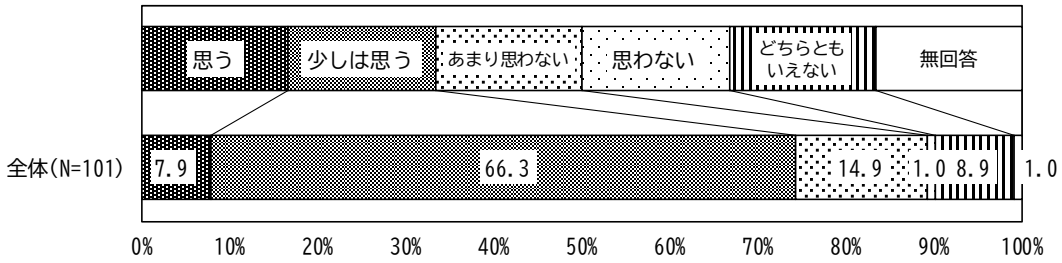
			関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する	医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ	在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する	医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する	医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う	医師・歯科医師がケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する	医療と介護の連携マニュアルを作成する	医療関係者と介護関係者が一緒に学ぶ研修の場を確保する	その他	無回答
全体		(N=101)	54.5	42.6	27.7	27.7	24.8	23.8	18.8	12.9	5.0	4.0
性別	男性	(n= 23)	60.9	30.4	39.1	43.5	17.4	26.1	17.4	13.0	0.0	0.0
	女性	(n= 75)	53.3	46.7	25.3	22.7	26.7	22.7	20.0	12.0	6.7	4.0
	答えたくない	(n= 3)	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
年代別	３０代	(n= 5)	80.0	40.0	0.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	４０代	(n= 24)	66.7	45.8	37.5	33.3	29.2	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0
	５０代	(n= 35)	42.9	42.9	28.6	14.3	17.1	20.0	25.7	14.3	2.9	8.6
	６０代	(n= 33)	54.5	36.4	21.2	36.4	27.3	24.2	18.2	15.2	12.1	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	50.0	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	51.2	46.3	26.8	25.6	24.4	24.4	18.3	12.2	4.9	4.9
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	50.0	45.2	28.6	33.3	23.8	26.2	16.7	11.9	2.4	4.8
	社会福祉士	(n= 16)	56.3	43.8	31.3	18.8	37.5	18.8	12.5	18.8	0.0	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	61.5	76.9	23.1	46.2	30.8	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0
	その他	(n= 13)	76.9	53.8	30.8	23.1	7.7	23.1	15.4	0.0	0.0	7.7
経験年数別	５年未満	(n= 15)	60.0	33.3	26.7	20.0	13.3	46.7	33.3	13.3	0.0	13.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	66.7	41.7	50.0	16.7	25.0	33.3	25.0	8.3	8.3	0.0
	７年以上	(n= 74)	51.4	44.6	24.3	31.1	27.0	17.6	14.9	13.5	5.4	2.7
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	55.0	35.0	30.0	35.0	32.5	15.0	7.5	12.5	5.0	2.5
	ない	(n= 58)	55.2	48.3	27.6	20.7	19.0	29.3	25.9	10.3	5.2	5.2
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0

（11）ケアマネジャー業務全般

問 29　あなたは、利用者の自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできていると思いますか。（１つに○）

自立支援に向けたケアプランの作成状況は、「思う」（7.9%）、「少し思う」（66.3%）を合わせた割合は 74.2%となっている。一方で、「あまり思わない」（14.9%）、「思わない」（1.0%）を合わせた割合は 15.9%となっている。

図表　自立支援に向けたケアプランの作成状況（全体）



性別、年代別にみると、男性、40 代ともに「あまり思わない」（男性:26.1%、40 代:29.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉主事では「あまり思わない」（31.3%）が、社会福祉主事では「思う」（23.1%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「あまり思わない」（46.7%）が全体より 30 ポイント以上高くなっている。

図表　自立支援に向けたケアプランの作成状況

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別答）

（%）

			思う	少しは思う	あまり思わない	思わない	どちらともいえない	無回答
全体		(N=101)	7.9	66.3	14.9	1.0	8.9	1.0
性別	男性	(n= 23)	4.3	65.2	26.1	0.0	4.3	0.0
	女性	(n= 75)	8.0	68.0	12.0	1.3	9.3	1.3
	答えたくない	(n= 3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	４０代	(n= 24)	8.3	62.5	29.2	0.0	0.0	0.0
	５０代	(n= 35)	2.9	62.9	17.1	0.0	14.3	2.9
	６０代	(n= 33)	15.2	72.7	0.0	3.0	9.1	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	7.3	68.3	13.4	1.2	8.5	1.2
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	2.4	73.8	9.5	0.0	11.9	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	12.5	56.3	31.3	0.0	0.0	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	23.1	69.2	7.7	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	0.0	69.2	15.4	0.0	15.4	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	0.0	40.0	46.7	0.0	6.7	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	16.7	66.7	8.3	0.0	8.3	0.0
	７年以上	(n= 74)	8.1	71.6	9.5	1.4	9.5	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	7.5	67.5	17.5	0.0	7.5	0.0
	ない	(n= 58)	8.6	65.5	13.8	1.7	8.6	1.7
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0

問 29-1　問 29 で「思う」又は「少しは思う」とお答えの方におたずねします
自立支援に向けたケアプランとなるように意識していることや、自立支援につなげるために工夫していることについて具体的にご記入ください。

自由記述形式で聞いたところ、62 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
本人ができることが継続できるように、本人の役割を入れる	18 件
本人・家族の意向を尊重する、一緒に決めていく	12 件
本人ががんばってやることをプランに入れる	9件
趣味や関心事に着眼した目標立て	5件
サービスの目的が自立支援であることを説明	3件
本人が大切にしていること、職歴などをプランに入れる	2件
困りごとが減らせるように工夫	2件
本人の強みに着目して作成	1件
訪問系のサービスを中心として自立支援へ	1件
本人とのやり取りを密にする	1件
本人・家族主体になるようにしたいが、介護費もありご本人の状況次第	1件
在宅生活が継続できるよう状態維持・向上を図る	1件
分かりやすい目標設定	1件
否定的な文章を使わない	1件
短期目標に日々意識することを入れる	1件
（家族や事業所に忖度ない）本質的なところを聞き取る	1件
本人がやる気になるまで声掛け、傾聴する	1件
経験不足でなんとも言えない	1件

問 29-2　問 29 で「あまり思わない」又は「思わない」とお答えの方におたずねします
そのように思う理由について具体的にご記入ください。

自由記述形式で聞いたところ、13 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

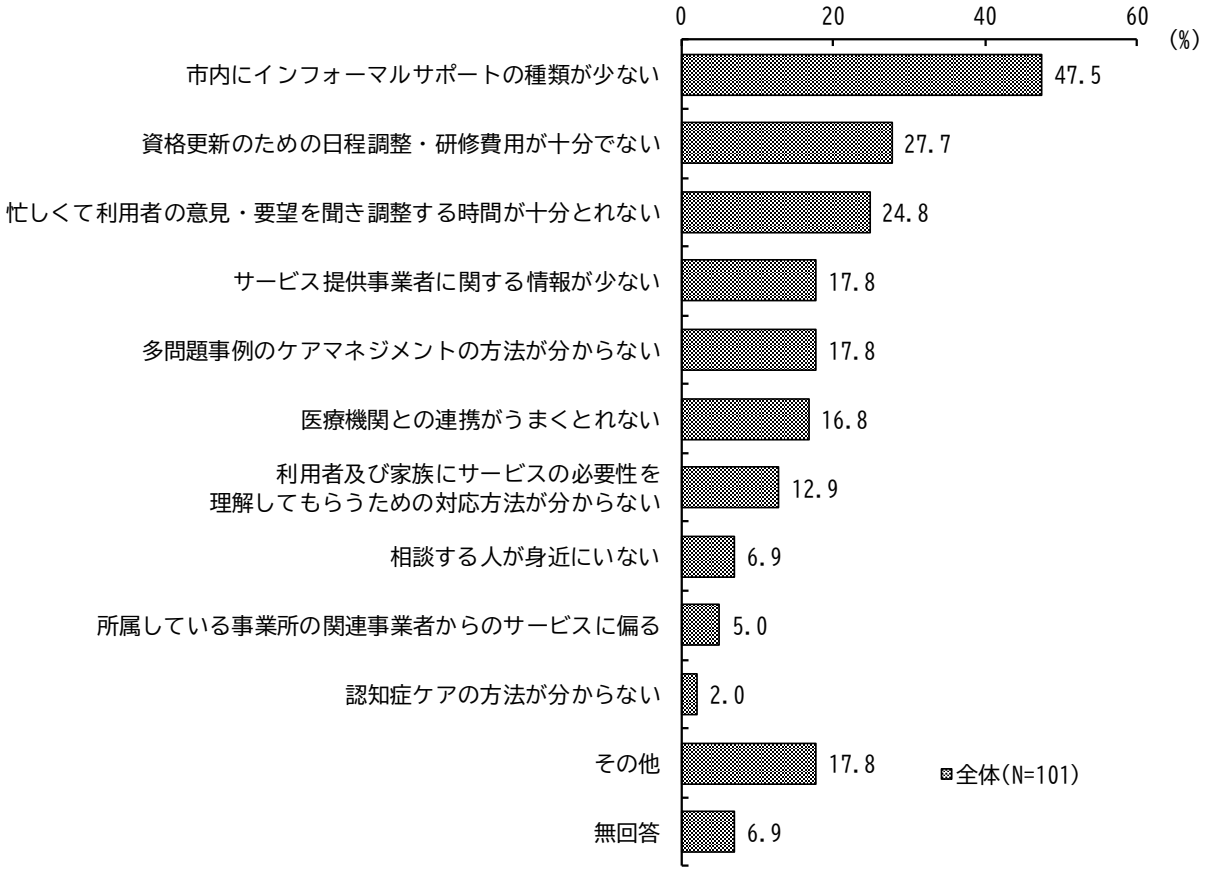
内容	件数
時間的・精神的な余裕がない、アセスメント不足	3件
サービスを調整することが主になっている	3件
本人・家族が希望しているかどうか分からない	2件
1 日でも長く、思うように生活していくことがその人らしさだから	1件
本人や家族に自立に向けた意欲が感じられない	1件
直面している問題を解決するので精一杯	1件
高齢者の自立支援という概念に疑問	1件
認知症の人が自立した生活は難しい	1件

問 30　ケアマネジャー業務を行ううえで、課題としてお考えのことはどのようなことですか。（いくつでも○）

「市内にインフォーマルサポートの種類が少ない」（47.5%）が最も多く、次いで「資格更新のための日程調整・研修費用が十分でない」（27.7%）、「忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が十分とれない」（24.8%）、「サービス提供事業者に関する情報が少ない」、「多問題事例のケアマネジメントの方法が分からない」（ともに 17.8%）と続いている。

「その他」（17.8%）の内容は、「事務作業量が多い」、「自身の高齢化による対応能力の低下」、「本人の同意がないと支援ができない」、「ケアマネジャーに求められていることが多い」などであった。

図表　ケアマネジャー業務を行う上での課題（全体：複数回答）



資格別にみると、ホームヘルパーでは「医療機関との連携がうまくとれない」（28.6%）が、社会福祉主事では「サービス提供事業者に関する情報が少ない」（30.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。また、その他では「多問題事例のケアマネジメントの方法が分からない」（61.5%）が全体より 40 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「多問題事例のケアマネジメントの方法が分からない」（40.0%）が全体より 20 ポイント以上高く、一方で「市内にインフォーマルサポートの種類が少ない」（20.0%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。

図表　ケアマネジャー業務を行う上での課題
（全体、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			市内にインフォーマルサポートの種類が少ない	資格更新のための日程調整・研修費用が十分でない	忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が十分とれない	サービス提供事業者に関する情報が少ない	多問題事例のケアマネジメントの方法が分からない	医療機関との連携がうまくとれない
全体		(N=101)	47.5	27.7	24.8	17.8	17.8	16.8
（上位4位）資格別	介護福祉士	(n= 82)	43.9	24.4	25.6	14.6	18.3	17.1
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	50.0	28.6	33.3	23.8	26.2	28.6
	社会福祉士	(n= 16)	37.5	25.0	25.0	12.5	18.8	18.8
	社会福祉主事	(n= 13)	38.5	30.8	30.8	30.8	23.1	7.7
	その他	(n= 13)	46.2	30.8	23.1	38.5	61.5	46.2
経験年数別	５年未満	(n= 15)	20.0	13.3	20.0	13.3	40.0	20.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	41.7	33.3	25.0	16.7	16.7	16.7
	７年以上	(n= 74)	54.1	29.7	25.7	18.9	13.5	16.2
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	50.0	27.5	30.0	10.0	7.5	17.5
	ない	(n= 58)	44.8	27.6	20.7	22.4	24.1	17.2
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0

（%）

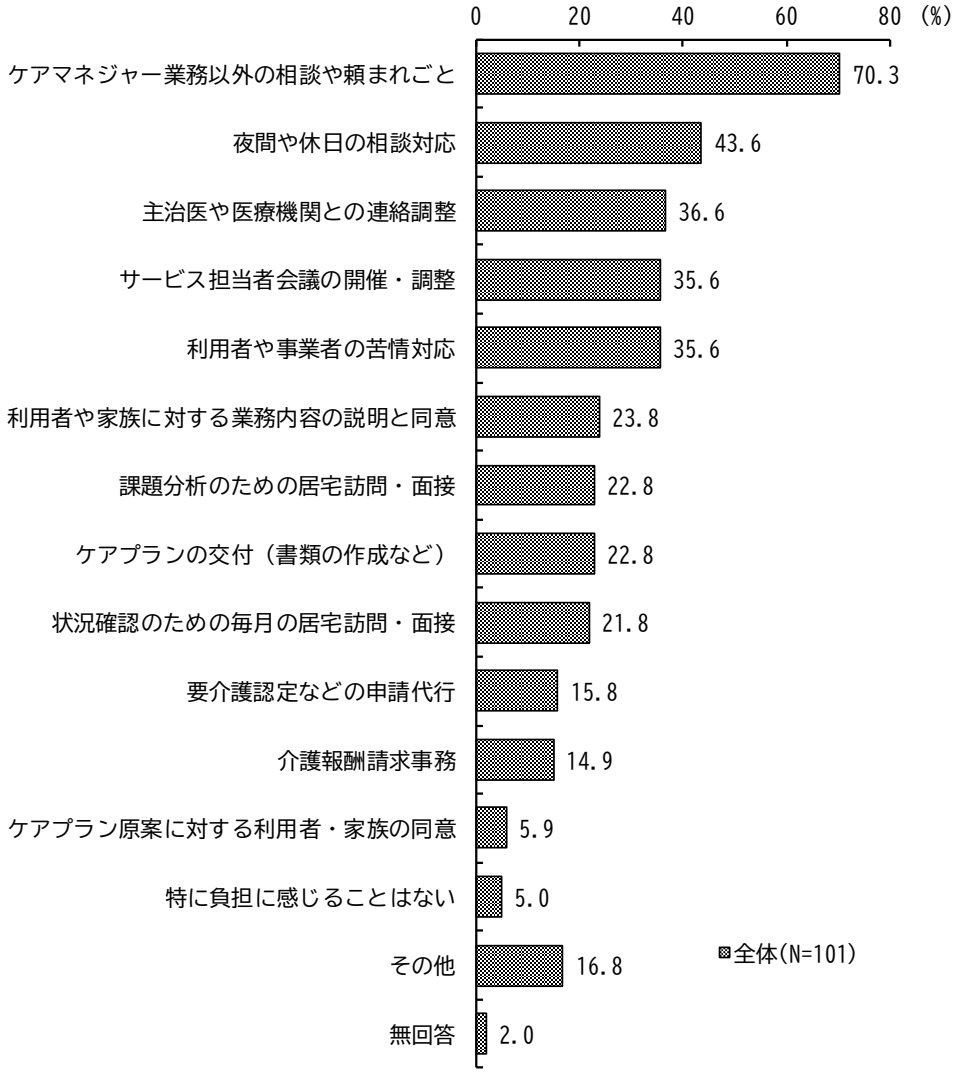
			利用者及び家族にサービスの必要性を理解してもらうための対応方法が分からない	相談する人が身近にいない	所属している事業所の関連事業者からのサービスに偏る	認知症ケアの方法が分からない	その他	無回答
全体		(N=101)	12.9	6.9	5.0	2.0	17.8	6.9
（上位4位）資格別	介護福祉士	(n= 82)	14.6	6.1	3.7	2.4	18.3	8.5
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	16.7	11.9	7.1	4.8	11.9	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	0.0	0.0	6.3	0.0	31.3	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	15.4	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7
	その他	(n= 13)	38.5	23.1	7.7	15.4	7.7	7.7
経験年数別	５年未満	(n= 15)	13.3	13.3	0.0	6.7	6.7	20.0
	５年以上７年未満	(n= 12)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
	７年以上	(n= 74)	14.9	6.8	6.8	1.4	20.3	2.7
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	10.0	7.5	5.0	0.0	25.0	2.5
	ない	(n= 58)	13.8	6.9	5.2	3.4	13.8	10.3
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 31　ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担を感じていますか。（いくつでも○）

「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」（70.3%）が最も多く、次いで「夜間や休日の相談対応」（43.6%）、「主治医や医療機関との連絡調整」（36.6%）、「サービス担当者会議の開催・調整」、「利用者や事業者の苦情対応」（ともに 35.6%）と続いている。

「その他」（16.8%）の内容は、「家族と本人の意見の相違」、「研修への参加」、「認知症のある人の金銭管理、入退院支援」などであった。

図表　ケアマネジャー業務の中で負担と感じること（全体：複数回答）



経験年数別にみると、５年未満では「夜間や休日の相談対応」（33.3%）が全体より 10 ポイント以上、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」（46.7%）が全体より 20 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「主治医や医療機関との連絡調整」（50.0%）が全体より 10 ポイント以上、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」（91.7%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、「夜間や休日の相談対応」について、主任ケアマネ資格があるでは 55.0%と全体より 10 ポイント以上高く、主任ケアマネ資格がないでは 32.8%と全体より 10 ポイント以上低くなっている。

図表　ケアマネジャー業務の中で負担と感じること
（全体、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

(%)

			ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと	夜間や休日の相談対応	主治医や医療機関との連絡調整	サービス担当者会議の開催・調整	利用者や事業者の苦情対応	利用者や家族に対する業務内容の説明と同意	課題分析のための居宅訪問・面接	ケアプランの交付（書類の作成など）
全体		(N=101)	70.3	43.6	36.6	35.6	35.6	23.8	22.8	22.8
経験年数別	５年未満	(n= 15)	46.7	33.3	26.7	26.7	26.7	20.0	26.7	33.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	91.7	33.3	50.0	33.3	41.7	25.0	16.7	25.0
	７年以上	(n= 74)	71.6	47.3	36.5	37.8	36.5	24.3	23.0	20.3
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	75.0	55.0	35.0	32.5	22.5	25.0	22.5	17.5
	ない	(n= 58)	67.2	32.8	37.9	37.9	41.4	24.1	22.4	27.6
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	100.0	33.3	33.3	100.0	0.0	33.3	0.0

(%)

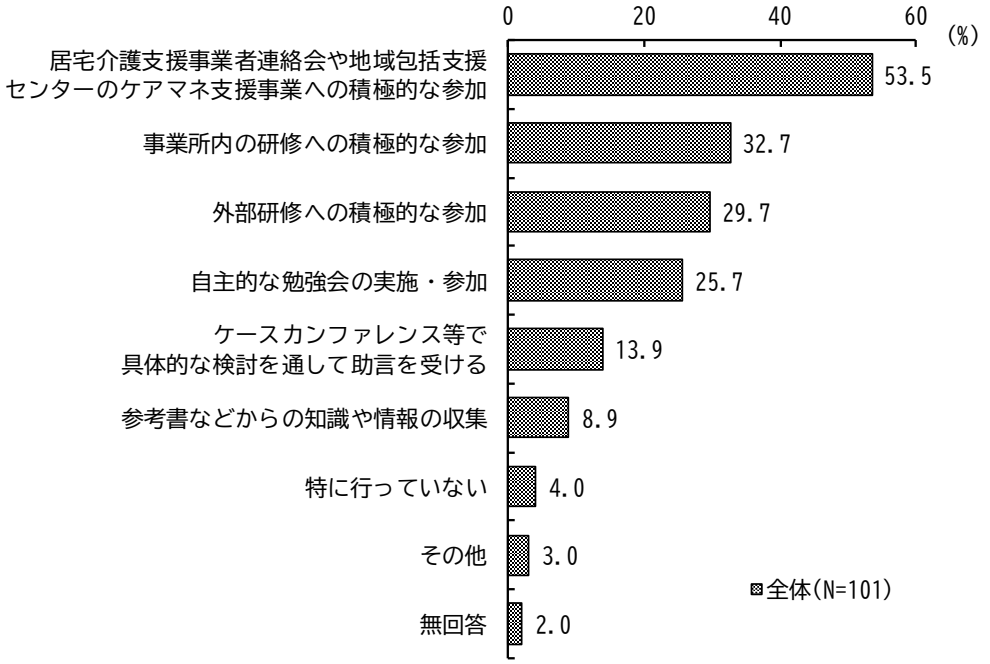
			状況確認のための毎月の居宅訪問・面接	要介護認定などの申請代行	介護報酬請求事務	ケアプラン原案に対する利用者・家族の同意	特に負担に感じることはない	その他	無回答
全体		(N=101)	21.8	15.8	14.9	5.9	5.0	16.8	2.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	26.7	13.3	13.3	6.7	0.0	13.3	13.3
	５年以上７年未満	(n= 12)	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0
	７年以上	(n= 74)	23.0	16.2	16.2	6.8	5.4	18.9	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	15.0	12.5	7.5	7.5	2.5	20.0	0.0
	ない	(n= 58)	27.6	19.0	17.2	5.2	6.9	15.5	3.4
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

問 32　ご自身のケアマネジャー業務のレベルアップのために、（１）現在行っている、（２）今後行いたい取組は何ですか。（（１）から（２）のそれぞれ２つまで○）

（１）現在行っている取組

「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（53.5%)が最も多く、次いで「事業所内の研修への積極的な参加」（32.7%)、「外部研修への積極的な参加」（29.7%)、「自主的な勉強会の実施・参加」（25.7%）と続いている。

図表　ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組
（全体：複数回答）



性別にみると、男性では「自主的な勉強会の実施・参加」（39.1%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（43.5%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

年代別にみると、40 代では「自主的な勉強会の実施・参加」（37.5%）が、60 代では「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（63.6%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（26.7%）、「事業所内の研修への積極的な参加」（20.0%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。５年以上７年未満では「外部研修への積極的な参加」（41.7%）、「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」（33.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

主任ケアマネ資格の有無別にみると、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」について、主任ケアマネ資格があるでは 70.0%と全体より 10 ポイント以上高く、主任ケアマネ資格がないでは 41.4%と全体より 10 ポイント以上低くなっている。

図表　ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

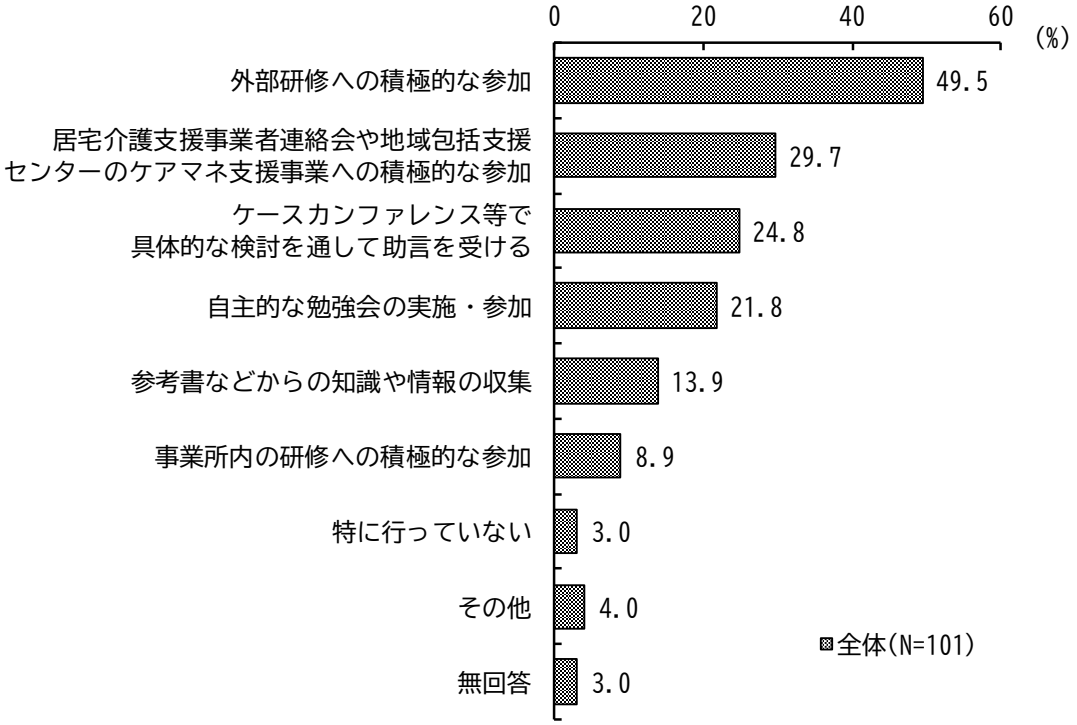
(%)

			居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加	事業所内の研修への積極的な参加	外部研修への積極的な参加	自主的な勉強会の実施・参加	ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける	参考書などからの知識や情報の収集	特に行っていない	その他	無回答
全体		(N=101)	53.5	32.7	29.7	25.7	13.9	8.9	4.0	3.0	2.0
性別	男性	(n= 23)	43.5	34.8	30.4	39.1	17.4	0.0	4.3	4.3	0.0
	女性	(n= 75)	56.0	32.0	28.0	21.3	13.3	12.0	4.0	2.7	2.7
	答えたくない	(n= 3)	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	60.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	４０代	(n= 24)	41.7	33.3	25.0	37.5	16.7	12.5	4.2	0.0	0.0
	５０代	(n= 35)	48.6	31.4	28.6	25.7	14.3	5.7	5.7	5.7	5.7
	６０代	(n= 33)	63.6	36.4	30.3	21.2	6.1	9.1	3.0	3.0	0.0
	７０歳以上	(n= 4)	75.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	51.2	36.6	25.6	25.6	14.6	8.5	4.9	2.4	2.4
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	64.3	33.3	28.6	23.8	7.1	7.1	2.4	0.0	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	56.3	25.0	31.3	12.5	12.5	0.0	12.5	6.3	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	61.5	30.8	30.8	30.8	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	38.5	30.8	30.8	46.2	0.0	38.5	7.7	0.0	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	26.7	20.0	26.7	33.3	20.0	13.3	6.7	0.0	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	58.3	25.0	41.7	0.0	33.3	8.3	8.3	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	58.1	36.5	28.4	28.4	9.5	8.1	2.7	4.1	1.4
主任ケアマネの有無別	ある	(n= 40)	70.0	27.5	32.5	30.0	7.5	5.0	0.0	5.0	2.5
	ない	(n= 58)	41.4	34.5	29.3	24.1	17.2	10.3	6.9	1.7	1.7
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	66.7	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

問 32　ご自身のケアマネジャー業務のレベルアップのために、（１）現在行っている、（２）今後行いたい取組は何ですか。（（１）から（２）のそれぞれ２つまで○）
（２）今後行いたい取組

「外部研修への積極的な参加」(49.5%)が最も多く、次いで「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」(29.7%)、「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」(24.8%)、「自主的な勉強会の実施・参加」(21.8%)と続いている。

図表　ケアマネジャー業務のレベルアップのために今後行いたい取組
（全体：複数回答）



性別にみると、男性では「参考書などからの知識や情報の収集」（26.1%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「外部研修への積極的な参加」（39.1%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

年代別にみると、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」について、50 代では 17.1%と全体より 10 ポイント以上低く、60 代では 45.5%と全体より 10 ポイント以上高くなっている。

資格別にみると、社会福祉士では「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（12.5%）が全体より 10 ポイント以上低く、社会福祉主事では「自主的な勉強会の実施・参加」（46.2%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（40.0%）、「参考書などからの知識や情報の収集」（26.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。５年以上７年未満では「外部研修への積極的な参加」（66.7%）、「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」（50.0%）、「自主的な勉強会の実施・参加」（33.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　ケアマネジャー業務のレベルアップのために今後行いたい取組
（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

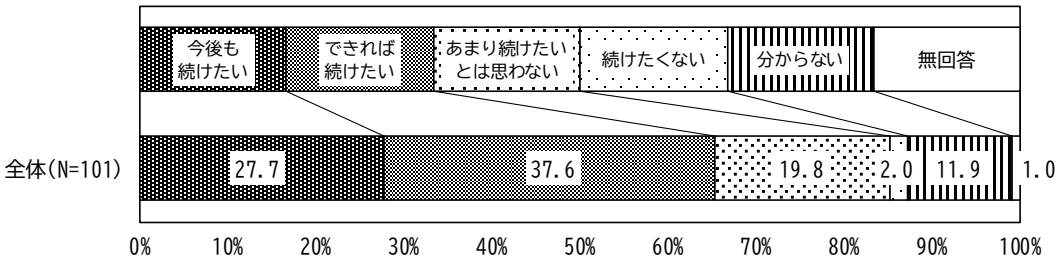
(%)

			外部研修への積極的な参加	居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加	ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける	自主的な勉強会の実施・参加	参考書などからの知識や情報の収集	事業所内の研修への積極的な参加	特に行っていない	その他	無回答
全体		(N=101)	49.5	29.7	24.8	21.8	13.9	8.9	3.0	4.0	3.0
性別	男性	(n= 23)	39.1	26.1	21.7	30.4	26.1	8.7	4.3	4.3	0.0
	女性	(n= 75)	50.7	32.0	26.7	18.7	10.7	8.0	2.7	4.0	4.0
	答えたくない	(n= 3)	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	20.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	４０代	(n= 24)	54.2	25.0	29.2	29.2	12.5	4.2	0.0	4.2	0.0
	５０代	(n= 35)	48.6	17.1	22.9	20.0	17.1	11.4	2.9	5.7	5.7
	６０代	(n= 33)	51.5	45.5	18.2	18.2	12.1	9.1	3.0	3.0	3.0
	７０歳以上	(n= 4)	50.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
資格別（上位4位）	介護福祉士	(n= 82)	50.0	29.3	25.6	17.1	14.6	9.8	3.7	3.7	2.4
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	50.0	35.7	23.8	21.4	9.5	9.5	4.8	0.0	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	50.0	12.5	18.8	25.0	18.8	0.0	0.0	12.5	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	53.8	23.1	23.1	46.2	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	38.5	30.8	38.5	23.1	15.4	23.1	0.0	0.0	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	33.3	40.0	13.3	20.0	26.7	13.3	6.7	0.0	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	66.7	25.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	７年以上	(n= 74)	50.0	28.4	23.0	20.3	13.5	9.5	2.7	5.4	2.7
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	55.0	30.0	25.0	17.5	12.5	2.5	5.0	7.5	2.5
	ない	(n= 58)	46.6	29.3	24.1	25.9	13.8	13.8	1.7	1.7	3.4
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 33　あなたは、今後も府中市内の居宅介護支援事業所でケアマネジャー業務を続けたいと思いますか。（１つに○）

「できれば続けたい」（37.6%）が最も多く、次いで「今後も続けたい」（27.7%）、「あまり続けたいとは思わない」（19.8%）、「分からない」（11.9%）、「続けたくない」（2.0%）と続いている。

図表　府中市内でのケアマネジャー業務の継続意向（全体）



問 33-１　そのように思う理由について具体的にご記入ください。

自由記述形式で聞いたところ、78 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【今後も続けたい・できれば続けたい：50 件】

内容	件数
自宅が市内、近隣だから	７件
連絡会等の情報交換や研修等に参加できる、ケアマネや事業者との繋がりを感じる	５件
慣れてきたため	５件
これから関わりを増やしたい、これから続けていきたい	４件
府中市に貢献したい	３件
現状で支障がない	３件
自治体が変わると負担が大きい	３件
労働環境が改善されれば	２件
自分の生きがい、やりがいを感じている	２件
他市に比べ市独自のサービスが良い	２件
坂が少なく自転車で仕事がしやすい、地理的条件が良い	２件
次の更新はしない	２件
市が親切、研修充実している	１件
自治体の福祉サービスが理解できている	１件
続けたいが家庭の事情がある	１件
特に魅力を感じていない	１件
利用者の人生の幕引きの手伝いをしたい	１件
今の事業所に満足	１件

内容	件数
介護保険更新の処作業をすることがあるため	1件
自分の裁量でできるから	1件
体調次第	1件
以前都心で働いていたが辛かった	1件

【あまり続けたいと思わない・続けたくない・わからない：28 件】

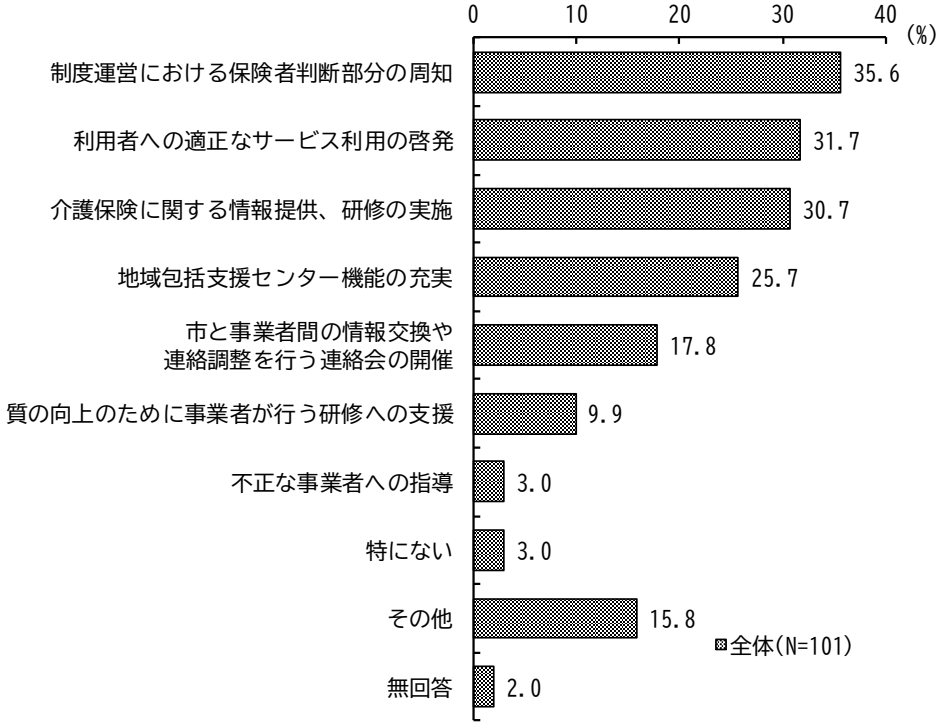
内容	件数
業務量が負担、業務が大変	9件
府中市の運営指導が厳しい	3件
自分に向いていない、続けたくない	2件
現状の更新制度などケアマネの状況改善など課題がある	2件
給料が安い・定年になり給料が下がる	2件
新しい環境で働きたい	2件
自分の健康が損なわれる不安がある、体力に自信がない	2件
他市との違いを見てみたい	2件
協働した取り組みができないので楽しくない	1件
社会資源が少ない	1件
事業所に課題がある	1件
他の業務との兼ね合いで難しい	1件

（12）自由意見（市への意向）

問 34　今後、保険者としての府中市に対し、ケアマネジャーとして望むことは何ですか。（２つまでに○）

「制度運営における保険者判断部分の周知」（35.6%）が最も多く、次いで「利用者への適正なサービス利用の啓発」（31.7%）、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（30.7%）、「地域包括支援センター機能の充実」（25.7%）と続いている。

図表　ケアマネジャーとして市に望むこと（全体：複数回答）



年代別にみると、40 代では「利用者への適正なサービス利用の啓発」（41.7%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。60 代では「市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催」（6.1%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

資格別にみると、社会福祉主事では「制度運営における保険者判断部分の周知」（46.2%）、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（46.2%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

経験年数別にみると、５年未満では「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（40.0%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「利用者への適正なサービス利用の啓発」（6.7%）が 20 ポイント以上低くなっている。

図表　ケアマネジャーとして市に望むこと

（全体、性別、年代別、資格別、経験年数別、主任ケアマネ資格の有無別：複数回答）

（%）

			制度運営における保険者判断部分の周知	利用者への適正なサービス利用の啓発	介護保険に関する情報提供、研修の実施	地域包括支援センター機能の充実	市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催	質の向上のために事業者が行う研修への支援	不正な事業者への指導	特にない	その他	無回答
全体		(N=101)	35.6	31.7	30.7	25.7	17.8	9.9	3.0	3.0	15.8	2.0
性別	男性	(n= 23)	30.4	34.8	30.4	21.7	21.7	17.4	4.3	0.0	13.0	0.0
	女性	(n= 75)	38.7	32.0	30.7	28.0	14.7	8.0	2.7	4.0	16.0	2.7
	答えたくない	(n= 3)	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
年代別	３０代	(n= 5)	20.0	0.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	４０代	(n= 24)	37.5	41.7	20.8	25.0	25.0	12.5	8.3	4.2	8.3	0.0
	５０代	(n= 35)	37.1	34.3	37.1	22.9	17.1	5.7	0.0	0.0	20.0	2.9
	６０代	(n= 33)	39.4	24.2	30.3	30.3	6.1	12.1	3.0	0.0	21.2	3.0
	７０歳以上	(n= 4)	0.0	50.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
資格別（上位４位）	介護福祉士	(n= 82)	39.0	34.1	30.5	25.6	18.3	9.8	1.2	2.4	15.9	2.4
	ホームヘルパー（訪問介護員）	(n= 42)	38.1	35.7	31.0	23.8	23.8	7.1	4.8	2.4	14.3	2.4
	社会福祉士	(n= 16)	43.8	31.3	25.0	25.0	12.5	12.5	6.3	0.0	18.8	0.0
	社会福祉主事	(n= 13)	46.2	7.7	46.2	23.1	15.4	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0
	その他	(n= 13)	38.5	23.1	15.4	30.8	30.8	0.0	7.7	7.7	30.8	0.0
経験年数別	５年未満	(n= 15)	26.7	6.7	40.0	33.3	20.0	6.7	0.0	13.3	13.3	6.7
	５年以上７年未満	(n= 12)	41.7	41.7	16.7	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	8.3
	７年以上	(n= 74)	36.5	35.1	31.1	24.3	18.9	10.8	4.1	1.4	16.2	0.0
主任ケアマネ資格の有無別	ある	(n= 40)	32.5	37.5	32.5	20.0	22.5	15.0	5.0	0.0	10.0	0.0
	ない	(n= 58)	39.7	29.3	27.6	27.6	15.5	5.2	1.7	5.2	20.7	3.4
	過去に取得していたが、現在はなし	(n= 3)	0.0	0.0	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 35　介護保険制度をよりよい制度としていくためのご意見や医療と介護の連携についてのご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、45 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

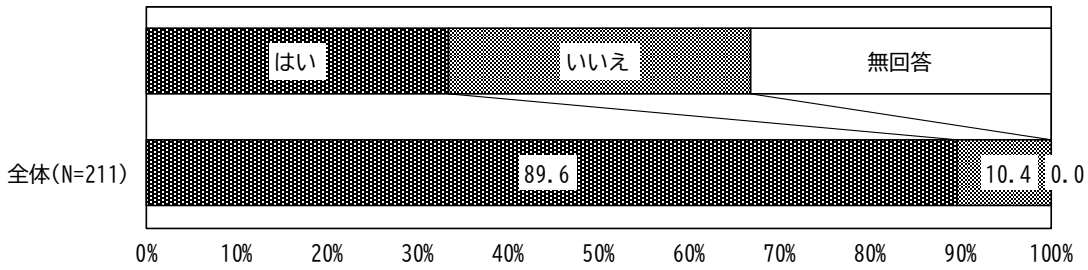
内容	件数
医療と介護の交流会、勉強会の開催希望、多職種との連携（顔が見える関係づくり）	５件
利用者に自立支援を目指すことが大前提だと周知して欲しい、自助意識の醸成	４件
診療所や総合病院、デイサービスにＭＣＳ、ＩＣＴツールの利用普及を希望	４件
担当者の異動時の引継ぎ、庁内での統一見解を希望	４件
市役所との連携、官民連携の構築	２件
ケアマネ不足について懸念	２件
ケアマネ業務の負担につながることは止めてほしい	２件
制度改正時や医療保険についての説明会の実施	２件
府中市軽減制度など情報共有の充実	２件
介護認定審査の透明化、迅速化	２件
最初に相談を受ける包括の対応の差を解消して欲しい	１件
資格更新法定研修の助成制度の継続	１件
制度が複雑になりすぎている	１件
更に現場の声を拾ってほしい	１件
申請書類の電子化の推進	１件
研修、連絡会等不要ではないか	１件
社会資源の掘り起こしが必要	１件
病院医師が地域に出向くように	１件
支援内容の緩和を検討して欲しい	１件
本当に必要なサービスが提供できる介護認定審査、暫定プランなど	１件
連携しやすい訪問診療医が増えてありがたい	１件
医療と連携した適切なケアプランの作成	１件
シンプルなケアマネジメントの過程づくり	１件
事業者への報酬アップ	１件
特になし	２件

（13）在宅生活の維持

問 36　対象となる利用者の状況等について、お伺いします。
（１）「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」に該当しますか。（１つに○）

「はい」が 89.6%、「いいえ」が 10.4%となっている。

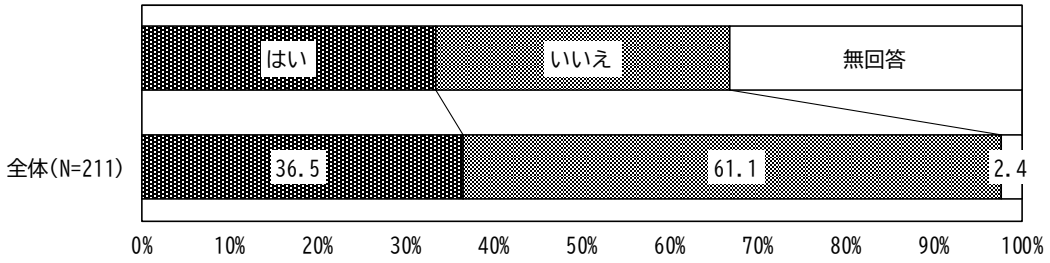
図表　現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者の該当状況（全体）



問 36　対象となる利用者の状況等について、お伺いします。
（２）「家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者」に該当しますか。（１つに○）

「はい」が 36.5%、「いいえ」が 61.1%となっている。

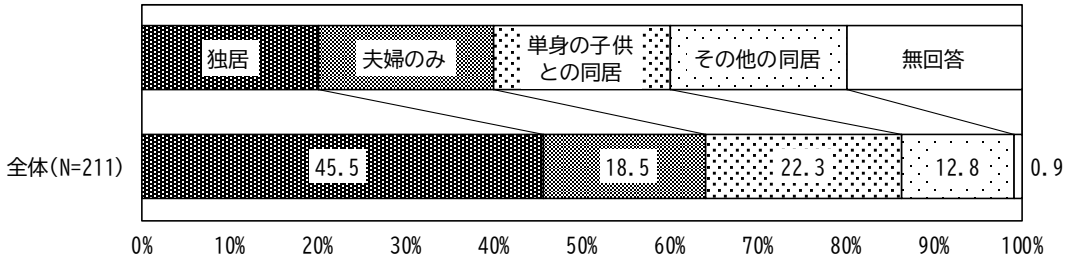
図表　家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者の該当状況（全体）



問 36　対象となる利用者の状況等について、お伺いします。
（３）世帯類型（１つに○）

「独居」が 45.5%、「夫婦のみ」が 18.5%、「単身の子供との世帯」が 22.3%、「その他の同居」が 12.8%となっている。

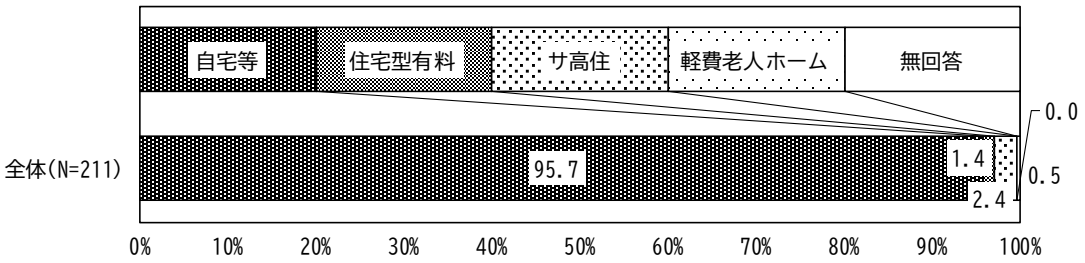
図表　対象となる利用者の世帯類型（全体）



問 36　対象となる利用者の状況等について、お伺いします。
（４）現在の居所（１つに○）

「自宅等」が 95.7%、「住宅型有料老人」が 1.4%、「サ高住」が 2.4%、「軽費老人ホーム」が 0.0%となっている。

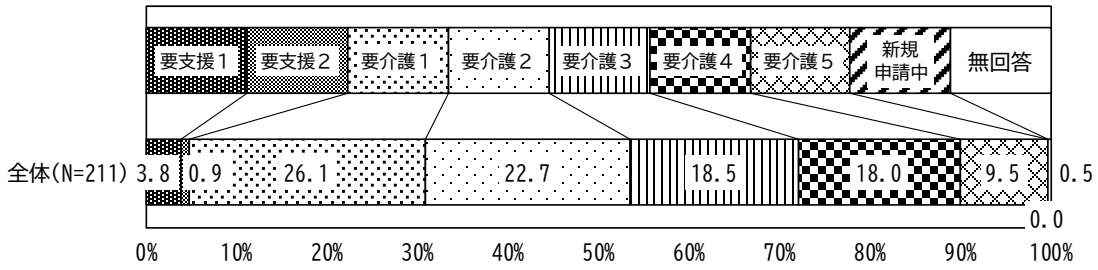
図表　対象となる利用者の現在の居所（全体）



問 36　対象となる利用者の状況等について、お伺いします。
（５）要支援・要介護度（１つに○）

「要介護１」（26.1%）が最も多く、次いで「要介護２」（22.7%）、「要介護３」（18.5%）、「要介護４」（18.0%）と続いている。

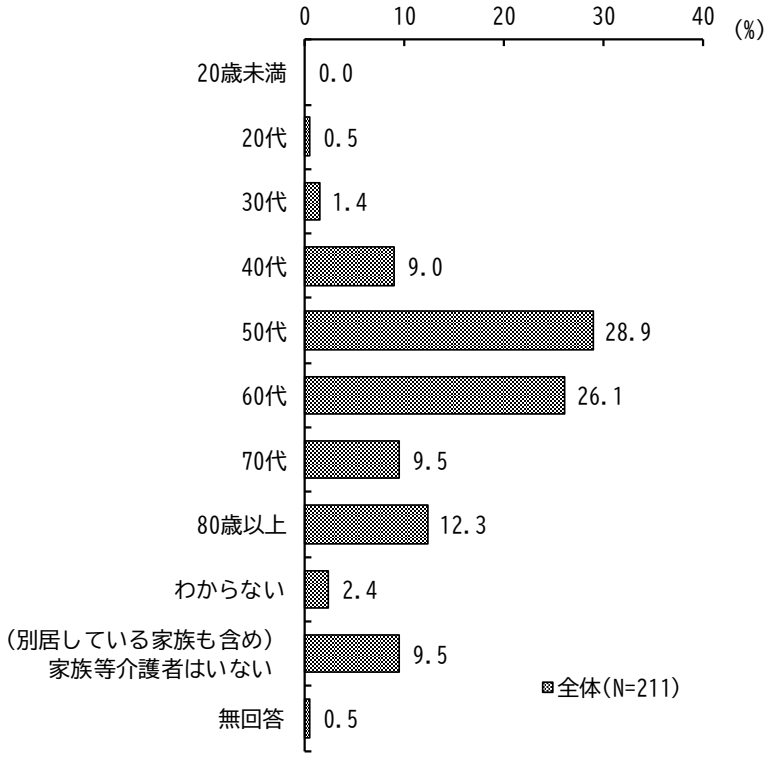
図表　対象となる利用者の要支援・要介護度（全体）



問 37　対象となる利用者の主な家族等介護者の状況等について、お伺いします。
（１）主な家族等介護者の方の年代（１つに○）
※同居・別居にかかわらず主な家族等介護者についてお答えください。

「50 代」（28.9%）が最も多く、次いで「60 代」（26.1%）、「80 歳以上」（12.3%）、「70 代」、「（別居している家族も含め）家族等介護者はいない」（ともに 9.5%）、「40 代」（9.0%）と続いている。

図表　主な家族等介護者の年代（全体）



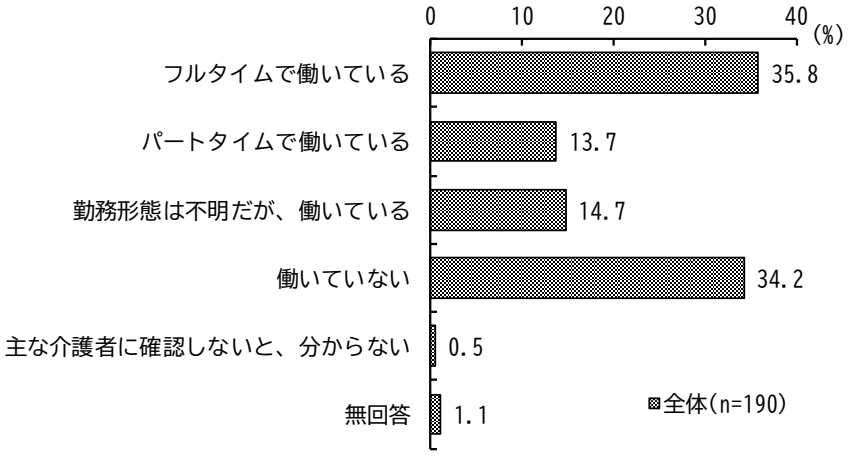
問 37　対象となる利用者の主な家族等介護者の状況等について、お伺いします。

（２）主な家族等介護者の方の現在の勤務形態（１つに○）

※「パートタイム」とは、「１週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

「フルタイムで働いている」が 35.8%、「パートタイムで働いている」が 13.7%、「勤務形態は不明だが、働いている」が 14.7%、「働いていない」が 34.2%、「主な介護者に確認しないと、分からない」が 0.5%となっている。

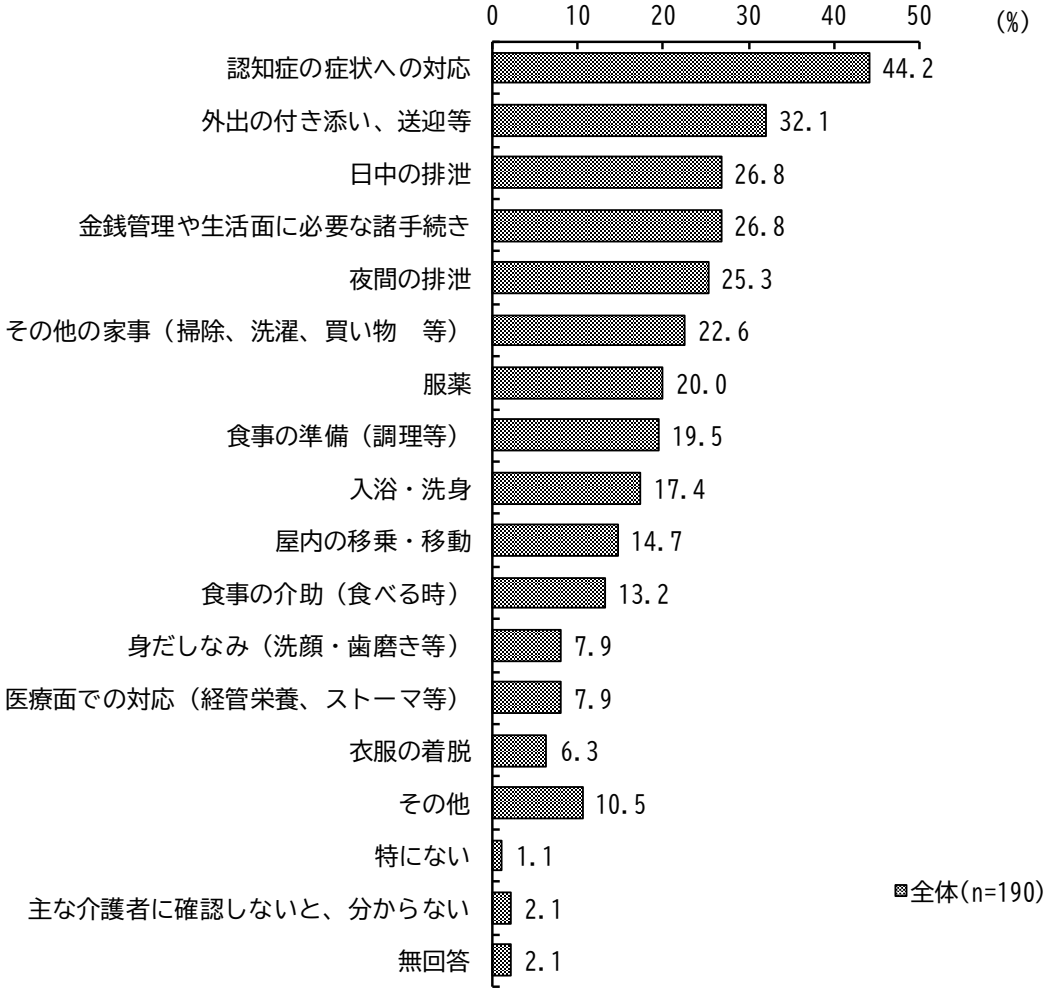
図表　主な家族等介護者の現在の勤務形態（全体）



問 37　対象となる利用者の主な家族等介護者の状況等について、お伺いします。
（３）今後の在宅生活の継続、または家族等介護者の就労継続に向けて、特に家族等介護者の負担になっている介護（３つまで○）

「認知症の症状への対応」(44.2%)が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(32.1%)、「日中の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(ともに 26.8%)、「夜間の排泄」(25.3%)と続いている。

図表　今後の在宅生活の継続、または家族等介護者の就労継続に向けて、
特に家族等介護者の負担になっている介護（全体：複数回答）

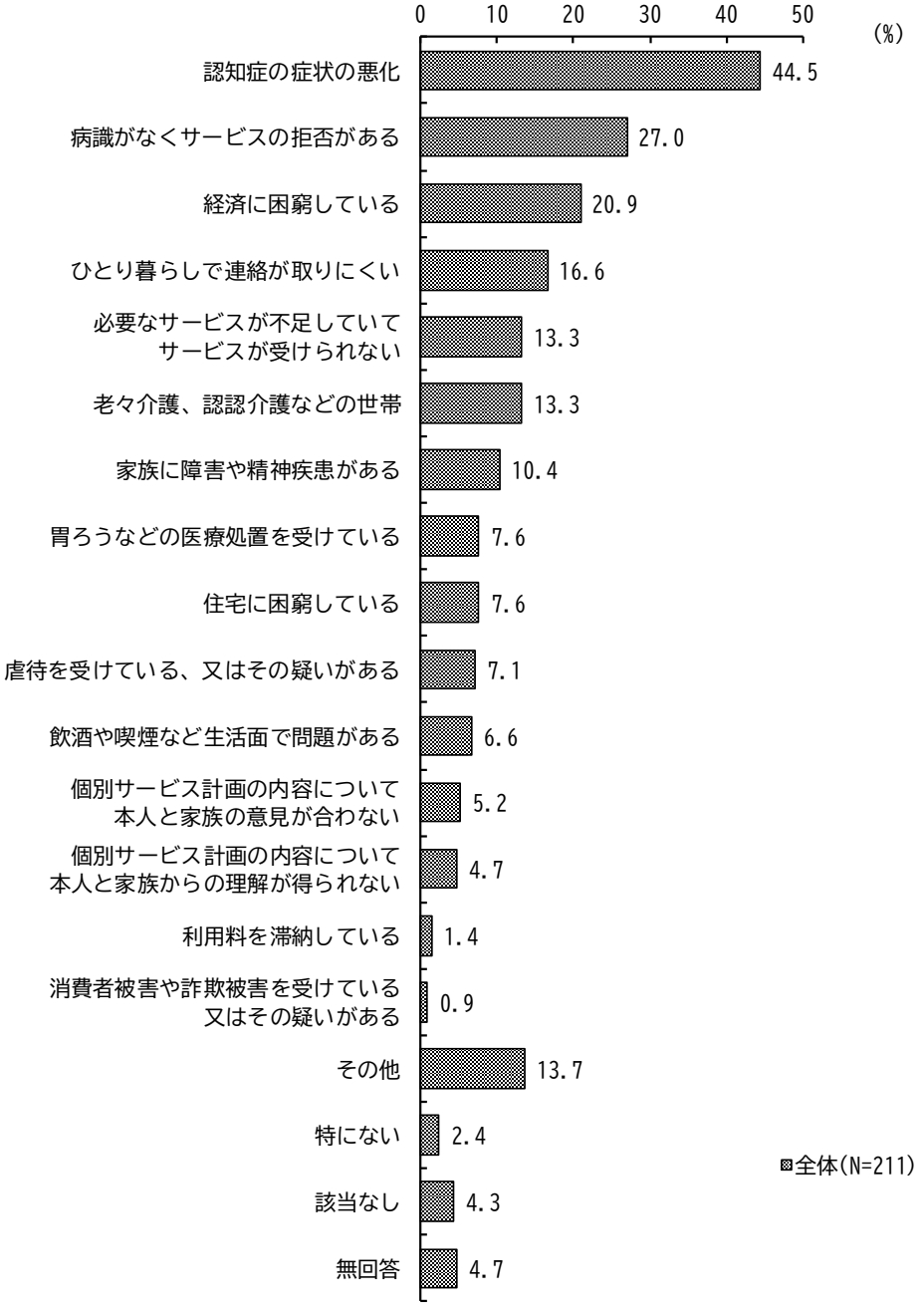


問 38　現在のサービス利用では、本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由等について、お伺いします。

（１）該当の利用者が抱えている生活課題をお答えください。（いくつでも○）

「認知症の症状の悪化」（44.5%）が最も多く、次いで「病識がなくサービスの拒否がある」（27.0%）、「経済に困窮している」（20.9%）、「ひとり暮らしで連絡が取りにくい」（16.6%）と続いている。

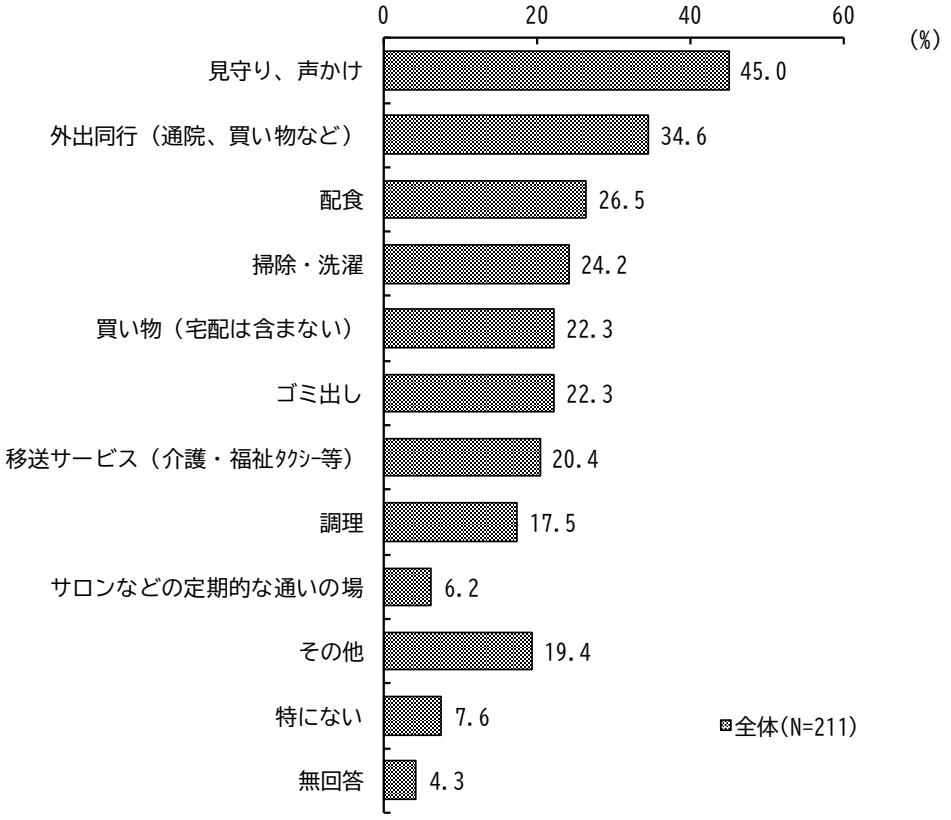
図表　該当の利用者が抱えている生活課題（全体：複数回答）



問 38　現在のサービス利用では、本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由等について、お伺いします。
（２）本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な「生活支援」をお答えください。（いくつでも○）

「見守り、声かけ」(45.0%)が最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など)」(34.6%)、「配食」(26.5%)、「掃除・洗濯」(24.2%）と続いている。

図表　充実が必要な「生活支援」(全体：複数回答)

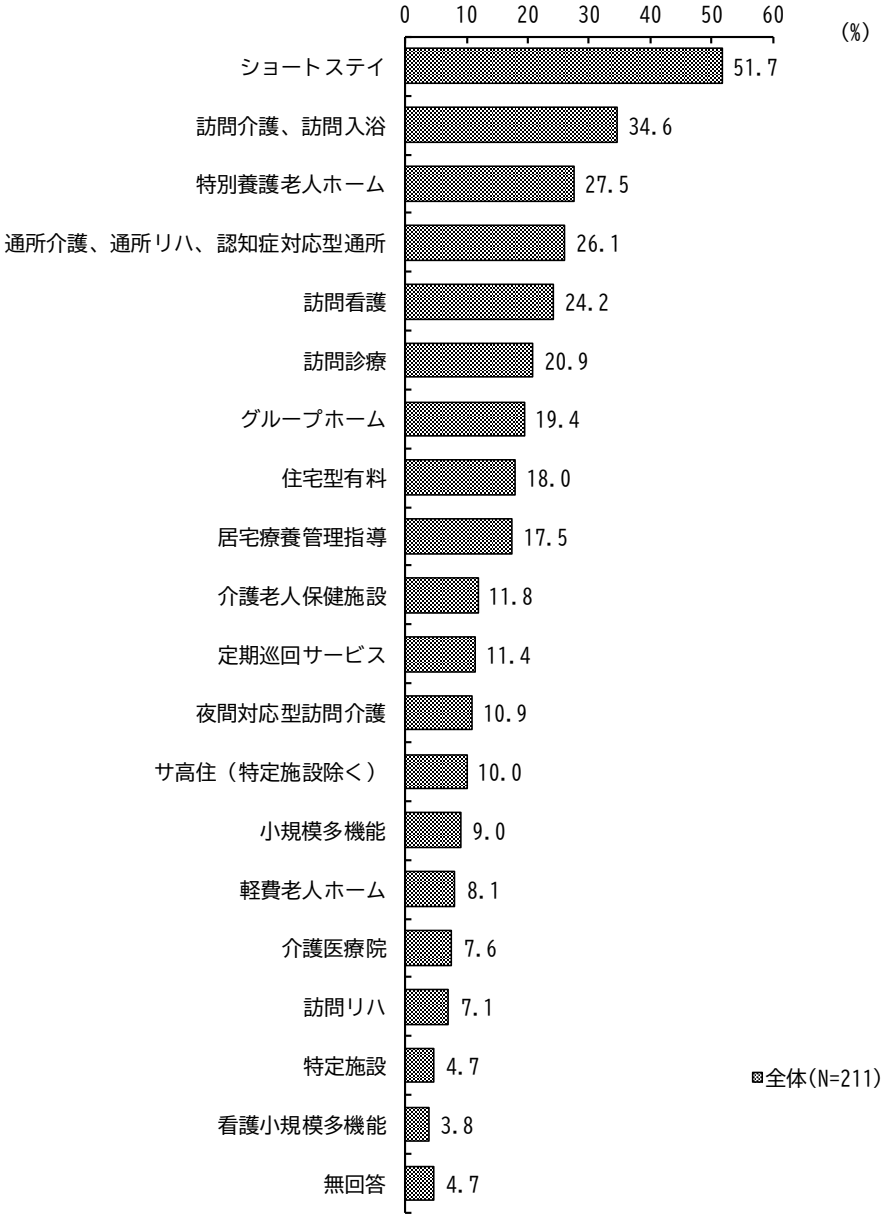


問 39　「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」もしくは「家族等介護者の就労継続が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について、お伺いします。

（１）本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください。（いくつでも○）

「ショートステイ」（51.7%）が最も多く、次いで「訪問介護、訪問入浴」（34.6%）、「特別養護老人ホーム」（27.5%）、「通所介護、通所リハ、認知症対応型通所」（26.1%）と続いている。

図表　本来であればより適切と思われる具体的なサービス
（全体：複数回答）



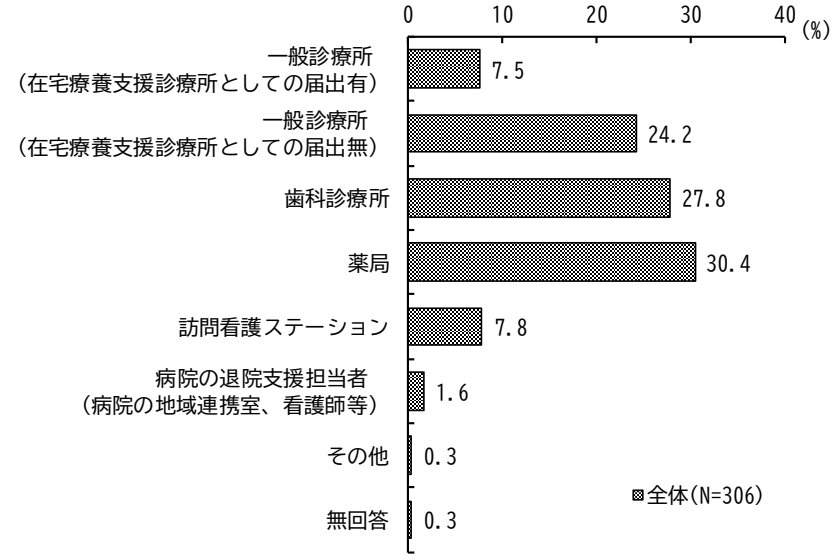
６　医療機関調査

（１）基本属性

問１　あなたが所属されている医療機関を教えてください。（１つに○）

「薬局」（30.4%）が最も多く、次いで「歯科診療所」（27.8%）、「一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出無）」（24.2%）、「訪問看護ステーション」（7.8%）となっている。

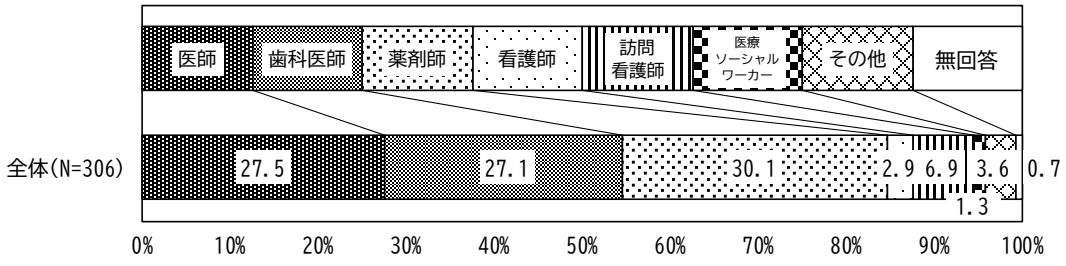
図表　所属している医療機関（全体）



問２　あなたの職種は次のどれですか。（１つに○）

「薬剤師」（30.1%）が最も多く、次いで「医師」（27.5%）、「歯科医師」（27.1%）、「訪問看護師」（6.9%）、「その他」（3.6%）と続いている。

図表　職種（全体）



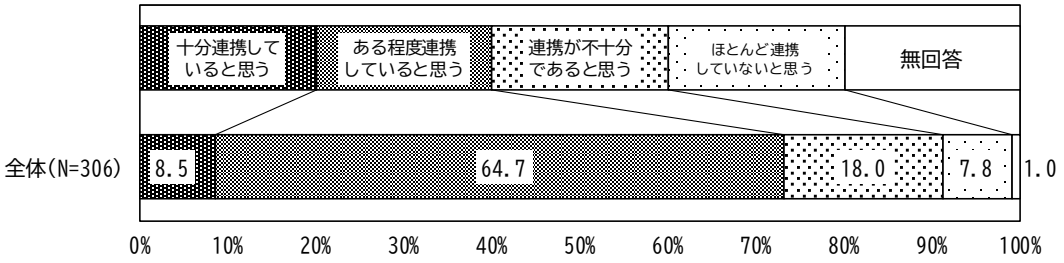
（2）医療と介護の連携状況

問3　府中市民の在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況についてどのように思いますか。（1つに○）

「十分連携していると思う」(8.5%)、「ある程度連携していると思う」(64.7%)を合わせた割合は 73.2%となっている。一方、「連携が不十分であると思う」(18.0%)、「ほとんど連携していないと思う」(7.8%)を合わせた割合は 25.8%となっている。

所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「ある程度連携していると思う」(87.5%)が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況（全体）



図表　在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況
（全体、所属医療機関別）

(%)

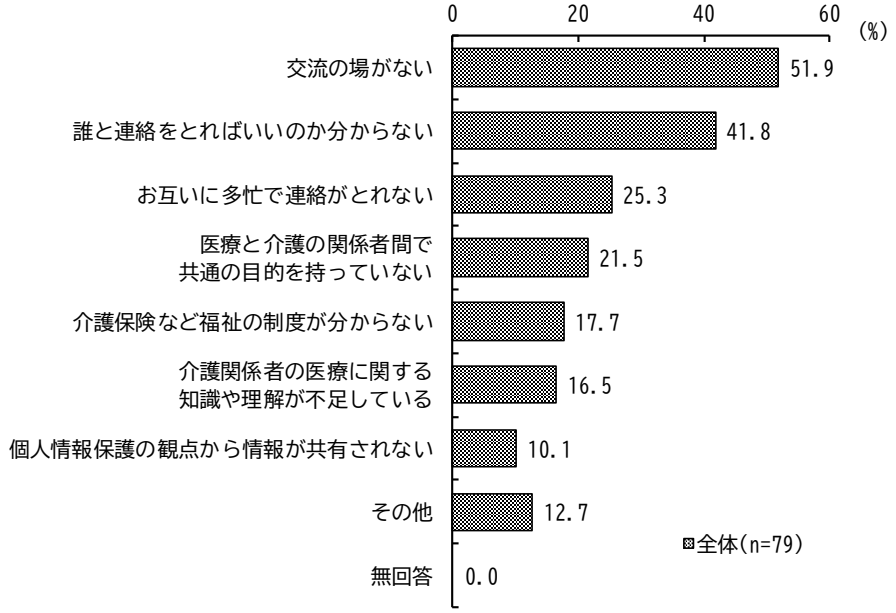
			十分連携していると思う	ある程度連携していると思う	連携が不十分であると思う	ほとんど連携していないと思う	無回答
全体		(N=306)	8.5	64.7	18.0	7.8	1.0
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	11.3	62.9	19.6	5.2	1.0
	歯科診療所	(n= 85)	5.9	63.5	17.6	11.8	1.2
	薬局	(n= 93)	8.6	62.4	19.4	9.7	0.0
	訪問看護ステーション	(n= 24)	4.2	87.5	8.3	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3-1　問3で「連携が不十分であると思う」又は「ほとんど連携していないと思う」とお答えの方におたずねします
そのように考える理由は何ですか。（３つまでに○）

「交流の場がない」(51.9%)が最も多く、次いで「誰と連絡をとればいいのか分からない」(41.8%)、「お互いに多忙で連絡がとれない」(25.3%)、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」(21.5%)と続いている。

所属医療機関別にみると、一般診療所では「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」(29.2%)、「介護保険など福祉の制度が分からない」(29.2%）が、歯科診療所では「交流の場がない」(60.0%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　連携していないと思う理由
（連携が不十分、ほとんど連携していないと思う機関：複数回答）



図表　連携していないと思う理由
（連携が不十分、ほとんど連携していないと思う機関、所属医療機関別：複数回答）

(%)

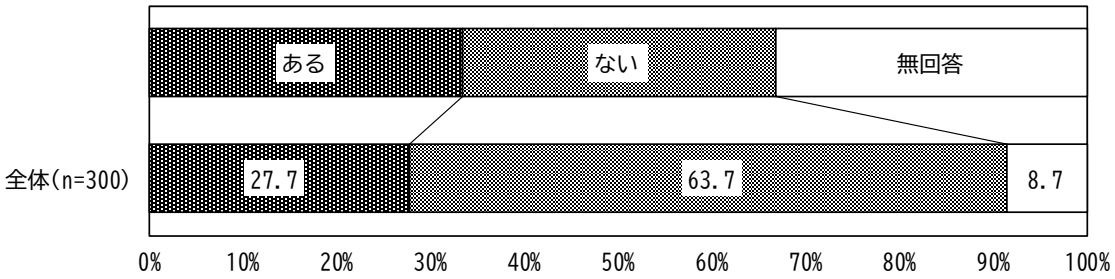
			交流の場がない	誰と連絡をとればいいのか分からない	お互いに多忙で連絡がとれない	医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない	介護保険など福祉の制度が分からない	介護関係者の医療に関する知識や理解が不足している	個人情報保護の観点から情報が共有されない	その他	無回答
全体		(n= 79)	51.9	41.8	25.3	21.5	17.7	16.5	10.1	12.7	0.0
所属医療機関別	一般診療所	(n= 24)	45.8	45.8	29.2	29.2	29.2	12.5	12.5	8.3	0.0
	歯科診療所	(n= 25)	60.0	40.0	12.0	20.0	16.0	20.0	12.0	20.0	0.0
	薬局	(n= 27)	55.6	44.4	29.6	11.1	11.1	7.4	7.4	11.1	0.0
	訪問看護ステーション	(n= 2)	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問4　退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議に出席したことがありますか。
（1つに○）

「ある」が 27.7%、「ない」が 63.7%となっている。

所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「ある」が 100%となっている一方で、一般診療所、歯科診療所では「ない」が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無
（全体）



図表　退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無
（全体、所属医療機関別）

(%)

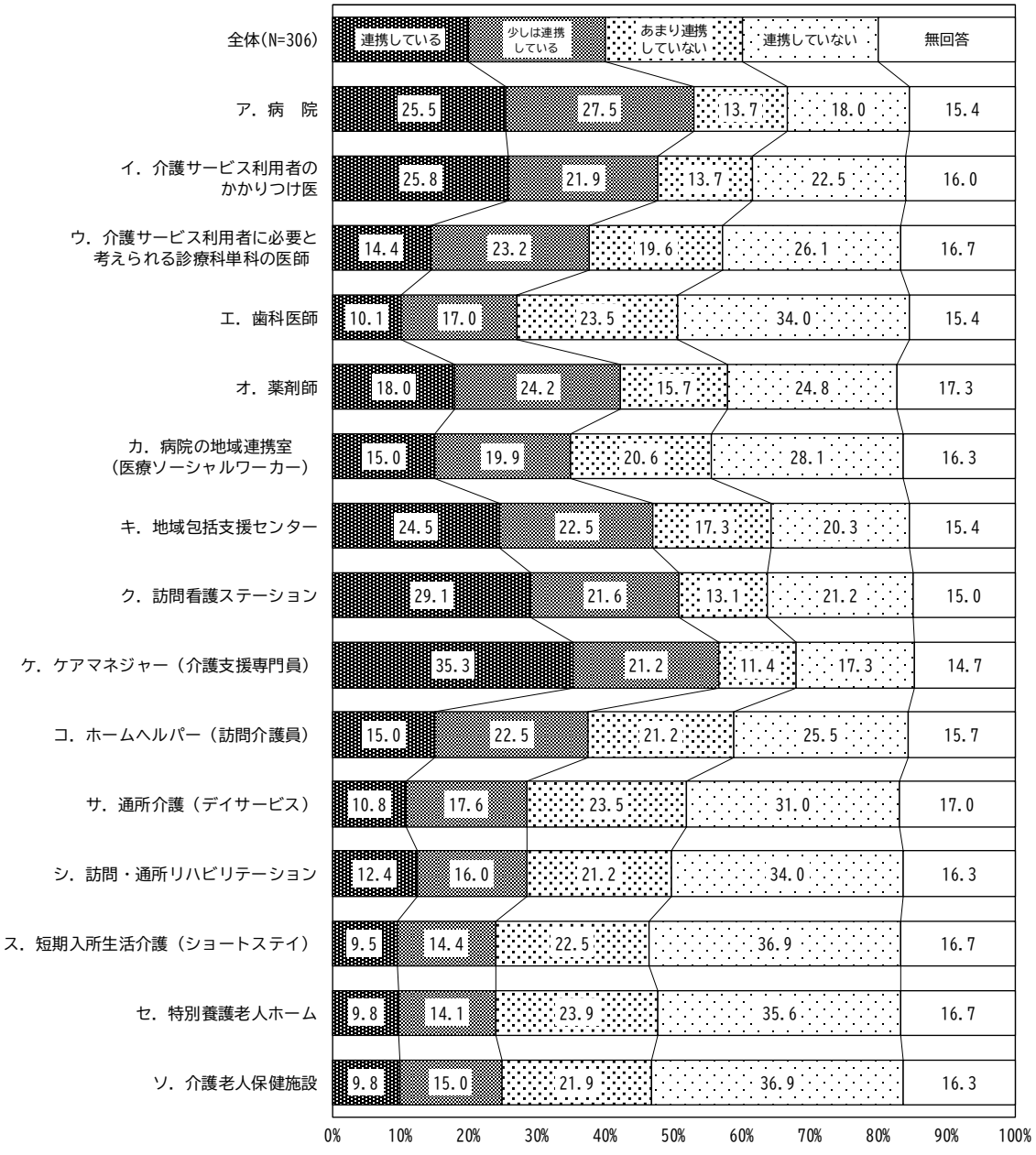
			ある	ない	無回答
全体		(n=300)	27.7	63.7	8.7
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	18.6	74.2	7.2
	歯科診療所	(n= 85)	9.4	77.6	12.9
	薬局	(n= 93)	35.5	57.0	7.5
	訪問看護ステーション	(n= 24)	100.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 0)	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	100.0

問５　介護サービス利用者について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。
（ア～ソのそれぞれ１つに○）

「連携している」と「少しは連携している」を合わせた割合は、『ケ．ケアマネジャー（介護支援専門員）』(56.5%)が最も多く、次いで『ア.病院』(53.0%)、『ク.訪問看護ステーション』(50.7%)、『イ．介護サービス利用者のかかりつけ医』(47.7%)と続いている。

一方、「あまり連携していない」と「連携していない」を合わせた割合は、『セ．特別養護老人ホーム』(59.5%)が最も多く、次いで『ス．短期入所生活介護（ショートステイ）』(59.4%)、『ソ．介護老人保健施設』(58.8%)、『エ．歯科医師』(57.5%)と続いている。

図表　関係機関、職種との連携状況（全体）



図表　関係機関、職種との連携状況（全体、所属医療機関別）

（%）

			ア.病院					イ.介護サービス利用者のかかりつけ医				
			連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体		(N=306)	25.5	27.5	13.7	18.0	15.4	25.8	21.9	13.7	22.5	16.0
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	26.8	26.8	17.5	18.6	10.3	21.6	20.6	20.6	24.7	12.4
	歯科診療所	(n= 85)	18.8	27.1	9.4	18.8	25.9	10.6	21.2	12.9	29.4	25.9
	薬局	(n= 93)	15.1	32.3	17.2	22.6	12.9	29.0	25.8	11.8	21.5	11.8
	訪問看護ステーション	(n= 24)	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

			ウ.介護サービス利用者に必要と考えられる診療科単科の医師					エ.歯科医師				
			連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体		(N=306)	14.4	23.2	19.6	26.1	16.7	10.1	17.0	23.5	34.0	15.4
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	16.5	24.7	23.7	23.7	11.3	6.2	21.6	29.9	29.9	12.4
	歯科診療所	(n= 85)	8.2	18.8	15.3	31.8	25.9	18.8	22.4	15.3	23.5	20.0
	薬局	(n= 93)	9.7	21.5	22.6	31.2	15.1	5.4	6.5	21.5	52.7	14.0
	訪問看護ステーション	(n= 24)	45.8	37.5	12.5	4.2	0.0	12.5	25.0	37.5	20.8	4.2
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

			オ.薬剤師					カ.病院の地域連携室（医療ソーシャルワーカー）				
			連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体		(N=306)	18.0	24.2	15.7	24.8	17.3	15.0	19.9	20.6	28.1	16.3
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	18.6	28.9	16.5	24.7	11.3	14.4	24.7	26.8	22.7	11.3
	歯科診療所	(n= 85)	4.7	21.2	15.3	32.9	25.9	8.2	18.8	15.3	31.8	25.9
	薬局	(n= 93)	20.4	20.4	17.2	24.7	17.2	5.4	16.1	24.7	39.8	14.0
	訪問看護ステーション	(n= 24)	54.2	37.5	8.3	0.0	0.0	70.8	25.0	4.2	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

			キ.地域包括支援センター					ク.訪問看護ステーション				
			連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体		(N=306)	24.5	22.5	17.3	20.3	15.4	29.1	21.6	13.1	21.2	15.0
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	30.9	29.9	13.4	16.5	9.3	42.3	26.8	6.2	16.5	8.2
	歯科診療所	(n= 85)	9.4	15.3	22.4	27.1	25.9	7.1	17.6	15.3	32.9	27.1
	薬局	(n= 93)	18.3	21.5	21.5	24.7	14.0	26.9	22.6	16.1	22.6	11.8
	訪問看護ステーション	(n= 24)	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0	54.2	16.7	25.0	0.0	4.2
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表　関係機関、職種との連携状況（全体、所属医療機関別）

（%）

		ケ.ケアマネジャー（介護支援専門員）					コ.ホームヘルパー（訪問介護員）				
		連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体	(N=306)	35.3	21.2	11.4	17.3	14.7	15.0	22.5	21.2	25.5	15.7
所属医療機関別	一般診療所 (n= 97)	30.9	28.9	16.5	14.4	9.3	13.4	20.6	27.8	26.8	11.3
	歯科診療所 (n= 85)	16.5	21.2	12.9	23.5	25.9	7.1	21.2	16.5	29.4	25.9
	薬局 (n= 93)	39.8	19.4	8.6	20.4	11.8	16.1	22.6	21.5	28.0	11.8
	訪問看護ステーション (n= 24)	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	45.8	41.7	12.5	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者 (n= 5)	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
	その他 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

		サ.通所介護（デイサービス）					シ.訪問・通所リハビリテーション				
		連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体	(N=306)	10.8	17.6	23.5	31.0	17.0	12.4	16.0	21.2	34.0	16.3
所属医療機関別	一般診療所 (n= 97)	16.5	20.6	27.8	22.7	12.4	19.6	23.7	22.7	22.7	11.3
	歯科診療所 (n= 85)	5.9	12.9	21.2	34.1	25.9	5.9	10.6	21.2	36.5	25.9
	薬局 (n= 93)	7.5	10.8	22.6	44.1	15.1	8.6	7.5	18.3	51.6	14.0
	訪問看護ステーション (n= 24)	16.7	54.2	20.8	8.3	0.0	20.8	41.7	29.2	8.3	0.0
	病院の退院支援担当者 (n= 5)	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
	その他 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

		ス.短期入所生活介護（ショートステイ）					セ.特別養護老人ホーム				
		連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体	(N=306)	9.5	14.4	22.5	36.9	16.7	9.8	14.1	23.9	35.6	16.7
所属医療機関別	一般診療所 (n= 97)	16.5	15.5	26.8	29.9	11.3	7.2	14.4	30.9	35.1	12.4
	歯科診療所 (n= 85)	7.1	9.4	21.2	36.5	25.9	10.6	16.5	20.0	27.1	25.9
	薬局 (n= 93)	4.3	11.8	18.3	51.6	14.0	9.7	8.6	18.3	49.5	14.0
	訪問看護ステーション (n= 24)	8.3	41.7	29.2	16.7	4.2	4.2	29.2	37.5	25.0	4.2
	病院の退院支援担当者 (n= 5)	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	その他 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

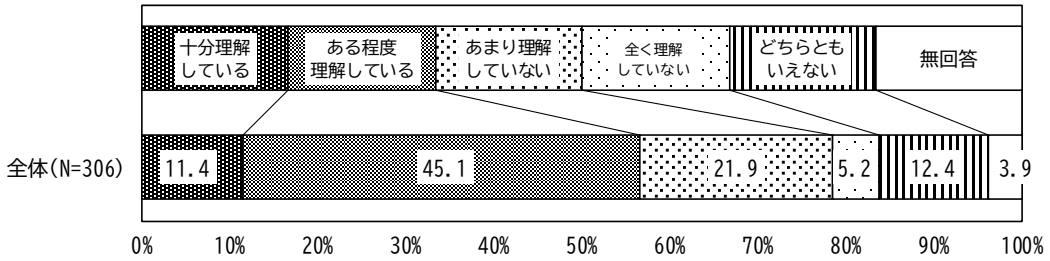
		ソ.介護老人保健施設				
		連携している	少しは連携している	あまり連携していない	連携していない	無回答
全体	(N=306)	9.8	15.0	21.9	36.9	16.3
所属医療機関別	一般診療所 (n= 97)	8.2	15.5	32.0	32.0	12.4
	歯科診療所 (n= 85)	8.2	15.3	16.5	34.1	25.9
	薬局 (n= 93)	11.8	11.8	12.9	50.5	12.9
	訪問看護ステーション (n= 24)	0.0	29.2	41.7	25.0	4.2
	病院の退院支援担当者 (n= 5)	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	その他 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問６　介護保険制度及び介護保険サービスの内容についてどの程度理解していますか。（１つに○）

「十分理解している」（11.4%）、「ある程度理解している」（45.1%）を合わせた割合は 56.5%となっている。一方、「あまり理解していない」（21.9%）、「全く理解していない」（5.2%）を合わせた割合は 27.1%となっている。

所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「十分理解している」（29.2%）、「ある程度理解している」（70.8%）が全体より 10 ポイント以上高い一方で、歯科診療所では「あまり理解していない」（29.4%）、「全く理解していない」（11.8%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　介護保険制度、介護保険サービスの理解（全体）



図表　介護保険制度、介護保険サービスの理解（全体、所属医療機関別）

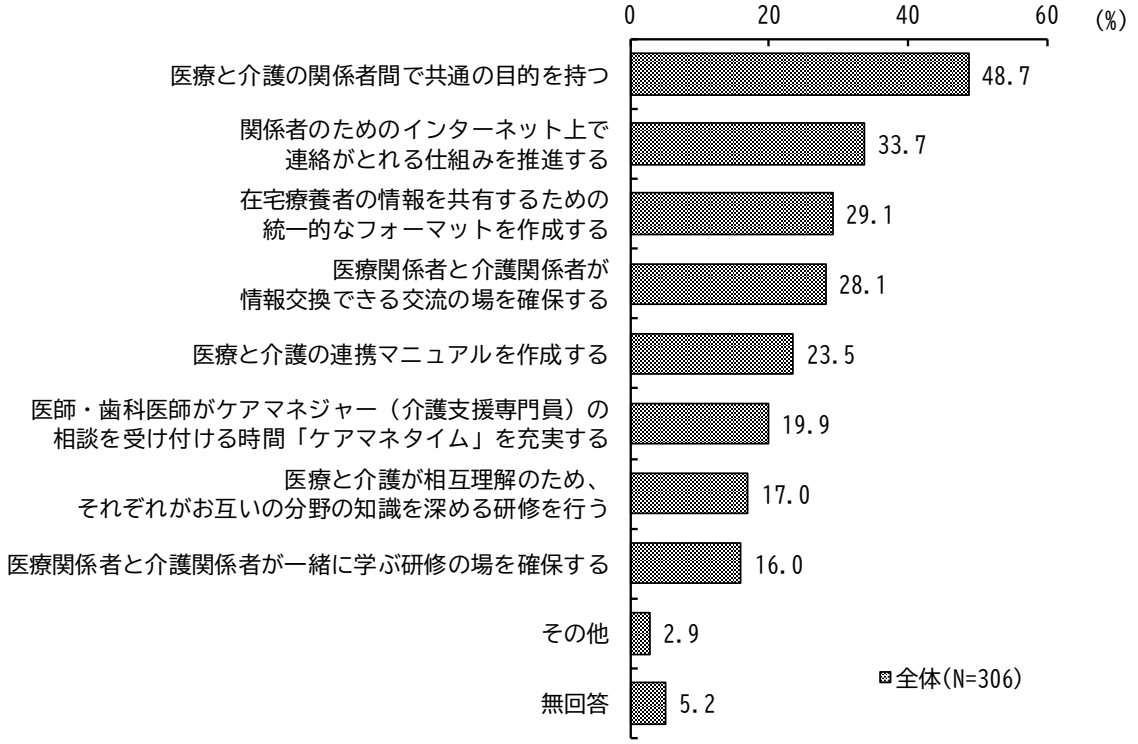
(%)

			十分理解している	ある程度理解している	あまり理解していない	全く理解していない	どちらともいえない	無回答
全体		(N=306)	11.4	45.1	21.9	5.2	12.4	3.9
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	12.4	43.3	21.6	5.2	15.5	2.1
	歯科診療所	(n= 85)	5.9	34.1	29.4	11.8	14.1	4.7
	薬局	(n= 93)	9.7	51.6	22.6	1.1	11.8	3.2
	訪問看護ステーション	(n= 24)	29.2	70.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問７　貴医療機関では、医療と介護の連携を図るためにどのようなことが必要だとお考えですか。（３つまでに○）

「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」(48.7%)が最も多く、次いで「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」(33.7%)、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」(29.1%)、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」(28.1%)と続いている。

図表　医療と介護が連携するために必要なこと
（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、歯科診療所では「医師・歯科医師がケアマネジャーの相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する」（32.9%）が、薬局では「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」（46.2%）が、訪問看護ステーションでは「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」（66.7%）など４項目が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　医療と介護が連携するために必要なこと
（全体、所属医療機関別：複数回答）

（%）

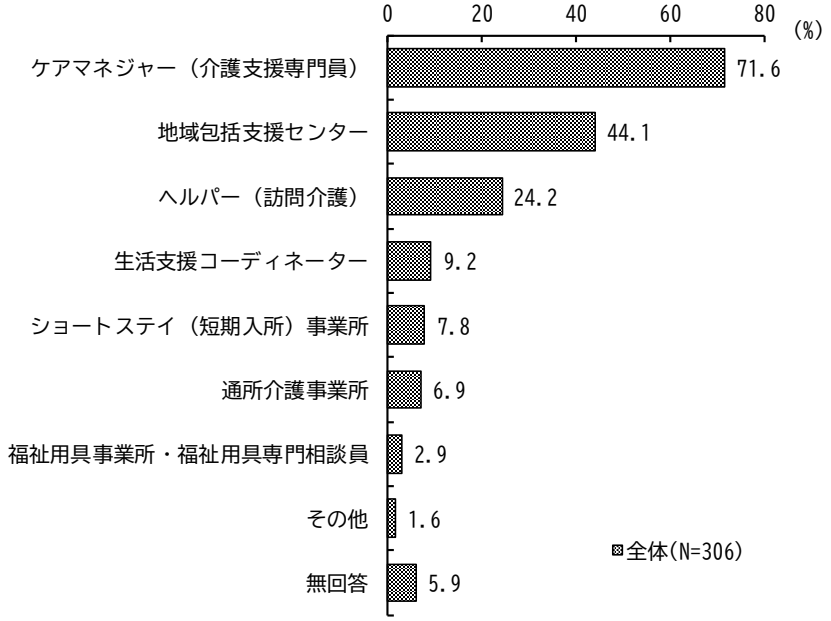
			医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ	関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する	在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する	医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する	医療と介護の連携マニュアルを作成する	医師・歯科医師がケアマネジャーの相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する	医療と介護が相互理解のため、それぞれがお互いの分野の知識を深める研修を行う	医療関係者と介護関係者が一緒に学ぶ研修の場を確保する	その他	無回答
全体		(N=306)	48.7	33.7	29.1	28.1	23.5	19.9	17.0	16.0	2.9	5.2
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	52.6	25.8	22.7	23.7	25.8	21.6	13.4	12.4	5.2	4.1
	歯科診療所	(n= 85)	40.0	25.9	29.4	18.8	31.8	32.9	15.3	9.4	2.4	7.1
	薬局	(n= 93)	47.3	46.2	34.4	35.5	20.4	10.8	22.6	19.4	2.2	3.2
	訪問看護ステーション	(n= 24)	66.7	54.2	33.3	54.2	4.2	4.2	16.7	33.3	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	40.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問８　在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える事業所や介護職は何ですか。（２つまでに○）

「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（71.6%）が最も多く、次いで「地域包括支援センター」（44.1%）、「ヘルパー（訪問介護）」（24.2%）、「生活支援コーディネーター」（9.2%）と続いている。

所属医療機関別にみると、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションでは「ヘルパー（訪問介護）」の割合が全体より高くなっているが、一般診療所では 17.5 ポイントと全体より５ポイント以上低くなっている。

図表　在宅療養を支える上で、さらに連携が必要と考える事業所や介護職
（全体：複数回答）



在宅療養を支える上で、さらに連携が必要と考える事業所や介護職
（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

			ケアマネジャー（介護支援専門員）	地域包括支援センター	ヘルパー（訪問介護）	生活支援コーディネーター	ショートステイ（短期入所）事業所	通所介護事業所	福祉用具事業所・福祉用具専門相談員	その他	無回答
全体		(N=306)	71.6	44.1	24.2	9.2	7.8	6.9	2.9	1.6	5.9
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	68.0	46.4	17.5	14.4	10.3	8.2	2.1	3.1	4.1
	歯科診療所	(n= 85)	74.1	37.6	28.2	8.2	9.4	5.9	0.0	0.0	8.2
	薬局	(n= 93)	74.2	45.2	28.0	6.5	4.3	6.5	4.3	0.0	4.3
	訪問看護ステーション	(n= 24)	70.8	54.2	29.2	4.2	4.2	8.3	12.5	8.3	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

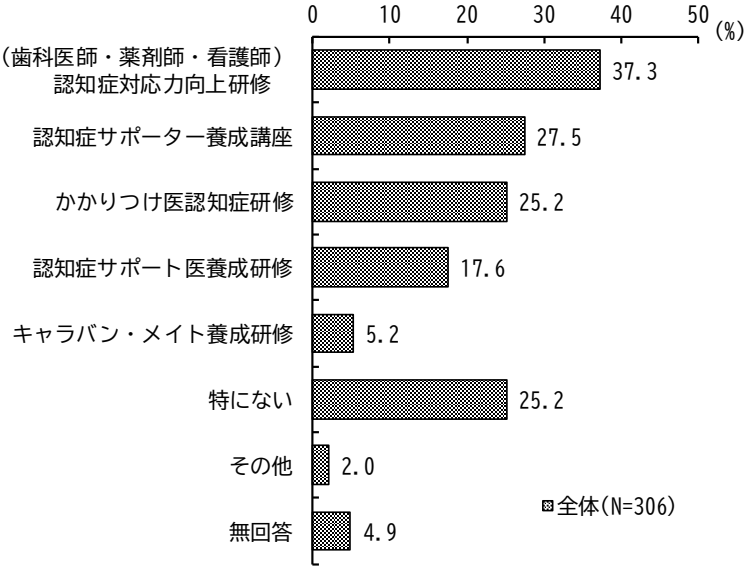
問9　今後、次のような認知症や認知症の医療・介護に関する研修があれば受けたいですか。（いくつでも○）

「(歯科医師・薬剤師・看護師）認知症対応力向上研修」(37.3%)が最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」(27.5%)、「かかりつけ医認知症研修」(25.2%)、「認知症サポート医養成研修」(17.6%)と続いている。

一方で、「特にない」が 25.2%となっている。

所属医療機関別にみると、一般診療所では「かかりつけ医認知症研修」(39.2%）が全体より 10 ポイント以上高く、訪問看護ステーションはいずれの項目も全体より高くなっている。

図表　認知症や認知症の医療・介護に関する研修受講の意向（全体：複数回答）



図表　認知症や認知症の医療・介護に関する研修受講の意向
（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

			（歯科医師・薬剤師・看護師）認知症対応力向上研修	認知症サポーター養成講座	かかりつけ医認知症研修	認知症サポート医養成研修	キャラバン・メイト養成研修	特にない	その他	無回答
全体		(N=306)	37.3	27.5	25.2	17.6	5.2	25.2	2.0	4.9
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	4.1	16.5	39.2	24.7	1.0	41.2	2.1	2.1
	歯科診療所	(n= 85)	58.8	27.1	20.0	11.8	3.5	18.8	2.4	7.1
	薬局	(n= 93)	50.5	36.6	16.1	15.1	9.7	16.1	2.2	4.3
	訪問看護ステーション	(n= 24)	54.2	45.8	25.0	20.8	12.5	12.5	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

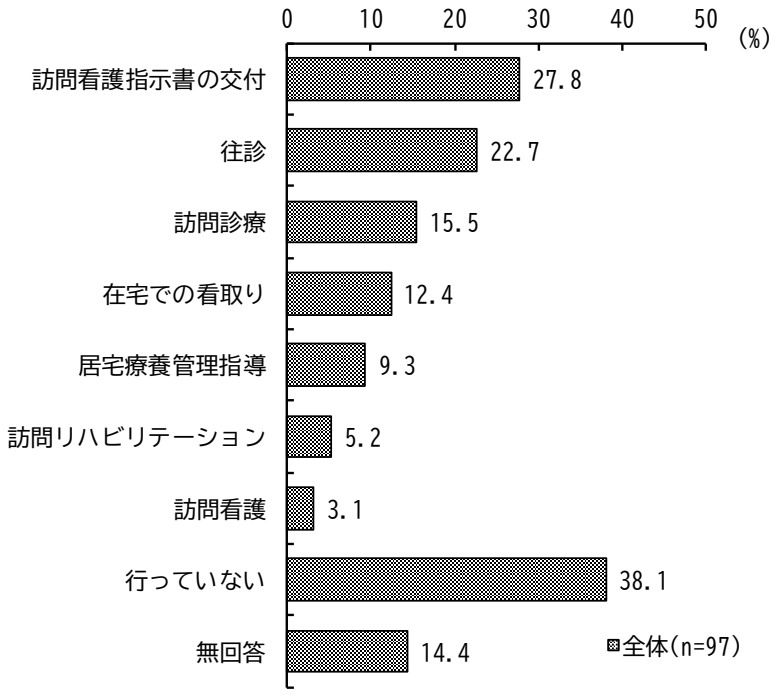
（３）診療所（医師）の取組状況

問 10　現在、あなたの診療所が行っている在宅医療はどれですか。（いくつでも○）

「訪問看護指示書の交付」(27.8%)が最も多く、次いで「往診」(22.7%)、「訪問診療」(15.5%)、「在宅での看取り」(12.4%)と続いている。

一方、「行っていない」が 38.1%となっている。

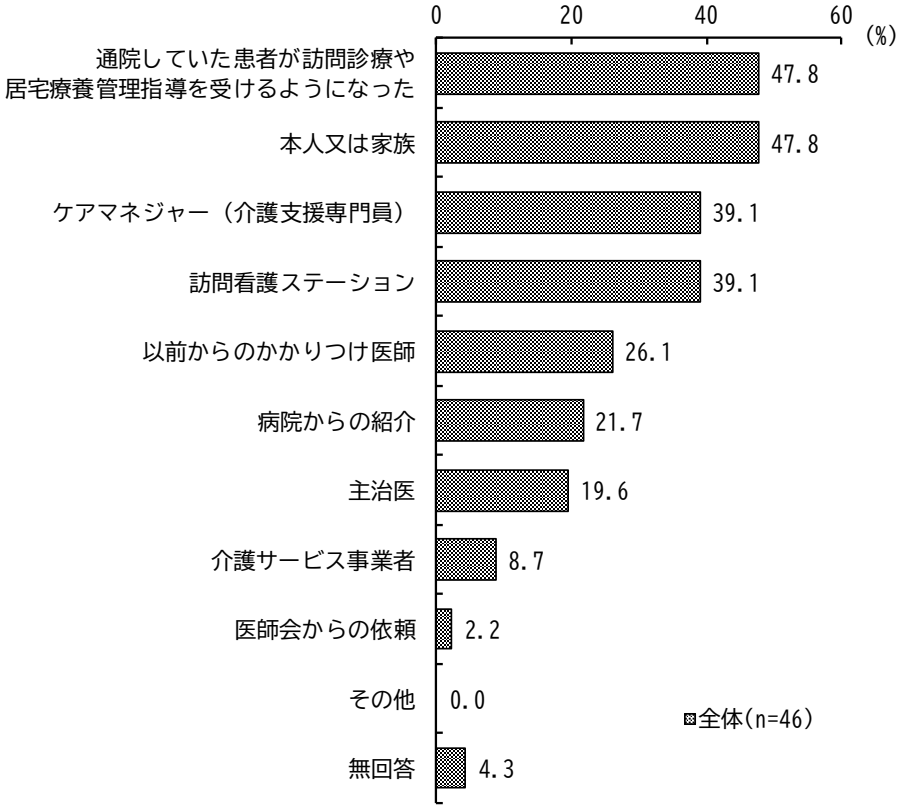
図表　行っている在宅医療（全体：複数回答）



問 10-1　問 10 で「行っていない」以外をお答えの方におたずねします
訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。（いくつでも○）

「通院していた患者が訪問診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」、「本人又は家族」(47.8%)が最も多く、次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員)」、「訪問看護ステーション」（ともに 39.1%)、「以前からのかかりつけ医師」(26.1%)、「病院からの紹介」(21.7%)と続いている。

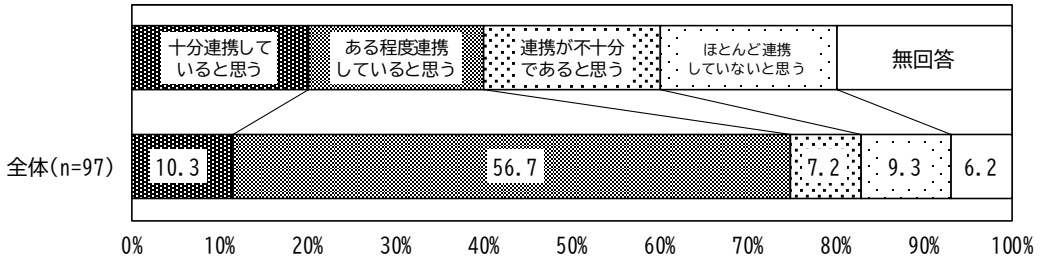
図表　訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元
（在宅医療を行っている診療所：複数回答）



問 11　あなたの診療所と、他の医療機関との連携はとれていますか。（１つに○）

「十分連携している」、「ある程度連携している」を合計した割合は 67.0%となっている。一方、「連携が不十分である」、「ほとんど連携していない」を合計した割合は 16.5%となっている。

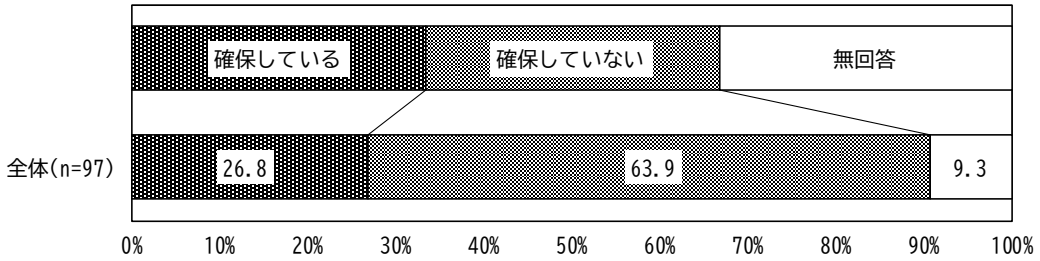
図表　他の医療機関との連携（全体）



問 12　あなたの診療所では、介護関係者との情報交換の機会を確保していますか。（１つに○）

「確保している」が 26.8%、「確保していない」が 63.9%となっている。

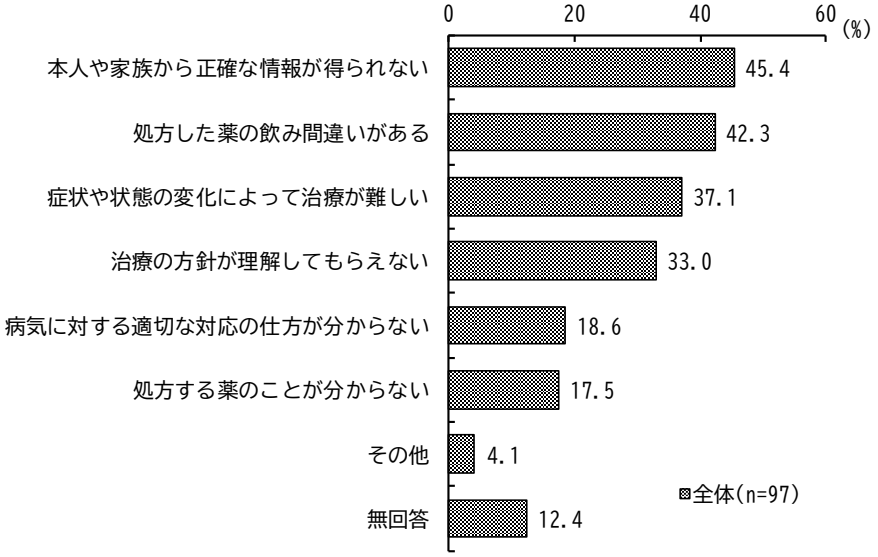
図表　介護関係者との情報交換の機会（全体）



問 13　認知症のある人を治療するときに困ることは何ですか。（いくつでも○）

「本人や家族から正確な情報が得られない」(45.4%)が最も多く、次いで「処方した薬の飲み間違いがある」(42.3%)、「症状や状態の変化によって治療が難しい」(37.1%)、「治療の方針が理解してもらえない」(33.0%)と続いている。

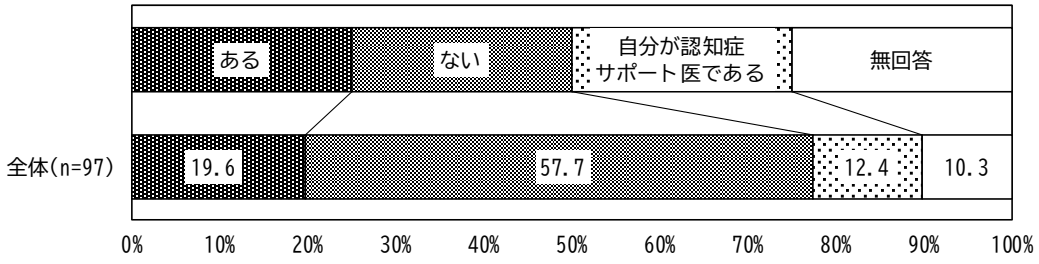
図表　認知症のある人を治療するときに困ること（全体：複数回答）



問 14　認知症サポート医に相談をしたことがありますか。（１つに○）

「ある」が 19.6%、「ない」が 57.7%、「自分が認知症サポート医である」が 12.4%となっている。

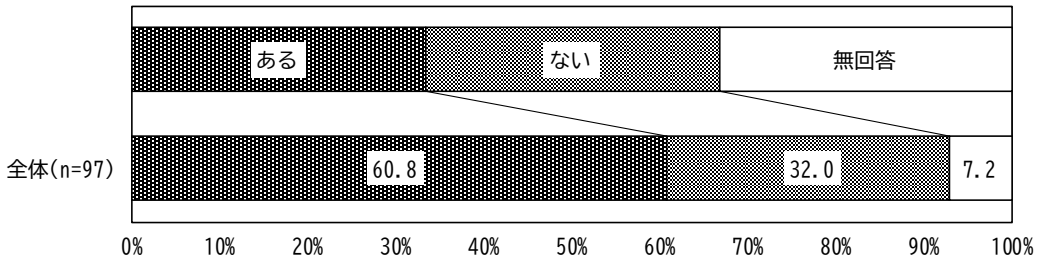
図表　認知症サポート医への相談の有無（全体）



問 15　認知症のある人の治療を専門医に紹介することはありますか。（１つに○）

「ある」が 60.8%、「ない」が 32.0%となっている。

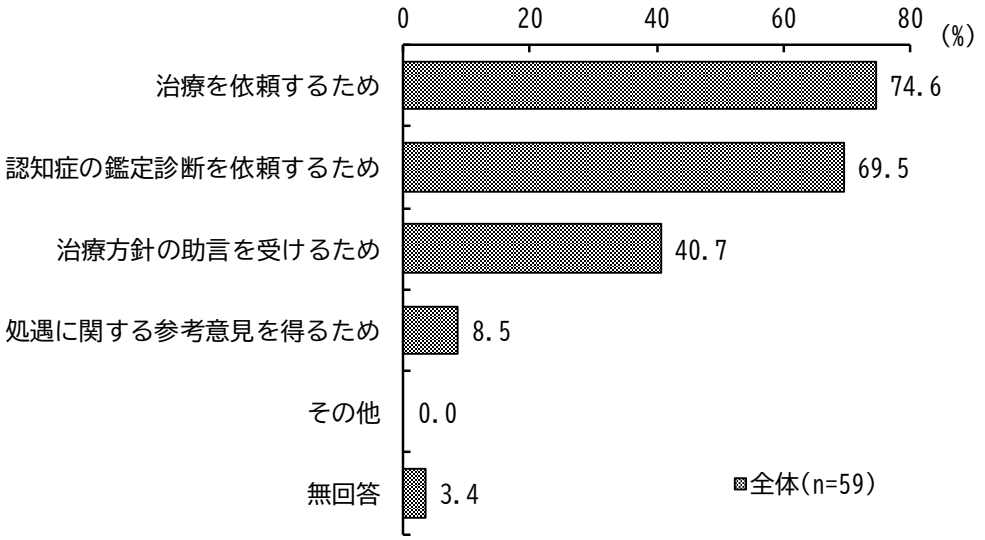
図表　認知症専門医への紹介の有無（全体）



問 15-1　問 15 で「ある」と回答した方におたずねします
どのような目的で紹介をしますか。（いくつでも○）

「治療を依頼するため」（74.6%）が最も多く、次いで「認知症の鑑定診断を依頼するため」（69.5%）、「治療方針の助言を受けるため」（40.7%）、「処遇に関する参考意見を得るため」（8.5%）となっている。

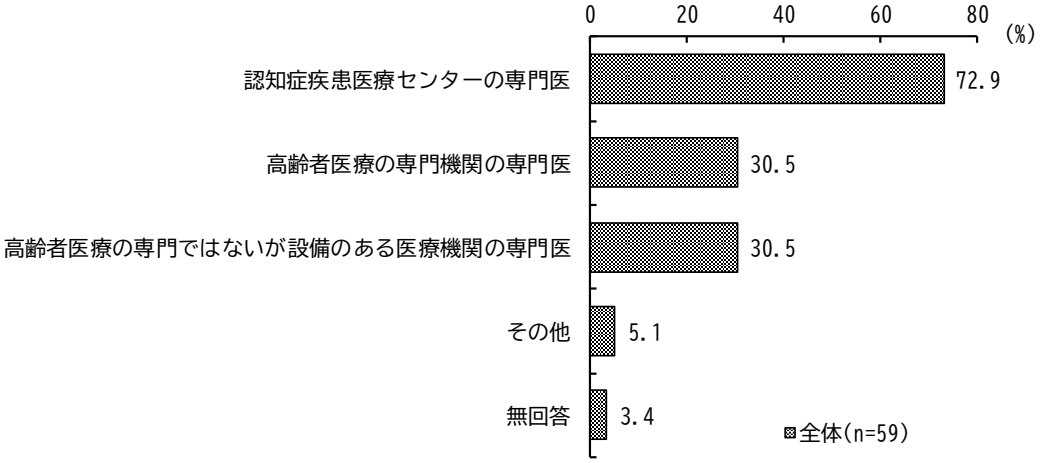
図表　認知症専門医への紹介の目的
（認知症専門医を紹介したことがある診療所：複数回答）



問 15-2　問 15 で「ある」と回答した方におたずねします
どのような機関の専門医ですか。（いくつでも○）

「認知症疾患医療センターの専門医」（72.9%）が最も多く、次いで「高齢者医療の専門機関の専門医」、「高齢者医療の専門ではないが設備のある医療機関の専門医」（ともに 30.5%）と続いている。

図表　認知症専門医の所属医療機関
（認知症専門医を紹介したことがある診療所：複数回答）

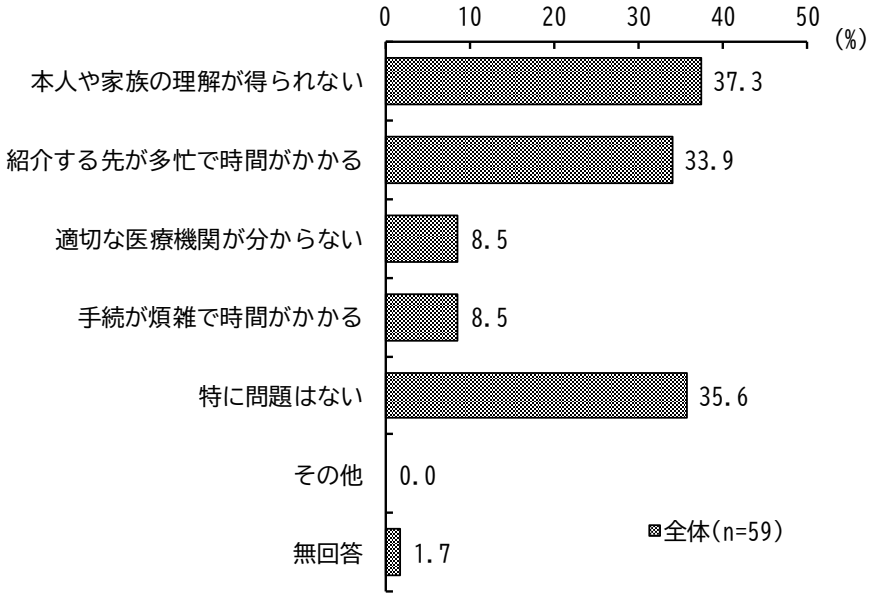


問 15-３　問 15 で「ある」と回答した方におたずねします
そのときどのようなことが問題になりますか。（いくつでも○）

「本人や家族の理解が得られない」（37.3%）が最も多く、次いで「紹介する先が多忙で時間がかかる」（33.9%）、「適切な医療機関が分からない」、「手続が煩雑で時間がかかる」（ともに 8.5%）と続いている。

一方、「特に問題はない」が 35.6%となっている。

図表　認知症専門医に紹介するときに問題になること
（認知症専門医を紹介したことがある診療所：複数回答）

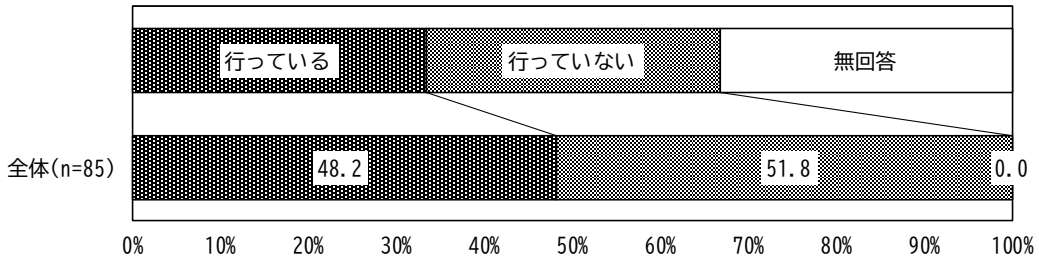


（４）歯科診療所（歯科医師）の取組状況

問 16　あなたの歯科診療所では、訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っていますか。（１つに○）

「行っている」が 48.2%、「行っていない」が 51.8%となっている。

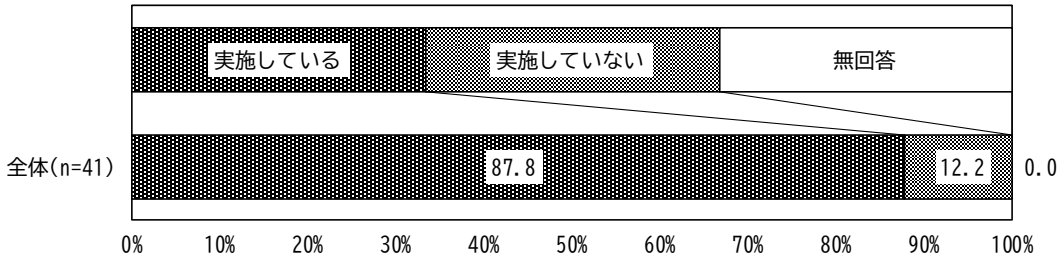
図表　訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施（全体）



問 16-1　問 16 で「行っている」とお答えの方におたずねします
あなたの歯科診療所では、訪問時に口腔衛生指導等を実施していますか。（１つに○）

「実施している」が 87.8%、「実施していない」が 12.2%となっている。

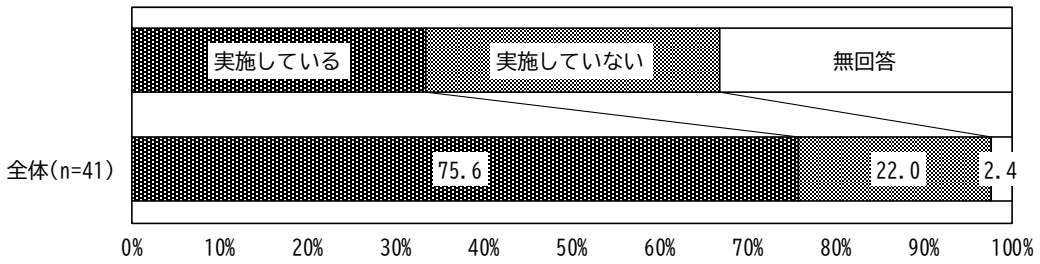
図表　訪問時の口腔衛生指導の実施
（訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っている歯科診療所）



問 16-２　問 16 で「行っている」とお答えの方におたずねします
あなたの歯科診療所では、歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導を実施していますか。（１つに○）

「実施している」が 75.6%、「実施していない」が 22.0%となっている。

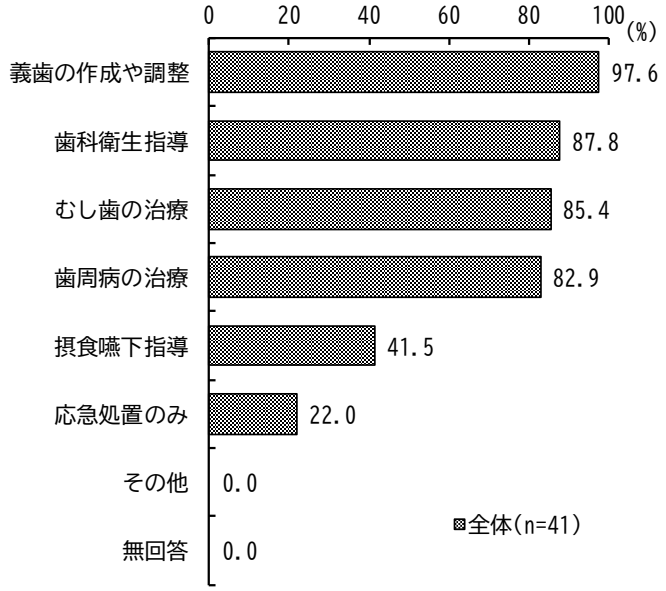
図表　歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施
（訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っている歯科診療所）



問 16-３　問 16 で「行っている」とお答えの方におたずねします
訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療は何ですか。（いくつでも○）

「義歯の作成や調整」（97.6%）が最も多く、次いで「歯科衛生指導」（87.8%）、「むし歯の治療」（85.4%）、「歯周病の治療」（82.9%）と続いている。

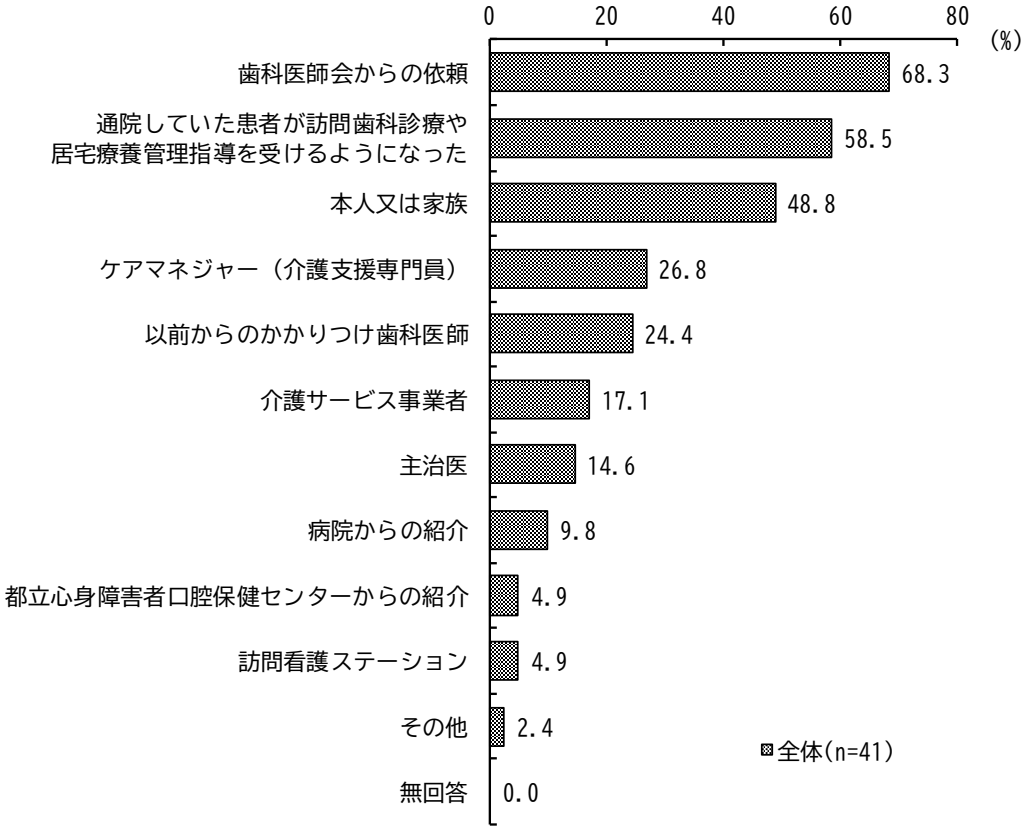
図表　訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療
（訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っている歯科診療所：複数回答）



問 16-4　問 16 で「行っている」とお答えの方におたずねします
訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。（いくつでも○）

「歯科医師会からの依頼」（68.3%）が最も多く、次いで「通院していた患者が訪問歯科診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」（58.5%）、「本人又は家族」（48.8%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（26.8%）と続いている。

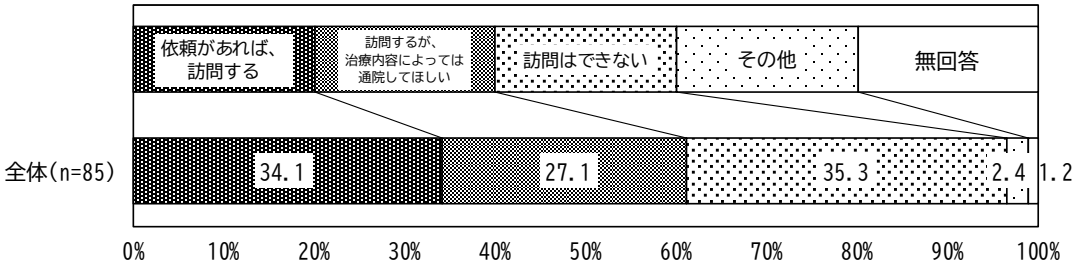
図表　訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元
（訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っている歯科診療所：複数回答）



問 17　今後、依頼があった場合に訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施は可能ですか。（１つに○）

「依頼があれば、訪問する」が 34.1%、「訪問するが、治療内容によっては通院してほしい」が 27.1%、「訪問はできない」が 35.3%となっている。

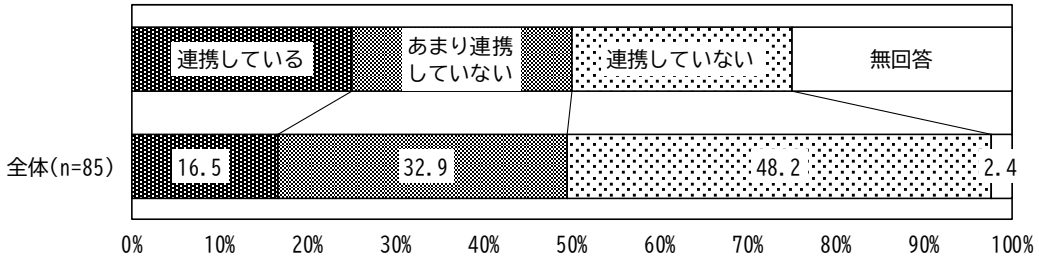
図表　今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性（全体）



問 18　あなたの歯科診療所では、在宅で療養生活を送っている府中市民の方の主治医（かかりつけ医）と連携していますか。（１つに○）

「連携している」が 16.5%、「あまり連携していない」が 32.9%、「連携していない」が 48.2%となっている。

図表　在宅療養者のかかりつけ医との連携（全体）

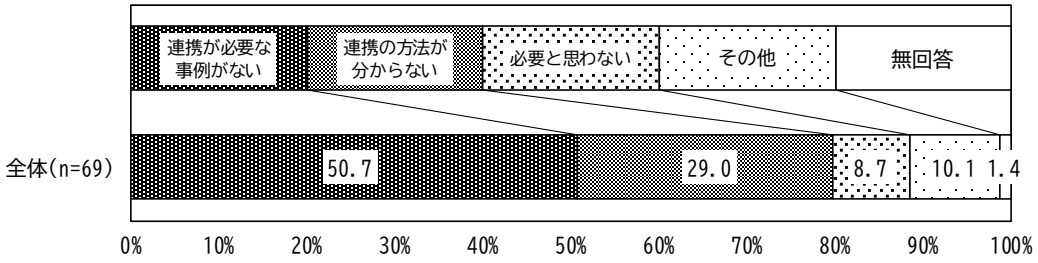


問 18-1　問 18 で「あまり連携していない」又は「連携していない」とお答えの方におたずねします

その理由は何ですか。（1つに○）

「連携が必要な事例がない」が 50.7%、「連携の方法が分からない」が 29.0%、「必要と思わない」が 8.7%となっている。

図表　在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由
（在宅療養者のかかりつけ医と連携していない歯科診療所）

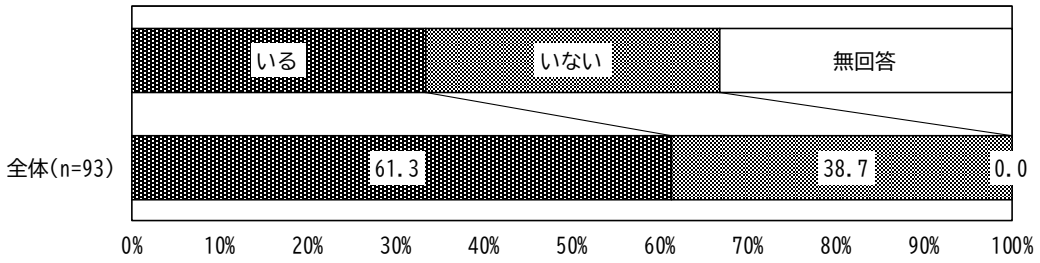


（５）薬局（薬剤師）の取組状況

問 19　あなたの薬局を利用されている方の中に、現在、在宅患者訪問薬剤管理指導（居宅療養管理指導）を利用している府中市民はいますか。（１つに○）

「いる」が 61.3%、「いない」が 38.7%となっている。

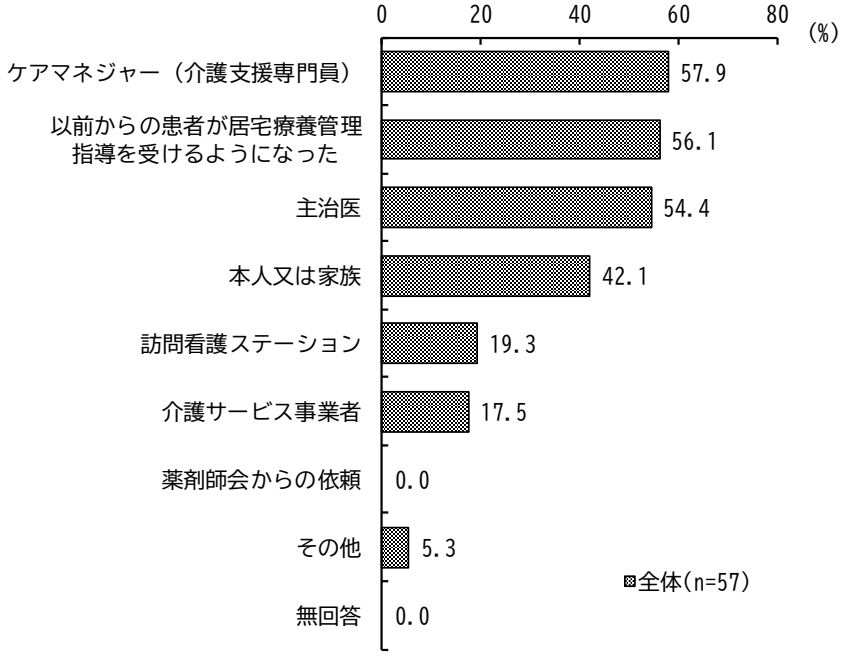
図表　在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無（全体）



問 19-1　問 19 で「いる」とお答えの方におたずねします
居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。（いくつでも○）

「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（57.9%）が最も多く、次いで「以前からの患者が居宅療養管理指導を受けるようになった」（56.1%）、「主治医」（54.4%）、「本人又は家族」（42.1%）と続いている。

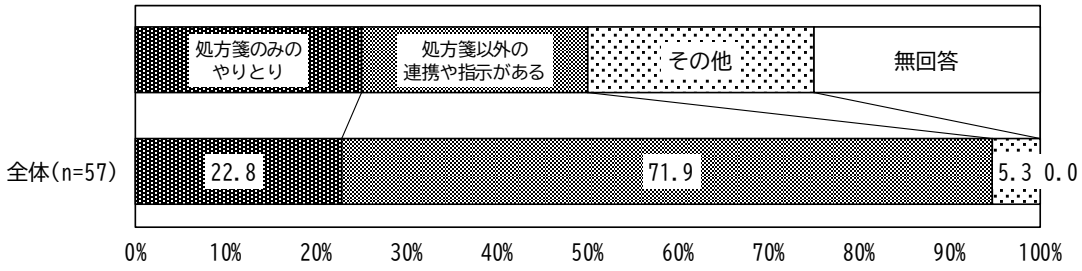
図表　居宅療養管理指導の依頼元
（在宅患者訪問薬剤管理指導を利用している人がいる薬局：複数回答）



問 19-2　問 19 で「いる」とお答えの方におたずねします
医師との連携をどのようにとっていますか。（１つに○）

「処方箋のみのやりとり」が 22.8%、「処方箋以外の連携や指示がある」が 71.9%となっている。

図表　医師との連携状況
（在宅患者訪問薬剤管理指導を利用している人がいる薬局）



問 19-３　問 19-２で「処方箋以外の連携や指示がある」又は「その他」とお答えの方におたずねします

具体的にどのような手段が用いられていますか。（いくつでも○）

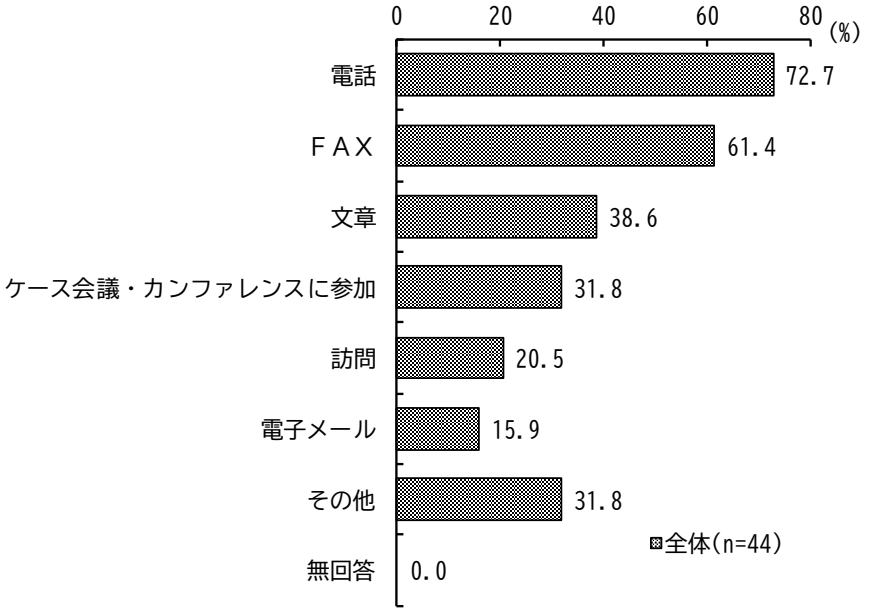
「電話」（72.7%）が最も多く、次いで「ＦＡＸ」（61.4%）、「文章」（38.6%）、「ケース会議・カンファレンスに参加」（31.8%）と続いている。

その他（31.8%）の内容は、「ＭＣＳ」、「チャット」などであった。

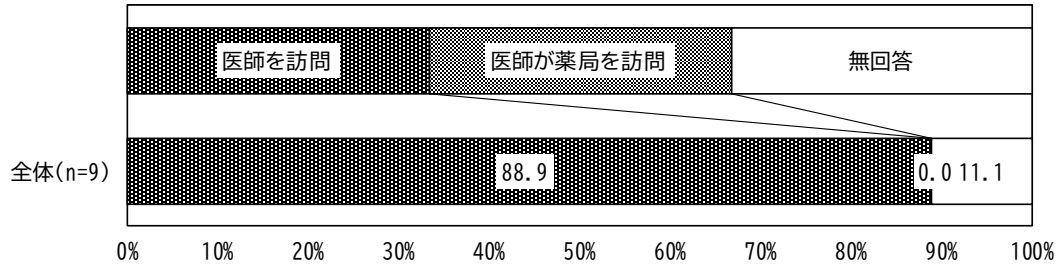
なお、「訪問」の方法は、「医師を訪問」が 88.9%、「医師が薬局を訪問」が 0.0%となっている。

図表　処方箋以外の連絡の手段

（処方箋以外の連携や指示がある薬局：複数回答）



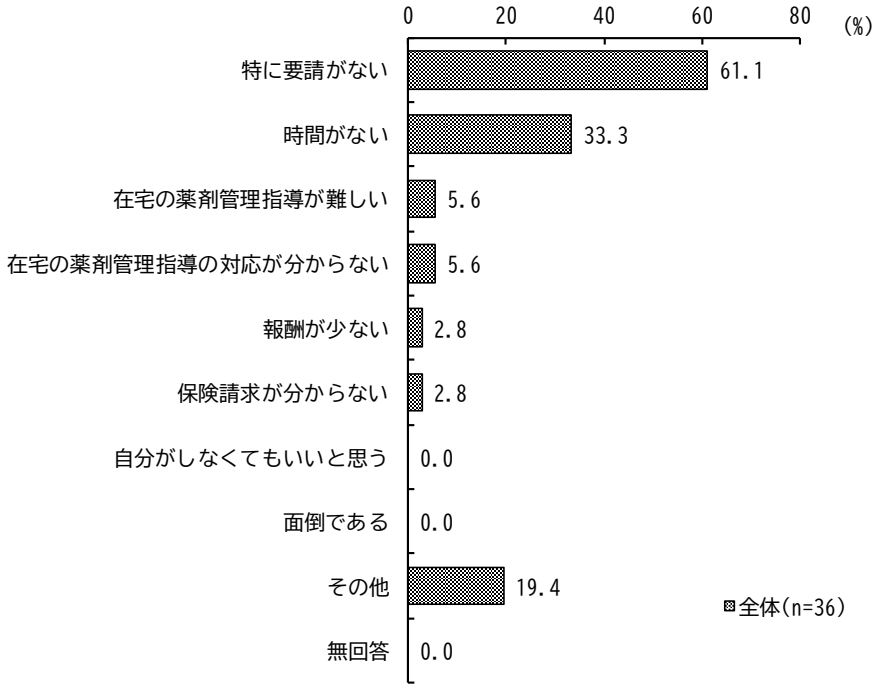
【「訪問」の方法】



問 19-4　問 19 で「いない」とお答えの方におたずねします
いない理由は次のどれですか。（いくつでも○）

「特に要請がない」（61.1%）が最も多く、次いで「時間がない」（33.3%）、「在宅の薬剤管理指導が難しい」、「在宅の薬剤管理指導の対応が分からない」（ともに 5.6%）、「報酬が少ない」、「保険請求が分からない」（ともに 2.8%）と続いている。

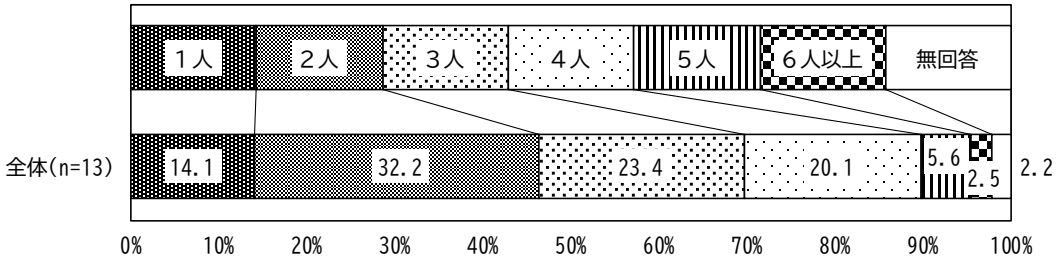
図表　在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由
（在宅患者訪問薬剤管理指導を利用している人がいない薬局：複数回答）



問 20　府中市内で訪問診療を行う在宅療養支援診療所の処方箋を取り扱っていますか。
（１つに○）

「２人」（32.2%）が最も多く、次いで「３人」（23.4%）、「４人」（20.1%）、「１人」（14.1%）と続いている。

図表　在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況の有無（全体）

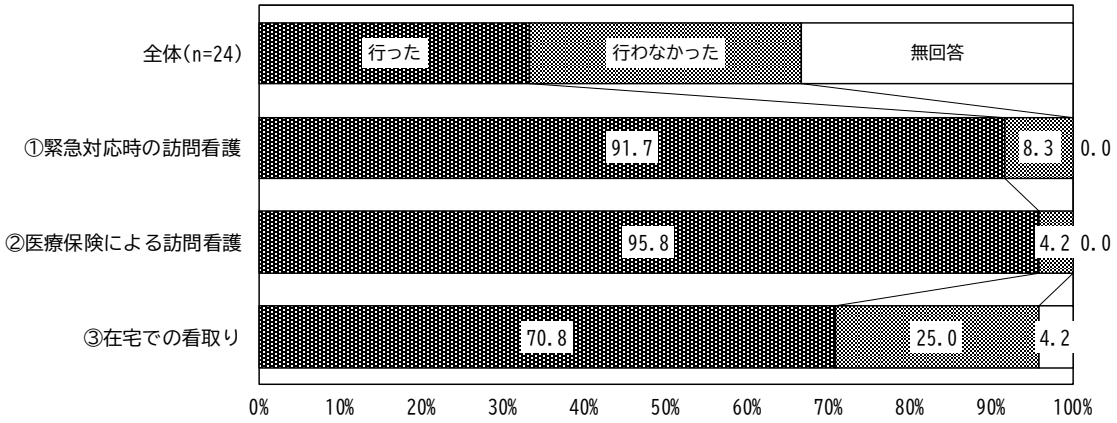


（６）訪問看護ステーション（訪問看護師）の取組状況

問 21　あなたの訪問看護ステーションでの、令和７年９月中の活動状況をお答えください。
（①～③のそれぞれ１つに○）

「行った」割合は、『①緊急対応時の訪問看護』が 91.7%、『②医療保険による訪問看護』が 95.8%、『③在宅での看取り』が 70.8%となっている。

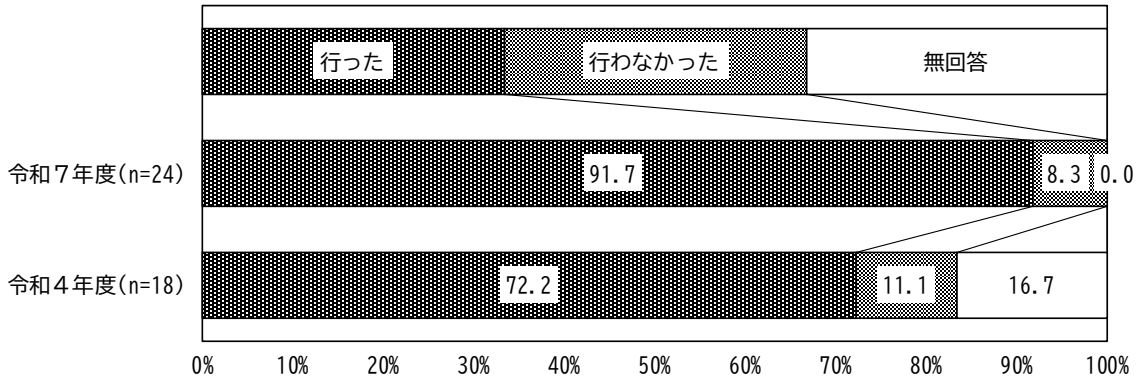
図表　訪問看護の活動状況（全体）



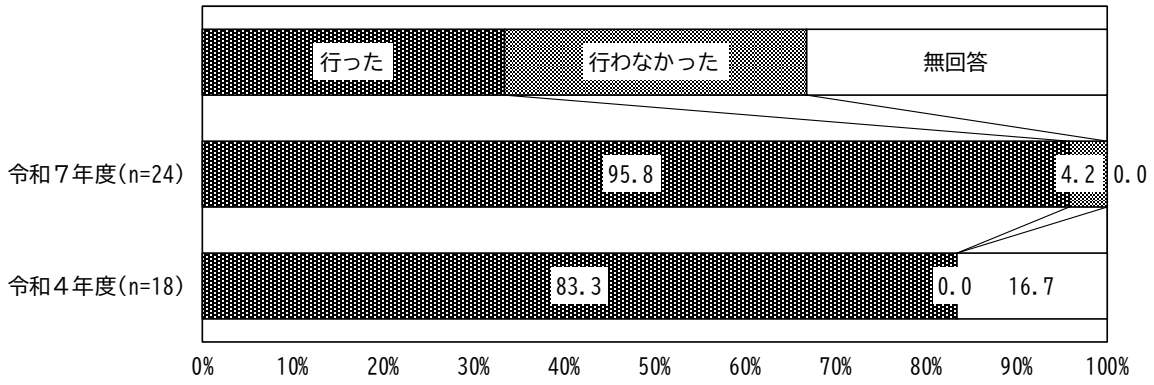
前回調査と比較すると、『①緊急対応時の訪問看護』、『②医療保険による訪問看護』、『③在宅での看取り』いずれも「行った」の割合は 10 ポイント以上高くなっている。

図表　訪問看護の活動状況（全体）【前回比較】

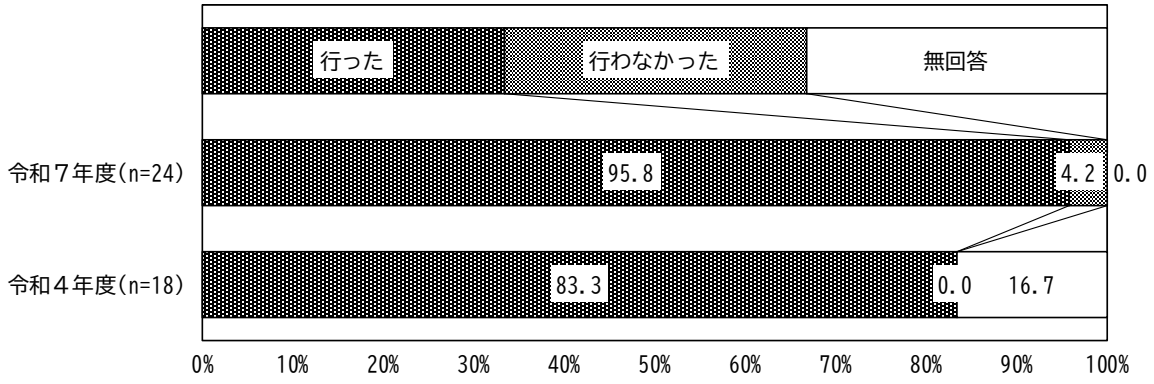
①緊急対応時の訪問看護



②医療保険による訪問看護



③在宅での看取り



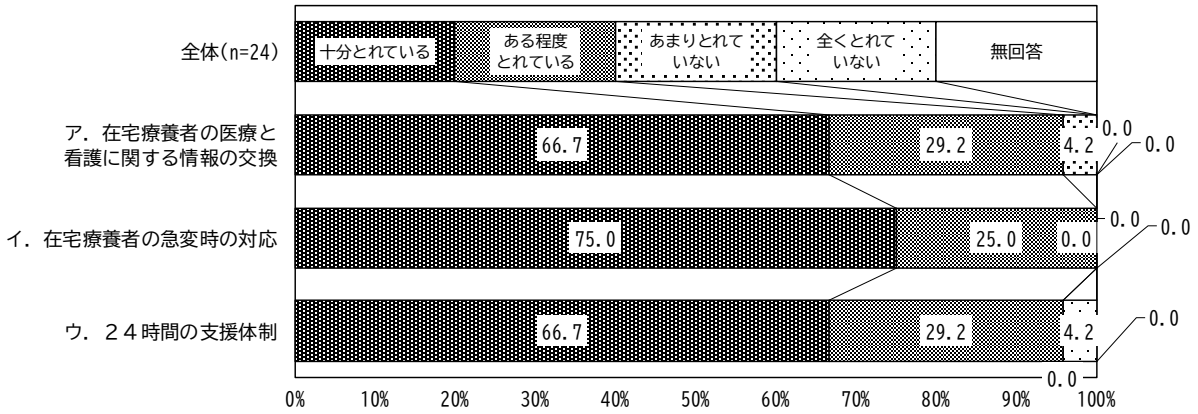
問 22　あなたの訪問看護ステーションでは、在宅医療を実施している医療機関とどのような連携をとっていますか。（ア～ウのそれぞれ１つに○）

『ア．在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換』では「十分とれている」(66.7%)、「ある程度とれている」(29.2%)を合わせた割合は 95.9%となっている。一方、「あまりとれていない」(4.2%)、「全くとれていない」(0.0%)を合わせた割合は 4.2%となっている。

『イ．在宅療養者の急変時の対応』は、「十分とれている」(75.0%)、「ある程度とれている」(25.0%)を合わせた割合は 100.0%となっている。

『ウ．24 時間の支援体制』は、「十分とれている」(66.7%)、「ある程度とれている」(29.2%)を合わせた割合は 95.9%となっている。一方、「あまりとれていない」(0.0%)、「全くとれていない」(4.2%)を合わせた割合は 4.2%となっている。

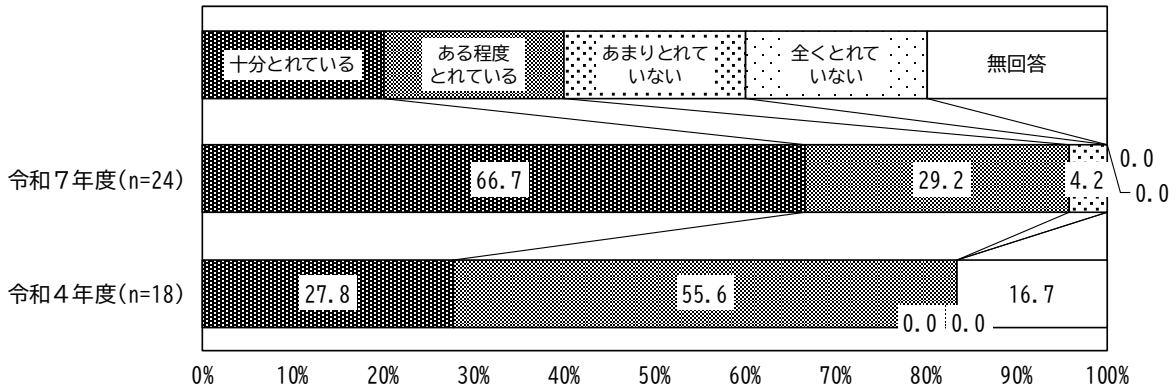
図表　在宅医療を実施している医療機関との連携（全体）



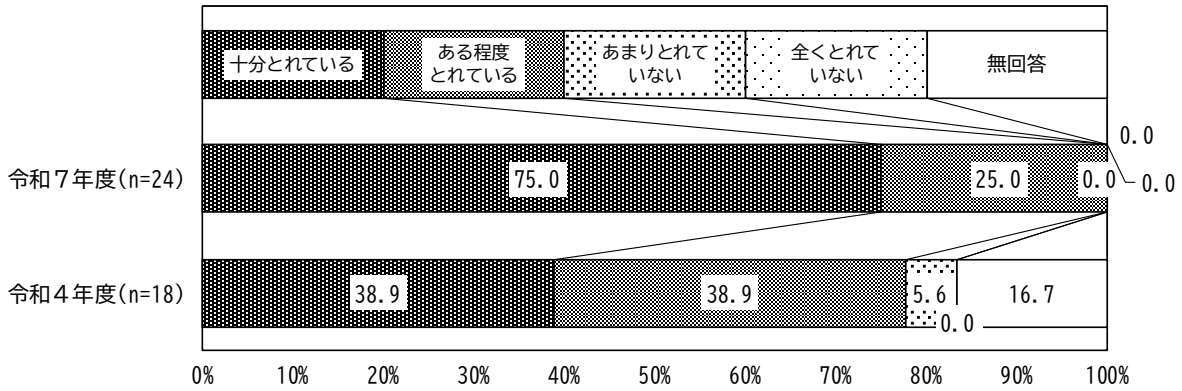
前回調査と比較すると、『ア．在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換』、『イ．在宅療養者の急変時の対応』、『ウ．24 時間の支援体制』いずれも「十分とれている」、「ある程度とれている」を合わせた割合は 10 ポイント以上高くなっている。

図表　在宅医療を実施している医療機関との連携（全体）【前回比較】

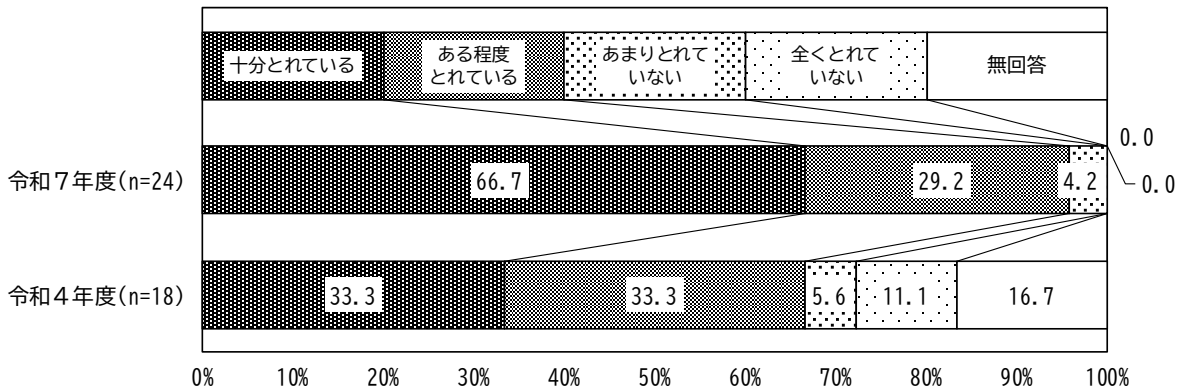
ア．在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換



イ．在宅療養者の急変時の対応



ウ．24 時間の支援体制



問 22-１　問 22 で、１つでも「あまりとれていない」又は「全くとれていない」とお答えの方におたずねします
在宅医療を実施している医療機関との連携がとれていない理由として特筆すべきことがございましたら、ご自由にお書きください。

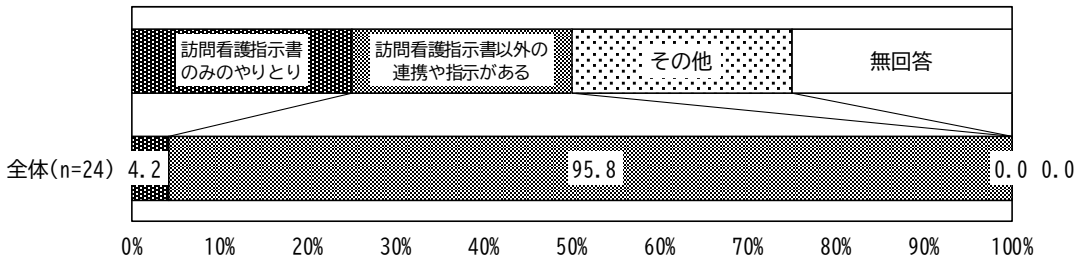
自由記述形式で聞いたところ、２件の回答があった。

内容は「３次救急の病院は特に患者の状態報告や確認をとりたい時、個人情報のため何も伝えられないと言われ、連携が一切とれない事が多々ある」、「24 時間対応をしていない」となっている。

問 23　医師との連携をどのようにとっていますか。（１つに○）

「訪問看護指示書のみのやりとり」が 4.2%、「訪問看護指示書以外の連携や指示がある」が 95.8%となっている。

図表　医師との連携状況（全体）



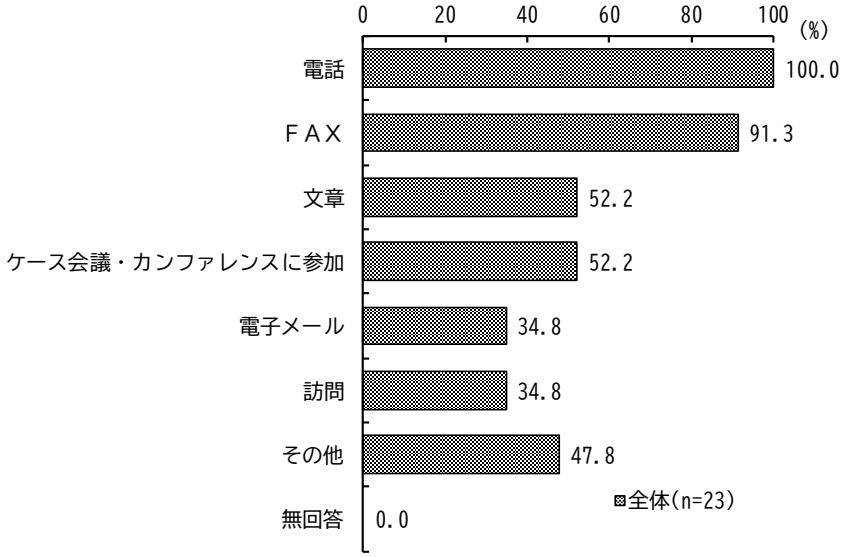
問 23-1　問 23 で「訪問看護指示書以外の連携や指示がある」又は「その他」とお答えの方におたずねします
具体的にどのような手段が用いられていますか。（いくつでも○）

「電話」（100.0%）が最も多く、次いで「ＦＡＸ」（91.3%）、「文章」、「ケース会議・カンファレンスに参加」（ともに 52.2%）、「電子メール」、「訪問」（ともに 34.8%）と続いている。

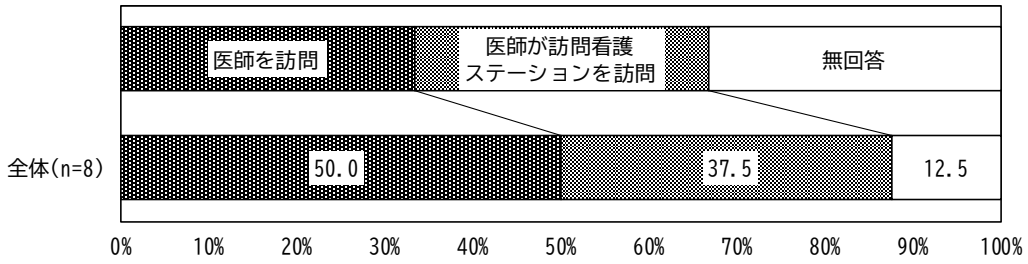
「その他」（47.8%）の内容は、「ＩＣＴ」、「ＭＣＳ」、「ＭＣＳやケアブック」となっている。

なお、「訪問」の方法は、「医師を訪問」が 50.0%、「医師が訪問看護ステーションを訪問」が 37.5%となっている。

図表　訪問看護指示書以外の連絡の手段
（訪問看護指示書以外の連携や指示がある訪問看護ステーション）



【「訪問」の方法】



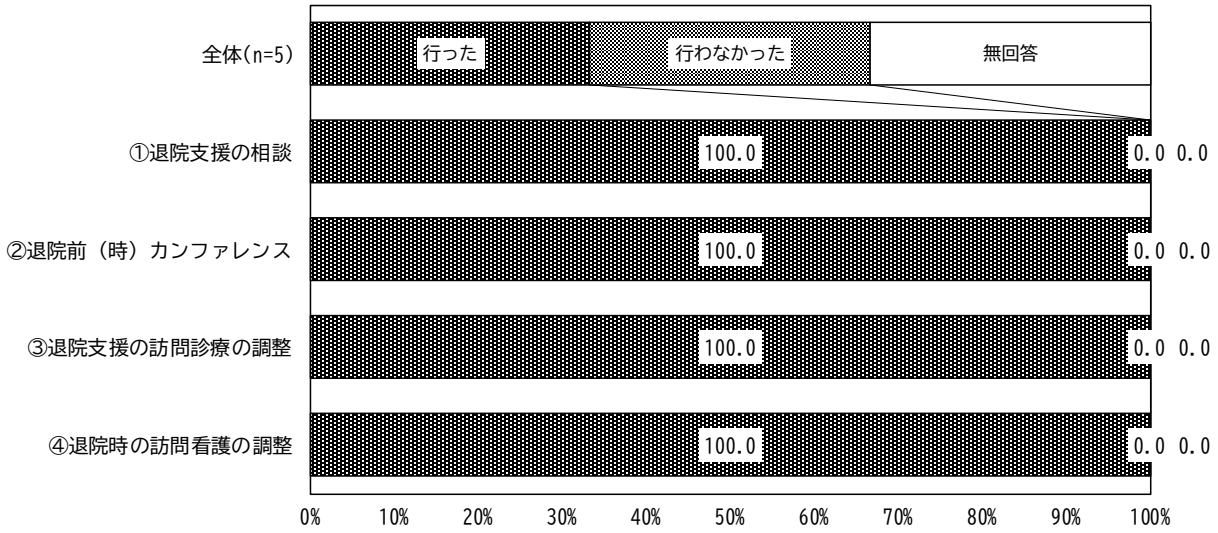
（７）病院の退院支援担当者（医療ソーシャルワーカー、看護師）の取組状況

問 24　貴医院における令和７年９月中の活動状況をお答えください。
（①～④のそれぞれ１つに○）

「行った」割合は『①退院支援の相談』、『②退院前（時）カンファレンス』、『③退院支援の訪問診療の調整』、『④退院時の訪問看護の調整』いずれも 100.0%となっている。

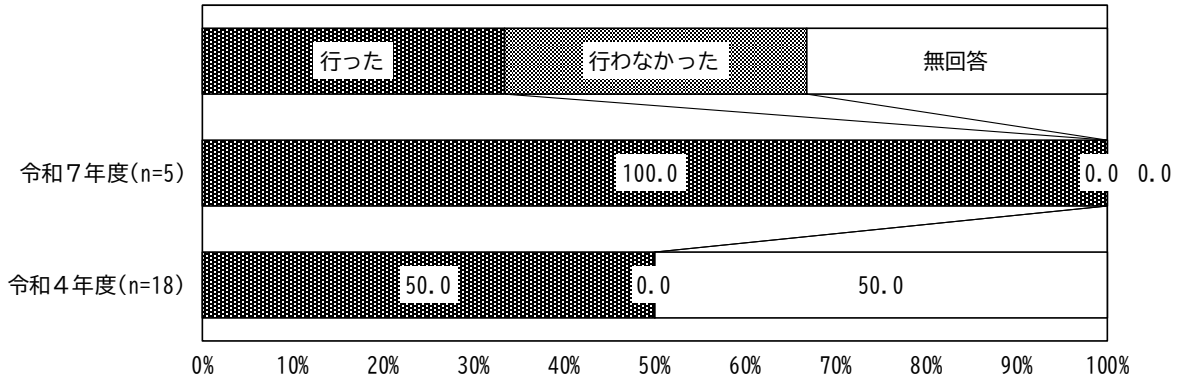
前回調査と比較すると、『①退院支援の相談』、『②退院前（時）カンファレンス』、『③退院支援の訪問診療の調整』、『④退院時の訪問看護の調整』いずれも「行った」割合は 50 ポイント以上高くなっている。

図表　退院に係る活動状況（全体）

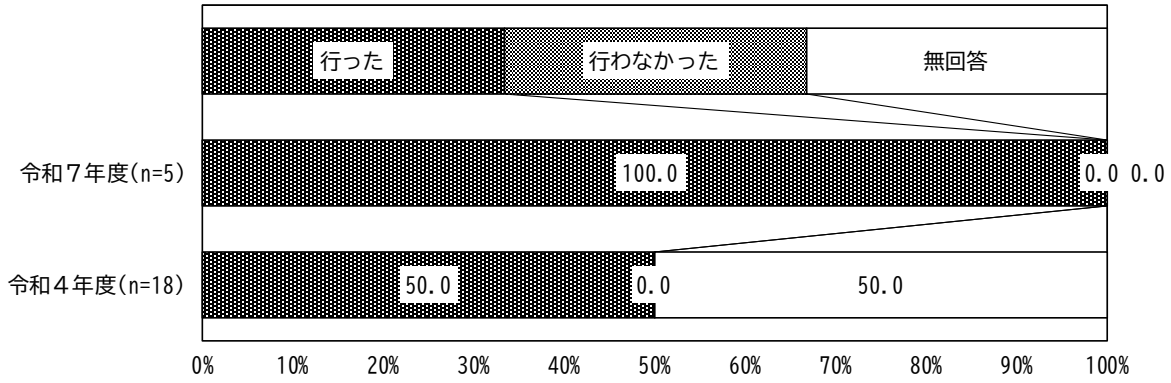


図表　退院に係る活動状況（全体）【前回比較】

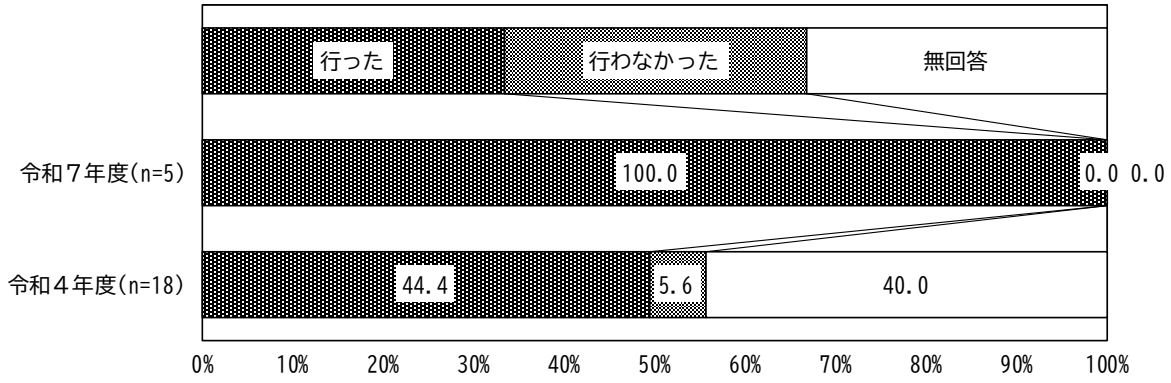
①退院支援の相談



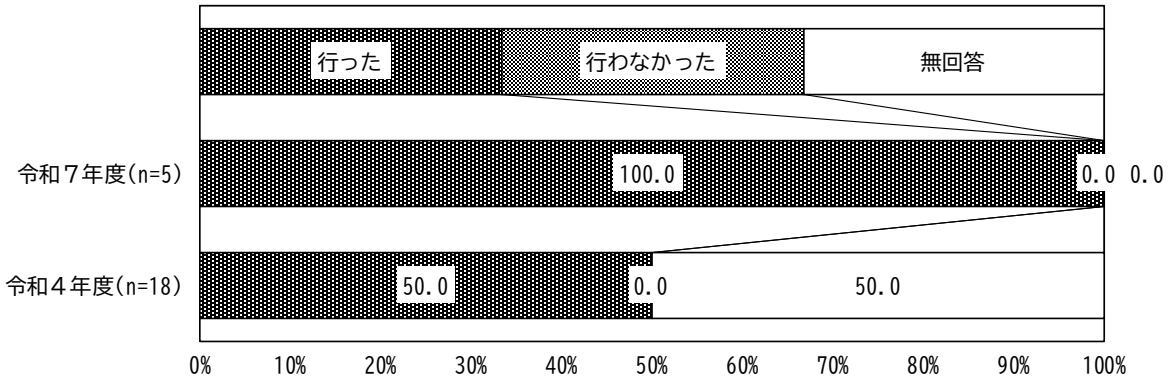
②退院前（時）カンファレンス



③退院支援の訪問診療の調整



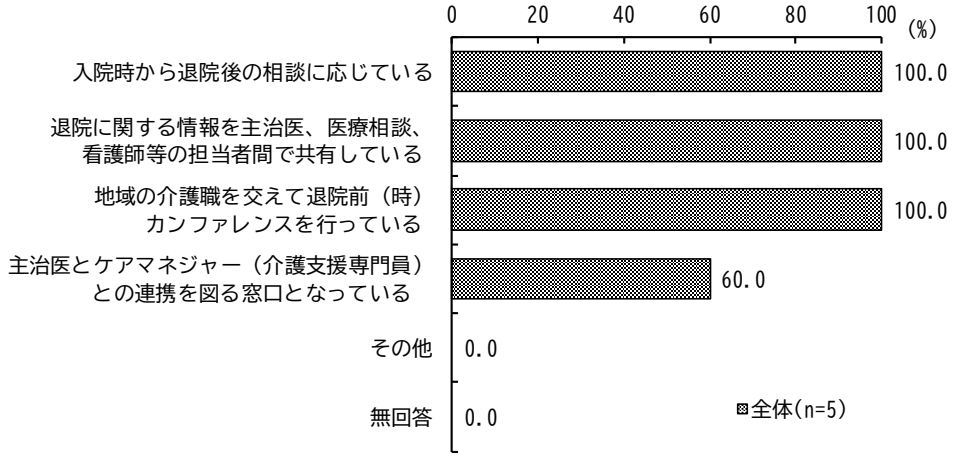
④退院時の訪問看護の調整



問 25　貴医院では、どのような地域連携活動を行っていますか。（いくつでも○）

「入院時から退院後の相談に応じている」、「退院に関する情報を主治医、医療相談、看護師等の担当者間で共有している」、「地域の介護職を交えて退院前（時）カンファレンスを行っている」（100.0%）が最も多く、次いで「主治医とケアマネジャー（介護支援専門員）との連携を図る窓口となっている」（60.0%）と続いている。

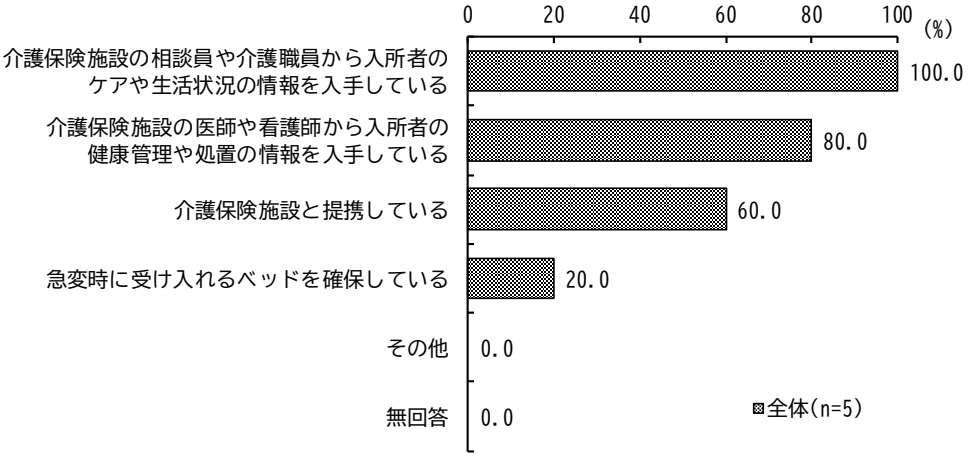
図表　地域連携活動の内容（全体：複数回答）



問 26　介護保険施設とどのように連携していますか。（いくつでも○）

「介護保険施設の相談員や介護職員から入所者のケアや生活状況の情報を入手している」（100.0%）が最も多く、次いで「介護保険施設の医師や看護師から入所者の健康管理や処置の情報を入手している」（80.0%）、「介護保険施設と提携している」（60.0%）、「急変時に受け入れるベッドを確保している」（20.0%）と続いている。

図表　介護保険施設との連携（全体：複数回答）

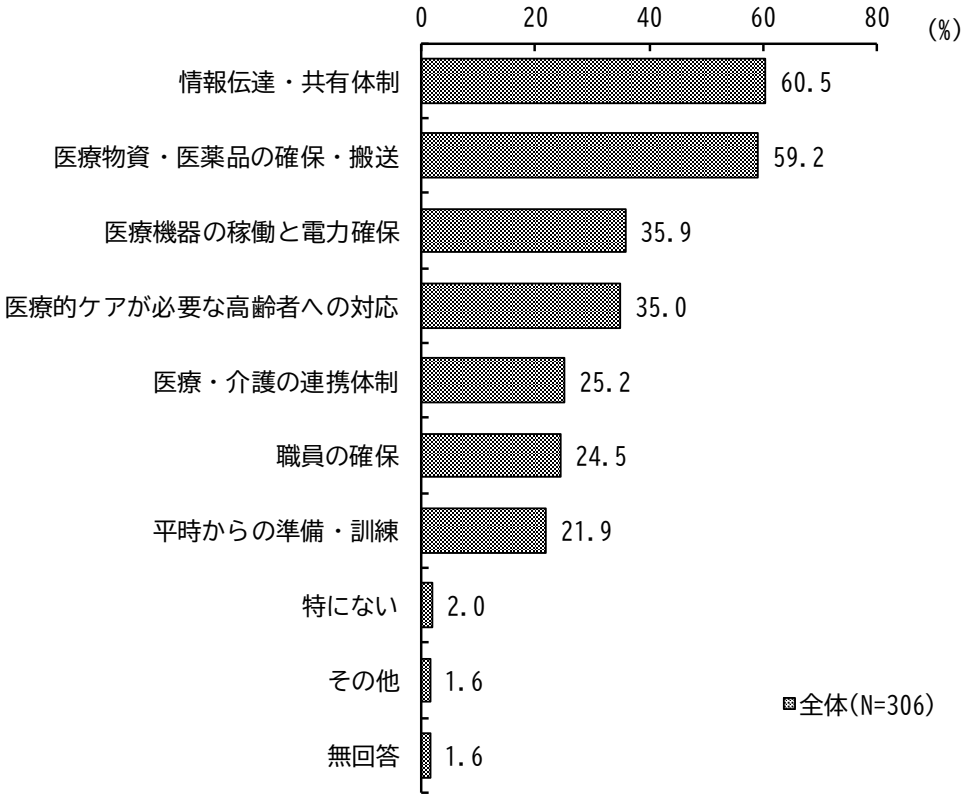


（８）災害時等の体制

問 27　災害時等における高齢者をはじめとするよう配慮者の支援において、特に課題だと感じていることは何ですか。（３つまでに○）

「情報伝達・共有体制」（60.5%）が最も多く、次いで「医療物資・医薬品の確保・搬送」（59.2%）、「医療機器の稼働と電力確保」（35.9%）、「医療的ケアが必要な高齢者への対応」（35.0%）と続いている。

図表　災害時等における高齢者支援の課題（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、一般診療所では「医療機器の稼働と電力確保」（48.5%）が、薬局では「医療物資・医薬品の確保・搬送」（72.0%）が、訪問看護ステーションでは「職員の確保」（45.8%）、「平時からの準備・訓練」（41.7%）、「医療・介護の連携体制」（37.5%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　災害時等における高齢者支援の課題（全体、所属医療機関別：複数回答）

（%）

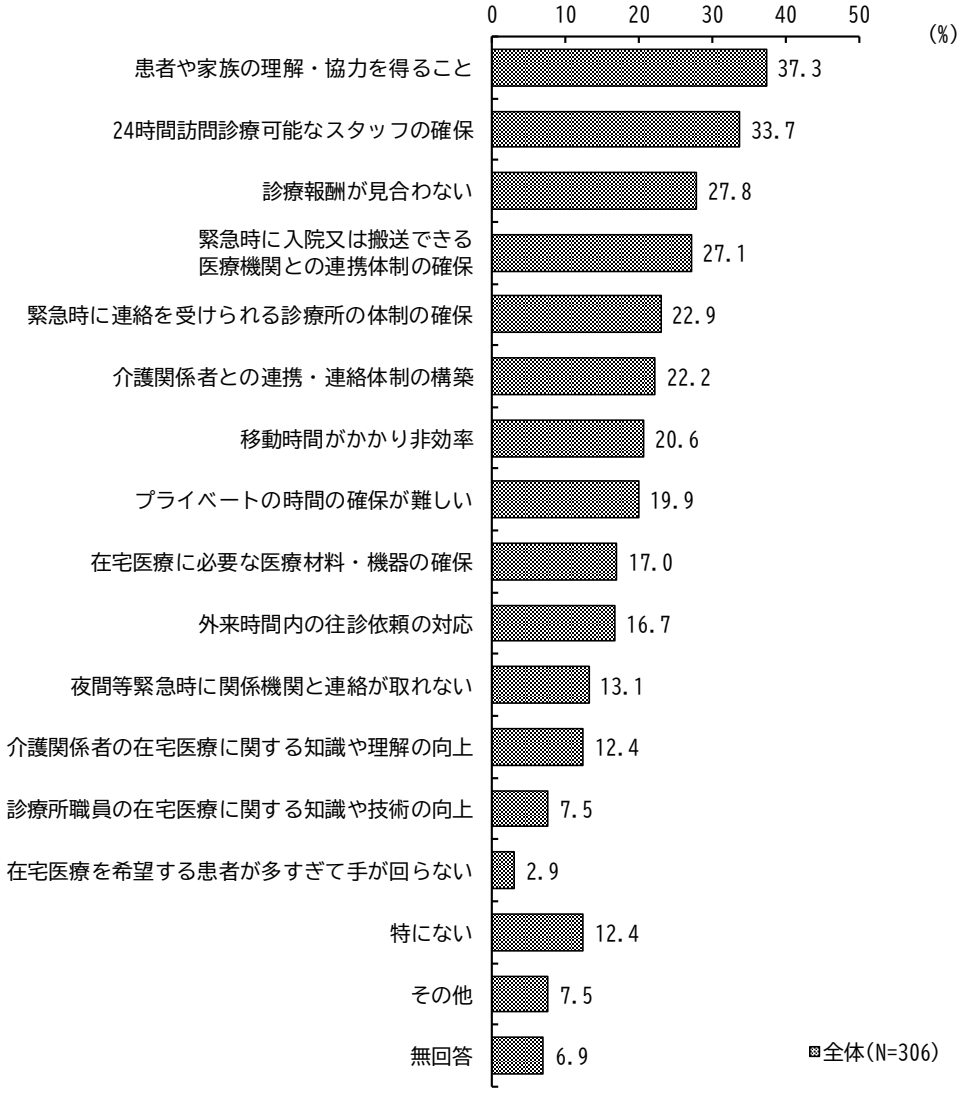
			情報伝達・共有体制	医療物資・医薬品の確保・搬送	医療機器の稼働と電力確保	医療的ケアが必要な高齢者への対応	医療・介護の連携体制	職員の確保	平時からの準備・訓練	特にない	その他	無回答
全体		(N=306)	60.5	59.2	35.9	35.0	25.2	24.5	21.9	2.0	1.6	1.6
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	56.7	57.7	48.5	41.2	20.6	24.7	14.4	3.1	2.1	1.0
	歯科診療所	(n= 85)	62.4	51.8	38.8	32.9	20.0	16.5	27.1	3.5	2.4	2.4
	薬局	(n= 93)	62.4	72.0	29.0	30.1	31.2	28.0	18.3	0.0	0.0	1.1
	訪問看護ステーション	(n= 24)	54.2	45.8	8.3	33.3	37.5	45.8	41.7	0.0	4.2	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	100.0	40.0	0.0	60.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

（9）在宅医療の実施状況

問 28　在宅医療を行う上で、どの様な苦労がありますか。（いくつでも○）

「患者や家族の理解・協力を得ること」（37.3%）が最も多く、次いで「24 時間訪問診療可能なスタッフの確保」（33.7%）、「診療報酬が見合わない」（27.8%）、「緊急時に入院又は搬送できる医療機関との連携体制の確保」（27.1%）と続いている。

図表　在宅医療を行う上での苦労（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、薬局では「24 時間訪問診療可能なスタッフの確保」（44.1%）が、訪問看護ステーションでは「24 時間訪問診療可能なスタッフの確保」（66.7%）など８項目が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　在宅医療を行う上での苦労（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

			患者や家族の理解・協力を得ること	24時間訪問診療可能なスタッフの確保	診療報酬が見合わない	緊急時に入院又は搬送できる医療機関との連携体制の確保	緊急時に連絡を受けられる診療所の体制の確保	介護関係者との連携・連絡体制の構築	移動時間がかかり非効率	プライベートの時間の確保が難しい	在宅医療に必要な医療材料・機器の確保
全体		(N=306)	37.3	33.7	27.8	27.1	22.9	22.2	20.6	19.9	17.0
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	32.0	30.9	19.6	36.1	18.6	15.5	10.3	18.6	8.2
	歯科診療所	(n= 85)	42.4	17.6	27.1	24.7	24.7	27.1	28.2	14.1	32.9
	薬局	(n= 93)	34.4	44.1	32.3	15.1	21.5	23.7	24.7	22.6	11.8
	訪問看護ステーション	(n= 24)	54.2	66.7	50.0	50.0	45.8	29.2	25.0	41.7	20.8
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

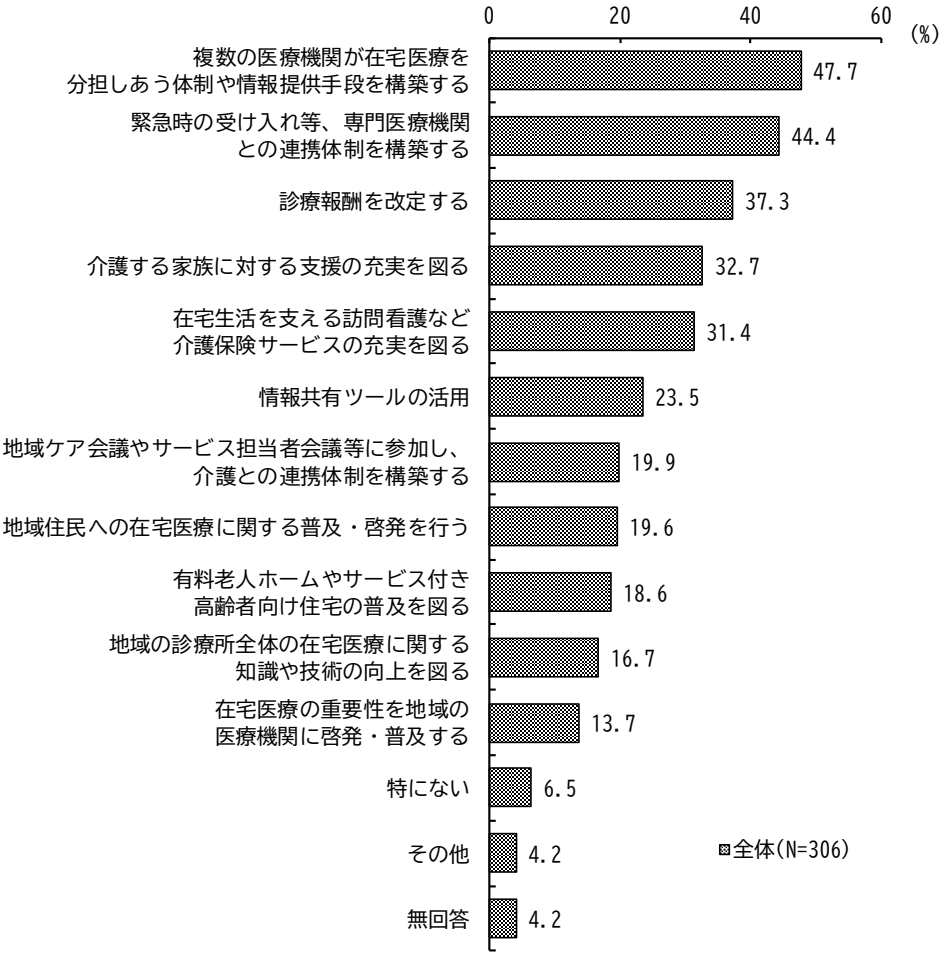
(%)

			外来時間内の往診依頼の対応	夜間等緊急時に関係機関と連絡が取れない	介護関係者の在宅医療に関する知識や理解の向上	診療所職員の在宅医療に関する知識や技術の向上	在宅医療を希望する患者が多すぎて手が回らない	特にない	その他	無回答
全体		(N=306)	16.7	13.1	12.4	7.5	2.9	12.4	7.5	6.9
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	23.7	10.3	9.3	4.1	0.0	18.6	7.2	7.2
	歯科診療所	(n= 85)	15.3	10.6	17.6	15.3	7.1	10.6	8.2	10.6
	薬局	(n= 93)	15.1	14.0	8.6	3.2	2.2	8.6	7.5	4.3
	訪問看護ステーション	(n= 24)	4.2	29.2	25.0	12.5	4.2	0.0	4.2	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 29　今後、在宅医療・在宅ケアを推進するために、どの様な取組が重要だと思いますか。（いくつでも○）

「複数の医療機関が在宅医療を分担しあう体制や情報提供手段を構築する」（47.7%）が最も多く、次いで「緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する」（44.4%）、「診療報酬を改定する」（37.3%）、「介護する家族に対する支援の充実を図る」（32.7%）と続いている。

図表　在宅医療・在宅ケアを推進するために重要な取組（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、一般診療所では「緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する」（56.7%）、「在宅生活を支える訪問看護など介護保険サービスの充実を図る」（42.3%）が、訪問看護ステーションでは「在宅生活を支える訪問看護など介護保険サービスの充実を図る」（62.5%）など５項目が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　在宅医療・在宅ケアを推進するために重要な取組
（全体、所属医療機関別：複数回答）

（%）

			複数の医療機関が在宅医療を分担しあう体制や情報提供手段を構築する	緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する	診療報酬を改定する	介護する家族に対する支援の充実を図る	在宅生活を支える訪問看護など介護保険サービスの充実を図る	情報共有ツールの活用	地域ケア会議やサービス担当者会議等に参加し、介護との連携体制を構築する
全体		(N=306)	47.7	44.4	37.3	32.7	31.4	23.5	19.9
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	43.3	56.7	34.0	34.0	42.3	18.6	12.4
	歯科診療所	(n= 85)	48.2	37.6	36.5	23.5	20.0	23.5	15.3
	薬局	(n= 93)	52.7	37.6	39.8	39.8	24.7	20.4	28.0
	訪問看護ステーション	(n= 24)	50.0	45.8	45.8	37.5	62.5	54.2	37.5
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	40.0	20.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（%）

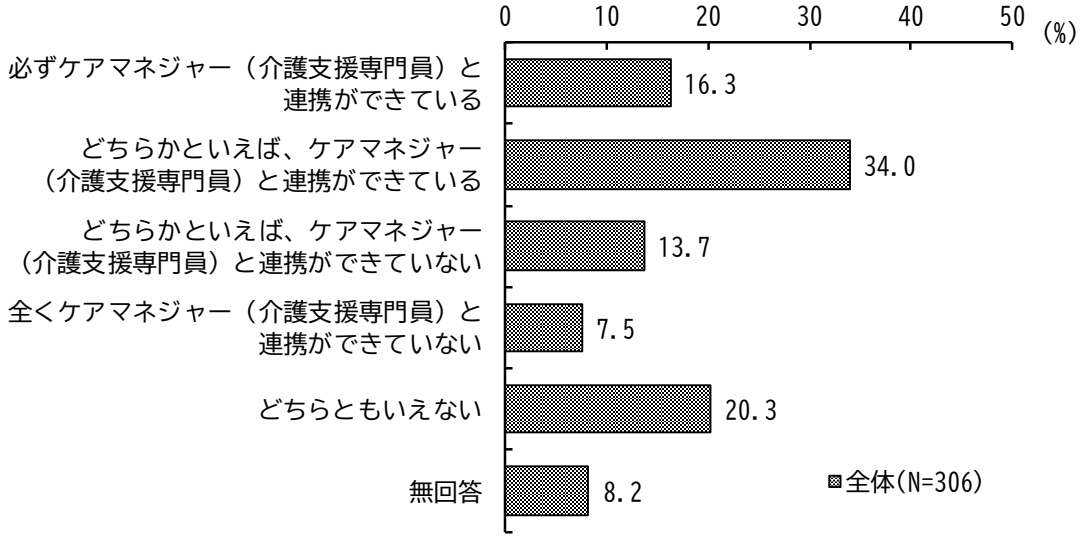
			地域住民への在宅医療に関する普及・啓発を行う	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の普及を図る	地域の診療所全体の在宅医療に関する知識や技術の向上を図る	在宅医療の重要性を地域の医療機関に啓発・普及する	特にない	無回答
全体		(N=306)	19.6	18.6	16.7	13.7	6.5	4.2
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	12.4	20.6	11.3	8.2	9.3	3.1
	歯科診療所	(n= 85)	16.5	17.6	24.7	11.8	7.1	8.2
	薬局	(n= 93)	22.6	18.3	12.9	16.1	3.2	1.1
	訪問看護ステーション	(n= 24)	45.8	12.5	25.0	37.5	0.0	4.2
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

（10）地域包括ケアシステムの推進に向けた医療と介護の連携

問 30　患者本人のケアマネジャー（介護支援専門員）との連携や情報共有の状況はいかがですか。（１つに○）

「どちらかといえば、ケアマネジャー（介護支援専門員）と連携ができている」（34.0%）が最も多く、次いで「必ずケアマネジャー（介護支援専門員）と連携ができている」（16.3%）、「どちらかといえば、ケアマネジャー（介護支援専門員）と連携ができていない」（13.7%）、「全くケアマネジャー（介護支援専門員）と連携ができていない」（7.5%）と続いている。

図表　患者本人のケアマネジャー（介護支援専門員）との連携や情報共有の状況（全体）



所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「必ずケアマネジャーと連携ができている」（54.2%）が全体より 30 ポイント以上、「どちらかといえば、ケアマネジャーと連携ができている」（45.8%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

一方、一般診療所では「どちらかといえば、ケアマネジャーと連携ができていない」（28.9%）が全体より 10 ポイント以上、歯科診療所では「全くケアマネジャーと連携ができていない」（15.3%）が全体より５ポイント以上高くなっている。

図表　患者本人のケアマネジャー（介護支援専門員）との連携や情報共有の状況
（全体、所属医療機関別）

（%）

			必ずケアマネジャーと連携ができている	どちらかといえば、ケアマネジャーと連携ができている	どちらかといえば、ケアマネジャーと連携ができていない	全くケアマネジャーと連携ができていない	どちらともいえない	無回答
全体		(N=306)	16.3	34.0	13.7	7.5	20.3	8.2
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	10.3	30.9	28.9	3.1	21.6	5.2
	歯科診療所	(n= 85)	10.6	27.1	9.4	15.3	24.7	12.9
	薬局	(n= 93)	19.4	38.7	6.5	7.5	19.4	8.6
	訪問看護ステーション	(n= 24)	54.2	45.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	0.0	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 31　ケアマネジャー（介護支援専門員）、訪問看護師、福祉施設介護員、福祉施設生活相談員、ホームヘルパー（訪問介護員）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、466 件（ケアマネジャー（介護支援専門員）：100 件、訪問看護師：78 件、福祉施設介護員：65 件、福祉施設生活相談員：62 件、ホームヘルパー（訪問介護員）：75 件、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士：67 件、その他：19 件）の回答があった。以下、内訳を掲載する。

【ケアマネジャー（介護支援専門員）：100 件】

内容	件数
情報共有、情報伝達、スムーズな連携	10 件
本人・家族の状況を客観的に見る	8件
サービスのまとめ役、調整者	8件
口腔ケアなど歯科（訪問歯科）との連携	5件
すぐに連絡が取れて対応してもらえること	5件
薬局の連携、情報共有して欲しい	3件
それぞれの専門性を活かし、他の職種の役割を尊重	3件
訪問診療切り替え時の相談、診療所とのスムーズな連携	3件
（問題ない場合も）こまめに連絡を取り合う、顔の見える関係性	3件
状態変化時の柔軟な対応	3件
多職種との連携を期待	3件
利用者・家族に寄り添ったケア	3件
連絡が取れず、情報共有できていない	3件
サービス担当者会議への出席依頼	3件
ＭＣＳの活用、ＩＣＴシステムの構築	2件
入退院時などの情報共有	2件
スタッフの人数確保	2件
自宅退院を拒否されるケースがある	2件
適切な対応、責任ある対応	2件
連携・相談しやすい関係にある	2件
（歯の）磨き方より何のために磨くのかを理解してほしい方が多い	1件
利用者紹介	1件
口腔衛生状態の定時報告	1件
認知症の初診の際にケアマネからの情報シートがあると良い	1件
ケアマネによって差がある	1件
独居生活者の訪問を重点的に行う	1件
誰がどのような介護のサービスを利用しているか知りたい	1件
市町村外になると連携が弱くなる	1件
医療プランニング優先ではない者を含めての話し合い	1件
互いに多忙なため会う機会が欲しい	1件
いろいろ教えて欲しい	1件
在宅計画の管理	1件
わからない	5件
特になし	8件

【訪問看護師:78 件】

内容	件数
情報共有、情報伝達、スムーズな連携	22 件
現状連携が取れている、きちんと連絡をくれている	６件
薬剤師との情報共有希望	４件
適切な対応、与えられた役割に責任を持つ	３件
利用者の不安・心配への対応、利用者に寄り添うケア	３件
口腔ケア、歯科への繋ぎの対応	３件
診療所、主治医との連携希望	２件
急な体調変化に対する一時対応	２件
MCS の活用、ICT システムの構築	２件
スタッフの人数確保	１件
自宅でいつまでも過ごせるような医療的ケア	１件
週末のサービス提供希望	１件
独居の利用者を重点的に訪問する	１件
訪問回数の増加	１件
地域に出て利用者の生活が充実するサポート	１件
患者ケア	１件
家族指導	１件
内服状態の確認	１件
歯科を格下に扱わないで欲しい	１件
月１回のサービス担当者会議	１件
気軽に連絡が欲しい	１件
24 時間緊急対応	１件
わからない	６件
特になし	12 件

【福祉施設介護員:65 件】

内容	件数
利用時の情報共有、問題点の抽出	11 件
口腔ケアが必要な利用者の対応、歯科への繋ぎ	５件
接点がない	３件
重要な情報があれば連絡が欲しい	２件
独居の利用者の保護、重点的な訪問	２件
与えられた役割に責任を持つ	２件
ＭＣＳの活用、ＩＣＴシステムの構築	２件
服薬状況を知りたい	２件
診療所との連携	１件
患者情報の連携ができる仕組みづくり	１件
スタッフの人数確保	１件
適切な対応	１件
家族への説明・支援	１件
寄り添ったケア	１件
現状連携が取れている、きちんと連絡をくれている	１件
市内の透析患者の受け入れ施設が少ない	１件
それぞれの福祉施設のスタンスを知りたい	１件
月１回のサービス担当者会議	１件
気軽に連絡して欲しい	１件
相談に乗って欲しい	１件
利用者の病状や目指すべき目標を理解した上での支援	１件
多職種の連携	１件

内容	件数
普段の様子の把握	1件
わからない	7件
特になし	14件

【福祉施設生活相談員:62件】

内容	件数
利用時の情報共有、問題点の抽出	7件
接点がない・具体的に仕事内容を理解していない	4件
患者本人の状態の把握、連絡	3件
本人・家族の心の支え、寄り添ったケア	3件
口腔ケアが必要な方の対応、歯科への繋ぎ	2件
現状で連携が取れている	2件
スムーズな入退所できるような手助け	2件
サービスに関する最新情報の提供	2件
ＭＣＳの活用、ＩＣＴシステムの構築	2件
重要な情報があれば連絡が欲しい	1件
診療所との連携	1件
スタッフの人数確保	1件
適切な対応	1件
受診の際にメモなどで困りごとを伝える	1件
与えられた役割に責任を持つ	1件
独居生活者の訪問を重点的に行う	1件
サービスのまとめ役、調整役	1件
市内の透析患者の受け入れ施設が少ない	1件
具体的な使い方を知りたい	1件
患者情報の連携ができる仕組み作り	1件
月１回のサービス担当者会議	1件
気軽に連絡して欲しい	1件
多職種との連携	1件
わからない	5件
特になし	16件

【ホームヘルパー（訪問介護員）:75件】

内容	件数
日々の生活面の情報共有	12件
生活支援、寄り添ったケア	6件
外への情報発信、伝達方法を検討して欲しい	4件
薬剤服用の課題を知りたい	3件
ＭＣＳの活用、ＩＣＴシステムの構築	3件
気軽に連絡して欲しい、こまめに連携のとれる関係性の構築	2件
口腔ケアの技術向上	2件
重要な情報があれば連絡してほしい	2件
サービスの質の向上	2件
接点がない	2件
スタッフの人数確保	2件
適切な対応、与えられた役割に責任を持つ	2件
現状で連携が取れている	2件
歯科医とのコミュニケーション	1件
多職種との連携	1件
作業量に見合った報酬	1件

内容	件数
月１回のサービス担当者会議	１件
チームとしての一体性	１件
本人の状態の連絡	１件
診療所との連携	１件
受診の際にメモなどで困りごとを伝える	１件
栄養面の勉強をして欲しい	１件
栄養状況、嚥下の状況を教えて欲しい	１件
独居生活者の訪問を重点的に行う	１件
公的援助情報の提供	１件
口腔ケアが必要な方の対応、歯科への繋ぎ	１件
在宅生活の検討	１件
病状の把握	１件
わからない	４件
特になし	12 件

【理学療法士・作業療法士・言語聴覚士:67 件】

内容	件数
患者の様子など情報共有	７件
ＱＯＬ維持のためのリハビリや支援	５件
連携強化・多職種との連携	３件
フレイルの高齢者が増加しているのでリハビリに期待	３件
専門的な視点からの相談、アドバイス	３件
現状で連携が取れている	３件
自主トレ指導の充実	２件
口腔ケアが必要な方の対応、歯科への繋ぎ	２件
接点がない	２件
有効性が分かるような仕組みづくり	２件
ＭＣＳの活用、ＩＣＴシステムの構築	２件
外来での受け入れ	１件
与えられた役割に責任を持つ	１件
転倒や誤嚥のリスクなどの情報提供	１件
変化や異常など問題が発生した時の連絡・報告	１件
診療所との連携	１件
スタッフの人数確保	１件
在宅でＳＴ介入できる訪問看護が増えて欲しい	１件
適切な対応	１件
受診の際にメモなどで困りごとを伝える	１件
患者に寄り添ったケア	１件
気軽に連絡して欲しい	１件
わからない	７件
特になし	15 件

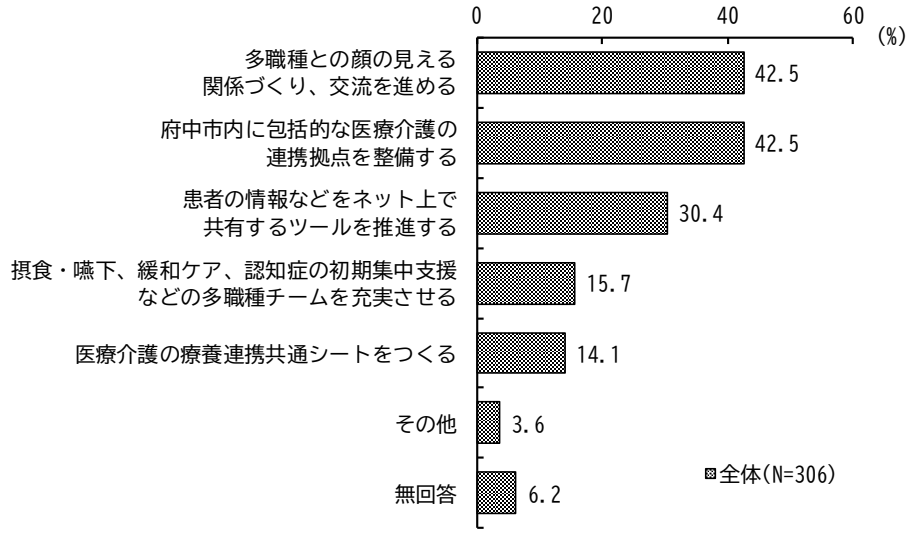
【その他:19 件】

内容	件数
介護と医療の住み分け、区別した方がよい	1件
サービスが適切か疑問	1件
包括により対応が異なる	1件
ケアマネジャーの増員希望	1件
患者や家族に寄り添ったサービスができれば良い	1件
情報共有	1件
お互いの歩み寄りが必要	1件
現在在宅をやっていない	1件
わからない	2件
特になし	9件

問 32　これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。
（１）連携の仕組みづくり（２つまでに○）

「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」、「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」（ともに 42.5%）が最も多く、次いで「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」（30.4%）、「摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる」（15.7%）、「医療介護の療養連携共通シートをつくる」（14.1%）と続いている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（連携の仕組みづくり）
（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、歯科診療所では「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」（18.8%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。訪問看護ステーションでは「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」（62.5%）、「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」（50.0%）が全体より 10 ポイント以上高く、一方で「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」（16.7%）、「摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる」（0.0%）が全体より 10 ポイント以上低くなっている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（連携の仕組みづくり）
（全体、所属医療機関別：複数回答）

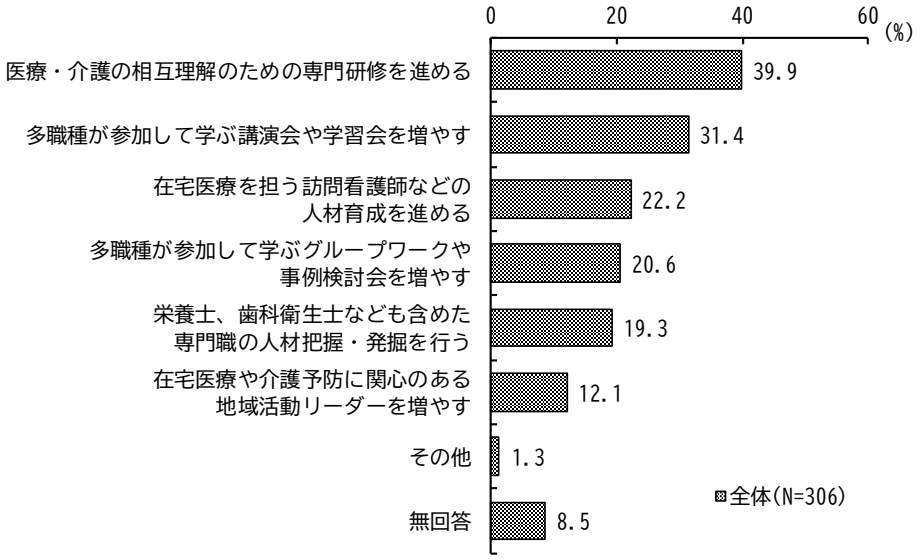
（%）

			多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める	府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する	患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する	摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる	医療介護の療養連携共通シートをつくる	その他	無回答
全体		(N=306)	42.5	42.5	30.4	15.7	14.1	3.6	6.2
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	32.0	43.3	26.8	22.7	17.5	3.1	6.2
	歯科診療所	(n= 85)	40.0	45.9	18.8	24.7	14.1	3.5	9.4
	薬局	(n= 93)	48.4	47.3	39.8	5.4	9.7	2.2	4.3
	訪問看護ステーション	(n= 24)	62.5	16.7	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	80.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 32　これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。
（２）地域の人材育成（２つまでに○）

「医療・介護の相互理解のための専門研修を進める」（39.9%）が最も多く、次いで「多職種が参加して学ぶ講演会や学習会を増やす」（31.4%）、「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」（22.2%）「多職種が参加して学ぶグループワークや事例検討会を増やす」（20.6%）と続いている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（地域の人材育成）
（全体：複数回答）



所属医療機関別にみると、一般診療所では「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」（34.0%）が、歯科診療所では「栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う」（36.5%）が、訪問看護ステーションでは「多職種が参加して学ぶ講演会や学習会を増やす」（54.2%）、「多職種が参加して学ぶグループワークや事例検討会を増やす」（54.2%）、「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」（33.3%）が全体より 10 ポイント以上高くなっている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（地域の人材育成）
（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

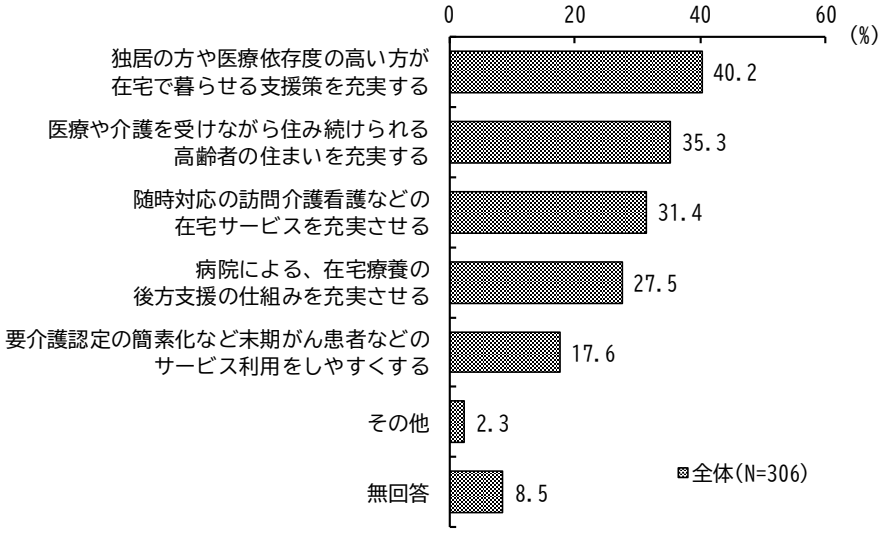
			医療・介護の相互理解のための専門研修を進める	多職種が参加して学ぶ講演会や学習会を増やす	在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める	多職種が参加して学ぶグループワークや事例検討会を増やす	栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う	在宅医療や介護予防に関心のある地域活動リーダーを増やす	その他	無回答
全体		(N=306)	39.9	31.4	22.2	20.6	19.3	12.1	1.3	8.5
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	38.1	24.7	34.0	12.4	12.4	17.5	2.1	9.3
	歯科診療所	(n= 85)	42.4	24.7	14.1	15.3	36.5	7.1	1.2	11.8
	薬局	(n= 93)	44.1	36.6	15.1	23.7	15.1	14.0	1.1	6.5
	訪問看護ステーション	(n= 24)	20.8	54.2	33.3	54.2	4.2	4.2	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	40.0	80.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 32　これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。
（３）サービス・基盤整備（２つまでに○）

「独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実する」（40.2%）が最も多く、次いで「医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実する」（35.3%）、「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」（31.4%）、「病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる」（27.5%）と続いている。

所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすくする」（50.0%）が全体より 30 ポイント以上高くなっている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（サービス・基盤整備）
（全体：複数回答）



図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（サービス・基盤整備）
（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

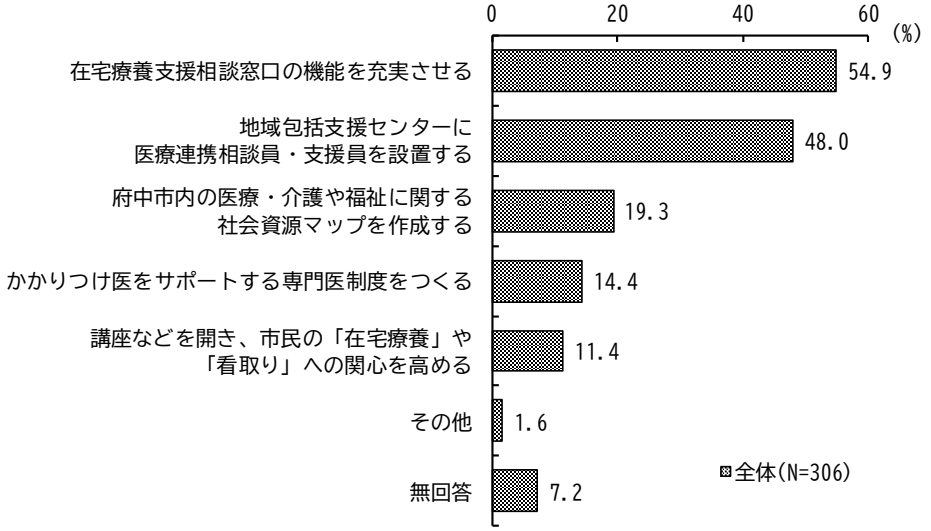
			独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実する	医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実する	随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる	病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる	要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすくする	その他	無回答
全体		(N=306)	40.2	35.3	31.4	27.5	17.6	2.3	8.5
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	35.1	38.1	35.1	27.8	19.6	2.1	8.2
	歯科診療所	(n= 85)	36.5	30.6	27.1	31.8	8.2	3.5	12.9
	薬局	(n= 93)	46.2	39.8	29.0	21.5	16.1	2.2	6.5
	訪問看護ステーション	(n= 24)	41.7	25.0	37.5	37.5	50.0	0.0	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	100.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 32　これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。
（4）情報提供・相談支援の充実（２つまでに○）

「在宅療養支援相談窓口の機能を充実させる」（54.9%）が最も多く、次いで「地域包括支援センターに医療連携相談員・支援員を設置する」（48.0%）、「府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する」（19.3%）、「かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる」（14.4%）と続いている。

所属医療機関別にみると、訪問看護ステーションでは「講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める」（33.3%）が全体より 20 ポイント以上高くなっている。

図表　医療と介護の連携が進むために必要なこと（情報提供・相談支援の充実）
（全体：複数回答）



医療と介護の連携が進むために必要なこと（情報提供・相談支援の充実）
（全体、所属医療機関別：複数回答）

(%)

			在宅療養支援相談窓口の機能を充実させる	地域包括支援センターに医療連携相談員・支援員を設置する	府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する	かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる	講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める	その他	無回答
全体		(N=306)	54.9	48.0	19.3	14.4	11.4	1.6	7.2
所属医療機関別	一般診療所	(n= 97)	61.9	50.5	24.7	12.4	5.2	1.0	7.2
	歯科診療所	(n= 85)	48.2	40.0	16.5	22.4	11.8	1.2	11.8
	薬局	(n= 93)	54.8	53.8	17.2	10.8	9.7	1.1	4.3
	訪問看護ステーション	(n= 24)	50.0	45.8	16.7	12.5	33.3	8.3	0.0
	病院の退院支援担当者	(n= 5)	60.0	40.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	その他	(n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 33　在宅療養者に対する医療や介護サービスのあり方、介護保険制度、医療保険制度等を含め、医療と介護の連携についてのご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、35 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

内容	件数
独居、日中独居の高齢者への支援	４件
ＭＣＳなど連携ツールの統一	３件
連携は難しいが必要	２件
介護保険制度の請求事務が理解できない、介護保険サービスが分かるパンフレットづくり	２件
速やかな介護保険認定を希望	２件
必要なサービスを必要な時に提供できる体制、仕組みづくり	２件
歯科医師をもっと有効活用して欲しい	２件
在宅の届出を出しているクリニック一覧をケアマネ事業所に提供する	１件
24 時間対応できる在宅支援診療所の充実	１件
府中市にもっと前に出て連携強化を図ってほしい	１件
本人の想いよりリスク重視になっている現場を危惧	１件
訪問診療時の器具の信託の検討を希望	１件
地域と病院の連携強化を希望	１件
若年層の介護保険利用負担の見直し	１件
24 時間 365 日ではない在宅介護の支援の仕方の検討	１件
買い物などの生活支援	１件
介護に対して行政、家族、医療の出来る事の明確化	１件
相互理解が大切	１件
ヘルパーの人材確保などサービス利用の充実	１件
大きな病院の地域連携室の話が聞きたい	１件
特になし	５件